宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書　第 195 集

尾花（おばな）A 遺跡 Ⅱ

弥生時代以降編

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 65

本文編

（1 / 3）

2011

宮崎県埋蔵文化財センター

序

宮崎県教育委員会では、平成 11 年度から東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う発掘調査を実施して参りました。

本書に掲載する尾花 A 遺跡は、平成 16 年度から 3 ヵ年に渡って発掘調査を行い、旧石器時代から近世に及ぶ様々な遺構・遺物が確認されました。そのうち、旧石器時代から縄文時代に係る内容については、既に『尾花 A 遺跡 I』として報告したところです。

本書では弥生時代以降の調査成果について報告します。特に、約 250 軒の竪穴建物跡が確認されている古墳時代前期を中心とする集落跡は、県内でも屈指の規模であるとともに、近接する国指定史跡川南古墳群や持田古墳群の形成を考える上で重要な遺跡といえます。

ここに報告する内容が学術資料としてだけではなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、埋蔵文化財保護に対する理解の一助となることを期待いたします。

最後に、調査にあたってご協力いただいた関係各機関や地元の皆様、ご指導やご助言を賜りました方々に対して、厚く御礼申し上げます。

平成 23 年 1 月

宮崎県埋蔵文化財センター
所　長　　森　隆茂

例　言

1　本書は平成 16 ～ 18 年度に実施した東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う尾花 A 遺跡の発掘調査報告書である。ただし、本書では弥生時代以降についての報告とし、縄文時代以前に関しては平　成 21 年 3 月に刊行した『尾花 A 遺跡 I （旧石器時代～縄文時代編）』で報告している。

2　本書は本文編、挿図編、写真図版編の３冊からなる。
　なお、挿図編・写真図版編に関する凡例等については、各編を参照されたい。

3　発掘調査は西日本高速道路株式会社九州支社（旧日本道路公団）からの委託を受け、宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。

4　現地調査における実測、写真撮影は各調査員が行ったが、以下の業務に関しては業務委託を行った。
　　空中写真撮影　　（株）九州航空、（株）ふじた、（株）スカイサーベイ九州
　　基準点測量等　　（株）タイユー測量設計、（有）川南技研コンサルタント
　　自然科学分析　　（株）古環境研究所、（株）九州テクノリサーチ

5　整理作業は現地の整理作業棟及び宮崎県埋蔵文化財センターで行った。

6　金属製品等の保存処理は西都原考古博物館の協力を得て大野を中心に行い、一部を（株）吉田生物研究所に業務委託した。

7　遺物の実測図作成は、整理作業員の補助を得て土器を松林、石器を日高、鉄器を大野義人、児玉幹、松林が行った。ただし、石器の大部分は（株）九州文化財研究所に委託した。

8　遺構図の作成は整理作業員の補助を得て結城が行った。

9　遺物の写真撮影は竹田が行った。

10　本書の執筆は、第Ⅳ章第２節と第Ⅵ章第１節の石器に関する記述及び表作成を日高、第Ⅳ章第３節と第Ⅵ章第２節の記述及び表作成を竹田、第Ⅴ章第１節の記述及び表作成を古環境研究所成果報告に基づき結城、第Ⅴ章第２節は（株）九州テクノリサーチの成果報告を転載、その他を松林が行った。

11 本書で使用している方位は全て座標北（G.N）であり、世界測地系（WGS84）に準拠している。

12 土層断面や土器の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に拠った。

13 石器の器種について明確に判断しかねるものについては、以下の判断基準により器種名を付加した。
　　敲　石・・・敲打痕が残される礫を指し、片手で容易に保持できるもの。なお、敲打痕と磨痕を併せ持つような場合には、敲打痕を優先して敲石とした。
　　磨　石・・・礫に磨痕のみがみられるもの
　　台　石・・・竪穴建物跡の床面に据え置くように残される等、その出土状況から作業台であったと考えられるもの
　　砥　石・・・砥面と判断される使用痕を有する礫。断面 U 字もしくは V 字状の溝状の筋が顕著にみられるものについては、「筋砥石」とした。
　　たも石・・・竪穴建物跡の床面付近で細長い自然礫が数個がまとまって検出されるもの
　　不　明・・・人為的な加工もしくは使用痕が確認されるもので、既存の器種名に該当しないもの

14　石材については肉眼観察による判別を行い、判断できなかったものについては不明と表記している。
　なお、頁岩については、赤色～茶色を基調とするものを赤色頁岩、緑色のものを緑色頁岩、黒～灰色を基調とするものを頁岩と表記している。また、砂岩についても、軟質で茶色味を帯びたものを砂岩、硬くしまり青味がかったものをかた硬砂岩と表記している。

15　本書の編集は、本文編・挿図編を松林、写真図版編を竹田が行った。

16　本書に関する記録類及び出土遺物は、全て宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

本　文　目　次

第Ⅰ章　はじめに（松林）　・・・・・・・・・　1
　第１節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・　1
　第２節　調査の組織・・・・・・・・・・・・　1

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境（松林）　・・・・　2
　第１節　地理的環境・・・・・・・・・・・・　2
　第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・　2

第Ⅲ章　調査の概要（松林）　・・・・・・・　3
　第１節　調査区及びグリッドの設定・・・・　3
　第２節　調査の方法・・・・・・・・・・・・　3
　　1　遺物包含層の掘削と遺構検出・・・　3
　　2　遺構掘削・・・・・・・・・・・・・　3
　　3　作図記録・・・・・・・・・・・・・　3
　　4　写真記録・・・・・・・・・・・・・　3
　第３節　調査の経過・・・・・・・・・・・・　4
　第４節　整理作業及び報告書の作成・・・・　4
　　1　整理作業・・・・・・・・・・・・・　4
　　2　報告書作成・・・・・・・・・・・・　5

第Ⅳ章　調査の記録・・・・・・・・・・・・・　6
　第１節　はじめに（松林）・・・・・・・・　6
　第２節　弥生時代～古墳時代の遺構と遺物
　　（日高・松林）　・・・・・・・・・　6
　　1　一次調査区・・・・・・・・・・・・　6
　　2　一次調査拡張区・・・・・・・・・・　20
　　3　二次調査区・・・・・・・・・・・・　33
　　4　三次Ａ調査区・・・・・・・・・・・　43
　　5　三次Ｂ調査区・・・・・・・・・・・　57
　　6　三次Ｃ調査区・・・・・・・・・・・　79
　第３節　古代以降の遺構と遺物（竹田）・・　191
　　1　掘立柱建物跡・・・・・・・・・・・　191
　　2　竪穴状遺構・・・・・・・・・・・・　195
　　3　石組遺構・・・・・・・・・・・・・　195
　　4　土坑・ピット・・・・・・・・・・・　196
　　5　波板状凹凸痕・・・・・・・・・・・　197
　　6　溝状遺構・・・・・・・・・・・・・　197
　第４節　その他の遺構と遺物（松林）　・・　199

第Ⅴ章　自然科学分析・・・・・・・・・・・・　207
　第１節　炭化物等に関する分析
　　（結城・古環境研究所）・・・・・・　207
　　1　樹種同定・・・・・・・・・・・・・　207
　　2　種実同定・・・・・・・・・・・・・　211
　　3　植物珪酸体分析・・・・・・・・・・　214
　　4　放射性炭素年代測定・・・・・・・・　215
　第２節　鍛冶関連遺物の金属学的分析
　　（九州テクノリサーチ）・・・・・・　247
　　1　いきさつ・・・・・・・・・・・・・　247
　　2　調査方法・・・・・・・・・・・・・　247
　　3　調査結果・・・・・・・・・・・・・　247

第Ⅵ章　総括・・・・・・・・・・・・・・・・　259
　第１節　弥生時代～古墳時代について・・・　259
　　1　遺物について・・・・・・・・・・・　259
　　ａ　土器・土製品（松林）・・・　259
　　ｂ　石器（日高）　・・・・・・・　261
　　ｃ　金属器（松林）　・・・・・・　265
　　2　遺構について（松林）　・・・・・　266
　　3　集落の変遷について（松林）　・・　269
　第２節　古代以降について（竹田）　・・・　270
　　1　掘立柱建物・・・・・・・・・・・・　270
　　2　竪穴状遺構・・・・・・・・・・・・　271
　　3　石組遺構・・・・・・・・・・・・・　271
　　4　土坑・・・・・・・・・・・・・・・　271
　　5　溝状遺構・・・・・・・・・・・・・　272

　第３節　結語（松林）　・・・・・・・・・　272

表　目　次

第 1 表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表①　91
第 2 表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表②　92
第 3 表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表③　93
第 4 表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表④　94
第 5 表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表⑤　95
第 6 表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表⑥　96
第 7 表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表⑦　97
第 8 表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表⑧　98
第 9 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (1)　99
第 10 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (2)　100
第 11 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (3)　101
第 12 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (4)　102
第 13 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (5)　103
第 14 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (6)　104
第 15 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (7)　105
第 16 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (8)　106
第 17 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (9)　107
第 18 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (10)　108
第 19 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (11)　109
第 20 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (12)　110
第 21 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (13)　111
第 22 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (14)　112
第 23 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (15)　113
第 24 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (16)　114
第 25 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (17)　115
第 26 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (18)　116
第 27 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (19)　117
第 28 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (20)　118
第 29 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (21)　119
第 30 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (22)　120
第 31 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (23)　121
第 32 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (24)　122
第 33 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (25)　123
第 34 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (26)　124
第 35 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (27)　125
第 36 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (28)　126
第 37 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (29)　127
第 38 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (30)　128
第 39 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (31)　129
第 40 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (32)　130
第 41 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (33)　131
第 42 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (34)　132
第 43 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (35)　133
第 44 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (36)　134
第 45 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (37)　135
第 46 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (38)　136
第 47 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (39)　137
第 48 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (40)　138
第 49 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (41)　139
第 50 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (42)　140
第 51 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (43)　141
第 52 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (44)　142
第 53 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (45)　143
第 54 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (46)　144
第 55 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (47)　145
第 56 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (48)　146
第 57 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (49)　147
第 58 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (50)　148
第 59 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (51)　149
第 60 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (52)　150
第 61 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (53)　151
第 62 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (54)　152
第 63 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (55)　153
第 64 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (56)　154
第 65 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (57)　155
第 66 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (58)　156
第 67 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (59)　157
第 68 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (60)　158
第 69 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (61)　159
第 70 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (62)　160
第 71 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (63)　161
第 72 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (64)　162
第 73 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (65)　163
第 74 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (66)　164
第 75 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (67)　165
第 76 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (68)　166
第 77 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (69)　167
第 78 表　弥生時代～古墳時代土器観察表 (70)　168
第 79 表　弥生時代～古墳時代土製品観察表　169
第 80 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (1)　170

表　目　次

第 81 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (2)　171
第 82 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (3)　172
第 83 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (4)　173
第 84 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (5)　174
第 85 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (6)　175
第 86 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (7)　176
第 87 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (8)　177
第 88 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (9)　178
第 89 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (10)　179
第 90 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (11)　180
第 91 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (12)　181
第 92 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (13)　182
第 93 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (14)　183
第 94 表　弥生時代～古墳時代石器計測表 (15)　184
第 95 表　たも石計測表 (1)　185
第 96 表　たも石計測表 (2)　186
第 97 表　台石計測表 (1)　186
第 98 表　台石計測表 (2)　187
第 99 表　弥生時代～古墳時代鉄器計測表 (1)　188
第 100 表　弥生時代～古墳時代鉄器計測表 (2)　189
第 101 表　弥生時代～古墳時代鉄器計測表 (3)　190
第 102 表　古代以降の遺構一覧表 (掘立柱建物跡 1)　200
第 103 表　古代以降の遺構一覧表 (掘立柱建物跡 2)　201
第 104 表　古代以降の遺構一覧表 (竪穴状遺構)　201
第 105 表　古代以降の遺構一覧表 (石組遺構)　201
第 106 表　古代以降の遺構一覧表 (土坑)　201
第 107 表　古代以降の遺構一覧表 (2-S2022：波板状凹凸痕)　201
第 108 表　古代以降の遺構一覧表 (溝状遺構)　202
第 109 表　古代以降の土器・土製品 (1)　203
第 110 表　古代以降の土器・土製品 (2)　204
第 111 表　古代以降の土器・土製品 (3)　205
第 112 表　古代以降の石器・石製品一覧表　205
第 113 表　古代以降の金属器計測表　206
第 114 表　その他の土器観察表　206
第 115 表　その他の石器計測表　206
第 116 表　その他の鉄器計測表　206
第 117 表　尾花 A 遺跡樹種同定結果一覧表 (1)　217
第 118 表　尾花 A 遺跡樹種同定結果一覧表 (2)　218
第 119 表　尾花 A 遺跡樹種同定結果一覧表 (3)　219
第 120 表　尾花 A 遺跡樹種同定結果一覧表 (4)　220
第 121 表　尾花 A 遺跡種実同定結果一覧表 (1)　221
第 122 表　尾花 A 遺跡種実同定結果一覧表 (2)　222
第 123 表　尾花 A 遺跡種実同定結果一覧表 (3)　223
第 124 表　尾花 A 遺跡種実同定結果一覧表 (4)　224
第 125 表　尾花 A 遺跡種実同定結果一覧表 (5)　225
第 126 表　尾花 A 遺跡種実同定結果一覧表 (6)　226
第 127 表　尾花 A 遺跡種実同定結果一覧表 (7)　227
第 128 表　尾花 A 遺跡放射性炭素年代測定結果一覧表 (1)　228
第 129 表　尾花 A 遺跡放射性炭素年代測定結果一覧表 (2)　229
第 130 表　尾花 A 遺跡放射性炭素年代測定結果一覧表 (3)　230
第 131 表　尾花 A 遺跡放射性炭素年代測定実施遺構の暦年代分布表 (BC500 ～ AD500)　231-232
第 132 表　掘立柱建物跡桁行柱間平均距離　271

図　目　次

第 1 図　樹種同定　炭化材断面①　233
第 2 図　樹種同定　炭化材断面②　234
第 3 図　樹種同定　炭化材断面③　235
第 4 図　樹種同定　炭化材断面④　236
第 5 図　樹種同定　炭化材断面⑤　237
第 6 図　樹種同定　炭化材断面⑥　238
第 7 図　樹種同定　炭化材断面⑦　239
第 8 図　樹種同定　炭化材断面⑧　240
第 9 図　樹種同定　炭化材断面⑨　241
第 10 図　種実同定　種実①　242
第 11 図　種実同定　種実②　243
第 12 図　種実同定　種実③　244
第 13 図　灰像及び植物珪酸体
（プラント・オパール）
三次Ａ区Ｓ１０２・Ｓ１０９　245
第 14 図　灰像及び植物珪酸体
（プラント・オパール）
三次Ｃ区Ｓ２４　246
第 15 図　掘立柱建物跡における
桁行方向の柱間平均距離　271

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査に至る経緯

東九州自動車道は、福岡県北九州市を起点として大分・宮崎両県の東海岸部を経由し鹿児島県鹿児島市に至る総延長 436㎞の自動車専用道路である。宮崎県内では延岡～清武間が平成元年２月に基本計画決定されて以降、平成 13 年３月に供用が開始された西都～清武間を除く各区間において、有料道路方式と新直轄方式の併用により、道路建設事業が進行中である。

尾花Ａ遺跡が所在する川南町は東九州自動車道の都農～西都間に含まれ、平成９年３月に国土開発幹線自動車道建設審議会において整備計画区間（門川～西都間）決定された。同年 12 月には都農～西都間 25㎞について建設大臣（現国土交通大臣）により日本道路公団（現西日本高速道路株式会社）へ施行命令が発令され、事業が本格化している。

東九州自動車道の建設計画が具体化される中、宮崎県教育委員会では、国の補助を得て、平成３年度に西都～清武間、平成６年度に延岡～西都間及び延岡道路、平成９年度に清武～日南間を対象とした広域的な分布調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の周知化を図るとともに各区間に関する路線協議を進めた。都農～西都間に関しては、施行命令が発令された翌年（平成 10 年）に計画路線上の 25㎞区間を対象として更に詳細な分布調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地の把握に努めた。これらの成果をもとに、日本道路公団と埋蔵文化財の保護に関する協議を重ねた結果、道路建設によって影響を受ける 79 遺跡 896,000㎡について、記録保存のための発掘調査を実施することとなり、平成 11 年度から調査に着手し、現在も継続中である。

尾花Ａ遺跡は平成 16 年５月から確認調査を開始し、平成 18 年 12 月に現地調査を終了した。

なお、本調査にあたっては、調査面積や遺構密度、調査期間の都合により、調査対象地を６カ所に分割して調査を実施した。総調査面積は 23,400㎡である。確認調査及び本調査の内容等については、第Ⅲ章を参照されたい。

第２節　調査の組織

本遺跡の調査・整理報告作成に係る組織については、平成 20 年度に刊行された「尾花Ａ遺跡Ⅰ」において平成 20 年度までの組織を明記しているので、ここでは平成 21 年度以降の組織のみをあげる。

事業主体　　西日本高速道路株式会社九州支社

調査主体　　宮崎県教育委員会
　事業調整　　文化財課
　　課長　　清野　勉（平成 21・22 年度）
　　課長補佐　　矢野雅博（平成 21・22 年度）
　　主幹兼埋蔵文化財担当リーダー
　　谷口武範（平成 21・22 年度）
　　主査　　日高広人（平成 21・22 年度）
　調査実施　　宮崎県埋蔵文化財センター
　　所長　　福永展幸（平成 21 年度）
　　森　隆茂（平成 22 年度）
　　副所長兼総務課長　長友英詞（平成 21 年度）
　　副所長　　北郷泰道（平成 22 年度）
　　総務課長　　矢野雅紀（平成 22 年度）
　　調査第一課長　長津宗重（平成 21・22 年度）
　　主幹兼総務担当リーダー　髙山正信（平成 21 年度）
　　総務担当リーダー　長友由美子（平成 22 年度）
　　調査第一担当リーダー　飯田博之（平成 21・22 年度）
　整理作業及び報告書作成
　　主査　　日高博司（平成 21 年度）
　　主査　　竹田享志（平成 21・22 年度）
　　主査　　結城　修（平成 21・22 年度）
　　主査　　松林豊樹（平成 21・22 年度）
　　主事　　岸田裕一（平成 21 年度）

東九州自動車道発掘調査指導委員
　　泉　拓良（京都大学）
　　小畑弘己（熊本大学）
　　田崎博之（愛媛大学）
　　広瀬和雄（国立歴史民俗博物館）
　　本田道輝（鹿児島大学）
　　柳沢一男（宮崎大学）

調査指導・協力
　　禰宜田佳男（文化庁）
　　清野孝之（文化庁）
　　大塚昌彦（渋川市教育委員会）
　　村上恭通（愛媛大学）
　　川南町教育委員会

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

本遺跡は、宮崎県児湯郡川南町大字川南字尾花坂上に所在する。宮崎県の北部～西部、南部にはそれぞれ九州山地、南那珂山地があり、両山地と日向灘によって隔てられた県中央部東側には、三角形状を呈する宮崎平野が形成されている。宮崎平野は新第三紀の堆積岩（宮崎層群）を基盤とし、その上に堆積した第四紀の堆積物が複数の河川によって浸食された台地や丘陵、沖積低地などから構成される。なお、平野の大部分は台地であるが、北部には扇状地や数段に分かれる段丘が発達し、南にいくほど台地の開析が著しく、丘陵化や低地の発達が顕著である。

本遺跡は宮崎平野の北部にあたり、蚊口浜から４kmほど内陸に入った地点で、小丸川支流の切原川左岸の台地縁辺部に位置する。遺跡の東西は更に小さな河川による開析を受けており、標高57mほどの独立した丘陵状を呈する。

これまで遺跡周辺では生産遺跡等は確認されていないが、台地下には沖積低地、台地上には平坦地が広がっており、丘陵崖面からの湧水も豊富であるなど、古くより農耕を営むのに適した地域であったと考えられる。また、陸上交通では宮崎方面と木城・西都方面との分岐点にあたり、小丸川を利用した水運も容易であることから、遺跡周辺は、非常に恵まれた地理的環境を有していたと考えられる。

第２節　歴史的環境

『尾花Ａ遺跡Ⅰ』において縄文時代以前の周辺遺跡に関しては触れているので、ここでは、弥生時代以降の主要な周辺遺跡について説明する（第１図）。

集落遺跡では弥生時代前期末～中期初頭頃に位置づけられている持田中尾遺跡がある。国指定史跡の持田古墳群が立地する丘陵の先端部に位置し、竪穴建物跡２軒、土坑６基等が検出されている。中期末になると上ノ原遺跡や湯牟田遺跡等で少数の竪穴建物跡が確認されており、この頃から集落遺跡の形成が増え始める。弥生時代後期後半以降には集落の形成は更に増加し、古墳時代前期頃まで継続する例が多い。発掘調査された遺跡では、中ノ迫第１、中ノ迫Ａ、前ノ田村上第１、西ノ別府、大戸ノ口第３遺跡で各１軒、中ノ迫第２、把言田、野稲尾、持田遺跡で各２軒、前ノ田村上第２遺跡３軒、上ノ原遺跡６軒、国光原、牛牧原遺跡７軒、毛作第４遺跡８軒、野首第１遺跡11軒、大戸ノ口第２遺跡12軒、赤坂遺跡23軒、湯牟田遺跡24軒の竪穴建物跡が検出されている。また、未調査ながら丸山西原遺跡で11軒、大迫遺跡で40軒以上の竪穴建物跡と思われる痕跡が耕作時に確認されており、周辺には更に多くの集落が存在する可能性が高い。なお、これらの集落では、焼失住居や周溝状遺構が多く確認されており、赤坂遺跡では集落の北端、台地の縁辺部から円形周溝墓も検出されている。

古墳時代には、本遺跡を挟む様に分布する国指定史跡の川南古墳群や持田古墳群の形成も開始される。両古墳群は前期段階に大型の前方後円墳が築造されており、以降、墳丘規模の縮小がみられる。小丸川右岸にも山王や牛牧、水谷原古墳群等が分布しているが、あまり内容が明らかでない。中期から後期の集落調査例は少なく、野首第２遺跡で34軒、上ノ別府遺跡で９軒の竪穴建物跡が確認されている。古墳時代末から古代の集落としては下耳切第３遺跡がある。小丸川右岸の牛牧古墳群内に位置し、竪穴建物跡75軒、掘立柱建物跡82棟が検出されている。また、後期から終末期の古墳として、宮崎県では数少ない横穴式石室を主体部とする永山古墳や野首１・２号墳がある。また、下耳切第３遺跡と共に調査された牛牧１号墳は直径19m、高さ２ｍの円墳で、主体部は木棺直葬であったが周溝に寄生するように複数の地下式横穴墓が検出されている。

古代では、老瀬坂上第３遺跡と垂門遺跡で古代の火葬墓が検出されているが、集落等は確認されていない。

中世～近世の遺跡では、前ノ田村上第１遺跡で15世紀代を中心とする方形区画溝を有する居館跡が検出されているほか、天正５年の高城川原の戦い（通称耳川の戦い）の松山之陣跡や島津方が籠城した高城跡、中世に築城され近世期には秋月氏の居城となった高鍋城跡が分布している。

第Ⅲ章　調査の概要

第１節　調査区及びグリッドの設定

本遺跡は調査対象面積が広く、遺構密度が高かったため、排土置き場や事務所用地の確保、調査期間等の兼ね合いから調査対象地を大きく６分割して調査を進めた。調査区の分割状況及び各調査区にける調査期間・調査面積は第２図のとおりである。

なお、各調査区においても排土置き場や進入路確保のため、便宜的な小調査区を設定して調査を進めた。

また、調査対象地全域に対して国土座標（新測地系）に基づいた 10m × 10m のグリッド設定し、南北方向のグリッド線に数字、東西方向のグリッド線にアルファベットもしくはカタカナを付与してマス目の南東隅の交点をグリッド名としている。

第２節　調査の方法

１　遺物包含層の掘削と遺構検出

確認調査の結果から、まずⅡ層における遺構検出を行ったが、遺構埋土とⅡ層の峻別が困難を極め、やむなくⅢｂ層（アカホヤ火山灰）上面で遺構検出を行った（第２図基本土層柱状図参照）。ただし、三次調査Ａ区の北側や一次調査区の南側ではⅡ層下にⅢｂ層が残存していない部分があり、その部分ではⅡ層下に堆積していた地山層上面で遺構検出を行った。この結果、調査区の大半では縄文時代前期～近世までの遺構を同一面で検出するかたちとなり、遺物が出土しなかった遺構の時期を決定することが実質不可能となってしまった。

なお、Ⅱ層中から出土した遺物の取り上げはグリッドを更に４分割して北西をａ、北東をｂ、南西をｃ、南東をｄとして一括取り上げを行った。ただし、遺物の集中する部分や遺物の形状から時期の特定が可能であったものについては、原位置に留めた状態で地山層まで掘り下げ、極力、下位に存在する遺構へ帰属させる努力をした。

２　遺構掘削

遺構の掘削については、検出状況から個別に任意の主軸を設定し、半截もしくは４分法により埋土の状況を確認しながら掘削することを基本とした。ただし、竪穴住居跡や遺構同士の切り合いが激しい部分については、先行してサブトレンチを設定し、床面や遺構の先後関係を認定した上で掘削を進めた。

なお、貼床を有する遺構については、床面上の調査後、地山面まで完掘した。

また、フローテーションによる炭化種実の回収を目的として、多くの遺構床面付近の土をサンプリングした。

３　作図記録

遺構の作図記録に関しては、1/10 もしくは 1/20 の個別図を基本としたが、小穴や溝状遺構については、平板測量によって 1/50 や 1/100 の遺構分布図を作成し、必要な断面図を個別に作成した。ただし、遺構密度が高かった一次調査区及び一次調査拡張区、調査区幅が狭く遺構の全容把握が困難であった二次調査区では、グリッド杭を基軸とした 1/20 の割付図を作成した。

なお、個別図作成の際に設定した主軸ポイントについては、トータルステーションにより座標値を記録している。

４　写真記録

全調査区ともに 35㎜白黒ネガ・カラーリバーサルフィルムを用いた撮影を基本として、一部中判カメラによる白黒ネガ・カラーリバーサルフィルム撮影を行った。また、メモ記録写真として 35㎜カラーネガフィルム及びデジタルカメラによる撮影を併用した。各撮影に使用した主な器材は以下のとおりである。

ニコン F100　　35㎜白黒ネガ・カラーリバーサル
ペンタックス６×７Ⅱ　　120 白黒ネガ・カラーリバーサル
トヨフィールド　　４×５白黒ネガ・カラーリバーサル
コニカ現場監督　　35㎜カラーネガ
ソニーサイバーショット　デジタル 320 万画素

なお、全調査区において業者委託による複数回の

空中写真撮影を行った。各調査区における委託業者は以下のとおりである。

一次調査区	(有) スカイサーベイ九州
	(有) ふじた
二次調査区	(有) スカイサーベイ九州
三次調査Ａ区	(株) 九州航空
三次調査Ｂ区	(有) ふじた
三次調査Ｃ区	(有) スカイサーベイ九州

第３節　調査の経過

尾花Ａ遺跡の調査は平成 16 年度から 18 年度に渡って実施した。縄文時代以前の調査経過については『尾花Ａ遺跡Ⅰ』に詳しいので、ここでは弥生時代以降の調査に関して、その概略を述べる。

調査対象地南端部に当たる 3,700㎡について、平成 16 年９月１日から一次調査を開始した。一次調査区ではⅢ層上面で多数の遺構が確認され、Ⅳ層下においても多くの遺構が検出されたことから、平成 17 年度まで調査を継続することとなった。このような状況から、残りの調査対象地へも早急な対応が必要となり、平成 17 年９月には一次調査区への進入路や排土置き場の確保、今後の調査への配慮から調査対象地の東側の幅約 10 ｍ長さ約 300 ｍ程の細長い調査区を設定して二次調査に着手した。また、10 月 14 日には１次調査拡張区を設定して、３調査区を平行して調査を進めた。さらに、調査対象地北端部についても将来的な進入路等を確保する必要があったため、12 月 15 日から三次調査Ａ区を設定して調査に着手した。この調査区北半は削平が激しく、弥生時代以降の遺構・遺物はほとんど確認できなかった。一次（拡張区を含む）・二次調査区については当年度で完全に調査を終えたが、三次調査Ａ区については調査区の北半部のみを終了し、南半部は次年度に継続調査することとなった。

平成 18 年４月から３次調査Ａ・Ｂ・Ｃ区の３カ所を同時に着手した。三次調査Ａ区では北半部ほどではなかったが削平を受けており、Ⅲ層が部分的にしか遺存していなかった。しかし、北半部とは異なり、表土下の地山層上面で弥生時代から古墳時代の遺構が多く検出された。三次調査Ｂ区ではⅡ層がある程度安定して堆積していたため、Ⅱ層中における遺構検出を試みたが、Ⅱ層と埋土の峻別が困難であったため、やはりⅢ層上面において遺構検出を行った。本調査区ではⅢ層上面における検出遺構が非常に多く、全調査区の中でも遺構密度が最も高かった。

三次調査Ｃ区ではＢ区に隣接する北側で表土下にⅡ層の堆積がみられたが、一次調査区に隣接する南側では礫層が確認され、Ⅲ層の堆積はみられなかった。本調査区でもⅢ層もしくは表土下の地山層で遺構検出を行ったが、遺構は調査区北半部に集中する傾向がみられ、南半部には比較的少なかった。

平成 18 年度に着手した３カ所の調査は、12 月１日をもって全て終了し、尾花Ａ遺跡の全ての調査を終了した。

第４節　整理作業及び報告書の作成

１　整理作業

尾花Ａ遺跡の調査が始まった平成 16 年度は東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う発掘調査の全盛期で、当センターにおける整理作業もピークを迎えていた。しかし、尾花Ａ遺跡では、確認調査等の状況から多量の遺物が出土することが予想されたため、調査事務所に整理作業棟（以下、現地整理棟）を併設して一部の作業をすることとなった。このため、現地調査が終了した調査区から順次作業が開始されることとなり、全ての整理作業が調査区毎に進められる結果となった。以下、整理作業工程毎にその方法と経過を記すが、ここでは重複する部分を除き、本書で報告する弥生時代以降の遺構・遺物に関する記述に留める。

・水洗作業

一次・二次・三次Ｂ・三次Ｃ調査区の遺物水洗は、現地整理棟で行った。現地整理棟で積み残しとなった遺物及び三次Ａ調査区の遺物については、埋蔵文化財センター本館（以下、本館）において水洗作業を実施し、平成 19 年３月までに全て終了した。

・注記作業

一次・二次調査区の遺物注記は現地整理棟に於いて実施したが、１次調査分については終了しなかったため、本館に持ち帰って実施した。その他の調査区については全て本館で実施したが、作業効率の向上を図るため、自動注記機を賃借して作業を進め、平成 19 年 10 月に全てを終了した。

なお、調査区毎に作業を進めたため、遺跡名略号については、以下のようにした。

オバナＡ　＝　一次調査区（拡張区を含む）
オバナＡ２　＝　二次調査区
オバナＡ３　＝　三次調査Ａ区
オバナＡ４　＝　三次調査Ｂ区
オバナＡ５　＝　三次調査Ｃ区

また、遺構名略号についてＳを基本としたが、一部の土坑や小穴にはＳＣ、Ｐとしたものもある。

・土器の接合

各調査区における遺構・グリッド・層位毎に行った。ただし、隣接する調査区にまたがる遺構やグリッドについては、同時に接合を試みた。

・石器の整理

石器については、全てを器種及び石材別に分類して一覧表を作成し、形態や出土した層位・遺構から明らかに縄文時代以前の遺物と考えられるものを整理した。

・鉄器の整理

鉄器の保存処理は大半を宮崎県埋蔵文化財センター及び西都原考古博物館で行ったが、一部について株式会社吉田生物研究所に業務委託した。

・その他の整理作業

本遺跡の調査では、全調査区にわたり遺構埋土のサンプリングを行った。それらの試料は、三次調査Ｂ区事務所に設置したフローテーション用の機器による１次選別後、本館に持ち帰って肉眼及び実体顕微鏡による２次選別を行い、多数の炭化種実等を抽出した。

また、遺構埋土中から出土した炭化物等についても自然科学分析用の試料として持ち帰った。

２　報告書作成

・遺物の選別

土器は、遺存状況や遺構との関係等に配慮して報告書掲載遺物を選別した。

石器も整理段階における分類の細分化を試み、その上で、遺存状況や形態、遺構との関係等に配慮して報告書掲載遺物を選別した。

・遺物実測等

土器、鉄器、大型の石器の実測・拓本については調査員・整理作業員で行ったが、小型の石器等については（株）九州総合文化財研究所に業務委託した。

・製図

遺物・遺構実測図の製図はパソコンとソフトウェアを用いたデジタルトレースを基本として、調査員と整理作業員が行った。ただし、実測業務を委託した石器については、成果品として納品されたデジタルトレースデータを活用している。拓本についてもスキャナーでパソコンに取り込み、ソフトウェアで加工した。デジタルトレースに使用したソフトウェアは、株式会社 CUBIC 製のトレースくん、Adobe 社製の Illustrator(Ver.CS2) 、拓本の加工には Adobe 社製の Potoshop(Ver.CS2) を使用した。

なお、実測業務を委託した石器については、成果品として納品されたデジタルトレースデータを活用した。

・遺物写真

遺物写真は 500 万画素相当のデジタルカメラで撮影し、Adobe 社製の Potoshop(Ver.CS2) で加工した。ただし、巻頭カラーの遺物写真等、4 × 5 サイズの中版カメラによってフィルム撮影したものもある。

・自然科学分析等

炭化材・炭化種実について、放射性炭素年代測定（β線計数法・ＡＭＳ法）、及び樹種同定、種実同定を株式会社古環境研究所に業務委託した。

鍛冶関連遺物については、（株）九州テクノリサーチに分析を委託した。

・原稿作成

本文と表についてはマイクロソフト社製 WORD 及び EXCEL で作成し、デジタル化された図とともに Adobe 社製 InDesign(Ver.CS2) によって編集した。

なお、遺物写真の大半は本文同様に編集したが、遺構写真はポジフィルムで入稿した。

・収蔵前整理

遺物に関しては、①基本的に本書に実測図を掲載した遺物、②実測図は掲載していないが一覧表掲載や遺構の評価にあたって参考とした遺物、③その他の遺物の三段階に大きく区分して整理し、コンテナ台帳を作成している。本書の作成に際して撮影した遺物写真、原稿についてはデジタルデータとして保存しているが、現地で作成した遺構実測図や写真については、調査区毎に整理して保管している。

第Ⅳ章　調査の記録

第１節　はじめに

本遺跡は後期旧石器時代から近世に至る複合遺跡である。旧石器時代から縄文時代については『尾花Ａ遺跡Ⅰ』ですでに報告しており、本書では弥生時代以降の遺構と遺物について扱う。

前述のとおり、本遺跡では調査区を６分割して調査を行い、各調査区の大部分は併行して調査が進められたため、遺構番号等を統一することは不可能であった。結果として、調査区毎に同じ遺構番号が存在することとなったが、無用な混乱を避けるため遺構名はそのまま生かし、便宜上、遺構名の前に数字をつけたものを遺構名として記述を進める。

また、以下では多くの遺構・遺物が確認された弥生時代から古墳時代と古代以降に分けて報告する。

第２節　弥生～古墳時代の遺構と遺物

本遺跡では、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴建物跡が 246 軒検出され、コンテナ 1000 箱を超える遺物が出土した。以下、調査区毎に記述を進めるが、遺物については出土状況を中心に記述することとし、詳細は観察表を参照されたい。

１　一次調査区

竪穴建物跡

1-SA1

遺構

調査区南側中央付近、SA8 の西に位置し、SA26・27 を切る。１辺約 2.8m の方形プランを呈するが、検出時点でほぼ床面が露出しており、残存状況が極めて悪い。床は地山利用と思われるが、ピット等は検出されていない。

遺物

土器（第 97 図 1 ～ 5）

土器はいずれも床面付近からの出土である。甕は胴部に最大径を有し、１は外面にタタキ調整がみられる。

石器

図化はしていないが、残存するプランの北側周壁中央付近で台石が出土している。その他の石器は出土していない。

1-SA3

遺構（第 5 図）

調査区南側西寄り、SA4 の南に位置する。残存状況が悪いが、１辺約 3.3m の方形プランを基本に東側周壁の大部分に幅 2.5m、奥行き 60cm の張り出しを有する。床は竪穴掘削時に生じた地山層のブロックを多く含む土（以下､地山土）による貼床で、張り出し部は方形の竪穴部よりもやや床面が高い。南側周壁及び東側の張り出し部周壁には壁溝がみられる。主柱穴は東西方向に並ぶ２基とみられ、その間やや南寄りに楕円形と円形の土坑がみられる。この土坑埋土や床面上の埋土から炭化物や焼土が検出されている。炭化物１点について年代測定を実施した結果、1835 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 97 図 6 ～ 10）

土器は小片が多く、７・10 が床面付近、その他は埋土中からの出土である。９は平底を呈する厚手の底部で、一見縄文土器のような印象を受けるが、胎土や焼成から当該時期のものと考えられ、器種は不明である。

1-SA4

遺構（第 5 図）

調査区南側西寄り、SA3 の北に位置し、SA5 を切る。長軸 4.3m、短軸 3.6m の長方形プランを基本に北東側周壁の東半に張り出しを有する。床は地山土による貼床で、張り出し部のみ地山を利用しており、１段高い棚状となっている。また、西側角周辺が１辺 1.8m の方形状に床が高くなっている。主柱穴は長軸方向に並ぶ２基とみられ、南側隅角付近には径が１m程の土坑がみられる。

遺物

土器（第 97 図 12 ～ 21）

土器は中央東寄りの床面付近から出土しており、

16 は北東側周壁の張り出し内からの出土である。21 は焼けた粘土塊で北東側の張り出し埋土中からの出土である。

石器（第 214 図 2125 ～ 2127）

石器は、住居中央よりやや南側で台石（2125）、磨石 (2126)、敲石 (2127) が出土している。

1-SA5

遺構

調査区南側西寄り、SA6 の南西に位置し、SA4 に切られる。検出段階でほぼ床面であり、規模や形状は不明瞭だが、南･北側周壁の一部が残存しており、その距離が約 4.2m で、ほぼ平行に延びることから、方形を基調とする平面プランと考えられる。床は地山土による貼床で、西側周壁の中央付近に沿って土坑がみられる。

遺物

土器（第 97 図 11）

遺構の残存状況が悪かったため遺物も少なく、土器 1 点のみを図化した。11 は床面付近から出土した壺の底部とみられ、外面全面にタタキ痕がみられる。

1-SA6

遺構（第 5 図）

調査区南側中央付近、SA4 の北東に位置し、SA7 に切られる。 1 辺約 4.0m の方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。南東側周壁沿いが幅 50cm ほど 1 段高い棚状となっており、更にその外側に奥行き 20cm ほどの狭い棚状の段がみられる。この狭い棚状の段の落ち際には細い壁溝もみられる。主柱穴は北東・南西周壁の中央に沿う 2 基と思われる。

遺物

土器（第 97 図 22 ～ 28）

土器は 22 ～ 25 が床面付近から、27 は小穴内、その他は埋土中からの出土である。25 はいわゆる小型丸底壺を意識した器形と思われるが、底部が上げ底状に成形されている。28 は内外面に細かな横方向のミガキ調整が施された有段屈曲の丸底浅鉢で、胎土や焼成も在地のものとは大きく異なることから搬入品とみられる。

石器（第 214 図 2128・2129）

石器は､住居北東角付近で磨石（2129）と台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土している。石包丁 (2128) は埋土中の出土である。

1-SA7

遺構（第 6 図）

調査区南側中央、SA5 の東に位置し、SA6・24 を切る。残存状況が悪く､西側周壁が失われているが、長軸約 3.8m、短軸約 3.5m の長方形プランと考えられる。床は地山土による貼床で、周壁沿いの大部分に壁溝がみられる。北側周壁の中央では壁溝が台形状に広がっている。主柱穴は長軸方向に平行する２基と思われ、床面上で数基の土坑やピットが検出されているが、住居に伴うものか判然としない。

遺物

土器（第 98 図 29 ～ 35）

土器は北東側周壁に近い床面上から 29・31・34 など、比較的多く出土している。30 は北西側周壁中央付近、33 は北東側周壁寄りの土坑内、35 は北側角の土坑内、32 は埋土中からの出土である。

石器（第 214 図 2130）

石器は、住居北東角付近の床面に焼土が見られる傍で、図化はしていないが台石が出土している。南側周壁中央よりやや東で礫が集中して出土しているが、床面直上からはその他の石器は出土していない。線状痕のある台石（2130）は埋土中の出土である。

1-SA8

遺構（第 6 図）

調査区南側東寄り､SA1 の東に位置し､SA9 を切り、SB14 に切られる。残存状況は非常に悪く、長軸約 4.7m、短軸約 4.3m の長方形プランの範囲で貼床の痕跡が検出されたものである。主柱穴は不明だが、住居の中央付近には埋甕がみられ、その南東で炭化物が検出されている。この炭化物を年代測定した結果、古代に相当する年代値が得られており、切り合い関係にある SB14 に伴うものと考えられる。

遺物

土器（第 98 図 36・37）

36 は埋甕として利用されていた長胴の甕である。37 は平底を呈する壺の底部で、SA9 との境界付近から出土しており、SA9 に伴う可能性もある。

石器

住居北西角付近で 40cm を超える大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土している。その他の石器は出土していない。

1-SA9

遺構（第 6 図）

調査区南側東寄り、SA1 の東に位置し、SA8、SB13・14 に切られる。残存状況が非常に悪いが、方形を基調とする平面プランとみられ、完存する南側周壁は約 4.2m を測る。床は地山土による貼床で、南側周壁沿いには壁溝を有し、主柱穴は東西方向に並ぶ 2 基と思われる。

遺物

土器（第 98 図 38・39）

遺物の出土は少なく、38 は小穴内、39 は床面付近から出土した手捏の鉢である。

1-SA10

遺構（第 7 図）

調査区中央やや南側、SA6 の北に位置し、SA15 を切る。南側周壁を失っているが、長軸 4.5m 以上、短軸約 4.0m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。主柱穴は長軸方向に並ぶ 2 基とみられ、周壁沿いにはほぼ全面に壁溝が回っている。また、壁溝内やその内側に小さなピットが 6 基みられる。

遺物

土器（第 98・99 図 40 ～ 61）

竪穴中央に黒色土の堆積がみられ、その中から土器片が多く出土している。図化している土器の大半はこの黒色土中からの出土で、43 は東側周壁に近い床面付近からの出土である。48 は壺、50・51 は鉢の底部とみられるが、いずれも底部中央が窪むドーナツ状の平底を呈する。53 は小型器台とみられるが、胎土や色調が在地のものと異なる。59 ～ 61 は人為的に破断面が摩滅した土器片である。

石器（第 214 図 2131）

住居中央で打製石斧 (2131)、図化はしていないが磨石 1 点、敲石 1 点が出土している。

1-SA11

遺構（第 7 図）

調査区中央やや南東付近に位置し、SA12 に切られる。攪乱により西側周壁を失っているが、長軸約 7 m、短軸約 5.8m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。主柱穴は長方形状に並ぶ 4 基と想定されるが、北西は攪乱によって失われていると考えられる。住居中央の床面には焼けた部分がみられ、やや浮いた状態で焼土の堆積もみられた。

遺物

土器（第 99 図 62 ～ 78）

62・66・68 が北西角付近、63・64・72 ～ 74 が東側周壁中央付近、69・71・76 が西側周壁付近中央、67 が貼床埋土中から出土している。なお、75・77 は中央やや南東の地点に近接して立ち、78 は底が打ち欠かれ、口縁部を下に向けて 75 にかぶせるような状態で出土している。65 は二重口縁壺の口縁部で、外面に沈線による鋸歯文と竹管文がみられる。69 は壺の底部で、外面に二本の線刻がみられる。75 はややドーナツ状の上げ底を呈する鉢で、胴部と底部外面に線刻がみられる。

石器（第 214 図 2132・2133）

北側周壁の中央沿いで大型の砥石 (2133)、南西角のピットで小玉（2132）が出土している。

鉄器（第 271 図 2827）

鉄器では、S12 との境界付近の埋土中から小型の圭頭鏃 (2827) が出土している。また、図化していないが、それ以外に 4 点の不明鉄片が出土している。

1-SA12

遺構（第 8 図）

調査区中央東側に位置し、SA11 を切り、SE1 に切られる。長軸約 5.3m の短軸約 4.5m の長方形プランを基本として、南側角付近に張り出しを有する。床は地山土による貼床で、南東側周壁中央から住居の中央にかけて床が 1 段低く、その周囲の床がコの字形のベッド状を呈する。南側角の貼り出し部分はベッド状の床よりも更に 10cm ほど床が高い棚状となっており、2 基のピットがみられる。主柱穴は長軸方向に平行する 2 基とみられ、南東側周壁の中央付近には不定形な土坑が伴う。

遺物

土器（第 99 図 79 ～ 90）

79・80・83・86・87 をはじめ、多くの土器は

コの字形ベッドに囲まれた低い床面付近から出土している。81・82・84・88 はベッド上から、その他は埋土中からの出土である。80・81 の底部はドーナツ状の上げ底を呈する。

石器（第 215 図 2134）

南側角の張り出しで磨石 (2134) が 1 点のみ出土している。

鉄器

図化していないが、小さな鉄片が出土している。

1-SA13

遺構（第 9 図）

調査区中央、SA19 の北東に隣接する。長軸約 5.5m、短軸が北東で約 4.8m、南西で 5.3m のやや台形状の平面プランを呈する。床は地山土による貼床で、周壁に近い床が 20 ～ 60cm の幅で 10cm ほど高いロの字形のベッド状となっている。このロの字形のベッドで囲まれた内側は、北東側が幅 80cm、高さ 8cm ほど高いテラス状で、壁溝が回っている。このテラス上には、長軸約 80cm、短軸約 50cm の楕円形土坑がみられる。最も床が低い住居の中央部分は長軸約 4.0m、短軸約 3.5m の長方形を呈し、南西から中央に向かって低くなる 2 連の土坑がみられる。主柱穴は長軸方向に並ぶ 2 基と考えられ、南側のピットは中央の土坑内に位置する。住居の東側を中心に埋土中から炭化材が検出されており、 2 点について年代測定を実施した結果、1740 ± 20 年 BP、1755 ± 25 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 100・101 図 91 ～ 117）

103・110・116 が埋土中から、その他は床面付近からの出土である。床面付近では北東側周壁からその内側のベッド状遺構上 (91・93 ～ 97・99 ～ 101・104・105・107 ～ 109・112 ～ 115・117) と竪穴中央の長方形状に低い部分の南東側寄り (92・98・102・106) の 2 箇所に分布が集中していた。なお、111 は竪穴中央やや南西の土坑内からの出土である。117 の鉢は手捏土器で底部が円盤状の平底を呈し、外面に乾燥段階で生じたと思われるヒビが多くみられる。

石器（第 215 図 2135・2136）

図化はしていないが、小型の台石が住居中央より北側に 1 点、ほぼ中央に 1 点、中央より南側に 1 点出土した。また、貼床掘削中に石包丁（2136）が出土している。軽石（2135）は埋土中の出土である。

鉄器

この他、図化していないが、埋土中から鉄片が 2 点出土している。

1-SA14

遺構（第 8 図）

調査区中央、SA13 の東に位置する。攪乱により北側周壁を失っているが、長軸約 3.1m の長方形プランと思われる。床は地山土による貼床で、残存する周壁沿いには壁溝がみられる。中央やや西寄りに不定形な土坑がみられ、その周囲に数基のピットもみられるが、主柱穴は判然としない。

遺物

土器（第 101 図 118 ～ 121）

土器は 4 点図化しているが、いずれも中央の不定形土坑内やその周囲からの出土である。

石器（第 215 図 2137）

石器は、住居の中央で石包丁（2137）が 1 点のみ出土している。

1-SA15

遺構（第 7 図）

調査区中央やや南西側に位置し、SA29 を切り、SA10 に切られる。南西側を大きく失っているが、方形基調の平面プランとみられ、北西・南東周壁間の距離は約 4.4m を測る。床は地山土による貼床で、竪穴中央に浅い溝状の落ち込みがみられ、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 101 図 122 ～ 138）

床からやや浮いた状態で北側角から北西側周壁にかけて多くの土器片が出土している。122・123・125・129・132・133 は SA29 埋土中からの出土土器と接合している。124・125・127 は竪穴中央の溝状の落ち込み中から出土、もしくは出土した土器と接合している。137・138 は他の土器よりも明らかに古い様相を示すもので、近隣に当該期の遺構が存在した可能性が高い。

石器（第 215 図 2138）

住居の中央で磨製石鏃 (2138) が 1 点のみ出土し

ている。

1-SA16

遺構（第 9 図）

調査区中央南寄り、SA15 の北に位置し、SA17・SC17 を切り、SE1 に切られる。北側周壁の東半を失っているが、長軸約 5.3m、短軸約 4.3m の長方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。南西側隅角周辺を除く周壁沿いには壁溝が回っている。住居の中央から南西側隅角にかけては 1 辺約 2.8m の方形土坑状に床が低くなっており、この落ち際の大半にも細い壁溝が回っている。方形土坑状の落ち込み中央と西側周壁寄りには 2 基の土坑がみられる。床面上で数基のピットを検出しているが、主柱穴は判然としない。

遺物

土器（第 102 図 139 ～ 160）

方形土坑状の落ち込み内の床面付近から多くの遺物が出土している。147・153・160 が埋土中からの出土で、それ以外は落ち込み内からの出土である。なお、139・143・146・151・157 は SA17 内出土土器と接合している。142 は球形胴の甕で外面にタタキ調整がみられ、底部はドーナツ状の平底を呈する。150 は広口壺で胎土が在地のものとは明らかに異なり、搬入品の可能性がある。151 は大型の壺の頸部～口縁部付近で、胎土に白色と赤褐色の粒を多く含み、器形もいわゆる山陰系の壺に近い二重口縁を呈する。152・158・159 は縦方向のミガキ後に横方向の細かいミガキ調整がみられ、在地の土器にはあまりみられない器面調整が施されている。160 も細かい横方向のミガキ調整がみられる小型土器の口縁部付近で、胎土等から搬入品の可能性がある。

石器（第 215 図 2139）

住居の中央よりやや西側で、敲石 (2139) が 1 点のみ出土している。

1-SA17

遺構（第 9 図）

調査区中央南寄り、SA10 の北に位置し、SA101 を切り、SA16・SE1 に切られる。 1 辺約 3.3m の方形プランとみられ、床は地山による貼床である。SA16 に接する西側を除く周壁沿いには壁溝が回り、住居の中央にも区画する様な細い溝がみられる。南東隅角付近でピットが 1 基検出されているが、主柱穴は不明である。なお、切り合い関係にある SA16 よりも床面の高さが 10cm 程高い。

遺物

土器（第 103 図 161 ～ 164）

土器の出土は少なく、162・163 が南側角付近、164 が溝で区画された内側の東角付近、161 が埋土中からの出土である。

石器（第 215 図 2140・2141）

住居中央の細い溝の内側で、石包丁 (2141)、打製石斧 (2140) が出土している。

1-SA18

遺構（第 10 図）

調査区中央付近、SA17 の東に隣接し、SA19・SE1 に切られる。ほぼ床面しか検出できておらず、北側周壁を失っているため長軸方向の規模は不明だが、短軸約 3.7m の長方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。周壁沿いにはほぼ全面に壁溝が回る、住居中央やや北側には北側周壁に向かって延びる不定形の土坑がみられる。床面上で数基のピットを検出しているが、主柱穴は判然としない。なお、不定形土坑内の埋土には炭化物がみられ、この炭化物を年代測定した結果、1720 ± 25 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 103 図 165 ～ 168）

遺物の出土は少なく、土器は 4 点を図化した。165 は SA19 寄りの床面付近、168 は南側角付近、166・167 は埋土中からの出土である。ただし、166・167 は SA19 出土土器と接合している。

石器

図化はしていないが住居南東角で最大長 17 ｃｍ程の小型の台石が 1 点のみ出土している。

1-SA19

遺構（第 10 図）

調査区中央付近、SA13 の南西に近接し、SA18 を切る。東側周壁の大半を攪乱によって失っているが、長軸約 3.8m、短軸約 3.3m の長方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。残存する周壁沿いには壁溝がほぼ全面に回っている。住居の中央やや南寄りに 4 基のピットがみられるが、主柱穴

は不明である。

遺物

土器（第 103 図 169・170）

遺物は少なく、土器２点を図化した。169 は南角、170 は北西周壁寄りの床面付近からの出土である。

1-SA20

遺構（第 10 図）

調査区中央の遺構が密集する部分のほぼ中央に位置し、S35・45・48 を切る。長軸約 5.1m、短軸約 4.0m の長方形プランで、床は地山面を利用している。西側周壁の大半と南・東側周壁の一部に壁溝がみられる。東側周壁中央から住居中央にかけて隅丸長方形の浅い落ち込みがみられる。主柱穴はこの落ち込みを挟んで長軸方向に平行する２基と考えられる。なお、落ち込み内や床面上から少量の炭化物や焼土が検出されている。

遺物

土器（第 103・104 図 171 ～ 189）

床面から浮いた状態で比較的多くの遺物が出土しており、廃絶後に投棄されたものと考えられる。171・177 は落ち込みの南西側から折り重なるように出土しており、同時もしくは近い時期に廃棄された可能性がある。173 と 179 は南西側周壁の壁溝寄りの地点から出土している。180・181・186 は北側寄りの地点から、その南東 1m の地点で 183・185 が近出土している。174 は球形胴の甕で布留式甕の模倣と思われる。183 は高坏の坏部で胎土が在地のものと異なる。188 は杓子形土製品、189 は人為的に破断面が摩滅した土器片である。

石器（第 215 図 2142 ～ 2144）

住居中央に台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土したほか、中央よりやや南側で磨石 (2144)、小玉 (2142) が出土している。埋土中で石包丁３点が出土し、2143 のみ図化している。

1-SA21

遺構（第 11 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の北側に位置し、SA36・37・47・65、SC35・36 を切る。長軸約 5.9m、短軸約 5.3m の長方形プランを基本に南西側周壁中央から北西側周壁中央にかけて奥行きが 30cm ～ 1m の L 字状の張り出しを有する。この張り出しの内側は方形土坑状に落ち込んでいるため、張り出し部は棚状、南東～北東周壁沿いの床は L 字形のベッド状を呈する。ピットは多数検出されているが、床面からの深さが浅いものが多く、主柱穴は南東・北西周壁と平行する２基と思われる。

遺物

土器（第 104・105 図 190 ～ 208）

土器は 19 点を図化したが、190・193 ～ 195・199・202 ～ 205・207・208 は床面付近から、196・206 は L 字状の張り出し部分から、その他は埋土中からの出土である。194 は壺のドーナツ状の平底を呈する底部で壺又は鉢と思われるが、外面が被熱により劣化・変色しており、製塩土器の可能性がある。195・205 は鉢の底部と思われ、平底の底部中央付近に桃核のような圧痕がみられる。201 は内面にケズリ調整が施された球形胴の甕で、胎土も在地土器とは異なることから搬入品と考えられる。207・208 は形態が非常に類似した高坏で、北側の主柱穴を挟んで近い位置から出土している。

石器（第 215 図 2145・2146）

図化はしていないが、西側周壁の中央付近に、最大長 19cm 程の小型の台石が出土している。

砥石 (2145) と勾玉（2146）は埋土中の出土である。

鉄器（第 271 図 2828）

床面付近から 2828 が出土しており、欠損部分が多いものの、刀子片と考えられる。

1-SA22

遺構（第 11 図）

調査区中央東端、SA14 の南西に位置する。攪乱によって北側を失っているが、南東・北西側周壁間の距離が約 3.9m を測り、方形を基調とする平面プランと考えられる。床は地山土による貼床で、やや北東に寄っているが南西側周壁と平行する２基のピットが検出されており、主柱穴の可能性が高い。この主柱穴の間付近の床面から炭化物が検出されており、年代測定を行った結果、1760 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 105 図 209 ～ 213）

遺物は少なく、竪穴内からまとまりなく出土している。212・213 が床面付近、その他は埋土中からの出土である。

鉄器（第 271 図 2829）

床面からやや浮いた状態で柳葉鏃 (2829) が出土しており、図化はしていないが、埋土中から鉄片も１点出土している。

1-SA23

遺構（第 11 図）

調査区中央北側、SA34 の東側に位置する。長軸約 3.6m、短軸約 2.9m、の長方形プランを基本に南西から北西側周壁の外側に奥行き 40cm 程の張り出しを有する。床は地山土による貼床で、張り出し部分の周壁沿いと長方形竪穴部の周壁沿いの大部分には壁溝が回っている。住居の北東側に 4 基の土坑がみられ、特に東側隅角付近に集中している。主柱穴は長軸方向に並ぶ２基と考えられる。

遺物

土器（第 105 図 214 ～ 220）

214・218 が東角寄り、216・220 が南角寄り、217 が中央やや北寄り、219 が中央付近の床面上から出土しており､215 は埋土中からの出土である。なお、図化していないが、高坏の脚部も２点出土しており、いずれも脚柱部がエンタシス状である。

石器（第 215 図 2147）

図化はしていないが住居中央で小型の台石２点が出土した。また、東側周壁中央付近で磨石 (2147) が出土している。

鉄器（第 271 図 2830）

埋土中から刀子 (2830) が出土しており、図化はしていないが、埋土中からも鉄片が１点出土している。2830 は茎側に有機質の付着物がみられるが、残存部すべてに刃部が確認できることから、この有機質が茎部に巻かれていたものか判然としない。

1-SA24

遺構（第 13 図）

調査区南側中央付近に位置し、SA27 を切り、SA7・26 に切られる。１辺約 5.5m の方形状の平面プランが想定される範囲で貼床の痕跡が確認されたものであり、柱穴や土坑はみられなかった。炭化物が検出されており、年代測定を実施した結果、1685 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 106 図 221 ～ 224）

土器を４点図化しているが、いずれも床面付近からの出土である。224 は平底からやや外傾気味に直線的に立ち上がるもので、コップのような器形を呈する。

1-SA25

遺構（第 12 図）

調査区南側東寄り、SA8 の北に位置し、SB1 に切られる。残存状態が悪く、南西側隅角付近のみが確認されたものである。床は地山土による貼床で、周壁に沿って壁溝がみられる。床面上から炭化材が検出されており、年代測定を行った結果、1710 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

なお、遺物は出土していない。

1-SA26

遺構（第 13 図）

調査区南側中央付近に位置し、SA24・27 を切り、SA1 に切られる。残存状況が悪く、地山土による貼床の痕跡が検出されたのみだが、北西側周壁の長さが約 5.7m と想定され、方形を基調とする平面プランと思われる。柱穴はや土坑は検出されていない。

なお、遺物は出土していない。

1-SA27

遺構（第 13 図）

調査区南側中央付近に位置し、SA1・24・26 に切られる。残存状況が極めて悪く、地山土による貼床の痕跡が検出されたのみで、南西側周壁の長さが６m を越える方形を基調とする平面プランと思われる。

図化を要する遺物は出土していない。

1-SA29

遺構（第 7 図）

調査区中央やや南西側に位置し、SA15、SC17 に切られる。床は地山土による貼床で、方形基調の平面プランと思われるが、残存状況が悪いため規模等は不明である。

図化を要する遺物は出土していない。

1-SA33

遺構（第 12 図）

調査区北西に位置し、SA34 を切り、SA41 に切られる。長軸約 3.9m、短軸約 3.4m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。残存する周壁沿いには、やや幅の広い壁溝が回っている。住居中央から西側周壁にかけて２基の連続する土坑がみられるが、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 106 図 225 ～ 239）

床面からやや浮いた状態で多くの遺物が出土している。227 は甕の口縁部で、外面に棒状の工具による波状文が施されている。228 は二重口縁壺で、口縁部外面の一部に線刻がみられる。

石器（第 215・216 図 2148 ～ 2151）

住居中央よりやや北東側で台石（遺構図内に出土状況を図化）と敲石（2149,2150）、南東角で石包丁 (2151) が出土した。砥石 (2148) は貼床掘削中に出土している。

鉄器（第 271 図 2831）

2831 は S34 との切り合い部分の埋土中から出土したもので、柳葉鏃の鏃身部とみられる。

1-SA34

遺構（第 12 図）

調査区北西に位置し、SA33 に切られる。長軸が南東側で約 7.8m、北西側で約 7.0m、短軸約 6.3m のやや台形気味の平面プランを呈し、床は地山土による貼床である。西側隅角付近では周壁と平行する細い溝が検出されており、溝と周壁には挟まれた部分がＬ字状のテラスとなっている。住居の中央から南東側周壁に向かって延びる不整形な土坑を有し、主柱穴はやや南東に寄っているが、長方形状に並ぶ６基とみられる。なお、床面上で多くの炭化材や焼土が検出されており、焼失住居と考えられる。

遺物

土器（第 106・107 図 240 ～ 253、262・263）

240 ～ 243・246・247 は不整形な土坑内またはその周辺、244 は西角、245・251 ～ 253 は北角付近の床面上から出土しており、その他は埋土中からの出土である。262・263 は搬入品と思われる布留式系の甕である。

石器（第 216 図 2152・2153）

北東側主柱穴の東側傍で 40cm を超える大形の台石 (遺構図内に出土状況を図化)、南東側土坑の縁で砥石 (2152)、打製石斧（2153）が出土している。

鉄器（第 271 図 2832・2833）

2832 は身～茎にかけて残存する何らかの工具とみられ、埋土中から出土している。2833 は貼床の埋戻し土中から出土した鉄器の茎であるが、器種は不明である。この２点以外にも埋土中から棒状の鉄片が２点出土している。

1-SA35

遺構（第 10 図）

調査区中央の遺構が密集する部分のほぼ中央付近に位置し、SA47･62･101 を切り、SA20 に切られる。長軸約 5.4m、短軸約 4.0m の長方形プランで、床は地山面を利用している。住居の中央から西側周壁に向かって浅い長方形土坑に床が窪んでおり、その落ち込みと南側周壁の間に楕円形土坑がみられる。その他にピット等は検出されておらず、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 107・108 図 254 ～ 269）

254 が楕円形土坑内、255 が東角、260 が南角、256 が埋土中からの出土で、それ以外は西側の長方形土坑状に低い部分の床からやや浮いた状態で出土している。

石器（第 216 図 2154 ～ 2157）

南側周壁傍の土坑より台石 (2155)、南側周壁沿いで磨石２点 (2156,2157)、住居中央の落ち込みの南東角に台石（遺構図内に出土状況を図化）、落ち込みの北側で打製石斧 (2154) が出土している。

鉄器

図化していないが、埋土中から板状の鉄片が１点出土している。

1-SA37

遺構（第 11 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の北側付近に位置し、SA47 を切り、SA21 に切られる。長軸約 3.9m、短軸約 3.0m の長方形プランで、床は地山面を利用している。南東側角付近に円形土坑がみられるが、主柱穴は不明である。なお、周壁沿いの埋土に焼土の堆積がみられた。

遺物

土器（第 108 図 270 ～ 272）

遺物は少なく、271 は北西側、272 は北東角付近から出土している。270 は南東角の土坑周辺から出土しているが、SA34 出土土器と接合している。

石器

住居中央よりやや北西側で台石（遺構図内に出土状況を図化）が 1 点のみ出土している。

鉄器

図化していないが、埋土中から棒状の鉄片が 1 点出土している。

1-SA39

遺構（第 13 図）

調査区北東、SA14 の北に位置し、SC47 を切る。東側を攪乱により失っているが、長軸約 4.7m、短軸約 4.2m の長方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。床面上で数基のピットが検出されているが、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 108・109 図 273 ～ 297）

床面よりやや浮いた状態で、埋土中から多くの土器が出土している。甕はナデ調整で胴部に最大径をもつものが多く、278 の底部はドーナツ状、279 の底部は中央が刺突により窪んでいる。286・287 の底部外面には木葉圧痕がみられ、287 は底部中央が窪んだドーナツ状の平底を呈する。291 は壺または鉢の胴部とみられるが、底部中央が窪まされている。

石器（第 216・217 図 2158 ～ 2161）

北東側周壁中央付近で台石（2161）が実測図右側面を上にして立った状態で出土した。中央より南側で石包丁（2158）、敲石（2159）と図化はしていないが最大長 19cm 程の小型の台石が出土している。石包丁（2160）は埋土中の出土である。

鉄器（第 271 図 2834）

2834 は埋土中から出土した鍛造の有袋鉄斧である。袋部はやや角張った楕円形で、折り返しの端部は開いている。刃部は重厚で、袋部から刃先に向かって緩やかに幅広となり、片側の擦り減りが著しい。この他、図化していないが、貼床埋戻し土内から断面が緩やかに湾曲した鉈状の鉄片が出土している。

1-SA41

遺構（第 13 図）

調査区北西、SA34 の南に位置し、SA33 を切る。長軸約 6.5m、短軸約 5.8m の長方形プランを呈し、床面は地山面を利用している。住居の中央が周壁と主軸がずれた長方形の土坑状に低くなっている。主柱穴はこの床が低い部分にある周壁の短軸方向に平行する 2 基と思われる。

遺物

土器（第 109・110 図 298 ～ 315）

300・301・312・314・315 が中央の低い床面上、302 が南角側のベッド上からの出土で、その他は埋土中からの出土である。301・309 は甕で底部がドーナツ状の平底を呈する。305 は底部外面に木葉圧痕がみられる。312 は赤橙色を呈し、二次的な被熱の影響が伺われる。314・315 は小型の鉢で外面にタタキ調整がみられる。

石器（第 217 図 2162 ～ 2164）

住居中央よりやや南側で大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土した。南西側周壁の南よりで敲石（2164）が出土したほか、図化はしていないが南東側周壁中央付近と住居中央より北東側で小型の台石が出土している。石包丁 2 点（2162,2163）は埋土中の出土である。

鉄器（第 271 図 2835）

2835 は圭頭鏃と柳葉鏃の鏃身部が重なって錆着したもので、埋土中から出土している。

1-SA45

遺構

調査区中央の遺構が密集する部分の西寄りに位置し、SA48・108 を切り、SA20・107 に切られる。長軸約 5.2m、短軸約 4.1m の長方形プランを呈し、床面は地山面を利用している。北西側周壁の東半に三角形状で 1 段高いベッド状遺構がみられる。主柱穴はやや軸が振れるが、長軸方向に近い軸上に並ぶ２基とみられ、中央には楕円形土坑もみられる。

遺物

土器（第 110 図 316 ～ 325）

316 が北東側周壁沿いの床面付近から出土した以外は埋土中からの出土であるが、317・319・320 は南東側周壁沿いの土坑内からの出土である。

石器（第 217 図 2165・2166）

中央の落ち込みの北西側で台石 (2165) が出土した。図化はしていないが南側角に 1 点、西側周壁

の中央よりやや南側で２点小型の台石が出土している。磨製石鏃 (2166) は埋土中の出土である。

1-SA47

遺構（第 11 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の中央付近に位置し、SA20・21・35・36・37 に切られる。調査時に複数の遺構の切り合いと判断されており、判然としないが、方形を基調とする平面プランで、南側隅角付近に張り出しを有すると考えられる。床は地山土による貼床で、住居中央から東側隅角にかけて１辺約 4.2m 方形土坑状に床が低く、南西から北西周壁側がＬ字形にベッド状を呈していた可能性がある。主柱穴も判然としない。

遺物

土器（第 110 図 326 ～ 328）

土器は３点のみ図化しているが、いずれも床面付近からの出土で、327・328 は重なるように出土した。

石器（第 217 図 2167・2168）

住居中央より北西側で石錘 (2167) が１点のみ出土している。軽石製の磨石？（2168）は埋土中の出土である。

1-SA48

遺構（第 10・14 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の西寄りに位置し、SA108 を切り、SA20・45 に切られる。北東側の隅角がみられることから、方形基調の平面プランと思われるが、大部分を失っているため詳細は不明である。床は地山面を利用しており、埋土中に焼土の堆積がみられた。

なお、遺物は出土していない。

1-SA55

遺構（第 15 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の北西に位置し、SA56・57 を切る。長軸が南東側で約 4.0m、北西側で約 4.8m、短軸約 4.0m の台形気味の平面プランを呈し、床は地山土による貼床である。住居の中央から南東側周壁に向かって不整形な土坑がみられ、その土坑を挟んで２基の浅い円形土坑がみられる。その他北東側隅角付近に１基のピットがみられるが、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 110 図 329 ～ 332）

土器は 330・331 が埋土中、329・332 が土坑床面付近からの出土である。

石器（第 217 図 2169）

住居中央より南西側の土坑で台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土しているのみである。石包丁 (2169) は埋土中の出土である。

1-SA56

遺構（第 15 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の北西に位置し、SA57 を切り、SA55 に切られる。床は地山面で、南側周壁が約 2.5m を測る方形を基調とした平面プランと予想されるが、大半が失われているため詳細は不明である。

遺物は出土していない。

1-SA57

遺構（第 15 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の北西に位置し、SA56 に切られる。床は地山面で、南東側隅角付近のみが残存しており、詳細は不明である。なお、南側周壁沿いには壁溝がみられる。

遺物は出土していない。

1-SA64

遺構（第 15 図）

調査区中央からやや北東、SA23 の南に位置し、SC43・SB6 に切られる。長軸約 6.0m、短軸約 4.5m の長方形プランを基本に東側周壁の大半が 30cm 程外側に張り出す。床は地山土による貼床で、住居中央付近の床面上には多くの炭化材がみられた。主柱穴はやや軸がずれているが、台形状に並ぶ４基の可能性がある。

遺物

土器（第 111 図 333 ～ 348）

333・340・345 が西側周壁沿い、334・347 が南西側主柱穴周辺、341・343・346 が北西角付近、344 が北東角付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。336 ～ 339 は小片だが、搬入品の布留系甕と思われる。347 は小型の器台で、裾部

に円形の透孔を有する。

石器（第 218 図 2170 ～ 2174）

住居中央よりやや南側で台石（2170）、中央よりやや北側で敲石 (2174)、東側周壁北寄りで勾玉（2173）が出土している。石包丁 (2171) は、貼床掘削中の出土であり、(2172) は埋土中の出土である。

1-SA65

遺構（第 11 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の北側に位置し、SA21、SC28 に切られる。失われている部分が多いため判然としないが、方形を基調とする平面プランと考えられる。床は地山面を利用しており、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 111 図 349 ～ 351）

土器 3 点を図化したが、いずれも埋土中からの出土である。

鉄器（第 271 図 2836）

2836 は茎部から身部に向かってやや幅が広くなり、その片側側面に刃部を有する工具とみられる。刃部が無い側の側面には不自然な欠損がみられ、人為的な切断の可能性がある。

1-SA68

遺構（第 12 図）

調査区の北東、SA64 の東に位置し、南東側が調査区外まで延びている。長軸約 2.8m、短軸約 2.3m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床で、周壁沿いには大部分で壁溝が回っている。主柱穴は短軸方向に平行な 2 基と思われる。

遺物

土器（第 111 図 352・353）

土器は 2 点図化したが、352 は東側主柱穴の南東床面付近から、353 は埋土中からの出土である。

石器（第 218 図 2175・2176）

西側周壁中央付近で磨石 (2175)、東側周壁やや南寄りで敲石 (2176) が出土している。

鉄器

図化していないが、埋土中から工具の可能性がある棒状の鉄片が出土している。

1-SA69

遺構（第 14 図）

調査区の北東、SA68 の北東に位置し、南東側が調査区外まで延びているため不明確だが、方形を基調とする平面プランと思われ、北西の周壁が約 2.5m を測る。床は地山面を利用しており、住居中央やや南寄りに円形の土坑がみられる。床面状で数基のピットが検出されているが、主柱穴は判然としない。

図化を要する土器は出土しておらず、石器も図化はしていないが、南側周壁沿いに 3 基並ぶ真ん中のピットから、最大長 24cm 程の台石が出土している。

1-SA72

遺構（第 12 図）

調査区の北東、SA68 の南に位置し、大半が東側の調査区に延びているため規模は不明だが、床は地山土による貼床で、方形を基調とした平面プランと考えられる。

遺物

土器（第 111 図 354）

354 は小型の甕で埋土中からの出土である。

鉄器（第 271 図 2837）

2837 は断面円形もしくは方形の棒状の茎を樹皮状の植物繊維で巻いたもので、刺突漁具の茎の可能性が考えられる。

1-SA75

遺構（第 14 図）

調査区の中央東端、SA22 の南に位置し、SE1 に切られる。東半が調査区外まで延びており、西側は大きな風倒木、南側を SE1 によって攪乱を受けているため規模は不明であるが方形を基調とする平面プランと考えられる。床は地山面を利用しており、住居中央部は隅丸方形の土坑状に浅く落ち込んでいる。床面で 4 基のピットが検出されているが、主柱穴は不明である。遺物は出土していないが、遺構の規模や形状からこの時期の遺構として扱っておく。

1-SA76

遺構（第 15 図）

調査区北側のやや西寄り、SA34 の北東に位置す

る。 1 辺約 2.4m の方形プランで、床面は地山面を利用している。床面上では北側隅角付近で深さ 20cm ほどのピットが検出されているのみで、遺物も出土していないが、この時期の遺構として扱っておく。

1-SA77

遺構（第 15 図）

調査区の北端に位置し、北側は攪乱により失われていた。残存する南側周壁は約 2,8m を測り、隅丸方形状の平面プランと予想される。床は地山面を利用しており、西側周壁寄りでピットが検出されているが、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 111 図 355）

355 はミニチュアの甕形土器で、確認調査時に出土したもので、この遺構に伴う可能性がある。

1-SA90

遺構（第 16 図）

調査区の北端付近に位置し、SE4 に切られる。西半を大きく失っているため規模等は不明だが、南西隅角が残存しており、方形を基調とする平面プランとみられる。床面は地山面を利用しており、主柱穴は不明である。遺物は出土していないが、この時期の遺構として扱っておく。

1-SA102

遺構（第 16 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の南西端に位置し、SA103･104 を切る。長軸約 3.0m、短軸約 2.8m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。中央に楕円形の土坑がみられ、複数のピットも検出されているが主柱穴は判然とせず、規模的に住居跡ではない可能性もある。

遺物

土器（第 111 図 356）

356 は同一個体と思われる甕で、埋土中からの出土である。

1-SA103

遺構（第 16 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の南西端に位置し、SA104 を切り、SA102 に切られる。長軸約 2.5m、短軸約 2.0m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。床面ではピットが 1 基検出されているのみで、規模的に建物跡ではない可能性もある。

なお、遺物は出土していない。

1-SA104

遺構（第 16 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の南西端に位置し、SA102・103 に切られる。 1 辺約 2.7m の方形プランでとみられ、床は地山土による貼床である。確実にこの遺構に伴うピットは不明であり、規模的に建物跡ではない可能性もある。

なお、遺物は出土していない。

1-SA107

遺構（第 14 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の西端に位置し、SA45・108 を切る。西側が調査区外に延びているが、方形を基調とする平面プランと考えられ、東側周壁が約 4.9m を測り、南側周壁に張り出しを有する。床は地山土による貼床で、張り出し部分はやや床が高い。主柱穴は不明瞭だが、東西方向に並ぶ 2 基の可能性が高い。また、床面上から炭化材が検出されており、焼失住居と考えられる。炭化材 2 点について年代測定を実施した結果、1830 ± 20 年 BP、1800 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 111 図 357 ～ 360）

357 は竪穴中央、調査区外に近い位置で出土し、ほぼ完形に復元された。図には表現していないが、胴部に 2 箇所の人為的な破砕痕がみられる。その他の土器は埋土中からの出土である。

石器

住居南東角土坑の北側傍で台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土しているほか、図化はしていないが南東角で敲石 1 点と最大長 21cm 程の小型の台石が出土している。

1-SA108

遺構（第 14 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の西側に位置し、SA45・48・107 に切られる。やや曲線的な周

壁が２ｍほど確認されたもので､詳細は不明である。遺物は図化していないが、埋土中から壺の底部が出土している。

1-SA109

遺構（第 16 図）

調査区の南西端に位置し、西側を倒木痕により失っている。長軸約 2.8m、短軸約 2.3m の長方形プランとみられ、床は地山面を利用している。北西と南東に土坑がみられ、中央に２基ピットがみられるが、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 112 図 361 ～ 366）

土器は６点図化したが、361 ～ 363・365 は北側周壁沿いの土坑埋土中、366 が南東角の土坑埋土中、364 が埋土中からの出土である。365 は有段高坏だが、胎土は在地的である。

石器（第 218 図 2177）

北側土坑の北西角で敲石 (2177) と図化はしていないが小型の台石が出土した。中央の西側ピット傍にも小型の台石が出土している。

1-SA116

遺構（第 16 図）

調査区の南西端に位置し、SC314 に切られる。西側の大部分が調査区外に延びているため規模は不明だが、方形を基調とする平面プランと思われる。床は地山面を利用しており、３基のピットがみられるが、主柱穴は不明である。

なお、遺物は出土していない。

1-SA118

遺構（第 16 図）

調査区の南端に位置する。長軸約 4.4m、短軸約 3.7m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。床には大きな楕円形土坑が３基みられ、他にピットは検出されていない。ただし、竪穴の四隅の外側にそれぞれピットがみられ、これが上屋構造に関連する柱穴の可能性がある。

遺物

土器（第 112・113 図 367 ～ 394）

368・387 は中央付近、376・374・376・381・394 は南西角付近、390・391・393 は南東角付近、372 は北側周壁沿いから出土している。385・389 は東側土坑床面付近、383・392 は西側土坑床面付近から出土している。その他については竪穴及び土坑からの出土破片が接合しており、367 が埋土中からの出土である。385 はほぼ完形に復元される脚付鉢で、短く屈曲する口縁部下に内面から斜め下方に向かって穿孔された一対の円孔が対向する位置にみられる。また、胴部には焼成後に内外両面から穿たれた穴が２箇所にみられ、祭祀行為との関連が考えられる。391 は小型の鉢で、外面全体と内面の口縁部付近に赤橙色の化粧土？が塗布されている。

石器（第 218 図 2178 ～ 2180）

住居北西側の土坑より敲石２点 (2178,2179)、東側土坑の底面で台石２点（2180 のみ図化）が出土している。

鉄器（第 271 図 2838）

2838 は先端が尖り、断面形が方形を呈する錐状の鉄器で、先端部以外には樹皮状のものが巻きつけられている。

土坑

1-SA36

遺構（第 11 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の北東側に位置し、SA47 を切り、SA21 に切られる。長軸約 2.4m、短軸約 2.1m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。検出面からの深さは約 15cm と浅く、床面の高さが SA47・21 の床面よりも 30cm 以上高い。

遺物

土器（第 113 図 395 ～ 401）

土器を７点図化しているが、いずれも埋土中からの出土である。396 は二重口縁壺で口縁部を欠く。399 は壺の口縁部とみられるが、外面に左に傾く沈線と右に傾き交差する２本の沈線を連続させる文様がみられる。397・398・400 は小型丸底鉢だが、400 は外面の屈曲が殆どみられない。

なお、図化していないが、中位に段を持って大きく開く高坏の破片も出土している。

1-SC5

遺構（第 17 図）

調査区の南東、SA8 の北東に位置し、SC6 に切られる。北東側を攪乱により失っているが、長軸約 1.2m、短軸約 1.0m の長方形状の平面プランと思われる。床は地山面を利用しており、検出面からの深さは 10cm 程度しかなく、SC6 の床面より 40cm ほど高い。

遺物

土器（第 113 図 402）

402 は埋土中から出土した高坏で、坏部と脚柱部の接続部分がやや長く垂れ下がっている。

1-SC9

遺構（第 17 図）

調査区の南東、SC5 の東に位置する。南側を攪乱により失っているため規模や形状は不明瞭であるが、隅丸方形状の平面プランが予想される。残存部分の中央付近に深さ 5cm 程の小さなピットがみられる。

遺物

石器（第 219 図 2181）

ほぼ床面直上から少量の土器片及び石器が出土しており、基底面で磨石 (2181) が出土している。

1-SC17

遺構（第 17 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の南端に位置し、SA16・29 に切られる。短軸約 1.0m の長方形状の平面プランと思われる。床は地山面を利用しており、検出面からの深さは 10cm 程度しかなく、SC6 の床面より 40cm ほど高い。

遺物

土器（第 113 図 404 ～ 406）

404・405 の鉢は埋土中、406 の壺は SA29 に近い床面付近からの出土である。

石器（第 219 図 2182）

基底面で石包丁（2182）が出土している。

1-SC24

遺構（第 17 図）

調査区中央の北寄り、SA39 の西側に位置する。長軸約 1.6m、短軸約 1.3m を測る卵形の平面プランを呈する。床は地山面を利用しており、検出面からの深さは約 25cm である。

遺物

土器（第 113 図 403）

403 は短頸壺で 2 層中からの出土である。

1-SC28

遺構（第 11 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の北側、SA21 の北に位置し、SA65 を切る。南側周壁中央に攪乱を受けているが、長軸約 1.8m、短軸約 80cm の隅丸長方形の平面プランとみられ、深さは約 30cm を測る。床は地山面を利用しており、中央やや北側に径 20cm、深さ 5cm の小さなピットが伴う。

遺物

鉄器（第 271 図 2839）

2839 は検出面に近い埋土中から出土した無茎平基式三角形鏃で、表裏面に有機質の付着がみられる。

1-SC33

遺構（第 11 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の北側、SA21 の北東に位置し、SC36 を切る。 1 辺約 2 m の隅丸方形を呈する平面プランで、西側周壁に沿って幅約 20cm のテラスを有し、その内側にも周壁沿いを全周する幅約 20cm のテラスが回っている。このテラスに囲まれた部分は長径約 1.5m の楕円形状を呈する。床は地山面を利用しており、東側に向かって傾斜している。検出面から最深部までの深さは約 60cm を測る。

遺物

土器（第 113・114 図 407 ～ 413）

411 が基底付近から出土しているが、その他は埋土中からの出土である。大半は埋没過程に投棄されたものと考えられる。409 は長胴の甕で平底を呈し、底部外面に箆記号状の沈線がみられる。411 は平底を呈する甕の底部で、底部外面に焼成前に付いた織物の圧痕がみられる。412 は高坏の坏部上半で、残存部はほぼ完全に復元された。413 は大型の壺の胴部上半である。

1-SC36

遺構（第 11 図）

調査区中央の遺構が密集する部分の北側、SA65

の北に近接し、SA21、SC33 に切られる。失われている部分が多いため判然としないが、長軸 2.4m 以上、短軸 1.0m 前後の細長い楕円形プランとみられる。床は地山面を利用しており、検出面からの深さは 10cm 程度しかなく、SC6 の床面より 40cm ほど高い。

遺物

土器（第 114 図 414）

414 は埋土中から出土した小型の鉢で、平底を呈する底部外面を横断するように一条の藁状の圧痕がみられる。

石器

図化していないが、底面でホルンフェルスの剥片が 1 点確認されている。

1-SC51

遺構

調査区中央付近、SA21 と SA39 の間に位置する。長軸約 90cm、短軸約 75cm の楕円形に近い平面プランを呈する。床は地山面を利用しており、検出面からの深さは約 25cm である。

遺物

石器（第 219 図 2183）

埋土中から出土した筋砥石 (2183) を図化している。

1-SC85

遺構

調査区中央の遺構が密集する部分の北端、SA55・57 に近接する。南側を攪乱により失っているが、長軸 1.1m 以上、短軸約 90cm の不整形な平面プランを呈する。床は地山面を利用しており、検出面からの深さは 20cm 程である。

遺物

土器（第 114 図 415・416）

415・416 はいずれも埋土中から出土した手捏土器で、平底を呈する。

1 次拡

1-SC201

遺構（第 17 図）

調査区南側、SA118 の北東に位置する。南側を攪乱により失っているが、長軸 1.2m 以上、短軸約 1 m検出面からの深さ約 20cm を測り、長方形の平面プランとみられる。埋土が 3 層に分かれ、中間に堆積していた 2 層中には多くの炭化物や焼土が含まれていた。この炭化物について年代測定を実施した結果、1915 ± 25 年 BP の年代値が得られた。

なお、遺物は出土していない。

その他の遺物

土器（第 114 図 417 ～ 419）

以下、1 次調査区内の包含層中から出土したいくつかの遺物について述べる。

417 は二重口縁壺の口縁部で、外面に 5 条を一単位とする重弧文が重なるように施されている。418 は搬入品と思われる布留系甕の頸部である。419 は焼成された円盤状を呈する土製品で、指頭による調整痕とみられる凹凸をわずかに残すものの表面はきれいにナデ調整されている。

石器（第 219 図 2184 ～ 2190）

磨製石鏃 (2184)、石包丁（2185・2187・2188）石錘（2186）、玉 (2189)、磨製石鏃の未製品と思われる擦り切り痕のある剥片 (2190) を図化した。

鉄器（第 271 図 2840）

2840 は Gr.K9 の包含層中から出土した圭頭鏃の鏃身部である。

2　一次調査拡張区

竪穴建物跡

1 拡 -S5

遺構（第 19 図）

調査区北東端、S38 の北東に近接し、S23 を切り、S12 に切られる。長軸約 6.1m、短軸約 5.5m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。中央が大きく土坑状に窪んでおり、周壁沿いの床が 1 段高いロの字形のベッド状を呈する。また、南東側周壁の中央付近には幅 50cm、長さ 1 m の突出壁がみられる。床面上から複数のピットが検出されているが、長軸方向に平行する 2 基が主柱穴とみられる。

遺物

土器（第 115 図 420 ～ 423）

遺物は少なく、中央の窪み及び突出壁の東側から少量が出土している。420・421 は床面から、422・423 は埋土中からの出土である。

石器（第 220 図 2191 ～ 2193）

南東側周壁中央付近で砥石 (2191) が出土している。1 段低い床面の南西側ピットから石鏃が 2 点出土し、赤色頁岩製の 2193 のみ図化している。棒状の不明石器 (2192) は埋土中の出土である。

鉄器（第 271 図 2841）

2841 は鏃身部・茎部ともに先端を欠く柳葉鏃で、埋土中からの出土である。この他、図化していないが、細長い棒状と板状を呈する鉄片が 2 点出土している。

1 拡 -S22

遺構（第 19 図）

調査区中央東端 S70 の北東に位置し、S91、2-S3334 を切り、2-S3001 に切られる。1 辺約 5.5m の方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。主柱穴は判然としないが、床面上から放射状に倒れ込んだような状況の炭化材が検出されており、焼失住居と考えられる。炭化材 2 点について年代測定を実施した結果、1760 ± 20 年 BP、1770 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 115 図 424 ～ 427）

遺物は少なく、土器は 4 点図化している。424 は埋土中から、その他は床面付近からの出土である。なお、425 は脚柱部の四方に円形の透かし孔がみられる高坏の脚部でほぼ完存しており、南西角付近から転倒した状態で出土している。426 は小型の鉢で、底部は工具を押しつけたような上げ底を呈し、内面の底付近に赤色顔料が付着している。

石器（第 220 図 2194 ～ 2199）

北西側周壁中央付近で鉄銹の付着する台石 (2197) や砥石 (2194)、石錘（2199）が出土している。擦り切り痕のある砥石（2198）と石包丁 (2195) は埋土中の出土である。

鉄器（第 271 図 2842・2843）

2842 はほぼ完存する圭頭鏃、2843 は先端部が欠損した柳葉鏃で、いずれも埋土中からの出土である。

また、図化していないが、埋土中から 1 点の小鉄片も出土している。

1 拡 -S37

遺構（第 20 図）

調査区北東、S347 の東に位置し、S38 を切る。長軸 4.2m、短軸 3.5m の長方形プランとみられ、北東側周壁の東半に三角形状の張り出しがみられる。この張り出し部分は周囲よりも 1 段床が高い棚状となっており、相対する南西側隅角付近も三角形状にやや床が高くなっている。床は地山土による貼床で、主柱穴は短軸方向と平行に並ぶ 2 基とみられる。なお、北東隅角付近を中心に床面上から炭化物が検出されており、1 点について年代測定を実施した結果、1810 ± 25 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 115 図 428 ～ 431）

4 点図化しているが、全て埋土中からの出土である。

石器（第 220 図 2200）

床面直上からの出土はなく、磨製石鏃 (2200) が埋土中から出土している。

鉄器（第 271 図 2844）

2844 は側面に鍛打がみられ、断面が長方形状を呈する棒状の鉄製品で、埋土中からの出土である。

1 拡 -S38

遺構（第 20 図）

調査区北東、S5 の南西に近接し、S17・32・37・202 に切られる。長軸約 4.9m、短軸約 4.5m の長方形プランを基本として、北東側周壁に東半に張り出しを有する。この張り出し部は周囲よりもやや床面がやや高い棚状を呈する。床は地山土による貼床で、主柱穴は短軸方向に平行する 2 基とみられる。北東側周壁沿いには長軸 2.1m、短軸 1.1m の楕円形土坑、住居中央には径 1.2m 程の不整円形土坑もみられる。床面上から少量ながら炭化材が検出されており、焼失住居の可能性がある。

遺物

土器（第 115 図 432 ～ 439）

432・436 は南東周壁沿い、438 は北西周壁沿いの床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。434 は鉢形土器で、火の影響を受けており、外面下位は劣化し、上位には煤が付着している。439 は脚付鉢もしくは高坏の裾部で、外面に鋸歯文

状の線刻がみられる。

石器（第 220 図 2201・2202）

北西側周壁の中央よりやや西側で磨石 (2201)、南西側の 1 段低くなる床面から鉄銹の付着する砥石 (2202) が出土している。

1 拡 -S70

遺構（第 20 図）

調査区中央東端、S22 の南西に位置し、2-S3334 を切る。 1 辺約 7.2m の方形状だが、北西・南東側周壁の中央がやや外側に張り出し、南西・北東側周壁の中央には幅 50cm ほどの突出壁を有する。床は地山土による貼床で、中央が長方形状にやや低くなっており、中央付近には硬化している部分もみられた。床面でいくつかピットが検出されているが、いずれも浅く、主柱穴は判然としない。また、南西側周壁沿いを中心に壁溝もみられる。

遺物

土器（第 115 図 440 ～ 444）

土器の出土は少なく 440・441 が床面付近、その他は埋土中からの出土である。440 は小型丸底鉢を模した鉢と思われ、外面の屈曲は甘いが、内面に明瞭な稜を有する。442 は長頸壺もしくは鉢の口縁部で、外面に櫛描波状文がみられる。444 は手捏ねのミニチュア土器で、内面には放射状の爪形がみられる。

また、図化していないが、円形の透かし孔を有する小型器台の裾部も出土している。

石器（第 221 図 2203 ～ 2205）

北西側周壁沿いのピットから石包丁 (2203)、北側角で磨製石鏃 (2205) と図化はしていないが最大長 17cm 程の小型台石、南側角でも磨製石鏃 (2204) が出土した。その他、図化はしていないが南西側周壁中央付近で、敲石 2 点と磨石 1 点が出土している。

1 拡 -S91

遺構（第 19 図）

調査区中央東側、S70 の北に位置し、S22 に切られる。東側が失われているが、残存する西側周壁が約 4.2m、南側周壁が約 5.0m を測ることから、長方形プランと考えられる。床は地山面を利用しており、ピットも検出されておらず、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 116 図 445・446）

遺物は少なく、床からやや浮いた状態で 445・446 が出土している。

1 拡 -S105

遺構（第 21 図）

調査区北西端、S5 の西に位置し、S115・116 を切り、S101 に切られる。長軸約 6.5m、短軸約 6.0m のほぼ長方形プランを基本に、北西側周壁中央に幅 2.0m、奥行き約 1.6m の張り出しを有する。床は地山土による貼床で、主柱穴は北西・南東側周壁と平行する 2 基の可能性があるが、いずれも床から 20cm 程の深さしかなく、判然としない。北東側隅角付近の床面上から炭化材が検出されている。炭化材 2 点について年代測定を実施した結果、1760 ± 25 年 BP、1740 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 116 図 447 ～ 453）

449 が北東側周壁のやや北角寄り 453 が南西側周壁沿いのピット西側、450・452 が北側角の棚状のテラス上から出土している。447・448 は南東側周壁中央付近のピット内、451 は埋土中からの出土である。

石器（第 221 図 2206・2207）

住居中央よりやや西側のピット傍で敲石 (2207) と磨製石鏃 (2206) が出土している。

1 拡 -S161

遺構（第 21 図）

調査区中央北側、S404 の北に位置し、S344 を切る。平面プランは、 1 辺約 4.9m の方形プランを基本に、南東・南西・北西周壁に張り出しを有する。南東の張り出しは周壁の南半のみで、幅約 2.0m、奥行き約 1.2m を測る。南西の張り出しは周壁のほぼ全面にあり、幅 1.3 ～ 2.2m、奥行き 70cm ～ 1.0m の 3 つに区画されている。北西の張り出しは周壁の中央にあり、幅約 2.5m、奥行き約 1.3m を測る。床は地山土による貼床で、ピットは 5 基検出されているが、その内 3 基は深く、主柱穴の可能性が高い。主柱穴の配置的にみると、東側の 1 基が検出できていない可能性も考えられる。南東側周壁寄りには不整形な土坑もみられる。

遺物

土器（第 116 図 454 ～ 456）

遺物の出土は少なく、土器は３点を図化したが、454 が南西側周壁の最も南側の張り出しから、その他は埋土中からの出土である。454 は大甕の口縁部で、口縁部下に断面三角形の貼付突帯が二条みられる。

石器（第 221 図 2208）

南西側周壁中央よりやや南側付近で台石（遺構図内に出土状況を図化）が 1 点出土したのみである。石包丁 (2208) は埋土中の出土である。

鉄器（第 271 図 2845・2846）

2845 は茎部の先端が欠損したやや大型の柳葉鏃で、埋土中からの出土である。2846 も埋土中から出土した鉄片で、長軸方向にやや反りがみられることから鉈の可能性がある。

1 拡 -S209

遺構（第 22 図）

調査区中央、S70 の北西に隣接し、S292 に切られる。長軸約 3.8m、短軸約 3.3m の長方形プランを呈し、検出面から床面までの深さは約 10cm と浅い。床は地山土による貼床で、住居の中央には長軸 1.0m、短軸 70cm、深さ 5cm の楕円形土坑がみられる。その他ピットが数基検出されているが、主柱穴は判然としない。東半部の周壁沿いには断続的に壁溝がみられる。

遺物

土器（第 116 図 457）

457 は南側周壁の南側周壁の中央から南東角付近にかけての床面付近から出土している。

石器（第 221 図 2209・2210）

北東角付近で石包丁 (2209) と敲石 (2210) が出土している。

1 拡 -S292

遺構（第 22 図）

調査区中央付近、S70 の西に位置し、S209 を切る。１辺約 4.2m の方形プランを基本に南側周壁西半から西側周壁、北側周壁の西半に張り出しを有する。張り出し部はいずれも方形の竪穴部よりも床がやや高く、ベッド状を呈する。床は地山土による貼床で、方形竪穴部の南側周壁沿いには長軸 1.2m の隅丸方形土坑がみられる。主柱穴は方形竪穴部の東・西周壁沿いに位置する２基と思われるが、他のピットも深くてしっかりしたものが多く、特に張り出し上にあるものは上屋構造との関連が想起される。

遺物

土器（第 116 図 458 ～ 460）

土器では、458 が東側周壁中央付近、460 が中央から南東角寄りの床面付近、459 が土坑内からの出土である。

石器（第 221・222 図 2211 ～ 2218）

石器は、南側周壁中央付近の土坑より磨製石斧 (2216) が出土した。また、北側周壁中央沿いの土坑から敲石 (2217)、土坑の北側傍で敲石（2218）が出土した。南側周壁西半の張り出しで、台石 (遺構図内に出土状況を図化) と磨石（2214）が出土している。西側周壁中央付近で敲石（2213）、住居中央で磨石 (2211)、中央のピットから磨製石鏃 (2212) と図化していないが磨石が 1 点出土した。砥石 (2215) は埋土中の出土である。

1 拡 -S298

遺構（第 22 図）

調査区南東側、S70 の南に位置し、2-S3335 を切る。長軸約 4.7m の短軸約 4.0m の長方形プランで、北側周壁の東側 30cm ほど外側へ張り出す。この張り出しから東側周壁にかけては周壁沿いが幅 80cm、深さ 10cm 程の L 字形の溝状に落ち込んでいる。床は地山土による貼床で、床面から数基のピットが検出されているがいずれも浅く、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 116 ～ 118 図 461 ～ 479）

遺物の大半は L 字形の溝状の落ち込み埋土中から出土している。462・463・464・472・473・477・478 が落ち込みの北側周壁寄り、465 ～ 470・474 が落ち込みの南東角寄り、461 も落ち込み内からの出土である。475・476・479 は落ち込み内ではなく、北西角の床面付近から出土している。469 は甕の底部、474 は鉢で、共にドーナツ状の平底を呈する。471 は本調査区の調査中にこの遺構上の包含層中から出土したものであるが、胎土や器形から明らかに搬入品の甕で、口唇部には凹線文がみられ、頸部には工具による刻み目が施された

貼付突帯がみられる。なお、471 は他の遺物と比較して時期的に古いと考えられることから、2-S3335 に伴う遺物である可能性が高い。

石器（第 222 図 2219）

図化はしていないが、東側周壁中央付近で敲石と最大長 16cm 程の小型の台石が出土した。石包丁 (2219) は埋土中の出土である。

1 拡 -S344

遺構

調査区中央北寄り、S105 の南西に位置し、S161・169 に切られ、S347 を切る。攪乱を受けている部分が多いが、長軸約 4.0m、短軸約 3.0m の長方形プランと思われる。床は地山土による貼床で、南西側隅角から南東に延びる不整形な溝状の落ち込みがみられる。ピットが 3 基ほど検出されているが、主柱穴は判然としない。

遺物

土器（第 118 図 480 ～ 486）

土器は不整形な溝状の落ち込み内から出土しているものが多く、図化したものでは 480・481・483 ～ 486 がこの落ち込み内からの出土である。

石器（第 222 図 2220）

住居南西側隅の落ち込みで台石 3 点 (2220 のみ図化) が出土している。

1 拡 -S347

遺構（第 22 図）

調査区中央北側、S37 の西に位置し、S169・344 に切られる。西側の大部分が攪乱を受けており、その規模は不明だが、完全に遺存する東側周壁は約 3.7m を測り、方形を基調とする平面プランと思われ、床は地山土による貼床である。ピットも数基検出されているが、主柱穴は S344 内で検出されたものとともに東西に並ぶ 2 基の可能性が考えられる

遺物

土器（第 119 図 487 ～ 489）

土器は 3 点を図化したが、487・488 はともに南側周壁に近いピット内から、489 は北東角の床面付近からの出土である。なお、489 と同一個体と思われる土器片が 3 次 A 調査区の 3-S106 内からも出土している。

石器（第 222 図 2221・2222）

住居南東角付近に 3 基重なるピットから、敲石（2221）が出土している。磨製石鏃 (2222) はピット埋土中の出土である。

1 拡 -S404

遺構（第 23 図）

調査区中央付近、S161 の南側に位置し、S403 に切られる。長軸約 3.2m、短軸約 2.6m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。中央から南西寄りに楕円形土坑がみられ、4 基のピットも検出されているが、深さにばらつきがあり、主柱穴は判然としない。楕円形土坑内には焼土の堆積がみられたため、サンプリングしてフローテーションを行ったところ炭化種実片が採取された。この種実について年代測定を実施した結果、1845 ± 25 年 BP の年代値が得られた。

遺物

鉄器 （第 272 図 2847）

2847 は非常に薄く、三角形状を呈する鉄片で、埋土中からの出土である。

1 拡 -S409

遺構（第 23 図）

調査区中央、S404 の東に位置し、S410 を切る。長軸約 3.4m、短軸約 2.9m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床で、中央やや西よりの地点は硬化していた。ピットや土坑は検出されておらず、主柱穴は判然としない。

遺物

土器（第 119 図 490 ～ 492）

土器は 3 点図化しているがいずれも小片で、490・492 が床面付近、491 が埋土中からの出土である。492 は小型器台で裾部に円形の透かし孔がみられ、残存する内外面全てに赤色顔料の塗布がみられる。

石器（第 222 図 2223 ～ 2226）

南側周壁沿いの中央より西側で大型の砥石 (2223) が出土している。磨製石鏃 3 点（2224,2225,2226）は埋土中の出土であり、いずれも未製品である。

1 拡 -S410

遺構（第 23 図）

調査区中央、S91 の西に位置し、S409 に切られる。北西側を失っているが、長軸約 3.7m、短軸約 2.9m の長方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。検出面から床面まで 10cm 前後しかなく、S409 の床面より 10cm ほど高い。ピットや土坑は検出されておらず、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 119 図 493）

出土遺物は少なく、493 は口唇部に 1 条の凹線がみられる甕の口縁部で、埋土中からの出土である。

1 拡 -S411

遺構（第 23 図）

調査区中央付近、S404 の南西に位置する。長軸約 3.5m、短軸約 3.2m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。東側周壁寄りの床面では、焼土や炭化物が集中して検出されている。床面上で数基のピットが検出されているが、いずれも床面から 10cm ほどの深さであり、主柱穴は不明である。

なお、図化を要する遺物は出土していない。

1 拡 -S443

遺構（第 23 図）

調査区中央やや南側、S292 の南西に位置し、S420 に切られる。長軸約 6.0m、短軸約 5.3m の長方形を基本とする平面プランで、南西・北東周壁中央には突出壁がみられる。この突出壁から南東周壁にかけて長軸 3.5m、短軸 3.0m の長方形土坑状に床が低くなっており、その周囲はかなり南東に寄ったロの字形ベッド状を呈する。床は地山土による貼床で、ベッド状の床は西側隅角周辺が一番高く、その他の部分は 10cm 程低い。長方形土坑状の落ち込みはさらに 10cm ほど低いが、この四隅にあるピットが主柱穴と考えられる。その他、住居に伴う遺構として、東側隅角付近に楕円形土坑がみられた。

遺物

土器（第 119 図 494 ～ 497）

土器は 4 点図化しているが、496 が床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。なお、図化していないが、頸部に一対の円形孔を有する短頸壺の小片や口縁部に櫛描波状文を有し、下位の擬口縁口唇部に二条の凹線がみられる土器片が出土している。

石器（第 223 図 2227）

南東側主柱穴傍で石包丁 (2227) が 1 点出土したのみである。

1 拡 -S491

遺構（第 24 図）

調査区中央西側、S531 の北東に近接し、S548 に切られる。長径約 7.0m、短径約 6.2m の楕円形プランを呈し、2 ヵ所に明確な突出壁を有する。床は地山土による貼床で、周壁に沿って幅 1.2m のベッドの床が南に開口する C の字形に回っている。このベッド状の床に囲まれた低い床との境界付近にある 8 基のピットが主柱穴と考えられ、その中央には 2 段掘りの楕円形土坑がみられる。

遺物

土器（第 119 図 498 ～ 501）

土器は 4 点を図化しているが、501 が南西側ベッド状遺構床面付近から、その他は埋土中からの出土である。500 は鋤先状を呈する口縁部外面を肥厚させ、口唇部に連続山形文が施されており、内面には中央がやや窪んだ楕円形浮文が 3 個みられる。

石器（第 223 図 2228）

住居中央の土坑の北側で 50cm を超える大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土した。また、南西沿いの周壁付近で磨石 (2228) と図化はしていないが最大長 20cm 程の小型の台石が出土している。

1 拡 -S521

遺構（第 25 図）

調査区中央西側、S491 と S570 の間に位置し、S573 に切られる。長軸約 8.0m、短軸約 7.0m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。住居の中央から南東側周壁寄りには長軸約 3.8m、短軸約 3.2m の長方形土坑状に床が落ち込んでおり、その周囲は 1 段高いベッド状を呈する。この土坑状の落ち込みの北西側中央付近は、更に北西に 1 辺 1.2m の方形状の落ち込みが連続している。また、落ち込みの中央付近は円形状に硬化がみられ、その中央に長軸 1.5m の細長い楕円形土坑がみられる。南西側周壁の中央付近及び南側隅角付近にも楕円形の土坑がみられ、北側隅角付近には焼土が堆積した円形土坑がみられた。周壁沿いには一部途切れる部

分もあるが、ほぼ全面に壁溝が回っており、南西側周壁の中央付近では、この壁溝が内側に屈曲して台形状の空間を形成している。主柱穴は1段低い長方形土坑状の落ち込みの四隅付近にある4基のピットと考えられる。

遺物

土器（第119図502～506）

土器は5点を図化したが、505は西側角、506は北東側周壁に近いベッド上から、503は方形状の落ち込みの東角寄り、504は落ち込み内の土坑中から、502は北側主柱穴埋土中からの出土である。505の底部には木葉の圧痕がみられる。506の底部には径1mmほどの穴が空いているが、意図的なものか判断できない。

石器（第223図2229～2234）

石器は北東角付近の土坑傍で敲石(2231)、南東角で磨石（2229)、北西角で打製石斧（2233)、南東側壁帯溝の中央付近で敲石(2230)が出土した。また、図化はしていないが、南東側周壁の中央付近で最大長20ｃｍほどの小型の台石が出土している。石包丁(2232)と砥石(2234)は埋土中の出土である。

鉄器（第272図2848）

2848は埋土中から出土した棒状を呈する鉄製品の一部で、上方の断面形はややいびつな長方形、下方の断面形は方形に近い。

1拡-S548

遺構（第24図）

調査区中央西端、S161の西側に位置し、S491を切る。北西側が調査区外まで延びているため全体形が明らかでないが、南西側周壁約5.4m、南東側周壁約5.5m、北東側周壁6ｍ以上を測り、北西側周壁がやや斜め方向に延びていることから、台形に近い平面プランと予想される。床は地山土による貼床で、南東側周壁から住居中央にかけて台形状に床が低く落ち込み、その周囲がコの字形のベッド状を呈する。この落ち込み内の南東側周壁中央付近には2基の土坑がみられる。北西側周壁寄りにも不整形な土坑が検出されているが、調査区外まで延びているため不明である。主柱穴の認定も困難だが、住居の四隅付近にある4基と想定される。

遺物

土器（第119・120図507～527）

508・509・515・516・518・521が北西側の不整形土坑周辺、510・526が東側角付近、522が南側角付近の床面上から出土している。511は台形状の落ち込み床面付近、507・512～514・517・519・520・523は落ち込み埋土中からの出土である。514は壺の肩部で、全周する二条の沈線に弧状に下垂する二条沈線がみられ、外面には赤色顔料が塗布されている。515は平底の鉢で、胴部外面の一部に浅い線刻がみられる。

石器（第223図2235～2239）

石器は南東側周壁のやや西側で敲石(2236)、南東側の落ち込みより台石（2235）, 石包丁（2238）, 磨石(2237)が出土した。住居中央よりやや西側で大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土している。石包丁(2239)は埋土中の出土である。

1拡-S570

遺構（第25図）

調査区南西側、S531の南西に位置し、S770に切られる。長軸約4.4m、短軸約3.8mの長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。周壁沿いには一部断絶がみられるが、壁溝が回っている。主柱穴は長軸方向と平行に並ぶ2基とみられ、住居の中央付近の床面上からは炭化材や焼土の堆積が検出されている。その炭化材2点について年代測定を実施した結果、1860±20年BP、1830±20年BPの年代値が得られた。

遺物

土器（第120図528～531）

土器は4点図化しているが、528は北東側角付近、531は東側周壁に近い土坑の肩付近、その他は埋土中からの出土である。なお、528は頸部以下が完形であり、口縁部は人為的に破砕された可能性が高い。

石器（第223図2240～2241）

石器は、住居中央で敲石(2240)、南東側周壁中央付近で鉄銹の付着した敲石(2241)が出土している。

鉄器（第272図2849・2850）

2849は東側周壁寄りにある土坑埋土中から出土した鉈で身部を欠く。刃部は完存しており、鎬と裏スキがみられる。存存する身部には湾曲はみられず、平板な板状を呈する。2850は炭化材除去後に

床面付近から出土したもので、何らかの工具と考えられる。茎部は側面を鍛打により整えられ、断面長方形状を呈するが、上位には刃部がみられ、断面台形状を呈する。

1 拡 -S580

遺構（第 25 図）

調査区中央やや南側、S443 の北西に位置し、S736、S737 に切られる。長軸約 4.5m、短軸約 4.0m の長方形プランを基本として、北側周壁中央が山形に張り出している。東側周壁南半から南側周壁沿いは床が 1 段高く、幅 20 ～ 50cm の L 字形の棚状を呈する。また、北側周壁中央の山形の突出部分から北東側角付近も床が 1 段高くなっている。南側周壁沿いの棚状を呈するテラスには 3 基の土坑状の落ち込みがみられる。主柱穴は長軸方向に並ぶ 2 基とみられ、その間やや南寄りに楕円形土坑が伴う。その他、東側周壁寄りには 3 基の土坑がみられ、北東側角の棚状テラスにも土坑が伴う。なお、前述した S736・737 については調査時点で別遺構とされているが、同一遺構の一部である可能性も考えられる。

遺物

土器（第 120・121 図 532 ～ 551）

床面から浮いた状態で多くの土器が出土しているが、西側の主柱穴周辺 (532・534・538・539・544・545・549・551) と北東角付近 (533・536・540・542・543) からの出土が多い。546 は南側のテラス、547 は南東角付近、535・541・548・550 は埋土中からの出土である。

石器（第 224 図 2242 ～ 2245）

石器は、北東角の周壁沿いで敲石 3 点 (2244,2245 の 2 点を図化)、台石 2 点（遺構図内に出土状況を図化）が出土している。東側周壁中央付近で石包丁（2242）、南側周壁中央付近の埋土中で砥石 (2243) が出土している。

1 拡 -S609

遺構（第 26 図）

調査区南東側、S298 の南東に位置し、2-S3336 を切る。 1 辺約 6.2m の方形に近い平面プランを呈し、床は地山面を利用している。床面では小規模なピットが数基検出されているのみで、主柱穴は判然としない。北半部を中心に多くの炭化材が検出されており、焼失住居と考えられる。

遺物

土器（第 121・122 図 552 ～ 570）

土器は炭化材よりもかなり浮いた状態で広範囲から出土しており、埋没過程で投棄された可能性が高い。なお、図化している土器の大半は中央から南東側周壁にかけての地点から出土している。564 は高坏の坏部で、上半の外面には縦方向のミガキによる暗文がみられる。565 も高坏の坏部で、破断面の内外面に焼成以前の補修とみられる粘土が張り付いている。568 は鋤先状を呈する高坏の口縁部で、埋土中からの出土であり、切り合い関係にある 2-S3336 に伴う可能性がある。569 は埋土中から出土した舟形土製品である。上に図示したものは舳（船首）～船央部にかけての破片で、船央部の横断面は緩やかな U 字形を呈する。舷側の船縁を水平にすると、船底の中央の縦断面は船尾方向へわずかに低くなる。舷側の船縁は船央付近のみ粘土を貼り足して肥厚させているが、舳付近には肥厚がみられない。また、舳の先端は水平な船縁から上方に屈曲して山形に突出する。船内には何らの構造もみられず、船内床は船底よりもやや水平に近い。下に図示した破片は艫（船尾）部分の破片と思われる。わずかに残る船底と舷側の境界には稜がみられる。残存状態が悪いが、艫は直線的に断ち切られた戸立のような構造で、現在のボートに近い印象を受ける。なお、船底からこの戸立状の艫部よりも下位には、突出部がみられる。570 は杓子形土製品で、柄部分は欠損しているが、斜め上方に延びるとみられる。

石器（第 224 図 2246 ～ 2254）

石器は、住居北西角付近で台石 2 点（遺構図内に出土状況を図化）と磨石 1 点が出土した。北東側角で敲石 (2247)、西側周壁中央付近で石錘 (2246)、南側周壁中央付近の土器群に混ざって石包丁 (2253)、住居中央付近では石包丁 (2252,2254)、チャートの剥片（2248）が出土。南西角付近で、同種の剥片（2249,2250）が埋土中を含めて 15 点確認されたが、縄文時代の遺物混入の可能性が高い。石包丁 (2251) は埋土中の出土である。

鉄器（第 272 図 2851 ～ 2853）

埋土中から鉄片が 3 点出土している。2851 は一部が鍛打により棒状に整形されたものである。

2852 は薄い板状、2853 は三角形状を呈する。

1 拡 -S610

遺構（第 26 図）

調査区南東端、3 次 B 区との調査区境に位置し、4-S84 に切られる。長軸約 4.2m、短軸約 3.8m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。南側周壁の西半は破壊されている為不明だが、残存する周壁沿いには壁溝が回っている。主柱穴は短軸方向と平行する 2 基とみられ、その間には不整形で浅い落ち込みがあり、炭化材の堆積が検出された。この炭化材 3 点について年代測定を実施した結果、1770 ± 20 年 BP、1700 ± 20 年 BP、1735 ± 25 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 122 図 571 ～ 574）

土器は 4 点を図化したが、571 は 4-S84 との境界付近、573 は北側周壁に近い地点、574 は東側周壁沿いの壁溝上から出土しており、572 は北側と南側周壁沿いに離れて出土したものが接合している。

石器（第 225 図 2255 ～ 2257）

石器は、住居北東角で磨石 (2257)、北側周壁中央付近で砥石（2256）と図化をしていない台石が 5 点出土した。また、住居南東角で大形の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土している。磨製石鏃（2255）は埋土中の出土である。

1 拡 -S622

遺構（第 26 図）

調査区南西、S570 の南に位置する。1 辺約 3.0m の方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。中央に不整形な土坑がみられ、その土坑を挟んで南北に 2 基のピットがみられるが、床から 15cm ほどの深さしかなく、主柱穴として認定するには躊躇される。規模が小さく、遺構の性格も住居でない可能性もある。

遺物

土器（第 123 図 575 ～ 579）

土器は 5 点図化したが、577・578 が北側周壁沿いで出土し、その他は埋土中からの出土である。

石器（第 225 図 2258）

石器は、貼床掘削中に石包丁 (2258) が出土したのみである。

1 拡 -S790

遺構（第 27 図）

調査区南西端、S622 の西に位置する。長軸約 4.0m、短軸約 3.3m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。主柱穴は長軸方向に平行する 2 基とみられ、その間には東側周壁に向かって延びる長軸 1.0m の楕円形土坑がみられる。

遺物

土器（第 123 図 580 ～ 582）

土器は 3 点を図化しているが、580・582 は床面上の広範囲から出土した破片が接合しており、581 は埋土中からの出土である。581 は底部外面に桃核状の凹凸がある圧痕がみられ、ドーナツ状の平底を呈する。

石器（第 225 図 2259）

石器は床面直上では出土していない。砥石 (2259) は埋土中の出土である。

1 拡 -S820

遺構（第 27 図）

調査区中央南端付近、S609 の北西に位置し、S1016 を切る。長軸 4.2m、短軸 3.6m の長方形プランを基本とし、東～北側周壁の一部が 20cm ほど外側に張り出している。このＬ字状の張り出し部分は長方形の竪穴部よりも 30cm ほど床が高い棚状となっており、4 基のピットがみられる。長方形の竪穴部の床は地山土による貼床で、主柱穴は東西の周壁中央付近にみられる 2 基と考えられる。

遺物

土器（第 123・124 図 583 ～ 603）

床面からやや浮いた状態で多くの土器が出土している。特に、583 ～ 585・589 と 588・591 ～ 593・596 は、それぞれまとまって出土している。工具ナデによる器面調整や器形等、比較的一括性が高い資料と思われる。594 は接点しないが、S-580 出土の 544 と同一個体の可能性が高い。

石器（第 225 図 2260）

図化はしていないが中央よりやや北東側で小形の台石が出土したのみである。砥石 (2260) は埋土中の出土である。

1 拡 -S1016

遺構（第 27 図）

調査区中央南端、3 次 B 区との調査区境界付近に位置し、S820 に切られる。北東側周壁の大部分を失っているが、長軸約 6.7m、短軸約 6.2m の長方形プランと考えられ、床は地山土による貼床である。北を除く各隅角付近は床が 1 段高い不整形な棚状のテラスがみられ、そのテラスの周壁沿いには壁溝が設けられている。主柱穴は長軸方向と平行に並ぶ 2 基とみられ、南と東のテラスに挟まれた低い床の部分には 2 基の楕円形土坑がみられる。床面上からは多くの炭化材が検出されており、焼失住居と考えられる。この炭化材 2 点について年代測定を実施したところ、1840 ± 20 年 BP、1870 ± 25 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 124 図 604 ～ 614）

土器は 12 点を図化しているが、604 は北西側周壁中央付近沿いと南テラス上から出土している。605 は中央やや南東寄り、606 は中央やや北西寄り、609 は西テラスの南西側周壁との落ち際、611 は南東側周壁中央やや東寄り、612 は西テラスの西角付近の床面上からの出土で、その他は埋土中からの出土である。埋土中から出土している 613･614 は、切り合い関係にある土坑 S1038 に伴う可能性がある。なお、613 は内外面に赤色顔料の塗布がみられる。

石器（第 225 図 2261 ～ 2269）

石器は、住居中央に台石（遺構図内に出土状況を図化）と石包丁（2269）が出土した。南東角の落ち込み付近で磨石（2261,2262）、石包丁 (2267) が出土した。南側周壁中央付近の土坑傍から石包丁（2266）、打製石斧 (2264) が出土した。西側周壁中央付近で打製石斧 (2263)、南西角の落ち込み傍で石包丁 (2268) が出土している。磨製石鏃 (2265) は埋土中の出土である。

鉄器（第 272 図 2854）

2854 は埋土中から出土した三角形状の薄い鉄片で、刀子の可能性も考えられるが、刃部が明瞭でない。

土坑

1 拡 -S17

遺構（第 20 図）

調査区北東側、S5 の南西に近接し、S38 を切る。長軸 1.2m、短軸 80cm、検出面からの深さ 15cm ほどの浅い楕円形状の土坑である。

遺物

土器（第 124 図 615 ～ 617）

土器は 3 点図化しているが、いずれも埋土中からの出土で、隣接する S16 の埋土中から出土した土器と接合している。

石器

図化はしていないが、トレンチ掘削中に埋土中で石包丁を 1 点確認している。

1 拡 -S59

遺構（第 28 図）

調査区中央東側、S22 の北東に位置し、S45 を切る。長軸 1.0m、短軸 70cm の楕円形状の平面プランで、検出面からの深さは約 20cm である。

遺物

土器（第 125 図 618 ～ 619）

2 点を図化したが、いずれも埋土中からの出土である。

1 拡 -S101

遺構（第 21 図）

調査区の北西側、S105 の中央付近を切るかたちで掘削されている。長軸 3.7m、短軸 3.0m 程の隅丸長方形状の土坑で、中央から南側にかけて 1 段低い 2 段掘り状を呈する。高い部分は地山を床面とし、低い部分は貼床であった可能性があるが、検出状況があまり良好で無く、不明である。床面上や周囲に多くの深いピットがみられるが、この遺構に伴うものなのか判断できない。周囲のピットを含め、竪穴建物の一部であった可能性も考えられるが、後述する馬具が本遺構に伴うものであれば建物と時期に隔たりが生じるため、単独の土坑として扱っておく。

遺物

鉄器（第 272 図 2855）

2855 は埋土中から出土した円環鏡板付轡である。図中左側の円環鏡板はややいびつで、鍛接したと思われる部分で折れている。右側の円環鏡板にも折れ

た部分がみられるが、そこ以外に端部を斜めに切って鍛接した痕跡がはっきりと確認できる。両円環鏡板には立聞は見られないが、左側に２か所、右側に１か所の有機質が付着した部分がみられることから、面繋と手綱が直接鏡板に連結されていた可能性がある。銜は二連で、右銜はＴ字成形技法による丁寧な鍛接が用いられているのに対し、左銜は蕨手技法による粗雑な成形の上、環部が直交するまで捻られていない。このように、左右で成形技法に大きな差がみられることから、左銜は当初の金具が破損したため、後から補填された可能性も考えられる。

1 拡 -S115

遺構（第 21 図）

調査区北西側に位置し、S105・108・116 に切られる。他遺構による切り合いのため判然としないが、東西 2.2m 以上、南北 2.5m 以上で、平面形は隅丸楕円形プランと思われる。床は地山面を利用しており、数基のピットがみられるが、この遺構に伴うものであるか不明である。

遺物

土器（第 125 図 620　～ 621）

620 は上げ底気味の平底を呈する壺で、床面付近からの出土、621 は平底の底部で埋土中からの出土である。

石器

図化はしていないが、底面で最大長 18cm 程の小型の台石が 1 点出土している。

1 拡 -S116

遺構（第 21 図）

調査区北西側に位置し、S115 を切り、S105 に切られる。長軸 2.7m、短軸約 70cm の長楕円形状の土坑で、床は地山面を利用している。

遺物

土器（第 125 図 622）

622 は埋土中からの出土で、S491 から出土している 500 と同一個体の可能性がある。

1 拡 -S169

遺構（第 22 図）

調査区北西側、S161 の北東に位置し、S344・347 を切る。長軸 2.4m、短軸 2.1m 程の長方形プランを呈する。床は地山土による貼床で、北半部に隅丸長方形状の土坑が伴う。

遺物

土器（第 125 図 623 ～ 631）

土器は９点を図化しているが、全て北半部の隅丸長方形状の土坑付近の出土で、いずれも土坑基底からかなり浮いていた。しかし、出土状況から、ある程度一括性が高い遺物群と考えられる。

石器

石器は、土坑内に 40cm を超える尾鈴山酸性岩類の台石（遺構図内に出土状況を図化）が 1 点出土している。

1 拡 -S189

遺構（第 28 図）

調査区北西側、S161 の北東に位置し、S354・357 に切られる。 1 辺約 1.2m の方形プランとみられるが、他遺構や撹乱により判然としない。この遺構周辺は S177・354・357・568 等の多くの土坑による切り合いと判断されているが、竪穴住居の埋土の部分的な相違を別遺構と認定した可能性が考えられる。

遺物

土器（第 126 図 640 ～ 644、第 127 図 660）

S189 自体に伴う遺物は無く、ここでは周辺の切り合い関係とされている遺構内出土の遺物について述べておく。

640･642 は S354 の埋土中､641 は S354 内のピット内、643・644 は S357 の埋土中、660 は S568 の埋土中から出土している。

石器（第 226 図 2271）

石器は、S357 の床面付近から磨石 (2271) が出土している。

鉄器（第 272 図 2856 ～ 2858）

埋土中から３点の鉄器が出土している。2856 は反りがみられ断面Ｖ字型の鏃身部と、側面の鍛打により表裏面が窪んだ茎部を有する骨鏃形鉄鏃とみられる。73 は側面の鍛打によって断面長方形に整えられた茎部からやや湾曲気味の薄い身部を有する鉄器で、刀子もしくは何らかの工具の可能性がある。2858 は鏃身上半と茎部先端を欠損した圭頭鏃とみられ、茎部分には口巻きとみられる繊維の一部が残存している。

1 拡 -S202

遺構（第 20 図）

調査区北東側、S38 の南側隅角付近に位置し、S38 を切るとされているが、伴う可能性もある。幅が最大で 1.8m 程の五角形状の平面プランで、S38 の床面からの深さが約 30cm を測る。床は地山面を利用している。

遺物

土器（第 125 図 632 ～ 638）

７点を図化しているが、635 ～ 637 は土坑の床付近からの出土であるが、633・634・638 は S38 の床面付近から出土しており、632 は S38 の埋土中からの出土である。

1 拡 -S420

遺構（第 23 図）

調査区南側、S292 の南西に位置し、S443 を切る。長軸 1.7m､短軸 1.5m の楕円形を呈する土坑で、床は地山土による貼床である。S443 の床面からの深さは約 30cm を測る。

遺物

土器（第 126・127 図 645 ～ 659）

土器は床面上から多量に出土しており、完形近くまで復元されるものも多く、ある程度一括性が高い資料と考えられる。653・654・658 はほぼ完形に近い状態で出土している。645 は内外面共にハケメ調整後に工具ナデ、口縁部内面には縦方向の細かいミガキが施されており、他の甕と比べると丁寧に製作されており、プロポーションも異なる。646 は小片だが、頸部に羽状の刻目が施された貼付突帯を有する。653 はほぼ完形の二重口縁壺で、口縁部外面には鋸歯文が施されているが、鋸歯文の同一区画内に異なる方向の線刻がみられる。655 は壺の底部とみられ、底部外面に木葉の圧痕を有する。659 は完形に復元される高坏で、坏部中位内面には明瞭な段がみられるが、外面に段はみられず、１条の沈線が施されている。また、脚柱部に８箇所、裾部に５ヵ所の円形透孔がみられるが、脚柱部の透孔は位置や配置が不規則である。

石器（第 226 図 2273 ～ 2276）

石器は､底面で石包丁（2273)､磨石 (2275,2276)、敲石 (2274) と、図化はしていないが小型の台石が３点出土している。

1 拡 -S752

遺構（第 25 図）

調査区中央やや南側、S443 の西に位置し、S580 を切る。長軸約 1 m、短軸約 70cm の楕円形プランで検出面からの深さは約 6cm と浅いが、北端に深さ 12cm の小穴がみられる。

遺物

土器（第 127 図 661）

661 は埋土中から出土したもので器種・器形ともに不明瞭だが、外面に上位に櫛描波状文、下位に二段の小さな竹管文がみられる。

1 拡 -S770

遺構（第 25 図）

調査区南西側、S531 の南西に位置し、S570 を切る。径約 80cm の円形状を呈する平面プランで、S570 の床面からの深さは約 15cm を測る。床は地山面を利用しており、床付近の埋土についてフローテーションを実施し、そこで採取された炭化物の年代測定を行った結果、1695 ± 25 年 BP という年代値が得られた。S570 に伴う土坑の可能性も考えたが、年代測定値に大きな開きがみられたため、ここでは切り合う遺構として扱っておく。

遺物

石器（第 226 図 2277・2278）

土器は出土しておらず、基底面から台石（2278）と石包丁（2277）が出土している。

1 拡 -S781

遺構（第 26 図）

調査区南西側、S622 の北側に位置し、S778・783 に切られる。１辺約 2.2m の方形プランで、検出面からの深さは約 20cm を測る。床は地山面を利用しており、中央からやや北側寄りに径 80cm、深さ 5cm の浅い円形土坑が伴う。

遺物

土器（第 127 図 662 ～ 664）

土器は３点図化しているが、いずれも埋土中からの出土であり、石器は出土していない。

1 拡 -S783

遺構（第 26 図）

調査区南西側、S622 の北側に近接し、S781 を

切り、S787 に切られる。長軸約 1.9m、短軸約 1.5m の隅丸長方形状の平面プランで、床は地山面を利用しており、検出面からの深さは約 70cm を測る。

遺物

土器（第 127 図 665 ～ 668）

土器は 4 点図化しているが。全て床からかなり浮いた状態で出土している。

石器

図化していないが、埋土中から敲石 1 点と台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土している。

1 拡 -S796

遺構（第 26 図）

調査区南西側、S622・783 に近接し、S782 に切られる。長軸約 1.7m、短軸約 90cm の隅丸長方形状の平面プランで、床は地山面を利用しており、検出面からの深さは約 50cm を測る。

遺物

土器（第 127 図 669）

669 は下城式の甕で、埋土中からの出土である。

1 拡 -S971

遺構（第 25 図）

調査区中央やや南側、S752 の西に近接し、S580 に切られる。長軸約 90cm、短軸約 70cm の隅丸長方形プランで、検出面からの深さは約 15cm を測る。

遺物

土器（第 127 図 670）

670 は壺の口縁部で、埋土中からの出土である。

1 拡 -S980

遺構（第 28 図）

調査区南側、S1016 の北側に位置する。長軸約 3.7m、短軸約 3.0m の隅丸長方形状の平面プランで、南西側周壁中央から土坑中央にかけて床が 20cm 程低く、その周囲がベッド状を呈する。床は地山面を利用しており、検出面からの深さはベッド部分で 10cm 前後しか無い。土坑の内外には多くのピットがみられ、本来、竪穴建物跡であった可能性がある。

遺物

土器（第 128 図 671 ～ 677）

土器は 7 点図化しているが、いずれも低い床面部分からやや浮いた状態で出土している。677 は大型の壺で、胴部中位に最大径を持ち、その上下に各二条と頸部に一条の断面が三角形の貼付突帯を有する。その形態から大分地域との関係が伺われる。

石器（第 226 図 2279・2280）

石器は、中央の一段低い床面の北側で磨石 (2280)、南西側で磨製石斧 (2279)、北西側で台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土している。

1 拡 -S1013

遺構（第 28 図）

調査区中央南側、S980 の東側に近接する。長軸約 90cm、短軸約 70cm の隅丸長方形状の平面プランで、検出面からの深さは約 20cm を測る。床には２基の小穴があり、東側のものが床から約 50cm、西側のものが床から約 15cm の深さである。分布位置や出土遺物の時期から、S980 と関係の深い遺構と考えられる。

遺物

土器（第 128 図 681）

681 は下城式の甕口縁部で、埋土中からの出土である。

1 拡 -S1038

遺構（第 27 図）

調査区南東側、S980 の南西に位置し、S1016・1040・1041 に切られる。現存部分で長軸 2.6m 以上、短軸約 2.3m、検出面からの深さ 15cm を測り、隅丸長方形状の平面プランと考えられる。

遺物

土器（第 128 図 678 ～ 679）

土器は 2 点図化しており、678・679 ともに埋土中からの出土である。679 は壺の口縁部から頸部で、口縁部下外面に縦方向のミガキによる暗文がみられる。

石器

図化はしていないが、底面で最大長 25cm 程の台石が出土している。

1 拡 -S1040

遺構（第 27 図）

調査区南東側、S980 の南西に位置し、S1016・1038・1041 を切る。長軸 125cm、短軸約 95cm、検出面からの深さ 5cm 程度の楕円形状の平面プラ

ンを呈する。

遺物

土器（第 128 図 680）

680 は鉢で、床面からやや浮いた状態で出土している。

その他の遺物

土器（第 126 図 639・第 128 図 682 ～ 684）

土器では 639 が Gr. ア 30 にある小穴 S239 から、682 が Gr. ア 29 にある小穴 S606 の埋土中から出土した下城式の甕口縁部である。683 は Gr. ア 29 の包含層中から出土した甕の口縁部で、口唇部上端をつまむようにヨコナデし、その後、内面に横方向のハケメ調整を施している。胎土や焼成・色調が若干在地の土器と異なる印象を受ける。684 は口縁部の一部を除いてほぼ完形の杓子形土製品で、柄はやや斜め上方に延びる。

石器（第 226 図 2281・2282）

石器では Gr.B30 にあるピット S802 の底面から出土した柱状片刃石斧（2281）と、Gr.A31 で出土した磨製石鏃（2282）を図化している。

3　二次調査区

竪穴建物跡

2-S4

遺構（第 29 図）

二次調査 1 区中央やや北側に位置する。長軸約 4.5m、短軸約 3.7m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。床面上から複数のピットを検出しているが、主柱穴は判然としない。なお、住居の中央やや北寄りの床面は径約 80cm の円形に焼けており、この焼土をサンプリングしてフローテーションを実施したところ炭化種実が採集された。炭化種実は同定の結果アワやヒエ等で、年代測定も実施したところ、1685 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 129 図 685 ～ 692）

685 ～ 688・690・692 は南東側角の床面付近からまとまって出土し、689・691 は埋土中からの出土である。

石器（第 227 図 2283 ～ 2288）

石器は、住居中央の東側ピット傍の土器片溜まりの中から勾玉模造品 (2283)、中央に並ぶピット間で打製石斧 (2287,2288) が出土した。石包丁 (2285) は、住居南東角のピット傍で多くの土器片とともに出土した。石包丁（2286）と不明石器（2284）は、埋土中の出土である。

2-S5

遺構（第 29 図）

二次調査 1 区のやや南側、S7 の南西に位置する。長軸約 4.3m、短軸約 3.2m の長方形プランの貼床が検出されたもので、北・西側周壁には突出壁らしき痕跡もみられた。主柱穴は長軸方向に平行する 2 基とみられ、中央から東側の主柱穴寄りの床面は径 50cm ほどの円形に焼けていた。

遺物

土器（第 129 図 693 ～ 696）

土器は 694 が西側主柱穴に近い床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。

石器

石器は、図化はしていないが、東側主柱穴傍の焼けた床面よりもやや中央で小型の台石が 1 点出土した。その他の石器は出土していない。

2-S7

遺構（第 29 図）

二次調査 1 区中央付近に位置し、南東側が調査区外まで延びているが、長軸 5.8m、短軸 5.2m の長方形プランとみられる。南側周壁中央から住居中央に向かって床が 1 段低く、他の周壁沿いがコの字形のベッド状を呈すると思われる。床は地山土による貼床で、床面から複数のピットを検出しているが、主柱穴は判然としない。北東隅角付近には長軸 1.1m、短軸 60cm の楕円形土坑がみられる。

遺物

土器（第 129・130 図 697 ～ 704）

697 はやや大型の甕で北側周壁中央に近い床面上から潰れたような状態で出土した。701 のドーナツ状を呈する甕の底部と 703 の鉢はコの字形のベッド状遺構に囲まれた低い床面部分から、704 の壺

は南側周壁沿いに並ぶ西側の小穴直上から、698・699・702 は南西角付近の埋土中から出土している。

石器（第 227 図 2289・2290）

石器は、住居南西角で敲石（2289）、南側周壁中央の一段低い床から敲石 (2290) が出土した。その他、床面直上で数点の礫を確認しているが、石器は認められない。

2-S9

遺構（第 30 図）

二次調査 1 区北側、S4 の北東に位置する。南東側が調査区外まで延びているが、長軸約 8.5m、短軸約 7.5m の長方形プランを基本として、北側周壁に東半が約 50cm 外側へ張り出すと考えられる。この張り出している部分を含む住居の北東は長軸 4.5m、短軸 3.8m の長方形状に床が低い空間となっている。床は地山土による貼床で、主柱穴は調査区外も含めて 4 基と予想されるが、南側を除く各主柱穴間にやや規模の小さなピットがみられ、上屋構造との関連が考えられる。

遺物

土器（第 130 図 705 ～ 719）

遺物は北半部、特に北東の一段低い区画内から多く出土している。707 は北東側の張り出す周壁中央付近沿いからまとまって出土している。708 は北東角にある土坑内から、717・719 はその周辺から出土している。ただし、717 は坏部の上半が完全接合でき、北西角付近から出土したものなど、広範囲から破片が出土している。700・709・711・718 は北東区画内、713 は北西角付近、その他は埋土中からの出土である。711・712 は在地的な胎土だが、器形や器壁の薄さなど、搬入品を模倣したものと考えられる。713 の有孔鉢、714 は小型器台とみられるが、これらも模倣品の可能性が高い。

石器（第 227・228 図 2291 ～ 2296）

石器は、住居中央の主柱穴間で砂岩の砥石 (2291) が出土した。また、住居の北東角付近でも、同様の砂岩の砥石 (2293 ～ 2296) が出土している。その他、図化はしていないが北東角で打製石斧が 1 点出土している。磨られた痕跡のある軽石（2292）は埋土中の出土である。

鉄器（第 273 図 2859）

2859 は細い板状を呈する鉄片で、埋土中からの出土である。

2-S13

遺構（第 30 図）

二次調査 1 区北側、S9 の西に隣接する。西半が三次調査 C 区に延びていたが、風倒木等の攪乱により確認されておらず、5-S33 との切り合い関係も判然としない。残存部の状況から、南北に長い長方形プランと考えられ、完存する東側周壁は約 3.8m を測る。床は地山土による貼床で、主柱穴は南北方向に並ぶ 2 基と思われる。なお、北・南周壁の外側に近接して土坑がみられるが、その関係は不明である。

遺物

土器（第 131 図 720 ～ 726）

遺構の残存状況が悪かったため、遺物の出土も少ない。722 ～ 725 は床面付近から、その他は埋土中からの出土である。なお、726 の裾部には大きな植物種子と思われる圧痕がみられる。

石器（第 228 図 2297・2298）

石器は、住居北東角で敲石 (2298)、東側周壁の中央付近で砥石（2297）が出土している。その他、図化はしていないが、敲石が北側主柱穴傍で 2 点、小型の台石が中央付近に 3 点と北東角に 1 点出土している。

2-S2001

遺構（第 31 図）

二次調査 2 区南側、3 三調査 B 区との境界に位置し、S2002、S2502、4-S167 に切られる。北半が失われているが、長軸約 5.3m、短軸 4.0m 前後の長方形プランを基本に、南西側周壁中央が約 1.6m の幅で外側に 80cm ほど張り出す。床は地山土による貼床で、主柱穴は判然としない。南東側周壁寄りに浅い楕円形土坑がみられる。

遺物

土器（第 131 図 727）

土器の出土は少なく、727 の二重口縁壺は南東周壁に近い土坑内から出土している。

石器（第 228 図 2299・2300）

石器は、南東角付近で砥石 (2300)、東側周壁中央付近の土坑から大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土した。石包丁 (2299) は埋土中の出土である。

鉄器（第 273 図 2860・2861）

鉄器２点が楕円形土坑埋土中から出土している。2860 は鉈の先端部分で、明瞭な鎬を有する。2861 は柳葉鏃で鏃身の最大径を測る位置に関を有し、茎部下位の断面形は方形状を呈する。

2-S2002

遺構（第 31 図）

二次調査２区南側、三次調査Ｂ区との境界に位置し、S2001、S2003 を切る。長軸約 5.2m、短軸約 5.0m のほぼ方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は東西方向に並ぶ２基と思われ、その中間やや北寄りには円形の土坑がみられる。

遺物

土器（第 131・132 図 728 ～ 741）

土器は 736・740・741 が床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。甕は頸部に明瞭な稜線を有し、外反しながら立ち上がる口縁部で、平底を呈する。高坏は中位の内外面に稜線がみられ、大きく外反しながら開く口縁部を有する。

石器（第 228 図 2301・2302）

石器は、北側周壁の中央付近で砥石 (2301) が出土した。また、図化はしていないが、東側周壁の中央付近と南側周壁の中央付近で、最大長 20cm 程の小型の台石が出土している。石包丁（2302）は埋土中の出土である。

鉄器（第 273 図 2862 ～ 2864）

埋土中から３点の鉄片が出土しており、2862 は細い板状、2863 は板状、2864 は先端が尖った棒状を呈する。

2-S2004

遺構（第 32 図）

二次調査２区南側、S2002 の北東に位置し、S2005 に切られる。南東方向に向かって直線的な周壁が調査区外へ延びており、その規模や平面プランは不明である。床は地山土による貼床で、ピットは検出されていない。なお、床面が S2005 とほぼ同じ高さであり、建て替えもしくは同一遺構の可能性も考えられる。また、床面から少量の炭化材が検出されており、年代測定を実施した結果、1810 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 132 図 742 ～ 746）

検出された範囲は狭いが、多くの遺物が出土している。742・743・746 が床面から、その他が埋土中からの出土である。

石器（第 228 図 2303）

石器は、S2005 との切り合い付近で敲石 (2303) と図化はしていないが小型の台石が出土している。その他、床面直上で数点の礫を確認したが、石器は認められない。

2-S2005

遺構（第 32 図）

二次調査２区南側に位置し、S2004 を切る。東側が調査区外まで延びているため規模は不明だが、完全に検出されている西側周壁は約 3.8m を測り、方形を基調とする平面プランと思われる。床は地山土による貼床で、主柱穴は判然としないが、東西に並ぶ２基の可能性がある。東から住居中央に向かって延びる長方形状の土坑がみられる。また、この土坑の南に近接して、円形に広がる焼土の堆積がみられた。

遺物

土器（第 132 図 747 ～ 749）

遺物は少なく、土器は３点を図化しているが、いずれも床面付近からの出土である。748 と 749 は北西角付近からの出土で、748 は脚付鉢と思われるが、胴部の破断面は人為的に打ち欠いた痕跡がみられる。また、749 は小型丸底鉢的な器形だが、工具によって小さな平底が成形されている。

石器（第 229 図 2304 ～ 2307）

石器は、南側周壁の西側で敲石 (2305)、住居中央の土坑南西角で石錘（2304）、敲石 (2306)、砥石（2307）が出土した。その他、図化はしていないが北東側の３基のピット間で磨石と敲石が１点ずつ、北東角で最大長 17cm 程の小型の台石が出土している。

2-S2006

遺構（第 32 図）

二次調査２区南側、三次調査Ｂ調査区北端西寄り、S17 の東に位置する。長軸約 4.7m、短軸約 3.7m の長方形プランで、南東側集壁の中央に幅 50cm、長さ 70cm の突出壁を有する。床は地山土による貼

床で、主柱穴は長軸方向に平行する２基と思われる。北東側の主柱穴の周りは方形土坑状にやや窪んでおり、径１ｍの円形土坑もみられる。北側周壁の東半を除いて壁溝が巡っている。主柱穴は南北に並ぶ２基で、深さが床から 60cm ほどと深い。床面上にわずかに焼土の堆積がみられた。

遺物

土器（第 132 図 750 ～ 757）

土器は 750 が東角の土坑内、753・757 が中央、754 が北東周壁沿いの床面付近から出土し、その他は埋土中からの出土である。

石器（第 229 図 2308 ～ 2310）

石器は、竪穴中央付近で打製石斧（2309）と敲石（2310）、南側角付近で石錘（2308）、住居北東側の方形土坑状の窪み内にある円形土坑内で台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土している。

2-S2009

遺構（第 32 図）

二次調査２区南側、S2001 の南東に位置する。北東側周壁の大半が調査区外にあるが、1 辺約 6.2m の隅丸方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。主柱穴は 4 基とみられ、南東側周壁寄りに数基のピットや土坑がみられる。床上には周壁寄りを中心に焼土塊や焼土混じりの埋土の堆積がみられた。

遺物

土器（第 132・133 図 758 ～ 766）

土器は 758 ～ 760・764・766 が南東側主柱穴周辺から出土しており、このあたりに遺物が集中していた。761 は南西側周壁沿い、765 は北側角付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。

石器（第 229 図 2311・2313）

石器は、南東側主柱穴の北側傍で台石（2312）、東側調査区肩の中央付近で軽石（2313）、住居内土坑より敲石 (2311) が出土した。

鉄器（第 273 図 2865 ～ 2867）

2865 は床面付近から出土した鉄片で、形態的に 2862 や 2864 と類似している。2866・2867 は埋土中から出土した鉄片で、2866 は二又状を呈する。

2-S2010

遺構（第 33 図）

二次調査２区中央、S2016 の南に位置する。南東側が調査区外に延びているが、１辺約 7.0m の方形プランとみられる。床は地山土による貼床で、南東周壁に向かって開口するコの字形のベッド状を呈する。主柱穴はベッド状遺構と低い床の落ち際にあるピットと考えられ、４基の可能性が高い。床面上から焼土や炭化材が検出されており、炭化材２点について年代測定を実施した結果、1710 ± 20 年 BP、1735 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 133・134 図 767 ～ 776）

土器は埋土中から多量に出土し、埋没過程で土器の廃棄場所として利用されたとみられる。床面付近の出土状況では概ね３ヵ所に集中がみられ、767 が西角のベッド上、768 が北角のベッド上、769・772・776 がベッドに囲まれた低い床部分から出土しており、それ以外は埋土中の出土である。

石器（第 230 図 2314 ～ 2321）

石器は、ベッド状遺構下の低い床面上から台石（遺構図内に出土状況を図化）、石包丁（2316）、打製石斧 (2321)、磨石 (2317) が出土した。また、西側周壁沿いで敲石（2319,2320）、石包丁 (2314) が出土している。磨り面のある小型の台石（2318）はベッドの落ち際にある北側ピットから出土した。石包丁（2315）は埋土中の出土である。

鉄器（第 273 図 2868）

2868 は埋土中から出土した鉄片で、棒状を呈する。図化していないが、埋土中から板状の鉄片も１点出土している。

2-S2014

遺構（第 33 図）

二次調査２区北寄り、S2017 東に隣接する。貼床面が検出されたもので、住居の大半は調査区外へ広がっていたため規模は不明だが、方形を基調とした平面プランと思われる。床面からは炭化材が検出されている。遺物は土器の小片が出土しているのみであるが、この時期の遺構として扱っておく。

2-S2016

遺構（第 33 図）

二次調査２区中央付近、S2010 の北に位置する。長軸約 3.6m、短軸約 3.1m の長方形プランで、床

は地山土による貼床である。主柱穴は短軸方向と平行する２基とみられ、床面からの深さは 50cm 前後を測る。床面上から複数の炭化材が検出されており、１点について年代測定を実施したところ、1750 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 134・135 図 777 ～ 791）

埋土中から多くの遺物が出土しているが、破片の残りが良好なものは建物廃絶後の埋没過程で投棄された可能性が高い。埋土中から出土した 777 ～ 780 は小片であるが、781 ～ 791 よりも明らかに古い様相を呈する。781・782・784・787・790 は主柱穴よりも西側の埋土中、785・786・789 は北側の主柱穴上から東側にかけての埋土中から近接して出土している。783 東側周壁中央に沿う地点からほぼ完形で出土した口縁部や胴部が著しい楕円形を呈する甕で、長径側で図化している。

石器（第 230・231 図 2322 ～ 2327）

石器は、住居中央よりやや東側で大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土している。北側周壁中央付近に磨石（2323,2325）、東側周壁中央付近で磨石 (2324)、大型の砥石（2327）、南東角で敲石（2326）が出土している。石包丁 (2322) は埋土中の出土である。

2-S2017

遺構（第 34 図）

二次調査２区北側、S2014 の西に近接する。長軸約 6.5m、短軸約 6.2m の方形に近い平面プランを基本に北側周壁中央と南側周壁西端に幅約 2.0m、奥行き約 50cm のほぼ同規模の張り出しを有する。南側周壁の中央から住居の中央に向かって床が低くなっており、周囲の床はベッド状を呈している。この窪みと南側の張り出しは突出壁によって区画されている。床は地山土による貼床で、主柱穴は方形に回る４基とみられるが、南北の周壁沿いにも主柱穴と同じ幅で対を成すピットがみられ、このピットも上屋構造との関連が考えられる。住居の東側主柱穴間と南東隅角付近には円形の土坑がみられる。住居中央の窪みには円形状に薄く堆積した焼土も検出されている。

遺物

土器（第 135 図 792 ～ 798）

遺物は全体的に南側周壁寄りに集中していた。

土器は 792 が南西角、793・797・798 が床が低い部分の突出壁に近い南西側、794 がその東側の角、795・796 は南東角の土坑内からの出土である。

石器（第 231 図 2328 ～ 2336）

石器は、南側周壁の中央付近で砥石（2329）を含むたも石の一群（遺構図内に出土状況を図化）が出土し、その周囲で石包丁 (2331)、敲石 (2328,2332,2333)、石錘（2334,2335,2336）が出土している。図化はしていないが住居中央で小型の台石が出土している。石包丁（2330）は埋土中の出土である。

鉄器（第 273 図 2869）

2869 は埋土中から出土した楔のような形状の鉄片で、先端は欠損しており、屈曲している。図化していないが、この他にも埋土中から小さな棒状鉄片と板状の鉄片が出土している。

2-S2512

遺構（第 34 図）

二次調査２区南側の調査区が東に突出する部分の東端で部分的に検出されたもので、大半が調査区外にあるため、方形基調の平面プランということ以外、詳細は不明である。北西側周壁沿いに長軸約 70cm の楕円形土坑がみられる。

遺物

土器（第 135 図 799 ～ 801）

土器は３点を図化した。799・801 は床面付近から、800 は埋土中からの出土である。799 は甕の口縁部から頸部で、口唇部には浅い凹線文？がみられ、頸部の貼付突帯には羽状文を意識したような刻目が施されている。

石器（第 231 図 2337）

石器は、北西側周壁沿いの土坑で磨石 (2337) が１点のみ出土している。

2-S3001

遺構（第 35 図）

二次調査３区中央付近、S3004 の西に位置し、1-S22 を切る。長軸約 7.0m、短軸約 6.6m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。住居中央から南側周壁中央に向かって幅約 2.0m、長さ 4.5m に渡って床が低く、その周りの床はコの字形のベッ

ド状を呈している。ただし､西側周壁沿いの床は北･東側周壁よりも１段高くなっている。主柱穴は方形に並ぶ４基とみられ、低い床の部分にも数基のピットがみられる。床面上から複数の炭化材が検出されており、３点について年代測定を実施したところ、1690 ± 20 年 BP、1730 ± 20 年 BP、1715 ± 20 年 BP の年代値が得られた。

遺物

土器（第 135 ～ 137 図 802 ～ 838）

土器は出土地点が集中しており、803・806・808 ～ 810・812・813・816・817・819・824・825・827・828・831・832・835・836 は北側に並ぶ主柱穴周辺から低い床面の落ち際周辺にかけて出土している。その他、822 が南西側のベッド上から出土し、その他は埋土中からの出土である。823 は口唇部に凹線文が施された甕の口縁部で、埋土中からの出土である。825 は高坏で、脚部には裾部と脚柱部に２個１組とする未貫通の竹管文が四方に施されており、裾部には細く浅い沈線による線刻がみられる。826 はドーナツ状の平底を呈し、底部中央が焼成以前に穿孔された有孔鉢とみられる。

石器（第 232 図 2338・2339）

石器は、住居のほぼ中央で台石が２点、(遺構図内に出土状況を図化) 出土している。その他、図化していないが小型の台石２点を確認している。埋土中より出土した砥石（2339）は、先端部と破断面を除き全面が砥面の砂岩の巨礫であり、器面に鉄錆が付着する。磨製石鏃 (2338) も埋土中の出土である。

2-S3004

遺構（第 34 図）

二次調査３区中央、S3001 の東に位置する。東半が調査区外まで延びているため規模は不明だが、方形基調の平面プランとみられ、西側周壁が 4.2m を測り、北側周壁に張り出しを有する。床の大半は地山利用だが、一部貼床で、中央が方形土坑状に一段低い。周壁沿いは全てベッド状を呈し、張り出し部分が他のベッド部分よりも 10cm ほど高い。主柱穴は低い床部分で１基検出されており、２基となる可能性が高いと思われる。炭化材について年代測定を実施した結果、1745 ± 25 年 BP の年代値を得ている。

遺物

土器（第 138 図 839 ～ 845）

土器はいずれも埋土中からの出土で、石器は出土していない。843・844 は別個体の甕と思われるが、器壁が薄く、胎土等も在地の土器と異なることから搬入品と考えられる。845 は中実で脚台状を呈する甕の底部とみられ、胎土に多くの雲母を含む。

2-S3007

遺構（第 35 図）

二次調査３区南端に位置する。残存部分で長軸 5.7m、短軸 4.2m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。主柱穴は短軸方向と平行に並ぶ２基もしくは、竪穴外のピットも上屋構造と関連する可能性がある。後述する S3008 とは調査時点で別遺構の切り合いとされているが、床レベルも殆ど変わらず、連続する同一遺構の可能性も考えられる。

遺物

土器（第 138 図 846・847）

土器は少なく、847 は埋土中から、846 は北西側の小穴の東側から横倒しの状態で出土している。

石器

石器は、図化はしていないが、住居ほぼ中央で、最大長 15cm 程の小型の台石が１点出土したのみである。

鉄器（第 273 図 2872）

2872 は S3007 の北側に近接する S3018 埋土中から出土した有茎腸抉柳葉鏃で、一方の逆刺を欠損している以外残存しており、茎には樹皮による口巻きもみられる。

2-S3008

遺構（第 35 図）

二次調査３区南端に位置し、S3007 の西に連続する。長軸約 6.0m、短軸約 4.8m の長方形プランを基本に西側周壁の大半が西に１ mほど張り出す。床は地山土による貼床で、主柱穴は短軸方向と平行な２基の可能性が考えられるが、S3007 と同様に竪穴外のピットも上屋構造と関連する可能性がある。

遺物

土器（第 138 図 848 ～ 855）

848・849 が西側主柱穴の北側床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。851 は壺の胴部から底部で、胴部外面に線刻がみられる。

石器（第 232 図 2340・2341）

石器は、北側周壁中央付近で敲石 (2340)、住居中央で石錘 (2341) が出土している。

2-S3009

遺構（第 36 図）

二次調査 3 区南側、S3011 の南西に位置し、S3010 に切られる。長軸約 5.7m、短軸約 5.5m の方形に近い平面プランで、床は地山土による貼床である。住居中央の床が方形土坑状に一段低く、周壁沿いがロの字形のベッド状を呈する。ただし、西側周壁沿いのベッド部分は他のベッド部分よりも 10cm ほど高い。主柱穴は中央の低い床部分に東西に並ぶ 2 基とみられ、その中間やや南側には土坑もみられる。

遺物

土器（第 138 図 856 ～ 862）

856・857・862 がコの字形ベッドの北側周壁中央付近、861 が西側の 1 段高いベッドの南西側床面上、859 が東側主柱穴内からの出土で、その他は埋土中からの出土である。特に 856 はほぼ完形に復元できるほど破片が残存しており、横倒しに潰れた状態で出土している。860 は山ノ口式の甕口縁部とみられ、胎土には多くの雲母を含む。

石器（第 232 図 2342）

石器は、床面直上では出土していない。磨製石鏃 (2342) は埋土中の出土である。

2-S3010

遺構（第 36 図）

二次調査 3 区南側、S3336 の東に位置し、S3009 を切る。平面プランは長軸約 4.4m、短軸約 3.4m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は判然としないが、西側隅角付近に円形土坑がみられる。

遺物

土器（第 139 図 863 ～ 866）

土器の出土は少なく、863 が床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。

石器（第 232 図 2343 ～ 2347）

石器は、住居の中央やや東側で台石 (2347) が出土している。その他、南側周壁中央付近で磨石（2346）と小型の台石、北側周壁中央付近で石包丁 (2345) と小型の台石が出土している。石包丁 (2343,2344) は埋土中の出土である。

2-S3011

遺構（第 37 図）

二次調査 3 区南側、S3009 の北東に位置し、S3012 を切り、S3014 に切られる。長軸約 6.2m、短軸約 5.2m の長方形プランを基本として、北側周壁中央が幅 2.3m、奥行き 50cm ほど外側に張り出し、その両端には突出壁がみられる。床は地山土による貼床で、南側周壁中央から住居中央にかけて床が 1 段低く、その周囲が南に開口するコの字形のベッド状を呈する。主柱穴はこの低い床部分を囲むように配置された 4 基とみられ、南側周壁沿いには 4 基の土坑がみられる。

遺物

土器（第 139・140 図 867 ～ 874）

870 は北東角に近い東側周壁添い、871 はコの字形ベッドに囲まれた低い床面上、867 は低い床面の南側周壁添いに並ぶ西側の土坑上、874 がその土坑埋土中、872 が真ん中の土坑上、869 が東側土坑中からの出土である。なお、埋土中から出土した 873 と 868 は S3010 出土土器と接合している。874 は器種不明の土製品で、図の左側は人為的に破砕されているため全体の形状も不明である。土坑の床面付近から 2349 の磨石や細長い礫と並ぶように出土している。

石器（第 233 図 2348 ～ 2353）

石器は、南側周壁沿いの最も東の土坑から磨石（2349）と砥石 (2353)、隣接するピットから磨石 (2348)、西から 2 番目の土坑から磨石（2352）が出土した。南東角付近で砥石 (2350) と敲石（2351）が出土した。その他、図化はしていないが、東側周壁近くで敲石 3 点と小型の台石が 2 点出土した。

鉄器（第 273 図 2870・2871）

2870 は埋土中から出土したもので、非常に細く薄いが、先端が尖り、その両側面は刃部状を呈していることから、何らかの工具とみられる。2871 は埋土中から出土した柳葉鏃である。

2-S3012

遺構（第 37 図）

二次調査 3 区南側、S3009 の北東に位置し、S3011、S3014 に切られる。全体の規模や形状は不明だが、隅角がみられることから、方形基調の平面プランと考えられる。床は地山土による貼床で、ピット等は検出されていない。

遺物

土器（第 140 図 875 ～ 877）

土器は 4 点図化したが、いずれも床面付近からの出土で、S3014 埋土中の遺物と接合している。

石器（第 233 図 2354）

石器は床面直上での出土は無い。石包丁 (2354) は埋土中の出土である。

2-S3014

遺構（第 37 図）

二次調査 3 区南側、S3011 の北東に位置し、S3010、S3012 を切る。大半が調査区外に延びているため、規模や形状は不明だが、検出されている北西側周壁は約 3.6m を測り、方形基調の平面プランと考えられる。床は地山土による貼床で、ピットは検出されていない。

遺物

土器（第 140 図 878 ～ 882）

土器は 4 点を図化しているが、いずれも埋土中からの出土である。

石器

石器は、図化はしていないが、北東角で敲石が 1 点のみ出土している。

2-S3015

遺構（第 38 図）

二次調査 3 区北側、1 拡 -S5 の南東に位置する。長軸約 5.9m、短軸約 4.4m の長方形プランを基本として、南西・北西側周壁中央付近に長方形の張り出しを有する。南西側のものは幅 1.6m、奥行き 1.1m、北西側のものは幅 2.0m、奥行き約 1.2m で、共に竪穴部よりも床面が 10cm ほど高く、土坑が伴う。竪穴部の床は地山土による貼床で、張り出しがみられる北西・南西周壁沿いには幅 30cm、深さ 10cm 程の壁溝がみられる。主柱穴は長軸方向と平行に並ぶ 2 基とみられ、その他、南東側周壁の両端及び中央に沿って 4 基のピットがみられる。

遺物

土器（第 140 図 883 ～ 890）

土器は北東側周壁沿いの床面付近から 884・885・886・888 が出土しており、その他は埋土中からの出土である。886 は小型の鉢で平底を呈するが、その中央に桃核状の圧痕がみられ、ドーナツ状の平底となっている。

石器（第 233 図 2355）

石器は、住居の南東角で大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土したほか、北東角のピットから打製石斧（2355）と敲石が出土している。

2-S3334

遺構（第 36 図）

二次調査 3 区中央西寄り、S3001 の南西に位置し、1 拡 -S22・70 に切られる。長軸約 4.1m、短軸約 3.3m の長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。南東周壁中央から住居中央にかけて床が長方形状に窪んでおり、その周囲は南東に開口するコの字形のベッド状を呈する。南東側周壁中央付近では、竪穴外に沿って 2 基のピットがみられ、竪穴内にも土坑が伴う。主柱穴は長軸方向に平行する 2 基とみられ、南側隅角付近にはピットがみられる。また、南東側周壁北半から北東側周壁沿いには壁溝がみられる。

遺物

土器（第 141 図 891 ～ 894）

土器は 4 点図化したが、いずれも埋土中からの出土である。892 は高台状の上げ底を呈する底部で、胎土や焼成が在地のものと異なる。

石器（第 233・234 図 2356 ～ 2361）

石器は、住居南東のベッドの落ち込みで大型の砥石（2361）、磨石 (2357)、打製石斧未製品（2360）が出土している。剥片（2356）は、東側角の壁溝から出土した。磨製石鏃 2 点 (2358,2359) は埋土中の出土である。

2-S3335

遺構（第 36 図）

二次調査 3 区南側、S3010 の北に位置し 1 拡 -S298 に切られる。西半を大きく失っているため不明瞭だが、残存部の状況から、長軸約 4.7m、短軸

約 3.0m の長方形プランと思われる。床は地山土による貼床で、主柱穴は長軸方向と平行な２基とみられる。

遺物

土器（第 141 図 895 ～ 899）

土器は東側主柱穴の周辺床面付近から 895・897 ～ 899 が出土しており、896 は埋土中からの出土である。

石器（第 234 図 2362・2363）

石器は、東側周壁中央付近で敲石 (2363) と図化はしていないが小型の台石が出土している。磨製石鏃（2362）は埋土中の出土である。

2-S3336

遺構（第 37 図）

二次調査３区南側、S3010 の西に位置し１拡 -S609 に切られる。西側を大きく失っているが、東側周壁が約 5.0m を測り、方形基調の平面プランと考えられる。床は地山面を利用しており、床からの深さ 50cm ほどのピットが１基検出されているが、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 141 図 900）

土器の出土は少なく、900 は埋土中からの出土である。

石器（第 234 図 2364 ～ 2366）

石器は、一次拡張区の S609 との切り合い近くで確認されたピットから磨石が１点のみ出土したが、図化はしていない。磨製石鏃（2364）、磨石 (2365)、石包丁 (2366) はいずれも埋土中の出土である。

掘立柱建物

2-S3000

遺構（第 39 図）

二次調査３区北側、S3015 の東に位置する。梁行柱間は３間で東側が約 4.3m、西側が約 4.7m、桁行柱間は５間で約 6.0m を測る。梁行の柱間隔は約 1.3 ～ 1.6m 、桁行の柱間隔は約 0.9 ～ 1.2m と梁行の柱間隔の方がやや広い。また、梁行柱間の中間にある２基の柱穴は、東西共に軸線よりもやや外側に掘られており、やや胴張り状を呈する。柱穴に囲まれた内側には梁行方向に約 5.0m、桁行方向に約 3.5m、深さ 10cm 程の地山土による貼床がみられた。

なお、S3015 の東角の小穴は S3000 の棟持柱の柱穴である可能性も考えられる。

遺物

土器（第 141・142 図 901 ～ 908）

土器は 903 が貼床中からの出土で、それ以外は床面上からの出土である。遺物の多くは貼床の北西側角付近から出土している。なお、902・905・906・908 は S3015 の埋土中から出土した破片と接合している。また、904 は S3015 に加えて S3003 の埋土から中出土した破片とも接合している。904 の壺は胎土に白色砂粒、908 の大甕は胎土に雲母を多く含んでおり、他の土器と異なる。

石器（第 234 ～ 236 図 2367 ～ 2377）

石器は、北西角の遺物が集中する地点で、台石（2377）、磨石 (2367)、敲石（2375,2376）、磨製石斧（2370）、打製石斧 (2369)、二次加工剥片 (2372)、棒状の不明石器（2371）が出土した。また、北東側角で敲石３点（2368,2373,2374）が出土している。

2-S3501

遺構（第 39 図）

二次調査３区北側、S3000 の北に位置し、S3502 に切られる。この建物は棟持柱を有し、梁行柱間は３間で約 4.0m、桁行柱間は４間で約 5.2m を測る。梁行の柱間隔は約 1.2 ～ 1.4m、桁行の柱間隔は 1.0 ～ 1.8m とばらつきが大きいが、梁・桁行ともに 1.2 ～ 1.4m の柱間隔が多い。また、梁行柱間の中間にある２基の柱穴は、東西共に軸線よりもやや外側に掘られており、やや胴張り状を呈する。

遺物は出土していないが、S3000 との構造的な類似や分布状況から、この時期の遺構として扱っておく。

2-S3502

遺構（第 38 図）

二次調査３区北側、S3000 の北に位置し、S3501 を切る。梁行柱間は２間で約 2.0m、桁行柱間は３間で約 3.8m を測る。梁行の柱間隔は約 1.0m、桁行の柱間隔は 1.0 ～ 1.6m とばらつきが大きい。

遺物は出土していないが分布状況等からこの時期の遺構と考えられる。

2-S3503

遺構（第 40 図）

二次調査 3 区北側、S3000 の南に位置し、SB2004 に切られる。梁行柱間は 4 間で約 3.6m、桁行柱間は 4 間で約 5.0m を測る。ただし、梁行の中央の妻柱間の距離は約 5.5m ほどである。梁行の柱間隔は約 0.8 ～ 1.0m、桁行の柱間隔は 1.1 ～ 1.5m とややばらつきがみられる。２基の柱穴は、東西共に軸線よりもやや外側に掘られており、やや胴張り状を呈する。

遺物は出土していないが、分布状況等からこの時期の遺構と思われる。

2-S3504

遺構（第 40 図）

二次調査 3 区北側、S3503 の南西に位置し、S3001 に切られる。東側の桁行方向の両角の柱穴は確認されていないが、残存する部分では、梁行柱間は３間で約 3.6m、桁行柱間は 4 間？で約 4.6m を測る。梁行の柱間隔は約 0.9 ～ 1.4m、桁行の柱間隔は 1.0 ～ 1.5m とばらつきが大きい。

遺物は出土していないが、分布状況等からこの時期の遺構としてここで扱った。

土坑

2-S390

遺構（第 41 図）

二次調査 1 区中央やや北寄り、S4 の東、S9 の南側に位置する。長軸約 1.5m、短軸約 1.2m の楕円形プランを呈し、床は地山面を利用しており、検出面からの深さは約 40cm を測る。

遺物

石器（第 236 図 2378）

石器は、底面で打製石斧 (2378) が 1 点のみ出土している。

2-S2003

遺構（第 31 図）

二次調査 2 区南側に位置し、S2003 に切られる。南側を失っているが、残存部の状況から、南北 2.4m 以上、東西約 2.6m、検出面からの深さ約 30cm を測り、長方形の平面プランと思われる。床は地山面を利用しており、床面上で 6 基のピットが検出されている。

なお、図化を要する遺物は出土していない。

2-S2502

遺構（第 31 図）

二次調査 2 区南側に位置し、S2001・2501 を切る。長軸約 1.8m、短軸約 1.3m の隅丸長方形プランを呈し、床は地山土による貼床で検出面からの深さは約 40cm を測る。

遺物

土器（第 143 図 909・910）

土器を 2 点図化したが共に埋土中からの出土である。ただし、909 は頸部から口縁部以外は完存しており、土坑の中央付近で扁平な礫の上に置かれたような出土状態であった。

鉄器（第 273 図 2873）

2873 は断面長方形に成形された鉄器の一部とみられ、埋土中から出土している。

その他の土坑

上記以外に 2 次調査 1 区の S344 周辺の 6 基や 2 次調査 2 区の S2171 ～ 2173 は群を形成しており、３次調査 B 区の 4-S29 他で形成されている土坑群と類似しており、この時期の遺構として分布図上に取り上げておく。

周溝状遺構

2-S3003

遺構（第 41 図）

二次調査 3 区中央東側、S3011 の北東に位置する。大部分は東側の調査区外へ延びているが、外周で直径 5.8m 程の円形を呈すると思われる。調査区境界の断面で確認された掘込面で幅約 1.0m、深さ約 60cm を測る。溝の断面形は逆台形状を呈し、床面はほぼ平坦である。

遺物

遺物はいずれも床面から浮いた状態で埋土中から出土している。

土器（第 143・144 図 913 ～ 927）

915 は他の甕に比べて器壁が薄く胎土も異なっており、その器形的特徴からも瀬戸内地方からの搬入

品と考えられる。925 は壺頸部から底部まで完存しており、破断面の状況から口縁部は人為的に打欠いたものと思われ、何らかの祭祀行為との関係が想起される。926 と 927 は大甕であるが、926 は在地的胎土であるのに対して 927 は雲母を多く含む異なる胎土である。

石器

石器は埋土中で軽石を 1 点確認したのみである。

鉄器（第 273 図 2874）

2874 は埋土中から出土した鉄鏃で、鏃身下部から茎部が残存しており、ナデ関を有する柳葉鏃の可能性が高い。

その他の遺物

土器（第 143・144 図 911・912・928 ～ 931）

911・912 は 2 次調査 3 区の小穴から出土した壺と甕である。928 は高坏の坏部とみられ、胎土や色調等が在地のものとは大きく異なることから搬入品と考えられる。929 は黒髪式の甕口縁部である。930 は壺の肩部で横方向に回る 2 重の沈線に下垂する重弧文を有し、大分地域の壺に類似している。931 は脚付鉢の鉢と脚の接続部分で、脚部には四方に方形の透かしを有する。なお、この土器は、破断面の状況から、鉢部と脚部が人為的に打ち欠かれている可能性が高い。

石器（第 236 図 2379 ～ 2383）

Gr.A24 で石包丁（2381）、Gr. イ 30 で磨製石鏃未製品 (2379)、Gr. イ 31 で管玉（2380）、Gr.C20 で砥石（2382）が出土している。

鉄器（第 273 図 2875・2876）

2875 は Gr.B20 の包含層中から出土した鉄鏃で鏃身の上半を欠くが、身幅の狭い柳葉鏃と思われる。2876 は銅鏃の茎部分で、取り上げられた際のラベルには S253 とあり、遺構埋土中から出土したと考えられるが、残念ながら該当する遺構を特定できない。茎部の側面には 10 面の研磨面があり、ほぼ横に近い方向に研磨されている。茎の先端付近には小さな研磨面が複数みられるとともに、先端の中央には切り離し痕とみられる面が残されている。

4　三次 A 調査区

竪穴建物跡

3-S9

遺構（第 43 図）

２区南側に位置し、S158 に切られる。西・東側が広く攪乱を受けており平面形や規模は不明瞭だが、約 5.5m の間隔で東西に延びる平行な周壁がみられることから、方形を基調とする平面プランと考えられる。北側の周壁には突出壁があり、突出壁から西側には南に向かって 3 m ほど延びるベッド状遺構がみられる。主柱穴は突出壁と一直線上に並ぶ２基とみられ、その中間には 3 つのピットと細長い楕円形土坑が集中している。残存する部分の床は全て貼床であった。

遺物

土器（第 145 図 932 ～ 940）

遺構の残存状況が悪いため、遺物の出土も少ない。土器は 932 と 936 が中央の細長い土坑からの出土で、その他は埋土中から出土している。932 ～ 934 は甕で、図化していないが、いわゆる下城式もみられた。935 ～ 940 は壺で、口縁部が大きくラッパ状に開くものが多く、935 は薄手で内外面に赤色顔料が塗布されている。

石器（第 237 図 2384 ～ 2388）

石器は、住居内のベッド状遺構の落ち際で敲石（2384）、図化はしていないが北側の主柱穴傍で砂岩の扁平な台石が出土している。埋土中から未製品を含む磨製石鏃が 5 点出土しており、そのうち 4 点 (2385 ～ 2388) を図化した。

3-S101

遺構（第 43 図）

３区南側に位置し、長軸約 4.1m、短軸約 3.4m の長方形プランを呈する。東西及び北側周壁に沿って南に開口する「コ」の字型のベッド状遺構を有する。東西のベッド状遺構と 1 段低い中央部との落ち際に主柱穴が 2 基みられる。南側周壁の中央に沿って隅丸方形の土坑が伴う。この土坑内も含め、床は全て地山土による貼床であった。この貼床上に堆積した埋土は地山ブロックや炭化物の混入が少なく、自然に埋没した可能性が高い。なお、土坑内には

床からやや浮いた状態で数点の炭化物が出土しており、年代測定の結果 2185 ± 20 年 BP の年代値を得ている。

遺物

土器（第 145 図 941・942）

遺物は少なく、土器では壺の口縁部を２点図化したが、ともに東側周壁沿いのベッド状遺構床面からの出土である。

石器（第 237 図 2389・2390）

石器は、住居内土坑で砥面のある台石 (2389)、ベッド状遺構の落ち際で磨製石斧 (2390) が出土した。その他、図化はしていないが、ベッド状遺構上から砥石が出土している。

3-S102

遺構（第 44 図）

３区の南側、S-101 の南西２mに位置する。S103 を切り、西側周壁の中央付近を S164 によって切られている。長軸 4.6m、短軸 3.8m の長方形プランで検出面から床面までの深さは約 30cm である。床は地山土による貼床である。主柱穴は長軸に平行する２基で、径は 20cm 程と小さいが深さが 60cm 程ある。主柱穴の中間から南東側周壁に寄った位置に径 60cm、深さ 20cm の土坑がみられる。住居の埋土には炭化材や炭化物を多く含む土層堆積がみられ、焼失住居とみられる。この炭化材の内２点を年代測定した結果、第 44 図中の C1 では 1830 ± 20 年 BP､C9 では 1880 ± 20 年 BP の年代が得られた。なお、炭化物には藁状の物も少量確認されており、植物珪酸体分析を行った結果、メダケ属やイネのプラントオパールが検出された。これらは屋根葺材の可能性が考えられる。また、炭化材や炭化物を多く含む埋土上には 10cm 程の厚さで地山土の堆積がみられたことから、上屋構造に土屋根が採用されていた可能性がある。

遺物

土器（第 145 図 944 ～ 949・952 ～ 956）

遺物は少なく、土器では、948・949・956 が床面から、944 ～ 947・952 ～ 955 は埋土からの出土である。特に、956 はほぼ完形で、底部が上を向いた伏せた状態で、その上に炭化材が覆い被さるような検出状況であったことから、焼失時の原位置を留めている可能性がある。944 ～ 947 は甕で、頸部で稜をなして屈曲するくの字型の口縁部を有し、底部は平底と丸底がみられる。948・949 は壺で、同一個体の可能性がある。954 は未貫通の矢羽根透かしがみられる凹線文系の高坏裾部で、在地系のものとは胎土や色調がやや異なる。

石器（第 237 図 2391）

石器は、床面直上に数点の礫が点在していたが、石器と認められるものは出土していない。石包丁 (2391) は、埋土中の出土である。

3-S103

遺構（第 44 図）

S103 は S102 の北側に隣接して厚さ 10㎝、径 3.7m 程の地山土による不整円形な貼床の痕跡が確認されたものである。本来の形状は明らかでないが、切り合い関係から S102 に先行する住居跡と考えられる。なお、S160 は径 30cm、深さ 30cm の円形の土坑で、この遺構に伴う可能性が高い。

遺物

土器（第 145 図 943・950・951）

検出状況が悪かったが、貼り床土中に多くの土器細片が含まれていた。943 は甕の口縁部で、頸部で稜をなして明確に屈曲する。950 は外面に櫛描波状文が施された二重口縁壺、951 はドーナツ状の平底を呈する壺の底部である。

3-S104

３区の南西に位置し、検出段階で貼床の埋め戻し土が長軸 3.22m、短軸 2.63m の不整長方形の広がりとして検出されたものである。本来の形状は明らかでなく、遺物も土器片が少量出土したにすぎないが、一応、この時期の遺構としておく。

3-S105

遺構（第 43 図）

遺構が密集する３区中央部南側に位置し、S106 を切り、S146 によって切られる。平面形は長軸 5.2m、短軸 4.3m の長方形プランで、検出面から床面までの深さは 30cm 程度である。北半部は地山土によって構築された南側中央が方形に窪む「コ」の字形のベッド状遺構を成す。南半部の床面は地山で、中央は南側周壁から北半のベッド状遺構まで深さ 20cm の逆台形状に窪む。この窪みは南側周壁

に向かって緩やかに傾斜しており、入り口施設の可能性がある。主柱穴は南北の窪みを挟む 4 基とみられ、深さは 30 ～ 40cm である。埋土中に炭化材は見られなかったが、北半部と南半部の窪みに焼土の分布がみられた。

遺物

土器（第 146 図 957 ～ 961）

土器は南半部中央の窪みから 957 の甕、その西側ベッド状遺構上から 958 の壺、南東角付近の床面上から 961 が出土している。959 の壺、960 の鉢は埋土中からの出土である。961 は凹線文が施された裾部と思われる土器だが、胎土や焼成は在地的である。

石器（第 237 図 2392 ～ 2397）

石器は、住居南西角付近で磨石 (2392)、北西角付近で石包丁 (2397)、北東隅角で石包丁 (2395)、東側周壁中央付近で磨石（2393）と台石（遺構図内に出土状況を図化）、砥石 (2394) が出土した。その他、図化していないが敲石 1 点、磨石 2 点が出土している。また、南東角で、たも石 (遺構図内に出土状況を図化)7 点が出土した。紐孔を有する石包丁 (2396) は、埋土中からの出土である。

鉄器（第 273 図 2877・2878）

埋土中から 2 点出土している。2877 は細長い板状の鉄製品で先端部を欠くが、残存する上方には刃部がみられる。2878 は小型の柳葉鏃で茎の先端を欠くが、扁平な茎を有する。

3-S106

遺構（第 45 図）

３区中央部南側に位置し、S105、S107 によって切られる。平面形は直径約 9 m の円形プランで北側に 2 箇所の突出壁を有する。周壁に沿って幅 1 ～ 2 m のベッド状遺構が廻り、その内側は径 6 m、深さ 10cm ほどの円形に床が窪む。この窪んだ部分の中央やや南側には長径 1.5 m、深さ 15cm の楕円形土坑がみられる。ベッド状遺構と中央の落ち込みの境にはほぼ等間隔で環状に並ぶ 10 基の主柱穴があり、深さは床面から 40cm 前後である。また、ベッド状遺構の東側の周壁際では幅 40cm、長さ 3 m、深さ 5 cm ほどの浅い溝が検出されている。床は中央の土坑内を除いて地山土による貼床であった。なお、床面直上で検出された炭化物の年代測定を行った結果、2100 ± 20 年 BP の年代を得ている。また、住居南半部では貼床除去後に環状に巡るピットが検出されており、立て替えもしくは拡張等が行われた可能性がある。

遺物

土器（第 146・147 図 962 ～ 976）

遺物は比較的豊富で、大半は住居の南東側と中央土坑周辺から出土している。962・963・971 の甕は南東側の主柱穴周辺からまとまって出土している。964 の甕は 2 箇所の突出壁に対応する主柱穴間から、967・968 の甕と 974 の壺は中央土坑付近から出土している。970 の大甕は南西側ベッド状遺構上に散在しており、976 の壺は南西側ベッド状遺構の壁溝付近でつぶれたような状況で出土している。

石器（第 238 図 2398 ～ 2408）

石器は、住居中央の落ち込みで、砥石 (2405)、磨石 (2403,2404)、敲石 (2402) が出土した。また、中央落ち込みのやや北側で台石 (2407) が出土。西側周壁傍で砥石 (2406)、南側周壁傍で大型の砥石（2408）が出土。中央よりやや南側の土坑で磨製石鏃 (2398)、図化はしていないが磨石、軽石が出土している。南側の周壁から中央の一段低くなる範囲に多くの礫の混入が確認されているが、その中で磨製石斧 (2401) が出土している。その他、埋土中でも磨製石鏃が 3 点出土しており、そのうち 2 点 (2399,2400) を図化している。

3-S107

遺構（第 46 図）

３区中央部に位置し、S106 を切り、S108 に切られる。S109 とも切り合い関係にあったと予想されるが、S108 によって切り合う部分が完全に破壊されているため不明である。平面形は長方形プランで、現存部で長軸約 5.6m、短軸 5.2m を測る。主柱穴は 4 基で床面からの深さは 60cm 程度である。南側周壁に近い主柱穴間には長軸 1.3m、短軸 90cm、深さ 20cm の土坑が伴う。床面は地山土によって 10 ～ 20cm 埋戻された貼床である。なお、床面直上から屋根の構造材とみられる多量の炭化材が検出されており、焼失住居と考えられる。炭化材の年代測定を実施した結果、1915 ± 20 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 148 図 977 ～ 983）

土器は比較的少なく、竪穴の中央付近を中心に出土している。977 の甕が竪穴中央の台石周辺を中心に出土し、978 は北西周壁中央付近沿いから出土している。981 の鉢は主柱穴間の土坑内及びその周辺、982 の鉢は南東角に伏せた状態で検出されている。980 の壺は南側周壁中央沿い、980 の鉢は南西側主柱穴付近からまとまって出土している。なお、979 の甕は南西隅角付近で周壁を切る小穴内からまとまって出土したもので、本遺構よりも後出するものと考えられる。

石器（第 238・239 図 2409 ～ 2420）

石器は、竪穴中央で台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土しており、その周囲で大型の砥石 (2413) と磨石 (2414,2415)、敲石 (2416) がまとまって出土した。そのやや外側で砥石（2410,2417）、敲石 (2419) が出土した。南東角の落ち込みで石包丁 (2412) と砥石 (2409,2411)、北西角付近で台石（遺構図内に出土状況を図化）と敲石 (2420)、南側周壁の中央付近でたも石（遺構図内に出土状況を図化）と敲石 (2418) が出土した。

鉄器（第 273 図 2879 ～ 2881）

東側角に近い位置の床面から 5cm 程度浮いた状態で 3 点の鉄器が出土している。2879 は小型の鍛造有袋鉄斧である。袋部の翼の折り返しが全体に狭く、基部から刃部に向かって細くなる。基部の端部は幅 5 ～ 8mm 程度の幅で外側に折り曲げて二重とし、基部の強化がみられる。刃部は一部欠損がみられるが、2834 と同じ側の刃部が片減りしている。2880 は柳葉鏃で茎を欠くが、口巻の樹皮が残存している。2881 は 2880 の矢柄部で、上端には口巻の樹皮がみられ、内部の有機質は失われ、銹膜が筒状に残存するのみである。

3-S108

遺構（第 44 図）

３区中央部に位置し、S107・109 を切る。長軸 3.96m、短軸 3.16m を測る長方形プランで、北西・南西の周壁中央付近に深さ約 30cm の主柱穴が 2 基みられる。床は 10 ～ 20cm 程度埋め戻された貼床であるが、貼床の用土の大半が S107・109 の埋土であったため、多量の炭化物が混入していた。床面は中央が浅いすり鉢状に窪んでおり、中央に長軸 1.2m、短軸 60cm の楕円形に薄く広がる焼土の堆積がみられ、その上には北半部を中心に炭化物を多く含む黒色土の堆積がみられた。炭化材の出土はわずかだが、焼失住居の可能性が考えられる。床面付近から検出された炭化物の年代測定を行った結果、1905 ± 20 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 148・149 図 984 ～ 1001）

床面全面に散らばるようなかたちで多くの土器が出土している。広範囲で接合しているものも多いが、南西及び北東側角付近にやや集中する傾向がみられた。甕は平底もしくはやや丸底気味の平底で、口縁部に最大径をもつものと胴部中位から上位に最大径をもつものがみられる。996 ～ 1001 は高坏で、坏部はいずれも中位から外反気味に立ち上がり、内面に段がみられるが、器形にやや時期差が感じられる。また、999 の坏部外面の上半には鋸歯文を意識したような沈線文がみられる。高坏の裾部にはハの字状に開くものと内湾するものがみられる。

石器（第 239 図 2421・2422）

石器は、北東角付近で台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土したほか、中央やや北西側で磨製石鏃 (2421) が出土した。また、貼床の中から磨製石鏃 (2422) が出土している。

3-S109

遺構（第 46 図）

３区中央部に位置し、S108 に切られる。長方形プランとみられ、現存部で長軸約 5.3m、短軸 4.9m を測る。北西部が失われているため判然としないが、北西側周壁沿いはベッド状遺構と思われる。南東側周壁の中央から住居の中央に向かって幅 2 m 長さ 2.5m 程土坑状に床が低くなっており、その低い部分が幅 1 m 程で南西の周壁まで続くとみられる。この落ち込みに隣接して、東角には長軸 2.3m、短軸 1.5m、深さ 30cm ほどの土坑がある。南隅角には 1.5m × 1.3m の狭いベッド状遺構があり、その上面に 1 辺 1 m、深さ 10cm ほどの方形の土坑がみられた。床は地山混合土による貼床である。主柱穴はベッド状遺構と低い床との境界にある 2 基と考えられるが、北西側周壁の中央付近にあるピットと南東側周壁の外側にあるピットは主柱穴の主軸とほ

ぼ直交する位置関係にある。また、南東側周壁外には等間隔で並ぶ２基のピットもあり、住居の上屋構造と何らかの関係があると思われる。南東側周壁から続く１段低い床面上から比較的大きな炭化材と藁状の炭化物が検出されており焼失住居の可能性が高い。藁状炭化物は植物珪酸体分析を行い、S102 と同様にメダケ属のプラントオパールが検出された。また、炭化材を年代測定した結果、1835 ± 20 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 149 図 1002 ～ 1008）

遺物の出土量は総じて少なく、土器は７点を図化したが、大半が埋土中からの出土であり、鉢類が多い。

石器（第 240 図 2423 ～ 2427）

石器は、北東側周壁中央付近で磨石 (2427)、剥片 (2425)、住居中央付近の落ち込みよりやや浮いた状態で磨製石鏃 (2423) が出土している。また、図化はしていないが中央付近で砥石、北西側周壁中央付近のピット東側で小型の台石が２点出土している。磨製石鏃 (2424) と研磨された棒状の石器 (2426) は、埋土中の出土である。

鉄器（第 274 図 2882）

2882 は薄い２枚の鉄片が密着した状態のもので、上位は切断されたような断面を呈する。

3-S110

遺構（第 45 図）

３区中央部西寄りに位置し、他遺構との切り合いはみられない。平面形は１辺約 4.4m の方形である。主柱穴は中心からやや北西に寄った２本で、深さ約 60cm を測る。主柱穴の間からやや南西に寄った位置に２つの土坑が伴う。床は全面が地山土による貼床である。床面直上には縦横に組み合わさった状態の炭化材とその炭化材に向かって斜め向きに倒れたような炭化材及び多量の焼土が検出されたことから、焼失住居の可能性が高い。炭化材の年代測定結果では、1855 ± 20 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 150 図 1009 ～ 1022）

土器は竪穴中央（1012、1019）、南側隅角付近（1011、1013、1015、1016）、東側角付近（1014、1017、1018、1021）、西側主柱穴周辺（1009、1010）の４箇所に集中がみられ、特に南側角の集中が著しい。甕は平底で口縁部に最大径をもつものが多く、浅鉢は口縁部を断面三角形状に肥厚させている。

石器（第 240・241 図 2428 ～ 2437）

石器は、南西側周壁付近で砥石 (2432) と敲石 (2434) を含む、たも石の一群 (遺構図内に出土状況を図化) と石包丁 (2436) が出土した。東側角の土坑傍で鉄錆の付着した大型の砥石 (2433)、土坑内からは砥石 (2429) と敲石 (2435) が出土した。また、南側角で尾鈴山酸性岩類の大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土しているほか、南側主柱穴傍の土坑から大型の砥石 (2431) と敲石 (2428) が出土した。その他、西側角で砥石 (2430) と、図化はしていないが小型の台石２点が出土している。石包丁 (2437) は埋土中の出土である。

鉄器（第 274 図 2883 ～ 2885）

北西側周壁寄りの床面から 7cm ほど浮いた埋土中（ただし、炭化材よりも下）から３点の鉄鏃がまとまって出土している。2883 は五角形状の鏃身部で茎が無く、基部が山形に窪んで逆刺を成す。先端から側面の刃部に平絹とみられる繊維が付着している。2885 は鏃身部の中位に逆刺を有し、基部が山形に窪んで逆刺を成す二段逆刺鏃とみられる。残存する下位の逆刺に平絹とみられる繊維が付着している。2885 は柳葉鏃の鏃身部が折れ曲がって銹着したと思われるもので、折損部の幅が異なるため、同一個体かどうか不明である。これら３点の鉄鏃は重なった状態で出土しており、平絹の袋もしくは布に包まれた状態であった可能性が考えられる。

3-S112

遺構（第 47 図）

３区南側西寄りに位置し、S144 と切り合い関係にあったと予想されるが、検出した状況で削平が著しかったため、前後関係は不明である。平面形は長軸 5.74m、短軸 3.52m を測る長方形である。東西及び北側壁面に沿って床面が一段高く、南に向かって開口する「コ」の字形のベッド状遺構がみられる。南側壁から中央に向かって落ち込む部分を挟んでベッド状遺構上に深さ約 40cm の２本の主柱穴がみられる。この落ち込みの床面直上には炭化物が泥状になった層が薄く堆積し、その上に焼土と炭化材

が堆積していた。また、炭化材や焼土は西側のベッド状遺構の床面上にもみられ、この住居も焼失住居の可能性が高い。なお、床面は貼床ではなく、地山面を利用している。炭化材の年代測定結果では、1750 ± 20 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 150 図 1023 ～ 1027）

土器は少なく、1024 は南側周壁中央付近、1026 は北西側周壁中央付近、1025 は中央付近の床面上から出土し、1023・1027 は埋土中からの出土である。

石器（第 241 図 2438 ～ 2442）

石器は、北側周壁の中央付近から砥石 (2440)、北西角の炭化材下から石包丁 (2441)、南西角で磨石 (2439)、東側主柱穴の傍で尾鈴山酸性岩類の大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土した。南東角で出土した石包丁（2442）は削平によって S144 との切り合いが不明瞭の位置にあり、S144 の遺物である可能性も残る。磨製石鏃 (2438) は、埋土中の出土である。

3-S113

遺構（第 47 図）

３区南部東側、S103 の北東に位置し、S151 を切る。検出段階で北側の床面や周壁を削平されていたが、平面形は長軸約 6m、短軸約 5.5m の長方形プランとみられる。南側周壁中央から幅約 1.8m・長さ 3.5m に渡って床が一段低く、南側周壁から 40cm ほど内側に長径 85cm・短径 60cm、深さ 10cm の楕円形土坑がみられる。この落ち込みの周囲の床は周壁に沿って「コ」の字形のベッド状遺構を成す。床面は全て地山土による貼床であったと思われるが、北側は削平により地山の露出している部分もあった。主柱穴はベッド状遺構上に 4 本で、床面からの深さは 50cm 以上あったとみられる。落ち込み内の床面直上には炭化物を多く含む薄い黒色土がみられ、その上に焼土や炭化材が堆積していた。西側のベッド状遺構上にも焼土の堆積がみられ、この住居も焼失住居の可能性が高い。炭化材の年代測定結果では、1730 ± 20 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 150 図 1028 ～ 1030）

遺構の残存状況が悪かったため、遺物の出土は少ない。1028、1030 は南東側周壁添いの土坑周辺からの出土で、1029 は貼床中から出土している。

石器（第 241 図 2443）

石器は、南側周壁中央付近の落ち込みから敲石 (2443) が出土したのみである。

3-S114

遺構

３区南側、S154 の西側に位置する。攪乱や削平によって平面形等は明らかではないが、現地調査時には長軸約 7 m、短軸約 5 m の長方形で 2 本の主柱穴を有すると想定された。この範囲の中に、地山土による貼床面と考えられる硬化面が 2 面確認されたので、立て替えもしくは異なる住居の切り合いが存在していた可能性が高い。また、S115 に類似した幅の狭い「コ」の字型のベッド状遺構を有していた可能性もある。

遺物

土器（第 151 図 1031 ～ 1033）

遺構の残存状態が悪かったため、遺物の出土も少ない。1031 は北側周壁中央付近、1033 は中央付近、1032 は貼床中から出土している。

石器（第 241 図 2444 ～ 2447）

石器は、上方の貼床硬化面上で磨石 (2444) と磨製石鏃 2 点 (2445,2446) が出土した。赤色頁岩製の磨製石鏃 (2447) は、下方の硬化面中に埋まった状態で出土した。

3-S115

遺構（第 48 図）

３区北側に位置し、S124 の西に隣接する。平面形は長軸 7.26m、短軸 5.58m の長方形で、東・北・西の壁面に沿ってベッド状遺構が巡っている。ただし南側壁面付近は攪乱や削平を受けていたため、ベッド状遺構が南側壁まで延びてコの字形となっていたのか不明である。中央部の床面はベッド状遺構から 10㎝ほど低く、長軸に平行する深さ 70㎝の主柱穴が 2 基みられる。床は全面が地山土による貼床である。炭化材の年代測定結果では、1730 ± 20 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 151 図 1034 ～ 1038）

遺構の残存状況が悪かったため、遺物の出土は少ない。1034・1035 は北東隅角付近の小穴中から、その他は埋土中からの出土である。

石器（第 241 図 2448 ～ 2451）

石器は、周壁付近の床面直上で、北西角付近で敲石 (2451) と磨製石斧 (2450)、南東角付近で磨製石鏃 (2448)、東側周壁中央付近で磨製石斧 (2449) が出土した。

3-S116

遺構

３区北側に位置し、S131 の北西に隣接する。長軸約 5.5m、短軸約 4.5m の長方形の範囲に地山土による貼床の痕跡やその上面に遺物や炭化物のひろがりが検出されている。ベッド状遺構はみられず、方形に並ぶ 4 基の主柱穴が検出されている。この主柱穴の北・南側から焼土や炭化材が多く検出されており、焼失住居の可能性が高い。北・南側で検出された炭化材について年代測定を実施した結果、北側のもので 1840 ± 20 年 BP、南側のもので 1875 ± 20 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 151 図 1039 ～ 1041）

遺構の残存状況が悪かったため、遺物の出土は少なく、大半は東半部から出土している。1039 は南東側主柱穴内からの出土で完形に近く復元されるほど破片が残存している。1040 は鉢、1041 は円形の透かし孔を有する高坏の裾部で、いずれも床面付近からの出土である。

石器（第 242 図 2452 ～ 2454）

石器は、住居東側に残存する床面直上から磨石 (2452,2453)、敲石 (2454) が出土した。図化はしていないが、礫器と打製石斧を床面直上で取りあげており、削平による縄文時代の遺物が混入したものと思われる。

鉄器（第 274 図 2886）

2886 は鉄鏃の頸部とみられ、断面は長方形状を呈する。この他、図化していないが、埋土中から小鉄片が 1 点出土している

3-S117

遺構（第 48 図）

３区中央部東側に位置し、S158・162 を切る。平面形は長軸約 4.7m、短軸約 4.3m の長方形で全周する壁溝を有する。南側壁中央部から幅約 1.5m・奥行き約 2.5m に渡って床が 1 段低く、その周囲にコの字形のベッド状遺構が巡る。主柱穴 2 基で、 1 段低い床面とベッド状遺構の境界付近にあり、深さは約 50cm を測る。 1 段低い床の南側壁に接する部分は壁溝と接続した不整形な土坑状に落ち込んでいる。床面は全て地山混合土による貼床である。床面直上には北半部を中心に放射状に広がるような状態で炭化材が分布しており、その上には厚さ 10cm ほどの焼土の堆積がみられ、この住居も焼失住居の可能性が高い。炭化材 2 点の年代測定を行った結果、1700 ± 25 年 BP と 1680 ± 20 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 151 図 1042 ～ 1043）

遺物は少なく、土器では 1042 は南東側周壁中央に沿う土坑内から、1043 は南西角付近のベッド状遺構上からたも石と近接して出土している。

石器（第 242 図 2455 ～ 2460）

石器は、住居南西角のベッド状遺構上で、数条の深い線状痕を有する大型の台石 (2457) が出土した。またその周辺に、たも石の一群（遺構図内に出土状況を図化）と、磨り面を有する敲石 (2460) が出土している。磨石は北西角 (2456)、南側周壁中央付近（2458,2459）で出土した。埋土中からは磨製石鏃 (2455) が出土している。

3-S118

遺構（第 48 図）

３区中央部東側に位置し、S156・162 を切る。北西側が大きく攪乱を受けているが、平面形は 1 辺約 3.2m の方形プランとみられる。床は地山土による貼床で、床が残存する部分で柱穴は検出されなかった。また、床面上の埋土には炭化材や焼土の堆積は確認されていない。

遺物

土器（第 151 図 1044 ～ 1050）

土器は目立った集中はみられず、床面付近から疎らに検出されている。1044 ～ 1047 は南角周辺、1048 は西角、1049 は中央、1050 は東角付近から出土している。1046 は鉢の底部とみられ、底部の周縁を人為的に打ち欠いたような剥離がみられる。

1047 も鉢の底部と思われるが、ドーナツ状の平底を呈する。

石器（第 242 図 2461）

石器は、住居のほぼ中央で大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土している。東側周壁の中央よりやや北で磨製石鏃 (2461)、図化はしていないが西側周壁の中央付近で砥石が出土している。

3-S119

遺構（第 49 図）

３区中央部西側に位置し、他遺構との切り合い関係はみられない。直径約９ｍの円形プランを基本として北側に長さ約 4.5m の張り出しを有する。この張り出し部分は幅約１ｍのベッド状遺構(以下､ベッド１）となっており、床面が中央部よりも 10cm ほど高い。ベッド１の東端は壁が突出壁状に窪んでおり、そこからまた別のベッド状遺構（以下、ベッド２）が形成される。ベッド２は東側から西側にかけて住居のほぼ半分に巡っており、中程に区画するような窪みがみられる。この窪みを挟んで東側は幅が約２ｍと広く、ベッド１との境界付近に１辺１ｍ、深さ 10cm の方形の土坑が伴う。主柱穴はベッド状遺構の内側を中心に円形状に巡る８本とみられるが、それ以外に４基の柱穴が検出されている。住居の中央には長径 1m、深さ 20cm の楕円形状の土坑がみられ、埋土中から炭化物や焼土を検出している。この炭化物の年代測定結果として、2115 ± 20 年 BP の年代を得ている。なお、床は貼床ではなく、全面が地山であったが、住居下に縄文時代早期の集石遺構や散礫が存在したため、床面に礫が露出する部分がみられたほか、埋土中にも多量の礫が混入していた。

遺物

土器（第 151・152 図 1051 ～ 1060）

土器は大半が中央の低い床部分内から出土している。1056、1057、1058 は中央の土坑内からの出土で、1058 は内外面に赤色顔料の塗布がみられる。

石器類（第 242・243 図 2462 ～ 2504）

石器は、住居中央よりやや南東側で敲石（2465）と図化はしていないが台石が出土した。床面直上および埋土中から多くの剥片と磨製石鏃が出土している。剥片は 21 点を図化したが、図化していないものを含めてすべて緑色頁岩であり、研磨が施されたものが含まれる。剥片が多く出土した位置は住居中央の土坑内、南側周壁の壁際および北側張り出し部周壁の壁際である。中央の土坑から砂岩製の大型砥石２点（2503 のみ図化)、磨製石斧（2464)、敲石 (2500) が出土し、土坑周辺からも大型の砥石（2501,2502）が出土した。また、遺構内からは未製品を含む磨製石鏃が 17 点(そのうち 12 点を図化）出土しており、住居内における石鏃の製作を伺わせる。磨製石鏃のうち３点 (2466 ～ 2468) のみが赤色頁岩製である。その他､敲石は東側周壁傍 (2504)、北西側周壁傍 (2499) で出土。北側周壁傍で磨製石斧 (2462) が出土している。磨製石斧（2463）は埋土中の出土である。

3-S120

遺構（第 50 図）

３区中央部北側に位置し､S129･165 に切られる。平面形は一辺約７ｍの方形プランで、東側壁面の中央やや北側に幅 30cm、長さ 50cm の突出壁を有する。突出壁を挟んで深さ 20cm ほどの２基の土坑が伴い、南側の土坑は前述の S165 によって切られている。北側の土坑の床面直上の埋土には多くの砂粒が含まれていた。南側土坑から南西隅、西側周壁中央、北側周壁中央には壁沿いに浅い壁溝がみられる。攪乱や別遺構によって不明瞭な部分も多いが、住居の西半はベッド状遺構と考えられる。このベッド状遺構と東側周壁沿いの２基の土坑に挟まれた部分は周囲よりも更に床が低くなっており、床面直上から炭化材が検出された。この位置で出土した炭化材を年代測定した結果、1850 ± 20 年 BP の年代を得ている。この他ベッド状遺構の床上からも炭化材や焼土が検出されたため、この住居も焼失住居と考えられる。主柱は４本と考えられるが、記録に不備があり、柱穴の深さ等が不明である。床面は全面地山土による貼床であった。

なお、本遺構の南側周壁中央付近から S105 の北側隅角に向かってごく浅い溝状の窪みである S146 が検出されているが、本遺構との切り合い関係は不明であった。

遺物

土器（第 152 図 1061 ～ 1081）

遺物は全体的に出土しているが、いくつかの集中部があり、1064・1066・1067・1072・1073 が

東側周壁中央沿いの土坑内、1062・1063・1074・1078 が中央～北側周壁付近、1069・1078・1081 が北東角付近からの出土である。甕には外方へ張り出す平底 (1061)、平底 (1062 ～ 1065)、丸底 (1066、1067) がある。1068 は口唇部端が上方につまみ上げられたような甕の口縁部で、埋土中からの出土である。壺では二重口縁壺が出土しており、沈線による鋸歯文が施された内傾気味に立ち上がるもの (1072、1073) と櫛描波状文が施された外傾気味に立ち上がるもの (1074、1075) がある。鉢には大型のものと小型のものがあり、大型のものは精製で浅いもの (1069、1070) と粗製でやや深いもの (1071) がある。小型の 1078 や 1079 は小型丸底鉢を意識したような器形だが、底部が小さな平底を呈する。

石器（第 244 図 2505 ～ 2508）

石器は、突出壁南側の土坑で敲石 (2505,2506)、磨石 (2507)、ベッド状遺構の北側落ち際で砥石 (2508) が出土している。その他、図化はしていないが、住居中央部よりやや北側のベッド状遺構上で、最大長 20cm 程の小型の台石や敲石、軽石が出土している。

3-S121

遺構（第 51 図）

３区中央部北側、S120 の東側に位置し、他遺構との切り合い関係はみられない。直径約 7 m の円形プランで東側に 2 ヵ所の突出壁を有する。周壁に沿って床が 1 段高いベッド状遺構をなし、その内側は床が 7 ㎝程低く南東に張り出した隅丸方形状を呈する。この中央付近に長径 1.2m、深さ 35cm ほどの楕円形の土坑がみられる。ベッド状遺構は全周するが南東で幅が狭くなる。ただし、北側の突出壁に隣接して長さ 2.5m の範囲は周囲のベッド状遺構よりも更に 1 段高くなっていた。主柱穴は環状に並ぶ８基と考えられるが、ベッド状遺構上や突出壁上、住居の掘り込みに近接して浅い柱穴状の穴が 5 基検出されており、支柱となる可能性がある。床面は全面地山土による貼床であった。

遺物

土器（第 152・153 図 1082 ～ 1099）

土器は広範に出土しているが、1083、1089、1090、1093 が北西側、1092、1099 が北側のベッド状遺構上から出土し、その他の大部分は中央の低い床面上から出土している。ただし、1084、1086 ～ 1088、1095 は埋土中からの出土である。甕は下城式が主体で刻目突帯が 1 本のものと 2 本のものがある。1090 は中実で脚台状を呈する甕底部で、山ノ口式と考えられる。壺は大きく外反しながら開く口縁が多く、1086、1088 は口唇部に刻目、1087 には口縁部内側に 1 対の円形浮文がみられる。また、1085 は全面に赤色顔料が塗布されており、壷の口縁部とみられる。1091 の内面には線刻がみられる。1089 は台付鉢の接続部分と思われ、断面三角形の突帯が 2 条みられる。

石器（第 244・245 図 2509 ～ 2527）

石器は、住居中央よりやや北側で軽石製品 (2527)、磨石（2524）、図化はしていないが小型の台石が出土した。また中央よりやや西側で砥石 (2526)、敲石 (2520)、石鏃 (2513) が出土している。南側周壁付近で磨石 (2525)、敲石 (2521)、打製石斧 (2522)、図化はしていないが西側周壁近くで敲石が出土している。前述した 3A-S119 と同様に、床面直上および埋土中より、磨製石鏃 6 点と研磨されたものを含む剥片が多数出土しているが、図化していないものを含めてすべて緑色頁岩であった。住居北側のピットには、直径とほぼ同サイズの尾鈴山酸性岩類の丸石が埋まっていたが、人為的か否かは不明である。磨製石斧 (2523) は埋土中の出土である。

3-S122

遺構（第 50 図）

３区南側の西寄り、S104 の北側に位置し、他遺構との切り合いはみられない。東側壁面の大部分が攪乱により失われているが、平面形は長軸約 4 m、短軸約 3.3m の長方形プランとみられる。主柱穴と思われる柱穴は確認できなかったが、中央やや東側周壁寄りから楕円形の土坑が 1 基検出されている。床面は貼床状であったが地山の土質の問題からかあまり硬化していなかった。

遺物

土器（第 153 図 1100 ～ 1103）

土器の出土は少なく、いずれも破片資料である。1100 と 1101 が床面付近から、1102 と 1103 が埋土中からの出土である。

石器

石器は、図化はしていないが東側周壁寄りと南側周壁寄りの床面直上で、最大長 17cm 程の小型の台石が 1 点ずつ出土した。その他の石器は出土していない。

3-S123

遺構（第 52 図）

３区北側の東寄り、S115 の南東に位置し、S124 を切る。検出時点で既に削平や攪乱が多くみられたが、平面形は一辺約 6 m の方形プランと思われる。床は東側周壁中央に向かって開口する「コ」の字形のベッド状遺構がみられる。ベッド状遺構に囲まれた部分は 15cm 程度床面が低く、最深部と東側周壁付近の幅が狭くなっている。現存する床面は全て地山土による貼床であった。主柱穴は 4 基で、深さは低い床面から約 30cm を測る。床面直上に炭化材はみられなかったが、炭化物を多く含む埋土の堆積がみられ、広範囲に焼土が存在していたことから、この住居も焼失住居の可能性が高い。

遺物

土器（第 153 図 1104 ～ 1112）

遺物は東角周辺のベッド上、南東に開口する低い床面上、西角周辺のベッド上にやや集中がみられる。1104 は 1 個体が潰れたような状態で西角付近から出土したが、1105 は南西ベッド上から中央の低い床面にかけて散在していた。1106 は攪乱内からの出土で、S124 に伴う可能性もある。1112 はミニチュアの壺形土器で、外面はきれいにナデ調整しているが、内面は棒状の工具で抉って整形している。

石器（第 245 図 2528 ～ 2533）

石器は、住居東側角で敲石 (2528)、ベッド状遺構の落ち込みから砥石 (2531)、軽石 (2530) が出土しているほか、西側ベッド上で磨石が出土している。北側周壁寄りの落ち込みから大型の砥石 (2533) と敲石 (2532) が出土しているが、周辺が攪乱の影響を大きく受けており、住居に伴わない可能性もある。磨製石鏃 (2529) は埋土中の出土である。

3-S124

遺構（第 52 図）

３区北側の東寄り、S115 の南東に位置し、S123 に切られる。削平や攪乱によって遺構の大部分は失われていたため規模は不明だが、平面形は長方形プランと思われる。北西側に L 字状に屈曲する高い床面とその内側に 10cm ほど低い床面がみられたことから、南に向かって開口する「コ」の字形のベッド状遺構を有する可能性が考えられる。遺存する床は地山土による貼床で、低い床面から主柱穴と考えられる柱穴が 1 基検出されており、その位置から主柱は 2 本であった可能性が高い。

なお、遺物の出土はわずかで、図化すべきものは出土していない。

3-S127

遺構（第 53 図）

３区中央の東側に位置し、S129 に切られ S9 と切り合い関係にあったと思われるが、調査時には切り合い状況を確認できなかった。しかし、出土した土器の様相から S127 が S9 を切っていた可能性が高い。平面形は長軸約 5m、短軸約 4.6m の長方形プランとみられ、床面は全面地山土による貼床であった。ベッド状遺構はみられず、主柱は東西軸の 2 本で床面からの深さは約 40cm を測る。また、南側周壁中央から 1 mほど内側に長径 70cm、深さ 10cm の楕円形土坑が伴う。なお、この住居でも床面直上から住居の棟方向に倒れ込んだような状態の炭化材が多量に出土しており、焼失住居と考えられる。炭化材の年代測定では、1930 ± 20 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 153 図 1113 ～ 1117）

遺物の出土は少ない。1113 は北側周壁西寄り、1114 は南側土坑内、1115 は南側周壁中央付近からの出土で、1116 は貼床中、1117 は埋土からの出土である。1117 は外面に磨き調整が施された土製の玉とみられる。

3-S130

遺構（第 53 図）

３区中央の北西側、S120 の南西に位置し、他遺構との切り合いはみられない。平面形は長軸約 3.1m、短軸約 2.9m の長方形プランで、床は貼床ではなく全面地山を利用している。北西角と南東角の対角線上に並ぶようにして 3 基の柱穴状の小穴が検出されている。各小穴の深さは西から 27、35、

18cm で、真ん中の小穴から 10㎝ほど南側では径 30cm ほどの円形に床面が焼けていた。

遺物

土器（第 154 図 1118）

土器片が少量出土しており、1118 は南西側床面付近からの出土である。

3-S131

遺構（第 53 図）

３区北側の東寄り、S116 の南東に位置し、他遺構との切り合いはみられない。平面形は長軸約 2.9m、短軸約 2.4m の長方形プランで、床は全て地山を利用している。東西の周壁に近い位置に２基の主柱穴を有し、その中間地点やや南側に長軸約 70cm、深さ約 50cm の楕円形土坑が伴う。

遺物

土器（第 154 図 1119・1120）

土器の出土は少ない。1119・1120 は平底を呈する甕の底部で、中央の土坑内から出土している。

石器（第 245 図 2534 ～ 2536）

石器は、住居中央の土坑から大型の砥石３点 (2534 ～ 2536) が重なるように出土した。その他の石器は出土していない。

3-S144

遺構

S112 の東側から長軸約３m、短軸約 2.6m の楕円形状に貼床の痕跡が確認され、その周囲から複数の柱穴状の小穴が検出されている。小穴の大半は検出面からの深さが 30cm 前後で、平面的分布状況からも主柱穴を判断することは困難であった。残存する床面上から炭化材や焼土も検出されており、焼失住居が存在した可能性は高いが、詳細は不明である。

遺物

土器（第 154 図 1121 ～ 1124）

土器は遺構に伴うものが判然としない。1121 は埋土中から、1122 は硬化面が残存する部分の東端付近にある小穴内から、1123、1124 は硬化面外の西端付近からまとまって出土している。

石器

石器は、貼床が残存する炭化材と焼土が検出された位置で台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土しているが、その他の石器は出土していない。

3-S150

遺構（第 53 図）

３区南側の東寄り、S113 の南に位置し、他遺構との切り合いはみられない。中央を東西に溝状の攪乱によって破壊されているが、平面形は直径約３m の円形プランとみられる。床は基本的には貼床だが、一部地山を利用している。南側で２基の浅いピットが検出された。遺物も図化に耐えない土器の小片が出土したに過ぎないが、一応、この時期の遺構としておく。

3-S151

遺構（第 54 図）

３区南側の東寄りに位置し、S113 に切られる。削平や攪乱が激しいが、平面形は直径約７m の円形プランを基本として南側に１箇所と北西側に１もしくは２箇所の張り出しを有する。現地調査の時点では、北西の張り出しを方形プランの別遺構（調査時 S152）と考えていたが、床面の高さや埋土の状況、主柱穴が見あたらないこと等から再検討した結果、S151 の張り出し部分であると判断した。床は全体が貼床で、張り出し部分は円形部分よりも床が 10cm ほど高いベッド状遺構となっている。主柱穴は環状に並ぶ８基とみられるが、うち２基は径が小さく、深さも他の柱穴よりも 10 ～ 20cm ほど浅い。また、中央には長軸約１m、深さ 20cm の楕円形土坑があり、その両端に主柱穴と一直線上に並ぶ２基の柱穴がみられる。

遺物

土器（第 154 図 1125 ～ 1133）

土器では 1126・1132・1133 が中央土坑の北西側からまとまって出土しており、その他は埋土中からの出土である。

石器（第 246 図 2537 ～ 2540）

石器は、住居のほぼ中央で台石（遺構図内に出土状況を図化）、中央よりやや東で磨製石斧 (2539) が出土している。また、北西の張り出しからやや中央で台石 (2538)、敲石 (2540) が出土している。埋土中より３点の磨製石鏃が出土しており、赤色頁岩製の１点 (2537) を図化した。

3-S154

遺構（第 54 図）

３区の南側、S114 の東・S155 の南に隣接し、北西から北東の周壁が削平されているが、平面形は一辺 6.5m 程度の方形プランであったと考えられる。床は全面貼床で、北西側周壁と平行な幅約２m のベッド状遺構を有していたと考えられる。南東周壁の中央に沿って長軸 1.8m、短軸 70cm、深さ 10cm の隅丸方形土坑がみられ、その東隣には幅 30cm、長さ 70cm の突出壁が伴う。南西周壁寄りにも長軸３m、幅 1.5m、深さ 20cm の不定形な土坑がみられ、この土坑と南西周壁の間はテラス状となっており、周壁中央部がやや張り出している。この土坑を挟んだ南西周壁沿い及び南隅角付近には幅・深さ共に 10cm ほどの壁溝がみられる。主柱穴は４基とみられ、床面からの柱穴の深さは 20 ～ 40cm である。床面直上から炭化材が検出され、その周囲には多量の焼土が分布していたことから、この住居も焼失住居と考えられる。炭化材の年代測定では 1785 ± 20 年 BP の年代を得ている。また、埋土中に地山土が独立した島状に堆積している部分があり、その直下には炭化材や焼土を含む土が薄く堆積していた。これは土屋根が焼失によって崩落したものと思われる。

遺物

土器（第 154 図 1134 ～ 1146）

土器は２ヵ所に集中がみられ、南東側周壁中央に沿う土坑内から 1137・1138・1143・1145、西側主柱穴周辺から 1134・1139 が出土している。1144 は南西の突出壁付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。1142 は壺の口縁部で、内外面に赤色顔料による施文がみられ、器形や胎土等から 1178 と同一個体の可能性が高い。

石器（第 246 図 2541・2542）

石器は、住居の中央よりやや東側で敲石 (2542) が出土した。また、図化はしていないが、南東側土坑から磨石１点と最大長 20cm 程の小型の台石が２点出土しているほか、北側周壁中央付近で敲石が１点出土している。石包丁 (2541) は埋土中の出土である。

3-S155

遺構（第 55 図）

３区中央部東側、S154 の北側に位置し S161 に切られる。南側周壁が現代の削平によって失われているが、平面形は直径約 8.3m の円形プランと考えられる。南東部は不明だが、周壁に沿って幅 1.2 ～ 1.6m のベッド状遺構が巡る。ベッド状遺構とその内側の低い床面との境界付近に８基の主柱穴が環状に廻り、中央には長径 1.2m の楕円形土坑がみられる。土坑の両端にはピットが伴い、２基の主柱穴と一直線上に並ぶ。床面は全面地山土による貼床で、貼床を除去したところ主柱穴と同じ環状の並びに位置する複数のピットが検出されたため、立て替えが行われた可能性がある。なお、中央の土坑内の埋土をサンプリングしてフローテーションを行ったところ、炭化種実が検出された。種実同定を行った結果、ブドウ属種子やイネ果実等が検出されている。併せて年代測定も実施したところ、2165 ± 20 年 BP の年代が得られた。

遺物

土 器（ 第 155 ～ 158 図 1147 ～ 1149・1151・1152・1154 ～ 1165・1167 ～ 1170・1172 ～ 1180・1182 ～ 1184）

遺物は竪穴中央の低い床面の範囲内で、床面からやや浮いた状態で多量に出土している。分布状況では S161 上も含むが、いずれも S161 廃絶後の埋没過程において廃棄されたものと考えられる。２ヵ所に分布の集中がみられ、1148・1151・1152・1154・1156 ～ 1160・1163・1164・1167 ～ 1169・1176・1178 ～ 1180・1182 が中央の低い床面範囲の北半部、1150・1153・1166・1171・1177・1181・1186 が S161 の範囲内南寄りから出土している。甕は下城式を主体としているが、1159 は黒髪式系、1162 は山ノ口式系の土器と思われる。1183 は丁字頭の土製勾玉で、主柱穴の埋土中から出土している。1186 は内傾して直線的に開き、口縁部外面に刻目突帯が貼り付けられたもので、蓋と思われる。

石器（第 246・247 図 2543 ～ 2556）

石器は、図化していないものを含めて 25 点が出土している。中央の土坑からは大型の砥石 (2549) が出土した。ベッド状遺構内側の低い床面から砥石 (2547.2548)、敲石 (2543,2552,2566)、磨石 (2564.2565)、軽石 (2544 ～ 2546)、磨製石鏃 (2562)、剥片 (2563) 等が出土している。北東側周壁傍で敲石 (2550) が出土した。また、埋土中の出土であるが磨製石鏃３点 (2554 ～ 2556) と磨製石斧２点

(2552.2553) は図化している。但し、埋土中の出土遺物は、切り合いが不明瞭であった S161 の遺物を含む可能性が残る。

3-S156

遺構（第 56 図）

３区中央の東側に位置し、S118・157・158・162 に切られる。他遺構による攪乱が激しいが、残存する周壁の状況から平面形は直径 7 m 前後の円形プランであったとみられる。周壁に沿って幅 1 m 前後のベッド状遺構が廻り、南側に 1 箇所の張り出しを有する。主柱は 4 本で、その中央やや南寄りに両端に柱穴を伴う長軸 1.1m の楕円形土坑がみられる。残存する部分の床は全て地山土による貼床であった。

遺物

土器（第 158・159 図 1187 ～ 1207）

土器は南東側から土坑の周辺から床面よりやや浮いた状態で出土している。1187・1188・1190 ～ 1195・1197・1199・1201・1204・1205 が床面から、その他は埋土中からの出土である。1203 は壺の口縁部で赤色顔料による彩色が施されており、口唇部には一条の波状文がみられる。1207 は土製の勾玉で表面が風化しており、二次的な被熱の影響が考えられる。

石器（第 247 図 2557・2558）

石器は、床面直上では S162 との切り合いに近い位置で、図化はしていないが最大長 18cm 程の小型の台石が出土した。埋土中から磨製石鏃 3 点が出土し、2557.2558 の 2 点を図化している。

3-S158（旧 S5 ～ 8 を含む）

遺構（第 56 図）

S158 は調査区中央東側に位置し、S156 を切り、S117・162 に切られる。この住居は調査の工程上、東半部と西半部を別々に調査したことや多くの攪乱を受けていたことから遺構の認定に不整合が生じている可能性がある。平成 17 年度の調査において S5 としていたものは本遺構と周壁が接続したため同一遺構と認定した。S6 は調査者の所見では S5 を切るとされており、主軸方向も異なるため別遺構の可能性が高い。S7 は西半部では検出されなかったが、主柱穴の中間に位置する点や S105 に類例がみられるので、S8 と共に S158 に伴う可能性が高い。なお、S8 では床面上に焼土の堆積がみられ、西側にも堆積が連続していた。S158 の主柱は 4 本で、南側のコーナー付近に長軸 3 m、短軸 2 m の長方形土坑がみられる。床面は全て貼床であった。

遺物

土器（第 159・160 図 1208 ～ 1223）

土器は 1208・1210・1212・1213・1221 が南側角の土坑周辺の床面から、1211・1214 が竪穴中央付近の床面から、その他は埋土中からの出土である。甕の底部は小さな平底もしくは丸底気味の平底である。

石器（第 247 図 2559 ～ 2561）

石器は、住居南西側の S156 との切り合い付近で、敲石（2561）と図化はしていないが最大長 20cm ほどの台石が出土した。埋土中から砥石と磨製石鏃が 4 点 (うち 2559,2560 の 2 点を図化) 出土しているが、切り合いが不明瞭であった S156 の遺物を含む可能性が残る。

鉄器（第 274 図 2887 ～ 2890）

埋土中から 4 点の鉄器類が出土している。2887 は小型の圭頭鏃で、茎部に樹皮巻が残存している。2888 は細い板状の鉄片で、一方の先端が捩じれて曲がっている。2889 は側面を鍛打され、断面が凹状を呈するが鉄器の茎としては細くいびつであるため、棒状の鉄片と思われる。2890 は断面が楕円形状を呈する棒状の鉄片である。

3-S161

遺構（第 55 図）

３区中央部東側、S154 の北側に位置し、S155 を切る。長軸約 3.2m、短軸約 2.9m の長方形プランで、南側周壁に向かって開口するコの字形のベッド状遺構を有する。ベッド状遺構と一段低い床面と比高差は約 15cm である。床面は全面地山土による貼床で、主柱穴は短軸側の周壁中央にみられる 2 基のピットと考えられる。埋土中から炭化材が出土しており、年代測定を実施した結果、2140 ± 20 年 BP の年代が得られた。

遺物

土 器（ 第 155 ～ 158 図 1150・1153・1166・1171・1177・1181・1185・1186）

土器は埋土中から多く出土したが、床面上から出

土したものは少ない。1185 は口縁部下の対向する位置に一対の小さな円孔がみられる壺で、コの字形のベッドに囲まれた低い床面上から立った状態で出土している。

石器（第 247 図 2562 ～ 2566）

石器は、住居南西角で磨石 (2565) と剥片（2563）、南東角で磨石 (2564)、北西角で磨製石鏃（2562）が出土した。中央よりやや北東側のベッド上で 2 点の台石（遺構図内に出土状況を図化）とチャートの石核、南側周壁中央付近で敲石 (2566) と図化はしていないが台石が出土している。

3-S162

遺構（第 56 図）

3 区中央部東側、S155 の北側に位置し、S156・158 を切り、S117、118 に切られる。切り合い関係が激しいため判然としないが、長軸 4m、短軸 3m 程度の長方形プランと予想される。床は地山土による貼床で、主柱穴は長軸方向に平行な 2 基と思われる。主柱穴の中間からやや南側に寄った地点には楕円形の土坑がみられる。

遺物

石器（第 247 図 2567 ～ 2570）

南東角付近の床面上から磨製石鏃 (2568)、二次加工剥片 (2569)、磨石 (2570) と図化はしていないが最大長 20cm 程の小型の台石が出土した。石包丁 (2567) は埋土中からの出土である。

土坑

3-S1

遺構（第 57 図）

1 区の北東側に位置する。長軸 90cm、短軸 80cm の楕円形プランで、周辺の削平が著しく、検出面からの深さは約 10cm である。遺物が比較的多く出土しており、住居跡に伴う土坑であった可能性も考えられる。

遺物

土器（第 160 図 1224・1225）

1224・1225 ともに甕で、床やりやや浮いた埋土中からの出土である。

なお、石器は出土していない。

3-S4

遺構（第 57 図）

1 区と 3 区の境界付近、S116 の北西に位置する。周辺は地山の削平が著しく、検出面はⅢ層下の地山面であった。長軸 0.9m・短軸 0.7m の隅丸方形プランで、検出面からの深さは 14cm ほどである。南側に隣接して遺物を含む薄い黒色土の広がりがみられ、住居跡に伴う土坑であった可能性もある。なお、埋土は黒褐色土のみで多量の炭化物が含まれており、年代測定を行った結果、1880 ± 40 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 160 図 1226 ～ 1228）

1227 は甕の底部、1228 は高坏の坏部で、床よりやや浮いた埋土中から出土している。1226 は鉢の口縁部で、南側に隣接する黒色土中からの出土である。

石器（第 247 図 2571）

石器は、底面で磨石 (2571) が出土している。

3-S134

遺構（第 57 図）

3 区の中央、S109 と S118 の間に並ぶ 3 基の土坑のうち最も北側に位置し、S133 と東西にあるピットを切っている。長軸 1.3m、短軸 1.1m の隅丸方形プランで、検出面からの深さは約 20cm である。地山土による貼床で、その埋め戻された深さが約 25cm と深い。

遺物

土器（第 160 図 1229）

遺物は少なく、床面付近から 1229 と少量の土器片が出土している。

3-S142

遺構（第 57 図）

3 区の中央北側、S123 の南側に位置し、S129 に切られる。東～南側を失っているが、長軸 75cm、短軸 50cm の長方形プランとみられ、検出面からの深さは約 38cm である。

遺物

土器（第 160 図 1230・1231）

1230 は高坏の坏部と脚部の接続部分、1231 は甕の底部で、いずれも埋土中からの出土である。

溝状遺構

3-S129

遺構（第 57 図）

３区中央の北寄りに位置し、S120・127・142を切りながら３区を横断している。２区の南側にも続いていた可能性が高いが、攪乱によって確認できなかった。検出面における幅約 50cm ～ 1.2m、深さ約 40 ～ 60cm、長さ約 35 ｍを測り、断面形はＶ字状を呈する。遺物は細かい土師質の土器片が出土しているが、ほとんど接合不可能で、図化に耐えるものは無く、この遺構に伴うものかも不明である。ただし、他に確認されている近現代の溝状遺構とは埋土が異なり、竪穴住居に近い黒褐色系の埋土であったことから、ある程度古い時期の遺構と思われるため、ここで扱っておく。

遺物

石器（第 247 図 2572）

石器は、埋土中から磨製石斧 (2572) が 1 点のみ出土している。

その他の遺物

土器（第 160 図 1232・1233）

1232 は出土地点が不明の高坏、1233 は S119 は切る攪乱内から出土した甕である。

石器（第 247 図 2573・2574）

2573 の磨製石鏃 (2573)、2574 の玉の未製品は包含層中からの出土である。

5　三次Ｂ調査区

竪穴建物跡

4-S1

遺構

調査区北側西寄り、S2 と S12 の間に位置する。１辺約５ｍの方形プランを呈し、床は地山土による貼床で、検出面からの深さは 20㎝前後である。南西側周壁中央に幅 60cm・長さ 80cm で床面よりも 10cm 程高い突出壁を有する。主柱穴は北西・南東周壁と平行する２基のピットと考えられる。床面直上から焼土や炭化材が検出されており、焼失住居と思われる。炭化材 1 点を年代測定した結果、1835 ± 25 年 BP の年代値を得ている。

遺物

土器（第 161 図 1234 ～ 1239）

1234 が南東側突出壁の東脇、1238 が北東側周壁中央沿い、1239 が南西周壁沿い床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。

石器（第 248 図 2575）

石器は、南側周壁の角で砥石 (2575) と台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土した。その他の石器は出土していない。

4-S2

遺構（第 59 図）

調査区北側中央、S1 の東、S10 の北東に位置する。１辺約 5.2m の方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。南西側周壁中央には床よりも 15cm ほど高い半円形のテラスがみられ、その周囲を幅 20cm の溝が囲んでいる。主柱穴は北西周壁と平行な主軸をもつ２基と思われるが、近接する位置にもそれぞれピットがみられ、床からの深さも主柱穴とほとんど変わらない。床面直上から焼土や炭化材等が検出されており、焼失住居と思われる。なお、炭化材の中には藁状の炭化物も含まれていた。炭化材１点を年代測定した結果、1830 ± 20 年 BP の年代値を得ている。

遺物

炭化材よりも上位の埋土中から多くの遺物が出土している。

土器（第 161 図 1240 ～ 1257）

土器は 18 点図化しているが、いずれも埋土中からの出土である。竪穴内全体から出土しているが、1240・1244 は中央から北西側周壁との中間地点、1242 と 1257 は西側角付近からまって出土している。

石器（第 248・249 図 2576 ～ 2584）

石器は、住居のほぼ中央に台石（遺構図内に出土状況を図化）、南東角付近に鉄銹が付着した台石 (2583) が出土した。その他、床面直上で石包丁 5 点 (2576 ～ 2580) や敲石 4 点（2581.2582.2584 の 3 点を図化) 等が出土している。

鉄器（第 274 図 2891）

2891は茎部を欠損した圭頭鏃の鏃身部とみられ、埋土中から出土している。

4-S3

遺構

調査区北側中央、S9の南、S5の北東に位置する。長軸約3.8m、短軸約3.4mの長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。主柱穴は4基で、西側周壁に近い2柱穴間には80×50cmの楕円形状に床面が赤化した部分がみられた。また、南側周壁沿いやや西寄りには60×50cmの隅丸長方形状の土坑がみられた。

遺物

石器（第249図2585）

図化を要する土器は出土しておらず、石器は、僅かに残存していた埋土中から、棒状の石器(2585)が出土したのみである。

4-S4

遺構（第59図）

調査区北側西寄り、S25とS3の間に位置し、S5を切る。長軸約3.4m、短軸約2.6mの長方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は4基と考えられるが、いずれも径が小さく浅い。床面直上から少量ながら炭化材が出土しており、焼失住居の可能性がある。

遺物

土器（第162図1258）

遺物は少なく、1258は埋土中から出土した小型の鉢である。

4-S5

遺構（第60図）

調査区北側西寄り、S25とS6の間に位置し、S4に切られる。北隅角から北西周壁の大半を失っているが、残存部の状況から1辺約4.5mの方形プランと思われる。床は地山土による貼床で、南西側周壁の北半部には幅1.5m、高さ10cmのベッド状遺構が伴う。主柱穴は1基図化されていないが、写真で確認できるため6基と考えられる。床面直上から炭化材や焼土が確認されており、焼失住居と思われる。炭化材2点を年代測定した結果、1770±25年BPと1825±25年BPの年代値を得ている。

遺物

土器（第162図1259～1262）

土器の出土は少なく、4点を図化しているが、1259は南東側周壁沿いの主柱穴間、1261は中央付近、その他は埋土中からの出土である。1259はほぼ完形に復元される甕で、器形が非常に楕円形を呈する。図は長径側で作図しているが、短径は口径で3cmあまり小さい。

石器（第249図2586～2591）

石器は、住居西側のベッドの落ち込みでたも石の一群（遺構図内に出土状況を図化）が出土。同じく住居の中央よりやや東で、たも石の一群と台石（いずれも遺構図内に出土状況を図化）が出土している。たも石の一群は、敲石(2586～2589)を含む。その他、床面直上で砥石(2591)や二条の線状痕を有する破砕した台石(2590)が出土している。

鉄器（第274図2892）

2892は竪穴中央の床面に近い位置から出土したもので、薄く三角形状を呈する鉄片である。

4-S6

遺構（第59図）

調査区中央部西寄り、S5の南東に位置し、S13を切る。長軸約5.0m、短軸約4.4mの長方形プランで、床は地山土による貼床である。南側周壁の中央から住居の中央に向かって幅2m、長さ2.2m、深さ10cmの土坑状に床が窪んでおり、その他の床は南に開口したコの字状のベッド状遺構となっている。主柱穴は短軸の側壁中央付近の2基と考えられる。炭化材は検出されていないが、床面直上の埋土には多くの炭化物が含まれており、焼失住居の可能性もある。

遺物

遺物は埋没過程で投棄されたとみられるものが埋土中から多く出土しており、床面付近で出土したものは少ない。

土器（第162・163図1263～1282）

土器は20点図化しているが、1272が南側落ち込み内の南東角、1280が南側落ち込みの周壁沿いと北側周壁中央付近沿いから出土しており、その他は埋土中からの出土である。

石器（第249図2592～2594）

石器は、北側周壁の中央付近で大型の台石（遺

構図内に出土状況を図化）が出土した。住居南側の落ち込みで、砥面を有する台石 (2592) が出土している。その他、西側周壁の中央付近で砥石２点（2593.2594）が出土した。

鉄器（第 274 図 2893）

2893 は重厚な長方形断面で一端に片刃状の刃部を有し、鑿の可能性がある。南側周壁に近い土坑状に低い床面からやや浮いた状態で出土しており、後述する S13 との切り合いに位置することから、S13 に伴う可能性も考えられる。

4-S7

遺構（第 60 図）

調査区中央北寄り、S15 と S18 の間に位置し、S116 を切る。長軸約 4.5m、短軸約 4.0m の長方形プランで、北側隅角から北西周壁が若干張り出す。床は地山土による貼床で、南東側周壁から住居中央に向かって不定形な土坑がみられる。主柱穴はこの土坑を挟むように位置する２基とみられ、南西側の柱穴内には根固めと思われる半円形に並ぶ礫がみられる。

遺物

２層中より多くの遺物が出土しているが、床面付近から出土した遺物は少ない。

土器（第 164・165 図 1283 ～ 1297）

土器は 15 点図化しているが、すべて埋土中からの出土である。239 は南東周壁中央の土坑脇付近でつぶれるようなかたちで出土している。1289・1291 も南東周壁中央付近の土坑内から出土しているが、1289 の上に 1291 が重なり、その中に礫が入った状態で横倒しになって検出されている。1293 は S8、1297 は S8・16 の埋土中から出土した土器と接合している。

石器（第 250 図 2595 ～ 2597）

石器は、北側主柱穴の傍で台石とたも石の一群（いずれも遺構図内に出土状況を図化）が出土した。また、住居中央よりやや西側で大型の台石（遺構図内に図化）が出土したほか、東側土坑内周辺で磨製石斧、打製石斧、敲石が出土している。その他、床面直上で敲石 (2596) や磨石 (2595) 等が出土した。石包丁 (2597) は埋土中の出土である。

4-S8

遺構（第 61 図）

調査区中央北寄り、S7 の東、S16 の北東に位置し、S117・118 を切り、S75 に切られる。長軸約 4.7m、短軸約 3.9m の長方形プランを基調として、南側隅角から南西周壁幅 1.5m、奥行き 70cm ほど外側に張り出す。南東側周壁中央部に沿って二段掘り状の土坑がみられ、土坑から住居中央に向かって低い床が続き、その周囲はコの字形のベッド状遺構となっている。中央の窪みを挟んで２基の主柱穴がみられるが、埋土の状況を見ると、東側の主柱は埋没段階まで立った状態で遺存していた可能性が高く、埋土に炭化物が多く含まれていることからも焼失住居である可能性が高い。また、南東側周壁中央付近の埋土に砂利を含む粘土の堆積がみられた。

遺物

土器（第 164 図 1298 ～ 1300）

土器は３点を図化しているが、1298 は北側角に近い北西周壁沿いの床面付近、1299 は低い床面及び土坑に面する南側ベッド状遺構床面上、1300 は土坑の北側に面するベッド状遺構床面上から出土している。

石器（第 250 図 2598 ～ 2602）

石器は、床面直上で石包丁 (2600 ～ 2602) や敲石 (2598)、図化はしていないが、磨石が 1 点出土している。石包丁 (2599) は埋土中の出土である。

4-S9

遺構（第 61 図）

調査区北側中央、S2 と S3 の間に位置する。西周壁約 5.5m、東周壁約 4.7m、東西軸約 5m の台形プランを呈する。床は貼床で東周壁から中央に向かって窪むコの字形ベッド状遺構を有する。主柱穴は窪みを挟んだ位置の２基とみられる。床面直上から炭化材が出土しており、年代測定の結果、1810 ± 25 年 BP の年代値を得ている。

遺物

土器（第 164・165 図 1301 ～ 1315）

中央から東周壁にかけての低い床面付近でやや浮いた状態で多くの遺物が検出されている。

1301・1302・1304・1307・1310 ～ 1314 は低い床面部分の埋土中、1303・1315 が北東角床面付近、その他は埋土中からの出土である。1315 はほぼ完形に復元された二重口縁壺で、底部中央に桃核

状の圧痕がみられるドーナツ状の平底を呈する。

石器（第 250・251 図 2603 ～ 2607）

石器は、西側周壁の北よりで大型の台石 (2603) が出土した。住居中央付近で敲石 (2604,2606)、磨石（2605) が出土している。

4-S11

遺構

調査区中央西側、S57 の南西に位置する。長軸約 4.7m、短軸約 4.3m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は北東と南西周壁に寄った位置する 2 基で、住居の中央には不整形な土坑が伴う。炭化材や焼土は検出されていないが、埋土中には多くの炭化物が含まれていた。

遺物

土器（第 165 図 1316 ～ 1325）

土器は大半が主柱穴間の床面付近から出土しているが、1320・1321・1325 は北側角付近の埋土中からの出土である。

石器（第 251 図 2608）

石器は、東側周壁の中央付近で大型の砥石 (2608) が出土した他、図化はしていないが住居のほぼ中央で小型の台石、北西角で磨石が 1 点出土している。

4-S12

遺構（第 62 図）

調査区の北西端、S1 の西に位置する。長軸約 6.0m、短軸約 5.8m のほぼ方形プランで、床は地山土による貼床である。北東から北西周壁の中程にかけて幅 1.2m 前後のベッド状遺構を有する。主柱穴は各隅角に近い位置にある 4 基のピットとみられ、中央やや南西よりの床面に径約 1 m の範囲で焼土と炭化物の集中がみられた。

遺物

土器（第 166 図 1326 ～ 1335）

床面付近から多くの土器が出土している。特に、東側角付近では 1326・1330 が完形で倒れた状態で出土し、その周囲から 1327・1329・1331 も出土している。また、1335 は頸部以下が完全な状態で竪穴中央付近から出土した。1328 は南側主柱穴付近から出土したほぼ完形の壷で、底部付近に敲打による人為的な破損がみられる。1333 ～ 1335 は埋土中からの出土である。

石器（第 251 図 2609 ～ 2614）

石器は、住居の北東側角付近で大型の砥石 2 点 (2609,2610) が出土した。台石はベッド上に 2 点、住居南東角に 1 点（遺構図内に出土状況を図化）出土している。敲石は住居中央で 2611、中央よりやや南で 2614、南東角で 2613、北西角で 2612 が出土している。

鉄器（第 274 図 2894）

2894 は埋土中から出土したもので、刃部先端を欠くが、鉈とみられる。残存する刃部は裏スキ状で反りが弱い。

4-S13

遺構（第 62 図）

調査区中央、S15 の西に位置し、S6・26 に切られる。残存状況から一辺約 5.1m の方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。主柱穴は 4 基と思われ、床面からの深さは約 50cm である。東西の周壁中央付近には主柱穴よりも 20cm ほど浅い 2 基のピットがあり、棟持柱となる可能性が考えられる。東周壁沿いのピットと切り合うように 1 m × 80cm の楕円形で西側が更に径 50cm の円形に落ち込む二段掘状の土坑がみられた。この土坑内や主柱穴に囲まれた住居中央の床面直上付近からは多くの鉄器や鉄片、鉄銹の付着した石器等が出土しており、鉄器製作に関連する建物であった可能性がある。S6 に近い主柱穴に近い位置で炭化材が出土し、埋土中にも炭化物や焼土が多く含まれていたことから、焼失住居の可能性がある。この炭化材を年代測定した結果、1900 ± 40 年 BP の年代が得られた。また、住居中央で床面から約 30㎝浮いた状態で炭化した桃核が出土しており、こちらにも年代測定を実施した結果、1765 ± 20 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 166 ～ 168 図 1336 ～ 1375）

土器は 40 点図化しているが、大半は埋土中からの出土である。1357・1358・1362 は東側周壁沿いの柱穴と土坑の北側床面付近からまとまって出土している。1338・1351・1356 も床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。1349・1350 は胎土が在地的であり、布留式を模倣した甕と思われる。1357 は完形に復元された壺で、肩部に線刻による絵画がみられる。第 168 図では

口縁部を除外して頸部以下を上から見た状態を図示しているが、左側には網もしくは柵のような格子状の線刻があり、その右側に何らかの絵画（舟？動物？）がみられる。1364 は壺の底部で、底部外面に木葉圧痕がみられる。1371 ～ 1373 は接点がないものの、同一個体の可能性が高い。1374・1375 は小型の脚部で器形は不明だが、他地域にみられる製塩土器の脚部に類似している。

石器（第 252・253 図 2615 ～ 2624）

石器は、東側周壁沿いの土坑とその周辺で、鉄銹が付着した大型の砥石 (2615,2622) や鉄床石と思われる鉄銹が付着する台石 (2617)、小玉 (2619)、砥石（2618）と、図化はしていないが敲石、磨石等が出土した。また西側周壁中央付近のピットより砥石 (2616) が出土した。住居南東角では打製石斧 (2621) が出土している。石包丁（2623,2624）と砥石（2620）は埋土中の出土である。

鉄器（第 274 図 2895 ～ 2912）

図化していないものも含めて 28 点の鉄器類が出土しており、本遺跡の建物では群を抜いている。その大半は鉄片であるが、鏨 (2904)、鉄鏃 (2909・2912)、鉈 (2911) 等の製品も少量含まれる。鉄片には三角形状 (2895・2896・2900 ～ 2903)、棒状 (2897・2898・2905 ～ 2907・2910)、不定形 (2908) があり、図化していない 10 点はすべて鉄片で、三角形状の 1 点以外は不定形な小鉄片である。出土状況では、2905 が S26 との切り合い付近の埋土中、2904 が中央やや南西寄りの床面付近、2908 が西寄りの埋土中から出土しており、その他は南西周壁に近い土坑周辺と S6 の切り合いに近い地点の炭化材周辺に分布が集中している。土坑周辺では、2906・2910 が床面付近で出土しており、2896 は土坑上だがかなり床から浮いた地点から出土している。なお、2901 は土坑を切る南東周壁沿いのピットの埋土中からの出土である。S6 との切り合いに近い地点では、2897・2898・2900・2902・2907・2909・2911 が床面付近から出土しており、図化していない 5 点もこの付近から出土している。なお、2895・2899・2903・2912 は埋土中からの出土である。

4-S14

遺構（第 63 図）

調査区北寄り西端、S23 の南に位置し、S133 を切る。1 辺 3.8m の方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は 2 基で、北側のピットの深さが 20cm であるのに対して南側のものは 40cm あり、周壁に近い。埋土中には炭化物はあまり含まれていない。

遺物

土器（第 169 図 1376・1377）

土器の出土は少なく、2 点を図化しているが、いずれも床面付近からの出土である。

石器（第 253 図 2625 ～ 2626）

石器は、北側主柱穴の東側に 2 点、住居中央のやや南東側に 1 点、大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土している。磨石は 2626 が住居中央、軽石製の 2625 は北側主柱穴傍で出土している。その他、図化はしていないが、南側主柱穴傍で扁平な小型の台石が 1 点出土した。

4-S15

遺構（第 64 図）

調査区中央に位置し、S16 を切り、S73 に切られる。1 辺約 6.5m の方形プランとみられ、東側周壁沿いに幅約 1 m のベッド状遺構を有する。住居中央は土坑状に一段低いと考えられるが、S73 によって破壊されているためその形状や規模は不明である。主柱穴は 4 基と思われるが、近接する位置や土坑内で方形に巡るピットもあるため、立て替え等の改変が行われた可能性もある。床は地山土による貼床で、床面付近の埋土から炭化材や焼土塊が検出されており、焼失住居の可能性がある。

遺物

土器（第 169 図 1378 ～ 1389）

土器は炭化材等よりも浮いた状態で出土しており、埋没段階に投棄された可能性が高い。1379 はほぼ完形に復元された壺で、底部外面に 2 ヵ所の器面剥離がみられ、人為的な敲打によって生じた可能性がある。1384 は頸部以下はほぼ完全に復元された壺で、口縁部は全く出土していない。1387 は端正な作りの小型丸底鉢で、搬入品の可能性が高い。

石器（第 252 図 2627 ～ 2632）

石器は、東側周壁沿いのベッド上で、乳白色の棒状の砥石 (2627) が出土している。石包丁 (2629) は、貼床の中から出土した。中央の一段低い床から管玉

(2632) が出土している。その他、北西側周壁で磨石（2628)、ベッドの中央落ち際で打製石斧 (2631) が出土している。砥石 (2630) は埋土中の出土である。

鉄器（第 274 図 2913 ～ 2915）

竪穴東側の埋土中から 3 点の鉄器が出土している。2913 は完存する大型の柳葉鏃で、茎には口巻きの樹皮と矢柄の一部と思われる断面円形の有機質が残存している。2914 は両端を欠損しているが、断面は方形で残存する一端には片逆刺がみられ、刺突漁具の可能性がある。2915 は筒状の断面形を呈する薄い鉄器の一部とみられるが、器種等は不明である。

4-S16

遺構（第 63 図）

調査区中央に位置し、S15 に切られる。長軸約 6m、短軸約 5.5m の長方形プランとみられ、北東側周壁中央に突出壁を有する。南東側周壁から住居中央にかけて幅 2m ほど床が低く、その周囲はコの字形のベッド状遺構を呈する。また、東隅角の周壁に沿って土坑もみられる。主柱穴は窪んだ床面の最深部を挟む 2 基と考えられるが、南東周壁沿いにも対を成すピットがみられる。このピット間の南東周壁は外側にやや張り出しており、入り口の構造と関連するピットである可能性が考えられる。床は地山土による貼床で、床面付近の埋土から炭化材や焼土塊が検出されており、焼失住居の可能性が高い。炭化材を年代測定した結果、1795 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 169 図 1390 ～ 1393）

土器は少なく、4 点を図化しているが、1390 は南東側周壁に近い低い床面付近、1391 は S15 に近い北西側周壁沿いからの出土で、その他は埋土中からの出土である。1393 は長頸壺の頸部もしくは器台の一部と思われ、ミガキ調整が施された外面に直線や曲線を組み合わされた区画を描き、その中を平行する曲線で埋めた文様がみられる。

石器

石器は図化していないが、南側周壁中央付近で磨石が 1 点のみ出土している。

鉄器（第 275 図 2916 ～ 2921）

8 点の鉄器類が出土しており、6 点を図化した。2916 が竪穴東側床面上からの出土で、その他は埋土中からの出土である。2916 は完存する柳葉鏃で、鋒はやや丸みを帯び、刃部は鏃身最大幅を測る部分からやや下位までみられる。2917 は両端が欠損した断面方形の鉄器で、残存する下位には先端の尖った太くて長い片逆刺を有し、刺突漁具の可能性がある。2918 はやや厚手で板状を呈する鉄片である。2919 は埋土中からの出土で、2893 と類似した形状を呈し、鏨の可能性がある。2920 は両端が尖り、細く扁平な鉄片で、木質が多く銹着している。2921 は断面長方形の鉄器の茎と考えられるが、器種は特定できない。

4-S17

遺構（第 65 図）

調査区中央、S16 の南に位置する。長軸約 6m、短軸約 4m の長方形プランで、一部途切れる部分もあるが、周壁沿いに壁溝がみられる。住居の中央付近には 1.3m ほど間隔を空けて径 50cm、深さ 10cm の土坑が並んでおり、その上をそれぞれ覆うように焼土が検出された。また、南隅角付近にも同大の土坑が 2 基確認されたが、角に近い側の土坑内から粘土と焼土の塊が検出されている。主柱穴は北西・南東周壁沿い及び住居中央に位置する 3 基とみられ、床面からの深さは約 40cm である。この 3 基以外にも周壁沿いに複数のピットが確認されているが、深さもやや浅く、住居の上屋構造と関連するピットであるか判断できない。床は地山土による貼床で、床面付近の埋土から炭化材や焼土塊が検出されており、焼失住居の可能性が高い。炭化材を年代測定した結果、1700 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 169 ～ 171 図 1394 ～ 1425）

土器は 32 点を図化しているが、いずれも床面から浮いた状態で、埋土中からの出土である。埋土中から多くの土器が出土する場合、中央付近から出土することが多いが、ここでは周壁に近い位置から多く出土している。

石器（第 253 図 2633 ～ 2638）

石器は石包丁が 5 点出土しており、2635 ～ 2638 は南隅角の土坑付近、2636 は東側周壁中央付近、2634 は貼床中から出土した。東側周壁の南

西角付近の壁帯溝で、砥石 (2633) が出土している。また、図化はしていないが北側主柱穴よりやや西側と、南側周壁中央よりやや西側付近で小型の台石が出土している。

鉄器（第 275 図 2922）

2922 は 1395 の土器と同じ地点から出土した刀子の身～茎で、刃部と茎の境目には直角関を有し、茎の端部寄りには目釘穴がみられる。

4-S18

遺構（第 65 図）

調査区北側中央、S9 の南東に位置し、S49・103 に切られる。北側隅角付近を削平されているが、長軸約 6m、短軸約 5.5m の長方形プランとみられ、南東側周壁の中央やや西側に突出壁を有する。東・南隅角部分と北西側周壁沿いにはベッド状遺構がみられ、住居の中央から南東側周壁中央部分はＴの字形に床が低くなっている。主柱穴は４基で、３基はベッド上、１基はベッド状遺構と低い床の境界に位置する。床は地山土による貼床で、床面付近の埋土から炭化材や焼土塊が検出されており、焼失住居の可能性が高い。炭化材を年代測定した結果、1875 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 172 ～ 174 図 1426 ～ 1482）

土器は 57 点図化しているが、大半は埋土中からの出土で、建物廃絶後に投棄されたものと思われる。1446・1478 は北西側ベッド上、1433・1464 は南角のベッド上、1439・1449・1451・1469・1481 は南西周壁中央に近いベッドに挟まれた低い床面付近からの出土である。1438 は在地の胎土だが他の甕よりも精良で器壁も薄く、布留式系の甕を模倣したものとみられる。1458 は上げ底を呈する鉢で、外面に二次焼成を受けている。1456 は底部に木葉圧痕がみられる。

石器（第 253・254 図 2639 ～ 2642）

石器は、住居中央よりやや南側で磨石（2640）が出土している。図化はしていないが南側周壁中央付近で小型の台石が出土している。石包丁３点（2639.2641.2642）は埋土中の出土である。

鉄器（第 275 図 2923・2924）

埋土中から２点の鉄器が出土している。2923 は無茎の三角形鏃で基部は台形状に深く窪んでいる。2924 は両端部を欠き、扁平な長方形断面を呈する鉄製品で、大きく屈曲している。刃部等はみられないが、身部の形状から鉈の可能性が考えられる。

4-S19

遺構（第 66 図）

調査区北側東寄り、S18 の北東に位置する。長軸 6.6m、短軸 5.9m の長方形プランを基本として、東側周壁の一部が幅２m、奥行き 80cm 突出するベッド状遺構となっている。主柱穴は４基で、南側周壁に近い２基の間から南側周壁にかけて２基の土坑がみられる。床は地山土による貼床で、貼床を除去すると南西・北西・北東の主柱穴間に幅 20cm 深さ 10cm の溝が検出された。埋土中から少量ながら炭化物が検出され、年代測定を行ったところ 1740 ± 50 年 BP の年代が得られた。また、炭化物には種実も含まれており、これについても年代測定を実施したところ、1710 ± 25 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 175 図 1483 ～ 1486）

遺物は少なく、土器は４点図化しているが、1485 が床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。1483・1484 は甕の口縁部で、いずれも小片だが胎土や色調、器形から搬入品である可能性が高い。

石器（第 254 図 2643 ～ 2646）

石器は、住居の北東角付近で砥石 (2644)、東側ベッド上で磨石 (2643) が出土している。その他、住居中央よりやや東側で磨石 (2645)、南側周壁中央付近で砥石 (2646) と図化はしていないが敲石が１点出土している。

鉄器（第 275 図 2925 ～ 2927）

埋土中から３点の鉄器が出土している。2925 は身の先端側を欠く刀子とみられ、細く短い茎と刃部の境には斜め関がみられ、背側も茎から身にかけて幅が広がる。2926 は鍛打によって断面方形に成形された棒状の鉄器で身部を欠く。2927 も断面形が不明瞭だが樹皮状の繊維が巻かれた棒状の鉄器で、鉄鏃の茎である可能性が高い。

4-S20

遺構（第 66 図）

調査区中央やや南寄り、S17 の西に位置し、S21

を切る。長軸 4.2m、短軸 4.0m の長方形プラン呈し、主柱穴は２基である。検出面からの深さが 10cm ほどと浅く、床は地山面を利用している。埋土中から焼土や少量の炭化材が検出されているが、S21 に由来する可能性がある。

遺物

土器（第 175 図 1487）

遺物の出土は少なく、1487 は南東角に近い床面付近から出土したドーナツ状の平底を呈する鉢である。

鉄器（第 275 図 2928・2929）

南側の埋土中から２点の鉄器が出土している。2928 は断面方形の茎から先端が欠損した身幅の狭い鉄器で、残存部には刃部はみられない。2929 は両端が欠損した断面方形の棒状を呈する鉄器の一部で、器種は不明である。

4-S21

遺構（第 67 図）

調査区中央やや南寄りに位置し、S20 に切られる。１辺４ｍの方形プランで、周壁沿いに壁溝がみられるが、北側だけ一部にしかみられない。主柱穴は東西方向に並ぶ２基で、床面からの深さは 40cm ほどである。このほかの３基のピットは全て深さ 10cm との浅いもので、柱穴とは考え難い。床は地山土による貼床で、床面付近の埋土から炭化材や焼土塊が検出されていることから、焼失住居と考えられる。なお、西側の主柱穴上には木口面が上に向いた状態の炭化材が検出された。この炭化材を含む３点について年代測定した結果、それぞれ 1810 ± 40 年 BP、1770 ± 40 年 BP、1730 ± 60 年 BP の年代を得ている。また、炭化材の上に堆積していた埋土は地山土のブロックを多く含むもので、屋根上の盛土と考えられる。

遺物

土器（第 175 図 1488）

土器の出土は少なく、１点のみ図化した。1488 は床面付近から出土した小型丸底壺である。

石器（第 254 図 2647・2648）

石器は、西側周壁の中央よりやや南付近で台石（遺構図内に図化）、住居南西角で磨石２点 (2647.2648) が出土した。また、図化はしていないが東側周壁中央付近で磨石が１点出土している。

4-S22

遺構（第 67 図）

調査区中央、S15 の南西・S20 の北に位置する。長軸 2.9m、短軸 2.4m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は北・南側周壁中央に接する２基で、床面からの深さは約 30cm を測る。埋土中には炭化物や焼土粒の混入が多くみられ、西側周壁沿いでは幅 30cm・長さ２ｍに渡って焼土が検出されていることから、焼失住居の可能性がある。

遺物

土器（第 175 図 1489 ～ 1495）

遺物の出土は少なく、土器は７点を図化しているが、いずれも床面からやや浮いた状態で出土している。1490 は残存部が完形であり、口縁部を人為的に破損した可能性が高い。1495 は内外面に赤色顔料の塗布がみられる。

石器（第 254 図 2649）

石器は、住居北側角で、鉄銹の付着した砥石 (2649) が出土した。埋土中でも砥石を１点確認している。

4-S23

遺構（第 67 図）

調査北側の西端、S12・S14・S55 の間に位置し、S230 に切られる。南側周壁が攪乱を受け、西側は調査区外まで延びているため規模は不明だが、南側周壁の立ち上がりが一部残存しており、東西に長い長方形プランと考えられる。床は地山面を利用しており、ピットが２基検出されているが、北側のものが深さ 40cm、南側のものが深さ 10cm で、上屋構造に関わるピットなのか判断できない。

遺物

土器

土器は図化していないが、分厚く、やや上げ底状を呈する甕の底部が出土している。

石器（第 254 図 2650・2651）

石器は、北側のピット周辺で３点の台石（2650.2651 の２点を図化）が出土したのみでる。

4-S25

遺構（第 68 図）

調査区中央西端、S４の北西、S14 の南に位置する。

長軸 4.7m、短軸 4.2m の長方形プランで、床は地山面を利用している。主柱穴２基で他住居に比べるとやや中央に寄っている印象を受ける。埋土は他住居に比べ黒みが強く、炭化物や焼土粒は含まれていなかった。

遺物

土器（第 175 図 1496 ～ 1498）

土器の出土は少なく、高坏３点を図化しているが、いずれも埋土中からの出土である。

石器

石器は、住居南東角で敲石と最大長 20cm 程の小型の台石２点、西側周壁沿いに小型の台石２点、東側周壁中央付近に小型の台石その他３点出土しているが、図化はしていない。

4-S26

遺構（第 68 図）

調査区中央西寄り、S15 と S11 の間に位置し、S13・94 を切り S38 に切られる。長軸 5.5m、短軸 4.5m の長方形プランを基本として、南側周壁中央がやや外側に広がっている。この周壁が広がっている部分に沿うように住居中央部まで床が土坑状に窪み、その周囲がコの字形のベッド状遺構となっている。床は地山土による貼床で、主柱穴は東西方向に並ぶ２基と思われる。なお、南側周壁に沿う土坑状の窪みの両端には深さ 10cm ほどのピットがみられ、住居の入り口構造に伴う可能性がある。また、床面上の埋土から住居の中心に向かって放射状に倒れ込んだような状態の炭化材や焼土が多く検出されており、焼失住居と考えられる。３点の炭化材について年代測定を実施したところ 1680 ± 40 年 BP、1710 ± 40 年 BP、1660 ± 40 年 BP の各年代が得られた。

遺物

土器（第 175 図 1499 ～ 1511）

土器は埋土中からの出土がほとんどで、1501・1502・1505・1509・1510 が南西角からまとまって出土している。

石器（第 255 図 2652・2653）

石器は床面直上では敲石２点 (2652.2653) と図化はしていないが､磨石１点が出土したのみである。

鉄器（第 275 図 2930・2931）

2930 は東側周壁中央壁際の床面付近から出土したもので、茎が欠損した柳葉鏃である。表面に多くの藁状の有機質が銹着しているが、鉄器の周囲からは多くの炭化材が検出されていることから、屋根材に使用された藁状の植物が銹着した可能性が考えられる。2931 は両端を欠き、薄く細長い板状の鉄製品で、刃部等も残存していないため判然としないが、鉈の可能性が考えられる。このほか、図化していないが、埋土中から三角形状の鉄片が１点出土している。

4-S27

遺構（第 69 図）

調査区中央南寄り、S20 の北西に位置する。長軸 5.3m、短軸 4.8m の長方形プランを基本として、北東側周壁の４/ ５が１ｍほど外側に張り出している。住居の南側隅角周辺は長軸 3.5m・短軸３ｍの長方形土坑状に一段床が低く、北西～北東周壁沿いは幅２ｍのベッド状遺構となっている。主柱穴はベッド上と南東側周壁沿いの４基と思われるが、土坑状の落ち込み内にある他の２基についても上屋構造に関わるピットである可能性が高い。また、北東側周壁が張り出す位置と対応するように、ベッド上に主柱穴とほぼ同じ深さのピットが１基みられる。南東側周壁沿いの主柱穴間には南側に寄って土坑が伴う。床は地山土による貼床で、ベッド状遺構上から楕円形状に焼けた床面が確認されている。炭化材は検出されなかったが、床面上の埋土には炭化物が多く混入する層もみられた。

遺物

土器（第 176 ～ 180 図 1512 ～ 1552）

南側角の低い床面上の埋土中から多量の土器が土器溜まりのような状態で出土しており、建物廃絶後に投棄されたものと考えられる。図化した 41 点のうち、1512 ～ 1526 はベッド上もしくは土器溜まりを除去後に埋土中から出土したもので、1527 ～ 1552 が土器溜まりからの出土である。1525 は高坏で内外面に赤色顔料の塗布がみられる。1541 は大型の壺で胴部外面に目の粗い網状の陰がみられる。1544 は壺で、図化していないが、胴部下半の器面に３ヵ所の剥離がみられ、人為的な破損の可能性がある。1552 は大型の壺で、底部はドーナツ状の平底を呈し、中央の窪みには桃核状の圧痕がみられる。

石器（第 255 図 2654 ～ 2660）

石器は、床面直上で敲石 8 点（2655,2657,2658 の 3 点を図化）、磨石 4 点（2656 のみ図化）、砥石 (2660)、打製石斧 3 点 (2654 のみ図化)、磨製石斧 1 点、台石が 2 点出土している。擦り切り痕のある砥石 (2659) は埋土中の出土である。

鉄器（第 275 図 2932 ～ 2934）

竪穴中央付近の埋土中から 2932・2933 と図化していない棒状の鉄片が出土し、北西側周壁中央沿いの床面付近から 2934 が出土している。2932 は断面方形で先端が尖る細長い茎状の鉄器で、身部が欠損しているため器種は不明である。2933 は断面長方形状で先端に向かって細くなる刀子の茎部とみられる。茎の周囲には木製の柄が残存しており、柄元の面は棟側が長く、刃部側が短くなるように斜めにカットされている。刀身部はほとんど失われているが、茎部と刃部の境はナデ関状を成している。2934 は断面方形に成形された棒状の鉄器で、身部側が欠損しているため器種は不明だが、茎の可能性が考えられる。

4-S30

遺構（第 69 図）

調査区中央西端、S11 の南、S27 の北西に位置し、S28・56・59 に切られる。規模は不明だが、小型の長方形プランとみられ、床は地山土による貼床とみられるが、ピット等は確認されていない。

遺物

土器（第 180 図 1553 ～ 1560）

出土遺物は少なく、土器は 8 点を図化しているが、1555・1557・1559 が床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。1555 は鋸歯文がほどこされた二重口縁壺で、擬口縁の口唇部には凹線がみられる。1560 は杓子形土製品で柄はやや斜め上方に延びる。

4-S57

遺構（第 69 図）

調査区中央西端、S11 の北西に位置し、S58 に切られる。検出面からの深さが非常に浅く、東側周壁の立ち上がりが確認できなかったが、長軸約 3.2m、短軸 2.6m 前後の長方形プランとみられる。床は地山土による貼床で、主柱穴は南北方向に並ぶ 2 基とみられ、北西の隅角付近には径 60cm の円形の土坑が伴う。主柱穴の間からやや東寄りの床面上には 60 × 40cm の楕円形で厚さ 4 cm の焼土が堆積していた。

なお、図化を要する遺物は出土していない。

4-S58

遺構（第 69 図）

調査区中央西端に位置し、S57 を切る。西側は調査区外まで続いているため形状は不明だが、方形もしくは長方形状の平面プランとみられ、南北方向の周壁間の距離は約 2.5m である。床は地山土による貼床で、柱穴等は確認されていない。

遺物

土器（第 181 図 1561）

遺物は少なく、1561 は埋土中からの出土である。

4-S59

遺構

調査区中央西端、S11 の南に位置し、S30 を切り、S28 に切られる。西側周壁を失っているが、長軸約 4 m、短軸約 3 m の長方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。主柱穴は北・南周壁中央付近に沿う 2 基とみられ、床面からの深さは 20cm ほどと浅い。

遺物

土器（第 181 図 1562 ～ 1569）

遺物の出土は少なく、土器を 8 点図化しているが、いずれも埋土中からの出土である。

4-S73

遺構（第 64 図）

調査区中央に位置し、S15 を切る。長軸 4.5m、短軸 3.5m の長方形プランで、床はほぼ地山面を利用している。主柱穴は長軸方向に主軸を持つ 2 基とみられる。埋土中には炭化物や焼土が多く含まれていたが、S15 に由来する可能性もある。

遺物

土器（第 181 図 1570 ～ 1581）

床面よりやや浮いた状態で多くの土器が出土しており、建物廃絶後に投棄された可能性が高い。

石器（第 255・256 図 2261 ～ 2266）

石器は、南側主柱穴の南側で台石（遺構図内に出

土状況を図化）が出土した。その他、床面直上では砥石２点 (2662 のみ図化)、敲石２点 (2661 のみ図化)、石包丁 (2666) が出土している。玉 (2664) と石包丁 (2663,2665) は埋土中の出土である。

4-S139

遺構（第 70 図）

調査区南端中央付近に位置し、S142 を切り、SB224 に切られる。長軸約３m、短軸約 2.6m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。南東周壁寄りでピットが１基検出されているのみで、主柱穴は不明である。住居の中央付近では床面上に焼土の堆積がみられ、埋土中にも少量の炭化物が含まれていた。炭化物について年代測定を行ったところ、1715 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 182 図 1582 ～ 1589）

土器は８点図化しているが、いずれも埋土中からの出土で、このほかにも床面から 10cm 程浮いた状態で多くの土器が出土している。

石器（第 256 図 2667 ～ 2669）

石器は敲石２点 (2668,2669) と石包丁 (2667) が埋土中から出土している。

4-S140

遺構（第 70 図）

調査区南端中央付近に位置し、S142･143 を切り、S28 に切られる。長軸約 4.8m、短軸約 4.5m のほぼ方形に近いプランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は２基で、床面からの深さは約 35cm である。

遺物

土器（第 182 図 1590 ～ 1594）

遺物は少なく、土器は５点図化しているが、いずれも埋土中からの出土である。1594 は内面も丁寧に磨かれており、小型器台の可能性がある。

石器（第 256 図 2670・2671）

石器は、北東側周壁の中央付近で台石（遺構図内に出土状況を図化）と磨石（2670）が出土している。石包丁（2671）は、埋土中の出土である。

4-S141

遺構（第 70 図）

調査区南端中央付近に位置し、S143･145 を切り、S146 に切られる。長軸約 3.8m、短軸約 3.0m の長方形プランを基本として、東側周壁の中央が 1.5m の幅で 50cm ほど外側に張り出す。床は地山土による貼床で、南側周壁に沿って幅 1.2m のベッド状遺構がみられる。主柱穴は不明だが、東側周壁の突出部分の壁に対応するような位置に２基の浅いピットがみられる。なお、南側周壁のベッド状遺構の段は S143 の周壁の位置と一致しており、低い部分の床面の高さも S143 とほぼ同じであることから、S141 は S143 の拡張部分もしくは当初からの突出部分であった可能性も考えられる。

遺物

土器（第 182・183 図 1595 ～ 1608）

土器は８点を図化しているが、1596 は東側突出部、1598・1600 は南側ベッド上、1601 は北西角の床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。1599・1601・1603 はドーナツ状の平底を呈し、1603 は窪みに桃核状の圧痕がみられる。1606 の鉢は底部内面に鉄銹の付着がみられる。1608 は杓子形土製品の柄部分である。

石器（第 256 図 2672）

石器は、図化はしていないが、西側主柱穴傍の南側ベッドの落ち際で、最大長 20cm 程の小型の台石が出土したのみである。石包丁 (2671) は埋土中の出土である。

鉄器（第 275 図 2935）

2935 は埋土中から出土したもので、柳葉鏃の鏃身部である。

4-S142

遺構（第 71 図）

調査区南端中央付近に位置し、S143 を切り、S28、139、140 に切られる。長軸約 5.8m、短軸約 5.3m の長方形プランとみられ、北西側隅角周辺に長軸 3m、短軸 2.3m のベッド状遺構を有する。床は地山土による貼床で、一部炭化物の混入もみられた。主柱穴は４基で、床面からの深さは 40 ～ 50cm を測る。ベッド状遺構と住居中央には焼土の堆積がみられた。

遺物

土器（第 183 図 1609 ～ 1619）

土器は 11 点図化しているが、いずれも埋土中か

らの出土である。なお、1612・1615・1617 は床からは浮いていたがほぼ同じ地点から出土している。1613 は焼成以前に底部中央に孔が穿たれた有孔鉢とみられる。

石器（第 256 図 2673 ～ 2675）

石器は、北西角のベッド状遺構のほぼ中央で、緑色頁岩製の不明石器（2673）が出土したほか、図化はしていないが、住居の中央付近で磨石が出土している。石包丁 (2674)、磨製石斧 (2675) は埋土中の出土である。

4-S143

遺構（第 71 図）

調査区南端中央付近に位置し、S219 を切り、S140、141、142 に切られる。周壁のほぼ半分が失われているが、一辺約 6.2m の方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。主柱穴は 4 基で、南側周壁に近いピットの間に長軸 1 m の楕円形土坑がみられる。また、南側周壁近くの床面上から焼土の堆積も確認された。

遺物

土器（第 183 図 1620 ～ 1627）

土器は 8 点図化しているが、1620・1623・1624 は楕円形土坑周辺、1621 が南側周壁沿いの床面付近から出土しており、その他は埋土中からの出土である。

石器（第 256・257 図 2676 ～ 2681）

石器は、南側周壁傍の土坑内で、磨石 3 点（2678.2680.2681）と敲石（2677）がまとまって出土した。また、南側周壁中央付近で磨石 (2676) が出土している。砥石 (2679) は、埋土中の出土である。

鉄器

図化していないが、埋土中から棒状と板状の小さな鉄片が 2 点出土している。

4-S144

遺構（第 72 図）

調査区南端中央付近に位置し、S219 を切る。長軸約 4.9m、短軸約 3.3m の長方形プランを基本として東側周壁の北半部が 50cm ほど外側へ張り出す。床は地山土による貼床で、主柱穴は長軸に平行する 2 基である。

遺物

土器（第 184 図 1628 ～ 1635）

土器は 8 点を図化しているが、1628 が北側周壁中央寄り、1630 が東側突出部分、1634 が南東側角寄り、1635 が西側主柱穴付近の床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。

石器（第 257 図 2682・2683）

石器は、西側周壁中央付近で、浅い筋状の砥面を有する砥石（2682）が出土している。図化はしていないが、南側周壁中央付近で、主柱穴とほぼ平行の位置に台石が 2 点出土した。水晶の原石 (2683) は、埋土中の出土である。

鉄器（第 275 図 2936）

2936 は北西の埋土中から出土した方形断面で棒状に成形された鉄器である。接合はしないが同一地点から出土しており、同一個体と考えられる。長い方のものは両端が欠損し、わずかに屈曲がみられる。短い方のものは一方の端部は欠損しているが、もう一方はやや尖り気味である。

4-S150

遺構（第 72 図）

調査区南部東寄り、S17 の南に位置し、S170 に切られる。長軸約 6.0m、短軸約 5.7m の長方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。主柱穴は 4 基とみられるが、配置が南西周壁側に偏っている。主柱穴以外に北西側周壁に平行して並ぶ 2 基と南西側周壁に並ぶ主柱穴の中間に 1 基のピットがあり、主柱穴よりも深さが 20cm ほど浅いものの、上屋構造と関連するピットと考えられる。床面からやや浮いた状態で住居中央に向かって倒れ込んだような状態の多量の炭化材が検出されている。また、この炭化材の上に重なるように焼土も検出されていることから、本住居の屋根構造は土屋根であったと考えられる。なお、炭化材は 5 点について年代測定を実施し、それぞれ 1810 ± 40・1830 ± 40・1750 ± 40・1800 ± 25・1760 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 184・185 図 1636 ～ 1662）

土器は 27 点図化しているが、いずれも炭化材上の埋土中からの出土であり、建物の上屋焼失後に投棄された可能性が高い。1636・1640・1641・

1648・1653 ～ 1656・1658・1662 は南東側周壁沿いから破片の状態で出土している。1637・1638・1644・1645・1647 は南西側周壁寄りの地点で、かなり原形を保った状態で出土している。1651 は深い鉢状の器形で、外面には多量の煤が付着している。1656 は小型の鉢で、底部外面に木葉の圧痕がみられる。

石器（第 257 図 2684 ～ 2689）

石器は、図化はしていないが住居南東角で大型の台石が出土したほか、床面直上で石包丁 (2686)、鉄銹が付着する台石（2684）、砥石 (2685)、筋砥石（2689）、図化はしていないが磨石、敲石等が出土している。石包丁（2687,2688）は埋土中の出土である。

鉄器（第 275 図 2937・2938）

2937 は中央付近の炭化材下から出土したもので、両端を欠き、断面方形に成形された棒状の鉄器である。2938 は南西部埋土中から出土した、断面方形に成形された棒状の鉄器で、両端ともに欠損しているが、下に向かって若干細くなる。その他、炭化材下の埋土中から鉄片が 1 点出土している。

4-S151

遺構（第 73 図）

調査区南側中央付近、S140 の北に位置する。検出段階で周壁は既に無く、長軸約 3.5m、短軸約 3.2m の方形に近いプランで地山土による貼床の痕跡が検出されている。貼床痕跡内で 5 基のピットが検出されているが、主柱穴は北・南周壁の中央に沿うように分布する 2 基と思われる。主柱穴の内側に並ぶ 2 基は住居外のピットと方形に並ぶため、完全に削平された別住居の主柱穴となる可能性もある。住居の中央から西側周壁方向に並んで 2 基の土坑があり、中央のものには焼土が堆積していた。西側の土坑には炭化物を含む黒褐色土が堆積しており、埋土が異なる為別遺構の可能性が高い。

遺物

土器（第 186 図 1663 ～ 1667）

土器は 5 点図化しているが、全て床面よりもやや浮いた位置からの出土である。

石器（第 257・258 図 2690 ～ 2693）

石器は、西側土坑の南側に敲石（2693）と図化はしていないが小型の台石が出土している。また住居の中央付近で磨製石斧（2691）、打製石斧（2692）が出土している。打製石斧（2690）は、貼床の掘削中に床下から出土した。

4-S152

遺構（第 73 図）

調査区南部東側、S140 の東に位置し、S153 に切られる。東側周壁を全て失っているため規模は不明だが、北と南の周壁間の距離は約 2.8m で東西に長い長方形プランと思われる。床は地山面を利用しており、S153 の床面よりも 30cm ほど高い。主柱穴も不明で、図化を要する遺物も出土していない。

4-S153

遺構（第 73 図）

調査区南部東側、S150 の南に位置し、S152 を切る。長軸約 5.5m、短軸約 4.9m の長方形プランを基本として、北東・北西・南西の周壁中央にはそれぞれ外方に張り出す突出部を有する。突出部はいずれも床が竪穴部よりも 10cm ほど高いベッド状（棚状）となっており、北東が 1.6m × 1.0m の長方形、北西が 1.2m × 70cm の台形、南西が 1.9m × 1.2m の長方形プランを呈する。南東側周壁の中央から住居中央にかけて幅 1.7m、奥行き 2.0m、深さ 10cm の楕円形土坑状に落ち込み、その中央から南東側周壁寄りには深さ 10cm の小さなピットが伴う。主柱穴は長軸方向と平行に並ぶ 2 基で、床面からの深さは 35 ～ 40cm を測る。主柱穴以外に 3 基のピットがみられるが、深さが 20cm 以下と浅い。

遺物

土器（第 186 図、1668 ～ 1679）

南東側周壁の中央に接続する低い床面上の埋土中から 1668 ～ 1671・1673 ～ 1676・1678・1679 が出土しており、その他は埋土中からの出土である。1673・1674 はいずれも口縁部以外は完形であり、人為的に口縁部を破損している可能性が高い。

石器（第 258 図 2694・2695）

石器は、北西側周壁中央付近で砥石（2695）、西側角で石包丁 (2694) が出土している。

鉄器（第 275 図 2939 ～ 2943）

2939 は西角付近の埋土中から出土した無茎の柳葉鏃で、左右で鏃身部の膨らみがやや異なる。2940 は南東の土坑状に低い部分の埋土中から出土

したもので、茎部が欠損した柳葉鏃の可能性が考えられる。2941 は 2940 と一緒に出土しているが接点は無く、別個体の可能性がある。扁平な長方形状の断面で、刃部もみられない。2942 は東角付近の床面上から出土した鉄片である。2943 は東角付近の埋土中から出土した断面方形の棒状鉄器で、両端は欠損している。

4-S154

遺構（第 74 図）

調査区南部中央、S27 の南西、S151 の北西、S28 に囲まれた範囲内に位置する。長軸約 5.5m、短軸約 4.9m の長方形プランを基本として、北西・南西周壁の中央、南東周壁の南角側にはそれぞれ外方に張り出す突出部を有する。突出部がみられない北東周壁の中央に内側 1.1m 程延びる突出壁がみられる。竪穴の中央は北西側周壁の突出部とほぼ同じ幅で南西側周壁中央付近まで長方形の土坑状に床が低くなっているが、北東周壁の突出壁から西では土坑の立ち上がりが無く、周囲の高い床と連結する。南西側周壁の突出部には不整形な土坑が伴う。主柱穴は竪穴中央の落ち込み際にある 4 基と思われる。北東周壁の突出壁よりも北側にも 2 基のピットがみられるが、その性格は不明である。

遺物

土器（第 186 図 1680 ～ 1686）

土器は 7 点を図化しているが、1682 が北西側突出部周壁中央沿い、1685 が中央の低い床面東寄りから出土しており、その他は埋土中からの出土である。1683 は底部内面の中央が袋状に窪んでいる。1684 は小片だが、凹線文系の高坏の坏部と思われる。

石器（第 258 図 2696 ～ 2701）

石器は、南側周壁の中央付近で勾玉 (2696) と石英の原石、南東角付近で敲石 (2697 ～ 2699)、磨石（2700）が出土した。石包丁 (2701) は埋土中の出土である。

鉄器（第 275 図 2944・2945）

2944 は南東側張り出し部分の周壁沿い床面近くから出土したもので、身幅の異なる完存した柳葉鏃２点と細長い板状の鉄片が銹着している。身幅の広いものは茎が細くやや薄いのに対し、身幅が狭いものは重厚で長い茎を有する。2945 は中央北寄りの埋土中から出土したもので、細長く扁平な棒状で一方の長側面に片刃の刃部を有する小型の刀子と考えられる。

4-S156

遺構（第 75 図）

調査区南部西端、S154 の西に位置し、S28・157・159 を切る。長軸約 5.6m、短軸約 4.5m の長方形プランを基本として、北側周壁の中央が奥行き 1.2m ほど台形状に外方へ突出する。床は地山土による貼床で、突出部に向かって緩やかに高くなっている。主柱穴は長軸方向と平行に並ぶ３基と思われるが、突出部に近いものは他の２基よりも 10cm ほど浅い。

遺物

土器（第 187 図 1687 ～ 1692）

土器は 6 点図化しているが、1688 が南西側周壁中央付近沿い、1689 が南東周壁中央付近の床面上から出土しており、その他は埋土中からの出土である。ただし、床面からやや浮いた状態だが、1691 は北西周壁中央付近、1692 は南西周壁西角寄りの地点から完形で出土している。

石器（第 258 図 2702 ～ 2705）

石器は、住居の中央やや東寄りで台石（遺構図内に出土状況を図化）と敲石 (2702) が出土したほか、石包丁（2703）が出土している。勾玉 2 点（2704.2705）は貼床掘削中に出土した。

4-S157

遺構（第 74 図）

調査区南部西端、S154 の西に位置し、S156・211 に切られる。西半部を大きく失っているため規模やプランは不明だが、方形を基調とする平面プランと考えられる。北側周壁から北西隅角は斜め外方に突出する。床は地山土による貼床で、北側周壁から中央に向かって土坑がみられる。主柱穴は不明だが、４基の可能性がある。

遺物

土器（第 187 図 1693 ～ 1698）

遺物は少なく、土器は 6 点図化しているが、1697 が床面上から出土した以外、埋土中からの出土である。

石器（第 259 図 2706）

石器は、北側周壁中央付近で、台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土したのみである。勾玉(2706) は埋土中の出土である。

鉄器（第 275 図 2946）

2946 は北側土坑内の床面付近から出土した柳葉鏃で、茎部を欠く。鏃身部の最大幅が中央よりやや下位にあり、その位置から鋒まで刃部が施されている。

4-S159

遺構（第 75 図）

調査区南部西端に位置し、S156 に切られる。東半部を大きく失っているため規模は不明だが、短軸 3.2m 程の長方形プランと考えられる。床は地山土による貼床で、柱穴は 1 基しか確認されていないが、西側周壁の中間に位置することから、主柱穴の可能性が高い。

遺物

土器（第 188 図 1705 ～ 1712）

遺物は少なく、土器を 8 点図化しているが、1705 が床面付近、その他は埋土中からの出土である。1711 は外面に 5 条の独立した凹線とその下に鋸歯文がみられる口縁部で、小片のため器種の判断に迷うが、高坏もしくは二重口縁壺の可能性がある。

4-S160

遺構（第 75 図）

調査区南部西端、S159 の南西に位置する。西半部が調査区外に延びているため規模は不明だが、南側周壁の長さ 2.7m を測り、方形を基調とする平面プランと思われる。床は地山土による貼床で、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 189 図 1713 ～ 1715）

土器は 3 点図化したが、1714 が床面付近、その他は埋土中からの出土である。

石器（第 259 図 2707）

石器は、北側周壁付近で磨石（2707）が 1 点出土した。その他の石器は出土していない。

4-S161

遺構（第 75 図）

調査区南部西側、S164 の北東に位置する。長軸 3.3m、短軸 2.7m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。柱穴は床面では確認されていないが、完掘時に長軸方向に平行する 2 基のピットが検出されており、この 2 基が主柱穴の可能性が高い。南西隅角付近では 60 × 40cm の楕円形土坑が検出された。中央付近で少量の炭化材と焼土の広がりが確認されている。

遺物

土器（第 187 図 1699 ～ 1704）

床面よりも浮いた状態で、埋土中から多くの土器が出土している。建物廃絶後に投棄された可能性が高いと思われるが、1699 と 1702 は南東角の土坑上からまとまって出土している。

石器（第 259 図 2708）

石器は、住居のほぼ中央で砥石 (2708) が出土した。その他の石器は出土していない。

4-S163

遺構（第 76 図）

調査区南端西側、S161 の南西に位置し、S164 を切る。長軸約 5.5m、短軸約 4.5m の長方形プランを基本として、北西側周壁の中央が幅 2.5m、奥行き 1.2m ほど外方へ突出する。床は地山土による貼床で、突出部は 1 段高いベッド状を呈する。また、南東隅角から南東側周壁にかけても狭い棚状の高まりがみられる。主柱穴は長軸方向に平行する 2 基と思われ、突出部の幅に対応している。なお、S164 と主軸方向が揃っており、立て替えの可能性も考えられる。

遺物

土器（第 189 図 1716 ～ 1721）

土器は 6 点図化しているが、1717 が北東側周壁寄り、1719 が南側角の棚状の高まりに近い低い床面部分からの出土で、その他は埋土中からの出土である。1718 は手捏による小型丸底壺のミニチュアである。

石器（第 259 図 2709）

石器は、北側主柱穴のやや西側で管玉 (2709) が出土した。その他の石器は出土していない。

鉄器（第 275 図 2947）

2947 は南西部埋土中から出土した鉄片である。

4-S164

遺構（第 76 図）

調査区南端西側、S161 の南西に位置し、S163 に切られる。北側周壁を失っているが、長軸 8m 前後、短軸約 7.3m の長方形プランと考えられる。床は地山土による貼床で、東側周壁中央に向かって開口するコの字形のベッド状遺構を有する。主柱穴は４基と思われるが、そのうち３基には近接する位置にピットがみられ、上屋が立て替えられた可能性が考えられる。また、東側周壁中央に沿って二段掘りの土坑がみられ、住居中央寄りにピットが伴う。床上には中央に向けて放射状に並ぶ炭化材とその上に焼土の堆積が検出されており、焼失住居と考えられる。なお、炭化材３点について年代測定を実施した結果、それぞれ 1870 ± 40・1920 ± 40・1990 ± 40 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 190 図 1722 ～ 1745）

遺物は炭化材よりも上層の埋土中から多く出土している。1722・1732・1736・1742 は東側角付近の埋土中から近接して出土している。1733 は甕の口縁部で、胎土や色調、器形的特徴より瀬戸内地域からの搬入品である可能性が高い。1740 は凹線文系の高坏口縁部とおもわれるが、胎土は在地的である。1744 は土製の円盤で、表面はナデ調整によりなめらかに整えられている。1745 は杓子形土製品の柄である。

石器（第 259 図 2710 ～ 2712）

石器は、北西側主柱穴傍で敲石（2712）と南西角の炭化材下で石包丁（2711）、東側周壁中央付近で敲石（2710）が出土した。その他の石器は出土していない。

鉄器（第 276 図 2948 ～ 2951）

埋土中から 4 点の鉄器と 1 点の鉄片（銹の塊？）が出土しており、鉄器のみ図化した。2948 は圭頭鏃と思われるが、鏃身の先端付近を欠損している。2949 は柳葉鏃で鏃身の先端付近と茎の先端を欠く。残存する茎部は扁平な印象を受ける。2950 は鏃身部が折れ曲がって銹着した柳葉鏃と思われる。茎部の成形も不十分であり、実用に耐えられるものか疑わしいため、未成品の可能性が考えられる。2951 は圭頭鏃の鏃身部とみられ、鋒から最大幅部分まで刃部を有する。形が歪で、鏃身下位にはヨレを折り返したような痕跡もみられ、成形が粗雑な印象を受ける。

4-S165

遺構

調査区南端、S164 の南西に位置し、S177 に切られる。北側周壁を失っているため規模は不明だが、残存状況から、長軸約 3.5m の長方形プランとみられる。床は地山土による貼床で、柱穴は確認されていない。中央やや北西側で焼土を検出している。

遺物

土器（第 191 図 1746・1747）

遺物は少なく、土器２点を図化しているが、２点は北西側周壁沿いの埋土中から 1746 を下にして重なった状態で出土している。

4-S167

遺構（第 77 図）

調査区南側東端付近、S153 の南に位置し、S190・206・2-S2001 を切る。長軸約 4.3m、短軸約 3.4m の隅丸長方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は短軸方向に並ぶ２基と思われる。埋土中に炭化物を含んでおり、南側周壁沿いで焼土の堆積も確認されている。

遺物

土器（第 191 図 1748 ～ 1751）

土器は 4 点図化しているが、いずれも埋土中からの出土である。

4-S168

遺構（第 78 図）

調査区南端東寄り、S144 の南東・S167 の南西に位置し、S169・210 を切る。南西隅角を失っているが、長軸約 5.5m、短軸約 4.9m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は長軸方向と平行に並ぶ２基で、主柱穴と南東側周壁の間は床面が一段低くなっており、最深部は長さ 3.4m、幅 0.9m 前後の長方形の土坑状となっていた。

遺物

土器（第 191 図 1752 ～ 1764）

土器は 13 点図化しているが、いずれも埋土中からの出土である。なお、1752・1753・1760 は長方形土坑埋土中からの出土である。1755 は煤の付

着はないが、二次焼成を受けている。1760 は鋸歯文の中が格子状の線となっている。1763 は内外面に赤色顔料の付着がみられる。

石器（第 259・260 図 2713 ～ 2718）

石器は、南側主柱穴付近に 1 点、北側主柱穴付近に 2 点の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土したほか、磨石（2716.2717）、石包丁 (2715)、打製石斧 (2718) が出土している。石包丁（2713.2714）は埋土中の出土である。

4-S169

遺構（第 79 図）

調査区南端東寄り、S144 の南東・S167 の南西に位置し、S210 を切り、S168 に切られる。北西側を大きく失っているが、S168 内で北側隅角の痕跡が確認されており、長軸約 3.9m、短軸約 3.4m の長方形プランとみられる。床は地山土による貼床で、主柱穴は南・北側周壁中央付近に接する 2 基と思われる。床面から少量の炭化材と焼土が検出されている。

遺物

土器（第 192 図 1765 ～ 1772）

土器は 8 点図化しているが、1765・1767・1770 が中央付近、1766・1768・1769 が北側周壁寄りの床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。

4-S170

遺構（第 79 図）

調査区南部東寄り、S153 の北東に位置し、S150 を切る。長軸約 4.4m、短軸約 3.7m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は長軸方向に平行する 2 基で、南東側周壁の中央付近には不定形で中央にピット状の落ち込みを持つ土坑がみられる。北側の主柱穴とこの土坑の間にも深さ 10cm ほどのピットがみられた。

遺物

土器（第 192 図 1773 ～ 1778）

土器は 6 点図化しているが、いずれも埋土中からの出土である。1774 はドーナツ状の平底を呈し、中央の窪みには桃核状の圧痕がみられる。

石器

石器は、南側主柱穴のやや東側で台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土した。北側周壁の中央付近でも最大長 18cm 程の小型の台石が出土している。

鉄器（第 276 図 2952）

2952 は埋土中から出土した断面長方形状を呈する鉄器で両端を欠くが、鉈の可能性が高い。

4-S175

遺構

調査区南端中央、S139 の南西に位置する。検出した時点では、一辺 2m の方形で北・南側周壁中央にピットを伴う土坑がみられ、その周囲に土器や焼土の広がりが確認された。この遺物が分布する範囲内にある 3 基のピットとともに、4 基の主柱穴を有する住居跡と考えられるが、詳細は不明である。

遺物

土器（第 192 図 1779 ～ 1781）

土器は 3 点図化しているが、1779・1781 は土坑外、1780 は土坑外と土坑内から出土した土器が接合している。

石器（第 260 図 2719・2720）

石器は、残存する北西側主柱穴付近で台石（2720）と石錘 (2719) が出土しているが、遺構の削平が激しいため、住居に伴わない可能性も残る。

4-S176

遺構（第 79 図）

調査区南側東端付近、S153 の南東に位置し、S206 を切る。長軸約 3.2m、短軸約 2.9m のほぼ方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は 4 基と思われるが、いずれも深さが 20cm ほどと浅い。

遺物

土器（第 192 図 1782・1783）

2 点を図化しているが、いずれも埋土中からの出土である。

石器（第 260 図 2721）

埋土中から筋砥石（2721）が 1 点出土したのみである。

4-S190

遺構（第 77 図）

調査区南側東端付近、S141 の南東に位置し、

S167 に切られ、S206 との先後関係は不明である。長軸約 5.8m、短軸約 5.1m の長方形プランを基本として北側周壁の西半が 20cm ほど外側へ張り出し、更にその外側に同様の形状をしたベッド状遺構が付設されている。床は地山土による貼床で、主柱穴は 4 基と思われる。南東隅角付近には土坑がみられ、北西隅角付近には焼土の堆積がみられた。

遺物

土器（第 193・194 図 1784 ～ 1795）

埋土中から多くの土器が出土しており、図化した 12 点は全て埋土中からの出土である。1791 は算盤玉状に胴の張った土製の玉である。

石器（第 260 図 2722 ～ 2727）

石器は、住居南東角付近で砥石（2722）と図化はしていないが最大長 20cm 程の小型の台石が出土した。また、南東角の土坑内より鉄銹の付着した台石 (2726) と砥石（2724）が重なるように出土した。北側主柱穴のやや西側で有溝石錘（2727）と磨石 (2725) が出土している。石包丁 (2723) は埋土中の出土である。

鉄器（第 276 図 2953）

2953 は埋土中から出土した鉄器で両端を欠くが、断面が長方形状を呈し、鉋の可能性が高い。

4-S206

遺構（第 77 図）

調査区南側東端付近に位置し、S167・176 に切られる。北西・南西隅角を失っているが、1 辺約 3.0m の方形プランとみられる。床は地山土による貼床で、主柱穴は 2 基である。北から東側周壁寄りを中心に埋土中から多くの焼土が検出されている。

遺物

土器（第 194 図 1796）

遺物は少なく、土器 1 点を図化した。1796 は埋土中から出土した鉢で、底部中央が窪んだドーナツ状の平底を呈する。

4-S210

遺構（第 78 図）

調査区南端東側付近、S190 の南西に位置し、S168、169 に切られる。長軸約 5.8m、短軸約 5.1m の長方形プランを基本として北側周壁の西半が 20cm ほど外側へ張り出し、更にその外側に同様の形状をしたベッド状遺構が付設されている。床は地山土による貼床で、主柱穴は 4 基と思われる。南東隅角付近には土坑がみられ、北西隅角付近には焼土の堆積がみられた。

遺物

土器（第 194 図 1797 ～ 1804）

土器は 8 点を図化しているが、1800 が土坑付近、1802 ～ 1804 が西側のベッド上床面付近からの出土で、その他は埋土中からの出土である。1802 は有段屈曲浅鉢で、搬入品と思われる。

石器（第 261 図 2722 ～ 2727）

石器は、南東角の土坑付近で磨石（2729）と図化はしていないが小型の台石が出土している。筋砥石 (2728) は埋土中の出土である。

4-S244

遺構（第 79 図）

調査区南側東端付近、S167 の南、S210 の東に位置する。長軸約 5.0m、短軸約 4.0m の長方形プランとみられる。周壁沿いには壁溝がほぼ全週し、南側周壁中央に沿って一辺 1.5m の隅丸方形状の土坑がみられる。竪穴内にはピットは検出されておらず、主柱穴は判断できない。土坑の中央付近から焼土が検出されている。

遺物

土器

土器は図化していないが、小型丸底壺と思われる小破片等がわずかに出土している。

石器（第 261 図 2730 ～ 2733）

石器は、住居南側土坑付近で敲石 (2732,2733)、砥石 (2730) が出土したほか、図化はしていないが小型の台石が東側周壁中央付近と南側周壁中央付近で出土している。砥石（2731）は埋土中の出土である。

鉄器（第 276 図 2954）

2954 は埋土中から出土した小型の柳葉鏃で、完存している。鏃身のやや下位で最大幅を測り、鋒からその位置まで刃部がみられる。

4-S2012

遺構（第 80 図）

調査区北部東端、S19 の南東に位置する。長軸約 6.3m、短軸約 5.6m の長方形プランで、床は地山土

による貼床である。主柱穴は４基で、南隅角付近に土坑がみられる。床面よりやや浮いた状態で少量の炭化材が出土しており、年代測定を実施した結果、1700 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

石器（第 261 図 2734・2735）

図化を要する土器は出土しておらず、石器は、北西側主柱穴の西側で台石（遺構図内に出土状況を図化）、南西側主柱穴付近で磨石（2734）、敲石（2735）が出土した。

4-S2531

遺構

調査区中央東端、S16 の東に位置する。長軸約 5.7m、短軸約 4.0m の長方形プランの貼床痕跡が検出されたものである。主柱穴は長軸方向に平行な２基とみられ、北側の主柱穴の周囲は土坑となっている。主柱穴間の床面に赤化している部分がみられ、床面上に焼土が被さった状態の炭化材が出土していることから、焼失住居の可能性が高い。また、炭化材の年代測定を実施した結果、1760 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

石器（第 261 図 2736・2737）

図化を要する土器は出土しておらず、石器は石包丁が２点（2736.2737）出土した。

鉄器（第 276 図 2955）

2955 は北側の主柱穴周囲の土坑埋土中から出土した鉄片で、叉状を呈する。

土坑

4-S10

遺構（第 80 図）

調査区北側中央、S1 と S9 の間に位置する。長軸 2.5m、短軸 2.2m、深さ 10cm 程度の隅丸長方形プランで、床は地山面を利用している。東側周壁に突出壁を有し、それを挟むように北・南側周壁沿いに２基の浅いピットがみられる。

遺物

土器（第 194 図 1805・1806）

土器は２点図化したが、1805 が床面付近、1806 が埋土中からの出土である。1805 はほぼ完形に復元された鉢で、底部付近の外面に器壁の剥離がみられる。

4-S29

遺構（第 80 図）

調査区北東側、S8 の北東側周壁に近接する。長軸 95cm、短軸 85cm、深さ 13cm 前後の長方形プランで、床は地山土による貼床である。周囲には形状や大きさ、主軸方位、床構造がほぼ同様の７基の土坑が分布しており、土坑群を形成している。その内の２基は S8 に切られており、土坑群の形成自体が S8 に先行する可能性が高い。なお、フローテーションによって埋土中から炭化物が検出されており、年代測定を実施した結果、2240 ± 25 年 BP の年代を得ている。

なお、遺物は出土していない。

4-S34

遺構（第 80 図）

調査区北西側、S10 の南西に位置する。1-S610 を切る。長軸 1.5m、短軸 1.2m、深さ 55cm の隅丸長方形プランで、床は地山面を利用している。遺物の出土は殆どみられなかったが、フローテーションによって埋土中から炭化物が検出されており、年代測定を実施した結果、1770 ± 20 年 BP の年代を得ている。

なお、遺物は出土していない。

4-S36

遺構（第 81 図）

調査区北西側、S12 の北に位置する。長軸約 1.7m、短軸約 1.2m、深さ約 30cm の隅丸長方形プランで、床は地山面を利用している。

遺物

石器（第 262 図 2738）

図化を要する土器は出土しておらず、石器は底面で石包丁 (2738) が 1 点出土している。

4-S44

遺構（第 81 図）

調査区北側、S18 の北に位置する。長軸 1.3m、短軸 1.1m、深さ 35cm の隅丸長方形プランで、床は地山面を利用している。遺物の出土は殆どみられ

なかったが、フローテーションによって埋土中から炭化物が検出されており、年代測定を実施した結果、1825 ± 20 年 BP の年代を得ている。

なお、遺物は出土していない。

4-S45

遺構（第 81 図）

調査区北側、S19 の北西に位置する。長軸 165cm、短軸 145cm、深さ 60cm の隅丸長方形プランで、床は地山面を利用している。

遺物

土器（第 195 図 1807 ～ 1811）

埋土中から多くの遺物が出土している。1808・1809 は 2 層中、1807・1810・1811 は 7 層中からの出土である。

石器

石器は、図化はしていないが埋土中で石包丁を 1 点確認している。

4-S48

遺構

調査区中央西端、S25 の南に位置する。検出した時点でごく浅く、北側は周壁の立ち上がりを確認できていない。炭化物やアカホヤ火山灰粒を多く含む黒褐色土が長軸 2.3m、短軸 1.8m の隅丸長方形状に堆積していたもので、遺構の性格等は不明である。

遺物

土器（第 195 図 1812 ～ 1817）

検出面よりもやや浮いた状態で多くの土器が出土している。なお、1813 ～ 1817 は北側角に近い北東側周壁際からまとまって出土した。

石器

石器は、図化はしていないが、底面で台石 1 点、敲石 1 点が出土している。

4-S49

遺構（第 65・81 図）

調査区中央北側に位置し、S18 を切る。径 1.2m の円形状を呈する平面プランで、S18 の床面からの深さが約 45cm を測る。

遺物

土器（第 196 図 1818・1819）

土器は 2 点図化しているが、いずれも床面に近い位置からの出土である。

石器

石器は、図化はしていないが底面で最大長 18cm 程の小型の台石が出土している。

4-S55

遺構

調査区北西、S23 の東側に隣接する。長軸 145cm、短軸 120cm、深さ 50cm の隅丸長方形プランで、床は地山面を利用している。

遺物

石器（第 262 図 2739）

石器は、底面で磨石 (2739) が出土している。

4-S67

遺構（第 81 図）

調査区中央東側、S16 の南に位置する。長軸約 1.2m、短軸約 90cm、深さ約 50cm の隅丸長方形プランで、床は地山面を利用している。埋土中に炭化物がみられたため、埋土をサンプリングしてフローテーションを行い、回収された炭化物の年代測定を実施した結果、1850 ± 20 年 BP の年代が得られた。

遺物

鉄器

図化していないが、埋土中から鉄鏃の茎とみられる鉄器片が出土している。

4-S84

遺構（第 82 図）

調査区北側、 1 次拡張区との境界付近に位置し、1-S610 を切る。北側の壁をピットに切られているが、長軸 2.5m、短軸 2.0m、深さ 58cm の長方形プランで、床は地山面を利用している。

遺物

土器（第 196・197 図 1820 ～ 1828）

土器は 9 点図化しているが、いずれも床面から 10 ～ 20cm ほど浮いた状態で出土している。

石器（第 262 図 2740・2741）

石器は、底面で敲石 3 点、磨石 1 点、小型の台石 1 点が出土している。敲石 (2740) と砥石（2741）を図化している。

4-S90

遺構（第 82 図）

調査区中央西側、S11 の南に位置する。長軸約 1.4m、短軸約 1.0m、深さ約 55cm の隅丸長方形プランで、床は地山面を利用している。埋土中に炭化物がみられたため、埋土をサンプリングしてフローテーションを行い、回収された炭化物の年代測定を実施した結果、1945 ± 20 年 BP の年代が得られた。

図化を要する遺物は出土していない。

4-S91

遺構（第 82 図）

調査区中央西側、S90 の南東に位置する。長軸約 1.3m、短軸約 1.1m、深さ約 75cm の胴張の長方形プランで、床は地山面を利用している。

遺物

鉄器（第 276 図 2956）

2956 は埋土上層（２層）から出土したもので、鉄器の茎部と思われるが、身部に近い部分は欠損しており、器種は不明である。

4-S103

遺構（第 65・82 図）

調査区中央北側、S19 の南西に位置し、S18 を切る。長軸約 1.9m、短軸約 1.2m、深さ約 40cm のやや台形気味の隅丸長方形プランで、床は地山面を利用している。埋土中には焼土や炭化物の堆積がみられたため、埋土をサンプリングしてフローテーションを行った。回収された炭化物の年代測定を実施した結果、1825 ± 20 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 197 図 1829 ～ 1831）

土器は３点図化しているが、全て床面付近からの出土である。

石器

石器は、図化はしていないが、底面で最大長 19cm 程の小型の台石が出土している。

4-S129

遺構

調査区中央東端、S17 の東側に位置する。２次調査区との境界であったため東端が確認できておらず、規模は不明だが、長軸 1.3m 以上、短軸 0.8m の隅丸長方形状の平面プランと思われ、検出面からの深さは 10cm 程と浅い。西側の埋土中に白色粘土がみられ、その上位から土器片や石器が出土している。

遺物

土器（第 197 図 1833）

1833 は脚付鉢の脚部とみられ、埋土中からの出土である。

石器（第 262 図 2742）

土器は図化していないが、石器は底面で石包丁 (2742) が 1 点出土した。

4-S138

遺構

調査区中央に位置し、S15 の北側周壁を切る。長軸約 80cm、短軸 70cm のやや不整形な隅丸方形状の平面プランで、S15 の床面から 10cm ほど低く掘り込まれている。

遺物

土器（第 197 図 1834）

1834 はほぼ完形で、床面付近から横倒しの状態で出土しており、その横からは表面が赤化した礫が出土している。

4-S147

遺構

調査区中央に位置し、S15 の北側周壁を切る。長軸約 70cm、短軸 50cm の隅丸長方形状の平面プランで、中央に径 20cm・深さ 10cm のピットが伴う。

遺物

土器（第 197 図 1835）

1835 は脚付鉢の脚部とみられ、埋土中から出土している。

石器（第 262 図 2743・2744）

土器は出土しておらず、中央のピット底面で磨石（2744）と敲石 (2743) が出土した。

4-S174

遺構（第 63 図）

調査区中央東寄りに位置し、S16 の北東側周壁を切る。一辺約 90cm の隅丸方形プランで深さは中央で約 15cm を測る。

遺物

石器（第 262 図 2745）

土器は出土しておらず、石器は埋土中から勾玉（2745）が出土している。

4-S217

遺構（第 82 図）

調査区中央南側、S139 の北側に近接する。長軸 105cm、短軸 80cm の楕円形プランで、検出面からの深さは約 20cm を測る。中央が浅く窪んでおり、その上位に堆積した埋土から遺物や粘土塊、炭化材が検出されている。炭化材について年代測定を実施した結果、1830 ± 25 年 BP の年代が得られた。

なお、図化を要する遺物は出土していない。

4-S219

遺構

調査区南端中央付近に位置し、S143 と S144 に切られる。不定形な深さ 10cm 前後の落ち込みで、遺物等も出土していない。性格や時期は不明である。

なお、図化を要する遺物は出土していない。

溝状遺構

4-S28

遺構（第 83 図）

調査区中央南側に位置する。長軸約 29m、短軸約 24m の長方形に回る溝で、S59・30・140・142 を切り、S156・212・214 に切られる。断面形状は、V 字形に近い部分や浅く窪む程度の部分など、位置によって様々である。検出面における溝の幅は約 50cm ～ 1m、で、検出面からの深さは、深い部分で約 40cm を測る。南西側を除く 3 ヵ所のコーナーは、いずれも直線的な部分よりも掘り込みが浅くなっている。なお、埋土中から炭化材が検出されており、2 点について年代測定を実施した結果、2010 ± 40 年 BP、1640 ± 40 年 BP とかなり異なる年代が得られた。

遺物

土器（第 197 ～ 199 図 1840 ～ 1869）

土器は 30 点図化しているが、全て埋土中からの出土である。1845 はほぼ完形に復元された甕で、器形や胎土等から搬入品の可能性が高いとみられる。1856 は中央が窪む平底の鉢で、底部と胴部の境界付近のみ粗い工具ナデがみられる。1867 は大型の二重口縁壺で、口縁部外面には鋸歯文、肩部外面の一部には、平行する二条の波状文等の沈線文がみられる。

石器（第 262・263 図 2747 ～ 2752）

石器は、石包丁が 8 点出土しており、底面出土の 2 点 (2747.2749) と埋土中から出土した 4 点 (2748.2750 ～ 2752) を図化している。その他、埋土中から敲石、軽石等が出土している。

鉄器（第 276 図 2957 ～ 2960）

埋土中から 7 点の鉄器類が出土しており、4 点を図化した。図化していない 3 点はいずれも小さな不明鉄片である。2957 は南東側溝の中央付近から出土した小型の柳葉鏃で、茎部の先端を欠く。2958 は東側角付近から出土した鉄鏃で、基部の状況が不明瞭なため、無茎平基式三角形鏃、もしくはその他の鏃の先端なのか判断できない。2959 は北東側溝の中央付近から出土した鉄片で、三角形状を呈する。2960 は埋土中から出土した鉄片で、平面的な形状は 2947 に類似している。

その他の遺物

土器（第 197 図 1832・1836 ～ 1838）

土器は 4 点図化しているが、1832 は S2531 の北に位置するピット S114、1836 は Gr.B25 にあるピット P67、1837 は S73 の西角を切る P47、1838 は GR.C24 に位置する P46 からの出土である。

石器（第 262・263 図 2746・2753・2754）

石器は 3 点図化したが、2746 は Gr.B26 の P38 から、2753 は Gr.E24、2754 は E25 からの出土である。

鉄器（第 276 図 2961・2962）

2961 は柳葉鏃の鏃身部で、無茎の可能性が高い。鏃身部の両面に植物繊維が銹着している。2962 は Gr.C27 の包含層から出土したもので、筒状の断面形を呈する薄い鉄器の一部とみられるが、器種等は不明で、2915 と類似する。

6　三次Ｃ調査区

竪穴建物跡

5-S5

遺構（第 85 図）

調査区北端中央付近に位置し、S26 に切られる。１辺約 5 m の方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。床面上からは深さ約 30cm のピットが 1 基検出されているのみで、主柱穴は判然としない。

遺物

土器（第 200 図 1870 ～ 1877）

土器は 8 点を図化した。1870、1874 は埋土中から、その他は床面付近からの出土である。甕は頸部に明瞭な稜がみられ、底部は丸底を呈するものが多い。1875 は壺の底部とみられ、ドーナツ状の平底を呈する。

石器

埋土中で石包丁を 3 点確認しているが、床面直上では出土していない。

5-S7

遺構（第 85 図）

調査区北端東側、S5 の南東に位置する。 1 辺約 4.0m の方形プランを基本として東側周壁の北半が 20cm ほど外側に張り出す。床は地山土による貼床で、北半部は床が一段高いベッド状を呈している。また、北西隅角付近から西側周壁中央にかけて壁溝がみられる。主柱穴は東西方向に並ぶ 2 基で、それ以外に北側周壁中央に沿って 1 基、その 50cm ほど中央よりに 1 基のピットがみられる。床面上で多くの焼土の広がりが確認され、少量の炭化材や土壌化した炭化物も検出されており、焼失住居と考えられる。炭化材 1 点を年代測定した結果、1670 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 200 図 1878 ～ 1882）

土器は 5 点を図化した。全て床面付近からの出土で、1879・1880 はベッド状を呈する床面の東半部からまとまって検出されている。1878 と 1879 は甕で別個体である。1880 は高坏の坏部で内面には明瞭な段がみられるが、外面には稜線はみられない。

石器（第 264 図 1870 ～ 1877）

石器は、住居中央よりやや北西側で台石 (遺構図内に出土状況を図化) が出土した。西側周壁中央付近で石包丁 (2755) が出土したほか、図化はしていないが南西角で敲石と小型の台石、南東角付近で敲石が出土している。

5-S10

遺構（第 86 図）

調査区北端中央付近、S16 の東、S23 の北に位置する。長軸 5.2m、短軸 4.8m の長方形プランを基本として、南側周壁の西半が 30cm ほど外側に張り出す。また、西・北側周壁には内側に向かって延びる長さ 1 m ほどの突出壁がみられ、北西隅角付近を方形状に区画している。床は地山土による貼床で、床面が中央付近から東側周壁に向かってやや傾斜している。主柱穴は長方形状に並ぶ 4 基と思われるが、それ以外に 5 基のピットが検出されており、内 2 基は位置的に棟持柱の可能性が考えられる。その他、西側周壁と突出壁に近接して円形の土坑もみられる。床面上では焼土や炭化材の堆積が検出されており、焼失住居と考えられる。炭化材 1 点を年代測定した結果､1800 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 200・201 図 1883 ～ 1888）

土器は大半が住居の東半部から出土しており、1883、1884 が床面付近から、その他は埋土中からの出土である。1883 は大型の甕で外面にはタタキ調整がみられる。

石器（第 264 図 2756・2757）

石器は、西側周壁と南西側主柱穴の間で敲石 (2757)、北東側主柱穴傍で石包丁 (2756)、図化はしていないが南東角で砥石と南東側主柱穴傍で 20cm 程の小型の台石が出土している。

鉄器（第 276 図 2963 ～ 2965）

2963 は刃部を有する鉄器の一部で、器種は不明である。2964 は樹皮巻が残存する茎部から身部に続く破片で、身部は幅を広げながら緩やかに反っている。なお、2963 と 2964 は同一個体の可能性がある。2965 は細い板状の鉄片 2 枚が重なったもので、鍛冶との関連が考えられる。この他、板状と棒

状の鉄片が埋土中から出土している。

5-S12

遺構（第 86 図）

調査区北側中央付近、S23 の南に位置する。一辺約 3.5m の方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は２基で、南東側周壁中央付近に沿って楕円形の土坑がみられる。また、南側隅角付近から北東側周壁中央付近まで壁溝が巡っている。床面上から多くの焼土が検出されており、焼失住居の可能性が高い。

遺物

土器（第 201 図 1889 ～ 1893）

土器の出土量は多くなく、５点を図化した。いずれも床面付近からの出土で、1889 と 1892 は東側隅角付近、1890 と 1891 が南西側周壁中央付近からそれぞれまとまって検出された。1889 と 1890 はその場に潰れたような出土状況であることから、廃絶時の原位置の可能性が高い。また、1889 の検出に際して土器の内外から多量の砂が出土しており、内部に砂を貯蔵していた可能性もある。

石器（第 264 図 2758）

石器は、北西側周壁中央の焼土上で台石 (2758) が出土した。また、図化はしていないが、住居中央、南西側周壁中央、東側角から小型の台石を各 1 点、住居中央付近で敲石 1 点を確認している。

5-S14

遺構（第 86 図）

調査区北側中央付近、S12 の南西に位置する。１辺約 2.8m の方形プランを基本に南側周壁の中央が大きく内側に突出している。床は地山土による貼床で、床面でピット 4 基検出されているが、主柱穴は不明である。遺物は出土していないが、貼床の構造や突出壁を有する平面プラン等からこの時期の遺構としてここで扱った。

5-S16

遺構（第 87 図）

調査区北端西寄り、S17 の東に位置する。１辺約 3.6m の方形プランで、床は地山土による貼床である。北側周壁の東半を除いて壁溝が巡っている。主柱穴は南北に並ぶ２基で、深さが床から 60cm ほどと深い。床面上にわずかに焼土の堆積がみられた。

遺物

土器

土器は破片がわずかに出土したのみで、図化するものはなかった。

石器（第 264 図 2759）

石器は、北東角で石包丁 (2759) が 1 点のみ出土している。

鉄器（第 276 図 2966）

2966 は鉄鏃の茎とみられ、埋土中から出土している。

5-S17

遺構（第 87 図）

調査区北端西寄り、S16 の西に位置する。長軸約 4.4m、短軸約 3.2m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は長軸方向に平行に並ぶ２基とみられ、その他にも小さく浅いピットが多くみられる。北側周壁沿いには２基の楕円形土坑がみられ、東側のものから炭化材、西側のものから焼土と白色粘土塊が検出されている。

遺物

土器（第 201 ～ 204 図 1894 ～ 1927）

土器は床面から浮いた状態で埋土中から多量に出土しており、廃絶後の埋没過程で投棄された可能性が高い。甕には明確な平底から丸底まで多様であり、若干の時期幅が想定される。壺は長胴で胴部中位に最大径をもつものが多い。1922 は接合しなかったが全て同一個体と考えられる高坏で、坏部は内面に明確な段を有し、穿孔数は不明だが、裾部の上位に円形の透かしがみられる。1926 は有段屈曲の丸底浅鉢で、搬入品と考えられる。

石器（第 264 図 2760）

石器は、床面直上では出土していない。埋土中で筋砥石 (2760) と図化はしていないが石包丁 2 点を確認している。

5-S18

遺構

調査区北側西寄り、S17 の南に位置する。長軸約 4.0m、短軸約 2.8m の隅丸長方形の範囲で貼床の痕跡が検出されたもので、形状や規模、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 204 図 1928 ～ 1931）

遺構の検出状況が悪かったため出土遺物は少なく、土器は 4 点を図化した。1929・1931 は鉢で共に平底を呈するが、1929 はドーナツ状の平底である。

石器

石器は、床面直上では出土していない。図化はしていないが埋土中で石包丁 2 点を確認している。

5-S19

遺構（第 88 図）

調査区中央西寄り、S18 の南西に位置する。長軸約 5.0m、短軸約 4.8m のほぼ方形に近いプランを基本として北側周壁の中央が幅 2.0m で外側に 1.2m ほど外側に突出している。東側周壁の外側には幅 1.2m、奥行き 15cm、深さ 10cm の浅く不整形な落ち込みが取り付いており、この落ち込みの北端には深さ 50cm のピットも伴う。また東側周壁の中央内側の床は幅 1.6m、奥行き 1.2m の長方形土坑状に窪んでいる。主柱穴は東西の周壁と平行な 2 基とみられ、北東側隅角付近と南側周壁中央付近で浅いピットが検出されている。床は地山土による貼床で、埋土中から少量の炭化材が検出されている。この炭化材について年代測定を実施した結果、1745 ± 25 年 BP の年代値を得ている。

遺物

北側周壁中央の張り出し部分から北側主柱穴周辺、東側周壁中央から中央内側の落ち込み内及びその周囲から比較的多くの遺物が出土している。

土器（第 204 図 1932 ～ 1937）

土器は 6 点を図化しているが、1932・1934・1935 は落ち込みの周辺から南東側隅角付近の床面から、1933 は北側周壁沿いから、1936・1937 は東側の落ち込み内から出土した。1933 は甕で底部はドーナツ状の平底で、木葉の圧痕がみられる。

石器（第 264 図 2761 ～ 2763）

石器は、南側主柱穴傍で台石 2 点（遺構図内に出土状況を図化）と敲石（2763）、東側周壁中央の落ち込み内で砥石（2761）と図化はしていないが小型の台石が出土した。また、図化はしていないが北側の突出壁内、北側主柱穴西側、東側周壁中央付近、住居中央でも小型の台石が出土しているほか、南西角付近で敲石、東壁中央の落ち込み内で敲石 2 点が出土している。筋砥石 (2762) は埋土中の出土である。

5-S22

遺構

調査区北側西寄り、S16 の南に位置し、S23 に切られる。長軸 5.6m、短軸 4.7m の長方形プランを基本として北西側周壁中央が幅 2.0m、奥行き 90cm の長方形状に外側へ突出する。床は地山土による貼床で、突出部は 10cm ほど他の床より高いベッド状を呈する。主柱穴は長軸方向に平行する 2 基で、床面からの深さは約 30cm を測る。

遺物

遺物は総じて少ないが、ベッド状の床面からの出土がやや多い。

土器（第 205 図 1938 ～ 1948）

土器類は 11 点を図化した。1938・1939 の甕は 2 点共に低い床面上からの出土である。1940・1941 は東側隅角付近からまとまって出土しており、1941 の内面には鉄銹の付着がみられる。1947 は甕の胴部片を加工した紡錘車で、低い床面の中央からやや西側寄りの地点で出土している。1948 は杓子形土製品の把手部分とみられ、先端が上方に屈曲している。

石器（第 265 図 2764）

石器は、住居北東角で敲石 (2764) が出土したほか、図化はしていないが北側主柱穴の西側で小型の台石、南西角で敲石、東側周壁中央よりやや北側で砥石が出土している。

5-S23

遺構（第 88 図）

調査区北側中央、S10 の南西に位置し、S22 を切る。長軸約 5.3m、短軸約 4.5m の長方形プランを基本に南東側周壁の東隅角付近が幅 1.8m、奥行き 50cm ほど外側へ張り出す。床は地山土による貼床で、主柱穴はやや北西寄りに長軸方向に並ぶ 2 基と思われるが、突出部と南東周壁沿いにあるピットも主柱穴と同様の深さを有し、配置的にも上屋構造と関連する柱穴である可能性が高い。

遺物

土器（第 205 図 1949 ～ 1953）

遺物は石器や礫が多く、土器の出土は少ない。

土器は 5 点を図化した。1949 ～ 1952 は甕の底部で、1952 はドーナツ状の平底を呈する。

石器（第 265 図 2765 ～ 2768）

石器は、たも石が南角、南東側周壁中央付近、南東角、南西側周壁中央付近よりやや中央寄りの 4 つのグループ (遺構図内に出土状況を図化) で出土した。南側周壁中央のグループは敲石（2767）と小型の台石（2768）を含む。南西角のグループは磨石 (2765) と敲石 (2766) を含む。その他図化はしていないが、住居中央付近で小型の台石と敲石、打製石斧が出土している。

5-S24

遺構（第 89 図）

調査区の北側中央、S23 の南東に位置する。長軸が北東で 4.3m、南西で 3.8m、短軸約 3.5m の台形状の平面プランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は 4 基と思われるが、平面プランと軸がややずれる。北東側周壁に近い主柱穴間には不整形な土坑がみられる。床面直上から焼土と多量の炭化材が検出されており、焼失住居とみられる。なお、炭化材は住居の中央に向かって倒れ込んだような状態で検出され、一部に炭化材と直交方向に重なった状態の藁状炭化物もみられた。炭化材 3 点について年代測定を実施した結果、1660 ± 40 年 BP、1810 ± 40 年 BP、1810 ± 40 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器

遺物は少なく、土器は図化すべきものはみられなかった。

石器（第 265 図 2769・2770）

石器は、北東角で磨製石斧 (2769)、南西側周壁中央で砥石 (2770) が出土した。

5-S25

遺構

調査区北側中央付近、S24 の東に近接し、S26 を切る。平面プランは長軸約 5.0m、短軸が北西で 4.0m、南東で 4.8m の台形状を呈する。床は地山土による貼床で、南西側が 1.7m の幅で 1 段高いベッド状となっている。主柱穴は長軸方向に平行に並ぶ２基と思われる。

遺物

土器（第 205 図 1954 ～ 1963）

遺物の出土は少なく、土器は 10 点を図化しているが、1954 ～ 1958、1963 が低い床面付近から、1962 がベッド状に高い床面付近から、その他は埋土中からの出土である。中でも 1954 の甕は北側隅角に近い床面上からほぼ完形の状態で出土している。1959 は布留系の甕口縁部で搬入品と思われるが、埋土中からの出土であり、S26 に伴う可能性もある。

石器（第 265 図 2771・2772）

石器は、南東角で石包丁 (2771) と図化はしていないが、台石が出土した。筋砥石 (2772) は埋土中の出土である。

5-S26

遺構

調査区北側中央に位置し、S5 を切り、S25 に切られる。南半部を大きく失っているため全体的な規模や形状は不明であるが、 1 辺約 4.7m の方形プランを基本として、南半部の周壁の外側に突出部を有し、東側周壁の中央の突出壁を挟んで北側が 30cm ほど外側に張り出すと考えられる。残存部の状況から、南半の張り出しは西側周壁で 1 m、南～東側周壁で 60cm 前後外側に張り出している。床は地山土による貼床で、南半部の張り出しはベッド状を呈する。主柱穴は中央付近で東西に並ぶ２基と思われるが、北南側周壁沿いに東西に並ぶ２基をはじめ他の３基のピットも上屋構造に関連する柱穴と考えられる。

遺物

土器（第 205 図 1964・1965）

遺物は少なく、図化した土器２点はいずれも埋土中からの出土である。

石器

石器は、埋土中で石包丁が 1 点確認されたが、床面直上では出土していない。

5-S31

遺構（第 89 図）

調査区の北東、S81 の東に近接する。 1 辺約 3.3m の方形プランを呈し、床は地山土による貼床で、中央やや北よりに焼土の堆積がみられた。竪穴内外で

ピットは検出されておらず、主柱穴は不明である。

遺物

土器（第 206 図 1966 ～ 1972）

遺構の検出状況は悪かったが、土器は床面付近から比較的良好な一括資料が出土している。1972 は伏せた状態で、その上に潰れた 1966 が重なるように検出された。1972 の脚部は人為的な破砕とみられることから、出土状況も併せ、何らかの祭祀的行為の可能性がある。1967 は北側周壁の中央付近に沿って単独で出土し、1968・1970・1971 は 1966 からやや中央寄りの地点から出土した。

石器

石器は、埋土中で石包丁が 1 点確認されたが、床面直上では出土していない。

5-S33

遺構（第 90 図）

調査区北側東端に位置し、S3 に切られる。長軸約 5.6m、短軸約 5.2m の長方形プランを呈し、主柱穴はやや南側に寄って方形に並ぶ 4 基とみられる。床は地山土による貼床で、床面直上に硬くしまった薄い炭化物層が検出されており、焼失住居の可能性がある。

遺物

土器（第 206 図 1973 ～ 1977）

土器は 5 点を図化した。1973 は南西側隅角付近からまとまって出土しており、廃絶時の原位置に近い出土状況と考えられる。1974 は南側の主柱穴間、1975 は東側周壁中央寄り、1976 は南東側隅角付近、1977 は南西側主柱穴の西側の床面付近からの出土である。

石器（第 265・266 図 2773 ～ 2775）

石器は、南東側主柱穴南側傍で石包丁 (2773)、北側周壁中央よりやや西側で石包丁 2 点（2774,2775）と、図化はしていないが敲石 1 点が出土した。その他、南東角、東側周壁中央付近、北西側主柱穴南側傍、南西側主柱穴北側傍でそれぞれ小型の台石、東側周壁中央で砥石が 1 点出土している。

5-S38

遺構

調査区中央東端、S33 の南西に位置し、S39 を切り、S36 に切られる。長軸約 5.0m、短軸約 4.5m の長方形プランを基本に東側周壁の北半がやや外側に広がっている。西側周壁の中央付近には幅 30cm、長さ 40cm の突出壁もみられる。床は地山土による貼床で、主柱穴は長軸方向と平行に並ぶ 2 基とみられる。

なお、完掘後、主柱穴間と主柱穴から北側周壁に向かって延びる浅い溝状の落ち込みが検出された。

遺物

土器（第 206 図 1978 ～ 1982）

遺物は総じて少なく、土器は 5 点を図化した。1978 は北側周壁中央に沿って出土したもので、口縁部の小片と頸部以下の破片を図上復元しているが、山陰系の二重口縁甕とみられ、搬入品の可能性が高い。1981 は南西隅角付近にある土坑中、その他は埋土中からの出土である。1982 は小片であるが、有段屈曲の丸底浅鉢とみられ、搬入品と考えられる。

石器（第 266 図 2776 ～ 2778）

石器は、住居中央付近で敲石 (2776)、西側周壁中央付近で砥石 (2777)、中央よりやや南東側で石包丁 (2778) が出土した。また、図化はしていないが、住居中央で最大長 20cm 程の扁平で小型の台石が出土している。

鉄器（第 276 図 2967）

2967 は埋土中から出土した断面三角形状で刃部を有する刀子片とみられ、両面に木質が付着している。

5-S39

遺構（第 90 図）

調査区中央東寄り、S47 の南東に位置し、S38 に切られる。長軸約 6.2m、短軸約 5.7m の長方形プランを基本として、南西側周壁の西隅角付近が幅 1.5m、奥行き 40cm ほど外側へ張り出す。床は地山土による貼床で、主柱穴は方形に巡る 4 基とみられる。床面上で焼土や炭化物の広がりを検出しており、焼失住居の可能性がある。なお、貼床を除去したところ、主柱穴間をつなぐ様に巡る浅い溝が検出されている。

遺物

土器（第 207 図 1983 ～ 1990）

遺物は多くないが、北側主柱穴の南に近接して多くの土器が出土している。8 点を図化しているが、

1983・1989 はこの土器集中部からの出土である。1986 は北東側周壁のやや東隅角に近い床面付近から出土した。その他の土器は埋土中からの出土であるが、1990 は赤色顔料が塗布された台付鉢の脚部と鉢部の接合部分と思われるが、鉢部の底と側面に２箇所の穿孔がみられ、二次的に利用されていたものと考えられる。

石器

石器は、埋土中で石包丁が 1 点確認されたが、床面直上では出土していない。

5-S40

遺構（第 91 図）

調査区北側中央、S12 の南東に位置し、S80 を切り、S41 に切られる。南西側周壁の大半を失っているが、残存部の状況から、１辺約 6.0m の方形プランと思われる。残存状況は悪いが、南東側周壁方向に開口するコの字形のベッド状遺構を有し、開口部を挟んで並ぶ２基のピットが主柱穴と考えられる。床は地山土による貼床で、床面から 30cm ほど浮いた状態で炭化材や焼土が検出されている。この炭化材の年代測定を行ったところ、1680 ± 40 年 BP の年代が得られたが、検出状況等から、切り合い関係にある S41 に起因する炭化材ではないかと思われる。

遺物

土器（第 207 ～ 209 図 1991 ～ 2023）

土器は床面からやや浮いた状態で埋土中から多量に出土しており、廃絶後の埋没過程で投棄された可能性が高い。甕は頸部に稜を持って明瞭に屈曲し、平底を呈するものが多い。壺は中型のものは長胴で胴部中位に最大径をもつものが多い。小型の精製壺では胴部下位に最大径を有するものが多い。鉢には平底で深いものと丸底で浅いものがみられる。

石器（第 266 図 2779・2780）

石器は、住居中央の落ち込みで磨製石斧（2779）、大型の砥石 (2780) が出土し、その傍で大型の台石が２点出土 (遺構図内に出土状況を図化) している。

鉄器（第 276 図 2968・2969）

埋土中から２点の鉄器等が出土している。2968 は刀子の茎とみられ、長方形断面で分厚く、周囲に柄と考えられる木質が残存している。2969 は一方の端部が細くなっている鉄片である。

5-S41

遺構（第 91 図）

調査区中央北寄り、S44 の東に位置し、S40・42・80 を切る。長軸 7.0m、短軸 5.6m の長方形プラン呈し、主柱穴は長軸方向と平行に並ぶ２基と思われる。床は地山土による貼床で、周壁沿いには幅 20cm、深さ 10cm 前後の壁溝が全周している。また、北東側周壁の中央付近には幅 80cm、長さ 1.2m、深さ 30cm の長方形土坑がみられ、南西側周壁中央付近にも３基のピットが並んで検出されている。床は地山土による貼床で、床面上からは周壁に近い位置を中心に多くの炭化材や焼土が検出されていることから、焼失住居と思われる。炭化材２点について年代測定を実施した結果、1670 ± 40 年 BP、1725 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 209 図 2024 ～ 2032）

土器は床面付近及びやや浮いた状態で多く出土した。2024・2025・2027 は東側隅角付近でまとまって出土している。2026・2029・2032 は北側隅角付近、2028 は南東側主柱穴のやや北から出土している。2030 は南西側周壁中央に沿う壁溝内で、焼土の下から出土した。有段屈曲の丸底浅鉢で、搬入品と考えられる。

石器（第 266・267 図 2781 ～ 2788）

石器は、南西側周壁中央より南側で勾玉（2781）、住居中央より南東側で敲石 (2784)、南西側周壁中央付近で敲石 (2783)、筋砥石 (2782)、住居中央より北東側で石包丁 (2785)、北西角で砥石 (2787,2788) が出土している。南西角と中央よりやや南東側で台石が出土（遺構図内に出土状況を図化）している。また、図化はしていないが、南西側周壁中央付近で敲石 1 点、石錘 1 点が出土している。石包丁（2786）は埋土中の出土である。

鉄器（第 276 図 2970）

2970 は埋土中から出土した刀子で、ほぼ完存している。茎には半截された細い棒状の木質とその上から巻かれた樹皮状の植物繊維がみられ、裏面にも茎と平行に近い方向の木質の付着が残されている。このことから、半截した細い木で茎を挟み、その上から植物繊維を巻きつけて使用していた可能性が考えられる。なお、巻きは刃部上にまで及んでいる。

5-S42

遺構（第 92 図）

調査区中央やや北寄りに位置し、S41・47 に切られる。北・南側周壁の大半を失っているが、長軸 5.8m、短軸 4.8m の長方形プランを基本に、南東側隅角付近がやや張り出す平面プランと考えられる。この張り出し部分は、残存部では狭いベッド状を呈している。床は地山土による貼床で、東側周壁の中央に向かって開口するコの字形ベッド状を呈している。この開口部の隅角を挟む位置に 2 基のピットが主柱穴と思われるが、東側周壁沿いにも開口部を挟んで 2 基のピットがみられ、上屋構造と関連する柱穴と考えられる。また、東側周壁中央には楕円形の土坑も検出されている。住居の中央から東側周壁にかけての床面上では炭化材や焼土が検出されており、焼失住居の可能性が考えられる。炭化材 2 点について年代測定した結果、1630 ± 40 年 BP、1715 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 209 図 2033 ～ 2035）

土器の出土は少ない。ベッド状の床に囲まれた南東の低い床部分から 2035、開口部を挟む南側のピット付近から 2033 が出土している。2034 は埋土中から出土した小片だが、山陰系の壺もしくは甕の頸部付近の破片と思われる。

石器（第 267 図 2789 ～ 2791）

石器は、南西側周壁沿いの落ち込みで磨石 (2789、2790) と図化はしていないが台石が出土している。北西側周壁中央よりやや北側で石包丁 (2791) と図化はしていないが磨石が 1 点出土した。

鉄器（第 276 図 2971）

2971 は埋土中から出土したもので、一端が尖っているが刃部は無く、細長い板状の鉄片と思われる。

5-S43

遺構

調査区中央、S41 の南西に位置し、S44 を切る。検出時点で長軸 3.1m、短軸 2.7m の範囲で床面のみが確認されたもので、柱穴等は検出されていない。床は地山土による貼床で、中央付近に焼土がみられたほか、炭化種子の分布も確認されている。この炭化種子の年代測定を実施したところ、1745 ± 20 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 209 図 2036 ～ 2043）

土器はいずれも埋土中からの出土で、8 点を図化した。甕は平底で頸部が明瞭な稜を持って屈曲する。2037 は小型の甕形土器で外面にはタタキ調整がみられるが、上位は工具ナデによって撫で消している。2039 は精製の小型壺で胴部下位に最大径を有する。

石器（第 267 図 2792）

石器は、床面直上では出土していない。石包丁 (2792) は埋土中の出土である。

5-S44

遺構（第 92 図）

調査区中央、S42 の北西に位置し、S43 に切られる。長軸 4.7m、短軸 4.5m のほぼ方形に近い平面プランを基本として、西側周壁がやや 50cm ほど外側へ張り出し、狭い棚状のテラスとなっている。西側以外の周壁にも幅 20cm ほどの狭い棚状のテラスが巡っている。棚状のテラスは地山を利用しているが、竪穴部の床は地山土による貼床である。主柱穴は南北方向に並ぶ 2 基と思われるが、東側周壁沿いには楕円形土坑がみられ、更に中央寄りにも連続するピットが 2 基ある。この土坑及びピット内からは焼土が検出されており、他の床面上からも少量ながら炭化材が出土している。床は地山土による貼床で、中央付近に焼土がみられたほか、炭化種子の分布も確認されている。炭化材について年代測定を実施した結果、1880 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 210 図 2044 ～ 2053）

土器は 10 点を図化しているが、2049・2052・2053 が南西側の主柱穴周辺から、2044 ～ 2046・2050・2051 が南東周壁沿いの土坑周辺から出土している。2047 のドーナツ状の平底を有する鉢と 2048 の台付鉢は埋土中からの出土である。

石器（第 267 図 2793 ～ 2796）

石器は、南西側周壁中央付近で砥石 (2793) と図化はしていないが小型の台石が 3 点出土した。南東角で磨石 (2794)、北東側周壁中央付近で石包丁 (2795)、北西角付近で石錘 (2796)、図化はしてい

ないが住居中央付近で敲石２点と磨石１点が出土している。2796 は縄文時代の遺物が混入したものであろう。

鉄器（第 276 図 2972・2973）

埋土中から２点の鉄器等が出土している。2972 は断面方形の茎２本を樹皮状の植物繊維で巻いたもので、身部が欠損しているため判然としないが、ヤス等の漁具の可能性が考えられる。2973 は細い板状の鉄片で、一端が棒状に細くなっている。

5-S47

遺構（第 93 図）

調査区中央、S39 の北西に位置し、S75 に切られ、S42 を切る。北西隅角付近を風倒木によって攪乱されているが、長軸 3.6m、短軸 3.2m の長方形プランとみられ、床は地山土による貼床である。床面上で４基のピットを検出しているが、主柱穴は判然としない。

図化を要する遺物は出土していないが、遺構の形状や埋土等の特徴から、この時期の遺構として扱っておく。

5-S48

遺構（第 93 図）

調査区中央南寄り、S44 から 20m ほど南に位置する。長軸 3.6m、短軸 2.9m のややいびつな長方形プランで、床は地山土による貼床である。周壁沿いから４基のピットが検出されているが、主柱穴は判然としない。

図化を要する土器や石器は出土していないが、この時期の遺構である可能性が高いため、ここで扱っておく。

5-S50

遺構（第 93 図）

調査区中央南側、S48 の南西に位置する。１辺 6.5m の方形プランを基本として、北東周壁に三角形状に張り出すベッド状遺構が付加されており、五角形状の平面プランを呈する。この突出部は現地調査の時点では別遺構と判断されていたが、床面レベルの違いや主柱穴の配置から、同一遺構と判断した。主柱穴は平面プランと同様に五角形状に並ぶ５基とみられる。床は地山土による貼床で、少量ながら床面上から焼土や炭化材が検出されている。なお、貼床を除去したところ、南側周壁に近い２基の主柱穴を結ぶように浅い溝が検出されている。

遺物

土器（第 210 図 2054 ～ 2063）

土器は 10 点を図化した。2054・2057・2059 ～ 2061 が三角形状に突出するベッド状遺構から出土している。2056 は北側主柱穴周辺、2062 が西側主柱穴周辺、2063 が南東側周壁中央付近から出土している。

石器（第 268 図 2797 ～ 2804）

石器は、住居中央よりやや北東側と南西側主柱穴の西側傍で大型の台石（遺構図内に出土状況を図化）が出土した。また、北東角で石包丁（2798）と磨石 (2800)、南東側主柱穴傍で勾玉模造品（2797）と敲石 (2799)、南東側周壁中央付近で敲石（2803）、北東側周壁中央付近で砥石（2804）と台石（2801）、住居のほぼ中央で台石 (2802) が出土した。その他、図化はしていないが敲石２点と小型の台石が出土している。

鉄器（第 276 図 2974・2975）

2974 は柳葉鏃の鏃身部下位から茎にかけての破片とみられ、埋土中からの出土である。2975 は南角付近の床から 8cm 程浮いた状態で出土したもので、両端部を欠損しているが、太く方形に近い断面形をしており、鑿の可能性が高い。

5-S51

遺構

調査区南側東端、S50 から 20m ほど東に位置する。検出の段階で、１辺 2.5m のほぼ方形プランを呈する貼床の痕跡が確認されたものである。中央の床面は焼けており、その南側から１基のピットが検出されている。遺物は出土していないが、貼床を有することなどからこの時期の遺構として扱っておく。

5-S52

遺構（第 94 図）

調査区南西端、S50 から西 20m ほどに位置する。長軸 4.9m、短軸 4.2m の南北に長い長方形プランを呈し、床は地山土による貼床である。主柱穴は長軸方向と平行に並ぶ２基で、東側周壁中央に沿って

長軸 80cm、短軸 50cm の楕円形土坑がみられる。床面上から少量の炭化物や焼土が検出されている。

遺物

土器（第 210・211 図 2064 ～ 2072）

土器は中央から東側周壁中央付近にかけて 2064 ～ 2065、2067・2068・2070 が集中的に出土している。北東隅角付近にも遺物の集中がみられ、2069・2072 が出土している。2066 と 2071 は埋土中からの出土である。

5-S55

遺構（第 94 図）

調査区の南西、S56 の北西に位置する。長軸約 4.2m、短軸 4.0m のほぼ方形プランで、床は地山土による貼床である。床面上で 5 基のピットを検出しているが、主柱穴は判然としない。

遺物

土器（第 211 図 2073・2074）

遺物は少なく、土器は 2 点のみ図化した。2073 は櫛描波状文がみられる二重口縁壺の口縁部で、東側隅角付近から出土している。2074 は鉢で南側周壁中央付近からの出土である。

石器（第 268 図 2805・2806）

石器は、南東側周壁やや北寄りで石包丁 (2805)、住居中央付近で石錘 (2806) が出土した。また、図化はしていないが、南東角で敲石と砥石、中央で敲石が出土している。

5-S56

遺構（第 95 図）

調査区の南西、S58 の北に近接し、S57 に切られる。長軸約 4.7m、短軸が南で 4.3m、北 3.9m の台形状の平面で、北東隅角に突出した土坑が付設されている。床は地山土による貼床で、主柱穴は長軸方向に平行する 2 基とみられ、東側周壁中央に沿って長軸 1 m、短軸 55cm の楕円形土坑がみられる。

遺物

土器（第 211 図 2075 ～ 2079）

土器は数カ所に集中がみられた。2076・2078・2079 は北東隅角の突出した土坑内から出土している。2075・2077 は南側主柱穴の南西からの出土である。図化した土器はいずれも甕だが、球形胴に近い印象を受ける。なお、2075 と 2076 は同一個体の可能性がある。

石器

石器は、北側主柱穴の北西側に台石 (遺構図内に出土状況を図化) が出土した。その他の石器は出土していない。

5-S57

遺構

調査区の南西に位置し、S56 を切る。検出時点で１辺３m の方形状に貼床の痕跡が検出されたものである。中央付近床面上に焼土がみられ、北側隅角付近で炭化物が検出されている。ピットは確認されておらず、主柱穴等は不明である。

遺物

石器（第 268 図 2807）

土器は出土しておらず、石器は、住居中央よりやや西側で台石 (2807) が出土している。

5-S58

遺構（第 94 図）

調査区の南西、S56 の南に近接する。長軸 3.0m、短軸 2.7m の長方形プランで、床は地山土による貼床である。ピットは検出されておらず、中央付近の埋土中から焼土が検出されている。

遺物

土器（第 211・212 図 2080 ～ 2088）

中央から北西隅角にかけての床面付近から多くの土器が出土している。甕は 2081・2082 のように頸部に明瞭な屈曲がみられ底部が平底で外面にタタキ調整がみられる在地系のものと、2080 のように薄手の球形胴で内面にケズリ調整が施された搬入品がみられる。2083・2084 は壺で胴部下位に最大径を有する。2085 ～ 2088 は鉢で、2085 ～ 2087 のようにやや粗雑なつくりのものと、2088 のように精製で有段屈曲の丸底浅鉢を模倣したものと考えられるものがある。

石器（第 268 図 2808）

石器は、住居中央付近で打製石斧 (2808)、図化はしていないが北西角で敲石が 1 点出土している。

5-S80

遺構（第 91 図）

調査区中央北寄り、S31 の西側に近接し、S40・

41 に切られる。西・南側周壁を大きく失っているため全体の形状は不明だが、北側周壁は約 3.2m を測る。東側周壁の中央部分から幅 2 m で住居中央に向かって床が低くなっており、その左右がベッド状を呈している。北側のベッド状遺構から低い床面との境界付近でピットが検出されているが、対応する位置からは検出されていないため、主柱穴か不明である。なお、南側のベッド状遺構床面から炭化材が検出されており、年代測定の結果、1800 ± 40 年 BP の年代を得ている。

遺物

土器（第 212 図 2089 ～ 2095）

遺構の残存状態が悪かったため遺物量は少なく、土器は 7 点を図化した。2089・2090 は南側のベッド状遺構、2091・2094・2095 は北側のベッド状遺構上から出土している。なお、2092 と 2093 は凹線文系土器の壺口縁部で、S41 の埋土中からの出土であるが、こちらの遺構に伴う可能性が高いと判断されたため、ここで扱った。

石器（第 269 図 2809 ～ 2811）

石器は、南東側周壁中央で台石 (2811)、S41 との切り合いに近い南東角付近で砥石（2809）と図化はしていないが敲石 1 点、北東角で砥石 (2810) が出土した。

鉄器（第 276 図 2976）

2976 は埋土中から出土したもので、刃部は不明瞭だが茎部が明確に成形されていることから、何らかの鉄器と考えられる。

5-S81

遺構（第 96 図）

調査区中央東端、S38 の南に位置し、S82 を切る。長軸約 9 m、短軸約 8.5m の長方形プランで、本遺跡全調査区中最大規模の竪穴住居である。東側周壁中央付近と南東隅角付近がわずかに外側へ張り出す。床は地山土による貼床で、主柱穴は方形に並ぶ 4 基とみられるが、東側周壁に近い主柱穴の間の 1 基と北・西・南側周壁沿いの 3 基のピットについても上屋構造との関連する柱穴と考えられる。床面は微妙に高さが違う 4 ～ 5 の空間に分割されており、住居南側西半部が最も高く、東半部が最も低くなっている。住居北側は、西側周壁から北側周壁にかけて L 字形のベッド状を呈し、東側周壁沿いで中央の空間に連結している。この空間の南東周壁沿いには長径 75cm、短径 60cm の楕円形土坑がみられる。住居の中央付近を中心とした床面上から少量の炭化材と焼土が検出されている。炭化物について年代測定を実施したところ、1680 ± 40 年 BP の年代が得られた。

遺物

土器（第 212・213 図 2096 ～ 2112）

土器は 17 点を図化しているが、2099・2100・2102・2106 ～ 2108・2111 は埋土中からの出土で、その他は床面付近からの出土である。床面付近から出土したものにはいくつかのまとまりがあり、2101・2103 は西側隅角側の区画、2096・2112 はその北側の L 字形の区画、その他は L 字形の区画に囲まれた区画内からの出土である。2096 ～ 2098 は在地系の甕で器形、器面調整とも大きく異なる。2099 は布留式系の甕で搬入品と思われる。2107 も搬入品とみられる有段屈曲の丸底浅鉢だが、2102 は在地系の模倣品である。2108 は長頸壺で外面に赤色顔料が塗布されている。

石器（第 269 図 2812 ～ 2816）

石器は、北西側主柱穴の東側で台石（2815）、南東側周壁近くの土坑傍で石包丁 (2812) と 敲石 (2816)、南東側主柱穴の東側で敲石（2814）が出土した。その他、図化はしていないが住居中央で最大長 20cm 程の小型の台石が出土している。赤色頁岩製の局部磨製石鏃（2813）は埋土中の出土であるが、縄文時代の遺物混入の可能性もある。

5-S82

遺構（第 96 図）

調査区中央東寄り、S39 の南に位置し、S81 に切られる。長軸約 4.9m、短軸約 4.7m のほぼ方形に近いプランで、床は地山土による貼床である。主柱穴は長軸方向に平行な 2 基とみられるが、南側は 2 基の近接するピットがあり、深さも殆ど同じであるため、どちらが主柱穴となるのか不明である。

遺物

土器（第 213 図 2113 ～ 2116）

土器は少なく、 4 点を図化した。2113 は南西側の主柱穴と周壁の間の床面付近から出土した。2114 は北東側の主柱穴と南東側周壁との間付近、2115 はそのやや南側の床面付近から出土してい

る。2116 はほぼ完形の壺で、南側隅角付近の南西側周壁に沿って横倒しの状態で出土している。

石器（第 269 図 2817）

石器は、東側主柱穴の東側で石包丁（2817）、図化はしていないが西側周壁中央付近で敲石が 1 点出土している。

土坑

5-S37

遺構（第 95 図）

調査区北東端、S7 の東に位置し、S1110 に切られる。長軸約 1.9m、短軸約 1.3m、深さ 30cm の長方形プランで、床は地山面を利用している。

遺物

土器（第 213 図 2117 ～ 2119）

土器は 3 点を図化したが、いずれも床面からやや浮いた状態で出土している。

石器

石器は、図化はしていないが、底面より敲石 1 点と石英の石核が 1 点出土している。

5-S60

遺構（第 95 図）

調査区中央付近、S44 の南西に位置する。長軸約 85cm、短軸約 65cm、深さ 18cm の楕円形プランで、床は地山面を利用している。埋土は黒褐色土のみで、上面から炭化材が出土している。

遺物

土器（第 213 図 2120）

2120 は埋土中から出土した有孔鉢とみられ、残存部において口縁部下 5cm 程の位置に焼成前に内面側から穿孔された円形の透かし孔が 1 箇所みられる。底部の孔は径 2 cm 程で内面側から穿孔されており、底部外面に粘土のたるみが生じている。

5-S61

遺構（第 95 図）

調査区中央やや北側、S14 と S19 の中間に位置する。長軸約 1.1m、短軸約 90cm、深さ 15cm の長方形プランで、床は地山面を利用している。近接する S62 や S63・64 とやや弧を描きながら並んでいる。

遺物

土器（第 213 図 2121・2122）

埋土中から土器が出土しており、2 点を図化した。いずれも甕とみられ、2122 はドーナツ状の平底を呈する。

5-S62

遺構

調査区中央やや北側、S61 の北西に近接する。長軸約 1.3m、短軸約 1.1m の隅丸長方形状の土坑の北東側に、奥行き 50cm 程の台形状を呈する土坑が取り付いた様な形状を呈する。隅丸長方形状の部分は深さ 20cm 程であるが、台形状の部分は数 cm と浅い。床は全面地山面を利用しており、埋土中には多くの焼土や炭化物が含まれていた。炭化物 1 点について年代測定を実施した結果、1895 ± 25 年 BP の年代が得られた。

遺物は土器片が出土しているが、図化していない。

5-S68

遺構（第 95 図）

調査区中央やや北東側、S41 の南東に位置する。長軸約 1.3m、短軸約 1.1m、深さ 20cm 程の不整円形プランを呈する。床は全面地山面を利用しており、中央には径 50cm 程の円形に焼土面がみられた。埋土中には炭化物が多くみられ、1 点について年代測定を実施した結果、1720 ± 40 年 BP の年代が得られた。

遺物は土器片が出土しているが、図化していない。

5-S72

遺構（第 95 図）

調査区北東側、S53 の東に近接する。長軸 1.6m、短軸 1.4m、深さ 40cm の隅丸長方形プランを呈し、床は地山面を利用している。

遺物

土器

土器片は少量出土したが、図化していない。

石器（第 270 図 2818）

石器は、底面より打製石斧 (2818) が出土している。

5-S73

遺構（第 95 図）

調査区中央やや北側、S14 と S19 の中間に位置する。長軸約 1.1m、短軸約 90cm、深さ 15cm の長方形プランで、床は地山面を利用している。近接する S62 や S63・64 とやや弧を描きながら並んでいる。

遺物

鉄器（第 276 図 2977）

土器・石器は出土しておらず、埋土中から鉄器が１点出土している。2977 は両端部を欠くが、図の上方に身の一部が残存しており、わずかに開きながら三日月状の断面形をしていることから、鉈と考えられる。なお、下端部の断面系も湾曲がみられることから、下方にも刃部があった可能性がある。

その他の遺物

土器（第 213 図 2123・2124）

2123 は凹線文系土器の壺口縁部、2124 は刻目突帯を有する台付鉢の脚部と鉢の接続部分で、それぞれ包含層からの出土である。

石器（第 270 図 2819 ～ 2826）

2819 の敲石、2820 の敲石は小穴内から、2821 の石包丁は S54 の埋土中から、2822 の砥石、2823 の大型の砥石、2825 の筋砥石、2824 の砥石は包含層中からの出土で、2826 の磨製石斧は出土地点不明である。

第１表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表①（竪穴建物）

	遺構番号	検出位置	挿図	竪穴部				施設							炭化材等	年代測定	土器の時期	切り合い関係		備考
				プラン	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	突出壁	張出	ベッド・棚	貼床	壁溝	主柱穴	土坑・ピット				切る	切られる	
1	1- SA1	L5	-	方形	2.80	2.80	0.05	-	-	-	○	-	不明	1	-	-	V	SA26・27		
2	1- SA3	M5	第 5 図	方形	3.30	3.30	0.11	-	○	-	○	○	2	13	○	1835 ± 20	VI			
3	1- SA4	M6	第 5 図	長方形	4.30	3.60	0.22	-	○	○	○	-	2	2	-	-	V	SA5		
4	1- SA5	M5	-	方形	4.20	0.60+	0.06	-	-	-	○	-	不明	1	-	-	IV		SA4	
5	1- SA6	L6	第 5 図	方形	4.00	4.00	0.30	-	-	○	○	○	2	7	-	-	V		SA7	
6	1- SA7	L5	第 6 図	長方形	3.80	3.50	0.18	-	-	-	○	○	2	7	-	-	VI	SA6・24		
7	1- SA8	K5	第 6 図	長方形	4.70	4.30	0.13	-	-	-	○	-	不明	6	-	1190 ± 20	V	SA9	SB14	
8	1- SA9	K5	第 6 図	方形	4.20	3.20+	0.15	-	-	-	○	○	2	3	△	-			SA8・SB13・14	
9	1- SA10	L7	第 7 図	長方形	4.50+	4.00	0.25	-	-	-	○	○	2	10	△	-	VII	SA15		
10	1- SA11	K7	第 7 図	長方形	7.00	5.80	0.15	-	-	-	○	-	4	12	△	-	III		SA12	
11	1- SA12	J7	第 8 図	長方形	5.30	4.50	0.53	-	○	○	○	-	2	7	-	-	VI	SA11	SE1	
12	1- SA13	J8	第 9 図	台形	5.50	4.80	0.67	-	-	○	○	○	2	15	○	1740 ± 20 1755 ± 25	V			
13	1- SA14	J8	第 8 図	長方形	3.10	2.30+	0.20	-	-	-	○	○	不明	10	△	-	V			
14	1- SA15	L7	第 8 図	方形	4.40	2.90+	0.26	-	-	-	○	-	不明	6	-	-	V	SA29	SA10	
15	1- SA16	L7	第 9 図	長方形	5.30	4.30	0.26	-	-	-	○	○	不明	10	-	-	V	SA17・SC17	SE1	
16	1- SA17	L7	第 9 図	方形	3.30	3.30	0.22	-	-	-	○	○	不明	4	-	-	VII	SA101	SA16・SE1	土器は５期か？
17	1- SA18	K7	第 10 図	長方形	3.80+	3.70	0.10	-	-	-	○	○	不明	10	-	1720 ± 25	VI		SA19・SE1	
18	1- SA19	K7	第 10 図	長方形	3.80	3.30	0.15	-	-	-	○	○	不明	5	-	-	VII	SA18		
19	1- SA20	L8	第 10 図	長方形	5.10	4.00	0.47	-	-	-	-	○	2	7	△	-	VI	SA35・45・47・48		
20	1- SA21	K8	第 11 図	長方形	5.90	5.30	0.56	-	○	○	-	-	2	20	-	-	VI	SA36・37・47・65・SC35・36		
21	1- SA22	I8	第 11 図	方形	3.90	1.80+	0.24	-	-	-	○	-	2?	-	△	1760 ± 20	VI			
22	1- SA23	I10	第 11 図	長方形	3.60	2.90	0.26	-	○	-	○	○	2	7	△	-	VII			
23	1- SA24	L5	第 13 図	方形	2.70	2.70	0.17	-	-	-	○	-	不明	2	-	1685 ± 20	VI	SA27	SA7・26	
24	1- SA25	K5	第 12 図	方形？	不明	不明	0.16	-	-	-	○	○	不明	7	△	1710 ± 20			SB1	
25	1- SA26	L5	第 13 図	方形	2.80	0.70+	0.07	-	-	-	○	-	不明	1	-	-		SA24・27	SA1	
26	1- SA27	L5	第 13 図	方形	3.00+	0.40+	0.13	-	-	-	○	-	不明	5	-	-			SA1・24・26	
27	1- SA29	L7	第 7 図	方形？	不明	不明	0.22	-	-	-	○	-	不明	-	-	-			SA15・SC17	
28	1- SA33	J10	第 12 図	長方形	3.90	3.40	0.33	-	-	-	○	○	不明	10	-	-	VI	SA34	SA41	
29	1- SA34	J10	第 12 図	台形	7.00～7.80	6.30	0.48	-	-	○	○	-	6	7	○	-	IV		SA33	
30	1- SA35	K8	第 10 図	長方形	5.40	4.00	0.33	-	-	-	-	-	不明	2	△	-	V	SA47・101	SA20	
31	1- SA37	K9	第 11 図	長方形	3.90	3.00	0.38	-	-	-	-	-	不明	1	△	-	V	SA47	SA21	
32	1- SA39	I9	第 13 図	長方形	4.70	4.20	0.60	-	-	-	○	-	不明	11	-	-	VI	SC47		
33	1- SA41	K10	第 13 図	長方形	6.50	5.80	0.68	-	-	-	-	-	2	17	△	-	VII	SA33		
34	1- SA45	L8	第 14 図	長方形	5.30	4.10	0.09	-	○	-	-	-	2	10	-	-	V	SA48・108	SA20・107	
35	1- SA47	K8	第 11 図	方形	不明	不明	0.45	-	○	○	○	-	不明	2	-	-	III		SA20・21・35・36・37	
36	1- SA48	L8	第 14 図	方形	不明	不明	0.25	-	-	-	-	-	不明	-	△	-		SA108	SA20・45	
37	1- SA55	K9	第 15 図	台形	4.00～4.80	4.00	0.49	-	-	-	○	-	不明	5	-	-	V	SA56・57		
38	1- SA56	K9	第 15 図	方形	2.50	1.10+	0.22	-	-	-	-	-	不明	-	-	-		SA57	SA55	
39	1- SA57	K9	第 15 図	不明	不明	不明	0.21	-	-	-	-	○	不明	-	-	-		SA55	SA56	
40	1- SA64	I9	第 15 図	長方形	6.00	4.50	0.27	-	○	-	○	-	4	7	○	-	VI		SC43	
41	1- SA65	K9	第 11 図	方形	3.20	2.10+	0.40	-	-	-	-	-	不明	4	-	-	V		SA21	
42	1- SA68	H9	第 12 図	長方形	2.80	2.30	0.24	-	-	-	○	○	2	5	-	-	V			
43	1- SA69	H10	第 14 図	方形	2.50	1.80+	0.10	-	-	-	-	-	不明	10	-	-				
44	1- SA72	H9	第 12 図	方形	不明	不明	0.02	-	-	-	○	-	不明	-	-	-				
45	1- SA75	I7	第 14 図	方形	不明	不明	0.21	-	-	-	-	-	不明	5	-	-			SE1	
46	1- SA76	J11	第 15 図	方形	2.40	2.40	0.17	-	-	-	-	-	不明	1	-	-				
47	1- SA77	I13	第 15 図	隅丸方形	2.80	2.60+	0.12	-	-	-	-	-	不明	1	-	-				
48	1- SA90	I12	第 16 図	方形	不明	不明	0.14	-	-	-	-	-	不明	1	-	-			SE4	
49	1- SA102	L8	第 16 図	長方形	3.00	2.80	0.28	-	-	-	○	-	不明	12	△	-	V	SA103・104		
50	1- SA103	L8	第 16 図	長方形	2.50	2.00	0.18	-	-	-	○	-	不明	1	-	-		SA104	SA102	
51	1- SA104	L8	第 16 図	長方形	2.50+	2.60+	0.15	-	-	-	○	-	不明	2	-	-			SA102・103	
52	1- SA107	L8	第 14 図	方形	4.90	3.90+	0.25	-	○	-	○	-	2	6	○	1830 ± 20 1800 ± 20	VI	SA45・108		
53	1- SA108	L8	第 14 図	不明	不明	不明	0.24	-	-	-	-	-	不明	3	-	-			SA45・48・107	
54	1- SA109	M5	第 16 図	長方形	2.80	2.30	0.19	-	-	-	-	-	不明	5	-	-	V			
55	1- SA116	M6	第 16 図	方形	不明	不明	0.21	-	-	-	-	-	不明	3	-	-			SC314	

第２表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表②（竪穴建物）

	遺構番号	検出位置	挿図	竪穴部				施設							炭化材等	年代測定	土器の時期	切り合い関係		備考
				プラン	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	突出壁	張出	ベッド・棚	貼床	壁溝	主柱穴	土坑・ピット				切る	切られる	
56	1- SA118	M3	第 16 図	長方形	4.40	3.70	0.61	-	-	-	○	-	4?	3	-	-	V			
57	1 拡 - S5	ウ 33	第 19 図	長方形	6.10	5.50	0.31	○	-	○	○	-	2	21	-	-	V	S23	S12	
58	1 拡 - S22	イ 31	第 19 図	方形	5.50	5.50	0.37	-	-	-	○	-	不明	6	○	1760 ± 20 1770 ± 20	V	S91・ 2-S3334	2-S3001	藁状炭化材出土。
59	1 拡 - S37	イ 32	第 20 図	長方形	4.20	3.50	0.31	-	○	○	○	-	2	1	△	-	Ⅶ	S38・202		
60	1 拡 - S38	イ 33	第 20 図	長方形	4.90	4.50	0.28	-	○	○	○	-	2	17	△	-	V		S17・32・ 37・202	
61	1 拡 - S70	イ 30	第 20 図	方形	7.20	7.20	0.36	○	○	-	○	○	不明	11	-	-	V	2-S3334		
62	1 拡 - S91	イ 31	第 19 図	長方形	5.00	4.20	0.41	-	-	-	-	-	不明	1	-	-	Ⅳ		S22	
63	1 拡 - S105	イ 33	第 21 図	長方形	6.50	6.00	0.42	-	○	-	○	-	2?	16	△	1760 ± 25 1740 ± 20	Ⅶ	S108・115・ 116	S101	
64	1 拡 - S161	ア 33	第 21 図	方形	4.90	4.90	0.45	-	○	-	○	-	4?	7	-	-	V	S344		
65	1 拡 - S209	ア 31	第 22 図	長方形	3.80	3.30	0.10	-	-	-	○	○	不明	8	-	-	Ⅵ		S292	
66	1 拡 - S292	ア 30	第 22 図	方形	4.20	4.20	0.36	-	○	○	○	-	2?	31	-	-	Ⅰ	S209		
67	1 拡 - S298	ア 29	第 22 図	長方形	4.70	4.00	0.44	-	○	-	○	○	不明	5	-	-	Ⅶ	2-S3335		
68	1 拡 - S344	ア 32	第 22 図	長方形	4.00	3.00	0.67	-	-	-	○	-	不明	3	-	-	V	S347	S161・169	
69	1 拡 - S347	ア 33	第 22 図	方形	3.70	2.20+	0.21	-	-	-	○	-	2	2	-	-	Ⅳ		S169・344	
70	1 拡 - S404	ア 32	第 23 図	長方形	3.20	2.60	0.07	-	-	-	○	-	不明	7	△	1845 ± 25			S403	
71	1 拡 - S409	ア 32	第 23 図	長方形	3.40	2.90	0.29	-	-	-	○	-	不明	1	-	-	Ⅰ	S410		
72	1 拡 - S410	ア 31	第 23 図	長方形	3.70	2.90	0.24	-	-	-	○	-	不明	2	-	-	Ⅰ		S409	
73	1 拡 - S411	A31	第 23 図	長方形	3.50	3.20	0.10	-	-	-	○	-	不明	7	△	-				
74	1 拡 - S443	A30	第 23 図	長方形	6.00	5.30	0.22	○	-	○	○	-	4	9	-	-	Ⅰ		S420	
75	1 拡 - S491	A32	第 24 図	楕円形	7.00	6.20	0.32	○	-	○	○	-	8	17	-	-	Ⅰ		S548	
76	1 拡 - S521	B32	第 25 図	長方形	8.00	7.00	0.41	-	-	○	○	○	4	34	△	-	V		S573	
77	1 拡 - S548	A33	第 24 図	台形	6.00+	5.40 ～ 5.50	0.46	-	-	○	○	-	4	14	-	-	V	S491		
78	1 拡 - S570	B31	第 25 図	長方形	4.40	3.80	0.25	-	-	-	○	○	2	15	○	1860 ± 20 1830 ± 20	Ⅱ		S770	
79	1 拡 - S580	A31	第 25 図	長方形	4.50	4.00	0.48	-	○	○	-	-	2	10	-	-	Ⅵ		S736・737	
80	1 拡 - S609	ア 29	第 26 図	方形	6.20	6.20	0.43	-	-	-	-	-	不明	14	○	-	V	2-S3336		
81	1 拡 - S610	A28	第 26 図	長方形	4.20	3.80	0.26	-	-	-	○	○	2	-	△	1770 ± 20 1700 ± 20 1735 ± 25	Ⅵ		4-S84	
82	1 拡 - S622	C30	第 26 図	方形	3.00	3.00	0.09	-	-	-	○	-	不明	7	-	-	Ⅱ		S782	
83	1 拡 - S790	C31	第 27 図	長方形	4.00	3.30	0.43	-	-	-	○	-	2	3	-	-	Ⅵ			
84	1 拡 - S820	A29	第 27 図	長方形	4.20	3.60	0.49	-	○	○	○	-	2	7	-	-	Ⅵ	S1016		
85	1 拡 - S1016	B29	第 27 図	長方形	6.70	6.20	0.32	-	-	○	○	○	2	20	○	1840 ± 20 1870 ± 25	Ⅲ		S820・1040	
86	2- S4	D17	第 29 図	長方形	4.50	3.70	0.11	-	-	-	○	-	不明	10	△	1685 ± 20	V			
87	2- S5	E14	第 29 図	長方形	4.30	3.20	0.06	○	-	-	○	-	2	8	△	-	Ⅵ			
88	2- S7	E15	第 29 図	長方形	5.80	5.20	0.38	-	-	○	○	-	不明	18	△	-	V			
89	2- S9	D18	第 30 図	長方形	8.50	7.50	0.37	-	○	-	○	-	4?	4	-	-	Ⅵ			
90	2- S13	D18	第 30 図	長方形	3.80	不明	0.05	-	-	-	○	-	2	-	-	-	V			
91	2- S2001	C21	第 31 図	長方形	5.30	4.00 ±	0.13	-	○	-	○	-	不明	1	-	-	V		S167・ 2002・ 2502・ 4-S167	S2001 は、３次調査 B 区の S220 と合わせて一軒の住居と考えられる。よって、S220 は欠番とし、S2001 に統合する。
92	2- S2002	B21	第 31 図	方形	5.20	5.20	0.22	-	-	-	○	-	2	10	△	-	Ⅵ	S2001・ 2003		
93	2- S2004	B21	第 32 図	不明	不明	不明	0.17	-	-	-	○	-	不明	-	△	1810 ± 20	Ⅵ		S2005	
94	2- S2005	B22	第 32 図	方形	4.70	4.10+	0.63	-	-	-	○	-	2?	4	△	-	Ⅵ	S2004		
95	2- S2006	B22	第 32 図	長方形	4.70	3.70	0.33	○	-	-	○	○	2	6	△	-	V			
96	2- S2009	B20	第 32 図	隅丸方形	6.20	5.60+	0.31	-	-	-	○	-	4	6	△	-	V			
97	2- S2010	A23	第 33 図	方形	7.00	7.00	0.37	-	-	○	○	-	4?	9	△	1710 ± 20 1735 ± 20	V			
98	2- S2014	ア 25	第 33 図	方形？	3.00+	2.70+	0.07	-	-	-	○	-	不明	-	△	-				
99	2- S2016	A24	第 33 図	長方形	3.60	3.10	0.28	-	-	-	○	-	2	1	△	1750 ± 20	Ⅵ			
100	2- S2017	ア 25	第 34 図	方形	6.50	6.20	0.50	○	○	○	○	-	4	10	△	-	Ⅵ			
101	2- S2512	B19	第 34 図	方形	2.60+	1.00+	0.28	-	-	-	-	-	不明	2	-	-	Ⅳ			
102	2- S3001	ウ 31	第 35 図	長方形	7.00	6.60	0.46	-	-	○	○	-	4	10	○	1690 ± 20 1730 ± 20 1715 ± 20	Ⅵ	1-S22		
103	2- S3004	ウ 31	第 34 図	方形	4.20+	3.00+	0.41	-	○	○	○	-	2?	1	-	-	Ⅰ			

第３表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表③（竪穴建物）

	遺構番号	検出位置	挿図	竪穴部				施設							炭化材等	年代測定	土器の時期	切り合い関係		備考
				プラン	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	突出壁	張出	ベッド・棚	貼床	壁溝	主柱穴	土坑・ピット				切る	切られる	
104	2- S3007	ア 27	第 35 図	長方形	5.70	4.20	0.13	-	-	-	○	-	2?	4	-	-	V			
105	2- S3008	ア 27	第 35 図	長方形	6.00	4.80	0.12	-	○	-	○	-	2?	3	-	-	V			
106	2- S3009	イ 28	第 36 図	方形	5.70	5.50	0.58	-	-	○	○	-	2	5	-	-	I		S3010	
107	2- S3010	イ 29	第 36 図	長方形	4.40	3.40	0.08	-	-	-	○	-	不明	2	-	-	VI	S3009		
108	2- S3011	ウ 29	第 37 図	長方形	6.20	5.20	0.44	○	○	○	○	-	4	11	-	-	V	S3012	S3014	
109	2- S3012	ウ 29	第 37 図	方形？	不明	不明	0.11	-	-	-	○	-	不明	-	-	-			S3011・3014	
110	2- S3014	ウ 29	第 37 図	方形？	3.60	0.90+	0.30	-	-	-	○	-	不明	-	-	-	VI	S3011・3012		
111	2- S3015	ウ 32	第 38 図	長方形	5.90	4.40	0.33	-	○	-	○	○	2	7	-	-	VII			
112	2- S3334	イ 31	第 36 図	長方形	4.10	3.30	0.52	-	-	○	○	○	2	5	-	-	I		1 拡 -S22・70	
113	2- S3335	イ 29	第 36 図	長方形	4.70	3.00	0.35	-	-	-	○	-	2	-	-	-	I		1 拡 -S298	
114	2- S3336	ア 29	第 37 図	方形	5.00+	不明	0.32	-	-	-	-	-	不明	1	-	-	I		1 拡 -S609	
115	3- S9	カ 38	第 43 図	方形	5.50	不明	0.18	○	-	○	○	-	2	6	-	-	I		S127	
116	3- S101	ウ 34	第 43 図	長方形	4.10	3.40	0.41	-	-	○	○	-	2	6	-	2185 ± 20	I			入口施設有り。
117	3- S102	ウ 34	第 44 図	長方形	4.40	3.80	0.28	-	-	-	○	-	2	3	○	1830 ± 20 1880 ± 20	VI	S103	S164	藁状炭化材出土
118	3- S103	ウ 34	第 44 図	不整円形	3.70+	2.90+	0.00	-	-	-	○	-	不明	2	-	-	V		S102	
119	3- S104	イ 35	-	不整長方形	3.20	2.60	0.08	-	-	-	○	-	不明	-	-	-				
120	3- S105	ウ 37	第 43 図	長方形	5.20	4.30	0.44	-	-	○	-	-	4	-	△	-	V	S106	S146	入口施設有り。南東隅にたも石有り。
121	3- S106	エ 37	第 45 図	円形	9.20	9.20	0.44	○	-	○	○	○	10	4	-	2100 ± 20	I		S105・107	住居中央に炉を有する。炭化材や炭化粒子を含む層は S107 等からの流れ込みの可能性大。
122	3- S107	エ 37	第 46 図	長方形	5.50	5.00	0.37	-	-	-	○	-	4	5	○	1915 ± 20	II	S106	S108	南側にたも石有り。床面直上より、土器製作に使用されたと思われる砂を検出。
123	3- S108	エ 37	第 44 図	長方形	3.90	3.20	0.23	-	-	-	○	-	2	-	○	1905 ± 20	V	S107・109		
124	3- S109	エ 37	第 46 図	長方形	5.30	4.90	0.46	-	-	○	○	-	2	6	○	1835 ± 20	IV		S108	屋根材の一部と思われる藁状炭化材出土。住居入口付近から土器製作に使用したと思われる白色の粘土質ブロック（10㎝前後）が出土。
125	3- S110	ウ 37	第 45 図	方形	4.40	4.40	0.21	-	-	-	○	-	2	2	○	1855 ± 20	III			東側周壁沿いにたも石有り。
126	3- S112	ウ 35	第 47 図	長方形	5.70	3.50	0.25	-	-	○	-	-	2	1	○	1750 ± 20	V			４層は炭灰層の可能性大。
127	3- S113	エ 34	第 47 図	長方形	6.00	5.50	0.19	-	-	○	○	-	4	1	○	1730 ± 20	IV	S151		
128	3- S114	エ 35	-	長方形	7.00	5.00	0.12	-	-	不明	○	-	2	9	-	-	I			2 枚の貼床をもつ住居。
129	3- S115	エ 40	第 48 図	長方形	7.30	5.00	0.22	-	-	○	○	-	2	6	△	1730 ± 20	I			住居近辺のピットから根固めに使用したと思われる白色粘土質ブロック出土。
130	3- S116	オ 41	-	長方形	5.50	4.50	0.00	-	-	-	○	-	4	-	○	1875 ± 20 1840 ± 20	II			残存状況が著しく悪い。
131	3- S117	オ 37	第 48 図	長方形	4.70	4.30	0.37	-	-	○	○	○	2	-	○	1700 ± 25 1680 ± 20	V	S158・162		住居南西部ベッド上にタモ石有り。土器製作に使用したと思われる灰土混じりの土、朱混じりの土出土（赤色顔料 ?）。
132	3- S118	オ 37	第 48 図	方形	3.20	3.20	0.18	-	-	-	○	-	不明	-	-	-	III	S156・162		
133	3- S119	イ 37	第 49 図	円形	9.00	9.00	0.29	○	○	○	-	-	8	5	-	2115 ± 20	I			貼床はベットの部分だけ確認。住居中央に炉を有する。

第４表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表④（竪穴建物）

	遺構番号	検出位置	挿図	竪穴部				施設							炭化材等	年代測定	土器の時期	切り合い関係		備考
				プラン	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	突出壁	張出	ベッド・棚	貼床	壁溝	主柱穴	土坑・ピット				切る	切られる	
134	3- S120	エ 38	第 50 図	方形	7.00	7.00	0.37	○	-	○	○	○	4	2	○	1850 ± 20	Ⅳ		S129・165	
135	3- S121	エ 38	第 51 図	円形	7.00	7.00	0.70	○	-	○	○	-	8	6	-	-	Ⅰ			住居中央に炉を有する。
136	3- S122	イ 36	第 50 図	長方形	4.00	3.30	0.19	-	-	-	○	-	不明	1	-	-	Ⅶ			
137	3- S123	オ 39	第 52 図	方形	6.00	6.00	0.37	-	-	○	○	-	4	-	○	-	Ⅵ	S124		
138	3- S124	オ 39	第 52 図	長方形？	4.60+	1.00+	0.25	-	-	○	○	-	2?	-	-	-	Ⅰ		S123	主柱穴と考えられる柱穴は一基しか確認されていないが、その位置から二本の主柱をもつ住居だった可能性が高い。
139	3- S127	オ 38	第 53	長方形	5.00	4.60	0.17	-	-	-	○	-	2	1	○	1930 ± 20 1975 ± 20	Ⅱ	S9	S129	
140	3- S130	ウ 38	第 53	長方形	3.10	2.90	0.07	-	-	-	-	-	不明	3	-	-	Ⅳ			焼土粒を多量に含む層有り。
141	3- S131	カ 40	第 53 図	長方形	2.90	2.40	0.18	-	-	-	-	-	2	1	-	-	Ⅰ			中央部土坑は、炉の可能性大。東部柱穴から柱痕を確認、基底部分から根固めと思われる褐色粘土質ブロック（10 ～ 20 ㎜程度）が数点出土。
142	3- S144	ウ 36	-	不明	不明	不明	不明	-	-	-	○	-	不明	-	○	-				攪乱により、床の一部のみ残存。
143	3- S150	エ 33	第 53 図	円形	3.00	3.00	0.10	-	-	-	○	-	不明	2	-	-				
144	3- S151	エ 34	第 54 図	円形	7.00	7.00	0.22	-	○	○	○	-	8	4	-	-	Ⅰ		S113	中央の土坑は、同時期と思われる他の円形住居と比較して炉の可能性も？
145	3- S154	エ 35	第 54 図	方形	6.50	6.50	0.23	○	-	○	○	○	4	3	○	1785 ± 20	Ⅳ			
146	3- S155	オ 36	第 55 図	円形	8.30	8.30	0.67	-	-	○	○	-	8	3	-	2165 ± 20	Ⅰ		S161	中央の土坑は、同時期と思われる他の円形住居と比較して炉の可能性も？
147	3- S156	オ 37	第 56 図	円形	7.00 ±	7.00 ±	0.40	-	○	○	○	-	4	1	-	-	Ⅰ		S118・157・158・162	
148	3- S158	オ 37	第 56 図	方形？	不明	不明	0.19	-	-	-	○	-	4?	11	-	1840 ± 40	Ⅴ	S156	S117・162	
149	3- S161	オ 36	第 55 図	長方形	3.20	2.90	0.46	-	-	○	○	-	2	-	-	2140 ± 20	Ⅰ	S155		
150	3- S162	オ 37	第 56 図	長方形	4.00	3.00	0.29	-	-	-	○	-	2	2	-	-	Ⅱ	S156・158	S117・118	
151	4- S1	C29	-	方形	5.00	5.00	0.26	-	-	-	○	-	2	-	○	1835 ± 25	Ⅴ			
152	4- S2	B29	第 59 図	方形	5.20	5.20	0.40	-	-	○	○	-	2	4	○	1830 ± 20	Ⅴ			
153	4- S3	C27		長方形	3.80	3.40	0.16	-	-	-	○	-	4	5	-	-				
154	4- S4	D27	第 59 図	長方形	3.40	2.60	0.38	-	-	-	○	-	4	5	○	-	Ⅵ	S5		
155	4- S5	D27	第 60 図	方形	4.50	4.50	0.20	-	-	○	○	-	6	2	○	1770 ± 25	Ⅳ		S4	西側ベット状壁面付近と東側やや中央よりにたも石有り。
			-													1825 ± 25				
156	4- S6	D26	第 59 図	長方形	5.00	4.40	0.44	-	-	○	○	-	2	-	△	-	Ⅵ	S13		南壁面中央部に入口。
157	4- S7	B26	第 60 図	長方形	4.50	4.00	0.62	-	○	-	○	-	2	3	-	-	Ⅶ	S116		南東部壁面中央部に入口。中央土坑東側にたも石有り。
158	4- S8	B26	第 61 図	長方形	4.70	3.90	0.32	-	○	○	-	-	2	5	○	-	Ⅶ	S117・118	S75	南東壁面中央部に入口。
159	4- S9	C28	第 61 図	台形	4.70 ～ 5.50	5.00	0.37	-	-	○	○	-	2	4	△	1810 ± 25	Ⅴ			
160	4- S11	E26	-	長方形	4.70	4.30	0.42	-	-	-	○	-	2	4	-	-	Ⅶ			
161	4- S12	D29	第 62 図	方形	6.00	5.80	0.33	-	-	○	○	-	4	4	△	-	Ⅴ			東側コーナーに土器集中。
162	4- S13	D26	第 62 図	方形	5.10	5.10	0.45	-	-	-	○	-	4	4	○	1900 ± 40 1765 ± 20	Ⅴ		S6・26	
163	4- S14	D28	第 63 図	方形	3.80	3.80	0.17	-	-	-	○	-	2	2	-	-	Ⅴ	S133		

第５表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表⑤（竪穴建物）

	遺構番号	検出位置	挿図	竪穴部				施設							炭化材等	年代測定	土器の時期	切り合い関係		備考
				プラン	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	突出壁	張出	ベッド・棚	貼床	壁溝	主柱穴	土坑・ピット				切る	切られる	
164	4- S15	C25	第 64 図	方形	6.50	6.50	0.57	-	-	○	○	-	4	4	○	-	Ⅵ	S16	S73	
165	4- S16	B25	第 63 図	長方形	6.00	5.50	0.46	○	○	○	○	-	2	6	○	1795 ± 25	Ⅳ	S174・228	S15	
166	4- S17	B24	第 65 図	長方形	6.00	4.00	0.15	-	-	-	○	○	3	22	○	1700 ± 25	Ⅲ			
167	4- S18	B27	第 65 図	長方形	6.00	5.50	0.46	○	-	○	○	-	4	-	○	1875 ± 25	Ⅱ		S49・103	埋土中（2～3 層 ?）にかけて多量の土器溜まりが見られる。
168	4- S19	A27	第 66 図	長方形	6.60	5.90	0.30	-	○	○	○	-	4	1	△	1740 ± 50 1710 ± 25	Ⅵ			南東壁面中央部に入口。主柱穴間に区画溝。埋土中より屋根材と思われる藁状炭化材出土。
169	4- S20	C24	第 66 図	長方形	4.20	4.00	0.17	-	-	-	-	-	2	-	-	-	Ⅵ	S21		
170	4- S21	C24	第 67 図	方形	4.00	4.00	0.40	-	-	-	○	○	2	3	○	1810 ± 40 1770 ± 40 1730 ± 60	Ⅴ		S20	不整合な落ち込み。
171	4- S22	C25	第 67 図	長方形	2.90	2.40	0.14	-	-	-	○	-	2	2	○	-	Ⅵ			
172	4- S23	D28	第 67 図	長方形	4.50+	3.20+	0.28	-	-	-	-	-	不明	2	-	-			S230	住居中央より東側壁面にかけてたも石が散在する。
173	4- S25	D27	第 68 図	長方形	4.70	4.20	0.48	-	-	-	-	-	2	-	-	-	Ⅶ			
174	4- S26	D25	第 68 図	長方形	5.50	4.50	0.46	-	-	○	○	-	2	2	○	1680 ± 40 1710 ± 40 1660 ± 40	Ⅵ	S13・94	S38	南側側面中央に入口。南東隅に礫の集中。
175	4- S27	D24	第 69 図	長方形	5.30	4.80	0.46	-	○	○	○	-	4	3	△	-	Ⅴ			南西隅角は、方形に落込む。南側壁面中央に入口。北側壁面 4/5 が張出し。
176	4- S30	E25	第 69 図	長方形	3.50+	2.50+	0.19	-	-	-	○	-	不明	-	-	-	Ⅴ		S28・56・59	
177	4- S57	E26	第 69 図	長方形	3.20	2.60 ±	0.09	-	-	-	○	-	2	1	△	-			S58	
178	4- S58	E26	第 69 図	方形	2.50	1.40+	0.20	-	-	-	○	-	不明	-	-	-	Ⅵ	S57		
179	4- S59	E25	-	長方形	4.00	3.00	0.23	-	-	-	○	-	2	-	-	-	Ⅴ	S30	S28	
180	4- S73	C25	第 64 図	長方形	4.50	3.50	0.61	-	-	-	-	-	2	9	-	-	Ⅶ	S15		
181	4- S139	E22	第 70 図	長方形	3.20	2.60	0.13	-	-	-	○	-	不明	1	△	1715 ± 25	Ⅵ	S142		
182	4- S140	D22	第 70 図	方形	4.80	4.50	0.45	-	-	-	○	-	2	-	-	-	Ⅵ	S142・143	S28	
183	4- S141	D21	第 70 図	長方形	3.80	3.00	0.34	-	○	○	○	-	不明	2	-	-	Ⅵ	S143・145	S146	
184	4- S142	D22	第 71 図	長方形	5.80	5.30	0.48	-	-	○	○	-	4	-	-	-	Ⅴ	S143	S28・139・140	
185	4- S143	D21	第 71 図	方形	6.20+	6.20	0.21	-	-	-	○	-	4	2	△	-	Ⅳ	S219	S140・141・142	
186	4- S144	D21	第 72 図	長方形	4.90	3.70	0.37	-	○	-	○	-	2	3	-	-	Ⅴ	S219		
187	4- S150	C22	第 72 図	長方形	6.00	5.70	0.40	-	-	-	○	-	4	3	○	1810 ± 40 1830 ± 40 1750 ± 40 1800 ± 25 1760 ± 25	Ⅴ		S170	
188	4- S151	D22	第 73 図	方形	3.50	3.20	0.00	-	-	-	○	-	2	5	-	-	Ⅲ			
189	4- S152	C22	第 73 図	長方形	2.80	2.50+	0.10	-	-	-	-	-	不明	2	-	-			S153	
190	4- S153	C22	第 73 図	長方形	5.50	4.90	0.60	-	○	○	-	-	2	6	-	-	Ⅵ	S152		
191	4- S154	E23	第 74 図	長方形	5.50	4.90	0.59	○	○	○	○	-	4	3	△	1780 ± 40 1880 ± 40	Ⅲ			
192	4- S156	F23	第 75 図	長方形	5.60	4.50	0.62	-	○	-	○	-	3	2	-	-	Ⅶ	S28・157・159		
193	4- S157	F23	第 74 図	方形	5.70	4.80+	0.48	-	○	○	○	-	4?	4	-	-	Ⅴ		S156・211	
194	4- S159	F23	第 75 図	長方形	3.20	2.70+	0.22	-	-	-	○	-	1	-	-	-	Ⅳ		S156	
195	4- S160	F23	第 75 図	方形	2.70+	2.70	0.21	-	-	-	○	-	不明	1	-	-	Ⅳ			
196	4- S161	F22	第 75 図	長方形	3.30	2.70	0.14	-	-	-	○	-	2	1	△	-	Ⅶ			
197	4- S163	F22	第 76 図	長方形	5.50	4.50	0.45	-	○	○	○	-	2	1	-	-	Ⅴ	S164		
198	4- S164	F22	第 76 図	長方形	7.80+	7.30	0.39	-	-	○	○	-	4	4	○	1870 ± 40 1920 ± 40 1990 ± 40	Ⅳ		S163	
199	4- S165	F22	-	長方形	3.50	2.50+	0.12	-	-	-	○	-	不明	3	-	-	Ⅶ		S177・1002	
200	4- S167	C21	第 77 図	隅丸長方形	4.30	3.40	0.31	-	-	-	○	-	2	6	△	-	Ⅴ	S190・206・2-S2001		

第６表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表⑥（竪穴建物）

	遺構番号	検出位置	挿図	竪穴部				施設							炭化材等	年代測定	土器の時期	切り合い関係		備考
				プラン	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	突出壁	張出	ベッド・棚	貼床	壁溝	主柱穴	土坑・ピット				切る	切られる	
201	4- S168	D20	第 78 図	長方形	5.50	4.90	0.61	-	-	-	○	-	2	3	-	-	Ⅶ	S169･210		
202	4- S169	D20	第 79 図	長方形	3.60+	3.40	0.37	-	-	-	○	-	2	-	△	-	Ⅵ	S210	S168	
203	4- S170	C23	第 79 図	長方形	4.40	3.70	0.48	-	-	-	○	-	2	2	-	-	Ⅴ	S150		
204	4- S175	E21	-	方形	2.00	2.00	0.18	-	-	-	-	-	4?	-	-	-	Ⅴ			
205	4- S176	C21	第 79 図	方形	3.20	2.90	0.32	-	-	-	○	-	4	2	△	-	Ⅴ	S206		※柱穴については４本としたが、掘込みが浅いため要検討。
206	4- S190	C21	第 77 図	長方形	5.80	5.10	0.26	-	○	○	○	-	4	2	△	-	Ⅳ		S167・178	
207	4- S206	C21	第 77 図	方形	3.00	3.00	0.18	-	-	-	○	-	2	2	△	-	Ⅳ		S167・176	
208	4- S210	D20	第 78 図	長方形	5.70	3.40+	0.25	-	○	○	○	-	4?	7	△	-	Ⅴ		S168・169	
209	4- S244	C20	第 79 図	長方形	5.00	4.00	0.56	-	-	-	-	○	不明	-	△	-				南東側壁面中央部に入口。
210	4- S2012	A27	第 80 図	長方形	6.30	5.60	0.39	-	-	-	○	-	4	1	△	1700 ± 25				
211	4- S2531	A25	-	長方形	5.70	4.00	0.11	-	-	-	○	-	2	18	○	1760 ± 25				
212	5- S5	E20	第 85 図	方形	5.00	5.00	0.40	-	-	-	○	-	不明	1	-	-	Ⅶ		S26	
213	5- S7	D19	第 85 図	方形	4.00	4.00	0.40	-	○	○	○	○	2	2	○	1670 ± 25	Ⅵ			屋根土と思われる堆積状況を確認。
214	5- S10	F21	第 86 図	長方形	5.20	4.80	0.25	○	○	-	○	-	4	6	○	1800 ± 25	Ⅳ			
215	5- S12	F20	第 86 図	方形	3.50	3.50	0.35	-	-	-	○	○	2	2	○	-	Ⅳ			
216	5- S14	G19	第 86 図	方形	2.80	2.80	0.24	○	-	-	○	-	不明	5	-	-				
217	5- S16	G21	第 87 図	方形	3.60	3.60	0.18	-	-	-	○	○	2	2	△	-				
218	5- S17	G21	第 87 図	長方形	4.40	3.20	0.27	-	-	-	○	-	2	9	○	-	Ⅵ			
219	5- S18	G20	-	隅丸長方形	4.00	2.80	0.00	-	-	-	○	-	不明	4	-	-	Ⅴ			
220	5- S19	H20	第 88 図	方形	5.00	4.80	0.56	-	○	-	○	-	2	3	△	1745 ± 25	Ⅴ			
221	5- S22	G20	-	長方形	5.60	4.70	0.66	-	○	○	○	-	2	5	-	-	Ⅴ		S23	
222	5- S23	F20	第 88 図	長方形	5.30	4.50	0.26	-	○	-	○	-	2	9	-	-	Ⅴ	S22・74		
223	5- S24	F20	第 89 図	台形	3.80～4.30	3.50	0.40	-	-	-	○	-	4	2	○	1810 ± 40 1660 ± 40				藁状炭化材出土。炭化材の年代測定については、３点中２点が 1810 ± 40 年 BP の年代を得ている。
224	5- S25	E20	-	台形	5.00	4.00～4.80	0.46	-	-	○	○	-	2	4	-	-	Ⅵ	S26		
225	5- S26	E20	-	方形	4.70	4.70	0.29	-	○	○	○	-	2	4	-	-	Ⅴ	S5	S25	
226	5- S31	E19	第 89 図	方形	3.30	3.30	0.16	-	-	-	○	-	不明	-	△	-	Ⅴ			
227	5- S33	D18	第 90 図	長方形	5.60	5.20	0.36	-	-	-	○	-	4	5	○	-	Ⅵ		S3	
228	5- S38	E17	-	長方形	5.00	4.50	0.29	○	○	-	○	-	2	3	-	-	Ⅵ	S39	S36	
229	5- S39	F17	第 90 図	長方形	6.20	5.70	0.29	-	○	-	○	-	4	5	○	-	Ⅴ		S38	貼床下から区画溝。
230	5- S40	F19	第 91 図	方形	6.00	6.00	0.48	-	-	○	○	-	2	2	-	1680 ± 40	Ⅴ	S80	S41	
231	5- S41	F18	第 91 図	長方形	7.00	5.60	0.36	-	-	-	○	○	2	13	○	1670 ± 40 1725 ± 25	Ⅵ	S40・42・80		
232	5- S42	F18	第 92 図	長方形	5.80	4.80	0.22	○	○	○	○	-	2	6	○	1630 ± 40 1715 ± 25	Ⅴ		S41・47	
233	5- S43	F18	-	不明	3.10	2.70	0.00	-	-	-	○	-	不明	-	△	1745 ± 20	Ⅵ	S44		貼床面の検出のため、プラン不明。
234	5- S44	G18	第 92 図	方形	4.70	4.50	0.34	-	○	○	○	○	2	4	△	1880 ± 25	Ⅱ		S43	
235	5- S47	F18	第 93 図	長方形	3.60	3.20	0.32	-	-	-	○	-	不明	5	-	-		S42	S75	
236	5- S48	H16	第 93 図	長方形	3.60	2.90	0.09	-	-	-	○	-	不明	5	-	-				
237	5- S50	H15	第 93 図	方形	6.50	6.50	0.29	-	○	○	○	-	5	5	△	-	Ⅴ			
238	5- S51	G14	-	方形	2.50	2.50	0.10	-	-	-	○	-	不明	1	-	-				検出面が床。
239	5- S52	J15	第 94 図	長方形	4.90	4.20	0.27	-	-	-	○	-	2	1	△	-	Ⅶ			
240	5- S55	I17	第 94 図	方形	4.20	4.00	0.17	-	-	-	○	-	不明	5	-	-	Ⅲ			
241	5- S56	I16	第 95 図	台形	4.70	3.90～4.30	0.23	-	-	-	○	-	2	1	-	-	Ⅶ		S57	
242	5- S57	I16	-	方形	3.00	3.00	0.11	-	-	-	○	-	不明	-	-	-		S56		検出面が床。
243	5- S58	I16	第 94 図	長方形	3.00	2.70	0.13	-	-	-	○	-	不明	-	△	-	Ⅴ			
244	5- S80	E19	第 91 図	不明	5.20+	3.20	0.53	-	-	○	○	-	不明	-	△	1800 ± 40	Ⅲ		S40・41	
245	5- S81	F16	第 96 図	長方形	9.00	8.50	0.34	-	○	○	○	-	4	5	○	1680 ± 40	Ⅴ	S82		
246	5- S82	F16	第 96 図	方形	4.90	4.70	0.18	-	-	-	○	-	2	5	-	-	Ⅳ		S81	

第７表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表⑦（土坑）

	遺構番号	検出位置	挿図	形状・規模				施設		炭化材等	年代測定	土器の時期	切り合い関係		
				平面プラン	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	貼床	土坑等				切る	切られる	備考
1	1- SA36	K8	第 11 図	方形	2.40	2.10	0.15	○	3	-	-		SA47	SA21	貼床をもつ土坑。
2	1- SA101	L8		方形？	2.10	1.90+	0.08	○	1	-	-			SA17・35	
3	1- SC5	K5	第 17 図	長方形	1.20	1.00	0.10	-	-	-	-				
4	1- SC8	K5		長方形？	0.90	0.20+	0.24	-	-	-	-				
5	1- SC9	K5	第 17 図	隅丸方形	1.40+	0.60+	0.23	-	2	-	-				
6	1- SC17	L7	第 17 図	不整形	2.20+	1.20+	0.15	-	-	-	-			SA16・29	
7	1- SC24	J9	第 17 図	卵形	1.60	1.30	0.25	-	-	-	-				
	1- SC28	K9	第 11 図	隅丸長方形	1.60	0.75	0.29	-	1	-	-		SA65		
8	1- SC33	J9	第 11 図	隅丸方形	2.00	2.00	0.60	-	1	-	-	Ⅳ	SC36		
9	1- SC35	J9	第 11 図	長方形	0.80+	0.80+	0.30	-	-	-	-		SC36	SA21	
10	1- SC36	K9	第 11 図	楕円形	2.40+	1.00	0.10	-	2	-	-			SA21・SC33・35	
11	1- SC43	I9	第 15 図	隅丸方形	1.40	1.20	0.47	-	1	-	-		SA64		
12	1- SC47	I9	第 13 図	長方形	1.20	0.40+	0.20	-	-	-	-			SA39	
13	1- SC51	J8		楕円形	0.90	0.80	0.25	-	-	-	-				
14	1- SC85	K9		不整形	1.10+	0.90	0.20	-	-	-	-				
15	1- SC201	M4	第 17 図	長方形	1.20+	1.00	0.20	-	1	-	1915 ± 25				
16	1- SC314	M6	第 16 図	隅丸方形	1.90	1.60	0.15	-	-	-	-		SA116		
17	1 拡 - S12	ウ 33	第 19 図	楕円形	1.10	0.90	0.32	-	-	-	-		S5		
18	1 拡 - S17	イ 33	第 20 図	楕円形	1.20	0.80	0.15	-	-	-	-	Ⅴ	S38		
19	1 拡 - S23	ウ 33		方形	2.00	1.30+	0.55	-	-	-	-			S5	
20	1 拡 - S32	イ 32	第 20 図	楕円形	1.40	1.00	0.29	-	-	-	-		S38		
21	1 拡 - S45	イ 32	第 28 図	長楕円形	0.90	0.80+	0.25	-	-	-	-			S59	
22	1 拡 - S59	イ 32	第 28 図	楕円形	1.00	0.70	0.20	-	1	-	-	Ⅱ	S45		
23	1 拡 - S101	ア 33	第 21 図	隅丸長方形	1.40	1.00	0.18	-	1	-	1720 ± 20		S105		
24	1 拡 - S108	イ 33	第 21 図	楕円形	1.40+	0.90	0.26	-	-	-	-		S115	S105	
25	1 拡 - S115	イ 33	第 21 図	隅丸長方形	2.20+	2.50+	0.18	-	5	-	-	Ⅰ		S105・108・116	
26	1 拡 - S116	イ 33	第 21 図	長楕円形	2.70	0.70	0.03	-	1	-	-	Ⅰ	S115	S105	
27	1 拡 - S169	ア 33	第 22 図	長方形	2.40	2.10	0.40	○	2	-	-	Ⅴ	S344・347		
28	1 拡 - S177	ア 33		方形	1.30	0.90	0.27	-	-	-	-				
29	1 拡 - S189	ア 33	第 27 図	方形	1.20	1.20	0.12	-	-	-	-		S354	S357	
30	1 拡 - S202	イ 32	第 20 図	五角形	1.80	1.50	0.37	-	-	-	-	Ⅶ	S38		
31	1 拡 - S354	ア 33	第 28 図	方形	2.00+	1.50+	0.52	-	2	-	-			S189・357・568	
32	1 拡 - S357	ア 33	第 28 図	楕円形	2.30+	1.00	0.09	-	-	-	-		S189・354・568		
33	1 拡 - S403	ア 32	第 23 図	楕円形	0.90	0.70	0.17	-	-	-	-		S404		
34	1 拡 - S420	A30	第 23 図	楕円形	1.70	1.50	0.29	○	-	-	-	Ⅴ	S443		
35	1 拡 - S568	ア 33		隅丸方形？	3.80+	1.60+	0.44	-	-	-	-	Ⅴ			
36	1 拡 - S573	B31	第 25 図	楕円形	1.10	0.80	0.27	-	-	-	-		S521		
37	1 拡 - S736	A31	第 25 図	隅丸長方形	1.50+	1.00	0.25	-	-	-	-		S580	S737	
38	1 拡 - S737	A31	第 25 図	楕円形	1.10	0.70	0.57	-	1	-	-				
39	1 拡 - S752	A30	第 25 図	楕円形	1.10	0.70	0.07	-	-	-	-		S580		
40	1 拡 - S770	B31	第 25 図	円形	0.80	0.80	0.22	-	-	-	1695 ± 25		S570		
41	1 拡 - S778	C31	第 26 図	楕円形	1.70	1.30	0.05	-	-	-	-		S781		
42	1 拡 - S781	C31	第 26 図	方形	2.20	2.20	0.25	-	1	-	-	Ⅴ		S778・783	
43	1 拡 - S782	C31	第 26 図	楕円形	0.90	0.80	0.05	-	-	-	-		S622・796		
44	1 拡 - S783	C31	第 26 図	隅丸長方形	1.90	1.50	0.70	-	-	-	-	Ⅵ	S781	S787	
45	1 拡 - S796	C31	第 26 図	隅丸長方形	1.70	0.90	0.50	-	-	-	-	Ⅰ		S782	
46	1 拡 - S980	B30	第 28 図	隅丸長方形	3.70	3.00	0.35	-	25	-	-	Ⅰ			
47	1 拡 - S1038	B29	第 27 図	隅丸長方形	2.60+	2.30	0.15	-	4	-	-	Ⅰ		S1016・1040・1041	
48	1 拡 - S1040	B29	第 27 図	隅丸長方形	1.20	0.90	0.13	-	-	-	-				
49	1 拡 - S1041	B29	第 27 図	不明	0.70+	0.60+	0.18	-	1	-	-		S1038	S1040・1016	
50	1 拡 - S1243	ア 31		三角形	1.30+	1.20	0.25	-	-	-	-			S410	
53	2- S344	E16		方形	1.10	1.00	0.29	-	-	-	-				
54	2- S346	E16		方形	1.20	1.10	0.33	-	-	-	-				
55	2- S347	E16		方形	0.90	0.90	0.30	-	1	-	-				
56	2- S349	E16		方形	0.90	0.80	0.39	-	-	-	-				
57	2- S350	E16		長方形	1.00	0.80	0.32	-	-	-	-				
58	2- S351	E16		隅丸長方形	1.40	0.90	0.40	-	-	-	-				
59	2- S355	E16		長方形	1.10	0.70	0.35	-	-	-	-				
60	2- S383	D17	第 30 図	楕円形	1.70	1.20	0.36	-	1	-	-				2-S13 に伴う可能性あり
61	2- S390	D17	第 41 図	楕円形	1.50	1.20	0.45	-	-	-	-				
62	2- S2003	B21	第 31 図	長方形	2.50±	2.60	0.39	-	4	-	-			S2002	
63	2- S2171	A24		方形	1.30	1.10	0.27	-	-	-	-				
64	2- S2172	A24		隅丸方形	1.20	1.00	0.39	-	-	-	-				
65	2- S2173	A24		楕円形	1.10	1.10	0.32	-	-	-	-				
66	2- S2501	B20	第 31 図	楕円	1.00	0.80+	0.44	-	-	-	-			S2502	
67	2- S2502	B20	第 31 図	隅丸長方形	1.80	1.30	0.44	○	-	-	1815 ± 20	Ⅴ	S2001		

第８表　弥生時代～古墳時代遺構一覧表⑧（土坑）

	遺構番号	検出位置	挿図	形状・規模				施設		炭化材等	年代測定	時期	切り合い関係		
				平面プラン	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	貼床	土坑等				切る	切られる	備考
68	3- S1	カ 45	第 57 図	円形	0.90	0.80	0.12	-	-	-	-	Ⅴ			
69	3- S4	カ 41	第 57 図	隅丸方形	0.90	0.70	0.13	-	1	○	1880 ± 40	Ⅴ	S3		建物跡に伴う？
70	3- S133	オ 37	第 57 図	不定形	1.00	0.70	0.06	○	-	-	-			S134	
71	3- S134	オ 37	第 57 図	隅丸方形	1.30	1.10	0.45	○	1	-	-		S133		
72	3- S142	オ 39	第 57 図	長方形	0.80	0.50	0.39	-	-	-	-	Ⅲ？		S129	
73	3- S143	イ 38		不定形	1.20	0.90	0.10	-	-	-	-			S139	
74	3- S157	オ 37		方形	1.10	1.20	0.49	-	-	-	-		S156		
75	3- S160	ウ 34	第 44 図	不定形	0.60	0.60	0.30	-	-	-	-				S103 に伴う？
76	3- S164	ウ 34	第 44 図	隅丸方形	1.10	1.10	0.32	-	-	-	-				
77	3- S165	エ 38		方形	1.00	1.00	0.45	-	-	-	-		S120		
78	4- S10	C28	第 80 図	隅丸長方形	2.50	2.20	0.23	-	2	-	-	Ⅶ			南東壁面中央に入口。
79	4- S29	A26	第 80 図	長方形	1.00	0.90	0.14	○	-	-	2240 ± 25				
80	4- S34	C28	第 80 図	隅丸長方形	1.50	1.20	0.55	-	-	-	1770 ± 20				
81	4- S36	D29	第 81 図	隅丸長方形	1.70	1.20	0.30	-	1	-	-				
82	4- S44	B28	第 81 図	隅丸長方形	1.30	1.10	0.39	-	-	-	1825 ± 20				
83	4- S45	A28	第 81 図	隅丸長方形	1.70	1.50	0.68	-	-	-	-	Ⅳ			
84	4- S48	E27		隅丸長方形	2.30	1.80	0.13	-	-	-	-	Ⅶ			
85	4- S49	B27	第 81 図	円形	1.20	1.20	0.46	-	-	-	-	Ⅴ	S18		
86	4- S50	A26		方形	0.90	0.90	0.15	○	-	-	-				貼床をもつ土坑。
87	4- S51	A26		方形	1.10	0.90	0.30	○	-	-	-				貼床をもつ土坑。
88	4- S52	A26		隅丸方形	0.90	0.80	0.21	○	-	-	-				貼床をもつ土坑。
89	4- S53	A26		方形	1.00	0.90+	0.22	○	-	-	-			S54	貼床をもつ土坑。
90	4- S54	A26		方形	1.10	1.00	0.31	○	-	-	-		S53		貼床をもつ土坑。
91	4- S55	D28		隅丸方形	1.40	1.20	0.47	-	-	-	-				
92	4- S56	E25	第 69 図	方形	1.00	0.80	0.13	-	-	-	-		S30	S28	
93	4- S63	B24		円形？	1.10	1.00+	0.44	-	1	-	-				
94	4- S64	A24		楕円形？	1.10	0.70+	0.33	-	-	-	-				
95	4- S67	B25	第 81 図	隅丸長方形	1.00	0.90	0.53	-	-	-	1850 ± 20				
96	4- S70	B25		円形	1.00	0.90	0.28	-	-	-	-				
97	4- S71	B24		楕円形	1.20	1.00	0.27	-	-	-	-				
98	4- S75	B26	第 61 図	楕円形	1.50	1.30	0.25	-	1	-	-		S8		
99	4- S84	A28	第 82 図	長方形	2.50	2.00	0.58	-	-	-	-		S610		
100	4- S90	E25	第 82 図	隅丸長方形	1.40	1.00	0.53	-	-	-	1945 ± 25				
101	4- S91	D25	第 82 図	隅丸長方形	1.30	1.10	0.75	-	-	-	-				
102	4- S94	D25		隅丸方形？	1.30	1.10	0.09	-	-	-	-			S26	
103	4- S103	B27	第 82 図	隅丸長方形	1.90	1.20	0.40	-	-	-	1825 ± 20	Ⅴ	S18		
104	4- S116	B26		隅丸方形？	0.90	0.30+	0.18	-	1	-	-			S7	
105	4- S117	A26		方形？	1.10	0.70+	0.14	○	-	-	-			S8	貼床をもつ土坑。
106	4- S118	A26		方形	0.90	0.70	0.07	○	-	-	-			S8	貼床をもつ土坑。
107	4- S129	B24		楕円形？	1.30+	0.80	0.14	-	-	-	-				
108	4- S133	D28		楕円形？	0.90+	0.60	0.32	-	-	-	-			S14	
109	4- S136	B24		円形	0.80	0.70	0.11	-	-	-	-				
110	4- S137	B24		隅丸方形	0.90	0.70+	0.19	-	-	-	-				
111	4- S145	D21	第 70 図	楕円形	1.00	0.90+	0.51	-	-	-	-			S141	縄文時代の可能性あり
112	4- S146	D21	第 70 図	楕円形？	1.60	1.30±	0.50	-	1	-	-		S141		
113	4- S174	B25	第 63 図	方形	0.90	0.90	0.19	-	-	-	-		S16・228		
114	4- S178	C21	第 77 図	方形	3.10	2.90	0.52	-	-	-	-		S190		
115	4- S211	E23	第 74 図	楕円形	1.40	1.10	0.42	-	-	-	-		S157		
116	4- S212	D25		円形	0.90	0.80+	0.18	-	-	-	-		S28	S38	
117	4- S214	D25		楕円形	1.20	1.00	0.48	-	-	-	-		S28		
118	4- S217	E22	第 82 図	楕円形	1.10	0.80	0.22	-	2	-	1830 ± 25				
119	4- S219	D21		方形？	2.50	2.40+	0.13	-	-	-	-			S143・144	
120	4- S230	D28	第 67 図	楕円形	1.40	1.10	0.15	-	-	-	-		S23		
121	5- S36	E17		楕円形	1.55	1.10	0.28	-	-	-	-		S38		
122	5- S37	D19	第 95 図	長方形	1.90	1.30	0.30	-	-	-	-	Ⅴ		S177	
123	5- S60	G18	第 95 図	楕円形	0.90	0.70	0.18	-	-	-	-				
124	5- S61	G19	第 95 図	長方形	1.10	0.90	0.15	-	-	-	-	Ⅵ			
125	5- S62	G19		隅丸長方形	1.30	1.10	0.20	-	-	△	1895 ± 25				
126	5- S63	G19		円形	0.90	0.90	0.15	-	-	-	-				
127	5- S64	G20		楕円形	1.40	1.40	0.21	-	-	-	-				
128	5- S68	E18	第 95 図	不整円形	1.30	1.10	0.25	-	-	△	1720 ± 40				
129	5- S72	D18	第 95 図	方形	1.50	1.30	0.38	-	-	-	-				2-S13 に伴う可能性あり
130	5- S73	D18	第 95 図	隅丸長方形	2.10+	1.60	0.30	-	-	-	-				
131	5- S74	F20		円形？	1.10	0.80+	0.08	-	-	-	-			S23	
132	5- S75	F18		円形	1.20+	1.20+	0.28	-	-	-	-		S47		

第９表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (1)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1	1-　SA1	甕	口～胴	(21.5)			(25.4)	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の白・灰・褐色粒を含む	良好	
2	SA1	甕	口～胴	(21.4)			(21.5)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の白・灰・褐色粒を含む	良好	
3	SA1	高坏	口～坏	(38.9)				ミガキ	ミガキ	浅黄 2.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の白・灰色粒を含む	良好	
4	SA1	高坏	脚					工具ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	2mm以下の白・透明・橙色粒を含む	良好	
5	SA1	鉢	口～胴	(30.3)				ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の暗褐色粒を含む	良好	
6	SA3	甕	口～頸	(17.9)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	黒 5 YR 1.7 / 1	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	5mm以下の白・灰・透明光沢粒を含む	良好	
7	SA3	甕	胴～底		(4.7)			ナデ	不明	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	黒 7.5 YR 1.7 / 1	2mm以下の白・青灰色粒を含む	良好	
8	SA3	甕	底		1.8			ナデ、タタキ	ナデ	黄褐 10 YR 6 / 6	黄褐 10 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
9	SA3	?	底		(11.6)			ナデ	ナデ	褐 10 YR 4 / 1	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の白・青灰・赤褐色粒を含む	良好	
10	SA3	鉢？	口～底	(20.4)	(4.4)	12.3		ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	5mm以下の灰・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
11	SA5	壺	胴～底		5.5			タタキ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の白・灰褐色粒を多く含む	良好	
12	SA4	甕	口～胴	(11.6)			(12.4)	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の褐・灰白色粒を含む	良好	
13	SA4	甕	胴～底		4.3			指ナデ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 3	3mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
14	SA4	壺	口					ハケメ、櫛描波状文	ハケメ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	黒褐 10 YR 3 / 1	3mm以下の白・灰・赤褐色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
15	SA4	壺	口～底	(11.1)			(22.9)	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の白・青灰・赤褐色粒を含む	良好	
16	SA4	壺	頸～胴				(17.9)	ハケメ、タタキ	ナデ、ハケメ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 8	3mm以下の白・灰・赤褐色粒を含む	良好	
17	SA4	壺	頸～胴					ハケメ	ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の褐・赤褐色粒を含む	良好	
18	SA4	壺	胴～底		4.5			ナデ、工具ナデ	ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	淡黄 2.5 YR 8 / 3	4mm以下の白・橙色、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
19	SA4	鉢	口～底	(12.0)	2.9	8.6		工具ナデ	工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 6	5mm以下の白・灰・褐色粒を含む	良好	
20	SA4	高坏	坏					ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 2.5 YR 6 / 8	橙 2.5 YR 6 / 8	2mm以下の黒・白色粒を少量含む	良好	
22	SA6	甕	口～胴	19.0			19.7	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の白・灰・赤褐色粒を含む	良好	
23	SA6	甕	胴～底		2.4			ハケメ、ナデ	ナデ、工具ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
24	SA6	甕	口～胴	(17.9)				指オサエ、ナデ	指オサエ、ナデ、ハケメ	橙 5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 3	1mm以下の青灰・黒色光沢・透明光沢粒を含む	良好	
25	SA6	壺	口～底	10.7	1.9	10.4		ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の灰白・灰・橙色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
26	SA6	脚付鉢	脚		9.1			ハケメ、ナデ	ミガキ、ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の乳白・黒・灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
27	SA6	鉢	口～底	(10.2)	2.9	6.5		ナデ、指オサエ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の白・灰白・黒色粒を含む	良好	
28	SA6	鉢	口近～胴					ミガキ	ミガキ	橙 2.5 YR 6 / 8	橙 2.5 YR 6 / 8	1mm以下の明赤褐・灰白・透明光沢粒を含む	良好	布留系
29	SA7	甕	胴～底					ケズリ、指オサエ	ナデ、ハケメ	明黄褐 10 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の明赤褐・灰白粒を含む	良好	
30	SA7	壺	頸					ナデ、工具ナデ	ハケメ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の赤褐・灰・白色粒を含む	良好	
31	SA7	壺	口～胴	(13.6)			(19.0)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	2mm以下の乳白・赤褐色粒を含む	良好	
32	SA7	鉢	頸～胴				(11.7)	ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	黄橙 10 YR 8 / 6	4mm以下の赤褐色粒を含む	良好	
33	SA7	高坏	坏	16.2				ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	7mm以下の褐色・乳白・赤褐・緑灰・黒色粒を含む	良好	
34	SA7	高坏	脚					ナデ	工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	黄橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の白・黒・灰・赤褐色粒を含む	良好	
35	SA7	高坏	脚					ミガキ、ヨコナデ、	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の白・灰・褐色粒を含む	良好	
36	SA8	甕	頸～胴	(15.3)			15.8	工具ナデ、タタキ、ケズリ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の暗褐色粒を含む	良好	
37	SA8	壺	底		(2.8)			ナデ、指オサエ	ナデ	にぶい橙 10 YR 7 / 4	黒 10 YR 1.7 / 1	3mm以下の灰白・灰色粒、黒色光沢粒を含む	良好	

第 10 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (2)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
38	SA9	手捏	口～底	2.5	1.4	2.9	3.4	指オサエ、指ナデ	指オサエ、指ナデ	浅黄 2.5 YR 7 / 3	浅黄 2.5 YR 7 / 3	1mm以下の白・灰色粒を含む	良好	
39	SA9	手捏	口～底	(3.9)		4.5	(4.2)	指オサエ、指ナデ	指オサエ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の白・灰色粒を含む	良好	
40	SA10	甕	口～頸	(25.8)				ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	5mm以下の灰白・赤褐・白色粒を含む	良好	
41	SA10	甕	口～頸	(21.5)				ナデ、工具ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の褐・褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	外面全体にスス付着後、ふきこぼれの痕跡あり
42	SA10	甕	口～底近					指ナデ	工具ナデ？ナデ？	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の黄褐・白・赤褐色粒、1mm以下の透明・黒色光沢粒を含む	良好	
43	SA10	甕	口～底	19.5		25.5	18.3	ナデ、工具ナデ、	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	
44	SA10	甕	口近～底近				(18.8)	工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の乳白・赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
45	SA10	壺	口～底	(12.2)		31.4	23.2	ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	2mm以下の赤褐・乳白・灰色粒を含む	良好	
46	SA10	壺	胴～底		3.2			ハケメ？風化が著しい、ミガキ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の乳白・灰・赤褐色粒、黒色光沢粒を含む	良好	底部外面の黒斑の上面に赤色顔料付着
47	SA10	甕	胴～底					工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	2mm以下の灰色粒を含む	良好	
48	SA10	壺	胴～底		7.5			指オサエ、工具ナデ	工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	4mm以下の橙・褐・灰白色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
49	SA10	壺	頸～底近				(23.4)	工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の白・灰・赤褐色粒を含む	良好	
50	SA10	鉢？	胴～底		3.4			ナデ	工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・黒・橙・乳白色粒を含む	良好	
51	SA10	鉢？	口近～底		3.9			ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・赤褐・乳白粒を含む	良好	底部に圧痕あり
52	SA10	高坏	坏					ミガキ、指ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の白・灰・赤褐・黄褐色粒を含む	良好	
53	SA10	器台	受					ミガキ、工具ナデ、	ミガキ、ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	4mm以下の乳白・黒・灰色粒を含む	良好	
54	SA10	高坏	坏～脚		(15.0)			ミガキ、ナデ	工具ナデ、ナデ、ヨコナデ、指オサエ	橙 5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・赤褐・褐・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
55	SA10	高坏	脚		10.6			ミガキ、ナデ	ナデ	橙 2.5 YR 6 / 6	赤橙 10 R 6 / 6	3mm以下の灰・乳白・赤褐・白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
56	SA10	高坏	脚					ミガキ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	黄橙 7.5 YR 7 / 8	6mm以下の黒褐・赤褐・灰白・灰・白色粒を含む	良好	
57	SA10	高坏	脚					風化著しく不明	風化著しく不明	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	3mm以下の灰・乳白・黒色粒を含む	良好	
58	SA10	高坏	坏～脚					ナデ？ミガキ？	工具ナデ、指オサエ	明黄褐 10 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の明赤褐色・赤褐・灰色粒を含む	良好	
62	SA11	甕	口～底近	25.9			24.2	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の白・灰・黒・赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
63	SA11	甕	口～胴	(21.8)				ヨコナデ、ハケメ、	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	7mm以下の淡黄・灰白・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
64	SA11	壺	胴～底				13.0	ミガキ、	指ナデ、ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の赤褐色粒を含む	良好	
65	SA11	壺	口	(27.0)				ヨコナデ、鋸歯文、沈線文、貼付突帯	ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の明赤褐・白・黄褐・赤褐色粒を含む	良好	
66	SA11	壺	口～頸	(10.4)				ナデ、櫛描波状文	ヨコナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	
67	SA11	壺	口～頸近					ヨコナデ、櫛描波状文、工具ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の褐・灰・赤褐色粒を含む	良好	
68	SA11	壺	口～胴	(14.1)				ハケメ	ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰・黒・赤褐・乳白色粒を含む	良好	
69	SA11	壺	胴～底		(5.0)			工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の黒・褐・赤褐・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	外面に線刻あり
70	SA11	壺	胴～底		(5.5)			タタキ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	灰黄褐 10 YR 4 / 2	2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
71	SA11	鉢？	胴～底		3.0			タタキ？、ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	灰黄褐 10 YR 5 / 2	2mm以下の灰白・橙色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
72	SA11	鉢	口～底近	15.8			18.9	ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	4mm以下の乳白・灰・赤褐色粒を含む	良好	底部付近に藁状の圧痕あり
73	SA11	鉢	口～底	9.4		8.4		ナデ、工具ナデ、指ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の赤褐・乳白・黒色粒を含む	良好	

第 11 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (3)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
74	SA11	鉢？	底		3.2			工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の赤褐・乳白色粒を含む	良好	
75	SA11	鉢	口～底	(14.2)	4.5	8.0		ヨコナデ、ナデ？	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の赤褐色粒を含む	良好	胴部～底部に線刻あり
76	SA11	高坏	坏	(24.0)				ミガキ	ミガキ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の乳白色粒を含む	良好	
77	SA11	脚付鉢	口～底	(22.8)	12.3	12.8		ナデ、ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ？、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰白・赤褐・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
78	SA11	鉢	口～胴	15.8				工具ナデ、風化が著しい	工具ナデ？	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐色粒を含む	良好	
79	SA12	甕	口～底	(19.6)		26.8		ナデ、工具ナデ	ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 8	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の白・黒・赤褐色粒を含む	良好	
80	SA12	壺	底		5.6			ナデ	工具ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	6mm以下の褐・にぶい橙・灰白・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
81	SA12	鉢？	底		2.8			ナデ	ハケメ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の乳白・灰色粒を含む	良好	
82	SA12	甕	胴～底		3.1			タタキ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の乳白・灰・明赤褐・黒色粒を含む	良好	
83	SA12	鉢？	頸～胴			(10.3)		ミガキ	指ナデ、工具ナデ	赤褐 2.5 YR 4 / 6	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	2mm以下の乳白・灰色粒を含む	良好	
84	SA12	壺	底		12.6			工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 5 / 3	橙 7.5 YR 7 / 6	8mm以下の灰・灰黄・乳白・黒色粒を含む	良好	
85	SA12	高坏	脚					ミガキ、透孔	工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の赤褐色粒を含む	良好	
86	SA12	高坏	裾		(13.4)			透孔、ナデ	透孔、ハケメ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	1mm以下の褐・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
87	SA12	高坏	裾		(12.0)			工具ナデ	ハケメ、ナデ	明褐 7.5 YR 5 / 6	赤褐 5 YR 4 / 4	3mm以下の乳白・白・灰色粒を含む	良好	
88	SA12	鉢	口～頸					ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	淡黄 2.5 Y 8 / 4	2mm以下の赤褐・白色粒を含む	良好	
89	SA12	手捏	口～底		2.8	4.3		指ナデ	指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰黄褐・灰白・灰色粒を含む	良好	
90	SA12	手捏	口～底	3.9		2.4		工具ナデ	工具ナデ	黒褐 10 YR 3 / 1	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の黒・灰・乳白・明褐灰色粒を含む	良好	
91	SA13	甕	口～底近	(25.6)			(26.5)	ナデ、ヨコナデ、タタキ	工具ナデ、	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下のにぶい赤褐・褐灰・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
92	SA13	甕	口～胴	(20.6)				ナデ、工具ナデ	工具ナデ	黒褐 7.5 YR 3 / 1	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の黒・灰・赤褐・白色粒を含む	良好	
93	SA13	甕	口～胴	(14.3)			(14.0)	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰・赤褐・黒色粒を含む	良好	
94	SA13	甕	口～胴	(17.3)			(17.6)	ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰・乳白・にぶい橙色粒を含む	良好	
95	SA13	甕	口～胴	(15.8)			(15.0)	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
96	SA13	甕	口～胴	(26.4)			(20.7)	ハケメ、タタキ	工具ナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の明赤褐・黒・灰・乳白を含む	良好	
97	SA13	甕	口～胴	(22.6)			(22.2)	ヨコナデ、タタキ	工具ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 7.5 YR 7 / 4	6mm以下の灰・明赤褐色粒を含む	良好	
98	SA71	甕	口～胴	(20.9)			(22.6)	ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	7mm以下の黒褐・灰白・褐灰・赤褐色粒を含む	良好	
99	SA13	甕	胴～底		(5.6)			タタキ、ナデ	工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の乳白・灰・褐色粒を多く含む	良好	
100	SA13	鉢	口～底	(10.7)		12.2		ヨコナデ、ナデ？	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の乳白・にぶい赤褐・灰色粒を含む	良好	
101	SA13	甕	頸～底		3.9		(19.1)	工具ナデ	ナデ	黒褐 7.5 YR 3 / 1	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の黒・灰・赤褐・白色粒を含む	良好	
102	SA13	壺	口～胴	(15.3)				ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下のにぶい褐・灰白、微細な光沢粒を含む	良好	
103	SA13	壺	口～胴	(12.5)				ナデ、工具ナデ？	ナデ、指オサエ、指ナデ	にぶい褐 7.5 YR 6 / 3	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の橙・灰白・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	内面に圧痕あり
104	SA13	壺	胴～底					ナデ	風化が著しい	橙 7.5 YR 6 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
105	SA13	高坏	口～坏	(32.2)				工具ナデ？	ミガキ？風化が著しい	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の黒褐・黒・灰色粒を含む	良好	
106	SA13	甕	口～胴	(14.9)			(14.8)	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ、ミガキ？ or 工具ナデ？	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の褐・橙・黒・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
107	SA13	甕	胴～底		3.1					にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 5 YR 7 / 6	4mm以下の褐灰・黒・灰白色粒を含む	良好	
108	SA13	壺	頸～底				16.4	工具ナデ、ミガキ、工具ナデ	工具ナデ、ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の灰・黒色粒を含む	良好	

第 12 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (4)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
109	SA13	壺	頸～底				15.1	ミガキ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	1mm以下の褐色粒を含む	良好	
110	SA13	鉢	口～底	13.3		8.6		ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の白・灰・黒・赤褐色粒を含む	良好	
111	SA13	鉢	口～胴	(11.8)				ナデ、ミガキ、ハケメ	ナデ、ミガキ、ハケメ、工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰・橙色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
112	SA13	壺	口～底近	(10.1)		9.7	9.2	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	1mm以下のにぶい赤褐・乳白色粒を含む	良好	
113	SA13	壺	頸～底				11.0	ミガキ、ナデ	ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	1mm以下の灰色粒を含む	良好	
114	SA13	鉢	口～底	9.0	3.4	5.6		ナデ、指オサエ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の赤褐・乳白色粒を含む	良好	
115	SA13	鉢	口～底	(9.6)		5.3		ナデ	ハケメ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の乳白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
116	SA13	鉢	胴～底		(4.4)			ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の赤褐・褐灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
117	SA13	鉢	口～底	(4.8)	2.1	4.3		ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・にぶい橙・灰白・黒色粒、2mm以下の微細な透明光沢粒を含む	良好	
118	SA14	甕	口～胴	(14.8)			(16.4)	ナデ、ヨコナデ工具ナデ、指オサエ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の白・赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
119	SA14	甕？	口～底	(13.9)	3.3	18.4	(13.9)	指オサエ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 8	明赤褐 5 YR 5 / 8	8mm以下の白・黄褐・灰・黒色粒を含む	良好	
120	SA14	壺	口～胴	(12.5)				ヨコナデ、工具ナデ	工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	2mm以下の灰・赤褐色粒を含む	良好	
121	SA14	鉢	口～底	9.9		4.3		指ナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄褐 10 YR 7 / 4	4mm以下の乳白・明赤褐・灰・白色粒を含む	良好	
122	SA15	甕	口～底	18.6	(4.2)	(20.2)	16.3	指オサエ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の白・青灰・暗褐色粒を含む	良好	
123	SA15	甕	口～底	16.6	4.0	19.0	16.1	ハケメ、ナデ、工具ナデ	ハケメ、工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の赤褐・褐・灰白色粒を含む	良好	
124	SA15	甕	口	(17.8)				ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の青灰・暗褐色粒を含む	良好	
125	SA15	甕	胴～底		3.4			工具ナデ	工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の青灰・暗褐色粒を含む	良好	
126	SA15	甕	底		4.3			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	黒褐 10 YR 3 / 1	2mm以下の白・青灰・暗褐色粒を含む	良好	
127	SA15	鉢	口～頸	(12.2)			(12.3)	ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の青灰・暗褐色粒を含む	良好	
128	SA15	鉢	口～胴	(10.6)			(12.6)	ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	灰白 10 YR 7 / 1	2mm以下の白・青灰・暗褐色粒を含む	良好	
129	SA15	壺	口～底	(9.8)	1.9	12.5	9.8	ナデ、工具ナデ、ミガキ	ナデ、工具ナデ、指オサエ	黄橙 10 YR 8 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
130	SA15	鉢	口～底	(14.1)		13.0	(12.6)	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	灰オリーブ 5 YR 5 / 2	2mm以下の白・黒・灰白・赤褐・明緑灰色を含む	良好	
131	SA15	壺	口～底	(13.4)		14.2	12.4	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の乳白・灰色粒を含む	良好	
132	SA15	高坏	脚					ミガキ、透孔、ナデ	ナデ、指オサエ、透孔	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	1mm以下の暗褐・灰色粒を含む	良好	
133	SA15	高坏	裾		(17.1)			ナデ、ミガキ、透孔	ナデ、透孔	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
134	SA15	壺？	胴～底		3.0			ハケメ、ナデ	ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 4	淡黄 2.5 Y 8 / 4	1mm以下の白・灰色粒・暗褐色粒を含む	良好	
135	SA15	鉢	口～底	(5.9)	(3.6)	3.7		ナデ	指または工具ナデ	暗灰黄 2.5 Y 5 / 2	にぶい黄 2.5 Y 6 / 3	1mm以下の白・灰色粒・暗褐色粒を含む	良好	
136	SA15	鉢	口～底	(19.6)				ミガキ、	ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の青灰・灰・暗褐色粒を含む	良好	
137	SA15	壺	口	(9.8)				貼付突帯、ハケメ	ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	3mm以下の白・青灰・暗褐色粒を含む	良好	
138	SA15	甕	口	(10.7)				ナデ、貼付突帯	ナデ	黒 10 YR 2 / 1	浅黄橙 10 YR 8 / 4	1mm以下の白・暗褐色粒を含む	良好	
139	SA16	甕	口～底	(20.9)		27.6		ナデ、ミガキ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の黒・灰色粒を含む	良好	
140	SA16	甕	口～胴	(24.8)			(21.6)	ナデ、タタキ	指オサエ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	明赤褐 5 YR 5 / 6	2mm以下の乳白・赤褐・灰・黒色粒を含む	良好	
141	SA16	甕	口～胴	(20.8)				ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の乳白・赤褐色粒を含む	良好	
142	SA16	甕	口～底	(26.1)	5.5	23.0		ナデ、タタキ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・赤褐・明赤褐色粒を含む	良好	
143	SA16	甕	口～胴	(21.9)			23.0	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、指オサエ、ハケメ、ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の赤褐色粒を含む	良好	
144	SA16	甕	口～胴	(14.3)			(17.5)	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
145	SA16	壺	口～胴	(12.9)			(14.7)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の白・乳白・黒・赤褐色粒を含む	良好	

第 13 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (5)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
146	SA16	鉢	口～胴	(13.9)				ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	明黄褐 10 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	7mm以下の乳白色粒を含む	良好	
147	SA16	甕	口～胴	(17.4)			(15.6)	指オサエ、ナデ、工具ナデ	指オサエ、ナデ、ハケメ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下の白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
148	SA16	壺	口～胴	(11.8)				ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の白・黒。赤褐色粒を含む	良好	
149	SA16	壺	口～胴	(14.2)				ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰褐・灰白・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
150	SA16	壺	口	(15.4)				ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ	明赤褐 5 YR 5 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の白色粒を含む	良好	全面に化粧土の塗布か？
151	SA16	壺	口近～頸					ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の白・黒・赤褐・灰白・灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
152	SA16	壺	口～頸	(13.5)				工具ナデ、ミガキ	ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の明赤褐・乳白・灰・赤褐色粒を含む	良好	
153	SA16	甕？	胴～底		6.0		6.1	ナデ、工具ナデ、指ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	6mm以下の白・黒・灰色粒を含む	良好	
154	SA16	壺	口～胴	19.1				ナデ、櫛描波状文、ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の白・黄褐・赤褐色粒を含む	良好	
155	SA16	高坏	口～裾	(17.9)	(12.7)	17.1		ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ナデ、ミガキ、指ナデ、ヨコナデ	橙 5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の褐・灰白・橙色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
156	SA16	鉢	口～胴	(18.9)				ミガキ？	ミガキ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の乳白・灰色粒を含む	良好	
157	SA16	高坏	坏	(13.9)				ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 6 / 8	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・白色粒を含む	良好	
158	SA16	高坏	坏～脚					ミガキ	ミガキ、工具ナデ	橙 5 YR 7 / 8	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰・赤褐・淡黄色粒を含む	良好	
159	SA16	高坏	脚					工具ナデ、ミガキ	ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	黄橙 10 YR 7 / 8	2mm以下の灰・灰褐・灰白色粒を含む	良好	
160	SA16	鉢？	口近					ミガキ	ミガキ	橙 2.5 YR 7 / 8	橙 2.5 YR 7 / 8	2mm以下の暗赤・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	布留系
161	SA17	甕	口～胴	(17.9)			(20.0)	ナデ	指ナデ、ナデ？	褐灰 10 YR 4 / 1	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の乳白・白・灰色粒を含む	良好	
162	SA17	壺	口～胴	(11.4)			(17.0)	工具ナデ	工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の白・灰色粒を含む	良好	
163	SA17	鉢	口～底	10.0	1.5	9.9	10.7	工具ナデ、ナデ	ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の乳白色粒を含む	良好	
164	SA17	鉢	胴～底	(10.7)	3.3.	5.1		工具ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の白・乳白色粒を含む	良好	
165	SA18	甕	口～胴					ナデ、ヨコナデ、指ナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下のにぶい橙・灰白色粒を含む	良好	
166	SA18	鉢	口～底		3.7			ナデ、指ナデ	工具ナデ	明褐 7.5 YR 5 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
167	SA19	鉢	口～胴	9.7				ナデ	ナデ、ヨコナデ？	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 7 / 6	1mm以下の白・黒・赤褐、透明光沢粒を含む	良好	
168	SA18	高坏	坏	(18.9)				ナデ、工具ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ナデ、ヨコナデ、ナデ？ミガキ？	橙 2.5 YR 6 / 6	橙 2.5 YR 6 / 6	2mm以下の褐・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
169	SA19	甕	口～胴	(19,8)			20.1	工具ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	8mm以下の灰・灰黄・乳白色粒を含む	良好	
170	SA19	壺	胴～底				(32.5)	風化の為不明、一部に赤色顔料付着	風化の為不明	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 3	2mm以下の褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
171	SA20	甕	口～底	31.0	5.4	29.2		工具ナデ、ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の赤褐・褐・乳白・灰・黒色粒を含む	良好	
172	SA20	甕	口～底近	(20.6)			21.6	ヨコナデ、ナデ、タタキ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の黒褐・白・赤褐色粒を含む	良好	
173	SA20	甕	口～胴	(21.1)			(19.2)	ナデ、工具ナデ	ナデ、ハケメ	橙 2.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の乳白・灰・赤褐色粒を含む	良好	
174	SA20	甕	口～底近	(17.5)			(21.9)	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	6mm以下の黒・褐・灰白・にぶい赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
175	SA20	壺	口～底	13.9		24.9	19.8	ヨコナデ、ナデ、タタキ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
176	SA20	壺	口～胴	(15.1)				ナデ、ヨコナデ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ、ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の白・褐灰・橙・黒色粒を含む	良好	
177	SA20	壺	口～底	(15.6)		38.8	27.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ、指ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 2.5 YR 6 / 8	5mm以下の黒・灰・赤褐色粒を含む	良好	
178	SA20	壺	口～底	14.6	2.9	34.0	(24.4)	ナデ、指ナデ、工具ナデ、ミガキ	ナデ、ヨコナデ、指ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の赤褐・白・灰・黒色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり

第 14 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (6)

No	出土地点	器種	部位	法量 (cm)				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
179	SA20	器台	受～脚	8.4				ミガキ？風化の為不明	風化の為調整不明	橙 5 YR 7 / 8	橙 5 YR 7 / 8	1mm以下の灰白色粒を含む	良好	
180	SA20	高坏	脚					ミガキ	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の明赤褐・乳白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
181	SA20	高坏	脚		(13.4)			ミガキ	ミガキ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰・黒色粒を含む	良好	
182	SA20	高坏	坏	(14.3)				風化が著しい為調整不明	風化が著しい為調整不明	黄橙 7.5 YR 7 / 8	黄橙 7.5 YR 7 / 8	4mm以下の灰白色粒を含む	良好	
183	SA20	高坏	坏	(17.5)				ミガキ	ミガキ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	1mm以下の褐色・灰色粒を含む	良好	布留系
184	SA20	鉢	口～底	(8.5)	(2.6)	3.8		ナデ、ヨコナデ	ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 7 / 1	3mm以下の橙色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
185	SA20	高坏	坏～脚	(17.6)				ナデ？風化が著しい、ミガキ	ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の乳白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
186	SA20	鉢？	胴～脚		(6.1)			工具ナデ、指ナデ	工具ナデ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰・白色粒を含む	良好	
187	SA20	高坏	坏～裾		13.4			ミガキ、ナデ	工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の乳白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
190	SA21	甕	口～底近	22.8			(21.6)	ヨコナデ、ナデ、	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ？	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の白・灰・黒・明赤褐色粒を含む	良好	
191	SA21	甕	口～胴	(23.3)			(24.6)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、指ナデ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	6mm以下の褐灰・白・黒・赤褐色粒を含む	良好	
192	SA21	甕	口～胴	(19.1)			(18.6)	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ、ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の灰白・赤褐色・白・灰色粒を含む	良好	
193	SA21	甕	口～胴	(21.0)			20.9	ヨコナデ、ナデ？	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・褐灰・黒・白色粒を含む	良好	
194	SA21	壺？	胴～底		6.1		12.4	ナデ？	工具ナデ	赤橙 10 R 6 / 6	橙 2.5 YR 6 / 8	11mm以下の明褐灰・白・浅黄橙・明緑灰色・黒褐色粒を含む	良好	
195	SA21	鉢	胴～底		5.9		(13.1)	ナデ	工具ナデ、指オサエ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の白・赤褐・灰・黒色粒を含む	良好	底部外面に桃核状の圧痕あり
196	SA21	壺	口～頸	(12.2)				ナデ、ハケメ、刻目貼付突帯	ナデ、指オサエ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の赤褐色・灰・乳白・黄橙色粒を含む	良好	
197	SA21	甕	口～胴	(21.2)				ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の白・にぶい褐色粒を含む	良好	
198	SA21	壺	口～胴	(12.2)				ナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	6mm以下の乳白・灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
199	SA21	壺	頸～底近				23.3	刻目貼付突帯、工具ナデ？	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	9mm以下の白・灰・黒・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒・黒色光沢粒を含む	良好	
200	SA21	壺	口～胴	(12.8)				ナデ、ハケメ、ミガキ	ナデ、ハケメ	明褐色 2.5 YR 5 / 6	にぶい赤褐 2.5 YR 4 / 4	4mm以下のにぶい赤褐・灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	頸部～胴部にかけて赤色顔料を塗布
201	SA21	甕	胴					ヨコナデ、ナデ	ナデ、ケズリ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・褐灰色粒を含む	良好	布留系
202	SA21	壺？	頸～底		3.2		(7.4)	ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の褐灰・灰白色粒を含む	良好	
203	SA21	壺	口～底	(10.9)		15.8		ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ？風化の為不明	浅黄橙 10 YR 8 / 4	灰白 10 YR 8 / 2	4mm以下の黒褐・褐・白・黒色粒を含む	良好	
204	SA21	壺	口～底	(16.2)				工具ナデ、ナデ、	ナデ。工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	5mm以下の黒・白・灰・赤褐色粒を含む	良好	
205	SA21	鉢？	胴～底		4.3			ミガキ、指オサエ	工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の赤褐・灰・白色粒を含む	良好	底部外面に桃核圧痕あり
206	SA21	鉢	口～底	6.2		5.1	6.9	ナデ	指ナデ	黄橙 7.5 YR 7 / 8	橙 7.5 YR 6 / 8	3mm以下の灰・赤褐・黒・白・乳白色粒を含む	良好	
207	SA21	高坏	坏～裾	(18.4)	14.4	14.4		ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ、ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
208	SA21	高坏	坏～裾		(13.6)			ナデ、ミガキ、ケズリ	ナデ	橙 5 YR 6 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	4mm以下の黒・灰褐・乳白色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
209	SA22	甕	口～頸	(22.5)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、圧痕	灰黄 2.5 YR 7 / 2	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の白・褐色・透明粒を含む	良好	内面に藁状の圧痕
210	SA22	壺	口～頸	(13.0)				ナデ	ミガキ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	8mm大の赤褐色、2mm以下の赤褐・灰・黒色粒を含む	良好	
211	SA22	壺	口					ハケメ、櫛描波状文、ヨコナデ	ナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	精良。1mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	良好	
212	SA22	鉢	口～胴	(13.2)			(13.7)	ヨコナデ、工具ナデ	指オサエ、指ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の白・黒色・透明粒を含む	良好	
213	SA22	鉢	口～底	(6.7)	4.2	6.0	7.5	ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 8	3mm以下の褐・白・灰・黒色粒を含む	良好	

第 15 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (7)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
214	SA23	甕	口～胴	(24.0)			(24.2)	ヨコナデ、ナデ、	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の赤褐・灰・白色粒を含む	良好	
215	SA23	甕	口～胴	(20.8)			(24.7)	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰・褐・白・赤褐色の粒を含む	良好	
216	SA23	甕	口～胴	(30.4)				ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm大の高師小僧、3mm以下の白・灰色粒を含む	良好	
217	SA23	甕	口～底	21.0	(7.4)	26.8	(23.6)	ハケメ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	5mm以下の赤褐・褐・灰・白色粒を含む	良好	
218	SA23	甕	口～胴					ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰・白・褐色粒、高師小僧を含む	良好	
219	SA23	甕	口～胴	15.0			16.3	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・褐・乳白色の粒を含む	良好	
220	SA23	鉢	口～底	(10.8)		9.2		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・褐灰・灰・白色粒、高師小僧を含む	良好	
221	SA24	甕	口～頸	(19.9)				ヨコナデ、ナデ	ナデ	にぶい橙 5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	1mm以下の青灰・白・暗褐色粒を含む	良好	
222	SA24	甕	口～頸	(15.9)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の赤褐・白・黒・褐灰色粒を含む	良好	
223	SA24	壺	底		2.3			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	2mm以下の灰・灰白色粒を含む	良好	
224	SA24	鉢	胴～底		(6.0)			ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰褐・暗灰黄・灰白色粒を含む	良好	
225	SA33	甕	口～胴	(17.8)			(18.0)	工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・灰白・褐色粒を含む	良好	
226	SA33	甕	胴～底		3.2		(15.1)	工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の褐灰・灰白・灰色粒を含む	良好	
227	SA33	甕	口～胴					ナデ、ヨコナデ、ハケメ、単沈線、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の白・黒・赤褐色粒を含む	良好	
228	SA33	壺	口～頸	(19.6)				ナデ、ヨコナデ、櫛描波状文	ナデ、ヨコナデ	にぶい赤褐 5 YR 4 / 3	にぶい赤褐 5 YR 4 / 3	4mm以下の白・黒色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	内面に線刻あり
229	SA33	鉢	口～胴	(8.6)			(7.8)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・赤褐・乳白色粒を含む	良好	
230	SA33	壺？	底		(4.6)			工具ナデ	指オサエ、指ナデ	橙 2.5 YR 6 / 8	橙 2.5 YR 6 / 8	4mm以下の黒・灰・乳白色粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり
231	SA33	鉢	口～胴	(41.6)			(35.6)	工具ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	
232	SA33	鉢	口～底	(17.2)	3.0	15.2		ナデ、ハケメ、指オサエ	ナデ、ハケメ、指ナデ	橙 5 YR 7 / 8	橙 5 YR 7 / 8	3mm以下の白・灰白色粒を含む	良好	
233	SA33	鉢	口～底	19.3		16.0		ナデ、指ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 8	にぶい赤褐 5 YR 4 / 4	12mm以下の黄橙・赤褐・灰色粒、5mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
234	SA33	鉢	口～頸	(16.0)				ナデ、工具ナデ	指ナデ、工具ナデ、ハケメ	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	4mm以下の明赤褐色・白・黒色粒を含む	良好	
235	SA33	壺？	口～胴	(11.6)				ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ？	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の褐色・乳白・灰色粒を含む	良好	
236	SA32	鉢	口～胴	(12.6)			(13.4)	ナデ、工具ナデ	ハケメ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	橙 2.5 YR 6 / 8	10mm以下の灰褐・灰黒・赤褐・乳白色粒を含む	良好	
237	SA33	高坏	坏	(25.4)				ナデ、ミガキ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・乳白色粒、3mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
238	SA33	高坏	口～坏	(16.9)				ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ	黄橙 7.5 YR 7 / 8	橙 5 YR 7 / 8	1mm以下の白・黒色粒を含む	良好	
239	SA33	手捏	口～底	4.4		3.0		指オサエ	指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の乳白色粒を含む	良好	
240	SA34	甕	口～底	21.9	4.3	23.9	18.8	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の白・黄橙・明赤褐色粒、黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
241	SA34	甕	口～胴	(18.2)				ナデ。工具ナデ	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・赤褐・乳白色粒を含む	良好	
242	SA34	甕	口～胴	(18.1)			(18.4)	ナデ、指オサエ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、指ナデ、	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	7mm以下の白・灰・赤褐色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
243	SA34	甕	口～胴	(22.9)			(22.2)	ナデ、タタキ、ミガキ	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の褐・灰色粒を含む	良好	
244	SA34	鉢	口～底	18.2		5.9		ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	黒 2.5 YR 3 / 1	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の褐・灰白色、2mm以下の白・灰色粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり
245	SA34	鉢	口～底	(17.2)	2.6	5.4		風化のため不明	ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
246	SA34	脚付鉢	口～脚	15.3	10.3	10.3		ミガキ	工具ナデ？、ミガキ？	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	6mm以下の白・赤褐色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	

第 16 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (8)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
247	SA34	鉢	口～底	(8.4)	1.8	6.0		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰白・灰・黒色粒を含む	良好	
248	SA34	鉢	口～底	11.6		4.0		ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
249	SA34	脚付鉢	口～胴	(9.2)				ナデ、工具ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	精良。微細な灰白、黒色粒を含む	良好	
250	SA34	鉢	口～胴	(8.2)				ナデ	工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐・灰白粒を含む	良好	
251	SA34	鉢	口～底	6.3	2.2	3.5		工具ナデ、ミガキ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	黄橙 10 YR 8 / 6	精良。微細な灰、灰白、黒色粒を含む	良好	
252	SA34	壺	口～底	13.8	3.1		27.9	ヨコナデ、ナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の赤褐・乳白・灰白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
253	SA34	壺	胴～底				(26.1)	ナデ？風化が著しい為不明	ナデ？風化が著しい為不明	浅黄橙 10 YR 8 / 4	黄橙 7.5 YR 8 / 8	5mm以下の褐・にぶい褐・褐灰・灰・白色粒を含む	良好	
254	SA35	甕	口～底近	(25.8)			24.1	ナデ、指ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	4mm以下の灰白・赤褐・明赤褐・乳白色粒を含む	良好	
255	SA35	甕	口～底	(23.2)	3.7	30.7	(23.7)	ナデ、工具ナデ	風化が著しい為調整不明、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の乳白・明赤褐・黒・灰色粒を含む	良好	
256	SA35	甕	口～胴	(23.4)				工具ナデ、指オサエ	工具ナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	1mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	
257	SA35	甕	口～胴	(19.1)			(21.3)	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰白・灰色粒を含む	良好	
258	SA35	甕	口～胴	(26.3)				ナデ、ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白色粒、1mm以下の透明光沢粒・黒色光沢粒を含む	良好	
259	SA35	甕	口～胴	(22.0)			(24.0)	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の赤褐・黒色粒を含む	良好	
260	SA35	甕	口～底	(18.5)	2.5	22.4	19.5	ナデ、風化が著しい、ハケメ、タタキ	風化が著しい、工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の白・灰・黒・赤褐色粒を含む	良好	
261	SA35	甕	口近～底		2.7		(19.3)	ハケメ、ナデ？	ナデ、ハケメ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・黒褐・橙色粒、微細な透明光沢粒含む	良好	
262	SA35	甕	口～頸近	(13.0)				ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	1mm以下の灰白・明赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	布留系
263	SA35	甕	胴					ヨコナデ、ナデ	ナデ、ケズリ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	布留系
264	SA35	鉢	口～胴	(16.6)		11.9		指ナデ、工具ナデ	ナデ？風化が著しい為不明	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 8	3mm以下の明赤褐色・白・乳白・黒・灰色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
265	SA35	鉢	口～底	(8.6)	(4.4)	3.8		ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・赤褐・褐色粒を含む	良好	
266	SA35	鉢	口～底	10.0	(4.0)	6.0		ナデ	工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
267	SA35	壺	口～胴					ナデ、櫛描波状文	ナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	5mm以下の白・赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
268	SA35	高坏	脚					工具ナデ、ハケメ、ミガキ、円形透孔	工具？指？ナデ、穿孔	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の黒・灰・乳白色粒を含む	良好	
269	SA35	高坏	裾		18.8			ミガキ、透孔	ナデ、透孔	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 8	1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
270	SA37	壺	胴～底		3.3		23.3	工具ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰白色粒を含む	良好	
271	SA37	鉢	口～底	(22.9)	3.1	7.0		指オサエ、ナデ	指オサエ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
272	SA37	鉢	口～底	(10.7)		6.1	(8.6)	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白・灰・赤褐色粒を含む	良好	
273	SA39	甕	口～胴	(25.8)			(23.2)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	黒 7.5 YR 2 / 1	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の白・灰色粒、透明・黒色光沢粒を含む	良好	
274	SA39	甕	口～胴	(25.2)			(26.2)	ナデ、工具ナデ、圧痕	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の褐・橙・灰白色、微細な黒色光沢粒を含む	良好	外器面に 1 カ所の稲籾圧痕
275	SA39	甕	口～胴	(24.6)			(27.2)	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の黒・赤褐・灰・白色粒を含む	良好	
276	SA39	甕	口～胴	(22.8)			(23.7)	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	褐灰 10 YR 5 / 1	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰・灰白・褐色粒、微細な光沢粒、高師小僧を含む	良好	
277	SA39	甕	口～胴	(21.4)			(22.6)	ヨコナデ、風化のため不明	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白・赤褐、微細な透明・黒色光沢粒を含む	良好	
278	SA39	甕	口～底	(18.6)	5.5	(24.4)	(20.2)	工具ナデ、指オサエ、ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰・白色粒を含む	良好	

第 17 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (9)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
279	SA39	甕	口～底	(17.4)	3.3	21.2	19.2	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の灰白・褐・灰・白色粒を含む	良好	
280	SA39	壺	口～胴	13.6			21.5	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ、工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	5mm以下の高師小僧、黒・白・灰色粒を含む	良好	内外面に赤色顔料を塗布していた可能性あり
281	SA39	壺	口～頸	(16.6)				ヨコナデ、ナデ、刻目突帯	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の白・赤褐・黒色粒、微細な透明・黒色光沢粒を含む	良好	
282	SA39	壺	口～胴	16.6				ヨコナデ、貼付刻目突帯、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の白・橙・褐色粒、微細な光沢粒を含む	良好	内面に藁状の圧痕
283	SA39	壺	口～底	12.2	4.1	25.6	20.3	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	8mm大の赤褐・灰色、6mm以下の乳白色粒を含む	良好	
284	SA39	壺	口～底	(13.6)			(18.4)	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、ミガキ	ナデ、ハケメ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の黒・赤褐・白・灰色粒を多く含む	良好	
285	SA39	壺	口～底	11.8		(16.8)	16.4	ナデ	ナデ、指オサエ、指ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
286	SA39	甕？	底		5.3			ナデ、指オサエ、木葉底	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐・黄褐・灰・黒色粒を含む	良好	木葉底
287	SA39	鉢？	底		4.1			工具ナデ、木葉底	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の赤褐・灰白色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	木葉底
288	SA39	鉢？	底		5.7			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の黒・褐・赤褐・白色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
289	SA39	鉢	口～底	(11.5)		9.3	(10.6)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・白色粒、高師小僧を含む	良好	
290	SA39	鉢	口～底	9.6		7.0	7.4	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
291	SA39	壺？	頸～底				8.2	工具ナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	
292	SA39	鉢	口～底	8.9	2.8	7.3	5.0	ミガキ後ナデ	ハケメ、工具ナデ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の白・赤褐色、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
293	SA39	鉢	口～底	13.3		5.0		ナデ、ミガキ	工具ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	10mm以下の赤褐・乳白・灰色粒を含む	良好	
294	SA39	鉢	口～底	7.9	3.5	4.9		指オサエ、ナデ、指ナデ	指ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の赤褐・乳白・灰色粒を含む	良好	
295	SA39	鉢	口～底	(8.0)	(3.8)	4.5		ナデ、指オサエ	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の橙色、3mm以下の赤褐・褐色、微細な光沢粒を含む	良好	
296	SA39	高坏	坏	13.9				ヨコナデ、丁寧な工具ナデ	ヨコナデ、丁寧な工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の白・褐色、微細な光沢粒を含む	良好	
297	SA39	高坏	口～裾	(15.2)	(13.6)	(13.1)		ナデ	ナデ	橙 5 YR 7 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の高師小僧、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	脚柱部～裾部の内外面は二次的に火を受けた可能性がある
298	SA41	甕	口～胴	(18.7)			(19.2)	ナデ	ナデ？	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 3	4mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	
299	SA41	鉢	口～胴	(20.0)			(18.8)	ナデ	工具ナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の黒・赤褐・白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
300	SA41	甕	口～胴	(12.7)	2.8	(22.7)	(16.2)	ナデ、ハケメ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	8mm以下の緑灰・白灰・乳白・黒色粒を含む	良好	
301	SA41	甕	口～底	(19.3)	4.3	20.2	16.5	ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	黄橙 10 YR 8 / 6	10mm以下の黒褐・黄橙・暗灰・赤褐色・黒色粒を含む	良好	
302	SA41	壺	口	(22.5)				櫛描波状文、ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の白・褐・灰色粒を含む	良好	
303	SA41	壺	口	(20.1)				櫛描波状文	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰白・灰・赤褐・黒色粒を含む	良好	
304	SA41	壺	口～頸	(17.4)				ナデ、工具ナデ	ハケメ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	4mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
305	SA41	鉢？	胴～底		(5.2)			指オサエ、ナデ	ナデ	淡黄 2.5 Y 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の黒褐・赤褐・灰白・白色粒を含む	良好	木葉底
306	SA41	鉢	口～胴	(26.2)				ナデ、ハケメ、工具ナデ	ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の赤褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
307	SA41	鉢	口	(23.6)				ナデ、指ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
308	SA41	甕	胴～底		3.6			工具ナデ	ナデ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の白・赤褐・黒・灰色粒を含む	良好	底部外面に藁状の圧痕あり
309	SA41	甕	底		(5.1)			ナデ	風化のため調整不明	にぶい赤橙 10 R 6 / 3	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・褐・乳白色粒を含む	良好	
310	SA41	鉢	口～胴	(15.8)				ナデ、ヨコナデ、	ヨコナデ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の灰褐・褐灰色粒を含む	良好	
311	SA41	鉢	口～底	8.4	2.8	4.9		ナデ、指オサエ	工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
312	SA41	鉢	口～底	(9.3)	3.9	9.5	(10.3)	工具ナデ、指ナデ、ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の白・黒色粒、透明光沢粒を含む	良好	

第 18 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (10)

No	出土地点	器種	部位	法量 (cm)				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
313	SA41	鉢？	胴～底		5.4			工具ナデ、指ナデ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の赤褐・黒・白色粒、黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
314	SA41	鉢？	口～底		4.2			タタキ、工具ナデ、ナデ	指オサエ、工具ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の白・明赤褐・灰色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
315	SA41	鉢	口～底	5.4	1.8	5.4		タタキ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
316	SA45	甕	口～底	20.4	3.9	21.0	18.5	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	7mm以下の灰白・乳白・黒色粒を含む	良好	
317	SA45	壺	口～胴	(19.9)			(18.5)	工具ナデ、指オサエ、ハケメ	ナデ、ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	2mm以下の赤褐・白・灰色粒を含む	良好	
318	SA45	甕	胴～底		3.5			タタキ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰・赤褐色粒を含む	良好	
319	SA45	甕	頸～底		4.1		(24.8)	ナデ、ハケメ	ハケメ、ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の黒褐・明褐・灰白色粒を含む	良好	
320	SA45	甕	口～胴	(12.3)			(12.8)	工具ナデ、ハケメ	工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の赤褐・明赤褐・灰・赤褐乳白混粒を含む	良好	
321	SA45	壺	口～頸	(14.0)				ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	4mm以下の明赤褐・灰・黒色粒を含む	良好	
322	SA45	壺	口	(16.5)				鋸歯文、ナデ	風化が著しい為調整不明	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 8	2mm以下の赤褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
323	SA45	甕	胴～底		2.4			タタキ、工具ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の灰・黒色粒を含む	良好	内面に種子圧痕？
324	SA45	手捏	口～底	(7.0)	(4.7)	3.2		指ナデ、工具ナデ	指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の灰・赤褐・黒色粒を含む	良好	
325	SA45	高坏	坏	(27.7)				ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の赤褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
326	SA47	甕	頸～底		(4.5)		(14.7)	ナデ	工具ナデ、ハケメ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	微細な灰・黒・赤褐・透明光沢粒を含む	良好	
327	SA47	壺	口～胴	(11.8)				ナデ、ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ？風化が著しい、指オサエ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	灰白 2.5 Y 7 / 1	4mm以下の黒褐・赤褐・白色粒を含む	良好	
328	SA47	壺	頸～底		(2.0)		(16.4)	ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、指オサエ、ナデ	黒 7.5 YR 2 / 1	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の灰・赤褐・乳白・黒色粒を含む	良好	
329	SA55	甕	口～底	(17.9)	(4.2)	19.6	15.5	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の白・赤褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
330	SA55	甕	口～胴	(22.2)				ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	6mm以下の灰白・灰褐・白色粒を含む	良好	
331	SA55	鉢	口～底	(10.9)		7.4		ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ、工具ナデ、指ナデ？	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の白・灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
332	SA55	高坏	坏	16.7				ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ハケメ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の白・赤褐・灰色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
333	SA64	甕	口～胴	(25.0)			(20.1)	ヨコナデ、工具ナデ、	ヨコナデ、工具ナデ	黒褐 5 YR 3 / 1	明褐 2.5 YR 5 / 8	5mm以下の白・黒・赤褐色粒を含む	良好	
334	SA64	甕	口～底	18.5		27.9	19.7	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の褐灰・灰白・灰・白・褐色粒を含む	良好	
335	SA64	甕	口～胴	14.4			(14.2)	指オサエ、ナデ、工具ナデ	指オサエ、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の白・褐・黒・灰色粒を含む	良好	
336	SA64	甕	口～頸近	(14.6)				ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の灰・灰白・黒色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	布留系
337	SA64	甕	頸～胴					ナデ	ナデ、ケズリ	にぶい橙 5 YR 7 / 4	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・黒・明褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	布留系
338	SA64	甕	口					ヨコナデ	ヨコナデ	褐 7.5 YR 4 / 3	明赤褐 5 YR 5 / 6	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	布留系
339	SA64	甕	口					ヨコナデ	ヨコナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	布留系
340	SA64	甕	口～底	15.7	3.2	16.0	13.3	指オサエ、工具ナデ、ナデ	ナデ、指ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	黄橙 7.5 YR 7 / 8	4mm以下の明赤褐・灰・黒色・白色粒を含む	良好	
341	SA64	壺	口～底	9.9		13.4	9.5	工具ナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	6mm以下の灰・乳白・褐色粒を含む	良好	
342	SA64	壺	口～胴	13.2				ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・乳白・褐色粒を含む	良好	
343	SA64	壺	口～胴	(11.6)			(16.6)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 2.5 YR 5 / 6	3mm以下の黒・白・灰色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
344	SA64	鉢	口～胴	(9.3)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	黒褐 7.5 YR 3 / 1	3mm以下の赤褐・白色粒、透明光沢粒を含む	良好	

第19表　弥生時代～古墳時代　土器観察表(11)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
345	SA64	鉢	口～胴	(21.4)				ナデ、工具ナデ	工具ナデ	暗赤褐 5 YR 3 / 2	橙 5 YR 6 / 8	4mm以下の黒・灰・褐・白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
346	SA64	鉢	口～胴	(20.3)				ヨコナデ、ハケメ、ナデ、工具ナデ	ハケメ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	精良（微細な黒・白・赤褐色粒、金色光沢粒を含む）	良好	
347	SA64	器台？	坏～裾					ナデ、ミガキ	ナデ、工具痕	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	3mm以下の褐・黒・白・灰色粒を含む	良好	
348	SA64	不明	底近		(6.2)			ナデ	指ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	黒褐 10 YR 3 / 1	3mm以下の灰・黒色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
349	SA65	甕	口～頸	(13.8)			14.0	ナデ、ハケメ	ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	褐灰 10 YR 4 / 1	4mm以下の灰・白・赤褐・黒・乳白色粒を含む	良好	
350	SA65	鉢	口～底	(15.9)				ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の白・褐・灰色粒を含む	良好	
351	SA65	壺？	胴～底		4.1			ナデ	風化が著しい為調整不明	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の黄橙色粒、2mm以下の透明光沢粒・黒色光沢粒を含む	良好	底部外面に植物圧痕あり
352	SA68	甕	口～底	15.2	2.8	19.4	15.5	ハケメ、タタキ	ハケメ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	4mm以下の黄橙・赤褐・灰・白・黒色粒を含む	良好	
353	SA68	鉢	口～底	16.2	4.4	7.7		ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ミガキ	明黄褐 10 YR 6 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	5mm以下の白・灰色粒、高師小僧を含む	良好	
354	SA72	甕	口～底	(14.6)	(5.8)	16.1	(14.0)	指オサエ、ナデ、工具ナデ、タタキ	指オサエ、ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の灰・赤褐・黒色の粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
355	SA77	小壺	口～底	3.7		5.1	4.6	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、指ナデ	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の褐灰・にぶい褐色粒を含む	良好	
356	SA102	甕	口	(22.0)				ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の乳白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
357	SA107	鉢	口～底	(19.1)		12.8	16.7	ナデ、ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ハケメ、ミガキ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	1mm以下の赤褐・黒色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
358	SA107	壺	口	(21.6)				ヨコナデ、櫛描波状文、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	2mm以下の白・灰・黒色粒を含む	良好	
359	SA107	壺	口～頸					ナデ、ハケメ？、刻目貼付突帯	工具ナデ？ハケメ？	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	5mm以下の白赤褐混・赤褐・黒色粒を含む	良好	
360	SA107	鉢	口～底	(10.0)		8.0		工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
361	SA109	甕	口～胴	(21.4)				ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	2mm以下の赤褐・褐色粒を含む	良好	
362	SA109	鉢	口～胴	(24.3)			(20.7)	ナデ	ヨコナデ、ナデ	黒 7.5 YR 1.7 / 1	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の青灰・灰・暗褐色粒を含む	良好	
363	SA109	甕	胴～底		3.0			ハケメ、ナデ	ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰白・灰黄褐・明赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
364	SA109	壺	胴～底				(11.2)	ナデ	工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 8	2mm以下の乳白・褐・赤褐色粒を含む	良好	
365	SA109	高坏	坏	(21.5)				ハケメ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	1mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	布留系模倣か
366	SA109	高坏	坏～脚					工具ナデ、ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	4mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	
367	SA118	甕	口～底	(17.2)	(4.0)	26.0	21.0	ハケメ、タタキ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の灰・赤褐色粒を含む	良好	
368	SA118	甕	口～胴	(20.9)				ナデ	ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の赤褐・白・灰・褐色粒を含む	良好	
369	SA118	甕	口～底近	15.2			17.1	ナデ、ハケメ、タタキ	ハケメ、ナデ？	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の白・青灰・赤褐色粒を含む	良好	
370	SA118	甕	口～胴	17.2			(16.4)	工具ナデ、ナデ、指オサエ、	工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の赤褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
371	SA118	甕	口～胴	(19.1)			(17.2)	ナデ？	ナデ？	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	2mm以下の白・褐色粒を含む	良好	
372	SA118	甕	口～胴	(18.6)			(16.6)	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	黄橙 10 YR 8 / 6	6mm以下の灰・灰白・黒・白色粒を含む	良好	
373	SA118	甕	胴～底		4.6			タタキ、ナデ	指オサエ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	黒褐 10 YR 3 / 1	4mm以下の灰白・褐灰・赤褐色粒を含む	良好	
374	SA118	壺	口～胴	7.9				ヨコナデ、ナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指オサエ	にぶい橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の乳白・灰・赤褐・褐色粒を含む	良好	
375	SA118	壺	頸					ナデ、刻目貼付突帯	ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	4mm以下の黒・白・灰色粒を含む	良好	
376	SA118	壺	胴～底					ナデ、	ナデ？	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 7 / 6	5mm以下の白・灰・赤褐・褐色粒を含む	良好	底部付近に圧痕あり
377	SA118	甕	胴～底					ナデ	ハケメ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 8	2mm以下の灰白・黒色粒を含む	良好	
378	SA118	壺	底		2.3			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	褐灰 10 YR 5 / 1	4mm以下の赤褐・褐・灰色粒を含む	良好	
379	SA118	壺	頸～胴					ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の褐色粒を含む	良好	

第 20 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (12)

No	出土地点	器種	部位	法量 (cm)				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
380	SA118	壺	胴～底		2.6		21.8	タタキ	ハケメ	灰褐 7.5 YR 4 / 2	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	4mm以下の灰・乳白・黒色粒を含む	良好	
381	SA118	壺	頸～底		3.2		(20.0)	タタキ、ナデ	工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の赤褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
382	SA118	壺	胴～底		(6.1)			タタキ、ナデ	ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の白・灰・青灰・褐・黄褐色粒を含む	良好	
383	SA118	壺	胴～底		(4.0)			工具ナデ、ナデ	ハケメ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	黄橙 10 YR 8 / 6	4mm以下の褐・灰・赤褐色粒を含む	良好	
384	SA118	壺	胴～底				(16.8)	ナデ	ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
385	SA118	脚付鉢	口～脚	(12.1)	(10.9)		13.4	ヨコナデ、穿孔、ナデ、貼付突帯	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	7mm以下の乳白・褐・灰色粒を含む	良好	
386	SA118	壺	口～胴	(10.7)			(10.8)	ミガキ	ミガキ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	1mm以下の黒色粒を含む	良好	
387	SA118	壺？	頸～底				10.8	工具ナデ、ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の灰・乳白色粒を含む	良好	
388	SA118	鉢	口～底	(9.6)	4.0	7.8	8.1	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	7mm以下の乳白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
389	SA118	鉢	胴～底		2.1			タタキ、ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 8	1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
390	SA118	鉢	口～底	7.2	2.7	5.5		ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の赤褐・乳白・褐・灰色粒を含む	良好	
391	SA118	鉢	口～底	8.0	2.0	5.2		ミガキ	ナデ	橙 2.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の乳白・黒・灰・明赤褐色粒を含む	良好	口縁部付近に一部化粧土あり
392	SA118	脚付鉢	胴～脚		(7.8)			ナデ、	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の乳白・淡黄・灰・黒色粒、1mm以下の透明・黒色光沢粒を含む	良好	
393	SA118	高坏	坏	(31.0)				ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	黄橙 10 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の赤褐・褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
394	SA118	高坏	脚					ミガキ、透孔	工具ナデ、透孔	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の灰・黒・赤褐色粒を含む	良好	
395	SA36	甕	口～胴	(26.1)				ハケメ	ハケメ？	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 7 / 6	3mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	
396	SA36	壺	口～胴	(15.7)				ナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の赤褐色粒を含む	良好	
397	SA36	鉢	口～胴	(12.8)				ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 YR /	浅黄橙 YR /	4mm以下の灰白・黒褐・赤褐・黒色粒を含む	良好	
398	SA36	鉢	口～底	(10.4)		6.5	8.0	指ナデ、工具ナデ、ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・乳白・褐色粒を含む	良好	
399	SA36	鉢？	口	(13.0)				ナデ、ミガキ、沈線文	ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	灰白 10 YR 8 / 2	3mm以下の灰、2mm以下の褐・白色粒を含む	良好	
400	SA36	鉢	口～底	10.5		7.5		ナデ、ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の黒・赤褐・乳白色粒を含む	良好	
401	SA36	鉢	口～底	(5.3)	(2.3)	6.0	(6.4)	ナデ	指オサエ、ナデ	黒 2.5 Y 2 / 1	黒褐 2.5 Y 3 / 1	2mm以下の灰白・灰色粒を含む	良好	
402	SC5	高坏	坏～脚					工具ナデ、ミガキ	工具ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	灰黄褐 10 YR 5 / 2	4mm以下の灰白・褐色粒を含む	良好	脚柱部内面に赤色顔料付着
403	SC24	壺	口～胴	(8.0)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、指ナデ、指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下の白・明赤褐・灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
404	SC17	鉢	胴～底		4.1			ハケメ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の白・赤褐・黄褐色粒を含む	良好	
405	SC17	鉢	底		5.0			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	灰白 10 YR 8 / 2	3mm以下の乳白・赤褐色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
406	SC17	壺	胴～底	(11.7)				ミガキ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の黒・灰・乳白色粒を含む	良好	
407	SC33	鉢	口～胴	(31.0)			(27.7)	ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	5mm以下の褐・赤褐・緑灰色粒を含む	良好	
408	SC33	甕	口～胴	(23.1)			(23.6)	工具ナデ、指オサエ、ハケメ、ナデ	工具ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 3	5mm以下の赤褐・白・黒・灰白色粒を含む	良好	
409	SC33	甕	口～底	18.1	5.5	26.9	20.0	ナデ、ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	6mm以下の灰白・黒・赤褐色粒を含む	良好	外面底部に線刻あり
410	SC33	壺	口～胴	13.4				ナデ、ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ、指オサエ、工具ナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の白・赤褐色・黒色粒を含む	良好	
411	SC33	甕	胴～底		5.2			指ナデ、ハケメ	指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	3mm以下の白・灰・黄色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
412	SC33	高坏	坏	37.4				工具ナデ	ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 8	2mm以下の褐・灰色粒を含む	良好	
413	SC33	壺	頸～胴				(36.9)	貼付突帯？、ハケメ、タタキ	ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・赤褐・白・乳白色粒を含む	良好	

第 21 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (13)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
414	SC36	鉢	胴～底		2.4			ナデ	指ナデ	灰黄 2.5 Y 7 / 2	オリーブ黒 7.5 Y 3 / 1	2mm以下の乳白・灰白色粒を含む	良好	底部外面に藁状の圧痕あり
415	SC85	手捏	口～底	5.8	2.1	4.3		指オサエ、ナデ	ナデ、指オサエ	明黄褐 10 YR 7 / 6	黄橙 10 YR 8 / 8	2mm以下の灰白・褐色粒を含む	良好	
416	SC85	手捏	口～底	5.1	1.4	4.0		ナデ、指オサエ、	ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の灰白・黒色粒を含む	良好	
417	SH401	壺	口	(21.4)				ヨコナデ、重弧文	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の灰・褐・白色粒をわずかに含む	良好	
418	J10Gr	甕	胴					ヨコナデ、ナデ	ナデ、ケズリ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	布留系
420	1 拡 - S5	壺	口～底	(10.1)		(13.0)	11.0	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の褐・灰白・赤褐色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
421	S5	鉢	口～底	8.4		5.8		ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の白・赤褐色粒を含む	良好	
422	S5	高坏	坏	(37.0)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の黒・褐・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
423	S5	高坏	裾		16.4			ミガキ、ヨコナデ、円形透孔	工具ナデ、ハケメ、ヨコナデ、円形透孔	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の白・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	透孔は７カ所か
424	S22	壺	口～頸					鋸歯文、ナデ、ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	灰黄褐 10 YR 6 / 2	3mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
425	S22	高坏	脚		17.6			ミガキ、ヨコナデ、円形透孔	指ナデ、ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の黒・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	透孔は４方
426	S22	鉢	胴～底		1.2			ナデ	ハケメ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	微細な灰・黒・灰白色粒を含む	良好	内面底部付近に赤色顔料付着
427	S22	鉢	口～底	6.2		3.8	6.6	ナデ、工具ナデ	ナデ、指ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	灰黄褐 10 YR 4 / 2	4mm以下の灰白・浅黄橙色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
428	S20	高坏	坏	20.2				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	3mm以下の白・黄橙色粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	
429	S20	高坏	坏	20.8				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・黒・褐・乳白色粒を含む	良好	
430	S20	鉢	口～底	(6.8)		5.8	(7.4)	指ナデ、指オサエ	指ナデ、指オサエ	灰黄 2.5 YR 7 / 2	灰黄 2.5 YR 6 / 2	4mm以下の白・赤褐・黒・灰色粒を含む	良好	
431	S20	鉢	口～底	7.1	(2.8)	7.1	(6.9)	ヨコナデ、指オサエ、ナデ	工具ナデ、指ナデ	にぶい黄 2.5 YR 6 / 3	黄灰 2.5 YR 5 / 1	2mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	外面頸部に沈線あり
432	S38	甕	口～底	(19.0)	4.8	28.6	(19.4)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰・白・赤褐色の粒を含む	良好	
433	S38	甕	口～胴	(22.2)	3.3			ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、タタキ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の灰・白・褐色粒を含む	良好	断面にスス
434	S38	鉢	口～底	(16.9)	2.4	16.4		ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰褐・白・褐色粒、微細な黒色・透明光沢粒を含む	良好	
435	S38	鉢	口～胴	(8.3)			(11.5)	工具ナデ	工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰・褐色粒、微細な黒色・透明光沢粒を含む	良好	
436	S38	壺	口～胴	(20.1)			(20.8)	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	褐灰 7.5 YR 5 / 1	6mm以下の灰・白色粒、微細な黒色・透明光沢粒を含む	良好	
437	S38	手捏	口～底	6.2		4.4		指オサエ	指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の白・褐・赤褐・黒色粒を含む	良好	
438	S38	高坏	裾		(14.2)			ナデ、円形透孔	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰・白・褐色粒を含む	良好	
439	S38	脚付鉢？	脚		(9.2)			ナデ、線刻？	ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の灰・白・褐色粒を含む	良好	
440	S70	鉢	口～底	8.3	2.5	8.1	8.8	工具ナデ、ナデ	指オサエ、指ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の白・灰色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
441	S70	鉢	口～底	9.2	2.8	6.4		ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 8	にぶい黄橙 10 YR 5 / 4	3mm以下の白・淡黄・赤褐粒を含む	良好	
442	S70	鉢？	口	(6.7)				ミガキ、櫛描波状文	ヨコナデ、ハケメ	にぶい褐 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	微細な透明光沢粒を含む	良好	
443	S70	鉢	口～底	6.5	2.1	4.1	6.6	指オサエ、ナデ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	明赤褐 5 YR 5 / 6	2mm以下の白・褐色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
444	S70	手捏	口～底	3.3		2.7		指オサエ	指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
445	S91	壺	口～頸	(17.6)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の白・赤褐・灰・黒色粒を多く含む	良好	
446	S91	甕	胴～底		4.1			ナデ	工具ナデ、指オサエ、指ナデ	にぶい褐 7.5 YR 6 / 3	灰黄褐 10 YR 6 / 3	7mm以下の黒・灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
447	S105	鉢	口～底	(9.7)	4.2	10.8	(9.6)	ヨコナデ、ナデ、指ナデ、指オサエ	ヨコナデ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	6mm以下の灰白・灰・白色粒を含む	良好	
448	S105	鉢	口～胴	(10.4)			(11.6)	ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰白・乳白・黒色粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	

第 22 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (14)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
449	S105	壺	口～底	9.2		10.1	10.4	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	3mm以下の灰白・白・黒色粒を含む	良好	
450	S105	壺	頸～底		2.0		9.0	ハケメ、ミガキ	指ナデ	灰褐 7.5 YR 4 / 2	灰褐 7.5 YR 4 / 2	2mm以下の黒・赤褐・白色粒を含む	良好	
451	S105	鉢	口～底	10.0		7.2		ミガキ、ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の赤褐・乳白色粒を含む	良好	
452	S105	高坏	坏	20.9				ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ハケメ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	明黄橙 10 YR 6 / 6	1mm以下の白色粒、微細な透明・黒色光沢粒を含む	良好	
453	S105	高坏	脚		(13.6)			ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の乳白色、不透明光沢粒を含む	良好	
454	S161	大型甕	口					ナデ？貼付突帯	ナデ？	浅黄橙 10 YR 8 / 4	淡黄 2.5 Y 8 / 4	3mm以下の白・赤褐・灰色粒、微細な黒色・透明光沢粒を含む	良好	
455	S161	鉢	頸～底		2.5		(8.2)	工具ナデ、ナデ、藁状圧痕	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	7mm以下の乳白・灰・褐色粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり
456	S161	高坏	坏	(21.1)				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の褐・灰色粒を含む	良好	
457	S209	甕	口～胴	(17.7)			(17.0)	ヨコナデ、指オサエ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下の黒・灰・乳白色粒を含む	良好	
458	S292	甕	口～胴	(24.9)				ヨコナデ、ナデ、貼付刻目突帯、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 3	4mm以下の灰・灰白色粒、2mm以下の黒・透明光沢粒を含む	良好	
459	S292	甕	口～胴	(18.8)				ヨコナデ、貼付刻目突帯、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐・白灰色粒を含む	良好	
460	S292	壺	口縁部					ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	2mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
461	S298	甕	口～胴	(22.7)			(22.3)	工具ナデ	指オサエ、ナデ、	明赤褐 5 YR 5 / 6	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	2mm以下の褐・白・灰色粒、透明光沢粒を含む	良好	
462	S298	甕	口～胴	(26.0)			(22.2)	工具ナデ	工具ナデ、ミガキ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	8mm以下の赤褐・乳白・白・黒・灰色粒を含む	良好	
463	S298	甕	口～底	(26.9)	4.4	30.2	25.1	工具ナデ、ナデ	指オサエ、工具ナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 2.5 YR 6 / 8	3mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
464	S298	甕	口～胴	(23.4)			(23.3)	指オサエ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	赤褐 2.5 YR 4 / 6	5mm以下の赤褐・黒・乳白・灰色粒を含む	良好	赤色顔料もしくは化粧土を塗布
465	S298	甕	口～底近	20.6			21.9	指オサエ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ、ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の灰色粒、2mm以下の黒・透明光沢粒を含む	良好	
466	S298	甕	口～底	(19.8)	4.0	25.4	(20.3)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の黒・黒褐色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
467	S298	甕	口～底	16.6		24.6	19.0	ナデ、ヨコナデ	ナデ、指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	7mm以下の乳白・灰・橙色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
468	S298	甕	口～底	(20.1)	5.8	31.5	(24.0)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指オサエ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 8	6mm以下の灰・白色粒、微細な黒色・透明光沢粒を含む	良好	
469	S298	甕	胴～底		5.1			ナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい赤褐 5 YR 4 / 4	褐 7.5 YR 4 / 6	8mm以下の灰・灰白・橙色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
470	S298	甕	口～底	18.8	4.4			ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	8mm以下の乳白・灰・黒色粒を含む	良好	
471	S298	甕	口～胴	(18.5)				ヨコナデ、凹線文、刻目貼付突帯、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	にぶい赤褐 5 YR 4 / 3	明褐 7.5 YR 5 / 6	3mm以下の乳白・灰色粒を含む	良好	
472	S298	壺	口～底	(12.2)		35.5	(24.4)	ナデ	工具ナデ、風化著しい	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・褐・白色粒、高師小僧を含む	良好	
473	S298	壺	口～底	(14.3)		(41.8)	(32.0)	ヨコナデ、ナデ、ミガキ？風化が激しい	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	6mm以下の灰・褐・黒・乳白・赤褐色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	部分的に赤色顔料もしくは化粧土の塗布
474	S298	鉢	口～底	(16.7)	(5.7)	8.7		ナデ、指オサエ	工具ナデ、指オサエ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の橙・乳白色粒、2mm以下の黒・透明光沢粒を含む	良好	
475	S298	高坏	坏・脚	(14.7)	12.1			風化の為不明、ミガキ、ナデ、ヨコナデ	指オサエ、指ナデ、ナデ、ヨコナデ	橙 5 YR 7 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の緑灰・灰白・褐・乳白・黒灰色粒を含む	良好	
476	S298	高坏	脚		14.5			ナデ、ミガキ	指ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の白・赤褐・灰色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
477	S298	壺	口～胴	(13.4)			(25.8)	工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	7mm以下の褐・白灰色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
478	S298	壺	肩～底		5.7		28.0	ミガキ、風化の為不明	指ナデ、工具ナデ、指オサエ	明赤褐 5 YR 5 / 8	明赤褐 5 YR 5 / 8	5mm以下の黒・灰・乳白色粒を含む	良好	
479	S298	壺	頸～底				8.7	ミガキ	ミガキ、工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	3mm以下の灰黄・灰・白・褐・黒色粒、1mm以下の黒・透明光沢粒を含む	良好	

第 23 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (15)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
480	S344	甕	口～胴	(26.0)			(21.2)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の黒・赤褐・褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
481	S344	甕	口～底	(19.9)	(6.2)	(28.3)	(21.2)	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の褐・白・黒褐色粒を含む	良好	
482	S344	甕	口～胴	(25.1)			(23.0)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の乳白・灰・褐色粒を含む	良好	
483	S344	鉢	口～底近	(13.1)			(9.2)	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
484	S344	鉢	口～底	7.1	2.8	4.6		指ナデ、ナデ	指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐色粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	
485	S344	壺	口～胴	15.4			26.6	櫛描波状文、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の灰・灰白・黒色光沢粒を含む	良好	
486	S344	壺	口～底近	(18.0)			(37.8)	ヨコナデ、櫛描波状文、ハケメ、工具ナデ	指オサエ、ハケメ、	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	4mm以下の赤褐・乳白・白・灰色粒を含む	良好	
487	S347	壺	胴～底		4.5			工具ナデ、ミガキ	工具ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	4mm以下の乳白・灰・褐・黒色粒を多く含む	良好	
488	S347	高坏	坏	(29.7)				ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の褐・赤褐・白・黒色粒を含む	良好	
489	S347	大型甕	口～胴					ヨコナデ、工具ナデ、貼付突帯	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 4	3mm以下の褐・白・灰色粒を含む	良好	
490	S410	甕	口					ヨコナデ、刻目、貼付刻目突帯	ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	明赤褐 5 YR 5 / 6	4mm以下の乳白色粒を含む	良好	
491	S410	甕	口					ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	黒 10 YR 2 / 1	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	1mm以下の黒・透明光沢粒を含む	良好	
492	S410	脚付鉢	胴～脚					工具ナデ、ナデ、円形透かし	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	黒褐 10 YR 3 / 1	2mm以下の灰白・白・褐色粒、黒色光沢粒を含む	良好	全面に赤色顔料塗布
493	S410	甕	口					ヨコナデ、凹線文、風化の為不明	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の灰白・灰・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
494	S443	壺	口	(24.0)				工具ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の灰・乳白・褐色粒を含む	良好	
495	S443	甕	口	(19.4)				ヨコナデ、工具ナデ、貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰・乳白色粒、透明光沢粒を含む	良好	
496	S443	甕	底		6.9			ハケメ、ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	褐灰 7.5 YR 4 / 1	6mm以下の灰・黒・乳白色粒を含む	良好	
497	S443	壺	口縁部					ヨコナデ、ナデ、ミガキ（暗文）	ヨコナデ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の白・淡黄・赤褐色粒を含む	良好	
498	S491	甕	口					刻目突帯、ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	明褐 7.5 YR 5 / 6	6mm以下の褐・白・黒・赤褐色粒を含む	良好	
499	S491	壺	口縁部					ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の褐・白・赤褐色粒を含む	良好	鋤先口縁
500	S491	壺	口縁部					ナデ、「ハ」の字文、ハケメ	風化により不明、貼付浮文	明褐 7.5 YR 5 / 6	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	3mm以下の白・赤褐色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
501	S491	甕	底		6.1			ナデ、ヨコナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	黒褐 2.5 Y 3 / 1	3mm以下の白・褐色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
502	S521	甕	口～胴	(22.8)			(19.4)	ヨコナデ、タタキ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 3	4mm以下の赤褐・灰・黒・乳白色粒を含む	良好	
503	S521	甕	口～胴	(24.6)			(23.2)	ナデか（多量の煤付着）	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
504	S521	甕	胴～底		4.7			タタキ	工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の灰・褐・乳白・赤褐・灰白色粒を含む	良好	
505	S521	鉢	口～底	10.0	3.5	6.8		ナデ、木葉底	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の赤褐・白・黒色粒を含む	良好	木葉底
506	S521	鉢	口～底	(7.1)	3.3	4.7		ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の褐・灰褐・白色粒を多く含む	良好	
507	S548	甕	口～胴	(29.4)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の褐・褐灰・灰・乳白色粒を含む	良好	
508	S548	甕	口～底	14.9	2.6	20.5	15.8	工具ナデ、	工具ナデ、ナデ	橙 5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	6mm以下の褐・黒褐・白・灰・赤褐色粒を含む	良好	内面頸部下に炭化物付着・外面底部に圧痕あり
509	S548	甕	口～底	(16.2)	2.2	21.0	16.2	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰・褐・黒・乳白色粒を含む	良好	外面底部付近に炭化物付着
510	S548	甕	頸～底		3.6		(20.0)	ハケメ、粗いナデ、ナデ	ハケメ、	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	5mm以下の褐・灰白・灰色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	内面全体に炭化物付着
511	S548	鉢	口～胴	(11.4)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の白・黒色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
512	S548	壺？	頸～底				(8.3)	ヨコナデ、ナデ	ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・褐・浅黄・赤褐色粒を吹く	良好	

第 24 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (16)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
513	S548	壺	口縁部					ナデ、沈線文、重弧文	指オサエ、ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
514	S548	壺	肩					ヨコナデ、ナデ、鋸歯文	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰色粒を含む	良好	外面に赤色顔料塗布
515	S548	鉢	口～底	(14.9)	2.7	(13.6)		ナデ、線刻	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	外面胴部～底部付近に線刻あり
516	S548	鉢	口～底	(9.2)	3.5	7.8	(11.1)	ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	5mm以下の灰・黒・褐・白色粒を含む	良好	
517	S548	鉢	口～底近	(9.4)			(10.0)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の赤褐・白・黒 / 色粒を含む	良好	
518	S548	脚付鉢	口～脚	(10.6)	6.0	12.3		工具ナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	4mm以下の灰・褐・乳白色粒を含む	良好	
519	S548	鉢	口～胴	(9.0)			(11.0)	ナデ、	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の褐・白・灰白・褐灰色粒を含む	良好	
520	S548	脚付鉢	口～脚	18.4				ヨコナデ、ミガキ、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
521	S548	鉢	口～底	17.4	(4.5)	(10.7)		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の褐・灰色粒を含む	良好	
522	S548	高坏	坏	(30.2)				ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ミガキ	橙 7.5 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	4mm以下の白・赤褐・灰・黒色粒、透明光沢粒を含む	良好	
523	S548	壺	口～底	(8.2)		9.2	(8.1)	ナデ、ミガキ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
524	S548	鉢	口～胴	(8.4)				ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ナデ、工具ナデ	黄灰 2.5 Y 4 / 1	黄灰 2.5 Y 4 / 1	1mm以下の黄橙色粒、透明光沢粒を含む	良好	
525	S548	鉢	口～底	(10.2)	2.5	8.8	8.8	ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 5 / 4	2mm以下の黒・透明光沢粒を少量含む	良好	
526	S548	高坏	脚					ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	3mm以下の白・赤褐色粒を多く含む	良好	
527	S548	高坏	裾		(11.7)			ナデ、円形透孔	ナデ、円形透孔	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の白色粒、微細な透明光沢粒を少量含む	良好	
528	S570	壺	頸～底		4.4		16.7	ハケメ、ナデ、工具ナデ	ハケメ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 8	3mm以下の灰・赤褐・。白・黒・灰色粒を含む	良好	胎土にマーブル状の部分がみられる
529	S570	壺	口縁部					ヨコナデ、刺突列点文、ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の白・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	口唇部に列点文あり
530	S570	鉢	口～胴	(23.7)				ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ナデ、ミガキ	にぶい黄褐 10 YR 6 / 4	にぶい黄褐 10 YR 6 / 3	2mm以下の灰白・褐・灰褐色粒を含む	良好	
531	S570	鉢	口～底近	(11.2)				ナデ、ミガキ	風化著しい	灰白 2.5 Y 8 / 2	淡黄 2.5 Y 8 / 3	2mm以下の明褐・灰白・にぶい黄褐色粒を含む	良好	
532	S580	甕	口～底	(25.6)			(26.2)	工具ナデ	工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の灰・乳白・褐・黒色粒を含む	良好	
533	S580	甕	口～底近	(25.1)			(24.7)	ヨコナデ、工具ナデ、藁状圧痕	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の褐・赤褐・白・黒色粒を含む	良好	底部付近に藁状の圧痕あり
534	S580	甕	頸～底				22.7	ナデ、工具ナデ、粗い工具ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の灰。白・赤褐色粒を含む	良好	
535	S580	甕	胴～底				(22.5)	ナデ、工具ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の灰白色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
536	S580	鉢	口～底	13.7		13.7	13.9	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 2.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰・白色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
537	S580	甕	口～底	(14.1)		20.8	(15.5)	ナデ、	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	橙 2.5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の灰白・白・赤褐色粒、1mm以下の黒・透明・金色光沢粒を含む	良好	
538	S580	甕	口～底	(15.7)	4.1	26.9		工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	7mm以下の灰・乳白・褐・黒色粒、透明光沢粒を含む	良好	
539	S580	壺	口～胴	11.3			(15.6)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・褐色粒を含む	良好	外面に赤色顔料塗布？
540	S580	壺	口～底	8.3	3.6	8.7	9.7	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰・黒・乳白・褐色粒を含む	良好	
541	S580	鉢？	口	(9.3)				ナデ、粘土のつなぎ目が著しい	ナデ、工具ナデ	明褐 7.5 YR 5 / 6	赤褐 5 YR 4 / 8	2mm以下の白・淡黄色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
542	S580	甕	口～胴、胴～底	(25.6)			(23.6)	工具ナデ、ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	明褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
543	S580	鉢	口～底	(18.8)	5.2	10.4		タタキ後ナデ？、指オサエ	ナデ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	7mm以下の白・淡黄・褐色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
544	S580	壺	口縁部	(17.1)				ヨコナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰・乳白・褐色・透明光沢粒を含む	良好	

第 25 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (17)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
545	S580	壺	頸～底				(22.4)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	指オサエ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・赤褐・白色粒を含む	良好	
546	S580	鉢	胴～底	(10.6)	(4.4)	7.4		ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	4mm以下の白・赤褐色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
547	S580	鉢	口～底	(8.3)	4.2	6.5		ナデ、ミガキ、指オサエ	工具ナデ	明褐 7.5 YR 5 / 6	明褐 7.5 YR 5 / 6	4mm以下の白色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
548	S580	高坏	坏	(14.0)				ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	橙 7.5 YR 6 / 8	3mm以下の白色粒を多く含む	良好	
549	S580	高坏	脚		13.5			ミガキ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の赤褐・白・黒・灰色粒、黒色光沢粒を含む	良好	赤色顔料付着
550	S580	高坏	脚		(14.4)			ミガキ、ヨコナデ、ナデ	ナデ、ヨコナデ	橙 5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐・灰・灰白・赤色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
551	S580	高坏	脚		11.6			ミガキ、ヨコナデ、ナデ	指ナデ、工具ナデ、指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の橙・灰・灰白色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
552	S609	甕	口～底	(23.5)	3.9	31.1	23.7	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰・褐・乳白色粒を含む	良好	いびつ。形態もやや特殊
553	S609	甕	口～胴	(19.9)			(26.9)	ナデ、タタキ	ナデ、ハケメ	灰白 10 YR 7 / 1	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の黒・赤褐色粒を含む	良好	
554	S609	壺	口～胴	(15.0)				ヨコナデ、櫛描波状文、ナデ、刻目突帯、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
555	S609	壺	口～胴・胴～底	(10.8)	4.8			ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の赤褐・白・灰色粒を多く含む	良好	
556	S609	壺	口～底	(12.5)		(26.1)	(21.3)	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 6 / 3	にぶい褐 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の褐・赤褐・灰・黒・乳白色粒を含む	良好	
557	S609	壺	口縁部	(20.0)				ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
558	S609	壺	口縁部	(20.6)				ヨコナデ、櫛描波状文、ナデ	ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の白・淡黄・灰色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
559	S609	壺	口縁部	(18.6)				ヨコナデ、鋸歯文、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
560	S609	鉢	口～底	11.7	3.1	8.7		ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい褐 5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の黒・灰・乳白色粒を含む	良好	
561	S609	鉢	頸～底		0.9		(8.1)	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	黄灰 2.5 YR 4 / 1	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	4mm以下の灰・乳白色粒を含む	良好	
562	S609	鉢	口～胴・胴～底	(7.3)	(2.1)			ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	暗灰黄 2.5 Y 5 / 2	灰黄 2.5 Y 6 / 2	2mm以下の灰色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
563	S609	鉢	口～底	4.3		6.0	5.5	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、指ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 8	2mm以下の灰色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
564	S609	高坏	坏	(38.0)				ナデ、ハケメ、ミガキ	ミガキ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の白・淡黄・灰色粒、透明光沢粒を含む	良好	外面に暗文あり
565	S609	高坏	坏	(34.8)				ヨコナデ、ナデ	ミガキ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の白・灰・黒色粒、1mm以下の黒・透明光沢粒を含む	良好	内外面に焼成前の粘土による補修痕跡がみられる
566	S609	器台	受～裾	(21.7)	17.8	14.4		ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	6mm以下の灰白・白・赤褐色粒、2mm以下の黒・透明光沢粒を含む	良好	
567	S609	高坏	脚		(19.8)			ハケメ、ミガキ、円形透孔、ヨコナデ	工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	8mm以下の灰・乳白・白色粒、2mm以下の黒・透明光沢粒を含む	良好	
568	S609	高坏	口					ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ナデ、ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
571	S610	甕	口～胴	20.0		21.8	18.6	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	6mm以下の灰白・黒色粒、2mm以下の黒色・透明光沢粒を含む	良好	
572	S610	壺	頸～底	23.6	3.3			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の黒・灰・褐色粒を含む	良好	
573	S610	甕	胴～底		6.2			工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
574	S610	高坏	坏～裾	(11.5)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ、絞り	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・灰褐・褐・乳白色粒を含む	良好	
575	S622	甕	口～胴	(25.2)			(26.0)	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の黒・灰・褐・乳白色粒を含む	良好	
576	S622	鉢	胴～底				(5.0)	ナデ	指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白・赤褐・褐・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	

第 26 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (18)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
577	S622	甕	口～胴	(16.2)			(14.2)	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、指オサエハケメ	灰黄 2.5 Y 7 / 2	灰黄 2.5 Y 7 / 2	4mm以下の灰褐・褐・黒・白・橙色粒を含む	良好	内面に種子（？）圧痕あり
578	S622	甕	口～胴	(15.5)			(15.1)	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	淡黄 2.5 Y 8 / 3	淡黄 2.5 Y 8 / 4	4mm以下の褐・橙・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
579	S622	壺	口縁部	(16.8)				ヨコナデ、櫛描波状文、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の褐灰・褐・白色粒を含む	良好	
580	S790	甕	口～底	(23.9)		23.6	(22.3)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	橙 2.5 YR 6 / 6	橙 2.5 YR 6 / 6	3mm以下の褐・黒褐・灰色粒を含む	良好	
581	S790	壺？	底		(5.7)			ナデ、指オサエ、圧痕	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の白・赤褐・黒色粒を多く含む	良好	底部に桃核状の圧痕あり
582	S790	高坏	坏	(19.8)				風化の為不明	ヨコナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の白・赤褐・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
583	S820	甕	口～底	25.2		30.5	25.7	工具ナデ、指オサエ、ナデ	工具ナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の灰・赤褐・乳白色粒を含む	良好	内面胴下部～底部に炭化物あり
584	S820	甕	口～底近	(22.2)			(21.2)	工具ナデ？	指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 5 / 4	にぶい黄橙 10 YR 5 / 4	5mm以下の灰・乳白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	内面胴下部に炭化物付着
585	S820	甕	口～底	11.7		17.2	13.1	工具ナデ、ナデ	ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の褐・赤褐色粒を含む	良好	
586	S820	甕	口～底近	(16.3)			(18.0)	ナデ、工具ナデ	指オサエ、指ナデ、工具ナデ	橙 2.5 YR 6 / 8	橙 2.5 YR 6 / 8	3mm以下の白・灰・赤褐・乳白色粒、透明光沢粒を含む	良好	
587	S820	甕	口～胴	(20.1)			(27.8)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の白・赤褐・灰・黒色粒を含む	良好	
588	S820	甕	口～底	13.3	1.1	16.1	14.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 8	4mm以下の灰・褐・乳白・黒・灰白色粒を含む	良好	
589	S820	壺	頸～底				9.8	ナデ、工具ナデ	指オサエ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の灰・褐・赤褐・灰白・乳白・黒色粒を含む	良好	
590	S820	壺	胴～底				(14.5)	工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の褐・黒・灰・乳白色粒を含む	良好	
591	S820	壺	口～底	11.0		15.5	16.1	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 2.5 YR 6 / 8	3mm以下の白・灰褐・灰・黒灰・褐色粒を含む	良好	
592	S820	壺	口～底	(10.4)		15.4	15.7	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の黒・灰乳白色粒を含む	良好	
593	S820	壺	口～底	10.8		17.9	15.2	ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 5 YR 7 / 8	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐・赤褐・白・灰・灰白・灰黒色粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	
594	S820	壺	口縁部	(17.4)				ヨコナデ、ナデ	ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	4mm以下の褐・灰・白色粒、透明光沢粒を含む	良好	
595	S820	壺	頸～底				(25.0)	ナデ	ナデ、指オサエ、ナデ、指ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の褐・橙・灰白・灰色粒を含む	良好	底部に渦巻き状の粘土のつなぎ目がみられる
596	S820	鉢	口～底	(12.9)	5.6	18.4		指オサエ、工具ナデ、ナデ	指オサエ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の白・赤褐・灰・黒色粒を含む	良好	内面に植物茎の圧痕がみられる
597	S820	高坏	坏	(19.1)				ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰・乳白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
598	S820	高坏	脚～裾		11.0			工具ナデ、ナデ、ミガキ	工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰・褐・乳白色粒を含む	良好	
599	S820	鉢	口～底	12.8		6.0		ミガキ、工具ナデ	指オサエ、ミガキ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	3mm以下の灰・黒・乳白色粒を含む	良好	
600	S820	鉢	口～底	(12.4)	(5.8)	6.1		ナデ	指ナデ、工具ナデ	黒褐 7.5 YR 3 / 1	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の褐・淡黄・赤褐色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
601	S820	鉢	口～底	9.9	4.6	4.3		ヨコナデ、指ナデ、指オサエ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい褐 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の褐・黒灰・赤褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
602	S820	鉢	口～底	(10.6)	(7.8)	6.4	(11.8)	工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の黄・灰色粒、1mm以下の黒・透明光沢粒を含む	良好	
603	S820	鉢	口～底	7.8	4.0	4.0		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の褐・赤褐・灰・黒・乳白色粒を含む	良好	
604	S1016	甕	口～底	17.0	4.5	23.0	16.4	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、指ナデ、ナデ	ナデ、ハケメ、工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の白・黒・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
605	S1016	鉢	口～底近	(13.1)			(18.0)	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ、ナデ、指オサエ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白・赤褐・灰色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
606	S1016	鉢	口～底近	(12.5)			(13.7)	工具ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の乳白色粒、1mm以下の黒色・透明光沢粒を含む	良好	
607	S1016	壺	口縁部	(19.6)				ナデ、櫛描波状文、ヨコナデ、ハケメ	ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	10mm以下の白・褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
608	S1016	壺	口縁部	(8.8)				ナデ、ヨコナデ、指オサエ、	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の灰白色粒、透明光沢粒を含む	良好	

第 27 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (19)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
609	S1016	壺	口～底	(7.2)	1.7	15.0	11.4	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の乳白・灰・黒色光沢粒を含む	良好	
610	S1016	脚付鉢	口～脚	(8.8)	4.3	6.1		ヨコナデ、ミガキ、指オサエ、ナデ	ミガキ	にぶい橙 10 YR 6 / 4	にぶい橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の灰・赤褐・乳白色粒を含む	良好	
611	S1016	脚付鉢	口～脚	(10.0)	3.3	5.8		ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の橙・灰白・褐色粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	
612	S1016	鉢	口～底	(8.2)	2.4	5.5		ナデ、工具ナデ	ナデ	黒褐 2.5 YR 3 / 1	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の白・乳白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
613	S1016	壺	口縁部	(12.4)				ヨコナデ、穿孔、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 7 / 6	2mm以下の褐・白・灰色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	頸部に 1 対の穿孔ガみられ、内外面に橙色顔料塗布か
614	S1016	壺	口～頸	(13.1)				ヨコナデ、工具ナデ、M 字状貼付突帯	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰・黒・赤褐・乳白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	須玖式。鉄分？の凝着がみられる
615	S16	甕	口～底	(22.4)	4.0		(22.6)	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰・灰白・橙・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
616	S16	甕	口～胴	(22.9)			(23.4)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰・褐・赤褐・乳白色粒を含む	良好	
617	S17	甕	口～底近	(22.6)			(21.8)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	灰黄褐 10 YR 6 / 2	赤褐 2.5 YR 4 / 8	5mm以下の灰・灰褐・白透明光沢粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
618	S59	壺	胴～底		6.8			ミガキ、ナデ	風化著しいがナデか	浅黄橙 10 YR 8 / 4	淡黄 2.5 YR 8 / 3	4mm以下の灰・灰白・褐色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
619	S59	甕	底		5.7			ヨコナデ	工具ナデ、ナデ	灰黄褐 10 Y 5 / 2	黄灰 2.5 Y 5 / 1	3mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
620	S115	壺	頸～底		5.4		(11.4)	工具ナデ、ミガキ	指オサエ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	明褐 7.5 YR 5 / 8	4mm以下の淡黄・灰・白・黒色粒を含む	良好	
621	S115	甕？	底		(8.1)			ハケメ、ナデ	風化により不明	橙 5 YR 6 / 6	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	4mm以下の褐・灰・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
622	S116	壺	口縁部					ヨコナデ、ナデ、連続山形文	ナデ、ヨコナデ、円形浮文	灰褐 7.5 YR 5 / 2	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	7mm以下の乳白色、微細な透明光沢粒を含む	良好	
623	S169	甕	口～底近	(24.0)			(28.0)	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の黒・灰・赤褐・白色粒を含む	良好	
624	S169	甕	口～胴	(24.6)			(22.8)	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	4mm以下の白・褐・灰色粒を含む	良好	
625	S169	甕	口～底	(25.8)	3.8	28.8	23.0	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	淡黄 2.5 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の黒・灰・灰白・褐色粒を含む	良好	
626	S169	甕	口～胴	(22.4)				ヨコナデ、ナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の乳白・黒・赤褐色粒を含む	良好	
627	S169	甕	口～胴	(14.7)			(13.6)	ヨコナデ、ナデ、タタキ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐・赤褐・灰白粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
628	S169	甕	胴～底		3.2			ナデ、藁状の圧痕、ヒビが著しい	指ナデ	灰白 10 YR 8 / 2	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	6mm以下の灰褐・灰・乳白・褐色粒、透明・黒色光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり
629	S169	壺？	胴～底				(11.0)	工具ナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の白・赤褐・褐・黒色粒を含む	良好	
630	S169	壺	胴～底	(10.4)		9.8	(11.0)	ヨコナデ、櫛描波状文、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	赤橙 10 YR 6 / 8	赤橙 10 YR 6 / 8	3mm以下の白・褐色粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	
631	S169	鉢	口～底	13.2		13.0	15.2	指オサエ、ナデ、工具ナデ、藁状圧痕	ナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の乳白・灰・褐・赤褐色粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり
632	S202	甕	口～胴	(22.4)			(22.6)	指オサエ、ナデ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ、ナデ	浅黄 2.5 YR 7 / 3	浅黄 2.5 YR 7 / 3	5mm以下の灰・赤褐色粒を含む	良好	
633	S202	甕	口～胴	(18.4)			(16.2)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の灰・乳白・褐色粒を含む	良好	
634	S202	壺	口～胴	(11.6)			(12.8)	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	灰黄褐 10 YR 5 / 2	3mm以下の黒・赤褐・白色粒を多く含む	良好	外面頸部に沈線あり
635	S202	鉢	口～底	13.7	1.7	12.0	12.3	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・白・褐色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
636	S202	鉢	口～底	9.1	1.9	4.7		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	5mm以下の灰・白褐色粒を含む	良好	
637	S202	鉢	口～底	(10.5)		(10.8)	(7.6)	ヨコナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の赤褐・白・灰・黒色粒を含む	良好	
638	S202	壺	口～底近	(11.2)			(14.0)	風化の為不明	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の橙・乳白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	底部内面に鉄銹？が付着
639	S239	甕	口～胴	(29.6)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ハケメ	灰白 7.5 YR 8 / 1	にぶい褐 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の灰・乳白色粒を含む	良好	
640	S354	甕	口～胴	(21.7)			(19.4)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の白・乳白色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	

第 28 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (20)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
641	S354	甕	口～頸	(22.2)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、指オサエ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の乳白色粒、微細な透明光沢粒を少量含む	良好	瀬戸内系搬入品
642	S354	壺	口～底	6.5		7.3	9.4	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	2mm以下の褐・白・褐灰・灰色粒を含む	良好	
643	S357	甕	口					ヨコナデ、ナデ、ハケメ、刻目突帯	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰白・白・赤褐色粒を含む	良好	
644	S357	鉢	口～底	6.7	1.9	7.6	7.2	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	黒褐 2.5 Y 3 / 1	2mm以下の白色粒、透明・黒色光沢粒を含む	良好	
645	S420	甕	口～底	24.1	4.5	31.5	26.3	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	工具ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の白・淡黄・赤褐色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
646	S420	甕	口～胴	(28.4)				ヨコナデ、ハケメ、貼付刻目突帯、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	4mm以下の灰・乳白・赤褐色粒を含む	良好	
647	S420	甕	口～底	(24.5)	2.2	33.3	24.8	ナデ、工具ナデ	ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	7mm以下の灰・乳白色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
648	S420	甕	口～胴	(26.8)			25.4	ナデ	ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の白・灰・赤褐・黒色粒を含む	良好	
649	S420	甕	口～胴	26.8			24.5	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	黄橙 10 YR 8 / 6	6mm以下の白・赤褐・灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
650	S420	甕	口～胴・底	21.0	4.3		21.4	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、指オサエ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の白・黒褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
651	S420	甕	口～胴	22.3			21.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	3mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
652	S420	壺	口～胴	14.3			(25.5)	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰乳白色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
653	S420	壺	口～底	(18.0)		39.5	29.0	ヨコナデ、鋸歯文、ナデ、ハケメ？	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	黄橙 10 YR 8 / 6	6mm以下の褐・灰・灰白・黒白色粒を含む	良好	
654	S420	壺	口～胴	9.8	0.9	10.1	13.4	ヨコナデ、ミガキ	ツコナデ、ナデ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	黄橙 10 YR 8 / 6	5mm以下の灰・褐色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
655	S420	壺	底		(5.2)			工具ナデ、指ナデ、木葉底	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	6mm以下の白・赤褐・灰・黒色粒を多く含む	良好	木葉底
656	S420	高坏	脚		(15.6)			ミガキ？円形透孔	ナデ？	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・灰白・褐色粒を多く含む	良好	
657	S420	鉢	口～胴	(21.4)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の灰・乳白・赤褐色粒を含む	良好	
658	S420	壺	口～底	10.6		29.2	21.6	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ナデ、ハケメ。指オサエ	明赤褐 5 YR 5 / 8	黄橙 10 YR 8 / 6	5mm以下の赤褐・灰白粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	
659	S420	高坏	口～脚	33.6	15.6	22.9		ミガキ、円形透孔	ミガキ、ナデ、工具ナデ	黄橙 7.5 YR 7 / 8	黄橙 7.5 YR 7 / 8	4mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	脚柱部の透孔の位置が不規則
660	S568	甕	口～頸	(18.8)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の白・黒色粒、微細な黒色・透明光沢粒を含む	良好	
661	S752	鉢？	口近					櫛描波状文、ナデ、刺突文	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の褐・橙・灰色粒を少量含む	良好	
662	S781	甕	胴～底		2.6			ハケメ、タタキ	ハケメ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の白・褐・灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
663	S781	鉢	底		2.4			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の褐・灰・白・赤褐色粒を多く含む	良好	
664	S781	手捏	口～底	6.4		2.7		ナデ	ヨコナデ、ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 4	1mm以下の褐・灰色粒、金色光沢粒を含む	良好	
665	S783	甕	口～胴	(23.2)			(21.5)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の乳白・灰色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
666	S783	鉢	頸～底				8.4	ナデ	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐・赤褐・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
667	S783	鉢	口～底	11.1	1.1	6.5		工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	1mm以下の褐色粒、微細な黒・透明光沢粒を含む	良好	
668	S783	高坏	脚					ミガキか（風化著しい）	ナデか（風化著しい）	橙 5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	1mm以下の黒・灰・褐・乳白色粒を含む	良好	
669	S796	甕	口					ヨコナデ、刻目突帯、ハケメ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の白・赤褐・淡黄色粒を多く含む	良好	
670	S971	壺	口縁部	(28.3)				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	灰黄 2.5 Y 7 / 2	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	4mm以下の褐・橙・灰色粒を含む	良好	
671	S980	甕	口～胴	23.4				ヨコナデ、ナデ、貼付刻目突帯、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ	黄橙 10 YR 7 / 4	黄橙 10 YR 6 / 3	4mm以下の灰・灰白・橙色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
672	S980	甕	口					ヨコナデ、ナデ、貼付刻目突帯	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の褐・黒色粒を含む	良好	

第 29 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (21)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
673	S980	甕	口					ヨコナデ、ナデ、貼付刻目突帯	ヨコナデ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の乳白色粒、透明光沢粒を含む	良好	
674	S980	甕	胴～底		(7.2)			工具ナデ、ヨコナデ、指ナデ	指オサエ、ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	黒褐 10 YR 3 / 1	2mm以下の白・赤褐色粒、透明光沢粒を含む	良好	
675	S980	甕	口～胴	(21.4)				ヨコナデ、ナデ、貼付刻目突帯、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ	黄灰 2.5 YR 6 / 1	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の灰・灰白色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
676	S980	甕	口～底近	(25.0)				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	灰黄褐 10 YR 4 / 2	3mm以下の乳白色粒、1mm以下の黒・透明光沢粒を含む	良好	
677	S980	壺	頸～底近				(44.2)	貼付突帯、ミガキ	ナデ、指オサエ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 8	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	9mm以下の灰白・白色粒を含む	良好	
678	S1038	甕	口～胴	(20.8)			(19.5)	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の赤褐・灰・黒色粒を含む	良好	
679	S1038	壺	口～頸	(29.4)				ヨコナデ、ハケメ、ミガキ、暗文	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐・黒・灰・褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
680	S1038	鉢	口～底近	(18.6)			(19.0)	ヨコナデ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰・黒・乳白色粒を含む	良好	
681	S1013	甕	口					ヨコナデ、貼付刻目突帯、ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
682	S606	甕	口～胴	(24.9)				ナデ、指ナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ナデか（風化著しい）	灰白 2.5 YR 8 / 2	灰白 2.5 YR 8 / 2	4mm以下の赤褐・灰・黒・白・乳白色粒、透明光沢粒を含む	良好	内面に植物種子の圧痕がみられる
683	一括	甕	口					ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	5mm以下の褐・灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
685	S4	甕	口～底	(20.4)	3.6	27.9	(21.6)	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ、タタキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
686	S4	壺	口～底	(11.6)	2.7	26.4	20.0	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	5mm以下の灰白・黒色光沢粒を含む	良好	
687	S4	鉢	口～胴	(24.3)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐・灰色粒を含む	良好	
688	S4	鉢	口～底	(18.1)	4.0	(11.0)		ナデ、指オサエ	ナデ、ハケメ、指オサエ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	5mm以下の赤褐・白・灰色粒を含む	良好	内面に銹のような付着物あり
689	S4	高坏	坏	(20.9)				ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
690	S4	鉢	口～底	(10.3)		9.7	10.2	ヨコナデ、ハケメ？、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ？、指オサエ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	7mm以下の乳白・黒灰・灰白・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
691	S4	手捏	口～底	3.8		2.5		指ナデ、指オサエ	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ	褐灰 10 YR 4 / 1	褐灰 10 YR 4 / 1	3mm以下の灰・灰白・乳白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
692	S4	甕	口～底	(13.0)	2.5	15.7	(13.6)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の褐・黒・灰・乳白色、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
693	S5	甕	口～底	(23.0)	5.4	25.5	20.7	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	外面に稲籾の圧痕あり
694	S5	甕	口～底近	(14.7)			14.5	ヨコナデ、ナデ、タタキ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・浅黄橙・褐灰・にぶい褐・黒色光沢粒を含む	良好	
695	S5	鉢	口～底	(9.1)		5.2		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下のにぶい赤褐、褐灰・灰白色粒を含む	良好	
696	S5	鉢	口～底	(9.1)		7.2		指オサエ、工具ナデ、ナデ	指オサエ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・乳白・褐灰・にぶい赤褐・黒色光沢粒を含む	良好	
697	S7	甕	口～胴	(29.0)			(28.9)	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰白・白・褐灰・透明光沢粒を含む	良好	
698	S7	甕	口～胴	(20.3)			(16.7)	工具ナデ、ハケメ、タタキ	工具ナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰褐・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
699	S7	鉢？	口～底	(14.5)	4.3	15.4	(12.4)	ヨコナデ、指オサエ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、指オサエ、ハケメ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の灰白・白・灰褐・にぶい褐・褐灰・浅黄橙色粒を含む	良好	
700	S11	鉢	口～底	10.9		9.4	8.8	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の黒・灰・褐色粒を含む	良好	内面に明赤褐色（鉄分 or マンガン等か？）の付着物あり
701	S7	甕	底		(4.0)			ナデ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰白・乳白・褐灰・灰・にぶい褐色粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり
702	S7	壺？	胴～底				13.4	工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の褐・黒・灰・灰白色粒を含む	良好	両面底部付近に藁状圧痕あり
703	S7	鉢	口	(24.9)				ヨコナデ、ミガキ、指オサエ？	ヨコナデ、ミガキ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の褐・灰・白・黒色粒、3mm以下の透明光沢粒、微細な雲母を含む	良好	

第 30 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (22)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
704	S7	壺	口～底	(21.5)		28.1	(25.1)	ヨコナデ？、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	6mm以下の褐・灰・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
705	S11	甕	頸～胴				(25.5)	ヨコナデ、工具ナデ、タタキ	風化の為調整不明、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい橙 5 YR 6 / 4	4mm以下の褐・灰色粒を含む	良好	
706	S11	壺？	胴～底					タタキ	ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・明赤褐色粒を含む	良好	
707	S11	甕	口～底	19.6	5.9	27.2	22.4	ヨコナデ、タタキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・黒褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
708	S11	甕	口～底	23.3		26.8	21.7	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰白・褐灰・にぶい褐・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
709	S11	甕	胴～底					工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 3	5mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
710	S11	甕	底		3.1			タタキ	ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	4mm以下の褐・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	外面底部に不明？圧痕あり
711	S11	甕	口～胴	(23.8)				ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	4mm以下の灰白・褐灰・にぶい褐色粒を含む	良好	
712	S11	甕	口～胴	(19.0)				ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	指オサエ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の赤褐・灰褐色粒を含む	良好	
713	S11	有孔鉢	胴～底		(4.2)			ナデ、指オサエ、ナデ	ハケメ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の褐・灰色粒を含む	良好	
714	S11	器台	口～胴	(9.4)				ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	1mm以下の褐・白・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
715	S11	壺？	頸～底				(12.6)	タタキ、工具ナデ	工具ナデ、指ナデ	灰黄 2.5 Y 6 / 2	灰黄 2.5 Y 6 / 2	4mm以下の赤褐・褐・灰色粒を含む	良好	
716	S11	鉢	口～胴	(24.6)		(7.4)		ヨコナデ、ミガキ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	明黄褐 10 YR 6 / 6	3mm以下の黒・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
717	S11	高坏	坏	32.0				ナデ、工具ナデ、ハケメ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の黄褐・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	内面に藁の圧痕あり　口縁の黒色物は断面にも付着していることから破損（廃棄）後に付着したとみられる
718	S11	高坏	坏～脚					ハケメ。ヨコナデ、ミガキ、円形透孔	ハケメ、工具ナデ、ナデ、円形透孔	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・白色粒を含む	良好	坏部は周囲を打ち欠く様に脚部にも剥離状の欠損がみられ祭祀等に伴う破砕の可能性が疑われる
719	S11	高坏	脚					工具ナデ、円形透孔	ナデ、円形透孔	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	2mm以下の灰白・褐灰・にぶい赤褐・黒褐色粒を含む	良好	
720	S13	甕	口～胴	(20.4)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・黒褐・褐灰色粒を含む	良好	
721	S13	甕	口～胴	(16.5)			(16.2)	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	灰黄褐 10 YR 5 / 2	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の白・灰白・褐灰・黒褐・暗赤褐・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
722	S13	甕	胴～底		5.1			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の灰白・褐灰・灰褐・にぶい褐・浅黄橙色粒を含む	良好	底部に藁状圧痕あり
723	S13	壺	口～底	9.8		11.7	9.5	ナデ、ハケメ、ミガキ	ナデ、ハケメ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の黒褐・褐灰・赤褐色粒を含む	良好	
724	S13	壺？	胴～底		4.8			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	
725	S13	高坏	脚					風化の為調整不明、透孔	ナデ、透孔	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 5 YR 7 / 6	3mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	
726	S13	高坏	脚					ミガキ、透孔	風化の為不明、透孔	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の灰白・褐灰・にぶい褐・黒褐色粒を含む	良好	
726	S13	高坏	裾		(14.2)			ミガキ？、ナデ	ナデ？	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰白・褐灰・にぶい褐・黒褐色粒を含む	良好	
727	S2001	壺	口～肩	(20.4)				ナデ、櫛描波状文、ハケメ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
728	S2002	甕	口～底	(22.6)	(4.7)	30.6	(24.3)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の灰白・黒褐・褐灰・透明光沢粒を含む	良好	
729	S2002	甕	口～底	(24.0)	(4.2)	(28.5)	(24.4)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・浅黄橙・黒褐・暗褐色粒を含む	良好	
730	S2002	甕	口～頸	(23.2)				ナデ、指オサエ、工具ナデ	ナデ、指オサエ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
731	S2002	甕	胴～底		4.1			工具ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	2mm以下の褐色粒・雲母、微細な透明光沢粒を含む	良好	内面底部に藁状の圧痕あり
732	S2002	甕	胴～底		6.0		21.9	タタキ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の褐・灰褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
732	S2002	甕	口					ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の褐・灰褐・灰色粒を含む	良好	

第 31 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (23)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
733	S2002	鉢	口～底	(18.0)	3.4	8.8		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	橙 5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の灰・白色粒を含む	良好	
734	S2002	鉢	口～底	(14.9)	3.1	14.5		ナデ、指オサエ、工具ナデ	指オサエ、ハケメ、ナデ	にぶい黄褐 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の褐・白・赤褐色粒を含む	良好	
735	S2002	鉢	口近～底		3.2			工具ナデ、ナデ	ナデ、指ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	明褐 7.5 YR 5 / 6	4mm以下の黒褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
736	S2002	鉢	口～底	(8.8)	5.3	10.3		ナデ、工具ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
737	S2002	鉢	頸～底				11.0	ナデ、ミガキ	工具ナデ、ミガキ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
738	S2002	鉢	口～底	9.3		5.8		ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰・白・橙色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり
739	S2002	小型高坏	脚～裾		(4.8)			ミガキ、指オサエ	ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の灰・褐・橙・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
740	S2002	高坏	坏	(30.2)				ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	
741	S2002	高坏	坏	(43.1)				ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	1mm以下の黒・灰・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
741	S2002	高坏	脚					ミガキ、透孔	指ナデ、透孔	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の白・灰白・褐・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
742	S2004	甕	口～胴	(23.5)			(27.1)	ヨコナデ、ハケメ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
743	S2004	鉢	口～底近	(10.7)			(9.4)	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	灰黄 2.5 Y 7 / 2	2mm以下の白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
744	S2004	壺	頸～底		1.5		11.4	工具ナデ、ナデ	指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	1mm以下の白色粒を含む	良好	底部付近は型造りの可能性あり
745	S2004	鉢	頸～底		3.8		(8.3)	ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	5mm以下の褐・灰・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	両面の一部に赤色顔料付着
746	S2004	甕	口～胴	(28.9)			(25.2)	ヨコナデ、ナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の橙・浅黄橙・にぶい橙・灰・黒色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	明赤褐色の付着物あり
747	S2005	壺	頸～胴					風化の為調整不明	風化の為調整不明、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
748	S2005	脚付鉢	胴～脚					工具ナデ、ナデ	ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	浅黄 2.5 Y 7 / 3	3mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	意図的に破損している可能性が高い
749	S2005	鉢	口～底	(10.8)	1.3	9.8	(7.6)	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の灰・褐・赤褐色粒を含む	良好	
750	S2006	甕	口～底	22.7	5.7	29.0	23.1	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、指ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・白・褐・黒色粒を含む	良好	底部付近に圧痕あり
751	S2006	壺	口～胴					ナデ、タタキ	ナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下褐・灰白・白色粒を含む	良好	
752	S2006	高坏	脚～裾		12.6			ミガキ	ミガキ、ナデ、ヨコナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	3mm以下の褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
753	S2006	甕	口～胴	(13.3)			(14.5)	指オサエ、ナデ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の白・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
754	S2006	鉢	口～底	10.9	3.4	7.2		ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい褐 7.5 YR 6 / 4	1mm以下の褐・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
755	S2006	壺	口～胴	(15.2)				櫛描波状文、刻目貼付突帯、風化の為調整不明	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰・褐・黒・白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
756	S2006	鉢	口～底	9.3	1.4	4.5		ナデ、指オサエ、工具ナデ	指オサエ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐色粒を含む	良好	
757	S2006	鉢	口～底	7.5	2.9	5.5	8.1	ヨコナデ、指ナデ	ヨコナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の褐・黒色光沢粒を含む	良好	
758	S2009	甕	口～底	(22.4)	3.3	(28.6)	(22.8)	ヨコナデ、ナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の赤褐・灰・白色粒を含む	良好	
759	S2009	甕	口～頸	(17.4)				ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の灰・褐・黒色粒を含む	良好	
759	S2009	甕	胴～底		3.0			工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 4	5mm以下の灰・褐・黒色粒を含む	良好	内面の頸部付近から底部に褐色の付着物あり
760	S2009	壺	口～底	(10.3)		11.0	10.5	ハケメ、ミガキ	風化の為調整不明	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰白・黒褐・にぶい赤褐・褐灰色粒を含む	良好	
761	S2009	鉢？	胴～底				11.8	ミガキ	ハケメ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	灰 5 Y 4 / 1	2mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
762	S2009	壺	胴～底		1.8		10.4	ミガキ、ナデ	ハケメ、指ナデ、工具ナデ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	1mm以下の灰・白色粒を含む	良好	

第 32 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (24)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
763	S2009	壺	口～胴	(5.8)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の褐灰・にぶい黄橙色粒、黒色光沢粒・透明光沢粒、2mmの高師小僧を含む	良好	
764	S2009	鉢	口～底	(9.5)	1.2	7.0		ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、指ナデ	橙 5 YR 7 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
765	S2009	鉢	口～胴	(36.4)				ヨコナデ、指オサエ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	灰黄 2.5 Y 7 / 2	5mm以下の灰・白・赤褐色粒を含む	良好	
766	S2009	手捏	口～底	4.7		2.8	4.8	ヨコナデ、指オサエ、指ナデ、ミガキ	ヨコナデ、指ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	1mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
767	S2010	壺	頸～底		(6.6)		(47.2)	刻目貼付突帯、工具ナデ	工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の白・灰・黒・赤褐色粒を含む	良好	
768	S2010	甕	口～胴	19.8			20.2	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
768	S2010	甕	底		5.5			ナデ、網代	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
769	S2010	甕	口～胴	(18.4)			(19.1)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・赤褐・白色粒を含む	良好	
769	S2010	甕	底近					工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・赤褐・白色粒を含む	良好	
770	S2010	甕	口～胴	(16.8)			(19.7)	ヨコナデ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・黒褐・にぶい赤褐・褐灰色粒を含む	良好	
771	S2010	壺	口～底近	(8.5)			7.0	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
772	S2010	鉢	頸～底				(8.7)	工具ナデ、ミガキ、ハケメ	ハケメ、指オサエ、ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
773	S2010	手捏	口～底	(5.5)		3.9		指ナデ	指ナデ	灰黄褐 10 YR 5 / 2	灰黄褐 10 YR 5 / 2	1mm以下の白・灰褐・黒色光沢粒を含む	良好	
774	S2010	高坏	坏	(19.0)				ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰白・褐灰・黒褐・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
775	S2010	高坏	脚					ナデ	ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	4mm以下の灰白・赤褐・褐灰・黒褐・黒色光沢粒を含む	良好	
776	S2010	甕	口～胴	26.7			26.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ？	ナデ、ハケメ	橙 5 YR 7 / 8	橙 5 YR 7 / 6	4mm以下の褐・灰・灰白・白色粒を含む	良好	
776	S2010	甕	底		(6.0)			風化の為調整不明	風化の為調整不明	浅黄橙 5 YR 8 / 4	橙 5 YR 7 / 6	4mm以下の褐・灰・灰白・白色粒を含む	良好	
777	S2016	甕	口	(31.3)				ヨコナデ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、風化の為調整不明	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 8	4mm以下の褐・灰・灰褐・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
778	S2016	甕	口					ヨコナデ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の褐・灰・灰白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
779	S2016	甕	底		6.8			風化の為調整不明	風化の為調整不明	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	黒褐 7.5 YR 3 / 1	4mm以下の灰白・橙色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
780	S2016	壺	口～頸	(26.8)				ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、ナデ	にぶい黄 2.5 Y 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
781	S2016	甕	口～底	(17.3)	(2.5)	(23.0)	18.6	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	
782	S2016	甕	口～底	(18.9)	2.5	27.6	21.6	ヨコナデ、タタキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の褐灰・にぶい黄褐・黒褐・褐・灰白色粒を含む	良好	
783	S2016	甕	口～底	22.6	2.2	28.7	22.4	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の暗堰褐・黒・灰白・褐灰・赤褐色粒を含む	良好	長径・短径が 4.5cmも異なる著しいだ円形を呈する　外面胴部中位一部に繊維状の圧痕あり
784	S2016	甕	口～底近	(21.0)	(6.6)		(21.8)	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	4mm以下の褐・黒・灰・灰白色粒を含む	良好	
785	S2016	甕	口～底	17.7			22.6	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
786	S2016	甕	口～底	12.3		32.3	23.3	ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、指オサエ、工具ナデ、指ナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄 2.5 Y 6 / 4	3mm以下の灰・赤褐色粒、高師小僧を含む	良好	
787	S2016	壺	胴～底				(13.1)	ミガキ、ナデ	ハケメ	橙 5 YR 6 / 8	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下の明褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
788	S2010	鉢	口～胴	(11.6)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黄褐 10 YR 6 / 3	2mm以下の赤褐・褐灰・黒褐色粒を含む	良好	
789	S2016	壺	口～底	17.2		50.9	35.6	ヨコナデ、櫛描波状文・工具ナデ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の褐・灰・灰白・黒灰・褐灰色粒を含む	良好	

第 33 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (25)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
790	S2016	甕	胴～底		(5.9)			工具ナデ、指オサエ、ナデ	ハケメ、工具ナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 3	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	6mm以下のにぶい橙・浅黄・灰白・浅黄橙・褐灰色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
790	S2016	甕	頸～胴				(24.1)	工具ナデ	ナデ、ハケメ	にぶい赤褐 2.5 YR 5 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・褐灰・浅黄橙・にぶい橙・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
791	S2016	高坏	口～坏	(22.6)				ハケメ、ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の黒・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
792	S2017	甕	頸～底		4.3		22.5	工具ナデ、ハケメ、ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	黄橙 10 YR 7 / 6	4mm以下の灰白・黒褐・褐灰・にぶい赤褐・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
793	S2017	壺	頸～底				17.1	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 6 / 6	暗灰黄 2.5 Y 5 / 2	3mm以下のにぶい黄橙色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
794	S2017	鉢	口～底	(22.7)	2.6	8.0		ヨコナデ、工具ナデ	風化の為調整不明	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・白・褐・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
795	S2017	鉢	口～底	(18.8)	3.0	9.9		ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	明褐 7.5 YR 5 / 6	3mm以下の褐灰・黒褐・褐灰・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
796	S2017	鉢	口～底	(8.1)	1.9	6.6	(9.2)	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰褐・灰白・黒色光沢粒を含む	良好	
797	S2017	鉢	頸～底				(7.35)	ハケメ、ナデ	ハケメ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・褐灰・褐・黒褐・透明光沢粒を含む	良好	
798	S2017	手捏	口～底	(5.3)	2.4	3.6		指ナデ、指オサエ	指ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の灰白・褐灰・黒褐・にぶい黄橙色粒を含む	良好	
799	S2512	甕	口～胴	(25.1)				凹線、ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰・褐・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
800	S2512	壺？	胴～底		1.8			工具ナデ、ナデ	ナデ、指オサエ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	5mm以下の褐・白・灰白・灰・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
801	S2512	鉢？	胴～底		2.2			ハケメ、ナデ	ナデ、指オサエ、指ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	1mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
802	S3001	甕	口～胴	(25.8)			(26.0)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	にぶい黄褐 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
803	S3001	甕	口～底	23.6	(3.6)	(28.0)	22.9	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、指オサエ、ハケメ、ナデ	明黄褐 10 YR 6 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	3mm以下の褐・白・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
804	S3001	甕	口～胴	(19.5)			(21.2)	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	1mm以下の褐・灰褐色粒を含む	良好	
805	S3001	甕	口～胴	(21.8)			(24.2)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	浅黄 2.5 Y 8 / 4	黄橙 10 YR 8 / 4	7mm以下の褐・灰・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
806	S3001	甕	口～胴	(22.1)			(27.0)	工具ナデ	ハケメ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	淡黄 2.5 Y 8 / 3	4mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	
807	S3001	甕	口～底	19.9		21.4	16.5	ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	灰白 10 YR 8 / 2	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の褐・黒・灰・灰白色粒を含む	良好	外面胴部に藁状圧痕あり
808	S3001	甕	口～底	(18.6)	6.3	(21.8)	(18.5)	指オサエ、ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	
809	S3001	甕	口～胴	17.3			(18.0)	ヨコナデ、ハケメ、タタキ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の赤・褐・白・灰・灰白色粒を含む	良好	
810	S3001	甕	口～底近	17.3			17.4	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	8mm以下の灰黄褐・灰白・褐灰・にぶい褐・灰褐色粒を含む	良好	
811	S3001	甕	口～胴	(15.6)			(15.0)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	5mm以下の灰白・浅黄橙・褐灰・黒色光沢粒を含む	良好	
812	S3001	甕	口～底	(26.2)	3.6	29.7	(27.9)	ヨコナデ、タタキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の褐・灰白・灰・黒色粒を含む	良好	
813	S3001	壺	口～胴	(19.7)				ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指ナデ、指オサエ、	橙 7.5 YR 6 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰白・褐灰・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
814	S3001	壺	口～胴	9.8				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰褐・褐・黒色光沢粒を含む	良好	
815	S3001	壺	口～胴	11.1				ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指オサエ、指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	

第 34 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (26)

No	出土地点	器種	部位	法量 (cm)				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
816	S3001	壺	口～胴	(15.6)				櫛描波状文、工具ナデ、刻目貼付突帯、ナデ	指オサエ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の赤褐・褐灰色粒を含む	良好	
817	S3001	壺	口～胴	13.2				ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ナデ、風化の為調整不明	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
818	S3001	壺	口～胴	12.6				ヨコナデ、工具ナデ、風化の為調整不明	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指オサエ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の灰・褐・黒色光沢粒を含む	良好	
819	S3001	壺	胴～底		5.3		(21.2)	工具ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下のにぶい赤褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	外面胴部に鉄錆付着
820	S3001	壺	底		5.0			ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の白・灰・黒・褐色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
821	S3001	壺	底		(5.3)			ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の褐・灰・白・黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
822	S3001	壺	口～底	(14.4)		(32.9)	22.8	ヨコナデ、櫛描波状文・工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、指オサエ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	8mm以下の灰・黒褐・にぶい赤褐・褐灰・灰白・黒色光沢粒を含む	良好	
823	S3001	甕	口	(19.7)				ヨコナデ、凹線文	ヨコナデ	淡黄 2.5 Y 8 / 3	淡黄 2.5 Y 8 / 3	4mm以下の灰白・にぶい赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	凹線文系土器
824	S3001	高坏	坏					ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
825	S3001	高坏	脚～裾		15.9			ミガキ、竹管文、ヨコナデ	指ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	1mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	1 対の竹管文が脚柱部と裾部に各 4 ヶ所施され、裾部には線刻もみられる
825	S3001	高坏	坏					ヨコナデ、ミガキ	ミガキ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	1mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
826	S3001	不明	脚		12.0			ミガキ、ヨコナデ	ハケメ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の褐・灰白・灰色粒を含む	良好	
827	S3001	高坏	坏～脚	(22.8)				ヨコナデ、風化の為調整不明	風化の為調整不明、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	1mm以下の白・黒色粒を含む	良好	
828	S3001	高坏？	脚		(11.2)			風化の為調整不明	指ナデ、風化の為調整不明	橙 5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰白・褐灰・にぶい褐・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
829	S3001	高坏	坏～脚					ミガキ、ナデ	ミガキ、工具ナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
830	S3001	壺	頸～底		2.0			ミガキ、ナデ	ハケメ、指ナデ、ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	1mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
831	S3001	壺	頸～底				9.9	風化の為調整不明	風化の為調整不明	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	1mm以下の灰白・褐灰色粒を含む	良好	内面に藁状の圧痕あり
832	S3001	壺	頸～底				8.4	ミガキ	ヨコナデ、指ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	1mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
833	S3001	鉢？	胴～底		(2.0)			ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の褐・黒・白・灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	外面胴部に籾圧痕あり
834	S3001	鉢	口～底	(19.3)	(5.3)			ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の淡黄・褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
835	S3001	鉢	口～底	20.1		9.5		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
836	S3001	鉢	口～胴	(17.8)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	淡黄 2.5 Y 8 / 3	灰黄 2.5 Y 7 / 2	2mm以下の灰・褐色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
837	S3001	高坏	坏	(17.7)				風化が著しいがナデ？	風化の為調整不明	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	1mm以下の灰褐・白色粒を含む	良好	
838	S3001	高坏	脚～裾					ナデ	指ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰・白色粒を含む	良好	
839	S3004	甕	口					ヨコナデ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	1mm以下の褐・白・黒色粒を含む	良好	
840	S3004	甕	口	(17.2)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	灰黄褐 10 YR 6 / 3	5mm以下の灰白・褐灰色粒、3mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
841	S3004	甕	胴～底		(4.6)			ハケメ、ヨコナデ、ナデ	指ナデ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	黒 10 YR 2 / 1	3mm以下の灰白・赤褐色粒を含む	良好	
842	S3004	甕	胴～底		(6.5)			ハケメ、指ナデ、指オサエ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	黒 2.5 Y 2 / 1	3mm以下の灰白・黒褐・褐・褐灰色粒を含む	良好	
843	S3004	甕	口～胴	(24.8)				ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、ミガキ、ハケメ	明褐 7.5 YR 5 / 6	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	1mm以下の雲母・灰白色粒を含む	良好	
844	S3004	甕	頸～胴					ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	6mm以下の灰白色粒を含む	良好	
845	S3004	甕	底		7.7			風化の為調整不明、ヨコナデ	風化の為調整不明	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の雲母・灰白・黒褐色粒を含む	良好	

第 35 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (27)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
846	S3007	壺	口～底	11.1		29.6	19.0	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰褐・黒色光沢粒を含む	良好	
847	S3007	壺	頸～底		3.2		(6.3)	ナデ	指オサエ、指ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰・黒・褐・白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
848	S3008	甕	口～胴	(22.2)			(21.2)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
849	S3008	甕	口～胴	19.5			20.7	ヨコナデ、指オサエ、タタキ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	4mm以下の褐・灰・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
850	S3008	甕	口～胴	(17.5)			(14.6)	ナデ	ナデ	にぶい赤褐 5 YR 4 / 6	赤褐 5 YR 4 / 6	4mm以下の灰・白・褐・黒色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
850	S3008	甕	底		3.2			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指オサエ	にぶい赤褐 5 YR 4 / 3	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	5mm以下の灰・白・褐・橙色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
851	S3008	壺	胴～底		4.8			ハケメ、線刻、ナデ、指オサエ	ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	9mm以下の灰・赤褐・白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	外面胴部に線刻文あり
852	S3008	高坏	坏～脚		(14.7)			工具ナデ、ミガキ、ヨコナデ	ナデ、工具ナデ、ヨコナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
853	S3008	鉢	口～胴	(13.5)			(13.0)	ナデ、ハケメ	ハケメ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	2mm以下の白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
854	S3008	壺	口～胴	(9.4)			(9.4)	ヨコナデ、ナデ	ナデ	にぶい黄褐 10 YR 6 / 3	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の褐・白色粒を含む	良好	
855	S3008	鉢	口～底	10.0		6.5		ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の赤褐・白・灰・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
856	S3009	甕	口～底					工具ナデ、ヨコナデ、指ナデ、刻目貼付突帯、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の褐・灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	刻目に布目痕あり
857	S3009	甕	口～胴					ヨコナデ、刻目、刻目貼付突帯、ハケメ	指オサエ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	6mm以下の灰白・微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
858	S3009	甕	口	(16.2)				ヨコナデ、工具ナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
859	S3009	甕	口～底近	(20.4)			(19.0)	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰褐・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
860	S3009	甕	口					ヨコナデ、貼付突帯	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の雲母・黒色光沢粒、微細な灰白色粒を含む	良好	
861	S3009	甕	底		(6.3)			風化の為調整不明	風化の為調整不明	灰黄褐 10 YR 6 / 2	灰黄褐 10 YR 6 / 2	4mm以下の黒・褐灰・褐・灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
862	S3009	高坏	脚					ミガキ	工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の灰白・黒・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	内面裾部に稲籾圧痕あり
863	S3010	壺	口～胴	15.8				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	2mm以下の灰褐・乳白・黒色光沢粒を含む	良好	
863	S3010	壺	胴～底		4.0			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指オサエ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	2mm以下の灰褐・乳白・黒色光沢粒を含む		
864	S3010	壺	頸～胴					ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰褐・褐・乳白色粒を含む	良好	
865	S3010	鉢	口～胴	(12.8)			(12.5)	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の黄灰・灰白・褐灰・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
866	S3010	鉢	頸～底					工具ナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 5 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・褐灰・浅黄橙・黒・黒色光沢粒を含む	良好	
867	S3011	甕	口～底	30.8	4.4	29.4	25.9	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	黄灰 2.5 Y 5 / 1	浅黄 2.5 Y 7 / 4	4mm以下の灰白・灰白・黒褐・褐灰色粒を含む	良好	
868	S3011	甕	頸～底		2.8		(14.3)	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	褐灰 10 YR 6 / 1	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白・灰白・灰黒・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	底部にうずまき状の粘土のつなぎ目あり
869	S3011	甕	口～底近	16.9	(7.8)		(15.5)	ナデ、ハケメ、工具ナデ	ナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の黒褐・灰白・にぶい赤褐・褐灰色粒を含む	良好	
869	S3011		胴部～底部付近		(8.8)			ハケメ、工具ナデ	ハケメ、ナデ				良好	
870	S3011	壺	胴～底		2.8		(38.4)	タタキ、ハケメ	ハケメ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の灰褐・赤褐・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	

第 36 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (28)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
871	S3011	甕	胴～底		4.8			工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰・灰白・黒褐色粒を含む	良好	
872	S3011	壺	胴～底		7.9			工具ナデ、指オサエ	工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の白・赤褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	底部に強い工具痕あり
873	S3011	高坏	坏	(31.9)				ミガキ、ヨコナデ、ハケメ	ミガキ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	微細な透明光沢粒を含む	良好	
875	S3012	甕	口～胴	(25.6)			(26.6)	ヨコナデ、工具ナデ	工具ナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 8	2mm以下の灰褐・黒褐色粒を含む	良好	
876	S3012	甕	底		3.0			工具ナデ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 3	2mm以下の黒色光沢粒、微細な透明光沢粒・褐色粒を含む	良好	
877	S3012	壺	頸～胴				25.2	ヨコナデ、工具ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の赤褐・灰褐色粒を含む	良好	
878	S3012	甕	口～胴	(25.4)			(27.2)	ナデ、指オサエ、工具ナデ	ナデ、指オサエ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	8mm以下の褐・灰・白色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
878	S3012	甕	底		3.2			工具ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	4mm以下の褐・白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
879	S3014	甕	口～底		2.6	15.3	(13.7)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・褐・白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
880	S3014	壺	胴～底		6.6		(23.1)	工具ナデ、ナデ	風化の為調整不明	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の灰褐・赤褐・白色粒を含む	良好	
881	S3014	壺	底					タタキ	ナデ、工具痕	褐 7.5 YR 4 / 3	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	2mm以下の灰白・黒色光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり
882	S3014	高坏	坏	(19.2)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	4mm以下の灰・白・黒・褐色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
883	S3015	甕	口～胴	(25.2)			(26.7)	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	4mm以下の灰・褐・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
884	S3015	甕	口～胴	(24.0)				ヨコナデ、ナデ、タタキ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	3mm以下の灰白・黒・褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
884	S3015	甕	底		3.5			工具ナデ、ナデ	ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	明褐 7.5 YR 5 / 8	5mm以下の灰白・黒・褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む		
885	S3015	甕	口～胴					ヨコナデ、ナデ、タタキ、工具ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 5 YR 7 / 6	2mm以下の灰・白・黒・褐・微細な透明光沢粒を含む	良好	
886	S3015	壺	頸～底		4.8		7.8	工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰・褐・白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	底部中央に桃核状の圧痕
887	S3015	鉢	口～胴	(15.7)				ヨコナデ、指オサエ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の白・黒・褐・橙・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
888	S3015	高坏	坏	19.2				ヨコナデ、ナデ？	ヨコナデ、ナデ？	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	3mm以下の灰・黒・白・褐・橙色粒を含む	良好	
889	S3015	高坏	脚					風化の為調整不明、ミガキ？	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・褐灰・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
890	S3015	高坏	脚		(15.3)			風化の為調整不明	指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰白・にぶい赤褐・褐灰・黒褐色粒を含む	良好	
891	S3334	甕	口～胴	(20.2)				ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、指ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の灰白・黒褐・にぶい赤褐・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
892	S3334	甕	底		(8.1)			工具ナデ、指オサエ、ナデ、指ナデ	指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・褐灰・浅黄橙色粒を含む	良好	
893	S3334	甕	胴～底		6.0			ナデ、ヨコナデ	風化の為調整不明	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄 2.5 Y 6 / 3	6mm以下の灰白・黒褐・にぶい赤褐・褐・黒褐・透明光沢粒を含む	良好	
894	S3334	壺	口	(27.1)				刻目（布目痕）、ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の灰白・褐灰・にぶい赤褐色粒を含む	良好	刻目に布目痕あり
895	S3335	甕	口～胴	(31.7)				ナデ、刻目貼付突帯、ハケメ？	風化の為調整不明	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の灰褐・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
895	S3335	甕	胴～底		7.3			ナデ	指オサエ、ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の灰褐・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
896	S3335	甕	口	(19.2)				ナデ、工具ナデ、刻目貼付突帯、ハケメ、ヨコナデ	工具ナデ	黒 10 YR 2 / 1	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の灰白・黒褐・透明光沢粒を含む	良好	

第 37 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (29)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
897	S3335	甕	口					ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	灰黄褐 10 YR 5 / 2	灰黄褐 10 YR 4 / 2	2mm以下の灰白・赤褐・白・黒色光沢粒を含む	良好	
898	S3335	甕	口～頸	20.6				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の灰・白・黒・褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
899	S3335	甕	口～胴	(21.9)			(19.8)	ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、ヨコナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰・白・褐・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
900	S3336	甕	口	(29.6)				ヨコナデ、刻目貼付突帯（ハケ）、ハケメ	ハケメ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	3mm以下の浅黄・褐・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
901	S3000	甕	口	(28.5)				ヨコナデ、刻目（ハケ）、穿孔、刻目貼付突帯（ハケ）、ハケメ	ヨコナデ、穿孔、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	3mm以下の褐・灰・白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
902	S3000	甕	口～底	28.5	5.9	34.0		ヨコナデ、ナデ、刻目貼付突帯、ハケメ、ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	明赤褐 5 YR 5 / 6	6mm以下の白・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
903	S3000	甕	口～胴	(23.7)				ヨコナデ、貼付突帯、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	淡黄 2.5 Y 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	3mm以下の灰・褐・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
904	S3000	壺	口～胴	(282)			(37.0)	刻目、ヨコナデ、ハケメ、ミガキ、貼付突帯	ミガキ、ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ、指ナデ、ナデ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	5mm以下の灰褐・乳白色粒を含む	良好	
905	S3000	甕	口～胴	(22.8)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、刻目痕、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	灰褐 7.5 YR 4 / 2	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	2mm以下の灰白・褐・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
906	S3000	甕	口～胴	18.5				ヨコナデ、貼付突帯、ナデ	ヨコナデ、指オサエ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の白・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
907	S3000	甕	底		7.1			風化の為調整不明、ナデ	指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	灰黄 2.5 Y 7 / 2	2mm以下の褐・灰・白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
908	S3000	大甕	口～底近	(70.0)				ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	3mm以下の雲母・橙・灰白・浅黄橙・黒色粒、透明光沢粒を含む	良好	
909	S2502	壺	頸～底				14.5	ミガキ	ミガキ、ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰・白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
910	S2502	壺	口～底	9.5	2.6	9.2	11.2	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	4mm以下のにぶい褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
911	S3095	壺	口～底近	12.2			(20.6)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ？	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰褐・乳白・黒色光沢粒を含む	良好	
912	S3100	甕	口～底	(18.5)	(4.3)	(18.9)	(17.3)	ヨコナデ、工具ナデ。ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の灰・淡黄・黒色光沢粒を含む	良好	
913	S3003	甕	口～底近	27.8				ヨコナデ、刻目貼付突帯、刻目、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
914	S3003	甕	口～胴	(20.3)				ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰白・褐灰・にぶい褐色粒を含む	良好	
915	S3003	甕	口～胴	(23.2)			(23.4)	ヨコナデ、ハケメ、ミガキもしくは工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキもしくは工具ナデ	灰黄褐 10 YR 6 / 2	明黄褐 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・白・灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
916	S3003	甕	口					ナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の白・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
917	S3003	甕	口～胴	(26.8)				ナデ、指オサエ、刻目貼付突帯	ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の灰白・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
918	S3003	壺	胴					貼付突帯、風化の為調整不明	風化の為調整不明	灰黄 2.5 Y 6 / 2	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の白・明褐灰・灰白・浅黄橙・褐灰色粒を含む	良好	
919	S3003	甕	底		6.2			工具ナデ、ヨコナデ、ナデ	指オサエ	にぶい黄 2.5 Y 6 / 4	黄褐 2.5 Y 5 / 3	8mm以下の灰白・暗灰色粒を含む	良好	
920	S3003	甕	底		7.5			ハケメ、ヨコナデ	工具ナデ、指オサエ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	黄灰 2.5 Y 5 / 1	3mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
921	S3003	甕	底		6.1			ヨコナデ、ナデ	指ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	灰黄褐 10 YR 4 / 2	3mm以下の黒色光沢粒、微細な灰白色粒を含む	良好	
922	S3003	壺	頸					ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ハケメ、指オサエ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の灰褐・乳白色粒を含む	良好	
923	S3003	壺	底		(6.7)			風化の為調整不明、ナデ	風化の為調整不明	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	灰 5 Y 6 / 1	3mm以下の灰・褐色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
924	S3003	壺	頸～胴				(18.7)	ハケメ、ミガキ	指オサエ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	灰黄 2.5 Y 7 / 2	4mm以下の褐・灰・白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	

第 38 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (30)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
925	S3003	壺	頸～底		5.0		19.6	ミガキ	指オサエ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	2mm以下の灰白・褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
926	S3003	大甕	口	(67.9)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の褐・灰・灰白・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
927	S3003	大甕	口～底近	(49.1)				ヨコナデ、指オサエ、指ナデ、ナデ、貼付突帯、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	4mm以下の浅黄橙・灰白・褐灰・褐・黒褐・雲母色粒を含む	良好	
928	C17Gr	高坏	坏	(14.8)				ミガキ	ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の赤・灰白・透明光沢粒を含む	良好	搬入品の可能性
929	I323Gr	甕	口					ナデ	ナデ	黒褐 2.5 Y 3 / 1	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	黒髪式系
930	ゥ 33Gr	壺	肩					ナデ、沈線	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰・灰白・明赤褐色粒を含む	良好	
931	E16Gr	高坏	坏					ナデ、透孔	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
932	S10	甕	口～胴	22.3				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰・褐・灰白・白色粒を含む	良好	
933	S9	甕	口～胴	(16.6)				ヨコナデ、ハケメ？	ヨコナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 8	4mm以下の暗褐・明褐・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
934	S9	甕	胴					ハケメ	ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	灰黄 2.5 Y 6 / 2	8mm以下の灰白・にぶい橙色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
935	S9	壺	口	(26.7)				ヨコナデ	ヨコナデ	赤 10 R 5 / 6	赤 10 YR 5 / 6	2mm以下の灰白・浅黄橙色粒を含む	良好	両面丹塗り
936	S10	壺	口	(23.8)				ナデ、刺突列点文、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄褐 10 YR 4 / 3	明褐 7.5 YR 5 / 6	5mm以下の灰白・明赤褐・暗褐色粒を含む	良好	
937	S9	壺	口～頸	(22.9)				ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	明黄褐 10 YR 6 / 6	3mm以下の褐・灰白・黒色粒を含む	良好	
938	S9	壺	頸					工具ナデ、ハケメ、刻目貼付突帯、ミガキ	ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	褐灰 7.5 YR 4 / 1	2mm以下の褐・白・褐灰色粒を含む	良好	
939	S9	壺	胴				(33.8)	貼付突帯、ミガキ	ハケメ、ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	6mm以下の明赤褐・灰白色粒を含む	良好	
940	S9	壺	底部		9.4			ハケメ、ミガキ	ハケメ、指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	2mm以下の褐・白・灰白色粒を含む	良好	
941	S101	壺	口	(19.0)				ヨコナデ、ミガキ（暗文）	ヨコナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	1mm以下の白・黒色粒を含む	良好	口縁部外面にミガキによる暗文がみられる
942	S101	壺	口	(18.0)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	4mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
943	S103	甕	口～頸	(23.0)				ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 8	2mm以下の乳白・黒色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
944	S103	甕	頸～胴				(22.6)	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	10mm以下の褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
945	S102	甕	胴～底		3.7			工具ナデ、ナデ	工具ナデ	灰黄 2.5 YR 7 / 2	黒褐 2.5 YR 3 / 1	2mm以下の灰・乳白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	内面に炭化物付着
946	S102	甕	口～頸	(18.7)				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
947	S103	甕	胴～底					工具ナデ、ナデ	工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の乳白・灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
948	S102	壺	口	(19.2)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の白色粒を含む	良好	
949	S102	壺	頸					工具ナデ	ナデ、指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の白・褐・灰・黒色粒を含む	良好	
950	S103	壺	頸					櫛描波状文、ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の黒・透明光沢粒を含む	良好	
951	S103	壺	底部		4.3			指ナデ、指オサエ、工具ナデ	工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
952	S102	高坏	坏					ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰・褐・乳白色粒を含む	良好	
953	S102	高坏	坏	(21.2)				ナデ、ミガキ	工具ナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下のにぶい褐・灰白・灰褐色粒を含む	良好	
954	S102	高坏	裾		(10.1)			矢羽透かし、凹線、ナデ	工具ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰・赤褐・乳白色粒を含む	良好	凹線文系
955	S102	鉢	口～胴	(23.0)				ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	淡黄 2.5 Y 8 / 3	淡黄 2.5 Y 8 / 3	1mm以下の乳白色粒を含む	良好	
956	S102	鉢	口～底	12.0	4.4	10.2	12.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	

第 39 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (31)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
957	S105	甕	口～底	(19.3)			21.2	工具ナデ、指オサエ	工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	
958	S105	壺	口～胴	(10.6)			17.4	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	4mm以下の褐・灰白・青灰・灰・白色粒を含む	良好	
959	S105	壺	口	(14.4)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 7 / 6	2mm以下の赤褐・白・灰色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
960	S105	鉢	口～胴	(19.5)			(18.0)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	5mm以下の灰・赤褐・白色粒を含む	良好	
961	S105	器台？	口					凹線文、ミガキ	ヨコナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	凹線文系
962	S106	甕	口～胴	(28.0)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 3	6mm以下の灰黄・黒・灰白・褐色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
963	S106	甕	口～底	(23.0)	(4.7)			ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	灰白 10 YR 8 / 2	4mm以下の白・乳白・灰・褐色粒を含む	良好	
964	S106	甕	口～底近	(18.5)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	2mm以下の乳白・灰色粒を含む	良好	
965	S106	甕	口～胴	(27.5)				ナデ、ヨコナデ、ハケメ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	8mm以下の灰白・灰色粒を含む	良好	
966	S106	甕	口～胴	(21.1)				ヨコナデ、ナデ、刻目貼付突帯	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 8	4mm以下の灰・褐・黒色粒、透明光沢粒を含む	良好	
967	S106	甕	口	(29.2)				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の赤褐・灰色粒、透明光沢粒を含む	良好	
968	S106	甕	口～胴	(23.9)				ナデ、ヨコナデ、ハケメ	ナデ、ヨコナデ	灰白 2.5 Y 8 / 2	灰白 2.5 Y 8 / 2	2mm以下の灰白・赤褐・淡赤橙色粒、黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
969	S106	甕	底部		6.4			ナデ、ヨコナデ	指ナデ	淡赤橙 2.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の灰白・灰・乳白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
970	S106	大甕	口～底	(50.0)	9.9			ヨコナデ、指ナデ、貼付突帯、ハケメ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、指ナデ、ハケメ、ミガキ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・乳白・褐色粒を含む	良好	両面に圧痕あり
971	S106	甕	口～底	(19.9)	(9.6)	29.0	(23.8)	ヨコナデ、貼付突帯、ミガキ？、ハケメ	ヨコナデ、ミガキ、指ナデ	黒褐 10 YR 3 / 1	にぶい黄褐 10 YR 6 / 3	5mm以下の灰褐・白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
972	S106	壺	口	(6.0)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の褐・白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
973	S106	壺	口					ヨコナデ、刻目、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	2mm以下の赤・白色粒を含む	良好	
974	S106	壺	口	(27.4)				ヨコナデ、鋸歯文	ヨコナデ、円形浮文	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の乳白・灰・赤褐色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
975	S106	壺	口	(25.3)				ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ	灰白 2.5 Y 8 / 2	灰白 2.5 Y 8 / 2	3mm以下の赤褐・灰色粒、黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
976	S106	壺	口～底	20.2	7.3			ヨコナデ、ハケメ、ナデ？、工具ナデ	ハケメ、ナデ？、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	灰白 10 YR 8 / 2	4mm以下の赤褐・黒・灰・乳白・白色粒を含む	良好	内面に圧痕？あり
977	S107	甕	口～底	(21.2)	6.5	33.0	22.4	工具ナデ、指オサエ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 8	5mm以下の灰・褐・黒・白・赤・明赤褐・白褐色混粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
978	S107	甕	口～底	(23.0)	(6.3)	28.1	(23.1)	工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の褐・灰色粒を含む	良好	
979	S107	甕	口～底近	(16.8)			(15.4)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	9mm以下の褐灰・白・灰白・灰・黒色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
980	S107	壺	口～胴	(9.8)			(12.4)	ナデ	風化の為調整不明	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・白・赤褐色粒を含む	良好	
981	S107	鉢	口～胴	(23.2)				指オサエ、工具ナデ、ミガキ	指オサエ、工具ナデ、ハケメ	明黄褐 10 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の暗褐・灰色粒を含む	良好	
982	S107	鉢	口～底	24.6	4.0	11.5		工具ナデ、ナデ？	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の灰褐・赤褐・白色粒を含む	良好	
983	S107	鉢	口～底	(14.9)	6.0	14.3	(15.3)	工具ナデ、櫛描波状文、ハケメ、ヨコナデ	ナデ、ハケメ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明褐 7.5 YR 5 / 6	4mm以下の黄・褐・黒・白色粒を含む	良好	
984	S108	甕	口～底	28.1	4.7	30.0	27.1	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	5mm以下の白・灰白・浅黄色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	

第 40 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (32)

No	出土地点	器種	部位	法量 (cm)				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
985	S108	甕	口～胴	(24.1)			(22.5)	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	工具ナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	
986	S108	甕	口～底	22.3	3.6	31.0	25.6	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ？	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	6mm以下の灰白・黒褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
987	S108	甕	口～胴	(21.0)			(21.5)	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・赤褐色粒を含む	良好	
988	S108	甕	口～底	20.6		27.6	(23.8)	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰・赤褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
989	S108	甕	口～底	(20.4)	4.3	28.5	22.3	ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 3	10mm以下の乳白・赤褐・明赤褐・灰・黒色粒を含む	良好	
990	S108	甕	口～胴	(20.0)			(19.3)	工具ナデ、指オサエ	ハケメ、指オサエ、工具ナデ、ケズリ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の白・赤褐色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
991	S108	鉢？	口	13.1				ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰白・赤褐・黒褐色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
992	S108	壺	頸～底				10.7	ヨコナデ、ミガキ	工具ナデ、ミガキ、ナデ、指ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の赤褐・褐・灰・白色粒を含む	良好	
993	S108	鉢	口～底	(6.5)	2.7	6.0		指オサエ、ナデ	指オサエ、指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	5mm以下の褐・黒・白色粒を含む	良好	
994	S108	鉢	口～底	(11.0)		17.4	15.1	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の灰・乳白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
995	S108	手捏	口～底	5.3		3.0		指ナデ、指オサエ	指オサエ	浅黄 2.5 Y 7 / 4	灰黄 2.5 Y 6 / 2	3mm以下の灰・乳白・褐色粒を含む	良好	
996	S108	高坏	坏	(40.7)				ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の赤褐・白・灰色粒を含む	良好	
997	S108	高坏	坏～裾	32.9	(16.8)			風化の為不明	ミガキ？、風化の為不明	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・褐・灰白色粒を含む	良好	
998	S108	高坏	坏	29.3				ヨコナデ、ミガキ	ミガキ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の白・灰・褐色粒を含む	良好	
999	S108	高坏	坏	(35.0)				ナデ、ヨコナデ、ハケメ、ミガキ、暗文	ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・褐色粒を含む	良好	
1000	S108	高坏	脚部					ミガキ、透孔	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の褐灰・灰白・淡黄・明褐色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1001	S108	高坏	裾		(19.0)			ミガキ、透孔、ミガキ、ナデ	ミガキ、透孔、ヨコナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の褐・灰・乳白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	ミガキ後何かを塗ってる？
1002	S109	壺	口	(24.8)				ナデ、ヨコナデ、櫛描波状文、ハケメ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の赤褐・灰・白・明赤褐色粒を含む	良好	
1003	S109	鉢	口～胴	(22.1)				ナデ、ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	2mm以下の透明光沢粒、1mm以下の白・赤褐・黒色光沢粒を含む	良好	
1004	S109	鉢	頸～胴				(15.0)	ミガキ	ミガキ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	灰黄 2.5 Y 6 / 2	5mm以下の灰・褐・乳白色粒を含む	良好	
1005	S109	鉢	胴～底		3.5			ナデ、指オサエ	工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐・灰・褐色粒を含む	良好	
1006	S109	鉢	口～底	10.9	2.8	6.1		ヨコナデ、指ナデ、爪による圧痕	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の乳白・白・灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	内面一部に圧痕か？
1007	S108	鉢	底部		(6.5)			ミガキ、指オサエ、ナデ	ミガキ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の灰・黒・白色粒を含む	良好	
1008	S109	鉢	胴～脚		(11.5)			ハケメ、ヨコナデ	ハケメ、指ナデ、ヨコナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	灰黄 2.5 Y 6 / 2	5mm以下の灰・白・褐色粒を含む	良好	
1009	S110	甕	口～底近	(22.3)			(21.5)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 5 / 2	6mm以下の灰・褐・乳白色粒を含む	良好	
1010	S110	甕	口～底	17.0	3.5	21.7	17.9	ナデ、指オサエ、指ナデ	ナデ、ハケメ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 3	6mm以下の白・灰白・褐・暗褐・黒灰色粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	
1011	S110	甕	口～底	18.9	(3.9)	22.9	18.0	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	指オサエ、指ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の白・灰・黒・乳白色粒、1mm以下の赤色粒、透明光沢粒を含む	良好	外面底部圧痕あり？種？
1012	S110	甕	胴～底		(7.0)			ナデ、指オサエ、指ナデ	指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐・灰・白色粒を多く含む	良好	
1013	S110	鉢	胴～底		3.2			ナデ、指オサエ	工具ナデ、指ナデ	黄橙 7.5 YR 8 / 8	橙 7.5 YR 6 / 8	4mm以下の灰白・白・褐・灰色粒を含む	良好	
1014	S110	甕	胴～底		2.5			工具ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・褐・乳白色粒を含む	良好	

第 41 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (33)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1015	S110	鉢	口～底	19.6	8.1	19.0	20.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指オサエ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	明黄橙 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰・褐・乳白色粒を含む	良好	
1016	S110	壺	口～胴	10.1			(20.0)	ヨコナデ、櫛描波状文、ナデ	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	6mm以下の灰褐・乳白色粒を多く含む	良好	
1017	S110	鉢	口～胴	(23.0)				ヨコナデ、ミガキ	ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の灰・橙・乳白色粒を含む	良好	
1018	S110	鉢	口～胴	(17.6)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の白・灰・褐色粒を含む	良好	
1019	S110	壺	口～頸	11.0				ヨコナデ、ハケメ	ハケメ、指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・白・橙・灰・灰白色粒を含む	良好	
1020	S110	壺	胴～底		(4.0)			タタキ後工具ナデ、ナデ	指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	3mm以下の赤褐・褐・灰・黒・乳白色粒を多く含む	良好	
1021	S110	鉢	口～底	(10.0)	(3.3)	4.5		工具ナデ、ナデ、圧痕	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	4mm以下の灰・赤褐・乳白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	外面底部に桃核状の圧痕？あり
1022	S110	高坏	坏					ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄橙 10 YR 7 / 6	3mm以下の灰・灰白・白・褐色粒を含む	良好	
1023	S112	壺	口近～胴				(15.6)	櫛描波状文、ミガキ	ハケメ、指オサエ、指ナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 8	3mm以下の褐・灰・黒・乳白色粒を含む	良好	
1024	S112	鉢	口～底	(15.6)		12.1		工具ナデ、ナデ	指オサエ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	
1025	S112	鉢	口～底	5.5				指オサエ、指ナデ	指オサエ、指ナデ	褐灰 7.5 YR 4 / 1	灰褐 7.5 YR 4 / 2	3mm以下の黒・灰・乳白色粒を含む	良好	
1026	S112	鉢？	底部		3.1			ナデ、	工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の白・灰・褐・黒色粒を含む	良好	
1027	S112	高坏	脚柱部					ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の黒褐・赤褐色粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	
1028	S113	甕	口～底	(25.9)	(2.5)	(31.1)	(25.7)	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	6mm以下の白・灰・灰黒・灰褐・褐色粒を含む	良好	
1029	S113	甕	底部		(7.0)			ヨコナデ、ナデ	ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	黒褐 10 YR 3 / 1	4mm以下のにぶい黄褐・灰黄褐・灰白色粒を含む	良好	
1030	S113	鉢？	底部		3.7			ナデ	工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	黒褐 10 YR 3 / 1	5mm以下の赤褐・灰白・暗灰黄色粒を含む	良好	
1031	S114	甕	口～胴	(36.1)				ヨコナデ、ナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、風化の為不明	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の灰褐・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1032	S114	甕	口～胴	(21.2)				ヨコナデ、ナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	工具ナデ、ハケメ	明黄褐 10 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・黄褐色粒をわずかに含む	良好	
1033	S114	甕	口～胴	(20.2)				ヨコナデ、ナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	1mm以下の灰白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
1034	S115	甕	口～胴	(25.1)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄 2.5 YR 6 / 3	3mm以下の灰・黒色粒を含む	良好	
1035	S115	甕	口～胴	(22.4)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ナデ	ナデ	暗灰黄 2.5 YR 5 / 2	浅黄 2.5 YR 7 / 3	2mm以下の灰・乳白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1036	S115	甕	口～胴	(20.6)				ヨコナデ、ハケメ	ナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 8	2mm以下の褐・灰・乳白色粒を含む	良好	外面一部に穿孔の途中もしくは圧痕状の円形のくぼみあり
1037	S115	壺	口	(30.7)				ヨコナデ、ナデ	ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	1mm以下の灰・白・乳白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1038	S115	高坏	裾		(20.2)			ミガキ	風化著しい	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の黒・灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1039	S116	壺	口～底	(11.5)		14.9	13.5	ヨコナデ、ナデ、タタキ後工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	暗灰黄 2.5 Y 4 / 2	3mm以下の灰白・黒褐・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1040	S116	鉢	口～胴	(11.3)				ヨコナデ、工具ナデ	ハケメ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の乳白・橙色粒、透明光沢粒を含む	良好	
1041	S116	高坏	裾部		(19.7)			透孔、ミガキ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	1mm以下の灰白色粒を少量含む	良好	
1042	S117	甕	口～胴	(25.1)				ヨコナデ、ナデ？、指オサエ	ナデ、指オサエ	明黄褐 2.5 Y 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白・灰白、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1043	S117	高坏	坏	(32.0)				ナデ、工具ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の灰・乳白色粒を含む	良好	
1044	S118	壺	口～頸	(11.8)				ナデ	指オサエ、ナデ	明黄褐 10 YR 6 / 6	浅黄 2.5 Y 7 / 4	1mm以下の灰白・暗灰黄色粒を含む	良好	
1045	S118	壺	底部		(2.7)			工具ナデ、ナデ	ハケメ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	

第 42 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (34)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1046	S118	鉢？	胴～底		(4.2)			指ナデ、指オサエ	指ナデ	橙　5 YR 6 / 6	にぶい黄橙　10 YR 7 / 4	2mm以下の褐灰・灰白・にぶい黄橙色粒を含む	良好	
1047	S118	鉢？	底部		(3.6)			ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙　10 YR 7 / 4	にぶい橙　7.5 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1048	S118	壺	胴～底		5.1			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指オサエ、指ナデ	浅黄　2.5 Y 7 / 3	浅黄　2.5 Y 7 / 3	3mm以下の灰白灰色混粒・白・灰・褐色粒を含む	良好	
1049	S118	壺	胴～底		6.9			指オサエ	指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	5mm以下のにぶい赤褐・灰・赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1050	S118	壺	胴～底		(8.2)			工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙　10 YR 7 / 4	にぶい黄橙　10 YR 7 / 4	4mm以下のにぶい黄橙・にぶい黄褐、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1051	S119	甕	口～胴	(30.7)				ヨコナデ、刻目、刻目貼付突帯、ヨコナデ、ハケメ	ナデ	にぶい褐　7.5 YR 5 / 3	にぶい褐　7.5 YR 5 / 4	5mm以下の乳白色粒を含む	良好	
1052	S119	甕	口～胴	(21.6)				ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい黄橙　10 YR 7 / 3	橙　5 YR 7 / 6	5mm以下の褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
1053	S119	甕	口～胴	(21.0)				ヨコナデ、ハケメ	ナデ？風化著しい	橙　5 YR 7 / 6	橙　5 YR 7 / 6	4mm以下の灰・褐・乳白色粒を含む	良好	
1054	S119	甕	底部		(5.0)			ナデ	指オサエ、指ナデ	浅黄　2.5 Y 7 / 3	にぶい黄褐　10 YR 5 / 3	5mm以下の黄灰・にぶい赤褐・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1055	S119	甕	底部		(7.2)			ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙　10 YR 7 / 4	にぶい黄橙　10 YR 6 / 4	3mm以下の褐色粒を含む	良好	
1056	S119	壺	底部		(5.2)			ミガキ、ナデ	ハケメ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ	黄橙　7.5 YR 7 / 8	黄橙　10 YR 8 / 6	2mm以下の褐・黄褐・灰白色粒を含む	良好	
1057	S119	壺	口	(28.8)				ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙　7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	2mm以下の褐・灰・黒褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1058	S119	壺	口	(17.0)				ヨコナデ、赤色顔料塗布	ヨコナデ、赤色顔料塗布	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	微細な黒色光沢粒を含む	良好	内外面に赤色顔料の塗布がみられる
1059	S119	壺	口	(26.2)				ヨコナデ、刻目	ヨコナデ	橙　5 YR 6 / 6	にぶい黄橙　10 YR 5 / 2	3mm以下の褐灰・浅黄・橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1060	S119	大甕	口～胴	(41.2)				ヨコナデ、貼付突帯	ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	明赤褐　5 YR 5 / 8	明赤褐　5 YR 5 / 8	5mm以下の灰白色粒、雲母粒を含む	良好	
1061	S20	鉢？	頸～底		(7.5)			ヨコナデ	ミガキ	にぶい黄橙　10 YR 6 / 3	にぶい黄橙　10 YR 6 / 4	5mm以下の白・灰・赤褐色粒・透明光沢粒を含む	良好	
1062	S120	甕	胴～底		4.7			ハケメ、指ナデ、ナデ	工具ナデ、指ナデ	黄褐　10 YR 5 / 6	にぶい黄橙　10 YR 6 / 4	1mm以下の灰白・黒色粒、透明光沢粒を含む	良好	
1063	S120	甕	胴～底		4.8			ナデ	ナデ？	にぶい黄橙　10 YR 6 / 3	にぶい黄橙　10 YR 7 / 4	4mm以下の赤褐・白・灰色粒、3mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1064	S120	甕？	胴～底		6.5			風化の為不明	ナデ	橙　7.5 YR 7 / 6	灰黄　2.5 Y 6 / 2	3mm以下の褐灰色粒を含む	良好	
1065	S120	甕	胴～底		3.4			ナデ？、工具ナデ、指ナデ、指オサエ	風化著しい為調整不明	にぶい黄橙　10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・明赤褐・白色粒を含む	良好	
1066	S120	甕	底部					工具ナデ	工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 3	黒　7.5 YR 2 / 1	4mm以下の明赤褐・灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1067	S120	甕	底部					指ナデ、指オサエ、工具ナデ	指ナデ、指オサエ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	黒褐　10 YR 3 / 1	5mm以下の明赤褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
1068	S120	甕	口	(25.6)				ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙　10 YR 7 / 4	にぶい黄橙　10 YR 7 / 4	1mm以下の明褐・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1069	S120	鉢	口～胴	(24.6)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙　7.5 YR 7 / 4	にぶい橙　7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰・乳白・赤褐色粒を含む	良好	
1070	S120	鉢	口	(20.0)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙　7.5 YR 6 / 4	にぶい赤褐　5 YR 4 / 3	3mm以下の赤褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
1071	S120	鉢	口～胴	(22.0)				ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ナデ、ハケメ	橙　7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙　10 YR 7 / 4	2mm以下の黒・灰白・褐色粒を含む	良好	
1072	S120	壺	口	(18.6)				ヨコナデ、鋸歯文、ナデ	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の灰・褐・黒灰色粒を含む	良好	
1073	S120	壺	口	(15.6)				ナデ、鋸歯文、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の灰・黒・乳白・赤褐色・明赤褐色粒を含む	良好	
1074	S120	壺	口～頸	(22.6)				櫛描波状文、ヨコナデ、工具ナデ、刻目貼付突帯	指ナデ、ナデ、指オサエ、指ナデ	にぶい橙　7.5 YR 7 / 4	黄橙　10 YR 8 / 6	4mm以下の灰・褐・乳白色粒を含む	良好	
1075	S120	壺	口～頸	(15.0)				ナデ、櫛描波状文、ヨコナデ、ハケメ	ナデ、ヨコナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の乳白・赤褐・灰色粒、黒色光沢粒を含む	良好	

第 43 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (35)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1076	S120	壺	胴～底		7.0			工具ナデ、指ナデ、ナデ、指オサエ	ハケメ？ナデ？風化の為不明	灰黄 2.5 YR 7 / 2	褐灰 10 YR 6 / 1	4mm以下の明黄褐・灰白・褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり
1077	S120	壺	底部		4.1			ナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	黒褐 10 YR 3 / 1	5mm以下の灰白・灰・褐・白褐混粒・白色粒を含む	良好	
1078	S120	鉢	口～底	(11.9)	2.2	9.1	(7.2)	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ、ナデ	オリーブ黒 7.5 Y 3 / 1	オリーブ黒 10 Y 3 / 1	4mm以下の灰色粒を含む	良好	
1079	S120	鉢	口～底	(10.0)	1.0	7.6	7.3	ナデ	風化の為不明	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の灰白・褐・灰・白・黒色粒を含む	良好	
1080	S120	鉢？	胴～底		3.0			ナデ	ナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の乳白・黒・灰色粒を含む	良好	外面底部・断面に赤色顔料の塗布がみられる
1081	S120	鉢	胴～底		3.4			風化著しい為調整不明	工具ナデ、指オサエ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	褐灰 7.5 YR 6 / 1	3mm以下の灰・赤褐色粒を含む	良好	
1082	S121	壺	口	(40.0)				工具ナデ、ミガキ	工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 8	2mm以下の灰・乳白色粒、透明光沢粒を含む	良好	
1083	S121	壺	口～頸	(28.9)				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 3	浅黄橙 7.5 YR 8 / 3	2mm以下の乳白色粒を含む	良好	
1084	S121	壺	口	(26.2)				ヨコナデ、暗文	ヨコナデ、ナデ	褐灰 7.5 YR 5 / 1	灰褐 7.5 YR 5 / 2	3mm以下の乳白色粒を含む	良好	
1085	S121	壺	口	(30.2)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ	赤 10 R 4 / 6	赤 10 R 4 / 6	1mm以下の灰白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
1086	S121	壺	口					工具ナデ、刻目	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 4	1mm以下の灰・乳白色粒を含む	良好	
1087	S121	壺	口	(18.5)				工具ナデ	ナデ、円形浮文	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	1mm以下の灰・黒色粒、透明光沢粒を含む	良好	
1088	S121	壺	口	(20.2)				刻目、ナデ	ナデ	にぶい褐 75 YR 5 / 3	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	1mm以下の乳白・灰色粒を含む	良好	
1089	S121	壺	頸					貼付突帯、ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	指オサエ	黄灰 2.5 Y 4 / 1	にぶい黄 2.5 Y 6 / 3	2mm以下の褐・灰白色粒を含む	良好	
1090	S121	甕	底部		6.7			ハケメ、ヨコナデ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	黒褐 10 YR 3 / 2	3mm以下の雲母、浅黄橙・灰・乳白色粒、透明光沢粒を含む	良好	
1091	S121	壺	底部		4.5			ミガキ	工具ナデ、線刻	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	灰白 2.5 Y 7 / 1	2mm以下の灰白・褐・白色粒を含む	良好	
1092	S121	甕	口～底	(24.8)	7.4	32.6		ヨコナデ、刻目貼付突帯、工具ナデ、指オサエ	ナデ、工具ナデ、指オサエ	赤褐 5 YR 4 / 6	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	2mm以下の暗褐・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1093	S121	甕	口	(33.4)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	5mm以下の灰白・橙・黒褐色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1094	S121	甕	口	(27.0)				ヨコナデ、刻目貼付突帯	指オサエ、ハケメ、ナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 8	3mm以下の褐・灰・乳白色粒を含む	良好	
1095	S121	甕	口～胴	(26.6)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ、工具ナデ、指オサエ	工具ナデ、指ナデ、指オサエ	明赤褐 5 YR 5 / 6	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	3mm以下の橙・灰白粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1096	S121	甕	口～底	19.5	5.3	20.7		ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、指オサエ、指ナデ	赤褐 5 YR 4 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	8mm以下の乳白・灰色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
1097	S121	甕	口～胴	(24.2)			(21.2)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の灰・褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1098	S121	甕	頸～胴					ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、指ナデ？	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の白・黒・灰白・黄白色粒を含む	良好	
1099	S121	大甕	底部		12.3			ミガキ	ミガキ	明褐 7.5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	8mm以下の灰白・明黄褐・雲母・白・褐灰・明赤褐色粒を含む	良好	
1100	S122	甕	口～頸	(21.9)				ヨコナデ、ハケメ	ハケメ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の白・赤褐色粒を含む	良好	
1101	S122	壺	頸					工具ナデ、刻目貼付突帯、ナデ	ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰褐・褐灰・にぶい黄橙・白・明赤褐・灰色粒を含む	良好	
1102	S122	脚付鉢	胴	(11.9)				ナデ、工具ナデ	工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1103	S122	高坏	坏					工具ナデ、ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の褐・灰白・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1104	S123	甕	口～底	20.7	4.7	25.4	21.2	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の乳白・灰・褐白粒、透明光沢粒を含む	良好	
1105	S123	鉢	口～底近	(24.1)			(23.8)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、工具ナデ	にぶい橙 5 YR 7 / 4	にぶい橙 5 YR 7 / 4	1mm以下の灰・赤褐・乳白色粒、透明光沢粒を含む	良好	

第 44 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (36)

No	出土地点	器種	部位	法量 (cm)				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1106	S123	甕	口～頸、胴～底	(15.0)	(4.1)	(18.5)	(15.0)	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	ナデ、ミガキ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	明黄褐 5 YR 5 / 6	3mm以下の黒・灰・褐・乳白色粒を含む	良好	布留系？外面底部付近に圧痕あり
1107	S123	鉢	口～胴	(20.3)				ナデ、タタキ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の赤褐・黒・灰・乳白色粒を含む	良好	
1108	S123	鉢	口～底	(14.4)	(8.0)	(6.8)		ヨコナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 2.5 YR 6 / 6	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	2mm以下の褐・灰色粒を含む	良好	
1109	S123	壺	口	(7.4)				ヨコナデ、貼付突帯、ミガキ	工具ナデ	にぶい黄橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の黒・灰・乳白色粒を含む	良好	
1110	S123	壺	頸・胴				(18.5)	ミガキ	指オサエ、工具ナデ	橙 5 YR 7 / 8	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の白・灰・褐色粒を含む	良好	
1111	S123	高坏	坏					ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の灰・赤褐・褐・乳白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
1112	S123	小型壺	口～底	1.3		3.3	3.9	ナデ	指ナデ、指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4		良好	
1113	S127	鉢	口～胴	(14.8)				ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の暗褐・にぶい黄橙色粒を含む	良好	
1114	S127	鉢？	口～胴	(13.0)				風化が著しい為不明	風化が著しい為不明				良好	
1115	S127	鉢？	胴～底		(4.2)			風化が著しい為不明	風化が著しい為不明	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 3	5mm以下の褐・灰黄褐色粒を含む	良好	
1116	S127	鉢	底部		5.8			ミガキ、指オサエ、ナデ	指オサエ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の褐・灰白・褐灰色粒を含む	良好	
1118	S130	甕	口～胴	(14.7)			(13.4)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の白・灰・褐色粒を含む	良好	
1119	S131	甕	底部		6.2			工具ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	明黄橙 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	4mm以下の灰黄褐・褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1120	S131	甕	底部		(6.6)			ハケメ、指オサエ、ナデ	ナデ	褐 7.5 YR 4 / 3	橙 7.5 YR 6 / 8	3mm以下の褐・にぶい褐・灰白色粒を含む	良好	
1121	S144	甕	口～胴	(25.3)				ヨコナデ、ハケメ	ナデ、ヨコナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下のにぶい褐・浅黄橙色粒を含む	良好	
1122	S144	鉢	口～底	(12.0)	4.6	7.9		指オサエ、ナデ？	指オサエ、指ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄 2.5 Y 6 / 4	7mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1123	S144	鉢	口					ナデ	ナデ	オリーブ褐 2.5 Y 4 / 4	にぶい黄橙 10 Y 6 / 4	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1124	S144	手捏土器	口～底	6,6		4.1		ナデ、指オサエ	指オサエ、指ナデ	褐灰 10 YR 4 / 2	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	3mm以下のにぶい黄褐色粒・黒色光沢粒を含む	良好	
1125	S151	甕	口～胴	(21.8)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の白色粒を含む	良好	
1126	S151	甕	口～底近	(20.2)			(19.6)	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の褐・灰白色粒を含む	良好	
1127	S151	甕	口					ヨコナデ、刻目、刻目貼付突帯、ナデ、ハケメ？	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい褐 10 YR 6 / 3	にぶい黄褐 10 YR 3 / 4	3mm以下の赤褐・白・灰・透明光沢粒を含む	良好	
1128	S151	甕	胴					刻目貼付突帯、ヨコナデ、ハケメ	ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	3mm以下の赤褐・乳白色粒を含む	良好	
1129	S151	壺	口	(29.6)				ヨコナデ、ナデ？	風化著しい	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の灰・褐・白・乳白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
1130	S151	壺	口	(22.4)				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	黒褐 2.5 Y 3 / 1	灰黄褐 10 YR 6 / 2	6mm以下のにぶい黄褐・淡黄色粒を含む	良好	
1131	S151	壺	口	(19.1)				ヨコナデ、ナデ	ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	微細な黒色・透明光沢粒を含む	良好	
1132	S151	壺	肩～底		(6.2)		(27.6)	ミガキ、ナデ	指オサエ、指ナデ、工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の褐・赤褐色粒を含む	良好	
1133	S151	壺	頸～底		(6.7)		(19.3)	ナデ、暗文、ミガキ	ナデ、指ナデ、ハケメ	黒 7.5 YR 1.7 / 1	明黄褐 5 YR 6 / 6	4mm以下の灰黄褐・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1134	S154	甕	口～胴	(23.8)			(23.1)	ヨコナデ、ハケメ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の白・灰・褐・黒色粒を含む	良好	
1135	S154	甕	口～胴	(21.8)			(22.4)	ナデ、ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐・灰白色粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	
1136	S154	甕	口～胴	(19.0)				ヨコナデ、ハケメ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰・乳白色粒を含む	良好	
1137	S154	甕	底部		6.7			工具ナデ、ナデ、藁状の圧痕	ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の赤褐・黒・灰色粒、透明光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり
1138	S154	甕	底部		6.4			指ナデ、指オサエ	工具ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	灰白 7.5 YR 8 / 2	3mm以下の灰・黒・乳白色粒、1mm以下の黒色・透明光沢粒を含む	良好	
1139	S154	甕	胴～底		(2.4)			タタキ、工具ナデ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	黒褐 2.5 YR 3 / 1	3mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	

第 45 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (37)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1140	S154	壺	口～頸・胴	(10.8)			(14.2)	櫛描波状文、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 7 / 8	にぶい黄 2.5 Y 6 / 3	2mm以下の乳白・灰色粒、黒・透明光沢粒を含む	良好	
1141	S154	壺？	口～頸	(19.2)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	2mm以下の褐・黒・灰色粒を含む	良好	
1142	S154	壺	口	(19.4)				ヨコナデ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	1mm以下の褐・灰・乳白色粒、透明光沢粒を含む	良好	内外面に赤色顔料による彩色がみられる
1143	S154	壺	頸					ハケメ	ハケメ、指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	5mm以下の赤褐・乳白色粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	
1144	S154	鉢	口～底	(9.1)	4.3	8.3	(9.5)	ナデ	指オサエ、ハケメ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の橙・灰白色粒、透明光沢粒を含む	良好	
1145	S154	脚付鉢	口～胴	(16.1)				ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の褐・赤褐・灰白色粒、黒色・透明光沢粒を含む	良好	
1146	S154	高坏	脚～裾		(14.8)			ナデ、ミガキ、穿孔、ヨコナデ	指オサエ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の乳白・灰白色粒、1mm以下の黒色・透明光沢粒を含む	良好	
1147	S155	甕	口	(26.0)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ナデ	ナデ	橙 5 YR 7 / 8	橙 5 YR 7 / 6	3mm以下の白・灰・褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1148	S155	甕	口～胴	(29.5)				ヨコナデ、穿孔、刻目貼付突帯、工具ナデ、指オサエ	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ	赤褐 5 YR 4 / 8	明赤褐 5 YR 5 / 6	8mm以下の灰黄・灰白色粒を含む	良好	
1149	S155	甕	口～胴	(27.8)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ナデ	指ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	4mm以下の赤褐・灰・黒色粒を含む	良好	
1150	S155	甕	口～胴	29.2				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰・灰褐・透明光沢粒を含む	良好	
1151	S155	甕	口～胴	21.4				ヨコナデ、工具痕、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ミガキ	灰褐 7.5 YR 4 / 2	灰褐 7.5 YR 4 / 2	2mm以下の白・黒褐色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
1152	S155	甕	口～胴	15.8				ヨコナデ、指オサエ、指ナデ、刻目貼付突帯、工具ナデ	工具ナデ、ミガキ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の白灰・灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1153	S155	甕	口～胴	28.3				ナデ、ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・黒褐・黄褐・灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1154	S155	甕	口～底	24.5	(5.7)	28.0		ナデ、刻目、ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	6mm以下の灰黄・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1155	S155	甕	口～胴	(26.3)				ヨコナデ、刻目、刻目貼付突帯、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	赤褐 2.5 YR 4 / 6	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	4mm以下の白色粒を含む	良好	
1156	S155	甕	口～胴	(23.1)				ヨコナデ、刻目、ナデ、刻目貼付突帯、ハケ	ヨコナデ、工具ナデ	明褐 7.5 YR 5 / 6	にぶい赤褐 5 YR 4 / 4	5mm以下の褐・灰・白色粒を含む	良好	
1157	S155	甕	口～胴	17.3				ヨコナデ、刻目、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	橙 2.5 YR 6 / 8	橙 2.5 YR 6 / 6	8mm以下の褐白・灰白・白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1158	S155	甕	胴～底		6.7			ハケメ、指オサエ、ナデ	ナデ	橙 5 YR 7 / 8	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	8mm以下の橙・灰白・明褐灰・褐・灰赤・黒灰・灰・白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1159	S155	甕	口					ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐 10 YR 4 / 2	黄褐 2.5 Y 5 / 3	2mm以下の白・黒・赤褐色を含む	良好	
1160	S155	甕	胴～底		6.1			工具ナデ、ナデ	ミガキ、指オサエ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	9mm以下の灰黄・白・黒・灰色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1161	S155	甕	底部		6.9			なで、ヨコナデ	ナデ	明黄褐 10 YR 6 / 6	黒褐 2.5 Y 3 / 1	4mm以下の黒褐・灰・暗褐色粒を含む	良好	
1162	S155	甕	胴					ナデ、ヨコナデ、貼付突帯	工具ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	5mm以下の赤褐・雲母・乳白色粒を含む	良好	
1163	S155	甕	口～底	(29.0)	6.3	30.9	(24.7)	ナデ、指オサエ、ヨコナデ、ハケメ、指オサエ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい褐 7.5 YR 6 / 3	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の灰・乳白・褐色粒を含む	良好	
1164	S155	甕	口～胴	13.3			12.8	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、指ナデ	にぶい橙 2.5 YR 6 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	2mm以下の白・灰・明赤褐・黒色粒を含む	良好	
1165	S155	甕	口～胴	(24.4)				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 8	5mm以下の灰・褐・白色粒を含む	良好	
1166	S155	大甕	口～底	40.3	(8.8)	44.2		ヨコナデ、ハケメ、貼付突帯、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	灰黄褐 10 YR 5 / 2	2mm以下の赤褐・明赤褐・灰白色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	

第 46 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (38)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1167	S155	大甕	口	(48.0)				ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、貼付突帯、ハケメ、指オサエ	工具ナデ、指オサエ、指ナデ、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 Y 7 / 4	4mm以下の褐・灰色粒を含む	良好	
1168	S155	大甕	底部		10.5			工具ナデ、ナデ	指オサエ、指ナデ、工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	褐 7.5 YR 4 / 6	4mm以下の淡橙・雲母・灰・乳白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1169	S155	大甕	口～底	(57.0)	9.9	68.9		ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、貼付突帯、ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の灰白・橙・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1170	S155	壺？	頸？					貼付突帯、ヨコナデ、ハケメ		橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰白・浅黄橙色粒を含む	良好	
1171	S155	壺	口～頸	(13.0)				ヨコナデ、ナデ、ハケメ、貼付突帯	ヨコナデ、ナデ	灰白 2.5 Y 8 / 2	灰白 2.5 Y 8 / 2	5mm以下の灰・褐・灰白、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1172	S155	壺	口	(27.2)				ヨコナデ、刻目、指オサエ、指ナデ、ミガキ？	ナデ、ヨコナデ、ミガキ？	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	4mm以下の白・褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1173	S155	壺	口	(24.2)				ヨコナデ、刺突文	ヨコナデ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白、にぶい赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1174	S155	壺	口	(20.5)				刻目、ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	風化の為不明	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 8	3mm以下の灰白、淡黄、にぶい赤褐色粒を含む	良好	
1175	S155	壺	口	(30.2)				ヨコナデ、ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の黒褐・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1176	S155	壺	口	(28.7)				ヨコナデ、刻目貼付突帯	ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の黒・褐・白色粒を含む	良好	
1177	S155	壺	口	(24.4)				ヨコナデ、単沈線による鋸歯文、ナデ	ナデ、円形浮文、ミガキ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	7mm以下の乳白・灰・赤褐、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1178	S155	壺	口～頸	(25.5)				ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐・白・灰色粒を含む	良好	赤色顔料付着？
1179	S155	壺	口～頸	(27.4)				ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ	灰黄褐 10 YR 4 / 2	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	7mm以下の灰白・黒・褐・白色粒を含む	良好	
1180	S155	壺	口	(26.0)				ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指オサエ、指ナデ、ミガキ	ハケメ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐・赤褐色粒を含む	良好	内面に炭化物付着・外面縦方向に暗文あり
1181	S155	壺	口～底	(26.6)	6.6	(36.5)	48.0	ヨコナデ、ハケメ、貼付突帯	ハケメ、風化が著しい	浅黄橙 10 YR 8 / 3	灰白 2.5 Y 8 / 2	3mm以下の白・黒・褐色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
1182	S155	壺	胴～底		5.5			ミガキ、ヨコナデ、ナデ	ハケメ、指ナデ	黒褐 10 YR 3 / 2	灰黄褐 10 YR 5 / 2	5mm以下の灰・黒褐・赤褐色粒を含む	良好	
1184	S155	壺	口	8.6				ナデ、ミガキ、穿孔	ナデ、指ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰色粒を含む	良好	
1185	S155	壺	口～底	15.8	5.9	15.5	18.2	ヨコナデ、穿孔、ミガキ、工具ナデ	ヨコナデ、穿孔、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・赤褐・黒・灰色粒を含む	良好	
1186	S155	蓋？	口	(31.7)				工具ナデ、刻目貼付突帯、ヨコナデ、ハケメ	ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黒褐 10 YR 3 / 1	2mm以下の褐・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1187	S156	甕	口	(21.8)				ヨコナデ、ナデ、ハケメ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の黒・明赤褐・灰・赤褐・乳白色粒を含む	良好	
1188	S156	甕	口	(23.8)				ヨコナデ、刻目、ナデ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の赤褐・暗褐色粒を含む	良好	
1189	S156	甕	口～胴	(24.0)				ナデ、刻目貼付突帯、ヨコナデ、ハケメ	ナデ、ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	5mm以下の褐・赤・白色粒を含む	良好	
1190	S156	甕	口～胴	20.3				ナデ、刻目貼付突帯、ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、指オサエ、ナデ、	橙 2.5 YR 6 / 8	橙 2.5 YR 6 / 8	4mm以下の灰・白・褐・灰白・白黒色混粒	良好	
1191	S156	甕	口～底	(26.6)	(5.4)	(28.8)		ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ、指ナデ、指オサエ	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ、指ナデ	褐 7.5 YR 4 / 3	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の灰褐・にぶい橙・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
1192	S156	甕	口～胴	(31.2)				ヨコナデ、刻目貼付突帯、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、指オサエ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	明褐 7.5 YR 5 / 6	5mm以下の灰褐・白灰色粒、透明光沢粒を含む	良好	
1193	S156	甕	口	(19.6)				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	暗褐 10 YR 3 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下のにぶい赤褐・赤褐色粒を含む	良好	
1194	S156	甕	胴～底		5.5			ハケメ、工具ナデ、指オサエ、ナデ	ハケメ、工具ナデ	にぶい赤褐 5 YR 4 / 4	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	5mm以下の乳白・黒・灰・赤褐色粒を含む	良好	

第 47 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (39)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1195	S156	大甕	口	(51.4)				工具ナデ、ヨコナデ、指オサエ、貼付突帯	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の褐・白・黒褐色粒を含む	良好	
1196	S156	壺	口	(27.0)				ヨコナデ、刺突列点文、ミガキ	ミガキ、ヨコナデ	褐 7.5 YR 4 / 3	灰褐 7.5 YR 4 / 2	3mm以下の灰白色粒を含む	良好	
1197	S156	壺	胴					ハケメ、貼付突帯、ヨコナデ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 5 YR 6 / 4	6mm以下の赤褐・灰白・褐灰・赤色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1198	S156	壺	口～頸	(7.0)				ナデ、刻目、ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	微細な透明光沢粒を含む	良好	
1199	S156	壺	頸～底		(4.6)		(7.5)	ナデ、指オサエ、工具ナデ	指オサエ、指ナデ	灰黄褐 10 YR 6 / 2	灰黄褐 10 YR 5 / 2	3mm以下の灰白・赤褐色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
1200	S158	壺	口～頸近	(25.8)				単沈線による鋸歯文、ヨコナデ、ハケメ	ナデ、円形浮文、ハケメ、指オサエ	橙 5 YR 7 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の灰白・黒褐・赤褐・褐灰色粒を含む	良好	
1201	S156	壺	口～頸	(27.0)				ヨコナデ、ミガキ	ハケメ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の灰白・にぶい赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1202	S156	壺	口	(25.1)				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の褐色粒を含む	良好	
1203	S156	壺	口	(23.6)				ヨコナデ	ヨコナデ	灰黄褐 10 YR 6 / 2	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の灰黒・褐・灰白色粒を含む	良好	赤色顔料による施文あり
1204	S8	鉢？	底部		5.6			ナデ	工具ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 3	4mm以下の灰白・灰・にぶい黄橙色粒を含む	良好	
1205	S156	鉢	口～底	10.2	3.9	7.7	11.7	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰・白色粒・透明光沢粒を含む	良好	
1206	S156	鉢	口～胴					ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の白色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1208	S156	甕	口～底	30.5		30.3	(26.2)	ナデ、ハケメ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、ハケメ、指ナデ	赤褐 5 YR 4 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 8	5mm以下の灰白色粒を含む	良好	
1209	S5	甕	口～胴	(22.8)				ナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・黒・赤褐色粒を含む	良好	
1210	S156	甕	口～底近	25.5	(2.4)	26.3	23.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	6mm以下のにぶい黄褐・灰白・白・明褐灰・灰白灰色混粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1211	S7	甕	口～胴	(20.7)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	9mm以下のにぶい黄橙・灰白・白・灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1212	S156	甕	口～底	(22.6)	2.3	26.1	(21.1)	ヨコナデ、指オサエ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	4mm以下の灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1213	S156	甕	口～胴	(16.2)			(15.4)	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の灰白・赤褐・橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1214	S7	壺	底部		4.1			ミガキ、ナデ	工具ナデ	灰白 2.5 Y 8 / 2	灰黄褐 2.5 Y 7 / 2	1mm以下の白・灰白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1215	S5	鉢	口～底	14.2		9.9	9.0	ミガキ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の暗褐・明褐・灰白色粒、黒色光沢粒を含む	良好	
1216	S158	壺	口～胴	(7.4)				指オサエ、指ナデ、工具ナデ、ナデ	指オサエ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の白・灰褐色粒を含む	良好	
1217	S156	壺	胴～底					ハケメ、工具ナデ	ハケメ、工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 7 / 8	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・褐灰・灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1218	S156	鉢	口～底	(11.0)	1.5	7.4	(11.4)	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐・灰白・灰褐・黒褐色粒を含む	良好	
1219	S158	鉢	口～底	8.0	2.1	4.1		ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1220	S158	脚付鉢	口～底	(24.6)	(12.0)	12.7		ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰黄・灰褐・灰白色粒を含む	良好	
1221	S156	脚付鉢	頸～脚				(10.0)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下の白・黒色粒を含む	良好	
1222	S5	鉢	底部		1.6			ミガキ、指オサエ	指オサエ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・褐灰・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1223	S5	鉢	口～胴	(11.9)			(13.4)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	4mm以下の赤褐・灰白・暗灰色粒を含む	良好	
1223	S5	鉢	底部		1.4			工具ナデ、ナデ	ナデ				良好	

第 48 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (40)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1224	S1	甕	口～胴	(27.0)			(25.1)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 3	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・褐・黒色粒を含む	良好	
1225	S1	壺	底部		5.4			工具ナデ、ナデ	指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・灰白色粒を含む	良好	
1226	S3	鉢	口～胴					ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の灰白・黒色粒を含む	良好	
1227	S4	甕？	底部		(4.4)			ナデ	工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	褐灰 10 YR 4 / 1	7mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1228	S4	高坏	口・坏					ヨコナデ、暗文、ハケメ	ミガキ？	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・にぶい褐色粒を含む	良好	
1228	S4	高坏	坏					ハケメ、暗文、ミガキ？	ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1229	S134	手捏土器	口～底	(5.9)		3.3		指ナデ、指オサエ	指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1230	S142	高坏	坏					ミガキ、ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	4mm以下の灰白・灰・褐灰・明褐・赤褐色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1231	S142	甕	胴～底		(6.0)			ナデ	工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の灰褐・暗赤褐・灰白・にぶい橙色粒を含む	良好	
1232	一括	高坏	坏	(37.4)				ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	3mm以下の灰白・黒褐・褐灰色粒を含む	良好	
1233	S119	甕	口～底近	(17.5)			(16.1)	指オサエ、指ナデ、ナデ、ハケメ	ハケメ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰褐・赤褐・黒褐色を含む	良好	
1234	S1	壺	口～底	(8.6)		9.6	8.7	ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	黒褐 2.5 Y 3 / 1	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1235	S1	鉢	口～胴	(10.0)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の赤褐・黒色粒を含む	良好	
1236	S1	鉢？	口～胴	(18.8)				ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄 2.5 Y 6 / 3	2mm以下の灰白色粒を含む	良好	
1237	S1	鉢	口～胴	(17.0)				ナデ	ハケメ、ミガキ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の明赤褐・黒・透明光沢粒を含む	良好	
1238	S1	鉢	口～底	(10.2)	(4.3)			ミガキ	工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・褐灰・暗褐色粒を含む	良好	
1239	S1	鉢	口～底	(8.4)	1.0	(6.5)		ナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	6mm以下の褐灰・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1240	S2	甕	口～底近	(23.4)			(24.0)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ハケメ、工具ナデ	明褐 7.5 YR 5 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰白・堰褐色粒を含む	良好	
1241	S2	甕	口～底	17.4	4.5	26.3	20.2	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄褐 10 YR 7 / 4	5mm以下の黒灰・灰白色粒を含む	良好	内面の口縁部・胴部に茎状圧痕、内面の底部付近に不明圧痕あり
1242	S2	甕	口～底	21.4	3.5	27.0	26.5	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の灰白・にぶい褐色粒を含む	良好	
1243	S2	甕	口～底近	(17.4)			(18.5)	ナデ、指オサエ	指オサエ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1244	S2	甕	口～底	18.7	3.7	24.8	20.5	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、ハケメ、指オサエ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ、指ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰白・赤褐色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1245	S2	甕	口～胴	(19.3)			(20.2)	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙」 10 YR 8 / 4	2mm以下の灰白色粒を含む	良好	
1246	S2	甕	口～胴	(16.2)			(14.4)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1247	S2	鉢	口～胴	(19.4)				指オサエ、ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ、指オサエ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下のにぶい赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1248	S2	甕	口～胴	15.0			(13.6)	ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・褐灰・黒・透明光沢粒を含む	良好	
1249	S2	鉢	口～底	(7.4)		8.1	(8.0)	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下のにぶい赤褐・灰白・灰・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1250	S2	鉢	口～胴	(8.5)				ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1251	S2	鉢	口～底	(10.0)	0.7	9.5		ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	2mm以下の灰白色粒を含む	良好	
1252	S2	壺	口～胴	(10.0)			(13.4)	ナデ、ミガキ	ナデ、工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	4mm以下の灰白・にぶい黄橙・黒色粒を含む	良好	

第 49 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (41)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1253	S2	壺	頸～底		2.7		16.5	ミガキ、工具ナデ	ミガキ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 5 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	5mm以下の灰白・黒・橙色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1254	S2	鉢？	胴～底		(2.7)			ミガキ	ミガキ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下のにぶい橙・赤褐・灰白・灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1255	S2	高坏	坏	(30.5)				ヨコナデ、ミガキ	ミガキ	淡黄 2.5 Y 8 / 4	黄橙 10 YR 8 / 6	3mm以下の灰白・褐・灰・白・黒色粒を含む	良好	
1256	S2	高坏	坏	(36.5)				ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1257	S2	高坏	坏	(29.2)				ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰・にぶい黄橙・褐・白色粒を含む	良好	
1257	S2	高坏	坏～脚					ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の褐・黒・白色粒を含む	良好	
1258	S4	鉢	頸～底					ナデ、工具ナデ	指ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の黒・灰白色粒を含む	良好	内面にナデ時の爪痕あり
1259	S5	甕	口～底	(22.1)		27.0	23.0	ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	黄橙 10 YR 8 / 6	2mm以下の白・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	外面底部付近は二次的火熱の影響により白・赤橙色に変色しており劣化が激しい。全体に著しく楕円形で図は長径で作図
1260	S5	壺	口	(13.0)				ヨコナデ、櫛描波状文、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	内面の口縁部付近に斑状に鉄銹様の付着物がみられる　外面も？
1261	S5	鉢	胴～底		(3.5)			ナデ、指オサエ、指ナデ	工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・褐・灰褐色粒を含む	良好	
1262	S5	鉢	口～胴	(28.0)				ヨコナデ、ナデ、櫛描波状文、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 3	4mm以下の灰白・黒褐・赤褐色粒を含む	良好	
1263	S6	甕	口～底	(15.1)	2.9	(20.1)	(15.6)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の灰褐・にぶい赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1264	S6	甕	口～底近	15.5			16.0	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	明黄褐 10 YR 6 / 6	6mm以下の灰白・赤褐・明赤褐・黒褐・白黒混粒を含む	良好	
1264	S6	甕	底		(3.2)			ナデ	指ナデ				良好	
1265	S6	甕	口～底	14.1	3.9	18.3	15.6	ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	8mm以下の灰褐・灰褐・褐・黒色粒を含む	良好	
1266	S6	鉢	口～底近	(14.5)			(12.2)	ヨコナデ、指オサエ、ハケメ、工具ナデ	ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の灰白・褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	外面胴部に帯状にスス付着
1267	S6	甕	口～底	(19.8)	2.7	27.1	(22.2)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰・灰白・灰褐色粒を含む	良好	
1268	S6	甕	口～底	(17.6)	(4.5)	(26.4)	(20.3)	ナデ、ヨコナデ、タタキ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 10 YR 8 / 4	7mm以下のにぶい橙・褐灰・淡黄・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1269	S6	甕	口～底	17.0	3.8	29.0	20.5	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の灰白・灰・褐色粒を含む	良好	
1270	S6	甕	口～底	(26.7)	6.1	29.8	23.6	ナデ	ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下のにぶい赤褐・灰白・黒・黒褐・褐灰色粒を含む	良好	
1271	S6	壺	口～胴	11.4				ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の褐灰・灰白・にぶい赤褐・暗赤褐色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1272	S6	壺	胴～底		(6.6)			工具ナデ	ハケメ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐灰・褐・白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1273	S6	壺	口～底近	(16.1)			(25.8)	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、ヨコナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰白・赤色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	外面・断面にスス付着
1274	S6	壺	口～底	(11.3)		22.6	(17.2)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指オサエ？	ナデ、指ナデ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 8	2mm以下の灰白・暗褐・明赤褐色粒を含む	良好	壺とみられるが外面胴部に帯状のスス付着
1275	S6	高坏	坏	16.7				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の黒・褐・白・白灰・透明光沢粒を含む	良好	
1276	S6	鉢？	口					ヨコナデ、風化の為調整不明	ヨコナデ、風化の為調整不明	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰・灰白・褐色粒を含む	良好	
1277	S6	鉢	口～底	(6.6)		4.9		ナデ	指ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の暗褐・灰白色粒を含む	良好	
1278	S6	壺	口～底	2.8	2.3	5.0	4.7	工具ナデ、ナデ	指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	灰黄褐 10 YR 6 / 2	2mm以下の明赤褐・灰白色粒を含む	良好	

第 50 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (42)

No	出土地点	器種	部位	法量 (cm)				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1279	S6	鉢？	底		4.1			ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 7 / 4	褐灰 7.5 YR 6 / 1	3mm以下の暗褐・灰白色粒を含む	良好	
1280	S6	高坏	脚～裾					ミガキ	ミガキ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	1mm以下の灰褐・褐色粒を含む	良好	
1281	S6	高坏	坏～裾		(12.4)			ミガキ	ミガキ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の明褐・褐灰色粒を含む	良好	外面内面の一部に粒状のヒビがみられる　二次的に火を受けた可能性が考えられる
1282	S6	高坏	脚～裾		(11.6)			ミガキ、ヨコナデ	ミガキ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の黒・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	内面裾部に藁状圧痕がみられる？
1283	S7	甕	口～胴	(21.0)			(24.6)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、風化の為調整不明	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 7 / 8	4mm以下の灰黄・褐・赤褐・灰白・灰色粒を含む	良好	
1284	S7	甕	口～胴	25.6			25.7	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
1285	S7	甕	口～底	21.3	1.3	28.0	23.0	ナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 7 / 6	5mm以下の灰白・赤褐・にぶい黄褐・褐灰色粒を含む	良好	
1286	S7	甕	口～胴	(11.0)			(25.3)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の褐灰・灰白・暗赤褐色粒を含む	良好	
1287	S7	甕	口～胴	(22.2)				ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	3mm以下の灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1288	S7	甕	口～底	16.6	3.1	22.4	17.3	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	橙 7.5 YR 6 / 6	6mm以下の灰白・明赤褐色粒を含む	良好	
1289	S7	鉢	口～底	11.5	1.8	7.7	11.7	工具ナデ	工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の灰白・橙色粒を含む	良好	
1290	S7	鉢	口～底	(9.5)	3.5	7.3		ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下のにぶい褐・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1291	S7	鉢	口～底	12.8	4.1			ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	5mm以下のにぶい褐・灰褐・褐灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1292	S7	高坏	坏	(21.5)				ナデ	ナデ？	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の褐灰・にぶい橙・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1293	S7	高坏	坏	17.9				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰白・明赤褐・黒色粒を含む	良好	
1294	S7	高坏	脚～裾		13.9			ナデ、ミガキ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・にぶい赤褐・灰褐・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1295	S7	高坏	脚					指ナデ、ナデ、ミガキ	ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	1mm以下の灰白・黒褐・透明光沢粒を含む	良好	
1296	S7	高坏	坏～脚					工具ナデ、ナデ	ミガキ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 8	3mm以下の白・灰白・赤褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1297	S7	壺	頸～底		7.2		(31,0)	ナデ、工具ナデ	工具ナデ、指ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・にぶい褐・褐・黒色粒を含む	良好	
1298	S8	甕	口～底	(16.9)	(7.4)	25.3	(20.6)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	7mm以下の灰白・暗褐・明赤褐色粒を含む	良好	
1299	S8	鉢	口～底	10.8	4.4	6.9		ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の褐灰・褐・浅黄橙色粒を含む	良好	
1300	S8	壺	胴～底近				(14.0)	工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の褐灰・赤褐・明暗・灰褐・灰白色粒を含む	良好	
1301	S9	甕	口～胴	(17.4)			(18.8)	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の灰白・褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1302	S9	甕	口～底	(16.4)	2.2	18.3	(14.6)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ナデ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 3	2mm以下の白・灰白・赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1303	S9	甕	頸～底		(3.8)		(22.4)	工具ナデ	工具ナデ、指オサエ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	5mm以下の白黄褐混粒、灰褐・明褐色粒を含む	良好	
1304	S9	甕	底		4.7			ナデ、工具ナデ	工具ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の白・赤褐・灰白・灰色粒を含む	良好	
1305	S9	鉢	口～底	12.5	2.6	19.3	13.0	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・浅黄橙・白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1306	S9	鉢	口～底	(11.6)	2.1	17.0	(13.0)	ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の白・灰白、黒色光沢粒を含む	良好	
1307	S9	鉢	口～底	(11.9)	2.9	9.1		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	4mm以下の白・赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	

第 51 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (43)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1308	S9	脚付鉢	口～脚	(9.2)				ナデ、指オサエ	指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	6mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1309	S9	壺	口～底近	(10.0)			(15.4)	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	褐灰 10 YR 4 / 1	3mm以下の白・灰白・灰褐色粒を含む	良好	
1310	S9	鉢	胴～底		2.8			ハケメ、工具ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の灰白・黒色光沢粒を含む	良好	
1311	S9	壺	口～底	(7.5)	(2.3)	9.0	(8.2)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、指ナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1312	S9	高坏	坏～脚					ミガキ、穿孔	ナデ、穿孔、ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	2mm以下の白・灰白・黒・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1313	S9	高坏	坏	(31.9)				風化の為調整不明	風化の為調整不明	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の灰白・褐灰・赤褐色粒を含む	良好	
1314	S9	高坏	脚	(18.9)				工具ナデ、ミガキ	風化の為調整不明	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・明褐灰色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1315	S9	壺	口～底	(19.7)	7,5	(49.5)	42.0	ナデ、櫛描波状文、刻目、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の白・黄・灰・黒色粒を含む	良好	
1316	S11	甕	口～底	24.7	(6.1)	27.6	(23.2)	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 8	5mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1317	S11	甕	口～底	(16.6)		23.8	(19.5)	ヨコナデ、工具ナデ（ミガキ？）、指オサエ	ヨコナデ、指ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の褐・灰白・灰色粒を含む	良好	
1318	S11	甕	口～胴	(20.8)			26.7	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	明黄褐 10 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰褐・赤褐・明赤褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1319	S11	甕	口～胴	22.7			24.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	黄橙 10 YR 8 / 6	5mm以下の灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1320	S11	壺	口～胴	(9.8)			(11.4)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ？	橙 5 YR 6 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰褐・褐・灰白色粒を含む	良好	
1321	S11	鉢？	頸～底				(10.5)	工具ナデ	工具ナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の褐・灰白・黒色粒を含む	良好	
1322	S11	鉢？	胴～底					工具ナデ、ナデ	指オサエ	橙 5 YR 6 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の赤褐・白色粒を含む	良好	
1323	S11	壺	口～胴	13.7			(26.9)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	橙 2.5 YR 6 / 6	4mm以下の褐灰・灰・灰白・赤褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1324	S11	高坏	坏～裾	(14.7)	(12.0)	15.8		ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ、ナデ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
1325	S11	高坏	坏～裾		13.2			ミガキ、工具ナデ、ヨコナデ	ミガキ、工具ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰褐・灰白色粒を含む	良好	
1326	S12	甕	口～底	18.2	5.5	26.5	20.1	ナデ、ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	工具ナデ、指ナデ、ナデ	黄橙 10 YR 7 / 8	黄橙 10 YR 8 / 8	5mm以下の赤褐・暗褐・明赤褐・灰白・灰褐・赤黒色粒を含む	良好	
1327	S12	甕	口～底	(21.5)	3.6	25.5	(20.8)	ヨコナデ、ナデ、タタキ	ナデ、ハケメ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の明褐・灰褐色粒を含む	良好	
1328	S12	壺	口～底	9.5	(3.6)	22.0	16.5	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ、指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	4mm以下の灰・黒・灰白・赤褐・橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	底部を人為的な破砕あり
1329	S12	甕	口～底	(24.9)	6.3	27.8	24.0	ヨコナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の褐・灰白・黒・灰・黄褐色粒を含む	良好	
1330	S12	甕	口～底	14.1	1.8	17.3	12.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の灰白・にぶい黄褐を含む	良好	
1331	S12	鉢	口～底	15	3.6	15.0	12.7	ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の明褐・赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1332	S12	鉢	頸～底		(3.6)		19.8	工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	5mm以下の暗褐・褐灰色粒を含む	良好	
1333	S12	鉢	口～底	(27.2)	(5.9)	(9.7)		ヨコナデ、工具ナデ、	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・灰褐・にぶい橙色粒を含む	良好	
1334	S12	鉢	口～底	11.4	4.2	10.6		ナデ	ヨコナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	黄橙 10 YR 8 / 6	3mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1335	S12	鉢	頸～底				7.2	風化の為調整不明	風化の為調整不明	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の明赤褐・灰白・褐灰色粒を含む	良好	
1336	S13	甕	口～底	(27.5)	4.1	28.1	(25.3)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の灰・灰白・黒・灰赤色粒を含む	良好	
1337	S13	甕	口～胴	(26.3)			(24.2)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	12mm以下の白・灰色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	

第 52 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (44)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1338	S13	甕	口～底	19.7	3.5	27.4	20.4	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の白・灰白・灰色粒を含む	良好	
1339	S13	甕	口～底	(21.1)		28.3	(20.6)	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	6mm以下の褐灰・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1340	S13	甕	口～底	18.5	3.8	27.0	19.0	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	6mm以下の灰黄褐・白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1341	S13	甕	口～底	17.8	3.3	21.6	17.6	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、工具または指オサエ？	にぶい赤橙 10 R 6 / 3	にぶい赤橙 10 R 6 / 4	5mm以下の橙・黒・灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1342	S13	甕	口～胴	(22.3)			21.0	ヨコナデ、沈線・ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	橙 7.5 YR 5 / 4	3mm以下の灰白色粒を含む	良好	
1343	S13	甕	口～底	19.8	4.2	25.8	19.1	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の灰白・灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1344	S13	甕	口～底	(17.4)	4.4	21.1	(17.3)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の灰白・赤褐・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	外面の口縁から胴部にかけて長さ 9cm程のふきこぼれのあとがある
1345	S13	甕	口～底	15.8	(4.3)	18.2	(15.3)	指オサエ、ナデ、工具ナデ	指オサエ、ハケメ、ナデ	にぶい黄 2.5 Y 6 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 3	4mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1346	S13	甕	口～底近	(20.7)			(22.6)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	明褐 7.5 YR 5 / 6	5mm以下の灰白・灰・透明光沢粒を含む	良好	
1347	S13	甕	口～胴	(17.7)			18.5	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、指ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の灰白・灰褐・黒色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1348	S13	甕	口～底	(18.0)	(2.4)	23.0	19.1	ハケメ、指オサエ、ナデ	指オサエ、ハケメ、指ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の灰白・黒褐・赤褐色粒を含む	良好	
1349	S13	甕	口～胴	(18.6)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の灰白・黒色粒を含む	良好	
1350	S13	甕	口～胴	(15.9)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	灰黄 2.5 Y 6 / 2	淡黄 2.5 Y 8 / 3	1mm以下の灰白色粒を含む	良好	布留系の模倣か？
1351	S13	壺	胴～底		2.9			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の白・黒・灰白色粒を含む	良好	
1352	S13	鉢	口～底	(11.5)	2.2	15.8	(11.7)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰・褐・灰白色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1353	S13	壺	口～胴	(11.9)			14.3	ヨコナデ？、工具ナデ	風化の為調整不明	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の明褐・黒・褐灰色粒を含む	良好	
1354	S13	壺	口～頸	(14.3)				ヨコナデ、櫛描波状文、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	7mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1355	S13	壺	口～胴	(10.5)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指オサエ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 3	6mm以下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1356	S13	壺	口～底	7.1	2.0	18.5	13.6	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、指ナデ、工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	3mm以下の黒、赤褐、白、灰白、透明光沢粒を含む	良好	
1357	S13	壺	口～底	19.9	3.2	28.1	20.5	ヨコナデ、ハケメ、線刻、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	8mm以下の灰・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	外面胴部の上半部に線刻画あり、モチーフは不明であるが、一部に線刻を工具によりナデ消している部分もある
1358	S13	壺	頸～胴				(19.9)	ミガキ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 4	3mm以下の赤褐・灰白・黒色粒を含む	良好	
1359	S13	壺	頸～底		(3.8)		(19.8)	ナデ、ハケメ、ミガキ	ナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰白・赤褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1360	S13	壺	頸～胴				(16.7)	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰白・黒褐色粒を含む	良好	
1361	S13	壺	頸～胴				(15.0)	ミガキ	指オサエ、指ナデ、ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	微細な黒色粒、透明光沢粒を含む	良好	
1362	S13	壺	胴～底		4.2		34.0	ミガキ、工具ナデ、ハケメ、ナデ	ナデ、ハケメ、工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	6mm以下の灰白・明褐灰・白・黒・灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1363	S13	壺	胴～底		3.3			工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	7mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1364	S13	壺	底		(5.3)			タタキ	ハケメ、ナデ	浅黄 2.5 Y 8 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 3	4mm以下の白・灰白・赤褐色粒を含む	良好	木葉底
1365	S13	鉢？	胴～底		3.9			工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	黒褐 2.5 Y 3 / 1	3mm以下の白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	内面に赤色顔料付着

第 53 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (45)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1366	S13	鉢	胴～底		3.9			工具ナデ、ミガキ	工具ナデ、ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	褐 7.5 YR 4 / 6	2mm以下の灰白・赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1367	S13	鉢	口～胴	(10.8)				ナデ、ヨコナデ、ハケメ	ナデ、ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の雲母・黒褐・橙・灰色粒を含む	良好	
1368	S13	鉢	胴～底		4.6			工具ナデ、指オサエ、ナデ	指ナデ	灰 5 Y 4 / 1	灰 5 Y 4 / 1	3mm以下の灰白色粒を含む	良好	
1369	S13	鉢	口～底	(8.6)	3.3	6.1	(5.0)	ナデ、工具ナデ	指ナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下の白・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1370	S13	高坏？	口～坏	(12.7)				ナデ、凹線文	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	外面に凹線文あり
1371	S13	高坏	坏	31.9				ナデ、ミガキ、ヨコナデ、工具ナデ	ミガキ、ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	6mm以下の灰白・橙色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1372	S13	高坏	脚					ミガキ、透孔	工具ナデ、透孔	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	7mm以下の灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1373	S13	高坏	裾部		17.0			ミガキ、透孔、ナデ	工具ナデ、透孔	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の灰白色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1374	S13	鉢？	脚柱部					指ナデ、指オサエ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	1mm以下の白・明赤褐・黒色粒を含む	良好	
1375	S13	鉢？	底部		3.8			指ナデ、ナデ、指オサエ		にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	YR /	2mm以下の灰白色粒・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1376	S14	甕	口～胴	(19.4)			(21.5)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	5mm以下の灰白・灰・黒色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1377	S14	壺	口～底	(11.4)	(3.6)	13.0	(12.8)	ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の灰褐・褐・黒色粒を含む	良好	
1378	S15	甕	口～胴	(19.2)			(21.7)	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	灰黄褐 10 YR 4 / 2	6mm以下の灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1379	S15	壺	口～底			16.3		ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の赤褐・褐灰・黒褐・灰白色粒を含む	良好	赤色顔料の塗布あり。外面胴部の下位の屈曲部から底部にかけて人為的な破損か？
1380	S15	甕	口～胴	(19.9)			(19.2)	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	灰黄褐 10 YR 4 / 2	にぶい黄褐 10 YR 4 / 3	4mm以下の灰白・暗褐・赤褐色粒を含む	良好	
1381	S15	壺	口～底	(11.5)		11.9	10.3	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐灰・にぶい黄褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1382	S15	甕	頸～底		3.3		(23.5)	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の灰・灰白色粒を含む	良好	
1383	S15	壺	頸～底近				14.2	ミガキ	ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 8	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の灰白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
1384	S15	壺	頸～底				12.2	ミガキ、ナデ	ハケメ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の褐・暗褐色粒を含む	良好	
1385	S15	鉢	口～底	18.4		7.5		ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 6 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下のにぶい赤褐・灰白・灰褐色粒を含む	良好	
1386	S15	鉢	口～底	13.5	2.2	10.6		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・浅黄橙・褐灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1387	S15	鉢	口～底近	(12.0)			(7.2)	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1388	S15	鉢	口～底	(8.6)	4.0	7.1		ミガキ、ヨコナデ	ハケメ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰白・にぶい黄橙・灰黄褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1389	S15	高坏	坏	30.4				ナデ、ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ミガキ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の黒褐・褐灰色粒を含む	良好	
1390	S16	鉢	頸～底		(3.4)		(11.5)	ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	灰黄褐 10 YR 5 / 2	黒褐 10 YR 5 / 1	2mm以下の白・灰白・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1391	S16	鉢	口～底	10.2	2.2	10.3	9.7	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰白・褐灰・褐色粒を含む	良好	
1392	S16	鉢	口近～底		3.1		(9.4)	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、工具ナデ	ハケメ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の褐・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1393	S16	壺	頸					ミガキ、線刻	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の赤褐・黒色粒を含む	良好	
1394	S17	甕	口～胴	(28.7)			29.9	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の褐灰・褐・灰白色粒を含む	良好	

第 54 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (46)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1395	S17	壺	口～底	25.5	5.4	38.2	27.5	ナデ、ハケメ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	6mm以下の褐・灰白・橙色粒を含む	良好	
1396	S17	甕	口～底	(24.1)	(6.5)	33.2	24.4	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の褐灰・にぶい褐・明褐・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1397	S17	甕	口～底	17.9	(2.9)	(21.3)	16.3	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の白・灰白・暗褐色粒を含む	良好	
1398	S17	甕	口～底	(21.4)	4.3	(26.5)	(23.0)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の白・赤褐・暗褐色粒を含む	良好	外面底部に桃核状の圧痕あり？
1399	S17	甕	口～底	17.6	5.5	19.1	16.4	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰褐・灰白・黒褐色粒を含む	良好	
1400	S17	甕	口～底	(16.9)	3.5	17.0	(14.6)	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、指ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐灰・灰褐・暗褐色粒を含む	良好	
1401	S17	甕	口～底	(16.7)	2.0	15.9	(15.2)	ヨコナデ、ナデ、ミガキ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の黒褐・灰白・にぶい黄褐色粒を含む	良好	
1402	S17	甕	口～底	22.7	4.2	21.8	21.8	ハケメ、ナデ、指オサエ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	淡黄 2.5 Y 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の灰白・暗褐・明赤褐色粒を含む	良好	
1403	S17	甕	口～底	15.3	5.0	16.4	14.0	ナデ、指オサエ、工具ナデ、ヨコナデ	ナデ、指オサエ、工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	明黄褐 10 YR 6 / 6	5mm以下の暗褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1404	S17	甕	口～底	17.2	5.2	19.3	15.3	指ナデ、指オサエ、工具ナデ	指オサエ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐灰・褐・灰黄褐・黒褐・浅黄橙色粒を含む	良好	
1405	S17	甕	口～底	14.0	5.5	17.9	(13.8)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・明赤褐・暗褐色粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1406	S17	甕	口～底	(26.6)	4.6	27.0	(26.6)	ナデ、ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	ナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	8mm以下の灰褐・灰白・暗赤褐・黒色粒を含む	良好	
1407	S17	壺	口～底	12.0	(3.5)	(28.7)	(20.1)	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の白・灰白・黒褐・暗赤褐・にぶい橙・褐灰・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
1408	S17	鉢	口～底	(15.4)	6.2	27.5	(15.2)	指ナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ	明褐 7.5 YR 5 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰黄褐・暗赤褐色粒を含む	良好	
1409	S17	鉢	口～底	13.0	5.7	17.6	14.2	ナデ、工具ナデ、指ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	5mm以下の白・灰白・黒・褐灰・暗赤褐色粒を含む	良好	
1410	S17	鉢	口～底	(15.8)	6.0	17.7		ヨコナデ、指ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の灰白・黒灰・黒褐・褐・灰・灰黄褐・黒・白色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1411	S17	鉢	口～底	17.4	4.3	16.9	14.9	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の白・灰白・黒・赤褐色粒を含む	良好	
1412	S17	鉢	口～底	14.7	(6.2)	13.9	13.2	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 6 / 4	にぶい黄褐 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰褐・灰白・褐色粒を含む	良好	
1413	S17	鉢	口～底	(11.9)	(4.0)	16.8	(14.6)	指オサエ、工具ナデ、ナデ	指オサエ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 8	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の白・暗褐・黒色粒を含む	良好	
1414	S17	壺？	底		4.9			ナデ	ハケメ	赤褐 5 YR 4 / 8	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の灰白・褐灰白・にぶい黄褐色粒を含む	良好	赤色顔料の塗布あり
1415	S17	小型壺	口～底	6.6	2.5	8.0	6.3	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 4	3mm以下の灰白・灰黒・褐色粒を含む	良好	
1416	S17	小型壺	口～底	(3.2)		7.8	6.0	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	2mm以下のにぶい黄褐・灰白・灰黄褐色粒を含む	良好	
1417	S17	脚付鉢	口～胴	21.3				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の黄褐・にぶい黄褐・灰白色粒を含む	良好	
1418	S17	鉢	口～底	(15.9)	1.7	5.9		ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1419	S17	脚付鉢	口～脚	15.5	8.5	13.2	14.0	ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・褐色粒を含む	良好	
1420	S17	鉢	口～底	13.9	4.9	12.2	14.5	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐・灰白・灰黄色粒を含む	良好	
1421	S17	鉢	口～底近	(18.2)			(15.4)	ミガキ、ミガキ？（風化著しい）	ミガキ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の灰・灰白・透明光沢粒を含む	良好	
1422	S17	鉢	口～底	10.5	4.9	5.2		指オサエ、ナデ	指オサエ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	8mm以下の灰白・黒・にぶい赤褐・褐灰色粒を含む	良好	
1423	S17	高坏？	口～坏	(19.0)				風化の為調整不明	風化の為調整不明	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・黒褐・にぶい赤褐・褐灰色粒を含む	良好	
1424	S17	手捏	口～底	(5.4)		4.1		指ナデ	ヨコナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	黄灰 2.5 Y 4 / 1	3mm以下の橙・灰白・褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	

第 55 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (47)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1425	S17	手捏	口～底	5.2	2.0	3.3	6.3	ナデ	指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	9mm以下のオリーブ黄・灰白・灰黒・褐色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1426	S18	甕	口～底	25.1	4.8	29.1	21.6	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	5mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
1427	S18	甕	口～底	(18.1)	(4.4)	(25.2)	(19.8)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	灰黄 2.5 YR 7 / 2	灰黄褐 2.5 YR 7 / 2	4mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	人為的な打欠の可能性が考えられ、表面の剥離がみられる（非貫通）
1428	S18	甕	口～胴	(16.4)			17.5	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1429	S18	甕	口～胴	21.1			24.7	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	6mm以下の灰白・黒・暗赤褐・白色粒を含む	良好	
1430	S18	甕	口～底	(17.5)	3.3	26.2	(20.1)	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の白灰・黄褐・白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1431	S18	甕	口～底	17.8	1.9	19.1	16.9	指オサエ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	指オサエ、ハケメ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	7mm以下の灰黄褐・灰白・暗赤褐・黒褐色粒を含む	良好	
1432	S18	甕	口～胴	(20.4)			24.1	ナデ、ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	ナデ、ハケメ	明黄褐 10 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1433	S18	甕	口～底近	(19.3)			18.6	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の褐灰・灰・灰白色粒を含む	良好	
1434	S18	甕	口～底	(13.6)	3.6	15.8	(14.4)	ハケメ、ナデ、工具ナデ	ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の褐・灰白・褐灰色粒を含む	良好	
1435	S18	甕	頸～底		3.5		(13.4)	ヨコナデ、ナデ	工具ナデ、ハケメ、指オサエ？	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下のにぶい赤褐・にぶい黄・黒・灰白色粒を含む	良好	
1436	S18	甕	口～胴	(15.3)			(14.1)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	5mm以下の褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1437	S18	甕	頸～胴				(23.2)	工具ナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の赤褐・白・灰白色粒を含む	良好	外面に多量のスス付着、ふきこぼれ痕あり
1438	S18	甕	口～胴	(18.4)				ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、指オサエ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 5 YR 5 / 4	1mm以下のにぶい赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1439	S18	甕	胴～底		5.3			工具ナデ、指ナデ	ナデ	明褐 7.5 YR 5 / 6	黒 7.5 YR 2 / 1	7mm以下の黒褐・にぶい黄橙・灰白色粒を含む	良好	
1440	S18	壺	口～胴	(13.4)			(27.6)	ヨコナデ、工具ナデ、タタキ	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ、ハケメ	橙 5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	3mm以下の暗褐・赤褐・明赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1440	S18	壺	胴～底近					タタキ、工具ナデ	ハケメ				良好	
1441	S18	壺	口～頸	(11.1)				ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の灰・灰白・褐灰色粒を含む	良好	
1442	S18	壺	口～胴	12.6				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	6mm以下の灰白・白・色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1443	S18	壺	口～胴	(14.4)			(29.8)	ハケメ、ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、指ナデ、ハケメ	赤褐 5 YR 4 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	8mm以下の灰黄褐・褐・褐灰・褐灰白色粒を含む	良好	
1444	S18	壺	口～底近	(12.3)			27.4	ナデ、タタキ、工具ナデ、ミガキ	ナデ、ハケメ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	褐灰 7.5 YR 5 / 1	6mm以下の橙・灰白・褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1445	S18	壺	口～底近	(12.6)			(26.2)	ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の白・暗赤褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1446	S18	壺	口～底	(9.1)		15.8	14.4	ナデ、ヨコナデ、ミガキ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の黒・灰白・白・赤褐・透明光沢粒を含む	良好	内面胴部に圧痕あり　外面の一部に褐色の付着物がみられる
1447	S18	壺	口～胴	(7.8)				ナデ、櫛描波状文、工具ナデ	ヨコナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰・赤褐・透明光沢粒を含む	良好	
1448	S18	壺	頸～底	(10.1)		10.8	11.9	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の灰・赤褐色粒を含む	良好	
1449	S18	壺	口～胴	(14.0)				ヨコナデ、工具ナデ	工具ナデ、ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 3	5mm以下の灰白・灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1449	S18	壺	胴～底		(2.4)		(19.6)	工具ナデ、ハケメ、ナデ	工具ナデ（ハケメ？）、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	淡黄 2.5 Y 8 / 3	5mm以下の灰白・灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む		
1450	S18	壺	口～底	15.9		20.7	(16.0)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の灰・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1451	S18	壺	口～胴	9.7			(14.4)	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ、指オサエ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	浅黄 2.5 Y 7 / 3	5mm以下の灰白・灰・暗赤褐・灰黄褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	

第 56 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (48)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1452	S18	壺	頸～胴				11.5	ミガキ、工具ナデ	ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の白・灰白・黒色光沢粒を含む	良好	
1453	S18	壺	口～底	9.1			12.0	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 4	2mm以下の灰白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
1454	S18	壺	口	(17.8)				ナデ、ヨコナデ、押引き刺突文、櫛描波状文、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰白・にぶい橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1455	S18	壺	口	(32.2)				ナデ、鋸歯文、円孤文、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄 2.5 Y 7 / 4	5mm以下の赤褐・褐灰・暗褐・灰白色粒を含む	良好	
1456	S18	壺	胴～底		(5.9)			ミガキ、工具ナデ、ナデ、木葉底	ハケメ、指オサエ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の白色粒を含む	良好	木葉底
1457	S18	壺	胴～底		(7.4)			指オサエ、ナデ	ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	2mm以下の灰黄褐・褐・灰白色粒を含む	良好	
1458	S18	鉢	胴～底		(4.7)			工具ナデ、ナデ	ハケメ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄褐 10 YR 4 / 3	7mm以下の灰黄褐・赤褐・灰白・黒褐色粒を含む	良好	
1459	S18	壺	口～胴	15.1			(30.6)	櫛描波状文、ヨコナデ、工具痕、刻目貼付突帯、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰黄・灰白色粒を含む	良好	
1460	S18	鉢	口～底近	(25.3)			18.1	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 8	4mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1461	S18	鉢	口～底近	(19.2)			16.4	ヨコナデ、工具ナデ（ミガキ状）	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
1462	S18	鉢	口～底	(17.0)	1.4	14.6	(16.5)	ヨコナデ、ナデ、指オサエ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	明褐 7.5 YR 5 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・透明光沢粒を含む	良好	
1463	S18	鉢	口～底	(27.0)		11.2		ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の黄灰・灰白・褐・黒色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1464	S18	鉢	胴～底		6.2			工具ナデ、ナデ、	工具ナデ、ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 5 / 3	2mm以下の白・灰白・赤褐・黒色粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1465	S18	鉢	口～底	21.5		7.8		ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、ミガキ？	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黄褐 10 YR 6 / 4	4mm以下の灰黄・灰白色粒を含む	良好	
1466	S18	鉢	口～胴	(11.7)				ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1467	S18	鉢	口～底近	(10.0)				ヨコナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰白・灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1468	S18	鉢	口～底近	(6.5)				ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下のにぶい橙色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1469	S18	鉢	口～底	(11.4)	(1.0)	8.5	(11.8)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・黒色粒を含む	良好	
1470	S18	鉢	口～底	(8.4)		7.5	(9.0)	ヨコナデ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・灰白・褐色粒を含む	良好	
1471	S18	鉢	口～底	(10.1)	3.7	5.9		ナデ	ナデ、ヨコナデ、ハケメ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	3mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1472	S18	鉢	口～底	7.8	2.7	4.2		ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下のにぶい褐・灰白色粒を含む	良好	
1473	S18	鉢	口～底	11.8				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の白・褐・灰白色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1474	S18	脚付鉢	脚		10.9			工具ナデ、ヨコナデ	指ナデ、指オサエ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	1mm以下の黒・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1475	S18	壺	口～底	(3.6)	1.4	5.6	4.0	指オサエ、指ナデ	指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1476	S18	鉢	口～胴・胴～底	(8.8)	6.1			ミガキ、ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ハケメ、指ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	6mm以下の暗オリーブ灰・灰白・オリーブ灰・明赤褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1477	S18	高坏	坏	21.7				ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐・灰白・にぶい黄褐色粒を含む	良好	
1478	S18	高坏	坏	(38.8)				ヨコナデ、風化の為調整不明	風化の為調整不明	黄橙 7.5 YR 7 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の褐灰・灰・灰白色粒を含む	良好	
1479	S18	高坏	坏	(28.7)				ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	黄橙 7.5 YR 7 / 8	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の白・灰・赤褐色粒を含む	良好	
1480	S18	高坏	坏	(20.6)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	4mm以下の赤褐・灰色粒を含む	良好	

第 57 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (49)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1481	S18	高坏	脚					ナデ、ミガキ、透孔、ミガキ	工具ナデ、ナデ、ヨコナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	4mm以下の褐・灰・白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1482	S18	高坏	脚					ハケメ、ミガキ、円形透孔	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の褐灰・灰黄・浅黄橙色粒を含む	良好	
1483	S19	甕	口	(13.6)				ヨコナデ	ヨコナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰・灰白色粒を含む	良好	
1486	S19	鉢	口近～底		2.7		9.8	工具ナデ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	褐灰 10 YR 5 / 1	2mm以下の褐・褐灰・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1484	S19	甕	口～頸					ヨコナデ、ナデ	ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	2mm以下の白色粒を含む	良好	
1485	S19	鉢	胴～底		4.2			工具ナデ	指ナデ、指オサエ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の暗褐・灰褐・褐灰・白色粒を含む	良好	
1487	S20	鉢	口～底	(9.5)	3.7	7.9		ナデ、指ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ	灰白 2.5 Y 8 / 2	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の褐灰・明褐・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1488	S21	壺	口～底	(10.7)		11.7	(11.3)	ナデ、工具ナデ、ミガキ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	橙 2.5 YR 7 / 8	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の褐・褐灰・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1489	S22	甕	胴～底		3.9			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指ナデ	暗灰黄 2.5 Y 4 / 2	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の灰白・灰褐色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1490	S22	壺	頸近～底				11.3	ミガキ	ナデ、指ナデ、ハケメ	明黄褐 10 YR 6 / 6	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	3mm以下の灰白・明赤褐色粒を含む	良好	
1491	S22	壺	口～底	(7.8)		7.8	6.6	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の浅黄・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1492	S22	甕？	胴～底		(7.5)			ナデ	ナデ、指ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 3	3mm以下の灰・にぶい褐・灰白色粒を含む	良好	
1493	S22	鉢	口～底	(14.5)		(8.8)	(13.3)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰白・黒・褐色粒を含む	良好	
1494	S22	鉢	口～底近	(16.9)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・灰黒色粒を含む	良好	
1495	S22	鉢	口～底	14.1	2.1	4.5		ナデ、工具ナデ	ナデ、ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1496	S25	高坏	坏	(20.7)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・褐灰・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
1497	S25	高坏	坏	(15.4)				ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒・灰白色粒を含む	良好	
1498	S25	高坏	坏					ミガキ	ミガキ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰色粒を含む	良好	
1499	S26	甕	口～底	(14.7)	4.0	14.5	(14.1)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の白・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1500	S26	甕	口～胴	(14.1)			(14.5)	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の褐・暗褐・灰褐色粒を含む	良好	
1501	S26	甕	胴～底		4.1			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ハケメ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰黄褐・褐・灰白・黒色粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1502	S26	鉢	口～底	(8.8)	(3.2)	7.6	(9.6)	指オサエ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白色粒を含む	良好	
1503	S26	不明	底部		(8.1)			ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄 2.5 Y 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	微細な透明光沢粒を含む	良好	
1504	S26	鉢	口～底	(8.2)	3.2	6.8	8.9	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・褐色粒を含む	良好	
1505	S26	手捏	口～底	4.0	1.8	4.6		指オサエ、ナデ	指オサエ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の灰白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
1506	S26	鉢	口～底近	14.7			15.6	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐灰・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1507	S26	壺	口～胴	(18.9)				ナデ、ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・赤褐・褐灰色粒を含む	良好	
1508	S26	壺	頸近～底		6.6		41.7	ナデ、ハケメ	ハケメ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	灰黄 2.5 Y 6 / 2	4mm以下の灰白・橙・明褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1509	S26	壺	胴～底		(2.4)		(12.4)	ミガキ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 5 / 4	明赤褐 5 YR 5 / 6	2mm以下の赤褐・明褐灰・透明光沢粒を含む	良好	
1510	S26	鉢	口～底	(12.0)	4.1	7.6	9.0	風化の為調整不明、ミガキ？	風化の為調整不明	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の灰色粒を含む	良好	
1511	S26	高坏	坏	(38.6)				ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の褐・灰・黒灰・灰白・白色粒を含む	良好	
1512	S27	甕	口～胴	(21.4)			(24.6)	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	灰黄 2.5 Y 7 / 2	灰黄 2.5 Y 7 / 2	4mm以下の褐灰黄・黄褐・褐・褐灰色粒を含む	良好	

第 58 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (50)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1513	S27	甕	口～胴	(22.0)			(20.6)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の白・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1514	S27	鉢	口～底	25.2	6.8	19.8	22.3	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ、指オサエ、ナデ	工具ナデ、ナデ、ミガキ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	1mm以下の黒・灰白・灰褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1515	S27	壺	口～胴	13.7				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰白・黒・褐色粒を含む	良好	
1516	S27	壺	頸～胴					タタキ	ナデ、ハケメ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	5mm以下の白・明赤褐色粒を含む	良好	
1517	S27	鉢	口～胴	(27.3)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1518	S27	鉢	口～底	(24.2)	(4.0)	(10.1)		ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	明褐 7.5 YR 5 / 6	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1519	S27	鉢	口～底近	9.4			10.1	ナデ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰・灰白・黒・暗褐色粒を含む	良好	
1520	S27	鉢	口～底	(7.2)	(1.6)	(6.5)	(8.0)	ナデ、指オサエ、指ナデ、工具ナデ	ナデ、指オサエ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・黒色・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1521	S27	鉢？	胴～底					ナデ	工具ナデ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	灰黄 2.5 Y 7 / 2	4mm以下の灰白・黒・赤褐色粒を含む	良好	外面丹塗り
1522	S27	鉢	頸～底近					ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄 2.5 YR 6 / 3	2mm以下のにぶい黄橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1523	S27	脚付鉢	脚					ミガキ	ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・白・黒褐・暗赤褐色粒を含む	良好	
1524	S27	高坏	坏	(26.2)				ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の浅黄橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1525	S27	高坏	坏	(22.4)				風化の為調整不明、ミガキ	ナデ？（風化著しい）、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の灰白・灰褐・褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	内面全体に赤色顔料塗布
1525	S27	高坏	裾部		(13.4)			ナデ、ヨコナデ	ナデ	YR /	YR /		良好	
1526	S27	高坏	坏	(28.8)				ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	内面全体に赤色顔料塗布
1527	S27	甕	口～底	(22.0)	3.7	27.7	22.6	ヨコナデ、指オサエ、ナデ、工具ナデ、指ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	2mm以下の灰黄褐・灰白・黒色光沢粒を含む	良好	
1528	S27	甕	口～底	27.4	4.2	29.7	24.4	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	黄橙 10 YR 8 / 6	3mm以下の褐・灰白・黒褐色粒を含む	良好	
1529	S27	甕	口～底	(21.3)	3.1	26.0	(22.5)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 3	4mm以下の灰白、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1530	S27	甕	口～底	(21.5)		23.3	(21.0)	工具ナデ、指オサエ	工具ナデ、指オサエ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	7mm以下の灰白・褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1531	S27	甕	口～底	22.0	4.1	22.4		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・褐灰・黒褐色粒を含む	良好	外面底部に圧痕あり
1532	S27	壺	口～胴	(12.5)				ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・白・にぶい赤褐・灰・黒・黒色光沢粒を含む	良好	
1533	S27	壺	口～底近	(18.2)			(31.3)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	灰黄 2.5 Y 7 / 2	3mm以下の灰白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
1534	S27	壺	口～底	15.0	4.6	37.7	31.1	ナデ？ミガキ？（風化著しい）	風化の為調整不明、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	6mm以下の灰・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1535	S27	壺	口～胴	(13.8)				ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	6mm以下の灰白・白・褐・黒色光沢粒を含む	良好	
1536	S27	甕	口～胴	(19.9)	(4.2)	19.1	(16.0)	ナデ、指ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、風化の為調整不明	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1537	S27	甕	口～底	18.1	(3.0)	20.6	16.7	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	7mm以下の白・灰白・黒色粒を含む	良好	
1538	S27	甕	口～底	(18.6)	(5.9)	21.7	16.9	ナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の浅黄橙・灰褐・橙・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1539	S27	甕	口～胴	(20.0)			(18.8)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、ハケメ	浅黄 2.5 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	7mm以下の褐・褐灰・灰・灰白・黒褐・灰黒色粒を含む	良好	
1540	S27	壺	胴～底		8.0		43.2	工具ナデ	工具ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	4mm以下の赤褐・灰褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1541	S27	壺	胴～底		8.6		41.8	工具ナデ、ナデ、指オサエ	工具ナデ、ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の赤褐・白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1542	S27	甕	口～底	12.5	3.0	14.8	11.7	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	灰黄褐 10 YR 5 / 2	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰褐・灰白・褐灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	

第 59 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (51)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1543	S27	壺	口～底	(9.6)	2.6	12.5	9.3	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1544	S27	壺	口～底	16.1	1.7	17.8	19.8	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ、指ナデ、指オサエ、ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の褐・灰・灰白・黒色粒を含む	良好	外面胴部に３ヶ所人為的な破損あり
1545	S27	鉢	口～底	(20.4)		7.7		ヨコナデ、風化の為調整不明	ヨコナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の褐灰・灰黄褐・褐・灰白色粒を含む	良好	
1546	S27	壺	口～底		6.4		33.3	櫛描波状文、風化の為調整不明、ナデ？	風化の為調整不明、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	7mm以下の灰・赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1547	S27	壺	口～胴・胴～底	(19.8)	6.3	(60.3)	(42.5)	鋸歯文、竹管文、ハケメ、風化の為調整不明、指オサエ	風化の為調整不明	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄 2.5 Y 8 / 4	9mm以下の白・灰色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1548	S27	脚付鉢	胴～脚					ミガキ	ナデ？	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の褐・赤褐色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1549	S27	鉢	口～底	8.8		6.0		ヨコナデ、軟質土層え、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	4mm以下の褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
1550	S27	高坏	脚～裾		(14.9)			ナデ？（風化著しい）、工具ナデ、ミガキ、透孔	工具ナデ、ナデ、透孔	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	1mm以下の褐・灰白・灰褐色粒を含む	良好	
1551	S27	高坏	脚～裾		14.3			ミガキ、円形透孔、ヨコナデ	工具ナデ、円形透孔、ヨコナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の褐・黒色粒を含む	良好	
1552	S27	壺	頸～胴・底		7.8		(51.5)	タタキ、ハケメ	工具ナデ、ハケメ、ナデ？(風化著しい)	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の褐・明褐・黒・灰白色粒を含む	良好	
1553	S30	甕	口～底	(21.6)	3.6	(28.0)	(23.8)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰白・黒褐・褐色粒を含む	良好	
1554	S30	甕	口～胴	(22.7)			(24.3)	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明褐 7.5 YR 5 / 6	褐 7.5 YR 4 / 6	4mm以下の黒褐・暗灰黄・暗褐・灰白色粒を含む	良好	
1555	S30	壺	口	(25.8)				ヨコナデ、鋸歯文、沈線、工具ナデ	ヨコナデ	明黄褐 10 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・黒色粒を含む	良好	
1556	S30	壺	口	(18.5)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	5mm以下の灰白・褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1557	S30	壺	口	(15.5)				凹線文、ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	赤褐 5 YR 4 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1558	S30	高坏	裾部		(11.2)			ナデ、ヨコナデ	指ナデ、工具ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	明黄褐 10 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1559	S30	壺	頸近～底		2.7		(17.7)	ナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	7mm以下の赤褐・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1561	S58	甕	口～胴	21.1				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	8mm以下のにぶい橙・褐・灰褐・灰白・オリーブ灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1562	S59	壺	胴～底		5.1			ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 3	4mm以下のオリーブ褐・灰黄・灰白・黄灰・黄褐色粒を含む	良好	
1563	S59	壺	口	(14.8)				ヨコナデ、櫛描波状文、ハケメ、工具ナデ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の褐・黒褐・褐灰色粒を含む	良好	
1564	S59	鉢	口～胴	(11.0)			(11.3)	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の灰・灰白・透明光沢粒を含む	良好	
1565	S59	鉢	口～底近	(8.5)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の褐色粒を含む	良好	
1566	S59	鉢	口～胴	(20.2)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1567	S59	鉢	口～底	(21.8)		(9.5)		ミガキ、工具ナデ、ナデ	ミガキ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の明赤褐・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1568	S59	鉢	口～胴	(18.7)				ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の灰・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1569	S59	鉢	口～底	12.4		5.2		ナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、指オサエ	淡黄 2.5 Y 8 / 3	淡黄 2.5 Y 8 / 3	4mm以下の灰白・灰黄褐・灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	

第 60 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (52)

No	出土地点	器種	部位	法量 (cm)				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1570	S73	甕	口～底	26.8	5.2	32.2	28.4	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の暗褐・明赤褐・黒色粒を含む	良好	
1571	S73	甕	口～底	17.6	3.6	21.5	18.6	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・灰黒色粒を含む	良好	
1572	S73	甕	口～底	(15.8)			(14.7)	ナデ、ヨコナデ、指オサエ、指ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の黒褐・暗褐・灰白・にぶい黄褐色粒を含む	良好	
1573	S73	甕	口～底	22.1	4.0	29.6	24.8	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の灰白・白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1574	S73	壺	口～胴	9.6				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黄褐 10 YR 4 / 3	5mm以下の褐・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1575	S73	鉢	口～底	6.0	3.9	5.0		ナデ、工具ナデ	指オサエ、ナデ、指ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の白灰・赤褐・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1576	S73	鉢	口～底	(8.9)	3.3	10.7		工具ナデ、ミガキ、指オサエ	ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1577	S73	壺	口近～底		3.5		29.5	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の褐・灰白・橙色粒を含む	良好	
1578	S73	脚付鉢	口～脚	(19.3)	(7.5)	8.5		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰白・灰・赤褐・透明光沢粒を含む	良好	
1579	S73	高坏	脚～裾		(13.1)			ミガキ	ナデ？、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の灰・灰白色粒を含む	良好	
1580	S73	高坏	脚～裾		11.8			ミガキ	工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の白・灰白・黒色粒を含む	良好	
1581	S73	高坏	脚～裾		(14.1)			ミガキ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の灰・灰白・赤褐・透明光沢粒を含む	良好	
1582	S139	甕	口～底	19.8	2.0	25.5	17.9	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の白・灰白・褐灰・黒褐・暗褐・にぶい黄橙色粒を含む	良好	
1583	S139	甕	口～胴	(20.8)			(21.8)	ナデ、ヨコナデ	工具ナデ、指ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の灰白・褐灰・橙色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1584	S139	甕	胴～底		(6.1)			工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の褐・灰・灰白・赤褐色粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1585	S139	甕	胴～底		3.3		21.0	タタキ、ナデ	ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の褐灰・黒褐・明黄褐色粒を含む	良好	
1586	S139	甕	胴～底		6.0			ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	3mm以下の灰・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1587	S139	鉢	口～底	(13.1)	(4.6)	(8.2)		工具ナデ	工具ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の褐・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1588	S139	鉢	口～底	10.7	2.9	7.3		ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	4mm以下の灰白・灰・暗褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1589	S139	鉢	口～底	9.4	3.4	4.5		ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の灰・灰白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1590	S140	鉢	口～底	(15.6)	5.7	14.7	(12.7)	ナデ	工具ナデ、ナデ	暗赤褐 5 YR 3 / 6	赤褐 5 YR 4 / 6	5mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1591	S140	壺	胴～底		5.6			ナデ	工具ナデ、指オサエ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の白・灰・暗褐色粒を含む	良好	
1592	S140	脚付鉢	胴～脚		12.4			工具ナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・褐灰・色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1593	S140	高坏	脚					ヨコナデ、工具ナデ	指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	灰褐 7.5 YR 6 / 2	3mm以下の灰白・褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1594	S140	器台？	脚		(8.5)			ミガキ	ミガキ	明黄褐 10 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	1mm以下の明赤褐・黒色光粒・透明光沢粒を含む	良好	天地逆の可能性あり
1595	S141	甕	口～底近	(24.6)			(26.6)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の黒褐・褐灰・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1596	S141	甕	口～底	(19.2)		(31.5)	(23.4)	ナデ、ハケメ、工具ナデ	ナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の白・灰白・灰・灰赤・黒色光沢粒を含む	良好	
1597	S141	鉢	口～底	(10.0)	2.0	8.3	8.5	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ナデ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 6 / 6	明褐 7.5 YR 5 / 6	4mm以下の灰白・赤褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1598	S141	甕	口～胴	(25.4)			(22.6)	ヨコナデ、タタキ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	4mm以下の白・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	

第 61 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (53)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1599	S141	甕	胴～底		(5.5)			ナデ	ナデ？（風化著しい）	にぶい赤褐 5 YR 5 / 3	にぶい赤褐 5 YR 5 / 3	4mm以下の灰白・褐・灰白・黒褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1600	S141	壺	口～頸	(19.1)				ナデ、ヨコナデ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 6 / 3	にぶい褐 7.5 YR 6 / 3	3mm以下の灰褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1601	S141	鉢	口～底	(13.6)	7.1	8.3		工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 8	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	6mm以下の褐灰・灰白・赤褐・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1602	S141	鉢	口～底	(10.8)	5,5	9.1		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄 2.5 Y 6 / 4	黄灰 2.5 Y 5 / 1	5mm以下の灰白・暗灰白色粒、4mm以下の高師小僧を含む	良好	
1603	S141	鉢	胴～底		(5.7)			ナデ	指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰・褐灰・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1604	S141	甕	口～底近	(17.1)			23.7	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の赤褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
1605	S141	鉢	口～胴	(24.4)				ヨコナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の白・灰白・赤褐・黒色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1606	S141	鉢	口～底	(21.8)		(11.6.)		ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の黒褐・黄褐・褐灰色粒を含む	良好	内面底部に銹付着
1607	S141	高坏	坏	19.8				ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ミガキ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の褐灰・褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1609	S142	壺	口～胴	(10.5)			(9.3)	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	灰白 2.5 Y 8 / 2	浅黄橙 10 YR 8 / 3	2mm以下の灰黄褐・灰白色粒を含む	良好	
1610	S142	壺	頸～底近					ハケメ、ミガキ、ナデ	ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下のにぶい褐・褐灰・浅黄橙・灰白色粒を含む	良好	
1611	S142	鉢	口～底近	(6.9)			(5.8)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の褐灰・灰白・黄橙・黒色粒を含む	良好	
1612	S142	鉢	口～底	(4.5)	2.1	4.6	(5.2)	指ナデ、指オサエ、ナデ、工具ナデ	指オサエ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下のにぶい赤褐・褐灰・黒褐色粒を含む	良好	
1613	S142	甑？	胴～底		(3.4)			タタキ、ナデ	指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	5mm以下の黄灰・にぶい赤褐・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1614	S142	鉢	胴～底		(5.4)			ナデ	ナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰白・淡黄・褐灰色粒を含む	良好	
1615	S142	鉢	口～底	(7.1)	2.2	3.7	(7.5)	指オサエ、指ナデ、ナデ	ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の灰褐・灰白色粒を含む	良好	
1616	S142	鉢	口～底	(5.9)	2.8	3.5		指ナデ、指オサエ、工具ナデ	指ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・褐灰・にぶい赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1617	S142	鉢	口～底	4.7		2.2		指ナデ、工具ナデ	指ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 3	4mm以下のにぶい褐・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1618	S142	高坏	坏	29.8				ナデ、工具ナデ	ナデ、ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の黒・灰・白・灰白・褐・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
1619	S142	高坏	坏～脚					工具ナデ、ナデ、ミガキ	指ナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の灰褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1620	S143	甕	口～胴	(27.5)			(28.9)	ヨコナデ、タタキ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	7mm以下の灰白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
1621	S143	甕	口～底	(22.2)	3.8	22.0	(20.2)	ヨコナデ、タタキ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の白・灰白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
1622	S143	甕	口～胴	(17.0)			(18.0)	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
1623	S143	甕	口・胴～底近	(18.4)			(23.4)	ヨコナデ、ナデ、タタキ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	5mm以下の灰白・黒褐・赤褐・褐色粒を含む	良好	
1624	S143	鉢	口～底	13.7		14.7	14.5	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	5mm以下の灰白・褐灰・赤褐・明褐灰色粒を含む	良好	
1625	S143	鉢	口～底	(15.9)		6.4		ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1626	S143	鉢	口～底	(6.1)		7.6		ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・透明光沢粒を含む	良好	
1627	S143	壺	口～底	(9.3)		8.8	10.0	ヨコナデ、ナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、ミガキ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下のにぶい黄褐・灰白・褐灰色粒を含む	良好	
1628	S144	壺	口～底	(9.7)		11.0	10.4	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 8	2mm以下の白・灰色粒を含む	良好	
1629	S144	甕	胴～底		1.9			工具ナデ、ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 8	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1630	S144	鉢	口～底	(12.4)	3.6	9.2		ナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の明赤褐・にぶい黄橙・灰白・褐灰・色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	

第 62 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (54)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1631	S144	壺	口～頸	(9.2)				ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の橙・褐灰・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1632	S144	壺	胴～底		6.1			タタキ、ナデ	工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	黒褐 10 YR 3 / 1	4mm以下の褐灰・灰黄褐・黒褐・灰白・橙色粒を含む	良好	外面底部に圧痕あり？
1633	S144	鉢	口～胴	(25.4)			(26.0)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の褐灰・褐・明褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1634	S144	鉢	口～底	6.7	3.6	7.3	6.9	ナデ、工具ナデ、ミガキ	工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰白・黒・にぶい赤褐・灰色粒を含む	良好	
1635	S144	高坏	坏～裾		(13.6)			ミガキ、ナデ	工具ナデ、ナデ、ヨコナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の白・灰白・灰・褐灰・赤褐・黒・透明光沢粒を含む	良好	
1636	S150	甕	口～底	(18.6)	2.7	23.4	17.2	指オサエ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明赤褐 5 YR 5 / 6	4mm以下の灰白・橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1637	S150	甕	口～底	24.5	3.9	25.2	21.6	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	7mm以下の灰白・にぶい赤褐・褐灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1638	S150	甕	口～底	(23.0)	(4.3)	(39.8)	28.0	ナデ、指ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、ハケメ、指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の橙・灰白・褐灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1639	S150	甕	口～底	23.4	3.6	28.3	21.3	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	灰褐 7.5 YR 4 / 2	8mm以下の灰白・赤・淡黄・黒色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1640	S150	甕	口～底	(14.5)	4.2	21.2	(17.7)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1641	S150	甕	口～底	17.2	3.0	19.4	17.5	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の白・灰白・明赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1642	S150	甕	口～底	22.9	1.6	25.8	22.0	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ？（風化著しい）	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	5mm以下のにぶい黄橙・灰白・灰黄褐色粒を含む	良好	
1643	S150	甕	口～底	(11.5)	2.8	(13.9)	(11.5)	工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰白・黒・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1644	S150	鉢	口～底	(10.4)		11.2	11.1	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	1mm以下の浅黄橙・暗褐色粒を含む	良好	
1645	S150	鉢	口～底	19.7		15.5	16.5	ヨコナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1646	S150	鉢	口～底	(10.4)	0.8	8.9		ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の赤褐色粒を含む	良好	
1647	S150	鉢	口～底	(10.4)	1.1	9.0	6.9	ナデ、工具ナデ、指ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ	明褐 7.5 YR 5 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	2mm以下の灰白色粒を含む	良好	
1648	S150	鉢	口～底近	11.4			8.3	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	明黄褐 10 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰白・灰色粒を含む	良好	
1649	S150	鉢	口～底	(20.8)		16.0	(18.9)	ヨコナデ、ナデ、指オサエ、工具ナデ、指ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、指オサエ、指ナデ、風化の為調整不明	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の灰白・灰黄褐・にぶい黄褐色粒を含む	良好	
1650	S150	壺	口～底	(23.6)	3.6	(41.0)	(35.0)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下のにぶい赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1651	S150	鉢？	口～胴	(24.2)			(25.4)	ナデ、工具ナデ	工具ナデ、風化の為調整不明	褐 7.5 YR 4 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の灰白・明黄橙色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1652	S150	鉢	口～底近	(16.8)			(18.4)	指オサエ、工具ナデ、ナデ	ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	にぶい褐 7.5 YR 6 / 3	2mm以下の灰白・赤褐・褐灰・黒褐色粒を含む	良好	内面に藁状圧痕あり
1653	S150	鉢	口～底	(17.4)	5.4	(12.5)		工具ナデ、ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1654	S150	鉢	口～胴	(20.7)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	6mm以下の灰・灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1655	S150	鉢	口～底	(10.9)	3.8	8.2		指オサエ、工具ナデ、ナデ	指オサエ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の灰褐・黒褐色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
1656	S150	鉢	部～底		(3.4)			工具ナデ、指オサエ	工具ナデ、ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の灰白色粒を含む	良好	木葉底
1657	S150	鉢？	口	(12.8)				ヨコナデ、櫛描波状文、ミガキ	ヨコナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	3mm以下の褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1658	S150	脚付鉢	胴～脚		(6.4)			工具ナデ、ナデ	ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	黄橙 10 YR 8 / 6	6mm以下の灰白・灰色粒を含む	良好	

第 63 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (55)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1659	S150	鉢	口～底	(7.2)	4.3	(5.7)		ナデ	指ナデ	明黄褐 10 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の灰白・暗褐色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1660	S150	鉢	口～底	(10.3)	(5.4)	4.9		ナデ	指ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	3mm以下の灰褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
1661	S150	壺	口～胴	(12.5)			(14.6)	ミガキ	ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ、指オサエ	にぶい黄 2.5 Y 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	7mm以下の灰・褐・灰白・黒色粒を含む	良好	
1662	S150	鉢	胴～底		3.2			指ナデ	指ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	1mm以下の褐・灰黒・灰白色粒を含む	良好	
1663	S151	甕	底		4.8			ナデ、指オサエ	指ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 5 YR 7 / 6	4mm以下の灰白・にぶい赤褐・褐灰・にぶい黄橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1664	S151	鉢	口～底	25.3		8.2		ヨコナデ、ミガキ、ミガキ？（風化著しい）	ミガキ、風化の為調整不明	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の黒褐・黄褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1665	S151	鉢	口～底	(19.2)		8.6		工具ナデ、ナデ	ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・灰・暗褐色粒を含む	良好	
1666	S151	甕	胴～底		(6.3)			工具ナデ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下のにぶい黄褐・褐灰色粒を含む	良好	
1667	S151	鉢	口～底近	(11.9)			(11.8)	ナデ、指オサエ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の黒褐・灰白・橙色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1668	S153	甕	口～底	16.1		21.1	17.0	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の褐灰・灰白・黒褐・赤褐色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
1669	S153	甕	口～底	(15.7)	2.9	17.6	(15.5)	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ、ナデ、指ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1670	S153	甕	口～底近	(18.6)			(22.1)	工具ナデ、タタキ、ナデ	工具ナデ、ナデ？（風化著しい）	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰褐・灰白・灰色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1671	S153	壺	頸～胴				23.1	タタキ、工具ナデ、ミガキ？	ナデ、工具ナデ	黄橙 7.5 YR 7 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	10mm以下の黒褐・灰白・褐色粒を含む	良好	
1672	S153	鉢	口～胴	(10.4)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	2mm以下の白・灰白・灰色粒を含む	良好	
1672	S153	鉢	頸～底近				(6.2)	ナデ、工具ナデ	工具ナデ	YR /	YR /		良好	
1673	S153	鉢	頸～底				9.3	工具ナデ、ナデ	ナデ、指オサエ、指ナデ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の白・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1674	S153	鉢	頸～底				7.8	ヨコナデ、ナデ	ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の白・灰・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1675	S153	甕	胴～底				(25.6)	工具ナデ	工具ナデ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の黒・灰・灰白・橙・明赤褐・透明光沢粒を含む	良好	
1676	S153	高坏	坏～脚	(17.8)				ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ミガキ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・灰・透明光沢粒を含む	良好	
1677	S153	高坏	脚					ミガキ	工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2mm以下の褐灰・灰褐色粒を含む	良好	
1678	S153	高坏	坏	19.2				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	4mm以下の灰白・白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1679	S153	高坏	坏	(16.7)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰褐・灰白色粒を含む	良好	
1680	S154	甕	口～胴	(26.8)			(27.5)	ヨコナデ、ハケメ、ナデ？	ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・黒灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1681	S154	鉢	口～底	11,1	2,9	8.0		工具ナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1682	S154	鉢	口～底	6.6	1.6	7.4		ナデ	指オサエ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	いぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の黒灰・黒色光沢粒を含む	良好	
1683	S154	鉢？	底		2.3			ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下のにぶい黄橙色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1684	S154	高坏	坏	(12.0)				ヨコナデ、凹線文、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	1mm以下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1685	S154	高坏	坏					ミガキ	ミガキ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1686	S154	脚付鉢	脚					ミガキ、透孔	ナデ、ハケメ、透孔	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1687	S156	甕	口～底近	(19.9)			(21.2)	ヨコナデ、工具ナデ、タタキ	指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	淡黄 2.5 Y 8 / 3	5mm以下の灰白・褐・灰・黒色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	

第 64 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (56)

No	出土地点	器種	部位	法量 (cm)				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1688	S156	壺	口～頸近	16.1				ヨコナデ	工具ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下のにぶい赤褐・褐灰・灰白色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
1689	S156	壺	口～底近	(10.0)			(10.0)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の白・暗褐色粒を含む	良好	
1690	S156	鉢	口～底	10.8	3.9	13.4	10.3	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の暗赤褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1691	S156	壺	口～底	7.7	1.8	11.0	10.1	ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	2mm以下の灰白・暗赤褐色粒を含む	良好	
1692	S156	鉢	口～底	8.1		6.3		ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 8	5mm以下の白・暗褐色粒を含む	良好	
1693	S157	壺	口～頸	(25.2)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1694	S157	甕	胴～底		4.3			工具ナデ、ナデ	指ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	明黄褐 10 YR 6 / 6	6mm以下の白・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1695	S156	壺	口～底	(9.1)		11.8	10.2	ナデ、ヨコナデ、指ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ、ヨコナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の褐灰・灰白・黒褐・にぶい黄橙色粒を含む	良好	
1696	S157	壺	頸～底近				(9.3)	ハケメ、ナデ、工具ナデ	ハケメ、ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	微細な透明光沢粒を含む	良好	
1697	S157	鉢	口～底	(17.2)	3.1	10.1	16.4	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下のにぶい橙・赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1698	S157	鉢	口～底	(8.1)	4.6	10.7	(9.4)	ナデ、工具ナデ、ヨコナデ	ナデ、工具ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の灰白・褐灰・明褐色粒を含む	良好	
1699	S161	甕	口～胴	(20.0)			(21.0)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・赤褐色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1700	S161	甕	口～胴・底	24.0	3.1			ナデ、ヨコナデ、ミガキ？	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の灰褐・明褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1701	S161	甕	口～底近	(13.4)			14.0	工具ナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の赤褐・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1702	S161	甕	口～底近	15.0			17.1	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1703	S161	甕	口～底	17.7		19.9	16.4	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰黄褐・褐灰・褐・灰白色粒を含む	良好	
1704	S161	壺	頸～底		4.5		27.3	工具ナデ、指ナデ	指オサエ、ハケメ、指ナデ、工具ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の暗赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1705	S159	壺	口～胴	(13.0)				ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1706	S159	鉢	頸～底		3.0			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の橙・灰白色粒を含む	良好	
1707	S159	鉢	口～底	(16.5)	3.0	16.3		ナデ、工具ナデ	工具ナデ、指ナデ	橙 5 YR 7 / 8	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の灰・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1708	S159	高坏	坏	(41.0)				ヨコナデ、ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	5mm以下の灰・灰白色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1709	S159	鉢	口～底	(8.9)	(3.1)	(5.5)		ヨコナデ、指ナデ、指オサエ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1710	S159	鉢	胴～底		2.0			工具ナデ、ナデ	風化の為調整不明	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の褐・灰白色粒を含む	良好	
1711	S159	高坏？	口					ヨコナデ、凹線文、鋸歯文	ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	1mm以下の灰白・褐灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1712	S159	壺	頸近～底		7.0		55.8	工具ナデ、ハケメ、ヨコナデ、ナデ	ハケメ、ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐・灰・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1713	S160	甕	口～底	19.0	4.4	24.9	19.4	ナデ、ヨコナデ、ハケメ、指ナデ、指オサエ、工具ナデ	ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	5mm以下の白・灰白・暗赤褐・浅黄色粒を含む	良好	
1714	S160	甕	口～底	16.0	3.9	19.3	14.4	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ	黒褐 10 YR 3 / 1	にぶい黄褐 10 YR 6 / 4	8mm以下の黒褐・にぶい黄橙色粒を含む	良好	
1715	S160	鉢？	胴～底		5.1			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下のにぶい黄橙・透明光沢粒を含む	良好	
1716	S163	甕	口～底	15.4	2.0	19.8	14.7	ナデ、タタキ、工具ナデ	指オサエ、ナデ、工具ナデ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1717	S163	壺	口～底	8.7		8.9	8.0	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の褐灰・灰白・明褐灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	

第 65 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (57)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1718	S163	鉢	口～底	(5.7)	0.6	4.7	3.6	ナデ、ミガキ	指オサエ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	2mm以下の灰白・黒褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1719	S163	壺	口～胴・底	13.8				ナデ、工具ナデ、ミガキ	ナデ、工具ナデ、指オサエ、指ナデ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	明赤褐 5 YR 5 / 6	7mm以下の白・灰白・灰・赤褐・黒色光沢粒を含む	良好	
1720	S163	壺	口～胴・胴～底	(20.8)	8.0		(44.1)	ヨコナデ、刻目貼付突帯、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の灰・褐色粒を含む	良好	
1721	S163	高坏	脚					ミガキ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の褐灰・明褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1722	S164	甕	口～胴	(20.9)			(23.4)	ナデ、ハケメ	ナデ、ハケメ	明赤褐 5 YR 5 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の灰白・灰・褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1723	S164	甕	口～底	(20.5)	4.0	20.6	(20.7)	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の灰白・黄灰色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1724	S164	甕	口～底	(19.5)	6.1	32.0	24.6	ナデ、ハケメ	ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の白・灰白・透明光沢粒を含む	良好	
1725	S164	甕	口～底	(20.8)	(2.8)	28.0	20.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の灰黄・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1726	S164	甕	胴～底		3.0			ハケメ	工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1727	S164	鉢	口～底	(13.1)	3.3	10.6		ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下のにぶい橙・白・灰・黒・透明光沢粒を含む	良好	
1728	S164	鉢	胴～底		3.6			ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	2mm以下の赤褐・灰白・黒褐色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
1729	S164	鉢	口～底	6.8	2.4	6.6		ナデ、指オサエ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1730	S164	鉢	口～底	8.7	2.6	(6.9)	9.1	ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1731	S164	壺	口～胴	(12.1)				ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	5mm以下の褐灰・灰白・灰褐・黒色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1732	S164	壺	口～底	9.9	3.4	31.7	(23.4)	ヨコナデ、工具ナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の褐灰・灰白・褐色粒を含む	良好	
1733	S164	甕	口～頸	(15.8)				ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい橙 7.5 YR 7 / 3	1mm以下の灰・灰白・明赤褐・透明光沢粒を含む	良好	
1734	S164	壺	頸～胴				(21.8)	ナデ、ハケメ	工具ナデ、指オサエ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・にぶい橙色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1735	S164	鉢	口～底近	(24.2)				ナデ、工具ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 6 / 6	明褐 7.5 YR 5 / 6	6mm以下の褐灰・灰・白・灰白・黒色粒を含む	良好	
1736	S164	鉢	胴～底		4.1			工具ナデ、指オサエ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	1mm以下の灰白・灰褐・黒褐色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1737	S164	鉢	胴～底		3.2			ナデ	ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 3	3mm以下の灰白・黒・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1738	S164	鉢	胴～底		2.7			ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の明褐・明褐灰・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1739	S164	鉢	口～底		2.4			ナデ、指オサエ	指ナデ、指オサエ	明黄褐 10 YR 7 / 6	黄橙 10 YR 8 / 6	1mm以下の灰色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1740	S164	高坏	坏	(11.6)				凹線文、ハケメ	ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1741	S164	高坏	坏	(35.7)				ナデ、ハケメ、ミガキ	工具ナデ？、ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の橙・灰白色粒を含む	良好	
1742	S164	高坏	坏～脚					ハケメ、ミガキ、透孔	ミガキ、ナデ、工具ナデ、透孔	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・黒褐色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1743	S164	高坏	裾部		(19.5)			ミガキ、透孔、ハケメ	工具ナデ？、透孔、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	1mm以下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1746	S165	鉢	口～底	(12.8)		4.1		ミガキ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・灰色粒を含む	良好	

第 66 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (58)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1747	S165	鉢	口～底	8.0		3.8		ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・灰黄・灰白・褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1748	S167	甕	口～底	(19.6)	(7.4)	27.5	(22.6)	ナデ、ヨコナデ、指オサエ、ミガキ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の黒褐・褐灰・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1749	S167	壺	口～頸	(21.3)				ナデ、ヨコナデ、鋸歯文、工具ナデ、刻目貼付突帯	ナデ、ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ？（風化著しい）	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐灰・褐・灰白色粒を含む	良好	
1750	S167	壺	口～頸	(15.3)				ヨコナデ、ハケメ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、ハケメ、ナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の褐・褐灰色粒を含む	良好	
1751	S167	壺	頸～底		4.3		25.6	ハケメ、ミガキ、工具ナデ	指ナデ、指オサエ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の褐・黒・灰白色粒を含む	良好	
1752	S168	甕	口～胴・底	(18.4)	(3.6)	(21.9)	(18.1)	ヨコナデ、工具ナデ	工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の褐灰・灰白・橙色粒を含む	良好	
1753	S168	甕	口～底近	(16.1)			(16.6)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の褐灰・明赤褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1754	S168	甕	口～底	20.6	2.5	24.6	20.5	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の白・灰・赤褐色粒を含む	良好	外面底部付近に人為的な破損あり
1755	S168	鉢	口～底	(15.9)	3.2	17.8		ナデ、工具ナデ、指ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の白・灰白・灰・黒・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1756	S168	甕	口～底	(18.2)		(20.2)	(19.0)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の褐・灰・灰白・赤褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1757	S168	甕	口～底	(16.8)	3.2	20.0	(18.1)	ヨコナデ、工具ナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下のにぶい黄橙・灰白・灰・にぶい褐・黒褐・黒色粒を含む	良好	
1758	S168	鉢	頸～底		5.1		(14.3)	ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ナデ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の褐・灰・灰白・橙色粒を含む	良好	
1759	S168	脚付鉢	胴～脚		(8.9)			工具ナデ、指オサエ、ナデ	ミガキ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	4mm以下の灰白・灰・黒・暗赤褐・白色粒を含む	良好	
1760	S168	壺	口～頸近	(28.3)				ヨコナデ、鋸歯文、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1761	S168	鉢	口～底	(21.9)	3.8	9.7		ヨコナデ、風化の為調整不明、工具ナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下のにぶい赤褐・黒褐・褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1762	S168	鉢	口～底	(10.2)	(2.2)	3.8		ナデ、指オサエ	ナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰白・浅黄橙・赤色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1763	S168	鉢	口～底	(8.8)	4.4	3.1		ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	7mm以下のにぶい橙・浅黄橙・褐灰・灰褐・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	内外面に赤色顔料が付着している
1764	S168	鉢	口～底	(8.5)	(1.6)	8.1	(9.0)	ナデ、工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰白・黒・赤褐・灰色粒を含む	良好	
1765	S169	甕	口～底近	(21.8)	(3.8)	(28.7)	24.7	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 5 YR 6 / 4	4mm以下の灰褐・褐灰・黒褐色粒を含む	良好	
1766	S169	甕	口～胴	(17.9)			(16.7)	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰・灰白・白・赤褐色粒を含む	良好	
1767	S169	甕	口～底	(21.2)		29.0	(23.3)	ヨコナデ、ナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の橙・灰白・黒褐色粒を含む	良好	
1768	S169	壺	口～胴	(15.6)				ナデ、櫛描波状文、ヨコナデ、刻目貼付突帯	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐灰・にぶい赤褐・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1769	S169	壺	胴～底		2.1			ナデ	指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下のにぶい赤褐・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1770	S169	壺	頸～底				(8.2)	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	灰黄褐 10 YR 4 / 2	2mm以下の灰白・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1771	S169	鉢	口～底近	(4.3)				ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	2mm以下の赤褐・灰・白色粒を含む	良好	
1772	S169	壺	胴～底		2.7		24.7	ナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の褐灰・褐・黄褐色粒を含む	良好	
1773	S170	脚付鉢	口～脚	18.7	(7.5)	9.8		ナデ、工具ナデ、風化の為調整不明、指オサエ、指ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	8mm以下の灰白・白・明赤灰・赤褐・灰・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1774	S170	鉢	口～底	11.7	4.5	6.8		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下の黒褐・灰白・褐色粒を含む	良好	外面底部に桃核状圧痕あり

第 67 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (59)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1775	S170	手捏	口～底	4.7	2.0	3.7		指ナデ	指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1776	S170	高坏	脚～裾		(12.8)			風化の為調整不明、ミガキ、ヨコナデ	指ナデ、工具ナデ？（風化著しい）	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 8	2mm以下の灰白・橙・黒色粒を含む	良好	
1777	S170	高坏	坏	(25.8)				ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰白・灰褐・褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1778	S170	高坏	脚～裾		14.9			ナデ、ミガキ	指ナデ、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1779	S175	甕	口～底	(17.7)	3.9	21.6	17.0	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰白・赤褐色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1780	S175	甕	口～底近	(19.0)			(19.3)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	1mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1781	S175	甕	胴～底		2.8			ナデ、布目痕	指ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	7mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1782	S176	鉢	胴～底		3.9			工具ナデ、指オサエ、ナデ	工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰褐・灰白・褐灰色粒を含む	良好	
1783	S176	甕	胴～底		3.6			工具ナデ、ナデ、指オサエ	工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	褐灰 7.5 YR 4 / 1	8mm以下の灰白・白・にぶい赤褐・褐灰・にぶい褐・黒色光沢粒を含む	良好	
1784	S190	甕	口～底	16.0	3.7	22.1	17.0	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の褐・褐灰・黒・灰白色粒を含む	良好	
1785	S190	甕	口～底	(19.7)	4.5	(23.3)	(18.8)	ヨコナデ、ナデ、ミガキ、工具ナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	灰黄褐 10 YR 5 / 2	5mm以下の黒褐・赤褐・灰・褐・黒・灰白色粒を含む	良好	
1786	S190	甕	口～底	19.3	4.9	25.3	18.1	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	4mm以下の黒褐・灰黄褐・にぶい黄褐色粒を含む	良好	
1787	S190	甕	口～底	(17.1)	(3.7)	(20.0)	18.2	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 2.5 YR 7 / 6	6mm以下の褐・灰白・灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1788	S190	壺	口～底	10.6	4.5	(26.3)	21.4	ヨコナデ、ナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の黒褐・にぶい褐・灰白色粒を含む	良好	
1789	S190	鉢	口～底	(9.3)	3.2	4.7		指オサエ、ナデ	指オサエ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の灰白・黒・明赤褐色粒を含	良好	
1790	S190	鉢	口～底	4.4	2.5	5.1		指ナデ	指ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1792	S190	壺	口～胴	(15.8.)			(30.1)	ヨコナデ、櫛描波状文、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・灰白・にぶい赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1793	S190	高坏	坏	(28.0)				ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
1794	S190	壺	口～底	(15.6)	7.7	42.9	34.3	櫛描波状文、ハケメ、刻目貼付突帯、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ、風化の為調整不明	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	灰褐 7.5 YR 6 / 2	5mm以下の灰・灰白・黒色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状の圧痕あり
1795	S190	壺	胴～底		(8.3)		(41.6)	ナデ、タタキ	工具ナデ、風化の為調整不明	橙 7.5 YR 7 / 6	黒 7.5 YR 2 / 1	3mm以下のにぶい褐・にぶい橙・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1796	S206	鉢	口～底	(12.4)	3.7	(7.3)		指オサエ、ナデ	指オサエ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
1797	S210	鉢	口～底	(12.7)	4.5	6.7		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	3mm以下のにぶい橙・白・黒・灰・褐灰白色混粒・黒色光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1798	S210	鉢	口～底	11.2	3.7	6.9		ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の白・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1799	S210	鉢	胴～底		3.0			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	4mm以下の灰白・黒色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1800	S210	鉢	口～底	(20.8)	3.7	11.2		ミガキ、ヨコナデ、指ナデ	ヨコナデ、ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰白・灰褐・黒褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1801	S210	鉢	口～胴	(8.7)			(9.4)	ナデ、ミガキ	ナデ、工具ナデ、ミガキ	灰黄 2.5 Y 6 / 2	にぶい黄 2.5 Y 6 / 3	2mm以下の白・灰白・にぶい橙色粒を含む	良好	
1802	S210	鉢	口～頸	(14.2)				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	明赤褐 5 YR 5 / 8	明赤褐 5 YR 5 / 8	2mm以下の灰白・灰黄色粒を含む	良好	
1803	S210	甕	口～胴	(22.2)			(24.0)	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・灰褐色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	

第 68 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (60)

No	出土地点	器種	部位	法量 (cm)				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1804	S210	甕	胴～底		3.3			工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・にぶい黄橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1805	S10	鉢	口～底	23.4	(4.4)	14.1		ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰黄・灰褐・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1806	S10	高坏	坏	(17.3)				ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の赤褐・灰褐・灰白色粒を含む	良好	
1806	S10	高坏	裾部	(15.0)				ヨコナデ、ミガキ？	ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	1mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1807	S45	甕	口～底	(23.6)	3.2	29.5	24.0	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、タタキ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ、ナデ、指オサエ	黄橙 10 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の赤褐・黒・白色粒を含む	良好	
1808	S45	甕	口～底	21.9	7.3	30.9	(23.0)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	灰黄褐 10 YR 5 / 2	4mm以下の灰・灰白・褐灰色粒を含む	良好	
1809	S45	甕	口～胴	(26.6)			(26.7)	タタキ、ヨコナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の黄褐・褐灰・灰白・赤黒色粒を含む	良好	
1810	S45	甕	胴～底		6.1			工具ナデ、ナデ	ハケメ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 3	3mm以下の褐・灰・灰白・黒色粒を含む	良好	
1811	S45	甕	口～底	23.6	6.5	28.1	23.2	ナデ、指オサエ、指ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐・黒・灰白色粒を含む	良好	
1812	S48	甕	口～胴	(17.1)			(20.1)	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、タタキ	ナデ、ハケメ、工具ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 6 / 8	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下のにぶい黄橙・灰白・にぶい黄褐色粒を含む	良好	
1813	S48	鉢	口～底近	20.0			19.1	ヨコナデ、指オサエ、ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	6mm以下の灰白色粒を含む	良好	
1814	S48	鉢	口～底	18.6	2.05	16.6	18.1	ナデ、指オサエ、指ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ	黄褐 2.5 Y 5 / 3	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	7mm以下の灰白・褐灰色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1815	S48	鉢	口～底	(11.6)	2.4	6.6		ナデ、指オサエ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 2	10mm以下の灰白・黄灰・黒色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1816	S48	手捏	口～底	6.4	1.5	4.3		指オサエ、指ナデ	指ナデ	にぶい黄 2.5 Y 6 / 3	灰黄 2.5 Y 6 / 2	4mm以下の灰白・黒色光沢粒を含む	良好	
1817	S48	手捏	口～底	6.0	2.9	4.6	6.8	指オサエ、ナデ	指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の褐・灰白色粒、4mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1818	S49	甕	口～胴	(22.6)			(26.6)	ヨコナデ、タタキ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	6mm以下の褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1819	S49	壺	胴～底		8.0			ハケメ、指オサエ、ナデ	ハケメ、指オサエ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	褐灰 10 YR 4 / 1	7mm以下の灰白・橙・褐灰・白色粒を含む	良好	外面底部付近に櫛状の工具による刺突痕跡が３ヶ所みられる
1820	S84	甕	口～底	24.6	2.8	30.0	(26.7)	ナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の明赤灰・明赤褐・暗赤褐色粒を含む	良好	
1821	S84	甕	口～胴	(17.8)			(20.2)	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	6mm以下の褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
1821	S84	甕	胴～底					タタキ	ハケメ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい橙 5 YR 6 / 4	5mm以下の灰・にぶい黄橙・褐・灰白色粒を含む	良好	
1822	S84	甕	口～胴	19.7			20.3	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい黄褐 10 YR 6 / 4	明黄褐 10 YR 6 / 6	5mm以下の灰黄褐・黄褐・灰白色粒を含む	良好	
1823	S84	甕	口近～底	(13.6)	1.8	(18.9)	(15.7)	タタキ	ハケメ	橙 7.5 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	5mm以下の灰褐・赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1824	S84	甕	口～底	(23.1)	4.9	31.7	(24.8)	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の灰白・褐灰・赤褐・黒褐・黒色光沢粒を含む	良好	
1825	S84	壺	口	(16.3)				櫛描波状文、ハケメ、ナデ、刻目貼付突帯	ヨコナデ、ハケメ、刻目	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の褐灰・赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1826	S84	甕	胴～底		6.3			工具ナデ、ナデ	ハケメ、工具ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 4	灰 5 Y 4 / 1	3mm以下の白・灰白・明赤褐・黒色粒を含む	良好	
1827	S84	高坏	坏	(39.2)				ヨコナデ、ハケメ？、ミガキ	ミガキ、工具ナデ	黄橙 7.5 YR 7 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の明赤褐・暗褐・灰白色粒を含む	良好	
1828	S84	甕	口～胴	(21.2)			(26.6)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、ミガキ	ハケメ、工具ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の白・明赤褐・灰色粒を含む	良好	
1829	S103	甕	口～底近	(24.4)			(25.6)	ヨコナデ、工具ナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	6mm以下の灰・褐・灰白色粒を含む	良好	
1830	S103	壺	口～頸	19.8				ハケメ、ヨコナデ、鋸歯文、工具ナデ、刻目貼付突帯、ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	6mm以下の赤褐・暗褐・明赤褐・灰白・透明光沢粒を含む	良好	
1831	S103	鉢	頸～底		1.5			指オサエ、工具ナデ	ハケメ、指オサエ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の明赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1832	S114	甕	口	(24.4)				ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ	YR /	YR /		良好	

第 69 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (61)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1832	S114	甕	胴～底				26.6	ナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	6mm以下の褐灰・にぶい橙・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1833	S129	脚付鉢？	脚？					工具ナデ	ナデ or ミガキ？、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 8	4mm以下の灰・灰白・黒灰・黒・褐色粒、雲母？を含む	良好	
1834	S138	壺	口～底	13.0	3.2	16.6	14.5	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ミガキ、ナデ、指ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の褐・灰褐・灰・灰黒色粒を含む	良好	
1835	S147	脚付鉢？	脚		8.2			ミガキ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の褐・灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1836	P69	壺	口～底	9.1	2.3	14.7	12.0	ハケメ、ナデ、工具ナデ、指オサエ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の褐灰・黄褐・黒褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1837	P47	鉢	口～底	11.4		9.0	12.3	ミガキ	工具ナデ、ミガキ？	赤褐 5 YR 4 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	4mm以下の灰褐・灰白・黒褐色粒を含む	良好	
1838	P46	壺	口～底	5.8		9.3	7.7	ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	3mm以下の灰白色粒を含む	良好	
1839	S28	甕	口～底	(25.6)	5.3	32.7	26.5	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	ナデ、ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	6mm以下の灰白・白・赤褐・黒・褐灰色粒を含む	良好	ふきこぼれの痕あり
1840	S28	甕	口～底	(25.0)	3.9	31.4	(24.9)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	6mm以下の灰・灰白・褐色粒を含む	良好	
1841	S28	甕	口～底	20.2		25.7	18.6	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・白・赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1842	S28	甕	口～底	(19.3)	4.2	26.6	(19.5)	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 8	3mm以下の灰白・赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1843	S28	甕	口～底	20.4	3.1	26.8	21.5	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の灰黄・灰白・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1844	S28	甕	口～胴	(20.7)			(19.2)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の黒・褐灰・灰褐・灰白色粒を含む	良好	
1844	S28	甕	胴～底		4.7	(25.0)		工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の黒・褐灰・灰褐・灰白色粒を含む	良好	外面底部付近に一部工具痕・藁状圧痕あり
1845	S28	甕	口～底	(16.3)		25.5	21.6	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、タタキ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・褐灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1846	S28	甕	口～底	(15.5)	1.9	19.3	(15.7)	ナデ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰・褐灰・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1847	S28	甕	胴～底				28.0	工具ナデ、ナデ	ハケメ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	1mm以下の灰白・赤褐・黒色光沢粒を含む	良好	外面胴部上の方に液体の流れた痕跡あり（ふきこぼれ？）
1848	S28	甕	口～底	(14.0)		15.2	(13.8)	ナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	2mm以下の明褐灰・灰褐・黒褐色粒を含む	良好	
1849	S28	甕	口～底	13.0	4.4	21.5	15.9	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の灰・赤褐・黒色粒を含む	良好	
1850	S28	甕	口～底	15.7	4.5	20.6	18.4	ナデ、工具ナデ、ヨコナデ	ナデ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 6 / 6	明褐 7.5 YR 5 / 6	5mm以下の黒褐・灰白・褐灰・明褐・明赤褐色粒を含む	良好	
1851	S28	壺	口～底	11.0	(4.2)	25.5	19.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	8mm以下のにぶい黄橙・灰白・褐・灰黒・黒色粒を含む	良好	
1852	S28	壺	口～底近	11.5		(26.8)	(21.4)	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ、タタキ、指オサエ	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・明赤褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1853	S28	鉢	口～底	14.0		18.9	15.6	ナデ、指オサエ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	黄橙 10 YR 7 / 8	明黄褐 10 YR 6 / 6	7mm以下の灰褐・黄灰・灰白色粒を含む	良好	
1854	S28	鉢	胴～底		5.3		(17.1)	工具ナデ	ハケメ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の赤褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
1855	S28	鉢	口～底	(15.8)	4.0	16.7	(16.6)	ナデ、工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の褐灰・黒・褐・灰白色粒を含む	良好	
1856	S28	鉢	口～底	(17.7)		18.5		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の褐・灰白・灰・灰黒色粒を含む	良好	
1857	S28	壺	口～胴	17.4			(29.8)	ヨコナデ、ナデ、タタキ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ？（風化著しい）	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の灰褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1858	S28	鉢	口～底	(12.4)		10.0	(8.7)	工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下のにぶい黄橙・にぶい褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1859	S28	鉢	口～底	(10.9)	2.2	8.7	(7.8)	ヨコナデ、ミガキ、風化の為調整不明	ヨコナデ、ミガキ、ナデ、指ナデ？（風化著しい）	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の褐・灰白・にぶい褐色粒を含む	良好	
1860	S28	鉢	口～底近	(7.0)			(7.4)	工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 5 / 3	1mm以下の灰白色粒を含む	良好	

第 70 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (62)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1861	S28	鉢	胴～底		2.9			ナデ、指オサエ	ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	1mm以下の黒褐・灰白色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
1862	S28	鉢	口～底	(15.2)		6.5		ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の白・灰・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1863	S28	壺	口～底	(9.4)	2.8	11.5	10.4	ヨコナデ、ナデ、ミガキ、風化の為調整不明	ヨコナデ、ナデ、ミガキ、風化の為調整不明	明赤褐 5 YR 5 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	1mm以下の灰褐・灰白・褐色粒を含む	良好	
1864	S28	鉢	頸～底		1.4		9.1	工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・灰黒・褐色粒を含む	良好	
1865	S28	手捏	口～底	4.3		2.6		指オサエ、指ナデ	指オサエ、指ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 3	浅黄 2.5 YR 7 / 3	3mm以下の灰褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1866	S28	手捏	口～底	3.7		3.3	3.4	ナデ、指オサエ	指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の黒褐・赤褐色粒を含む	良好	
1867	S28	壺	口～胴・底	29.8	9.2		58.9	鋸歯文、ヨコナデ、ハケメ、刻目貼付突帯、線刻（絵？）、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ、ハケメ、指オサエ、	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の黒褐・赤褐・白色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	外面胴部に線刻画？あり。外面底部に藁状の圧痕あり
1868	S28	高坏	坏～裾					ナデ、ミガキ	ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 8	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・黒・褐色粒を含む	良好	
1869	S28	高坏	坏～裾		(10.0)			ミガキ、穿孔、ヨコナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ、ナデ、穿孔	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	1mm以下の白・灰白・赤褐・透明光沢粒を含む	良好	
1870	S5	甕	口～胴	(21.4)			(23.4)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・黒褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1871	S5	甕	口～底	(16.2)	2.6	19.2	17.9	ナデ	ナデ、指オサエ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	10mm以下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1872	S5	甕	口～底	(17.7)		(21.5)	18.3	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	3mm以下の灰・灰白色粒を含む	良好	
1873	S5	甕	胴～底				(16.6)	工具ナデ、ナデ、タタキ	ナデ、指オサエ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の褐・灰・灰白・黒色粒を含む	良好	
1874	S5	甕	口～胴	(17.8)				ヨコナデ	ヨコナデ、ケズリ	橙 7.5 YR 6 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・黄橙・暗赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	布留系
1875	S5	壺？	胴～底		5.7			ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・灰・赤褐・明赤褐色粒を含む	良好	
1876	S5	鉢	口～底	(9.8)	1.5	6.9		工具ナデ、指オサエ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・暗褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1877	S5	手捏	口～底	(6.2)	2.2	3.4		ナデ	工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	1mm以下の赤褐・灰白・透明光沢粒を含む	良好	
1878	S7	甕	口～頸	(24.7)				ヨコナデ、ハケメ、指オサエ	ハケメ、指オサエ、風化の為調整不明	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	6mm以下の灰白・にぶい褐・灰・黒色粒を含む	良好	
1879	S7	甕	胴～底		3.5		(22.0)	工具ナデ	工具ナデ、指オサエ	明黄褐 10 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1880	S7	高坏	坏	24.7				ヨコナデ、ミガキ、ハケメ	ミガキ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の灰・灰白・褐色粒を含む	良好	
1881	S7	鉢	口～底	(7.2)	2.3	5.3		ナデ	工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の黒褐・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1882	S7	鉢	口～底	(8.9)	2.1	5.5		指オサエ、工具ナデ、ナデ	指オサエ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	2mm以下のにぶい褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1883	S10	大甕	口～胴	(36.4)				ヨコナデ、工具ナデ、タタキ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下のにぶい黄橙・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1883	S10	大甕	胴～底		(9.0)			タタキ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下のにぶい黄橙・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1884	S10	甕	口～底近	22.4	(5.4)	(29.5)	(23.8)	工具ナデ	工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1885	S10	壺	口～胴	(10.7)				ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、指オサエ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・透明光沢粒を含む	良好	
1886	S10	壺	胴～底		3.4		(20.7)	工具ナデ、線刻	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・灰・褐・赤褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	内面に稲籾圧痕あり
1887	S10	脚付鉢	口～底近	(11.1)			(11.2)	ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の黒・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1888	S10	高坏	坏					沈線、ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	2mm以下の灰白色粒を含む	良好	凹線文系土器

第 71 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (63)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1889	S12	甕	口～底	25.3	5.7	38.0	27.8	ハケメ、指オサエ	ハケメ、指ナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄 2.5 Y 7 / 3	5mm以下の灰黄褐・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	内外から砂が検出された
1890	S12	甕	口～底	(28.2)	3.7	33.8	26.3	ナデ	ナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	灰白 2.5 Y 8 / 2	7mm以下の灰白・灰・橙色粒を含む	良好	
1891	S12	鉢	口～底	(9.7)	3.6	7.1		ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1892	S12	鉢	口～胴	(12.2)				櫛描波状文、工具ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	1mm以下の褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1893	S12	壺	胴～底				(7.6)	工具ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐灰・褐・黒色粒を含む	良好	
1894	S17	甕	頸～底		3.5		(17.4)	ナデ、工具ナデ	ハケメ、ナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・白・黒・灰色粒を含む	良好	
1895	S17	甕	口～底近	19.6			19.0	工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1896	S17	甕	口～底	(19.2)	3.6	29.5	(18.8)	ヨコナデ、ナデ、指オサエ、工具ナデ	ヨコナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の灰白・黒・褐灰色粒を含む	良好	
1897	S17	甕	口～底	23.3	4.1	28.8	21.3	ヨコナデ、工具ナデ、タタキ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ、指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の灰黄褐・黄灰・灰白色粒を含む	良好	
1898	S17	甕	口～胴	(21.4)			22.6	ナデ、工具ナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の褐灰・灰白・明褐色粒を含む	良好	
1899	S17	甕	口～底	21.2		29.3	24.0	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 7.5 YR 7 / 6	6 灰白・灰・褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1900	S17	甕	口～底	(13.5)	3.2	18.5	14.2	工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の褐・灰白色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1901	S17	甕	口～底	13.5	2.4	17.4	13.2	ナデ、指ナデ、指オサエ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	6mm以下のにぶい橙・褐灰・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1902	S17	甕	口～底	13.5		17.1	13.2	ナデ、工具ナデ	ナデ、ハケメ、指ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・白・浅黄橙色粒を含む	良好	
1903	S17	鉢	口～底近	16.2				ナデ、タタキ	ナデ、工具ナデ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	橙 2.5 YR 6 / 6	4mm以下の赤褐・灰白・灰色粒を含む	良好	
1904	S17	壺	口～底	14.0		15.7	14.9	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 8	4mm以下の灰白・褐灰・赤褐色粒を含む	良好	
1905	S17	甕	口～底	18.7	2.7	26.7	19.8	ナデ、工具ナデ、ヨコナデ	ナデ、ハケメ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	7mm以下の浅黄橙・灰褐・灰白・橙・黒色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1906	S17	甕	口～底	22.0		32.7	23.5	ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の灰白・褐灰色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1907	S17	甕	口～底	17.2	2.5	25.2	19.0	ナデ、ヨコナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の褐灰・橙・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1908	S17	甕	口～底	25.4		29.7	(23.4)	ヨコナデ、ナデ、指オサエ、工具ナデ、指ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	明黄褐 10 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	1mm以下の灰白・にぶい黄橙色粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1909	S17	甕	口～底	(20.3)		25.5	21.1	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・褐灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1910	S17	甕	口～底	19.6	3.2	21.8	18.7	ナデ、ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の黒・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1911	S17	壺	口～底近	10.8			14.2	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ、指オサエ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰・灰白色粒を含む	良好	
1912	S17	壺	口～底	(10.0)	(1.0)	22.0	(15.9)	ナデ、工具ナデ、ミガキ	工具ナデ、指ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の灰白・褐・にぶい黄橙色粒を含む	良好	
1913	S17	壺	口～底	9.3		24.8	17.1	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰・灰白・褐色粒を含む	良好	
1914	S17	壺	口～胴	12.5			22.1	ヨコナデ、ハケメ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の灰・灰白・褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1915	S17	壺	口～底	(9.2)		9.9	10.0	ヨコナデ、櫛描波状文、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・赤褐・褐灰色粒を含む	良好	
1916	S17	壺	口～底	11.7		10.8	12.9	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄 2.5 YR 6 / 3	5mm以下の灰白・赤褐・褐灰・黒褐色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1917	S17	壺	口～頸	(19.4)				ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、ハケメ	明黄褐 10 YR 7 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	2mm以下の褐・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	

第 72 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (64)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1918	S17	壺	口～底	9.7		23.5	17.7	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の褐灰・褐・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1919	S17	壺	頸～底				21.6	ナデ、工具ナデ	ナデ？工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の白・灰・灰白・透明光沢粒を含む	良好	
1920	S17	壺	口～底	(11.3)	5.7	(34.4)	(26.9)	ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	にぶい橙 5 YR 6 / 4	3mm以下の黒・褐・灰白色粒を含む	良好	
1921	S17	壺	頸～底				23.3	ミガキ、ナデ	工具ナデ、ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の褐・灰白・灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1922	S17	高坏	坏・脚・裾	24.8	(12.8)			ナデ、ミガキ、穿孔	ミガキ、ナデ、指オサエ、指ナデ、工具ナデ、穿孔	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・灰・黒・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
1923	S17	鉢	口～底	17.8		6.1		ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	3mm以下の灰白、褐、褐灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1924	S17	鉢	口～底近	(14.3)				ナデ？、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰白・灰色粒を含む	良好	
1925	S17	鉢	口～底近					ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の褐灰・灰黄色粒を含む	良好	
1926	S17	鉢	口～胴	(14.7)				ヨコナデ、ミガキ	ミガキ	明赤褐 5 YR 5 / 8	明赤褐 5 YR 5 / 8	2mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	布留系
1927	S17	蓋？	口～撮	12.5	4.0	4.2		ナデ	工具ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい褐 7.5 YR 5 / 4	4mm以下の灰白・黒褐色粒を含む	良好	
1928	S18	甕	口～胴	(22.3)			(23.4)	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ハケメ	橙 2.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	7mm以下の灰・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1929	S18	鉢	頸～底		4.7		13.8	工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	8mm以下の褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1930	S18	壺	口～底	(8.7)	1.5	16.4	(12.5)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の暗褐・灰白・にぶい黄褐色粒を含む	良好	
1931	S18	鉢	口～底	(14.6)	4.7	12.9		ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の白・黒・明赤褐・白赤褐混粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1932	S19	甕	口～胴	(22.0)			(21.9)	工具ナデ、タタキ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の黒・赤褐・灰白・灰色粒を含む	良好	
1933	S19	甕	口～底	13.7	5.1	20.3	16.6	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の灰褐・灰白・黒褐色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	木葉底
1934	S19	壺	頸～底		5.7		(16.1)	ナデ	ナデ、工具ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	6mm以下の褐灰・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1935	S19	壺	口～底	15.3	3.9	34.0	28.3	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	4mm以下の白・灰白・灰・白黒混粒を含む	良好	
1936	S19	壺	頸～底近				10.2	ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の暗褐・灰・灰白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
1937	S19	鉢	口～底	(9.0)		7.9	7.0	ナデ	ナデ、ヨコナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の灰・赤褐・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1938	S22	甕	口～底近	(27.2)			(25.2)	ナデ、工具ナデ	指オサエ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	3mm以下の褐灰・褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1939	S22	甕	口～胴	(22.2)			(22.1)	ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の黒・灰白・黄褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1940	S22	壺	胴～底	(9.5)	1.9	(12.0)	(13.5)	ミガキ？（風化著しい）、ミガキ	指オサエ、ナデ？（風化著しい）	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 4	2mm以下の灰白・黒褐色粒を含む	良好	
1941	S22	鉢？	胴～底		1.8		(13.5)	工具ナデ、指オサエ、ナデ、ヨコナデ	指ナデ、ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	微細な灰白・透明光沢粒を含む	良好	内面胴部に鉄銹付着
1942	S22	鉢	口～底	(7.6)	2.9	5.4	(8.4)	ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・明赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1943	S22	鉢	口～底	(14.5)	2.5	8.2		工具ナデ、ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・灰白・赤褐・暗褐色粒を含む	良好	
1944	S22	鉢	口～底	10.6	3.3	8.5		ナデ	ナデ、指ナデ、工具ナデ	淡黄 2.5 Y 8 / 4	灰黄 2.5 Y 6 / 2	3mm以下の灰白色粒、2mmの透明光沢粒を含む	良好	
1945	S22	手捏	口～底	(7.2)	2.4	4.6		ナデ、指オサエ	ナデ、ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1946	S22	鉢	口～胴	(8.8)				ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の浅黄橙・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1949	S23	甕	底		2.9			工具ナデ、ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	

第 73 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (65)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1950	S23	甕	胴～底		2.8			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	4mm以下の暗灰・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1951	S23	甕	底		1.2			ナデ、工具ナデ	工具ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰白・褐灰・にぶい黄褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1952	S23	甕	底		(3.6)			工具ナデ、ナデ	指ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1953	S23	手捏	口～底	(6.3)		4.4	7.0	指オサエ、指ナデ	ヨコナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の褐・灰黄・灰白・黒褐色粒を含む	良好	
1954	S25	甕	口～底	17.5	1.9	23.5	17.4	ヨコナデ、ナデ、タタキ、工具ナデ	工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰褐・灰白・明褐灰色粒を含む	良好	
1955	S25	甕	頸～胴				(19.4)	ハケメ、工具ナデ	工具ナデ、ハケメ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の灰白・灰・白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1956	S25	甕	胴～底		1.8		(20.9)	工具ナデ、指オサエ	ハケメ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	明黄褐 10 YR 6 / 6	2mm以下の灰白・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
1957	S25	甕	胴～底		5.7			ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の灰・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
1958	S25	甕	胴～底		4.5			ナデ、指オサエ	ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい橙 7.5 YR 7 / 3	4mm以下のにぶい褐・灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1959	S25	甕	口	(13.6)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、ケズリ	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・黒褐・透明光沢粒を含む	良好	
1960	S25	鉢	口～底近	16.8				ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	5mm以下の灰白・白・灰色粒を含む	良好	
1961	S25	鉢	口～底	11.9	3.8	5.0		ナデ、工具ナデ、指オサエ	ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰褐・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
1962	S25	鉢	口～底	9.0	3.4	5.7		ナデ	ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	明赤褐 5 YR 5 / 6	5mm以下の白・灰・灰白・黒・灰色粒を含む	良好	
1963	S25	鉢	胴～底		2.5			タタキ、ナデ？	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 8	橙 5 YR 6 / 8	3mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1964	S26	壺	口～頸	(14.0)				ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	橙 5 YR 7 / 8	橙 5 YR 6 / 8	4mm以下の褐灰色粒を含む	良好	
1965	S26	鉢	口～底近	(8.4)				ナデ	ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	明黄褐 10 YR 7 / 6	3mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1966	S31	甕	口～底	19.5	3.0	28.0	21.5	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の灰白・白・灰・にぶい赤褐色粒を含む	良好	
1967	S31	甕	口～底	(14.3)	2.1	16.0	(14.2)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	4mm以下の灰白・褐・褐灰・明赤褐色粒を含む	良好	
1968	S31	壺	胴～底		3.7			タタキ、ナデ	ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	黄橙 10 YR 8 / 6	3mm以下の灰白・灰色粒を含む	良好	
1969	S31	鉢	口～底	(14.1)		5.1		ヨコナデ、ミガキ？（風化著しい）	ミガキ	灰白 10 YR 8 / 2	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1970	S31	高坏	坏～裾	11.0	(12.0)	10.5		ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ミガキ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
1971	S31	高坏	坏～裾	(10.0)	(10.6)	8.1		ミガキ、透孔	ミガキ、工具ナデ、透孔	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	6mm以下の褐・橙・灰・灰白色粒を含む	良好	
1972	S31	高坏	坏	35.7				ナデ、ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の橙・褐灰・灰白・明赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1973	S33	甕	口～底	(25.1)	3.4	33.2	26.7	ナデ、風化の為調整不明、タタキ	ナデ（風化著しい）、指ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・灰・にぶい赤褐・黒褐色粒を含む	良好	
1974	S33	甕	口～底	(20.0)	5.4	27.6	(22.5)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、指オサエ、指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の白・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1975	S33	甕	口～胴	(20.4)			(18.4)	ヨコナデ、ハケメ？	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下のにぶい橙・褐灰・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1976	S33	高坏	坏	(33.0)				ナデ（風化著しい）	ナデ（風化著しい）	黄橙 7.5 YR 8 / 8	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の灰白・赤褐色粒を含む	良好	
1977	S33	高坏	脚					工具ナデ、ミガキ	ナデ	黄橙 10 YR 8 / 6	明黄橙 10 YR 7 / 6	3mm以下の暗赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1978	S38	壺	口～胴	(15.8)				ナデ、ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ、ケズリ	灰白 2.5 Y 8 / 2	橙 5 YR 7 / 6	2mm以下の褐灰・灰白・橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1979	S38	壺	口～底	8.6		12.4	13.0	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	灰褐 7.5 YR 5 / 2	4mm以下の褐灰・灰白・褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1980	S38	鉢	胴～底		3.6			工具ナデ、ナデ、指ナデ、指オサエ	ナデ	にぶい橙 5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	6mm以下のにぶい赤褐・褐灰・灰白・色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	

第 74 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (66)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
1981	S38	鉢	口～底	(11.1)	3.1	3.7		ナデ、風化の為調整不明、工具ナデ	ナデ、風化の為調整不明、工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰白・橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
1982	S38	鉢	頸					ミガキ	ミガキ	橙 2.5 YR 6 / 6	橙 2.5 YR 6 / 6	1mm以下の褐灰・灰白色粒を含む	良好	
1983	S39	甕	口～底	(17.7)		24.1	(17.9)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の黒・灰白・暗赤褐色粒を含む	良好	
1984	S39	鉢	口～胴	(15.2)			(14.7)	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	橙 5 YR 7 / 8	黄橙 10 YR 8 / 6	3mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	良好	
1985	S39	脚付鉢？	胴					ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 8	3mm以下のにぶい黄褐・灰白色粒を含む	良好	
1986	S39	甕	胴～底		3.4		(19.3)	ナデ、工具ナデ	工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の暗褐・赤褐・黒・白・灰色粒を含む	良好	
1987	S39	壺	口～底	8.7	1.0	10.0	7.8	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	灰黄褐 10 YR 4 / 2	3mm以下の黒褐・褐・淡黄・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
1988	S39	壺	口～胴	(11.4)				工具ナデ、ナデ	工具ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下のにぶい黄褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
1989	S39	壺	口～底近	(15.4)			(25.6)	ヨコナデ、ミガキ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ（風化ぎみ）	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
1990	S39	台付鉢	坏～脚近					工具ナデ、刺突文	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	1mm以下の赤褐・黒色粒を含む	良好	２箇所の穿孔あり、赤色顔料塗布
1991	S40	甕	口～底	23.8	4.6	30.5	24.0	ハケメ、タタキ、工具ナデ？	ヨコナデ？、ハケメ	黄橙 10 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・灰褐色粒を含む	良好	
1992	S40	甕	口～底	(19.2)		21.1	(17.8)	ヨコナデ、工具ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・透明光沢粒を含む	良好	
1993	S40	甕	口～底	(19.5)	4.1	(23.4)	(20.2)	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 7 / 6	3mm以下の黒・褐・灰白色粒を含む	良好	
1994	S40	甕	口～胴	(21.0)			(21.4)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の灰白・黒褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1995	S40	甕	口～底	(22.1)	4.6	(27.3)	20.7	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐・黒褐・褐灰色粒を含む	良好	
1996	S40	甕	口～底	(18.0)	3.6	24.9	20.3	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の赤褐・褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
1997	S40	甕	口～底	(21.6)	4.3	26.2	(23.5)	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	4mm以下の褐灰・褐・灰白色粒を含む	良好	
1998	S40	甕	口～底近	23.0			23.5	ヨコナデ、ナデ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の褐・灰白・灰色粒を含む	良好	
1999	S40	鉢	口～底近	(13.7)			(14.7)	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の灰黄褐・黒褐・灰白色粒を含む	良好	
2000	S40	甕	口～底近	(23.3)			22.3	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・褐・黒褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
2001	S40	甕	口～胴	(22.1)			(20.3)	ヨコナデ、ナデ	ハケメ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の明赤褐・黒・灰白・灰色粒を含む	良好	
2002	S40	甕	口～胴	16.6			14.4	ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の赤褐・灰・黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2003	S40	鉢	口～底	16.0		15.8	15.9	指オサエ、工具ナデ、ナデ	工具ナデ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	2mm以下の灰褐・黒褐・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
2004	S40	甕	口～底近	16.3			18.3	ナデ	ナデ、指ナデ、指オサエ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の灰白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
2005	S40	甕	口～底	15.8		17.1	15.5	ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の灰・堰褐色粒を含む	良好	
2006	S40	壺	胴～底				(25.0)	ハケメ、工具ナデ	ハケメ、指オサエ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
2007	S40	大甕？	胴～底		8.3			風化の為調整不明、指オサエ？、ナデ	工具ナデ、指オサエ	淡黄 2.5 Y 8 / 3	淡黄 2.5 Y 8 / 3	3mm以下の灰白・浅黄色粒を含む	良好	
2008	S40	壺	口～頸	(14.2)				ヨコナデ？、工具ナデ？、刻目貼付突帯、ハケメ？（風化ぎみ）	ヨコナデ？（風化ぎみ）、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の赤褐・灰褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
2009	S40	壺	口・頸～底	(10.5)		(27.8)	(20.4)	ヨコナデ、ハケメ、ミガキ	ヨコナデ、指オサエ、ハケメ、指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰白・にぶい赤褐・褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2010	S40	壺	口～底	(10.0)		21.8	(17.0)	ナデ、タタキ、工具ナデ	ハケメ、指ナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	5mm以下の灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2011	S40	壺	口～底	(10.8)		13.3	11.2	ナデ、ミガキ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、風化の為調整不明	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	4mm以下の白・黒・灰白・赤褐色粒を含む	良好	

第 75 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (67)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
2012	S40	壺	口～底	10.6		11.9	10.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の灰白・黒・褐色粒を含む	良好	
2013	S40	壺	口～胴	(11.7)			(11.2)	工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐・灰褐色粒を含む	良好	
2014	S40	壺	頸～底				(12.5)	ミガキ	ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	灰白 10 YR 8 / 2	3mm以下の褐灰・赤褐・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
2015	S40	壺	胴～底		1.9		7.0	工具ナデ、ナデ	指オサエ、工具ナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の白・明赤褐・暗褐色粒を含む	良好	
2016	S40	鉢	口～底	(16.7)	6.4	(10.6)		ヨコナデ、ナデ、指ナデ、指オサエ	ヨコナデ、ハケメ、風化ぎみ、指オサエ？	橙 5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の灰白・赤褐・黒褐色粒を含む	良好	
2017	S40	鉢	口～底	(9.4)	4.0	(8.8)		ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下の赤褐・灰白・黒色粒を含む	良好	
2018	S40	鉢	口～底	(9.6)	3.7	7.9		ナデ	ハケメ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
2019	S40	高坏	坏	(17.2)				ナデ、工具ナデ？ミガキ？	ナデ、工具ナデ、ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の明赤褐・暗褐色粒を含む	良好	
2020	S40	鉢	口～底	(16.5)	1.1	4.8		ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 6 / 6	3mm以下の褐・黒褐・にぶい黄褐色粒を含む	良好	
2021	S40	鉢	胴～底					ミガキ	ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	橙 2.5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・浅黄色粒を含む	良好	内面底部中央付近に不明圧痕あり
2022	S40	鉢	口～底	(10.0)		3.7		ヨコナデ、工具ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰白・赤褐・黒色粒を含む	良好	
2023	S40	鉢	口～底	9.7	4.8	4.2		指オサエ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・灰白・褐・黄褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
2024	S41	甕	口～底	(23.4)	(2.7)	24.0	(21.1)	工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の灰白・褐・灰・赤褐色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
2025	S41	甕	口～底	16.6		17.8	14.5	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	明赤褐 5 YR 5 / 8	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
2026	S41	甕	口～底	11.9	4.4	17.2	11.8	ナデ、工具ナデ	工具ナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 8	6mm以下の灰白・褐・灰色粒を含む	良好	
2027	S41	壺	頸～底		3.6		(10.6)	ミガキ	ハケメ、ヨコナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	4mm以下の灰白・赤褐・明赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2028	S41	鉢	口～底	9.8		6.6	6.8	ナデ、工具ナデ、ミガキ	ナデ？（風化が著しい）、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 3	2mm以下の灰白・赤褐・灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2029	S41	鉢	口～底	11.1	1.8	7.1	6.6	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 6	2mm以下の白・明赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2030	S41	鉢	口～底	14.6		5.4		ミガキ、ケズリ	ミガキ	明黄褐 10 YR 6 / 6	明黄褐 10 YR 6 / 6	1mm以下の灰白・暗褐色粒を含む	良好	布留系
2031	S41	鉢	口～底	(10.5)	(2.6)	(4.7)		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	2mm以下の褐灰・灰白色粒を含む	良好	
2032	S41	壺	口～底	(3.1)	2.9	5.7	4.4	指オサエ、工具ナデ、ミガキ、ナデ	指オサエ、ナデ	灰黄褐 10 YR 5 / 2	灰黄褐 10 YR 5 / 2	3mm以下の黒褐・灰白色粒を含む	良好	
2033	S42	壺	口～胴	(3.5)			(7.9)	風化の為調整不明、ミガキ	風化の為調整不明、指オサエ、ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下のにぶい赤褐・灰白・褐灰色粒を含む	良好	
2034	S42	壺 / 甕	頸近					ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の黒褐・灰白色粒を含む	良好	山陰系
2035	S42	鉢	口～底	(11.3)		10.0	10.9	ヨコナデ、ミガキ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の赤褐・灰白・黒褐色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
2036	S43	甕	口～底	(22.3)	4.7	24.1	20.6	ヨコナデ、ナデ、ハケメ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・灰白・黒・明赤褐色粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
2037	S43	甕	口～底	(12.6)		16.3	(13.7)	ナデ、タタキ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下のにぶい黄褐・灰白・黒色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2038	S43	壺？	口～底	(11.2)	2.9	19.1	(15.3)	ヨコナデ、指オサエ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の褐灰・にぶい赤褐・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	内面胴部に圧痕か？
2039	S43	壺	口～底	(10.2)		13.8	11.0	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	1mm以下の灰白・明赤褐・黒・透明光沢粒を含む	良好	
2040	S43	鉢	口～底	(13.1)	2.2	7.0		工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の灰・灰白・褐色粒を含む	良好	
2041	S43	鉢	口～底	12.0		8.7		工具ナデ	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰・灰白・褐色粒を含む	良好	
2042	S43	鉢	胴～底		3.3			ナデ、指オサエ	工具ナデ	浅黄 2.5 Y 8 / 4	浅黄 2.5 YR 7 / 3	3mm以下の白・赤褐・灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	

第 76 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (68)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
2043	S43	高坏	脚					ナデ？（風化著しい）	ナデ？（風化著しい）	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm以下の灰褐・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
2044	S44	甕	口近～底		4.4		(14.2)	ナデ、工具ナデ	工具ナデ、指オサエ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	5mm以下の灰黄褐・灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
2045	S44	甕	胴～底		(4.2)			風化著しい、工具ナデ、指オサエ	工具ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	灰黄 2.5 Y 7 / 2	5mm以下の褐灰・にぶい赤褐・灰白色粒を含む	良好	
2046	S44	鉢	口～底	(8.8)	3.6	10.4	(9.6)	ナデ	工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 3	4mm以下の灰白・黄灰・にぶい赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2047	S44	鉢	胴～底		4.5			工具ナデ、指オサエ、ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	4mm以下のにぶい黄橙・灰白・橙色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2048	S44	脚付鉢	胴～脚					ナデ、刻目貼付突帯	指ナデ	橙 5 YR 6 / 8	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・白・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2049	S44	壺？	胴～底		5.9			工具ナデ、指ナデ、指オサエ、ナデ	ナデ、指ナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の明赤褐・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2050	S44	鉢	口～底	(9.2)	4.3	(7.0)		指オサエ、ナデ	指オサエ、指ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の褐灰・灰褐・灰白色粒を含む	良好	
2051	S44	鉢	口～底	(7.2)	3.5	5.5		ナデ、指ナデ、指オサエ	指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下のにぶい橙・灰白色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2052	S44	高坏	坏	(30.5)				ナデ、ミガキ、風化著しい	ミガキ、風化著しい	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 1 YR 7 / 4	4mm以下の灰白・灰・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
2053	S44	高坏	裾		24.2			ミガキ、ヨコナデ	風化ぎみ、ミガキ	黄橙 10 YR 8 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・白・黒色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
2054	S50	甕	口～胴	(18.9)			(18.2)	ヨコナデ、タタキ	ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の褐・灰・灰白色粒を含む	良好	
2055	S50	壺	頸～底		4.1		(19.6)	ハケメ、ミガキ、工具ナデ	指オサエ、指ナデ、工具ナデ、ミガキ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 4	明黄褐 10 YR 6 / 6	4mm以下の灰白・灰色粒を含む	良好	
2056	S50	甕	口～底	(20.8)		25.5	(20.2)	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ、被熱による劣化の為調整不明	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の灰白・黒褐色粒、微細な黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2057	S50	壺	口					ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の黒・灰白色粒、2mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2058	S50	壺	頸～胴					ナデ、刻目貼付突帯、工具ナデ、ミガキ	工具ナデ、ナデ、ハケメ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	灰白 10 YR 7 / 1	5mm以下の灰白・黒褐色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2059	S50	壺	口～胴	(8.0)				ナデ、工具ナデ、ハケメ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	灰黄褐 10 YR 6 / 2	2mm以下の灰白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
2060	S50	壺	口近・頸～胴				(11.2)	ミガキ	ヨコナデ、ハケメ、指ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の褐・灰色粒を含む	良好	
2061	S50	高坏	坏					風化の為調整不明	ミガキ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	1mm以下の浅黄橙・灰白・透明光沢粒を含む	良好	
2062	S50	高坏	脚		12.6			ナデ、ミガキ、透孔、工具ナデ	工具ナデ、ヨコナデ、透孔、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下のにぶい橙・褐灰・灰白色粒を含む	良好	
2063	S50	鉢 / 高坏	口～胴	(14.3)				ナデ、工具ナデ？（風化の為調整）	風化の為調整不明、工具ナデ？（風化の為調整不明）	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・灰白・褐色粒を含む	良好	
2064	S52	甕	口～胴	(22.2)			(22.4)	ヨコナデ、ナデ、ミガキ	指ナデ、ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	5mm以下の灰白・明赤褐色粒、3mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2065	S52	甕	胴～底		4.0			工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	4mm以下の褐灰・暗赤褐・灰白色粒を含む	良好	外面底部に桃核状の圧痕あり
2066	S52	手捏	口～底	3.4	1.4	3.1		指ナデ、ナデ	指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	2mm以下の褐灰・明褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2067	S52	甕	頸～胴				(26.0)	ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	3mm以下の褐灰・灰白・黒褐色粒を含む	良好	
2068	S52	高坏	坏					ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	2mm以下の灰白・褐灰・黒褐色粒を含む	良好	
2069	S52	高坏	坏	16.4				ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	黄橙 7.5 YR 7 / 8	4mm以下の明赤褐・灰白・褐灰色粒を含む	良好	
2070	S52	高坏	坏～裾					ナデ	風化の為調整不明、指ナデ、ナデ	橙 5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	4mm以下のにぶい橙・明赤褐・灰白色粒を含む	良好	

第 77 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (69)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
2071	S52	壺	口		(17.4)			凹線文、ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	3mm以下の褐灰・にぶい赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
2072	S52	壺	口～胴	(17.9)			(34.3)	ナデ、工具ナデ、ハケメ、ナデ？（風化著しい）	ナデ、ハケメ、工具ナデ	橙 5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の灰・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
2073	S55	壺	口	(24.4.)				櫛描波状文、ナデ？（風化の為調整不明）	ヨコナデ、ナデ？（風化の為調整不明）	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 3	1mm以下の白・赤褐・灰色粒を含む	良好	
2074	S55	鉢	口～底近	(12.6)			(11.6)	工具ナデ	ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・灰白・にぶい褐・黒色粒を含む	良好	
2075	S56	甕	口～胴	(24.8)			(25.0)	ヨコナデ、ナデ、工具ナデ、風化ぎみ	ヨコナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の白・暗褐色粒を含む	良好	
2076	S56	甕	胴～底		1.4		25.8	ナデ、ミガキ	工具ナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰褐・褐灰・灰白・橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2077	S56	甕	口～底近	(22.6)			(25.0)	ヨコナデ、工具ナデ、被熱による風化の為調整不明	ヨコナデ、ナデ	にぶい黄褐 10 YR 5 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	5mm以下の灰白・褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2078	S56	甕	口～胴	(26.7)			(26.8)	ヨコナデ、ナデ、風化著しい	ヨコナデ、ナデ、風化著しい	浅黄橙 10 YR 8 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	5mm以下の白・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2079	S56	甕	口～胴	(17.0)			18.2	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	6mm以下の白・黄褐色粒を含む	良好	
2080	S58	甕	口～胴・胴～底	(15.6)			(17.1)	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	ヨコナデ、ケズリ、工具ナデ？（風化の為調整不明）	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	2mm以下の黒・褐・灰白・灰・黒色光沢粒を含む	良好	
2081	S58	甕	口～底	166	3.2	26.0	21.0	ヨコナデ、タタキ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	橙 5 YR 6 / 6	5mm以下の明赤褐・灰白・褐灰色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2082	S58	甕	口～底	(18.8)	3.3	19.8	17.4	ヨコナデ、工具ナデ、タタキ、ナデ	ヨコナデ、ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	5mm以下の褐灰・にぶい黄褐・灰白色粒を含む	良好	
2083	S58	壺	口～底	(19.1)		16.6	28.3	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	4mm以下の赤褐・灰白・褐灰・にぶい黄橙色粒を含む	良好	
2084	S58	壺	頸～底				(11.5)	ミガキ	ハケメ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	灰 5 Y 4 / 1	1mm以下の灰白・褐・灰色粒を含む	良好	
2085	S58	鉢	口～底	(7.9)	(2.8)	5.5		指オサエ、ナデ	指オサエ、指ナデ	浅黄 2.5 Y 7 / 4	浅黄 2.5 YR 7 / 4	2mm以下の暗褐・白・灰色粒を含む	良好	
2086	S58	鉢	口～底	(18.8)	5.8	8.9		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	橙 7.5 YR 7 / 6	6mm以下の灰・赤褐・褐色粒を含む	良好	
2087	S58	鉢	口～胴	(18.5)				ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	にぶい黄褐 10 YR 7 / 4	にぶい黄褐 10 YR 7 / 4	2mm以下の暗褐・白色粒を含む	良好	
2088	S58	鉢	口～底	(15.2)				ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、ナデ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	1mm以下の白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	内面に赤色顔料塗布
2089	S80	甕	胴～底		(5.8)			ナデ、指オサエ	ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	3mm以下の灰白・灰・赤褐・白黒混粒を含む	良好	外面底部付近に不明圧痕・底部に藁状圧痕あり
2090	S80	甕	胴～底		5.2			タタキ、ナデ、指オサエ	ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	黒 10 Y 2 / 1	3mm以下の灰白・灰・赤褐色粒を含む	良好	
2091	S80	壺	頸～底		(5.0)		(19.2)	ミガキ、ナデ	指ナデ、工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	黒褐 2.5 Y 3 / 1	5mm以下の黒・灰・赤褐色粒を含む	良好	
2092	S80	壺	口					浮文、ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	3mm以下の明赤褐・褐灰・灰白色粒を含む	良好	凹線文系土器
2093	S80	壺	口	(17.0)				凹線文、ヨコナデ、ハケメ	ヨコナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	2mm以下の橙・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
2094	S80	鉢	口～底	(13.2)	3.7	11.8		ナデ、指オサエ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	明黄褐 10 YR 7 / 6	4mm以下の褐灰・明褐灰・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2095	S80	鉢	口～底	(22.5)	4.3	(11.3)		ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指オサエ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	浅黄 2.5 Y 8 / 3	3mm以下の赤褐・褐灰・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2096	S81	甕	口～底	(25.2)	4.4	28.1	27.7	ナデ、タタキ	ナデ、指オサエ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	4mm以下の灰・灰白・赤褐色粒を含む	良好	
2097	S81	甕	胴～底		(5.1)			ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	5mm以下の灰・灰白・赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	外面底部に藁状圧痕あり
2098	S81	甕	口～底近	(20.4)			(18.2)	ヨコナデ、指オサエ、ハケメ、ナデ	ヨコナデ、指オサエ、ハケメ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	6mm以下の灰褐・灰白色粒、微細な黒色光沢粒を含む	良好	
2099	S81	甕	口～胴	(13.4)				ヨコナデ、ナデ、工具ナデ	ヨコナデ、ケズリ、ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・暗赤褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	

第 78 表　弥生時代～古墳時代　土器観察表 (70)

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法・調整・文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
2100	S81	鉢	口～底	(15.6)	(3.0)	6.7		ヨコナデ、指ナデ、工具ナデ、ミガキ、指オサエ、ナデ	ヨコナデ、ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	淡黄 2.5 Y 8 / 3	5mm以下の褐灰・浅黄橙色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2101	S81	鉢	口～底	11.7		3.8		ミガキ、工具ナデ、風化の為調整不明	ミガキ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	橙 7.5 YR 6 / 6	8mm以下の明赤褐・灰白・黒・赤褐色粒、1mm以下の黒色光沢粒を含む	良好	
2102	S81	鉢	口	(16.8)				ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	微細な黒色光沢粒を含む	良好	布留系模倣か？
2103	S81	鉢	口～底	(10.9)	0.9	10.7	11.4	ヨコナデ、工具ナデ	ヨコナデ、工具ナデ、指ナデ、指オサエ	明黄褐 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	2mm以下の灰白・灰黄褐・褐・黒色粒を含む	良好	
2104	S81	鉢	口～底	(12.3)	1.5	(9.4)	11.9	ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、指ナデ	橙 5 YR 6 / 6	暗灰黄 2.5 Y 5 / 2	3mm以下の灰白・褐灰色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2105	S81	鉢	口～底	11.0	4.6	8.8		ヨコナデ、ミガキ、ナデ	ヨコナデ、ミガキ	橙 7.5 YR 6 / 6	オリーブ黒 5 Y 3 / 1	3mm以下の褐灰・灰白・黄橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2106	S81	鉢	口～底	(10.6)	2.3	9.7		ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	ヨコナデ、指ナデ、指オサエ、ナデ	橙 5 YR 6 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の褐灰・灰白・赤色粒、2mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2107	S81	鉢	口	(15.3)				ミガキ	ミガキ	橙 5 YR 6 / 6	橙 5 YR 6 / 6	1mm以下の灰白色粒を含む	良好	布留系
2108	S81	壺	口～頸	(10.6)				ナデ、ミガキ	ナデ、ハケメ、ミガキ	赤 10 R 5 / 6	赤 10 R 5 / 6	3mm以下の灰・灰白・明堰褐・黒色粒を含む	良好	両面に朱塗りあり
2108	S81	壺	頸～胴				(12.6)	ミガキ	ハケメ	明赤褐 2.5 YR 5 / 6	橙 5 YR 6 / 6	3mm以下の灰白・黒色・灰・赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	外面と内面頸部に朱塗りあり
2109	S81	壺	口～底	(3.7)				ミガキ	ナデ	明黄橙 10 YR 7 / 6	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	4mm以下の淡橙・灰白・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
2110	S81	壺	口	(16.6)				櫛描波状文、ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ハケメ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1mm以下の赤褐・灰白・灰色粒を含む	良好	
2111	S81	壺	口～胴	19.2			(22.9)	櫛描波状文、ヨコナデ、工具ナデ、ミガキ？（風化の為調整不明）、ミガキ	ヨコナデ、指ナデ、風化の為調整不明	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	5mm以下の灰白・にぶい橙・灰・赤褐色粒を含む	良好	
2112	S81	壺	口～胴	(20.0)			40.4	ナデ、工具ナデ	ナデ、工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	5mm以下の灰褐・黄灰・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2113	S82	甕	口～底	(15.1)	5.4	19.9	15.1	ヨコナデ、ナデ、指ナデ、指オサエ	ヨコナデ、工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	2mm以下の灰白・にぶい赤褐・黒色粒を含む	良好	
2114	S82	壺	頸～底		5.0		21.2	工具ナデ、ミガキ、ナデ	工具ナデ、ナデ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	橙 7.5 YR 7 / 6	7mm以下の灰白・橙色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2115	S82	甕	胴～底		4.0			工具ナデ、ナデ	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい黄 2.5 Y 6 / 3	3mm以下の白・灰白色粒、1mm以下の黒色光沢粒・透明光沢粒を含む	良好	
2116	S82	鉢	口～底	(9.1)	3.5	7.7	(9.4)	ナデ	ナデ	浅黄 2.5 Y 8 / 3	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	2mm以下の灰白・灰・暗褐色粒を含む	良好	
2117	S37	甕	口～底	(21.1)	(2.4)	21.9	(20.7)	ナデ、タタキ	ヨコナデ、ナデ、ハケメ、指ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 7.5 YR 7 / 6	3mm以下の灰白・灰・暗褐色粒を含む	良好	
2118	S37	壺	頸～底		(5.2)		(5.2)	ミガキ	ハケメ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	3mm以下の灰・灰白・赤褐・暗褐色粒を含む	良好	
2119	S37	壺	口～底	(9.6)	2.2	11.6	(11.3)	工具ナデ、ミガキ	工具ナデ、ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	橙 5 YR 7 / 6	3mm以下の灰・灰白・暗褐色粒を含む	良好	
2120	S60	有孔鉢	脚？		(18.3)			ナデ、工具ナデ、透孔	工具ナデ、指ナデ、透孔、ナデ、指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	黄灰 2.5 Y 4 / 1	4mm以下の灰・灰白・赤褐・明赤褐色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
2121	S61	甕	口～胴	(14.9)				ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、工具ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	6mm以下の灰白・明褐色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2122	S61	壺	胴～底		(5.3)			工具ナデ、ナデ	工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 7 / 4	浅黄 2.5 Y 7 / 3	3mm以下の褐灰・灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	
2123	F20	壺	口	(15.4)				ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	浅黄橙 7.5 YR 8 / 6	3mm以下の褐・灰白色粒を含む	良好	
2124	G20	脚付鉢	胴～脚近					刻目貼付突帯	工具ナデ、ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	暗灰黄 2.5 Y 5 / 2	3mm以下の灰白色粒、1mm以下の透明光沢粒を含む	良好	

第 79 表　弥生時代～古墳時代　土製品一覧表

No	出土地点		器種	部位	法量(cm) 最大長	最大幅	最大高	最大厚	手法・調整・文様等 外面	内面	色調 外面	内面	胎土	焼成	備考
21	1-	SA4	焼粘土塊	-	3.7	3.6	-	2.2	-	-	赤褐 2.5 YR 4 / 8	赤褐 2.5 YR 4 / 8	微細な光沢粒を多く含む	良好	
59	1-	SA10	土器片加工品	-	2.0	1.7	-	0.6	工具ナデ	ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	微細な光沢粒を多く含む	良好	
60	1-	SA10	土器片加工品	-	2.6	2.1	-	0.7	工具ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6	浅黄橙 10 YR 8 / 4	2mm 以下の灰・灰白・黒色光沢粒を少量含む	良好	
61	1-	SA10	土器片加工品	-	3.2	1.9	-	0.8	ナデ	ハケメ	浅黄橙 10 YR 8 / 4	浅黄橙 10 YR 8 / 4	1mm 以下の赤・黒色光沢・透明光沢粒を含む	良好	
188	1-	SA20	杓子形土製品	柄～杓子部	6.7	5.3	5.4	-	指オサエ、指ナデ	指オサエ、指ナデ	浅黄橙 10 YR 8 / 3	灰黄 2.5 Y 7 / 2	2mm 以下の褐灰・明褐・灰白色粒、微細な光沢粒を含む	良好	
189	1-	SA20	土器片加工品	-	3.5	1.8	-	0.8	ナデ	ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	1mm 以下の灰白・褐灰色粒を少量、微細な光沢粒を多く含む	良好	
419	1-	一括	円盤状土製品	-	11.2	9.6	-	1.3	ナデ	ナデ	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	明赤褐 2.5 YR 5 / 8	1mm 以下の白色粒を少量含む	良好	
569	1 拡 -	S609	舟形土製品	船首～舟央部	10.0	8.1	4.3	1.2	指オサエ、指ナデ	指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	褐灰 10 YR 5 / 1	3mm 以下の黒色光沢粒、1mm 以下の褐・灰白・透明光沢粒を含む	良好	
				船尾部	2.8	3.3	2.9	1.5							
570	1 拡 -	S609	杓子形土製品	杓子部	10.3	6.5	7.0	4.0	指オサエ、指ナデ	指オサエ、指ナデ	にぶい赤褐 5 YR 5 / 4	灰褐 5 YR 4 / 2	3㎜以下の黒・灰・乳白色粒を含む	良好	
684	1 拡 -	一括	杓子形土製品	ほぼ完	13.2	6.2	6.7	3.2	指オサエ、指ナデ、工具ナデ	指オサエ、指ナデ、工具ナデ	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	明黄褐 10 YR 6 / 6	2㎜以下の灰白・褐灰色粒、透明光沢粒を含む	良好	
874	2-	S3011	不明土製品		10.0	4.2	5.2	0.7	指オサエ、指ナデ	指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3	にぶい黄橙 10 YR 6 / 3	2mm 以下の赤色粒、1mm 以下の黒色光沢粒を含む	良好	鳥形？
1117	3-	S127	土玉		2.0	1.5	-	0.7	ミガキ	穿孔	橙 2.5 YR 6 / 6		1mm 以下の灰白色粒を少量含む	良好	
1183	3-	S155	土製勾玉	ほぼ完	5.9	3.2	-	2.1	ミガキ？	-	褐灰 10 YR 4 / 1		4mm 以下の浅黄橙、1mm 以下の透明光沢粒を少量含む	良好	
1207	3-	S156	土製勾玉		3.3	1.4	-	1.2	風化により不明	-	灰白 10 YR 8 / 2		1mm 以下の灰白・黒色光沢粒を少量含む	良好	
1560	4-	S30	杓子形土製品	柄～杓子部	14.1	6.3	7.9	3.0	工具ナデ、指オサエ、指ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 6 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	2㎜以下の灰白・黒赤褐色粒、1㎜以下の透明光沢粒を含む	良好	
1608	4-	S141	杓子形土製品	柄部	9.0	2.7	-	2.2	工具ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 3		2mm 以下の灰白・明赤褐、1mm 以下の透明光沢粒を含む	良好	
1744	4-	S164	円盤状土製品						ナデ	ナデ	橙 7.5 YR 6 / 6	橙 7.5 YR 6 / 6	1㎜以下の褐・灰白・透明光沢粒を含む	良好	外面にわら状圧痕あり
1745	4-	S164	杓子形土製品	柄部	8.4	2.9	-	2.6	工具ナデ	工具ナデ	橙 7.5 YR 7 / 6		2mm 以下の灰白・明赤褐・黒色粒を含む	良好	
1791	4-	S190	土玉	完	-	1.6	-	1.5	ナデ？	-	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4		精良	良好	
1947	5-	S22	紡錘車	完	4.7	4.6	-	0.8	ハケメ？	ハケメ、ナデ	にぶい褐 7.5 YR 5 / 3	橙 7.5 YR 6 / 6	1㎜以下の灰白・褐灰色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	
1948	5-	S22	杓子形土製品	柄部	6.7	3.7	4.8	2.6	工具ナデ	指オサエ	にぶい黄橙 10 YR 7 / 4	にぶい橙 7.5 YR 6 / 4	1㎜以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を含む	良好	

第 80 表　石器計測表 (1)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2125	1		SA4	32	台石	砂岩	31.7	16.4	10.9	7700.0	1/4	左右上端部に煤状の黒色付着物。裏面右側縁は被熱による赤化。正面は広く磨り面として利用。裏面は中央部分に磨りによる親指大の凹みと敲打によると思われる６つの丸い凹みが観察される。
2126	1		SA4	20	磨石	砂岩	9.3	5.3	4.4	222.6	1/3	欠損大きく風化著しい。被熱による赤化。表面左側に線状の凹みが観察される。
2127	1		SA4	47	敲石	尾鈴山酸性岩類	13.6	11.1	6.6	1548.8	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。正面中央部分に強い敲打痕。
2128	1		SA6		石包丁	ホルンフェルス	3.6	6.1	0.7	19.9	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。両端に研磨された浅い抉りを有する。
2129	1		SA6	40	磨石	尾鈴山酸性岩類	8.5	7.2	3.9	358.2	1/3	断面楕円形の楕円礫。表裏両面が磨り面。
2130	1		SA7		台石	砂岩	28.6	20.0	11.0	6360.0	1/4	風化著しいが正面平坦部は磨られた痕跡がある。下半部を大きく欠損する。上端は被熱による赤化あり。線状痕が明瞭に観察される。
2131	1		SA10	286	打製石斧	ホルンフェルス	10.9	6.4	0.9	104.3	1/3	正面に礫面を残す剥片を素材とする。刃部および両側縁部は剥離による成形が行われる。
2132	1		SA11		小玉	ガラス	0.4	0.4	0.4	0.1	1/1	くすんだ青みがかった緑色。
2133	1		SA11	52	砥石	砂岩	24.2	10.2	8.8	3406.4	1/4	正面のみ砥面。中央部分が縦方向に浅く凹む。
2134	1		SA12	4	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.5	9.2	5.2	818.2	1/3	断面楕円形の楕円礫。表裏両面が磨り面。
2135	1		SA13		不明	軽石	9.1	8.3	4.6	86.6	1/3	使用痕は確認できない。断面楕円形。上半分は意図して直線的に切断されたか、欠損かは不明。
2136	1		SA13		石包丁	ホルンフェルス	3.9	7.3	0.7	28.1	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。両端に研磨された抉りを有する。
2137	1		SA14	34	石包丁	砂岩	4.9	6.7	1.3	45.1	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。刃部に比べ背部が肉厚。両端部に剥離による抉りを有する。
2138	1		SA15	83	磨製石鏃	緑色頁岩	3.1	1.6	0.3	1.6	1/2	浅い凹基。石材は灰白色に近い緑色で不規則な縞が入る。
2139	1		SA16	13	敲石	尾鈴山酸性岩類	7.4	8.1	5.2	318.8	1/3	欠損著しい。原型は断面楕円形の円礫か。表裏両面が磨り面。下端部に敲打痕。
2140	1		SA17	1	打製石斧	ホルンフェルス	6.4	4.7	1.1	46.9	1/3	板状の扁平な剥片を素材とする。基部の先端部のみの残存。基端から下方に向けて幅が広がる。左側縁裏面は剥離が見られない。
2141	1		SA17	4	石包丁	ホルンフェルス	4.4	7.6	0.7	28.3	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。正面下半部には研磨痕が観察され稜が立つ。裏面は剥離面を大きく残す。両端の抉り部は研磨される。
2142	1		SA20	94	小玉	ガラス	0.5	0.6	0.5	0.2	1/1	くすんだ青みがかった緑色で気泡も多い。穿孔部内面にやや凹凸が観察される。
2143	1		SA20		石包丁	ホルンフェルス	5.8	7.8	1.0	62.7	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とし、刃部は研磨により刃付けされる。両端に剥離による抉りを有する。
2144	1		SA20	22	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.9	10.5	5.7	971.1	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2145	1		SA21		砥石	ホルンフェルス	9.8	8.1	1.6	185.4	1/3	正面礫面の剥片を素材とする。正面の中央部分にのみ連続的な線状痕が観察される。
2146	1		SA21		勾玉	蛇紋岩	1.5	0.9	0.4	0.8	1/2	平面形Ｃ字形。断面楕円形。背部に縦方向 8mm 程の断面Ｖ字形の傷が確認できる。
2147	1		SA23	33	磨石	尾鈴山酸性岩類	8.3	7.8	4.2	414.8	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2148	1		SA33		砥石	層灰岩	10.4	6.0	3.4	237.8	1/3	やや黄色味を帯びた白色の石材。上端部は欠損。底面にはタガネで切断した痕跡が観察される。砥面には稜が立ち、それぞれ平坦。
2149	1		SA33	54	敲石	砂岩	9.7	8.4	3.0	438.4	1/3	断面はやや偏平な楕円形、平面形は隅丸の逆三角形。下端部に敲打による礫面の潰れが観察される。
2150	1		SA33	66	敲石	砂岩	15.7	7.2	5.4	808.1	1/3	断面楕円形、平面は茄子のような形状。上端部は欠損。正面および裏面の中央部分に敲打痕が集中する。器面の風化により下端部の使用痕は不明瞭。
2151	1		SA33	1	石包丁	ホルンフェルス	4.7	9.1	1.1	50.3	1/2	刃部がやや内湾する。両端に剥離による抉りを有する。1/2 程で割れた状態で出土したものを接合して図化。
2152	1		SA34	55	砥石	砂岩	21.1	9.0	5.0	1351.4	1/4	正面、左側面がほぼ平坦な砥面
2153	1		SA34	44	打製石斧	ホルンフェルス	13.2	7.1	1.8	186.2	1/3	正面に礫面を残す厚みのない剥片を素材とする。平面形は撥形を呈し、稜側縁が浅く内湾する。器面の風化が激しい。左側縁部は欠損後再加工した可能性もある。
2154	1		SA35	25	打製石斧	ホルンフェルス	7.8	4.2	0.8	33.1	1/3	正面に礫面を残す剥片を素材とする。平面形は歪な楕円形。刃部右側の先端が欠ける。左側縁部も刃部としての機能を有すると思われエッジの摩滅が観察される。
2155	1		SA35	21	台石	砂岩	34.4	15.8	7.6	5785.6	1/4	裏面から周縁部にかけて被熱による赤化あり。磨り面は表裏両面とも中央部分に凹みが見られるがほぼ平坦。
2156	1		SA35	8	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.7	10.4	5.5	968.5	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2157	1		SA35	19	磨石	尾鈴山酸性岩類	12.9	10.8	5.0	1096.5	1/3	断面楕円形の楕円礫。表裏両面が磨り面。
2158	1		SA39	20	石包丁	砂岩	5.0	7.3	1.1	52.9	1/2	裏面は礫面の剥片を素材とする。両端部に抉りを有する。
2159	1		SA39	38	敲石	砂岩	6.2	5.8	1.5	82.2	1/3	偏平な円礫。周縁部に微弱な敲打痕が観察される。表裏の平坦面には使用痕は観察されない。
2160	1		SA39		石包丁	ホルンフェルス	3.9	7.7	1.5	53.9	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。両端に抉りを有する。右抉り部は稜を敲打により潰す加工が観察される。
2161	1		SA39	8	台石	砂岩	38.6	30.5	13.5	21500.0	1/4	部分的に被熱による赤化あり。正面で赤化の激しい左上、右下部分に帯状に鉄錆が付着。鉄錆付着範囲は濃いトーンで図示。正面右側縁には横方向に線状痕が集中する。
2162	1		SA41		石包丁	ホルンフェルス	4.5	7.1	0.9	34.6	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。両端の抉り部および刃部に研磨が観察される。
2163	1		SA41		石包丁	ホルンフェルス	3.9	6.9	0.8	28.4	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。側縁部の形状が左右非対称。左側縁欠損のため再加工された可能性もある。
2164	1		SA41	50	敲石	砂岩	15.9	6.7	5.6	888.3	1/3	断面は歪な楕円形状の縦長の礫。上下端部に微弱な敲打痕が観察される。
2165	1		SA45	10	台石	砂岩	32.8	13.1	10.3	7200.0	1/4	砥面は平坦。正面、左右両側面とも横方向への線状痕が観察される。特に左側面は線状痕が集中し面的に潰れる。潰れ部分はトーンで図示
2166	1		SA45		磨製石鏃	頁岩	2.9	1.9	0.3	1.6	1/2	先端部が欠損。基部は両基端部から欠損。
2167	1		SA47	3	石錘	ホルンフェルス	6.6	9.3	1.7	119.8	1/3	長軸両端と短軸上端の三方に打ち欠き。左と上は抉りを入れたかのように深く、右は辺が浅く内湾するような形状。
2168	1		SA47		磨石	軽石	8.1	6.4	3.2	48.8	1/3	全面磨られており手触りが滑らか。平面形は楕円形、断面は台形状。
2169	1		SA55		石包丁	ホルンフェルス	3.6	5.3	0.7	20.6	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。両端に浅い抉りを有する。正面の風化で研磨痕は明確ではないが、刃部は研磨され刃付けされる。
2170	1		SA64	19	台石	ホルンフェルス	28.8	18.0	9.6	7500.0	1/4	正面および裏面の平坦面に磨りと敲打が観察される。正面右側縁側に面的に鉄錆が付着し、近辺に横方向に強い線状痕が集中する。鉄錆付着部分は濃いトーンで図示。

第 81 表　石器計測表 (2)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2171	1		SA64		石包丁	ホルンフェルス	5.4	8.2	0.7	44.2	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。両端に抉りを有する。
2172	1		SA64		石包丁	ホルンフェルス	3.7	6.1	0.9	27.0	1/2	抉りは有しないが、両側縁部が浅く内湾する。正面の風化で研磨痕は明確ではないが、刃部は研磨され刃付けされる。
2173	1		SA64	25	勾玉	不明	1.5	1.8	0.7	1.6	1/2	諸締形勾玉か。明るい緑色で弱い透光性あり。横方向に２本突起部分を持ち、穿孔が縦に貫通する。諸締形に似た形状。また獣形勾玉とも言えない。これまで宮崎県内に類例を見ない。
2174	1		SA64	21	敲石	砂岩	8.1	7.9	4.5	419.8	1/3	断面楕円形の円礫。周縁部に帯状に敲打痕が連なる。裏面中央部分は滑らか。
2175	1		SA68	2	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.3	10.4	5.5	983.9	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2176	1		SA68	6	敲石	砂岩	7.3	10.4	7.8	768.3	1/3	欠損著しい。断面楕円形の礫。正面および下端部のみ敲打痕が見られる。
2177	1		SA109	14	敲石	砂岩	18.4	7.3	5.6	1332.8	1/3	断面隅丸方形の縦長礫。下端部に磨り潰したかのような使用痕が面を形成する。
2178	1		SA118	11	敲石	砂岩	11.1	4.4	3.6	249.7	1/3	断面円形の棒状礫で短い擂り粉木のような印象を受ける。上下端部は細かい敲打により磨り潰したようであり、中央部分横方向に帯状に敲打痕が連なる。
2179	1		SA118	26	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.1	7.5	3.7	424.5	1/3	被熱による赤化あり。風化著しい。表裏両面が磨り面。表面の剥落が激しい。
2180	1		SA118	10	台石	砂岩	23.1	13.6	9.3	4262.8	1/4	正面の磨り面は縦に浅く凹み、鉄錆が付着する。裏面はほぼ平坦。砥石の可能性もある。
2181	1		SC9	3	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.7	11.5	5.5	1127.6	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2182	1		SC17	1	石包丁	ホルンフェルス	3.9	6.7	0.5	23.2	1/2	全面研磨。器面の風化により研磨痕は明瞭ではない。両端部に抉りを有する。刃部右側一部欠損。
2183	1		SC51		筋砥石	尾鈴山酸性岩類	25.7	25.2	9.0	7780.0	1/4	風化著しくひび割れる。正面には複数の浅い筋が観察される。裏面は広い砥面。
2184	1	L4			磨製石鏃	緑色頁岩	2.7	2.1	0.2	1.3	1/2	浅い凹基。両側縁は緩く外湾する二等辺。底面にも縦方向に研磨痕が観察される。完形。
2185	1	L7			石包丁	ホルンフェルス	3.6	5.0	0.5	13.9	1/2	全面研磨。紐孔が正面から背面に向けて斜めに入る。約１／２が欠損。抉りを有する。
2186	1		SC16	1	石錘	ホルンフェルス	3.8	6.0	2.0	51.0	1/3	長軸の両端を打ち欠く。
2187	1	M4			石包丁	ホルンフェルス	4.7	7.3	0.5	31.0	1/2	裏面礫面の剥片を素材とする。抉りは有しない。刃部は欠けたものか。未製品と推察される。
2188	1	I11			石包丁	ホルンフェルス	3.4	5.4	0.9	21.8	1/2	手のひらにすっぽりと収まるほどの大きさ。使用に伴うものかは不明だが刃こぼれが観察される。研磨痕は不明瞭。両端に抉りを有する。
2189	1	I10			玉	千枚岩	1.2	1.2	0.3	0.6	1/2	平面形がドーナツ状の偏平な平玉。表裏両面からの穿孔が観察される。
2190	1	7 34			磨製石鏃	緑色頁岩	5.3	2.4	0.7	9.4	1/2	未製品。両側縁部に表裏両面からの擦り切り痕が観察される。全体的に 5㎜ほどの厚みがある。裏面には部分的に研磨が施される。
2191	1 拡		S5	6	砥石	砂岩	36.9	11.2	8.8	6200.0	1/4	断面台形状でそれぞれの面が砥面として利用され、敲打痕、線状痕が明瞭に観察される。およそ 1/2 で分断して出土。破断面には使用痕は観察されない。接合して図化。
2192	1 拡		S5		不明	頁岩	5.5	0.9	0.7	4.1	1/2	断面楕円形の棒状の石器。全体が丁寧な研磨により整えられている。上面と下面も研磨により平らに加工される。用途不明。
2193	1 拡		S5		磨製石鏃	赤色頁岩	3.1	2.3	0.3	2.3	1/2	浅い凹基。先端と右基端に欠損。底面には縦方向に研磨痕が観察される。側縁部から復元すると、推定で長さ 5cm 程のやや大形の石鏃となる。
2194	1 拡		S22	18	砥石	頁岩	6.6	6.8	1.1	62.7	1/3	上下端部は欠損。欠損部以外は全面砥面。断面は歪な菱形状。
2195	1 拡		S22		石包丁	頁岩	4.9	8.1	0.7	34.8	1/2	全面研磨。平面形は長方形で両端に抉りを有する。
2196	1 拡		S22	22	磨石	尾鈴山酸性岩類	9.0	9.2	4.3	544.6	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。裏面は器面の黒ずみが見られる。
2197	1 拡		S22	6	砥石	砂岩	10.8	11.4	5.7	979.1	1/3	欠損著しい。正面は平坦な砥面。上端部に鉄銹が付着。鉄銹は濃いトーンで図示。
2198	1 拡		S22		砥石	砂岩	8.3	5.5	1.1	72.3	1/3	欠損部以外は全面砥面。右側縁部に擦り切り痕が観察される。
2199	1 拡		S22	4	石錘	ホルンフェルス	6.4	6.3	1.7	100.8	1/3	長軸の両端を打ち欠く。器面がきなこ状に風化。
2200	1 拡		S37		磨製石鏃	緑色頁岩	2.2	2.0	0.3	1.4	1/2	平基。先端に欠損。両基端部が丸みを帯びる。
2201	1 拡		S38	45	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.4	10.0	4.6	712.9	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2202	1 拡		S38	10	砥石	砂岩	36.0	16.7	5.6	5153.2	1/4	正面の砥面は縦方向に稜が立ち浅く凹む。凹み部分は縦方向に微細な線状痕が観察される。裏面破断面の平坦部にも砥面が観察される。正面上部に鉄銹が付着。鉄錆付着部分は濃いトーンで図示。
2203	1 拡		S70	13	石包丁	頁岩	4.6	7.0	0.7	29.0	1/2	全面研磨で両端部に浅い抉りを有する。
2204	1 拡		S70	23	磨製石鏃	緑色頁岩	1.6	2.3	0.2	0.8	1/2	平基。先端から右側縁を大きく欠損し。裏面は正面が大きく剥落している。
2205	1 拡		S70	1	磨製石鏃	緑色頁岩	2.3	2.0	0.2	1.0	1/2	浅い凹基。左基端は丸みを帯びる。右基端部欠損。
2206	1 拡		S105	2	磨製石鏃	赤色頁岩	2.3	2.1	0.2	1.3	1/2	浅い凹基。裏面は正面の剥落が激しい。底面は縦方向の研磨痕が観察される。先端部・右基端部欠損。
2207	1 拡		S105	1	敲石	砂岩	12.8	5.6	1.4	167.4	1/3	偏平で撥形の礫。上下端部に敲打痕。
2208	1 拡		S161		石包丁	ホルンフェルス	5.3	7.7	1.4	67.6	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。器面の風化により研磨痕は明瞭ではないが、刃部と両端の抉り部は研磨が観察される。
2209	1 拡		S209	6	石包丁	ホルンフェルス	5.6	8.4	1.1	53.2	1/2	表裏とも成形剥離痕を大きく残す。背部右端欠損。両端に抉りを有する。
2210	1 拡		S209	5	磨石	尾鈴山酸性岩類	12.4	10.4	5.4	1053.2	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2211	1 拡		S292	16	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.9	10.1	5.4	855.5	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2212	1 拡		S292		磨製石鏃	緑色頁岩	3.7	2.0	0.3	2.3	1/2	凹基。基端部は尖る。先端部が微細に欠損。
2213	1 拡		S292	1	敲石	砂岩	12.8	4.1	4.3	324.0	1/3	楕円形の棒状礫を斜めに断ち割ったような形状。割れ面に強い敲打。上下端部にも弱い敲打痕。
2214	1 拡		S292	1	磨石	尾鈴山酸性岩類	8.0	7.0	6.3	493.6	1/3	歪な丸い礫。正面の平坦な部分に磨り面。
2215	1 拡		S292		砥石	ホルンフェルス	14.6	7.3	7.0	838.7	1/3	正面の砥面はほぼ平坦で微細な光沢を持つ。左側面中央部分に線状痕の集中が観察される。
2216	1 拡		S292	1	磨製石斧	硬砂岩	15.9	6.4	4.9	788.0	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。敲打成形後に全面研磨。断面楕円形。刃縁の潰れが観察される。
2217	1 拡		S292	2	敲石	尾鈴山酸性岩類	12.0	11.0	5.1	1059.2	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。周縁部に帯状に敲打痕が巡り、ほぼ中央線に稜が立つ。

第 82 表　石器計測表 (3)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2218	1 拡		S292	17	敲石	硬砂岩	26.9	10.1	6.6	3180.0	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。両側縁のみに敲打が集中する。右側縁部の敲打は均一に行われるが、左側縁部は部分的に強い力で剥離される。同じ石材に見られる磨製石斧の未製品の可能性も残る。
2219	1 拡		S298		石包丁	ホルンフェルス	3.9	6.7	0.9	30.4	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。刃部及び背部、両側の抉り部に研磨が観察される。
2220	1 拡		S344	11	台石	砂岩	40.5	19.0	11.8	12500.0	1/4	器面の風化により使用痕は明確ではないが、正面は部分的に強い磨りが観察される。強い磨り部分のみトーンで図示したが、おそらくは広い範囲が磨られている。正面、裏面ともに微弱な敲打が観察される。
2221	1 拡		S347	3	敲石	砂岩	11.9	8.6	7.2	958.7	1/3	断面楕円形の楕円礫。上下端部および器面にまばらに敲打痕あり。
2222	1 拡		S347		磨製石鏃	頁岩	3.7	2.4	0.3	2.9	1/2	平基。先端と右基端部欠損。底面に縦方向の研磨痕が観察される。
2223	1 拡		S409	4	砥石	砂岩	26.2	15.7	12.7	8000.0	1/4	上端部が被熱により赤化。黒色付着物あり。砥面は中央部分が緩く凹む。
2224	1 拡		S409		磨製石鏃	頁岩	2.7	2.0	0.3	2.2	1/2	未製品。平基。両側縁部下半に屈曲点があり五角形を呈する。全面に研磨が施されるが、両側縁のエッジは厚みが残る。
2225	1 拡		S409		磨製石鏃	頁岩	3.3	1.1	0.2	1.1	1/2	未製品。全面に研磨あり。成形は粗く細長い形状。両側縁のエッジは厚みが残る。
2226	1 拡		S409		磨製石鏃	頁岩	3.7	1.8	0.3	2.2	1/2	未製品。全面に研磨が見られるが、側縁のエッジも厚みがあり成形は粗い。底面は縦方向に研磨が見られ、底部は外反する形状。
2227	1 拡		S443	1	石包丁	頁岩	3.7	7.2	0.5	18.4	1/2	全面研磨で両端部に抉りを持つ。
2228	1 拡		S491	1	磨石	尾鈴山酸性岩類	13.6	8.2	4.3	746.3	1/3	断面楕円形の細長い楕円礫。表裏両面が磨り面。
2229	1 拡		S531	2	磨石	尾鈴山酸性岩類	13.0	10.5	6.2	1318.8	1/3	断面楕円形の楕円礫。表裏両面が磨り面。
2230	1 拡		S531	9	敲石	砂岩	12.9	4.9	3.3	324.0	1/3	断面は隅丸三角形の棒状礫。被熱による赤化あり。下端部に敲打痕。
2231	1 拡		S531	4	敲石	ホルンフェルス	12.5	7.5	4.7	691.8	1/3	断面楕円形の楕円礫。上下端部、左右側面に敲打痕。
2232	1 拡		S531		石包丁	ホルンフェルス	4.0	7.8	0.8	28.7	1/2	全面研磨。部分的に成形剥離痕が残る。刃部が外湾する。両端に抉りを有する。
2233	1 拡		S531	6	打製石斧	ホルンフェルス	9.5	4.8	2.4	142.7	1/3	基部のみ残存。裏面に礫面を残す礫片を素材とする。断面楕円形状で、縦断面形は基端が先細りする。磨製石斧未製品か。
2234	1 拡		S531		砥石	頁岩	7.0	6.8	14.5	86.3	1/3	左側縁部の欠損部分以外は全面砥面。右側縁部に擦り切り痕が観察される。器面全体に赤茶けた付着物あり。
2235	1 拡		S548	4	台石	砂岩	31.7	19.4	8.5	5800.0	1/4	表裏とも敲打を伴う磨り面。正面左側は砥面で縦方向に緩く凹む。右側縁部を大きく欠損する。
2236	1 拡		S548	4	敲石	ホルンフェルス	11.9	3.1	1.4	89.7	1/3	細長い撥形の棒状礫。上下端部に敲打痕。
2237	1 拡		S548	1	磨石	砂岩	9.3	5.9	3.4	291.6	1/3	上半部欠損。裏面は層状に剥落。原形は円柱状の礫と想定される。底面は磨り面と思われるが使用痕は明確ではない。
2238	1 拡		S548	3	石包丁	ホルンフェルス	4.0	6.0	0.5	16.6	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。器面の風化が激しいが、刃部・背部は研磨が観察される。抉り部は左右で形状が違い、欠損後の再加工の可能性もある。
2239	1 拡		S548		石包丁	ホルンフェルス	4.8	7.6	0.7	27.8	1/2	全面研磨。器面に亀裂が入る。接合して図化。両端に抉りを有する。
2240	1 拡		S570	1	敲石	砂岩	10.4	7.1	3.3	345.2	1/3	被熱による赤化あり。断面楕円形の楕円礫。下端部、右側面に敲打痕。
2241	1 拡		S570	3	敲石	砂岩	11.5	7.8	4.7	648.8	1/3	欠損著しい。下端部に微弱な敲打痕が観察される。器面に鉄銹付着。鉄銹付着範囲を濃いトーンで図示。
2242	1 拡		S580	7	石包丁	ホルンフェルス	4.5	7.5	0.9	39.9	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。成形剥離痕を大きく残す。刃部は研磨により刃付けされる。両端に抉りを有する。
2243	1 拡		S580		砥石	ホルンフェルス	21.6	6.4	5.5	1099.6	1/3	表裏正面に研面有り。正面は光沢を持ち微細な研磨痕が観察される。右側面、裏面に礫面を残す。
2244	1 拡		S580	23	敲石	砂岩	19.0	6.2	4.3	694.3	1/3	断面蒲鉾形の歪な礫。裏面は欠損。正面中央部付近に強い敲打痕。欠損部の稜にも敲打痕あり。
2245	1 拡		S580	19	敲石	砂岩	16.3	7.7	5.4	950.3	1/3	器面の風化著しく使用痕は明瞭ではない。上下端部と左右側面に敲打痕。
2246	1 拡		S609	123	石錘	砂岩	4.9	9.3	2.5	143.1	1/3	長軸の両端を打ち欠く。
2247	1 拡		S609	86	敲石	砂岩	16.0	10.5	4.2	960.5	1/3	断面は偏平な楕円形の礫。正面中央部および周縁に敲打痕。
2248	1 拡	ア 29	S609	1	剥片	チャート	3.9	2.8	1.2	13.2	1/2	竪穴住居の理土中から 17 点のチャート剥片がまとまって出土し、床面直上の 3 点を図化。縄文時代の遺物が混入か。
2249	1 拡	ア 29	S609	121	剥片	チャート	4.2	5.3	1.2	32.2	1/2	竪穴住居の理土中から 17 点のチャート剥片がまとまって出土し、床面直上の 5 点を図化。縄文時代の遺物が混入か。
2250	1 拡	ア 29	S609	119	剥片	チャート	4.2	5.1	1.9	31.0	1/2	竪穴住居の理土中から 17 点のチャート剥片がまとまって出土し、床面直上の 4 点を図化。縄文時代の遺物が混入か。
2251	1 拡		S609		石包丁	ホルンフェルス	5.5	7.2	0.8	38.4	1/2	正面が礫面の剥片を素材とする。研磨による刃部の刃付けが観察される。両端に抉りを有する。抉り部側面は研磨される。
2252	1 拡		S609	110	石包丁	ホルンフェルス	4.6	7.0	6.8	25.8	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。両端に抉りを有する。未製品の可能性あり。
2253	1 拡		S609	149	石包丁	ホルンフェルス	5.1	8.0	0.7	38.8	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。両端に抉りを有する。正面の風化により研磨痕は不明瞭。
2254	1 拡		S609	25	石包丁	頁岩	4.7	8.1	0.6	35.1	1/2	全面研磨。正面に横方向に浅い線状痕が観察される。両端に抉りを有する。
2255	1 拡		S610		磨製石鏃	緑色頁岩	2.2	1.5	0.4	1.3	1/2	未製品。成形は粗く正面・裏面とも剥離面を大きく残す。両側面は研磨が確認されるがエッジは厚みが残る。
2256	1 拡		S610	3	砥石	砂岩	8.6	3.9	1.9	106.6	1/3	欠損部分以外はすべて砥面。左側面から裏面は礫面を利用。裏面中央部は縦方向に凹む。
2257	1 拡		S610	12	磨石	尾鈴山酸性岩類	6.0	5.4	2.6	125.5	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2258	1 拡		S622		石包丁	頁岩	4.8	7.1	0.7	36.3	1/2	全面研磨。刃部は緩やかに外湾する。両端にU字形の抉りを有する。
2259	1 拡		S790		砥石	頁岩	7.1	2.5	0.9	30.6	1/3	平面形は下部が楕円形状に膨らみ上部に向かって窄む。上部は欠損。裏面は剥落。側面形が山形になり上部に向けて緩やかに凹む。
2260	1 拡		S820		砥石	ホルンフェルス	10.6	6.9	1.1	103.2	1/3	正面に礫面を残す剥片を素材とする。正面および左側縁部が砥面で、正面は細かな線状痕が観察される。
2261	1 拡		S1016	6	磨石	ホルンフェルス	19.8	10.5	5.4	1885.7	1/4	正面は縦方向に無数の線状痕が見られ、中央に光沢を帯びる強い研磨が観察される。上下端部に弱い敲打痕あり。裏面は弱い磨り面。
2262	1 拡		S1016	8	磨石	尾鈴山酸性岩類	8.2	9.8	3.4	488.4	1/3	断面隅丸長方形で平面は歪な四角形。正面、右側面に磨り。正面中央付近に鉄銹状に赤茶けた付着物あり。
2263	1 拡		S1016	16	打製石斧	ホルンフェルス	10.1	5.8	1.1	85.9	1/3	板状の剥片を素材とする。平面形は撥形で両側縁は直線的。刃部は欠損後再加工された可能性があり。
2264	1 拡		S1016	22	打製石斧	ホルンフェルス	7.9	4.2	1.0	47.3	1/3	板状の剥片を素材とする。平面形は短冊形で刃部が直線的。両側縁も刃部のような形状を呈する。
2265	1 拡		S1016		磨製石鏃	緑色頁岩	3.9	2.1	0.3	2.1	1/2	凹基。先端から右側縁上部、左基端部が欠損。底面に縦方向の研磨痕が確認される。両側縁とも微細な欠けが観察される。

第 83 表　石器計測表 (4)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2266	1 拡		S1016	4	石包丁	頁岩	4.4	7.4	0.6	30.2	1/2	全面研磨。両端部に抉りを有する。左側縁下部が欠損。
2267	1 拡		S1016	23	石包丁	頁岩	4.5	7.3	0.7	39.1	1/2	全面研磨。右側縁部に抉りを有する。左端部の内湾部に研磨が確認され、現状での使用が想定され、抉り部欠損のため再加工した可能性もある。
2268	1 拡		S1016	19	石包丁	ホルンフェルス	4.5	7.8	0.5	33.8	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。
2269	1 拡		S1016	18	石包丁	ホルンフェルス	4.3	7.1	0.5	24.6	1/2	正面礫面の剥片を素材とする。器面の風化が激しく研磨痕は明瞭ではない。両端部に抉りを有する。
2270	1 拡		S44	25	砥石	ホルンフェルス	23.4	9.5	7.1	2643.0	1/3	自然礫の正面平坦面を砥石として利用。風化のため使用痕は明瞭ではない。
2271	1 拡		S357	3	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.7	11.0	5.6	982.6	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2272	1 拡		S403	1	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.8	9.4	5.1	742.1	1/3	断面楕円形の楕円礫。表裏両面が磨り面。正面の磨り面は黒ずみ僅かに光沢を帯びる。
2273	1 拡		S420	101	石包丁	頁岩	4.5	7.9	0.7	35.9	1/2	全面研磨で両端部に抉りを有する。
2274	1 拡		S420	35	敲石	砂岩	15.7	9.1	8.0	1452.6	1/3	器面に煤状の黒色付着物。正面の敲打痕は強く、最深部 2mm 程で礫面に明確に稜が立つ。下端部にも強い敲打があり、敲打部分から両側面の縦方向にひびが入る。
2275	1 拡		S420	17	磨石	尾鈴山酸性岩類	8.0	8.1	2.8	284.9	1/3	やや偏平な断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2276	1 拡		S420	67	磨石	尾鈴山酸性岩類	8.5	8.3	3.6	415.6	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2277	1 拡		S770	2	石包丁	ホルンフェルス	5.0	8.0	1.0	58.6	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。表裏両面ともに成形剥離痕を残す。両端部に抉りを有する。
2278	1 拡		S770	1	台石	砂岩	31.6	22.4	7.4	6200.0	1/4	正面、裏面とも広い範囲が敲打を伴う磨り面。正面左側および裏面中央部分は平坦で、縦方向に光沢を帯びる。正面左側縁側の砥面が浅く凹む。
2279	1 拡		S980	4	磨製石斧	ホルンフェルス	11.8	4.1	1.9	140.9	1/3	敲打による成形後、全面に研磨が施される。断面形はやや潰れた楕円形。特に刃部は丁寧に研磨される。両側縁の基端部近くが浅く抉れる。
2280	1 拡		S980	2	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.8	7.5	3.0	407.6	1/3	断面はやや偏平な楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2281	1 拡		S802	1	柱状片刃石斧	層灰岩	15.6	3.0	4.6	323.2	1/3	抉りを有する厚手柱状の片刃石斧。薄い緑色を帯びる白色の材質で、目が細かく硬く締まっている。縦方向に縞模様が観察される。断面は台形状で前主面背部が丸みを帯びる。抉り部の側面は緩やかなW字形。刃縁に刃こぼれが観察される。
2282	1 拡	A31			磨製石鏃	緑色頁岩	3.6	2.7	0.2	2.2	1/2	平基。端正な二等辺を呈する。左側縁部に新しい欠損。
2283	2		S4	3	勾玉模造品	凝灰岩	2.6	1.8	0.2	1.0	1/2	扁平な勾玉状の石製品。厚みがほぼ 2㎜と均一。両面穿孔が観察される。完形。
2284	2		S4		不明	頁岩	4.5	1.2	0.4	3.6	1/2	右側縁のエッジは刃部のように鋭く研磨される。左側縁の欠損で原形は推察の域を出ない。同石材に砥石が見られ、その破片の可能性も残る。
2285	2		S4	5	石包丁	ホルンフェルス	5.0	8.3	0.9	51.2	1/2	刃部および抉り部に研磨が観察されるが、風化により全体的に研磨痕は明瞭ではない。
2286	2		S4		石包丁	ホルンフェルス	5.5	8.1	0.4	23.3	1/2	偏平な剥片を素材とする。上下端部はいずれも刃部として機能しうるが実測図では厚みのない方を刃部としている。左側縁部欠損。抉りは無い。製作途中で欠損した未製品の可能性もある。
2287	2		S4	5	打製石斧	ホルンフェルス	12.3	5.7	0.9	105.0	1/3	平面形短冊形で刃部側が丸みを帯びる。裏面に礫面を残す偏平な剥片を素材とする。両側縁は剥離により成形される。
2288	2		S4	4	打製石斧	ホルンフェルス	8.0	5.9	1.2	78.3	1/3	扁平な剥片を素材とする。上下が大きく欠損。両側縁が剥離により成形され、浅く括れる。
2289	2		S7	14	敲石	砂岩	12.2	10.2	5.2	748.7	1/3	断面楕円形状の歪な礫。表裏面中央部分と左側面に敲打痕。
2290	2		S7	2	敲石	砂岩	11.9	11.5	4.9	846.1	1/3	断面楕円形状の歪な礫。正面中央部分に薄い線状痕が観察される。下面エッジ部分に敲打が連続し帯状に連なる。
2291	2		S9	9	砥石	砂岩	19.9	16.2	7.9	3188.3	1/4	正面の砥面は稜が立ちそれぞれほぼ平坦な砥面。特に左側の縦方向には強い稜が入る。裏面は緩い磨り面。
2292	2		S9		不明	軽石	4.6	3.6	3.3	8.1	1/3	使用痕は確認できない。平面形楕円形。全体的に角が取れる。裏面中央部に凹みがある。磨石として使用された可能性はある。
2293	2		S9	12	砥石	砂岩	23.4	15.3	6.4	3443.4	1/4	被熱による赤化。砥面は平坦。正面右側の縦方向に稜が入る。
2294	2		S9	25	砥石	砂岩	13.6	4.7	6.2	760.6	1/3	表裏面ともに平坦な砥面。欠損大。正面下部に鉄銹付着。底面から裏面にかけて煤状の黒色付着物あり。
2295	2		S9	7	筋砥石	砂岩	21.8	13.9	6.5	2580.0	1/4	表裏両面とも砥面と敲打痕が混在する。正面には深さ 5mm 程の筋が切り合うように入る。裏面の筋はうっすら見えるほどで浅い。
2296	2		S9	3	砥石	砂岩	27.4	15.8	5.9	3538.2	1/4	被熱による赤化あり。欠損大。砥面には稜が立ちそれぞれ浅く凹む。下半部は隣接遺構埋土中より出土。破断面には使用痕なし。接合して図化。接合部分に段差があり、欠損後も砥石として使用されたものと推察される。
2297	2		S13	9	砥石	ホルンフェルス	21.3	15.9	6.7	2660.8	1/4	底面のみ平坦な砥面。器面の風化著しいが、底面以外は使用痕は観察されない。
2298	2		S13	2	敲石	砂岩	13.1	8.3	5.2	683.8	1/3	断面楕円形状の歪な礫。左右側面に弱い敲打痕が、上下端部にやや強めの敲打痕が見られる。
2299	2		S2001		石包丁	ホルンフェルス	4.1	6.6	0.6	25.0	1/2	全面研磨。器面の風化が激しく研磨痕は明瞭ではない。両端部に抉りを有する。
2300	2		S2001	9	砥石	砂岩	12.1	6.3	2.4	331.0	1/3	断面長方形の偏平な自然石を利用。正面のみ砥面。
2301	2		S2002	2	砥石	砂岩	12.2	98.0	6.6	1265.7	1/4	上下端部欠損。4 面とも浅く凹む砥面。正面中央部に縦方向に線状痕あり。器面に煤状の黒色付着物あり。
2302	2		S2002		石包丁	ホルンフェルス	5.5	8.1	1.3	68.8	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材としている。刃部は研磨により刃付けされる。両端は明確な抉り加工は無いが浅く内湾している。
2303	2		S2004	5	敲石	砂岩	7.1	5.6	4.3	231.4	1/3	断面楕円形の鶏卵大の礫。下端部に敲打痕。
2304	2		S2005	5	石錘	尾鈴山酸性岩類	8.9	10.3	2.8	325.6	1/3	長軸の両端を打ち欠く。他と比較して大型。
2305	2		S2005	1	敲石	尾鈴山酸性岩類	9.6	7.5	4.4	464.5	1/3	断面楕円形の楕円礫。表裏両面が磨り面で両面とも中央部分に敲打の集中による凹みが観察される。
2306	2		S2005	19	敲石	ホルンフェルス	9.5	7.2	4.6	429.6	1/3	断面台形状の歪な礫。表裏両面のほぼ中央部分に、最深部が 7mm 程の強い敲打による凹みがある。
2307	2		S2005	20	砥石	砂岩	19.7	10.5	8.2	2751.3	1/4	器面は全体的に被熱による赤化。正面は磨り面。右側面の砥面は平坦で滑らか。下端部欠損。
2308	2		S2006	6	石錘	ホルンフェルス	7.8	7.9	1.9	171.0	1/3	打欠石錘。およそ 1/2 が欠損しているとおもわれる。
2309	2		S2006	9	打製石斧	ホルンフェルス	6.7	5.6	1.8	117.3	1/3	偏平な礫を素材とし、表裏両面に礫面を残し、側縁部を剥離により成形する。上下が大きく欠損する。右側縁は敲打され、稜が潰される。
2310	2		S2006	12	敲石	尾鈴山酸性岩類	18.9	8.6	4.6	950.6	1/3	左側縁かわを大きく欠損。器面の風化が著しい。右側面には明瞭な敲打痕。
2311	2		S2009	1	敲石	砂岩	17.2	6.9	3.9	555.3	1/3	断面蒲鉾形、平面形撥形の礫。上下端部および正面の稜に敲打痕。正面の敲打痕は横方向の線状痕を伴う。
2312	2		S2009	8	台石	砂岩	31.1	17.0	13.0	7000.0	1/4	歪な自然礫の平坦な部分に磨り面が観察される。

第 84 表　石器計測表 (5)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2313	2		S2009	6	不明	軽石	10.9	6.3	4.1	64.2	1/3	使用痕は確認できない。断面・平面ともに楕円形。たすきがけに入る凹みは人為的なものを感じさせる。
2314	2		S2010	9	石包丁	ホルンフェルス	6.2	11.3	1.1	109.1	1/2	正面が礫面の剥片を素材としている。刃部は研磨により刃付けされる。抉りは有しない。
2315	2		S2010		石包丁	ホルンフェルス	4.8	8.5	0.9	49.2	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。研磨痕は不明瞭。両端に抉りを有する。
2316	2		S2010	13	石包丁	頁岩	4.4	7.4	0.6	33.3	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。風化による正面のひび割れや剥落がある。
2317	2		S2010	27	磨石	尾鈴山酸性岩類	9.4	8.3	4.9	558.6	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2318	2		S2010	1	台石	砂岩	22.6	7.8	4.6	1309.1	1/4	正面は平坦な磨り面。左側縁部に敲打あり。
2319	2		S2010	1	敲石	砂岩	12.7	4.7	3.6	278.5	1/3	断面台形状の歪な棒状礫。上下端部に微弱な敲打痕。
2320	2		S2010	6	敲石	ホルンフェルス	10.5	6.4	7.3	763.1	1/3	断面隅丸方形の礫。角が潰れ剥落する。
2321	2		S2010	23	打製石斧	ホルンフェルス	9.9	6.8	2.2	186.6	1/3	裏面に礫面を残す礫片を素材とする。厚みはあまり無い。基端部欠損。刃部方向が大きく欠損する。被熱による赤化、煤状の黒色付着物が見られる。
2322	2		S2016		石包丁	ホルンフェルス	4.7	8.2	0.9	43.5	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。両端に明確な抉り加工は無い。
2323	2		S2016	2	磨石	尾鈴山酸性岩類	9.6	8.8	4.6	584.9	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。正面の磨り部分が黒ずむ。
2324	2		S2016	19	磨石	尾鈴山酸性岩類	9.0	7.6	3.9	400.4	1/3	断面楕円形の楕円礫。表裏両面が磨り面。表面上端側に磨りにより黒ずみ弱い光沢を帯びる部分あり。
2325	2		S2016	1	磨石	尾鈴山酸性岩類	12.7	10.9	6.5	1403.4	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。表裏面の中央部分および左右両側面に強い敲打。正面の磨り面はドーナツ状に黒ずみ弱い光沢を帯びる。
2326	2		S2016	21	敲石	砂岩	22.4	11.1	6.9	1899.6	1/3	上下端部に敲打痕。正面が上端部より剥落。
2327	2		S2016	20	砥石	砂岩	26.1	13.4	7.4	4309.7	1/4	器面は全体的に被熱による赤化が見られ、特に正面中央部に横方向帯状に激しく赤化する。強い赤化部分は破線で図示。砥面は平坦。正面中央部分は縦方向に光沢を帯びる。周縁部の剥落著しい。
2328	2		S2017	27	敲石	砂岩	19.1	12.3	7.2	1856.6	1/3	器面の風化著しい。正面上部が大きく剥落する。上下端部に敲打痕。
2329	2		S2017	20	砥石	砂岩	19.3	9.6	4.3	1237.0	1/3	たも石の一群として出土。表裏両面とも砥面として利用。正面には幅 3mm 程の浅い線状痕が観察される。周縁部は欠損。
2330	2		S2017		石包丁	ホルンフェルス	5.4	9.2	1.7	104.8	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材としている。両端に抉りを有する。
2331	2		S2017	8	石包丁	ホルンフェルス	5.6	9.8	1.9	112.0	1/2	正面に礫面が残る剥片を素材としている。抉り加工は無い。未製品と推察される。
2332	2		S2017	4	敲石	砂岩	5.5	4.4	2.4	61.2	1/3	歪な円礫。右側縁部に磨り潰したような使用痕が観察される。裏面中央部付近に手ずれのような黒ずみが観察される。
2333	2		S2017	30	敲石	砂岩	6.3	7.5	3.3	196.1	1/3	被熱による赤化と煤と思われる黒色付着物あり。欠損が著しい。正面敲打痕は煤の上から敲打されているのが観察される。
2334	2		S2017	12	石錘	砂岩	5.8	7.7	2.1	131.4	1/3	長軸の両端を打ち欠く。正面のみ中央部分に敲打痕あり。
2335	2		S2017	42	石錘	砂岩	6.2	7.4	1.0	108.3	1/3	長軸の両端を打ち欠く。
2336	2		S2017	2	石錘	ホルンフェルス	5.8	6.9	2.1	115.6	1/3	長軸の両端を打ち欠く。
2337	2		S2512	1	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.1	10.1	5.5	803.2	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2338	2		S3001		磨製石鏃	緑色頁岩	2.5	1.9	0.2	1.2	1/2	左側縁部は研磨によりシャープなエッジであるが、右側縁部は断続的に欠けが見られ若干厚みが残る。底部は欠損による破断面。
2339	2		S3001		砥石	砂岩	49.2	28.4	18.9	37000.0	1/6	巨礫の周縁部を砥面とする。砥面には随所に縦方向の稜が立つ。砥面の際に敲打痕が集まる。器面に鉄錆が付着する。鉄錆は濃いトーンで図示。底面は摂理面。
2340	2		S3008	2	敲石	砂岩	9.9	7.8	5.4	494.1	1/3	断面菱形状の礫。下半部が大きく欠損。上端および正面の稜に強い敲打痕。裏面は部分的に微弱な敲打痕あり。上端部分は被熱による赤化あり。
2341	2		S3008	6	石錘	砂岩	5.4	8.1	1.7	141.0	1/3	長軸の両端を打ち欠く。
2342	2		S3009		磨製石鏃	頁岩	3.5	2.8	0.3	4.5	1/2	未製品。平基で基端部は隅丸。先端部欠損。全面に研磨が施されるが、エッジ部分まで厚みがほぼ均一で鋭さに欠ける。
2343	2		S3010		石包丁	ホルンフェルス	4.4	6.9	0.9	38.1	1/2	正面が礫面の剥片を素材としている。風化が激しいため研磨痕は不明瞭。器面の剥落あり。両端に抉りを有する。
2344	2		S3010		石包丁	ホルンフェルス	4.0	7.0	0.8	28.2	1/2	正面が礫面の剥片を素材としている。両端に抉りを有する。
2345	2		S3010	1	石包丁	ホルンフェルス	4.2	7.4	1.4	57.1	1/2	裏面に刃部方向に礫面を残す。成形剥離痕を大きく残す。刃部左隅が欠損。両端に抉りを有する。
2346	2		S3010	9	敲石	砂岩	7.7	6.5	4.9	382.9	1/3	平面形隅丸方形のやや厚みのある礫。正面に磨りと敲打痕。
2347	2		S3010	7	台石	砂岩	19.4	11.3	11.1	3634.5	1/3	上端部に被熱による赤化あり。表裏面に磨り面。周縁部付近に敲打痕。
2348	2		S3011	1	磨石	尾鈴山酸性岩類	12.8	11.7	6.1	1335.3	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。器面に赤茶けた付着物あり。
2349	2		S3011	4	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.5	9.4	5.5	873.3	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。正面に煤状の黒色付着物。表裏面、両側縁部に敲打痕。
2350	2		S3011	14	磨石	尾鈴山酸性岩類	14.5	7.1	5.4	959.7	1/3	角張った自然礫。正面のみに磨りが観察される。
2351	2		S3011	24	敲石	砂岩	12.5	6.1	5.5	528.3	1/3	歪な縦長の礫。上下端部および正面の稜に敲打痕。
2352	2		S3011	2	磨石	尾鈴山酸性岩類	7.3	5.9	3.0	199.3	1/3	やや偏平な楕円礫。表裏両面が磨り面。
2353	2		S3011	3	筋砥石	砂岩	28.3	16.7	9.4	7020.0	1/4	正面、裏面ともに緩く凹む砥面。正面右側よりに縦方向に最深部 4mm 程の断面 U 字状の筋が入る。
2354	2		S3012		石包丁	ホルンフェルス	4.7	8.1	1.4	71.2	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。研磨痕は不明瞭。両端に抉りを有する。
2355	2		S3015	2	打製石斧	ホルンフェルス	17.9	6.3	3.1	473.8	1/3	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。成形の剥離は粗く未製品と推察される。
2356	2		S3334	6	剥片	緑色頁岩	4.0	10.4	0.5	27.6	1/2	厚さ 5mm 程の不定形剥片。正面の 1/3 程の範囲に明瞭な研磨痕が観察される。
2357	2		S3334	5	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.4	9.3	3.8	633.2	1/3	偏平な楕円礫。表裏両面が磨り面。被熱による赤化あり。表面は僅かに黒ずむ。
2358	2		S3334		磨製石鏃	緑色頁岩	3.2	1.7	0.3	1.5	1/2	凹基。左基端部欠損。
2359	2		S3334		磨製石鏃	頁岩	6.9	1.7	0.3	5.1	1/2	浅い凹基。長身細身の柳葉形を呈する。先端が微細に欠ける。裏表両面ともに根挟み部分が平に加工される。
2360	2		S3334	2	打製石斧未製品	ホルンフェルス	30.2	12.5	7.1	3780.0	1/3	大きな剥離による成形が見られ、打製石斧の未製品と推察される。およそ半分で分断して出土。接合して図化。
2361	2		S3334	3	砥石	砂岩	30.6	13.7	7.5	4640.0	1/4	側縁部から裏面にかけて被熱による赤化。器面全体に煤状の黒色付着物あり。砥面は稜が立ち、それぞれ浅く凹む。

第 85 表　石器計測表 (6)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2362	2		S3335		磨製石鏃	緑色頁岩	2.5	2.3	0.3	2.4	1/2	平基。先端部および右基端部欠損。
2363	2		S3335	4	敲石	砂岩	12.5	7.9	6.7	847.9	1/3	欠損著しい。正面に強い敲打による器面の凹凸が観察される。
2364	2		S3336		磨製石鏃	緑色頁岩	2.3	1.7	0.3	1.0	1/2	未製品。表裏とも剥離面を大きく残す。成形は粗く先端も尖らない。表と側縁に部分的に研磨が確認される。
2365	2		S3336	2	磨石	ホルンフェルス	4.7	3.9	1.9	49.2	1/3	手のひらにすっぽりと収まる大きさの楕円礫。熱により赤化する。正面中央部分は磨りにより黒ずむ。
2366	2		S3336		石包丁	ホルンフェルス	4.7	6.7	0.8	26.8	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。研磨痕は不明瞭。両端に抉りを有する。
2367	2		S3000	3	磨石	ホルンフェルス	6.8	6.5	3.6	229.4	1/3	断面は蒲鉾形に近い円礫。表裏両面が磨り面。磨り面はつるつるした手触りで光沢を帯びる。
2368	2		S3000	22	敲石	ホルンフェルス	11.1	7.5	3.1	412.3	1/3	やや扁平な楕円礫。風化著しいが器面に微弱な敲打痕が観察される。正面に鉄銹状の付着物あり。付着物は濃いトーンで図示。
2369	2		S3000	8	打製石斧	ホルンフェルス	9.2	5.7	2.9	177.9	1/3	基部のみ残存。正面に部分的に礫面を残す。剥離成形後、敲打による成形が行われる。
2370	2		S3000	4	磨製石斧	ホルンフェルス	7.3	5.0	3.0	92.5	1/3	正面と両側縁に剥離成形痕が残る。丁寧な研磨により刃付けされ、刃面部は光沢を帯びる。断面形は台形に近い
2371	2		S3000	10	不明	頁岩	2.8	0.8	0.5	1.7	1/2	研磨が施された、断面形が菱形に近い棒状の石器。上下端部が欠損。用途不明。
2372	2		S3000	11	二次加工剥片	ホルンフェルス	4.8	6.2	1.7	51.8	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。左側縁側欠損。剥離の際に生じたエッジに刃部加工を施す。
2373	2		S3000	31	敲石	砂岩	19.7	9.5	5.7	1756.0	1/3	両側に面的に敲打が集中する。特に右側面は敲打により平らな面が形成される。
2374	2		S3000	28	敲石	砂岩	18.1	6.9	3.9	750.2	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。右側縁部のみに敲打が集中する。
2375	2		S3000	5	敲石	砂岩	19.7	8.3	4.7	1343.0	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。両側に面的に敲打が集中する。
2376	2		S3000	7	敲石	砂岩	19.1	5.7	4.3	572.0	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。棒状の敲石。膨らんだ先端部分に敲打が集まり、握り手と考えられる下方部に向けて細くなる。細い部分は手ずれによるものか、滑らかな手触りである。
2377	2		S3000	2	台石	砂岩	30.6	29.6	10.9	13500.0	1/4	平面形は歪な楕円形、断面形そろばん玉状の巨礫。表裏面の中央部分に広い磨り面。裏面中央部分は敲打痕が集中する。
2378	2		S390	1	打製石斧	ホルンフェルス	12.2	5.1	2.0	192.9	1/3	平面形短冊形。表裏両面に礫面を残す。断面形はやや潰れ気味の楕円形。
2379	2	イ30			磨製石鏃	頁岩	4.3	2.5	0.6	7.0	1/2	未製品。表裏ともに研磨が施される。左側縁部が最大厚となる。
2380	2	イ31			管玉	凝灰岩	1.9	0.6	0.2	0.2	1/1	正面は滑らかで光沢を持つ緑色。欠損が激しいため原形は推察の域を出ないが、管玉の破片と推察される。
2381	2	A24			石包丁	ホルンフェルス	3.5	6.9	0.6	20.2	1/2	全面研磨。器面の風化が激しく研磨痕は不明瞭。両端部に抉りを有する。
2382	2	C20			砥石	ホルンフェルス	16.2	14.9	5.8	2125.0	1/4	表裏両面に砥面。裏面は層状に剥落した面を利用。砥面には無数の浅く細かい線状痕が観察される。
2383	2	G12			筋砥石	砂岩	13.7	13.8	10.7	2103.0	1/3	およそ下半部欠損。被熱による赤化、煤状付着物あり。礫の周囲を砥石として利用。正面のみ 9 条の筋あり。筋の切り合いも観察される。
2384	3		S9	2	敲石	ホルンフェルス	10.2	3.7	3.1	174.4	1/3	断面が菱形状の棒状礫、上半部が欠損。稜の部分に敲打痕。
2385	3		S9		磨製石鏃	赤色頁岩	2.4	2.3	0.2	1.6	1/2	平基。先端部欠損。底面は縦方向に研磨痕が観察される。
2386	3		S9		磨製石鏃	緑色頁岩	2.7	1.6	0.3	1.6	1/2	先端、左側縁、基部が欠損。
2387	3		S9		磨製石鏃	緑色頁岩	2.1	2.3	0.2	1.4	1/2	平基。先端部欠損。
2388	3		S9		磨製石鏃	緑色頁岩	2.2	1.3	0.2	1.1	1/2	未製品。全面に研磨が施される。全体の厚みがほぼ均一だが、先端は研磨により厚みを失う。
2389	3		S101	20	台石	砂岩	23.0	24.7	6.3	4640.0	1/4	表裏両面とも磨り面と線状痕が混在する。正面右端は砥面。線状痕はうっすら見えるほどで浅い。裏面中央部には敲打が集中する。
2390	3		S101	11	磨製石斧	硬砂岩	21.7	7.2	5.2	1196.0	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。剥離・敲打成形後に研磨。正面は礫面を大きく残す。断面楕円形。
2391	3		S102		石包丁	ホルンフェルス	3.7	6.6	0.6	22.2	1/2	正面が礫面の剥片を素材とする。刃部は研磨による刃付けが観察される。両端に抉りを有する。
2392	3		S105	99	磨石	尾鈴山酸性岩類	9.4	8.0	5.3	570.7	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。表面のみ赤化。
2393	3		S105	32	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.0	9.8	5.5	904.4	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。表面はドーナツ状に、裏面は中央部が微かに黒ずむ。
2394	3		S105	87	砥石	砂岩	18.6	8.6	4.8	1063.3	1/4	正面、左側面に砥面。下部は欠損。裏面は層状に剥落。切り合う S106 の 83 番遺物と裏面で接合。
2395	3		S105	44	石包丁	ホルンフェルス	4.8	7.9	0.7	38.5	1/2	全面研磨。器面の風化が激しい。両端に抉りを有する。
2396	3		S105		石包丁	ホルンフェルス	3.5	3.3	0.5	5.9	1/2	紐孔の位置は背部に対して平行ではない。表裏両面からの穿孔が観察される。刃部および紐孔部分から両側縁部が大きく欠損。
2397	3		S105	61	石包丁	千枚岩	4.7	8.6	0.5	37.3	1/2	全面研磨。小判形で両端に小さな抉りを有する。刃部左端が欠損。
2398	3		S106	25	磨製石鏃	緑色頁岩	3.2	2.4	0.2	2.1	1/2	浅い凹基。先端部および両基端部欠損。底面は縦方向に研磨痕が観察される。
2399	3		S106		磨製石鏃	緑色頁岩	2.8	1.7	0.2	1.0	1/2	凹基。両基端部は接地面に対してフラット。石材色調は緑色でマーブル状の縞模様が入る。
2400	3		S106		磨製石鏃	緑色頁岩	2.6	1.7	0.2	0.9	1/2	平基。先端が微細に欠ける。基部正面は剥落。
2401	3		S106	19	磨製石斧	ホルンフェルス	9.3	5.7	3.2	305.6	1/3	敲打成形後に研磨。基部・刃部を欠損。断面楕円形。器面に鉄銹付着。
2402	3		S106	11	敲石	砂岩	13.8	6.2	5.1	619.3	1/3	丸みを帯びた縦長の礫。上下端部のみに敲打痕。
2403	3		S106	10	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.5	8.0	4.7	590.1	1/3	表裏面中央部分が磨り面。器面に赤色の付着物が観察される。
2404	3		S106	63	磨石	尾鈴山酸性岩類	6.2	5.9	2.8	157.4	1/3	手のひらにすっぽりと収まるほどの大きさの平面円形、断面楕円形の礫。表裏両面が磨り面。赤色の付着物が観察される。
2405	3		S106	9	砥石	砂岩	22.0	15.3	8.1	3895.5	1/4	上半部に被熱による赤化あり。正面縦方向はおよそ 5cm の幅で凹む。
2406	3		S106	83	砥石	砂岩	10.9	8.9	4.5	746.1	1/4	正面、右側面に砥面。正面中央部の縦方向に浅い筋状の凹みがあり鉄錆が付着する。鉄錆は濃いトーンで図示。下部欠損。裏面は層状に剥落。切り合う S105 の 87 番遺物と裏面で接合する。
2407	3		S106	61	台石	砂岩	26.4	16.1	9.1	5463.6	1/4	断面は歪な三角形状でそれぞれの平坦面に磨り、正面の稜に敲打が観察される。裏面の磨り面は中央部が楕円形状に凹む。
2408	3		S106	34	砥石	砂岩	34.0	16.4	13.3	9500.0	1/4	正面の砥面はおよそ幅 3.5cm、長さ 18cm の凹みが観察される。右側面の砥面は全体が緩やかに凹む。
2409	3		S107	43	砥石	頁岩	8.4	4.1	1.9	55.2	1/3	正面裏面ともに層状に剥落が見られ、上下端部も欠損。裏面に一部分砥面が残存。

第 86 表　石器計測表 (7)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2410	3		S107	32	砥石	頁岩	9.8	3.5	0.9	46.6	1/3	右側縁の剥落部分以外は全面砥面。中央部分で分断して出土したものを接合して図化。
2411	3		S107	4	砥石	頁岩	6.5	2.5	0.9	20.5	1/3	欠損が大きい。正面と右側縁部は砥面が残存。
2412	3		S107	3	石包丁	ホルンフェルス	5.9	9.2	1.3	66.4	1/2	成形剥離痕を大きく残し、部分的に研磨が観察される。両端とも抉りが無い。風化により器面に亀裂が入る。刃部が大きく欠損。
2413	3		S107	27	砥石	砂岩	31.5	28.0	14.1	19000.0	1/4	正面は広い砥面で部分的に稜が立つ。中央部分に煤状の黒色付着物あり。裏面は敲打痕のみ観察される。
2414	3		S107	29	磨石	尾鈴山酸性岩類	8.6	8.8	4.6	533.9	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。表面全面と裏面周縁部分が黒ずむ。
2415	3		S107	28	磨石	尾鈴山酸性岩類	9.3	9.1	3.8	504.6	1/3	断面楕円形の円礫。正面中央部分が黒ずむ。
2416	3		S107	30	敲石	尾鈴山酸性岩類	11.5	10.6	6.7	1170.1	1/3	断面楕円形の円礫。表面には右斜め下がりに線状痕のような敲打痕。裏面の磨り面はドーナツ状に器面が黒ずむ。
2417	3		S107	31	砥石	砂岩	26.1	14.7	5.5	3059.7	1/4	正面の砥面平坦部には幅 3.5cm ほどの稜が立つ。先端部、裏面に煤状の黒色付着物あり。
2418	3		S107	15	敲石	砂岩	19.3	9.6	5.3	1511.4	1/3	断面楕円形、平面形撥形の礫。上下端部周辺に敲打痕。たも石の一群として出土。
2419	3		S107	56	敲石	砂岩	9.8	6.3	3.2	310.7	1/3	断面楕円形の歪な円礫。上下端部に敲打痕。
2420	3		S107	38	敲石	砂岩	16.7	8.3	6.0	1174.6	1/3	断面蒲鉾形のやや歪な楕円礫。被熱による赤化あり。上下端部に敲打痕。
2421	3		S108	32	磨製石鏃	緑色頁岩	3.8	1.8	0.3	2.1	1/2	凹基。先端部欠損。基端部先端は尖る。底面中央部分の研磨が正面までオーバーハングする。
2422	3		S108		磨製石鏃	緑色頁岩	2.3	2.5	0.3	2.2	1/2	平基。先端部欠損。底面は縦方向に研磨痕が観察される。
2423	3		S109	2	磨製石鏃	緑色頁岩	1.9	1.7	0.2	0.6	1/2	平基。先端に微細な欠けが観察される。底面は研磨されるも平面形が若干歪であり、欠損品の再加工の可能性あり。
2424	3		S109		磨製石鏃	緑色頁岩	2.3	1.7	0.2	1.3	1/2	浅い凹基。先端部欠損。
2425	3		S109	3	剥片	ホルンフェルス	4.4	2.4	0.3	4.7	1/2	風化著しい。裏面の右側縁付近に手触りなめらかで研磨らしき痕跡あり。
2426	3		S109		不明	緑色頁岩	3.3	0.7	0.5	1.6	1/2	研磨が施された断面扇形の棒状の石器。上端部欠損。底面は平らに研磨されている。用途不明。
2427	3		S109	15	磨石	ホルンフェルス	10.3	7.5	4.2	462.9	1/3	断面楕円形の歪な円礫。正面中央部分のみ滑らか。
2428	3		S110	176	敲石	砂岩	11.9	4.0	2.3	189.3	1/3	裏面は層状に剥落。断面形が蒲鉾形になる棒状礫。正面中央部に敲打痕が集中する。上下端部にも弱い敲打痕。
2429	3		S110	74	砥石	砂岩	13.5	7.0	3.9	566.1	1/3	歪な自然礫の表裏平坦面に砥面。無数の線状痕が観察される。
2430	3		S110	172	砥石	頁岩	5.2	4.9	0.9	25.9	1/3	正面のみ平坦な砥面。裏面に礫面を残す。欠損大。
2431	3		S110	173	砥石	砂岩	26.6	22.7	8.1	5868.2	1/4	上端部から裏面にかけて被熱による赤化。上下端部欠損。正面砥面は稜が立ち、それぞれ緩く凹む。
2432	3		S110	63	砥石	砂岩	20.8	10.7	4.8	1698.8	1/4	正面および左側面の砥面はいずれも平坦。正面の砥面右側縁側は光沢を持つ。裏面中央部は敲打痕が集中する。たも石の一群として出土しており転用されたと思われる。
2433	3		S110	174	砥石	砂岩	25.3	23.3	6.6	5243.1	1/4	表裏両面の広い範囲を砥面とする。正面砥面の中央部は光沢を帯びる。上端部に鉄錆付着。裏面中央部に敲打痕が集中する。下端部は欠損
2434	3		S110	61	敲石	砂岩	18.8	8.7	7.6	1954.4	1/3	断面隅丸方形の楕円礫。上下両端部に敲打痕。たも石の一群として出土。
2435	3		S110	75	敲石	砂岩	18.6	10.2	4.0	1133.5	1/3	偏平な楕円礫。上下端部、左右側縁部に敲打の集中が見られる両側縁の敲打は横方向に強く行われ抉れる。
2436	3		S110	66	石包丁	ホルンフェルス	6.5	8.7	0.8	49.2	1/2	刃部が外湾する。全面研磨で両端に抉りを有する。
2437	3		S110		石包丁	ホルンフェルス	4.1	9.0	1.0	47.5	1/2	全面研磨。刃部が浅く内湾する。両端に抉りを有する。
2438	3		S112		磨製石鏃	頁岩	2.6	1.6	0.3	1.2	1/2	平基。左側縁の中程から基端にかけて欠損。色調はやや茶色味を帯びた灰色。
2439	3		S112	37	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.9	11.2	5.8	1160.5	1/3	被熱により器面やや赤味を帯びる。表裏両面が磨り面で両面とも煤状の黒色付着物あり。
2440	3		S112	30	砥石	砂岩	19.4	8.3	7.4	1583.0	1/3	下面の欠損部以外は全面砥面。正面と右側面は平坦な砥面、裏面と左側面は礫の凹凸が残る。
2441	3		S112	38	石包丁	ホルンフェルス	5.0	7.2	0.5	20.5	1/2	約１／３が欠損。紐孔は背部に対して平行でない。紐孔とは別に、正面に２カ所、裏面に３カ所紐孔を開けようとした凹みがある。
2442	3		S112	22	石包丁	ホルンフェルス	4.3	7.2	0.7	34.0	1/2	表裏とも成形剥離痕が残る。両端に抉りを有する。
2443	3		S113	2	敲石	砂岩	20.6	11.0	5.7	1992.9	1/3	礫の正面中央部および裏面上下端部に微弱な敲打痕。
2444	3		S114	1	磨石	尾鈴山酸性岩類	6.5	6.0	2.7	155.6	1/3	手のひら大の円礫。表裏両面が磨り面。
2445	3		S114	2	磨製石鏃	緑色頁岩	2.9	1.8	1.5	1.2	1/2	凹基。基端部先端が尖る。底面は縦方向に研磨痕が観察される。
2446	3		S114	12	磨製石鏃	緑色頁岩	2.8	1.4	0.3	1.4	1/2	未製品。先端は鈍角。側面とともに研磨はされているがエッジに厚みがある。底面は破断面。
2447	3		S114	15	磨製石鏃	赤色頁岩	4.3	2.2	0.4	4.2	1/2	未製品。正面、側縁部および底部に研磨が施されるも成形は粗く左右非対称。裏面は大きく剥離面を残す。エッジ全体に厚みを残す。
2448	3		S115	4	磨製石鏃	頁岩	2.7	1.8	0.2	1.2	1/2	平基。先端部欠損。両基端部は微細に欠ける。基部は下方に向けて両面から厚みを減じるように研磨される。
2449	3		S115	3	磨製石斧	ホルンフェルス	9.0	5.9	3.7	235.0	1/3	基部のみ残存。断面楕円形。全面研磨で部分的に剥離・敲打成形痕を残す。
2450	3		S115	16	磨製石斧	硬砂岩	7.0	5.7	4.2	234.6	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。基部のみ残存。断面楕円形。敲打成形の後、研磨されているが研磨痕は不明瞭。基端部に成形痕とは別に敲打痕あり。
2451	3		S115	15	敲石	尾鈴山酸性岩類	9.0	7.9	4.6	513.4	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。周縁に磨り潰したような使用痕が帯状に巡る。
2452	3		S116	6	磨石	尾鈴山酸性岩類	12.1	11.2	5.0	1027.2	1/3	断面楕円形の円礫。被熱による赤化。煤状の黒色付着物あり。表裏両面が磨り面で正面中央部分がやや黒ずむ。
2453	3		S116	26	敲石	砂岩	12.3	8.9	4.5	754.6	1/3	断面楕円形の丸みを帯びた礫。正面中央部分が滑らかな面。周縁に微弱な敲打痕。
2454	3		S116	17	敲石	砂岩	13.9	13.8	7.1	1869.1	1/3	凹み石。表裏両面のほぼ中央に敲打痕。左側縁は敲打に伴う剥落。右側面と底面は強い敲打により最深部 7mm 程に窪む。
2455	3		S117		磨製石鏃	緑色頁岩	2.0	1.5	0.2	0.7	1/2	基部の欠損が大きいため元のサイズは不明。
2456	3		S117	55	磨石	尾鈴山酸性岩類	6.1	5.7	2.6	133.1	1/3	手のひら大の円礫。表裏両面が磨り面。器面がやや黒ずむ。
2457	3		S117	25	台石	尾鈴山酸性岩類	32.9	43.4	12.6	29600.0	1/6	幅 40cm を超える巨礫。正面の広い範囲に磨りが確認される。正面右上に深さ 1mm 程の明瞭な線状痕が集中する。
2458	3		S117	32	磨石	砂岩	8.9	5.5	3.5	246.0	1/3	手のひら大の楕円礫。表面は手触り滑らかで部分的に黒ずみがある。

第 87 表　石器計測表 (8)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2459	3		S117	91	磨石	砂岩	9.8	9.3	4.5	615.9	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。正面中央部付近が薄く黒ずむ。
2460	3		S117	56	敲石	尾鈴山酸性岩類	10.7	9.6	4.2	670.6	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面で中央部分がわずかに黒ずむ。表裏両面とも中央部分に微弱な敲打痕。
2461	3		S118	50	磨製石鏃	頁岩	3.4	1.8	0.2	2.0	1/2	凹基。先端部欠損。下半部に最大幅を持つ。
2462	3		S119	7	磨製石斧	硬砂岩	9.1	6.0	3.4	298.9	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。基部を大きく欠損。敲打成形痕が部分的に残る。刃縁に潰れが観察される。断面は隅丸方形に近い。
2463	3		S119		磨製石斧	硬砂岩	15.2	6.4	4.9	688.6	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。刃部欠損。敲打による成形後、研磨される。断面は厚みのある楕円形。
2464	3		S119		磨製石斧	ホルンフェルス	16.2	6.1	3.8	510.7	1/3	剥離による成形後、部分的に敲打成形が行われる。左側面と基端部は礫面を残す。断面楕円形。
2465	3		S119	50	敲石	尾鈴山酸性岩類	8.3	8.2	3.1	334.2	1/3	偏平な円礫。被熱による赤化。表裏両面が磨り面。周縁に敲打による面の潰れが観察され、中心に沿って稜が巡る。
2466	3		S119	24	磨製石鏃	赤色頁岩	3.5	1.9	0.2	1.8	1/2	ほぼ平基に近い浅い凹基。底面にも研磨痕が観察される。先端が窄まり尖る。
2467	3		S119	84	磨製石鏃	赤色頁岩	3.3	1.8	0.2	1.6	1/2	平基。端正な二等辺三角形。底面にも縦方向に研磨痕が観察される。
2468	3		S119	32	磨製石鏃	赤色頁岩	2.7	2.3	0.2	1.7	1/2	平基。底面にも縦方向に研磨痕が観察される。先端部が大きく欠損。
2469	3		S119	25	磨製石鏃	緑色頁岩	3.3	2.4	0.2	2.2	1/2	平基。先端部が微細に欠損。底面にも縦方向に研磨痕が観察される。
2470	3		S119	10	磨製石鏃	緑色頁岩	2.7	2.2	0.1	0.9	1/2	平基。端正な二等辺三角形。上１／３程で折れている状態で出土。接合して図化。
2471	3		S119	33	磨製石鏃	緑色頁岩	2.5	2.1	0.2	1.2	1/2	平基。両基端部が丸みを帯びる。
2472	3		S119		磨製石鏃	緑色頁岩	2.2	1.6	0.2	0.9	1/2	未製品。底面以外は全面に研磨は施されるが、厚みがほぼ均一。先端・エッジも鋭さに欠ける。
2473	3		S119		磨製石鏃	緑色頁岩	2.8	1.8	0.2	1.5	1/2	未製品。平基。全面に研磨は施されるが、両側縁のエッジ部分の厚みが残る。
2474	3		S119		磨製石鏃	頁岩	3.9	2.3	0.3	3.3	1/2	未製品。平基。先端は尖らず、底面を接地して見ると左右が非対称になる。裏面は偏平、正面は中央が平らに研磨されることで稜が立ち、断面が台形状になる。右基端部が欠損。
2475	3		S119		磨製石鏃	緑色頁岩	2.3	1.9	0.2	1.0	1/2	未製品。側面に研磨による成形が観察される。
2476	3		S119		磨製石鏃	緑色頁岩	1.9	1.2	0.2	0.3	1/2	先端部のみ残存。鋭角で鋭い先端。
2477	3		S119		磨製石鏃	緑色頁岩	2.0	1.6	0.2	0.8	1/2	未製品。平面形はイチジク形。全面に研磨が施される。エッジ部分に厚みが残る。
2478	3		S119		剥片	緑色頁岩	1.4	1.6	0.3	0.6	1/2	右側は研磨され直線的に成形される。
2479	3		S119		剥片	緑色頁岩	1.8	1.2	0.2	0.6	1/2	両側面と上面は研磨により直線的に成形される。
2480	3		S119		剥片	緑色頁岩	3.4	1.7	0.2	1.2	1/2	裏表両面に研磨が施される不定形剥片。正面に１条の線状痕が観察される。
2481	3		S119	29	剥片	緑色頁岩	3.4	2.4	0.2	2.2	1/2	正面に広く研磨痕が観察される。不定形剥片。
2482	3		S119	46一括	剥片	緑色頁岩	3.1	2.2	0.3	1.9	1/2	厚さ 3mm 程の不定形剥片。正面に研磨痕が観察される。
2483	3		S119		剥片	緑色頁岩	4.8	2.2	0.5	4.3	1/2	厚さ 5mm 程の不定形剥片。正面には研磨が観察される。
2484	3		S119	52	剥片	緑色頁岩	2.3	2.2	0.2	1.2	1/2	両面に研磨が施され厚みがほぼ均一。正面に浅い２条の線状痕が観察される。不定形剥片。
2485	3		S119	9	剥片	緑色頁岩	1.9	2.5	0.2	1.0	1/2	右下部分の表裏両面に部分的に研磨が観察される。不定形剥片。
2486	3		S119		剥片	緑色頁岩	1.5	1.4	0.2	0.6	1/2	裏表両面に研磨が観察される。周縁にも研磨が施される。
2487	3		S119	8	剥片	緑色頁岩	2.7	2.3	0.2	1.2	1/2	厚さ 2mm 程の不定形剥片。
2488	3		S119	32	剥片	緑色頁岩	2.5	1.8	0.2	0.8	1/2	厚さ 2mm 程の扁平な不定形剥片。
2489	3		S119	46一括	剥片	緑色頁岩	2.4	5.2	0.2	3.4	1/2	厚さ 2mm 程の不定形剥片。
2490	3		S119	46一括	剥片	緑色頁岩	3.0	1.8	0.2	1.5	1/2	厚さ 2mm 程の不定形剥片。
2491	3		S119	46一括	剥片	緑色頁岩	3.2	2.7	0.4	4.1	1/2	厚さ 4mm 程の不定形剥片。
2492	3		S119	46一括	剥片	緑色頁岩	3.6	1.7	0.3	2.1	1/2	厚さ 3mm 程の不定形剥片。
2493	3		S119	46一括	剥片	緑色頁岩	4.4	2.7	0.6	6.3	1/2	右側縁の直線的な切断面は擦り切られたものと推察される。
2494	3		S119	46一括	剥片	緑色頁岩	3.0	2.9	0.6	4.0	1/2	厚さ 6mm 程の不定形剥片。
2495	3		S119	46一括	剥片	緑色頁岩	2.8	2.1	0.4	1.9	1/2	厚さ 4mm 程の不定形剥片。
2496	3		S119	46一括	剥片	緑色頁岩	2.9	2.1	0.4	2.4	1/2	厚さ 4mm 程の不定形剥片。
2497	3		S119	51	剥片	緑色頁岩	2.6	1.9	0.3	1.4	1/2	厚さ 3mm 程の不定形剥片。
2498	3		S119	53	剥片	緑色頁岩	2.9	1.5	0.3	1.4	1/2	厚さ 3mm 程の不定形剥片。
2499	3		S119	31	敲石	ホルンフェルス	11.0	3.9	2.4	209.9	1/3	断面隅丸方形の棒状礫。風化著しく使用痕は不明瞭。
2500	3		S119	81	敲石	砂岩	4.4	3.4	1.9	39.6	1/3	欠損著しい棒状の礫。下端部に微弱な敲打が観察される。
2501	3		S119	47	砥石	砂岩	28.5	18.2	15.7	13500.0	1/4	断面は隅丸台形状で砥面は平坦。正面は敲打を伴い部分的に縦方向に稜が立つ。
2502	3		S119	82	砥石	砂岩	26.3	17.5	9.5	5324.1	1/4	正面の砥面は中央部分が縦方向におよそ 4mm の幅で凹み稜が立つ。左側面は平坦で滑らかな砥面。裏面は比較的粗い砥面だが触れると縦方向帯状に僅かに凹む。

第 88 表　石器計測表 (9)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2503	3		S119	2	砥石	砂岩	16.0	13.5	5.9	1755.4	1/4	正面の砥面には、幅約 1cm と幅約 2.5cm で稜が立つものが縦方向に観察され浅く凹む。裏面は中央部が浅く凹む。下半部は欠損。
2504	3		S119	73	敲石	尾鈴山酸性岩類	9.4	8.7	3.9	509.6	1/3	断面楕円形の円礫。上下端部に敲打による面の潰れが観察されエッジ部分に稜が立つ。表裏両面が磨り面。
2505	3		S120	85	敲石	砂岩	13.7	6.8	5.0	680.1	1/3	風化および欠損著しい。正面中央部分と右側縁部に強い敲打が観察される。
2506	3		S120	24	敲石	ホルンフェルス	10.0	9.5	6.8	868.3	1/3	厚みのある断面隅丸三角形の円礫。上端部欠損。磨り潰した様な敲打痕が帯状に連なる。器面に微細な線状痕が観察される。
2507	3		S120	59	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.8	8.7	4.9	706.6	1/3	断面楕円形の楕円礫。表裏両面が磨り面。正面左側縁が磨りにより黒く変色し弱い光沢を帯びる。
2508	3		S120	83	砥石	頁岩	9.3	4.1	0.7	32.1	1/3	上下端部は欠損。平坦な砥面。右側縁は擦り切り痕が残存。正面下部に縦方向の線状痕が観察される。
2509	3		S121	3	磨製石鏃	頁岩	4.3	1.5	0.2	1.9	1/2	凹基。細身で胴長。底面にも縦方向に研磨痕が観察される。
2510	3		S121		磨製石鏃	緑色頁岩	3.2	2.0	0.2	2.1	1/2	平基。先端から左側縁部、左基部にかけて大きく欠損。
2511	3		S121	125	磨製石鏃	緑色頁岩	2.5	1.2	0.2	0.7	1/2	浅い凹基。先端部と両基端部に欠けがある。底面は縦方向に研磨痕が観察される。
2512	3		S121		磨製石鏃	頁岩	2.5	3.5	0.3	1.4	1/2	未製品。底面は研磨されるが底部は僅かに外反する。全面に部分的に研磨は見られるが、成形が粗く剥離痕が残る。
2513	3		S121	115	磨製石鏃	頁岩	3.8	1.8	0.3	2.5	1/2	浅い凹基。右側縁下部に欠けがあるが、ほぼ完形。底面にも研磨痕が観察される。
2514	3		S121		剥片	緑色頁岩	5.4	2.5	0.7	7.2	1/2	灰白色に近い緑色。正面の左部分に研磨が観察される。
2515	3		S121	33	剥片	緑色頁岩	3.5	5.5	0.2	9.1	1/2	方形で厚さがほぼ均一の剥片。中央部分で縦に割れた状態で出土。接合して図化。
2516	3		S121		剥片	緑色頁岩	4.6	2.4	0.5	4.3	1/2	厚さ 4mm 程の不定形剥片。
2517	3		S121		剥片	緑色頁岩	4.0	5.3	0.4	7.0	1/2	厚さ 3 ～ 4mm 程の不定形剥片。
2518	3		S121		剥片	緑色頁岩	3.8	3.1	0.4	4.2	1/2	厚さ 3 ～ 4mm 程の不定形剥片。
2519	3		S121		剥片	緑色頁岩	4.3	2.4	0.4	3.9	1/2	厚さ 3 ～ 4mm 程の不定形剥片。
2520	3		S121	116	敲石	砂岩	8.4	7.8	3.6	347.2	1/3	断面楕円形の円礫。側縁部付近に敲打痕。
2521	3		S121	102	敲石	尾鈴山酸性岩類	8.3	8.1	3.8	387.9	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面で光沢を帯びる部分あり。周縁に敲打による礫面の潰れが見られる。
2522	3		S121	123	打製石斧	ホルンフェルス	15.8	6.6	2.4	391.8	1/3	正面に礫面を残す扁平な剥片を素材とする。刃部および両側縁を剥離により成形。
2523	3		S121		磨製石斧	硬砂岩	7.5	4.7	3.0	173.4	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。基部のみ残存。基端部に敲打痕あり。研磨痕は明瞭ではないが全面研磨される。断面楕円形。
2524	3		S121	130	磨石	尾鈴山酸性岩類	7.6	5.3	2.4	152.7	1/3	扁平な楕円礫。表裏両面が磨り面で、鉄銹状の付着物が観察される。
2525	3		S121	44	磨石	尾鈴山酸性岩類	6.4	6.3	3.0	182.1	1/3	手のひらにすっぽりと収まるほどの大きさ。表裏両面が磨り面。
2526	3		S121	27	砥石	砂岩	24.6	18.4	8.6	4742.2	1/4	正面の砥面は中央部分が浅く凹む。中央の線状痕には鉄錆状の付着物あり。
2527	3		S121	100	不明	軽石	14.7	4.5	3.5	50.0	1/3	不定形。周囲を巡るように断面が浅いＵ字状の筋が巡る。
2528	3		S123	64	敲石	砂岩	8.0	6.6	6.1	416.4	1/3	上半部欠損。下端部に強い敲打痕。
2529	3		S123		磨製石鏃	緑色頁岩	2.3	2.4	0.2	1.5	1/2	平基。先端部が大きく欠損。
2530	3		S123	33	不明	軽石	6.2	6.4	2.9	18.7	1/3	不定形。正面はやや黒ずみ 2 条の断面 V 字の線状痕がみられる。使用に伴うものかは不明。
2531	3		S123	36	砥石	砂岩	14.7	9.7	4.8	824.2	1/4	欠損著しい。下端部に煤状の黒色付着物および横方向に線状痕が集中する。上端部に鉄銹付着。鉄銹は濃いトーンで図示。
2532	3		S123	67	敲石	尾鈴山酸性岩類	11.3	10.6	5.1	924.8	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。上下端部に磨り潰した様な面の潰れが観察され、下端部はエッジに稜が立つ。
2533	3		S123	68	砥石	砂岩	24.1	20.8	4.8	4405.5	1/4	裏面は礫面。正面は砥面および敲打痕。左側面も磨りが面的に見られる。上端部、左側縁部欠損。
2534	3		S131	17	砥石	砂岩	32.3	21.0	11.0	8400.0	1/4	下端部から裏面にかけて大きく欠損。左側面は緩く凹む砥面。
2535	3		S131	15	砥石	砂岩	23.7	11.2	5.2	2134.5	1/4	正面は緩く凹む砥面。左側面は平坦だが粗い砥面。裏面は敲打痕を伴う。
2536	3		S131	18	砥石	砂岩	26.6	16.7	10.0	7500.0	1/4	正面、左右側面いずれも浅く凹む砥面。上端部欠損。裏面は層状に剥落しており、敲打痕が観察される。
2537	3		S151		磨製石鏃	赤色頁岩	2.8	1.9	0.2	1.5	1/2	平基。左側縁部から基端にかけて欠損する。先端が窄まり尖る。
2538	3		S151	8	台石	砂岩	19.0	13.5	5.0	2051.4	1/4	器面は被熱による赤化あり。磨りは観察されない。正面中央の右側に鉄銹付着。鉄銹は濃いトーンで図示。
2539	3		S151	1	磨製石斧	硬砂岩	5.7	5.7	4.6	207.0	1/3	青みかかった灰色の硬くしまった石材。基部のみ残存。敲打成形後、研磨される。断面は厚みのある楕円形。
2540	3		S151	2	敲石	尾鈴山酸性岩類	10.0	9.2	4.9	669.6	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。周縁に敲打による面の潰れが観察され、中心に沿って稜が巡る。
2541	3		S154		石包丁	ホルンフェルス	4.7	8.4	0.7	37.0	1/2	正面が礫面の剥片を素材としている。両端の抉り部の研磨が観察される。
2542	3		S154	14	敲石	ホルンフェルス	16.3	6.5	5.4	905.9	1/3	厚みのある棒状礫。正面および下端部に敲打痕。
2543	3		S155	173	敲石	ホルンフェルス	11.7	10.6	4.8	747.1	1/3	歪な自然礫の縁辺部および表裏平坦面にまばらな敲打が観察される。上端部は欠損。
2544	3		S155	112	不明	軽石	6.1	4.6	3.6	20.3	1/3	使用痕は確認できない。不定形だが、正面に平坦な部分があり。
2545	3		S155	115	不明	軽石	7.6	4.4	1.6	12.1	1/3	使用痕は確認できない。平面形は楕円形状。表裏面がほぼ平らになる。
2546	3		S155	107	不明	軽石	7.6	5.4	2.4	17.9	1/3	使用痕は確認できない。平面形は楕円形、断面は隅丸方形。表裏面がほぼ平らになる。
2547	3		S155	214	砥石	砂岩	16.0	11.0	6.4	1195.0	1/3	砥面は正面の平坦面のみで敲打痕を伴う。裏面は摂理面。周縁部の形状は加工によるものかは不明。
2548	3		S155	179	砥石	砂岩	14.2	9.6	5.7	853.0	1/3	下半部欠損。右側面は層状に剥落。左側面は礫面を残す。正面の砥面は平坦で中央部分は縦方向に光沢を帯びる。
2549	3		S155	205	砥石	砂岩	28.8	19.8	8.5	6500.0	1/4	表裏面とも浅く凹む砥面。右側縁に縦方向に幅およそ 1cm の筋があり稜が立つ。
2550	3		S155	202	敲石	砂岩	12.0	8.6	2.7	387.6	1/3	礫の周縁部および平坦面に敲打。正面中央部は敲打により深さ 4mm 程凹む。裏面は剥落が見られるものの中央部分には表面と同じく敲打の痕跡が残る。
2551	3		S155	95	敲石	砂岩	9.8	5.2	3.5	296.3	1/3	断面楕円形の棒状の礫を素材とする。上半部欠損。下端部に敲打痕。正面右側磨り面は光沢を帯びる。

第 89 表　石器計測表 (10)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2552	3		S155		磨製石斧	硬砂岩	13.1	5.5	4.3	478.6	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。敲打による成形後、全面に研磨が施される。断面形は楕円形。丁寧に研磨され刃面部は光沢を帯びる。基端部は敲打により平らに成形される。刃縁に潰れが観察される。
2553	3		S155		磨製石斧	硬砂岩	13.2	4.8	4.4	193.0	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。欠損が大きく、左側縁から左刃部にかけて残存。断面は厚みのある楕円形。部分的に敲打による成形痕が残る。丁寧に研磨され刃付けされる。研磨面は光沢を帯びる。
2554	3		S155		磨製石鏃	頁岩	1.4	1.9	0.2	1.1	1/2	平基。先端が大きく欠損し、基部のみ残存。
2555	3		S155		磨製石鏃	頁岩	2.9	2.2	0.2	1.7	1/2	平基。底面にも縦方向に研磨痕が観察される。
2556	3		S155		磨製石鏃	緑色頁岩	2.7	1.8	0.2	1.3	1/2	凹基。先端が欠損。基端部の長さが左右非対称であるが欠損後の再加工とも考えられる。
2557	3		S156		磨製石鏃	頁岩	2.1	1.7	0.2	1.1	1/2	未製品。平基。全面に研磨が施される。先端は研磨で薄くなるも尖らず。両側縁部エッジは厚みが残る。
2558	3		S156		磨製石鏃	緑色頁岩	2.6	2.1	0.2	1.5	1/2	平基。先端部が大きく欠損。両基端部に微細な欠けが観察される。
2559	3		S158		磨製石鏃	緑色頁岩	2.7	1.8	0.2	1.2	1/2	平基。底面にも縦方向に研磨痕が観察される。
2560	3		S158		磨製石鏃	頁岩	3.8	2.1	0.3	3.1	1/2	凹基。色調は灰色。先端部および両基端部に欠損。注記は S158 であるが S156 との切り合いおよび出土遺物の状況から S156 の遺物の可能性が高い。
2561	3		S158	2	敲石	砂岩	15.0	6.5	3.8	611.6	1/3	扁平な棒状礫で上下端部、左右側面に敲打痕。上下端部は敲打により剥落する。正面と裏面のほぼ中央部分に敲打による凹みあり。
2562	3		S161	64	磨製石鏃	頁岩	2.5	1.4	0.2	1.0	1/2	凹基。右基端部欠損。残存する左基端部は先端が丸く加工。研磨による側縁部の稜が明瞭。
2563	3		S161	45	剥片	結晶片岩	4.7	2.4	0.3	5.1	1/2	灰白色に近い緑色。石鏃の素材ではないかと推察される。
2564	3		S161	136	磨石	尾鈴山酸性岩類	7.2	4.8	2.1	112.7	1/3	扁平な楕円礫で手のひらに収まるほどの大きさ。表裏両面が磨り面でつるつるした手触り。
2565	3		S161	44	磨石	尾鈴山酸性岩類	12.9	8.9	4.8	836.3	1/3	表裏両面が磨り面。器面が灰色にくすむ。
2566	3		S161	203	敲石	尾鈴山酸性岩類	10.6	9.5	4.1	660.9	1/3	扁平な円礫。周縁を巡るように磨り潰したような敲打痕。表裏両面は磨り面。裏面に朱色の付着物あり。
2567	3		S162		石包丁	ホルンフェルス	4.2	8.5	0.7	45.9	1/2	短冊形の剥片を素材とする。背面と裏面の一部に礫面を残す。正面の風化により研磨痕は不明瞭。両端の抉りは無い。
2568	3		S162	45	磨製石鏃	緑色頁岩	3.2	1.8	0.3	1.6	1/2	先端が欠け、基部は大きく欠損。
2569	3		S162	40	二次加工剥片	ホルンフェルス	10.8	9.1	1.1	155.4	1/3	扁平で厚みがほぼ均一。先端部に剥離による調整が観察される。裏面には上端部の調整剥離痕が観察される。
2570	3		S162	37	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.3	9.0	4.6	651.8	1/3	偏平な円礫。表裏両面が磨り面。
2571	3		S4	3	磨石	尾鈴山酸性岩類	12.3	10.5	5.7	1118.9	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。正面は全体的に黒ずむ。
2572	3		S129		磨製石斧	ホルンフェルス	10.8	5.5	2.6	234.6	1/3	器面に剥離・敲打成形痕が観察される。裏面から大きく欠損し、基端部および刃部は残存しない。断面は楕円形。
2573	3	オ 40			磨製石鏃	緑色頁岩	2.6	1.6	0.2	1.0	1/2	凹基。基端部は尖る。先端に微細な欠けが見られる以外は完形。
2574	3		一括		玉	緑色頁岩	2.1	1.2	0.2	0.8	1/2	扁平で厚みが均一。表裏面と両側縁部に明瞭な粗い研磨痕が観察される。玉類の未製品と推察される。
2575	4		S1	6	砥石	砂岩	27.9	18.8	14.5	8200.0	1/4	下端部欠損。右上部が被熱により赤化し、赤化部分に線状痕が観察される。左側面にタガネ痕様の使用痕。先端部と欠損部以外はすべて砥面。裏面の砥面は緩やかに凹む。
2576	4		S2	38	石包丁	ホルンフェルス	4.5	6.9	0.6	26.9	1/2	正面礫面の剥片を素材とし、正面の風化により研磨痕は不明瞭だが刃部は研磨による刃付けが施される。両端に抉りを有する。
2577	4		S2	36	石包丁	ホルンフェルス	9.1	7.8	1.2	133.7	1/2	偏平な自然礫を素材とし剥離によって成形される。表裏両面とも礫面が残る。両端の抉りは無い。未製品と推察される。
2578	4		S2	31	石包丁	ホルンフェルス	4.9	7.8	1.4	71.8	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。平面形長方形で抉りを有しない。左側縁から刃部にかけて一部欠損。
2579	4		S2	56	石包丁	ホルンフェルス	4.3	7.1	1.0	36.9	1/2	正面礫面の剥片を素材とする。端部が所々欠損する。左端部は明瞭な抉りが残存。右刃部のみ残存。
2580	4		S2	61	石包丁	ホルンフェルス	6.1	8.2	1.1	84.4	1/2	正面礫面の剥片を素材とする。剥離形成が観察される。抉りは無く未製品と推察される。右側縁の一部欠損。
2581	4		S2	12	敲石	砂岩	15.5	6.3	4.9	745.5	1/3	縦長の楕円礫。上下端部に強い敲打痕。
2582	4		S2	4	敲石	砂岩	21.1	8.4	7.1	1731.6	1/3	断面隅丸三角形で縦長のやや大型の礫。上下端部と側縁の稜に敲打痕あり。
2583	4		S2	10	台石	砂岩	25.2	14.6	6.8	3276.2	1/4	正面は全体的に被熱による赤化あり。器面には鉄銹が付着。裏面の磨り面は線状痕を伴う。鉄錆は濃いトーンで図示。
2584	4		S2	35	敲石	砂岩	12.7	10.1	4.9	912.2	1/3	器面の風化著しい。上半部が大きく欠損。両側縁から下端部にかけて敲打痕あり。
2585	4		S3		不明	頁岩	2.7	0.4	0.4	0.6	1/1	両端部に光沢があり先端が丸まっている。穿孔具としての使用が想定されるが、具体的用途は不明。
2586	4		S5	15	敲石	ホルンフェルス	12.8	9.7	7.8	1324.6	1/3	歪な丸石で器面の風化が著しい。正面中央部分に敲打痕。たも石の一群として出土。
2587	4		S5	28	敲石	砂岩	16.4	9.9	8.3	2035.4	1/3	丸みを帯びた大型の自然礫を素材とする。風化により器面はざらつく。下端部周辺に敲打痕。裏面は剥落する。たも石の一群として出土。
2588	4		S5	20	敲石	砂岩	13.4	8.4	4.8	679.2	1/3	被熱による赤化。器面の風化著しい。礫の角に敲打痕あり。裏面は平坦で磨られていると思われる。たも石の一群として出土。
2589	4		S5	21	敲石	尾鈴山酸性岩類	13.0	9.1	4.9	763.6	1/3	被熱による赤化。風化著しく器面の剥落がすすむ。表裏両面のほぼ中央部分に敲打による凹みが観察される。たも石の一群として出土。
2590	4		S5	35	台石	砂岩	13.0	11.1	9.8	1784.0	1/3	欠損が大きい。正面に断面 V 字状の 2 条の線状痕が有る。裏面・左側面に部分的に磨りが観察される。
2591	4		S5	24	砥石	ホルンフェルス	10.1	6.4	2.9	248.5	1/3	歪な自然礫を素材とする。正面のみ線状痕を伴う砥面が観察される。
2592	4		S6	6	台石	砂岩	23.4	20.5	7.0	4386.7	1/4	左側縁欠損部のエッジが研磨により平坦となる。裏面にも磨り面あり。正面には微細な敲打痕。
2593	4		S6		砥石	頁岩	18.8	9.1	1.0	296.7	1/3	裏面は層状に剥落。欠損大。正面、両側面に砥面。砥面には線状痕が観察される。
2594	4		S6	5	砥石	頁岩	13.6	6.9	1.7	251.7	1/3	欠損大。表裏面ともやや凹凸のある砥面。正面は上端に行くにつれて緩やかに凹む。
2595	4		S7	1	磨石	尾鈴山酸性岩類	13.6	12.0	5.8	1402.2	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2596	4		S7	17	敲石	尾鈴山酸性岩類	8.8	7.7	4.0	408.3	1/3	風化著しく器面はざらつく。表裏両面の中央部分に敲打痕があり、表面は円形に浅く凹む。周縁部四方に敲打痕。
2597	4		S7		石包丁	ホルンフェルス	3.3	5.8	0.4	12.8	1/2	器面の風化が激しく研磨痕不明瞭。両端に抉りを有する。
2598	4		S8	7	敲石	砂岩	11.7	3.7	1.7	142.0	1/3	偏平な棒状礫。上下端部に弱い敲打痕。器面がやや赤みを帯びる。

第 90 表　石器計測表 (11)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2599	4		S8		石包丁	ホルンフェルス	4.7	7.7	1.3	63.2	1/2	裏面に礫面を残す。器面に鉄錆が付着。刃部は表裏両面から研磨され刃付けされる。両側に抉りを有するが、左側の抉りは右に比べ浅い。
2600	4		S8	20	石包丁	ホルンフェルス	4.7	7.7	0.7	44.9	1/2	全面研磨。裏面礫面の剥片を素材とする。両端に抉りを有する。
2601	4		S8	11	石包丁	ホルンフェルス	4.8	6.9	0.9	33.3	1/2	正面礫面の剥片を素材とする。研磨は粗い。刃部右端欠損。両端に抉りを有する。
2602	4		S8	19	石包丁	ホルンフェルス	4.4	6.7	0.8	35.2	1/2	正面礫面の剥片を素材とする。刃部は研磨により刃付けされる。両端に抉りを有する。
2603	4		S9	40	台石	砂岩	42.0	28.8	9.7	16200.0	1/4	表裏両面とも広い範囲に敲打痕を伴う磨りが観察される。正面中央部分に縦方向に筋が入る。被熱による赤化、煤状の黒色付着物あり。
2604	4		S9	28	敲石	砂岩	8.5	6.4	3.4	234.7	1/3	扁平でやや歪な円礫。右側面に帯状に敲打痕が連続する。
2605	4		S9	31	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.1	9.7	5.6	906.7	1/3	器面に煤状の黒色付着物。表裏両面が磨り面。
2606	4		S9	26	敲石	尾鈴山酸性岩類	12.8	10.9	3.6	780.9	1/3	偏平な円礫で上下端部、左右側縁に敲打あり。正面、裏面とも滑らかで磨石としても併用されたと思われる。
2607	4		S9	6	敲石	砂岩	10.8	7.0	5.6	666.6	1/3	正面、左側面、裏面のほぼ中央に敲打痕の集中。上下端部にも弱い敲打痕。
2608	4		S11	22	砥石	砂岩	38.5	16.8	13.9	13200.0	1/4	全面に敲打痕を伴う砥面が観察される。器面には線状痕が多く見られ、部分的に幅およそ 7mm 程のタガネ痕様の凹みが観察される。下端部が被熱により赤化。
2609	4		S12	46	砥石	頁岩	28.8	8.4	1.7	457.9	1/3	表裏面ともに平坦な砥面。正面の右側縁付近上下が浅く凹む。おおよそ半分で分断して出土したものを接合して図化。右側縁に擦り切り痕あり。
2610	4		S12	32	砥石	砂岩	30.9	21.7	13.4	13900.0	1/4	正面、右側面に砥面。正面の砥面には稜が立ち、中央部分は縦方向に薄く線状痕が観察される。上端部は鉄銹の付着と被熱による赤化あり。鉄銹は濃いトーンで図示。
2611	4		S12	50	敲石	砂岩	9.9	9.2	5.8	714.1	1/3	正面および周縁部に弱い敲打痕。
2612	4		S12	17	敲石	砂岩	8.4	7.5	3.0	264.7	1/3	歪な自然礫。下端部に敲打痕。周縁のエッジ部分に弱い敲打。
2613	4		S12	7	敲石	砂岩	9.1	5.4	3.1	184.8	1/3	表裏両面が磨り面。正面中央部分は平坦で滑らか。
2614	4		S12	6	敲石	砂岩	14.9	7.9	5.2	923.6	1/3	左側縁から下端部にかけて黒ずむ。裏面下端部から中央部分にかけて剥落。正面の中央上端寄り、右側面、上端部に敲打の集中による凹み。
2615	4		S13	33	砥石	砂岩	22.0	22.3	9.3	4686.6	1/4	上端部に被熱による赤化が見られ、鉄銹が付着、線状痕が集中する。砥面には稜が立つ。正面縦方向 1 条の筋は切れ込み深く、最深部には鉄銹が付着する。鉄銹は濃いトーンで図示。
2616	4		S13	83	砥石	砂岩	21.6	14.2	6.8	3135.5	1/4	下端部欠損。表、左側面、裏面の砥面は平坦。左側面は礫のカーブを利用している。器面には敲打痕、線状痕も観察される。
2617	4		S13	59	台石	ホルンフェルス	15.7	11.5	10.1	2902.0	1/4	鉄床石。正面、左側面に鉄銹付着。右側面に幅およそ 7mm 程のタガネ痕様の凹みが連続する。
2618	4		S13	77	砥石	頁岩	6.6	2.6	1.1	17.8	1/2	欠損が大きいが残存部は全面砥面。
2619	4		S13	19	小玉	不明	0.6	0.6	0.4	0.2	1/2	明るく白みがかった緑色。石材は翡翠に似る。表裏両面からの穿孔が観察される。
2620	4		S13		砥石	頁岩	13.7	6.6	1.2	161.7	1/3	欠損部以外は全面砥面。正面中央部分に縦方向に線状痕が観察される。
2621	4		S13	72	打製石斧	ホルンフェルス	8.6	5.2	1.5	70.6	1/2	裏面に礫面を残す扁平な礫片を素材とする。基部が大きく欠損する。
2622	4		S13	34	砥石	砂岩	34.5	19.9	16.0	17800.0	1/4	器面に鉄銹付着。鉄銹は濃いトーンで図示。左側縁部に横方向に帯状に連続した線状痕が観察される。
2623	4		S13		石包丁	ホルンフェルス	5.0	7.3	0.9	44.3	1/2	粗く割られた剥片を素材とする。ごつごつとした印象を受けるが随所に研磨痕が観察される。両端部の抉りは無い。
2624	4		S13		石包丁	ホルンフェルス	6.0	7.9	0.9	56.3	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。
2625	4		S14	33	磨石	軽石	7.1	6.9	4.7	51.4	1/2	全面磨られている。断面形、平面形ともに楕円形。手触りはややざらつきが残る。
2626	4		S14	27	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.7	9.6	4.1	723.7	1/2	扁平な楕円礫。表裏両面が磨り面。
2627	4		S15	6	砥石	層灰岩	15.5	4.0	33.5	181.8	1/3	目の細かい乳白色の石材。ほぼ全面砥面。表裏左右のそれぞれの面は浅く凹む。上下面に敲打痕残存。
2628	4		S15	16	磨石	尾鈴山酸性岩類	9.0	7.9	3.7	413.5	1/2	扁平な円礫。表裏両面が磨り面。
2629	4		S15		石包丁	ホルンフェルス	3.3	7.5	0.4	15.0	1/2	正面に礫面が残る。研磨による刃付けが観察される。両端に抉りを有する。右抉りは切り目のような形状。接合して図化。
2630	4		S15		砥石	頁岩	12.3	6.9	1.7	155.0	1/3	欠損部以外は全面砥面。正面の楕円状に稜が立つ部分は緩やかに凹む。
2631	4		S15	20	打製石斧	ホルンフェルス	5.4	5.0	1.9	60.5	1/3	裏面に礫面を残す礫片を素材とする。やや厚みがある。上下が大きく欠損。右側縁部も欠損する。左側縁は剥離による成形により括れる。
2632	4		S15	21	管玉	碧玉	0.9	0.4	0.2	0.1	1/1	やや暗い緑色。小型の管玉で両面穿孔。裏面が欠損。高千穂町古城遺跡にのみ類例あり。
2633	4		S17	67	砥石	ホルンフェルス	14.2	8.4	9.9	1415.0	1/3	正面は平坦な砥面。縦方向に無数の線状痕が観察される。
2634	4		S17		石包丁	ホルンフェルス	4.0	7.8	0.6	25.2	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。
2635	4		S17	42	石包丁	頁岩	4.4	6.3	0.6	29.0	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。
2636	4		S17	9	石包丁	ホルンフェルス	6.2	4.2	0.8	28.5	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。風化により研磨痕は明瞭ではない。抉りを有しない。
2637	4		S17	41	石包丁	頁岩	4.6	7.9	0.7	40.4	1/2	全面研磨。平面形は隅丸長方形。器面の風化が激しい。両端に抉りを有する。
2638	4		S17	72	石包丁	頁岩	4.8	8.4	0.8	44.8	1/2	全面研磨。両端抉り部の丁寧な研磨が観察される。
2639	4		S18		石包丁	ホルンフェルス	4.1	8.1	0.9	45.2	1/2	全面研磨。風化により正面の剥落が激しい。両端に抉りを有する。
2640	4		S18	14	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.7	11.1	6.8	1254.7	1/3	被熱による赤化、器面の剥落とひび割れがある。表裏両面が磨り面。
2641	4		S18		石包丁	ホルンフェルス	4.3	6.9	0.5	24.7	1/2	全面研磨。風化により研磨痕は不明瞭。両端に抉りを有する。
2642	4		S18	9	石包丁	ホルンフェルス	5.0	7.4	0.7	33.1	1/2	全面研磨。左刃部側を大きく欠損。刃部は外湾する形状と推察される。両端に抉りを有する。
2643	4		S19	20	磨石	尾鈴山酸性岩類	6.9	6.2	2.8	180.9	1/3	扁平な円礫。表裏両面が磨り面。
2644	4		S19	26	砥石	ホルンフェルス	19.7	8.7	5.7	1587.0	1/4	正面のみ平坦部を砥石として利用。砥面は光沢を帯びる。
2645	4		S19	24	磨石	砂岩	8.5	5.5	2.7	183.5	1/3	正面のみ平坦面に磨りが観察される。下端部の剥落を接合して図化。
2646	4		S19	21	砥石	頁岩	8.7	4.8	2.0	65.1	1/3	欠損大。裏面は層状に剥落。残存する砥面は平坦で左側縁部は光沢を帯びる。

第 91 表　石器計測表 (12)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2647	4		S21	5	磨石	尾鈴山酸性岩類	12.6	10.8	6.0	1237.1	1/3	表裏両面が磨り面。特に表面は平坦な面で中央部分の手触りが滑らか。
2648	4		S21	2	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.9	7.9	4.6	615.3	1/3	平面断面ともに楕円の礫。表裏両面が磨り面。
2649	4		S22	17	砥石	砂岩	12.6	10.1	6.8	966.1	1/4	欠損著しい。正面、左側面、裏面に砥面。裏面の砥面は緩く凹む。正面の中央部分に鉄銹が付着。鉄銹は濃いトーンで図示。
2650	4		S23	5	台石	砂岩	22.8	12.3	9.6	3404.4	1/3	欠損著しい。正面の磨り面は滑らかで敲打痕を伴う。裏面は正面と比べあまり使用されていない。
2651	4		S23	4	台石	砂岩	25.8	18.6	9.1	5270.0	1/4	礫面の平坦部に磨りが観察される。正面右下に複数の浅い線状痕あり。
2652	4		S26	24	敲石	砂岩	13.0	8.5	4.5	742.7	1/3	正面礫面の窪みに敲打痕。上端部、下端部、左側縁のエッジに帯状に敲打痕が連なる。右側面の敲打は横方向の線状痕を伴う。裏面は縁辺部が剥落する。
2653	4		S26	12	敲石	尾鈴山酸性岩類	13.0	10.5	6.1	1263.0	1/3	上下左右の端部に敲打。礫面がひび割れ、裏面は周縁部に黒色付着物あり。平坦面は表裏とも磨り面。
2654	4		S27	24	打製石斧未製品	ホルンフェルス	14.1	9.6	5.4	920.8	1/3	全体が粗い剥離で成形される。正面は部分的に礫面を残す。未製品と推察される。
2655	4		S27	4	敲石	ホルンフェルス	11.1	10.7	7.0	1181.3	1/3	敲打により表裏とも中央部分が径 2cm、深さ 2mm 程に凹む。周縁底部には帯状に敲打が巡る。
2656	4		S27	5	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.3	9.6	5.3	766.8	1/3	平面円形、断面楕円形の礫。表裏両面が磨り面。
2657	4		S27	28	敲石	砂岩	16.5	9.5	3.6	786.2	1/3	下端部のエッジに敲打痕。裏面は平坦部にまばらな敲打痕。
2658	4		S27	22	敲石	砂岩	8.9	3.4	3.8	157.7	1/3	正面上部から上端部に欠けて帯状に敲打痕が連続。裏面は中央よりやや上に横方向に帯状に敲打が連続する。下端部にも敲打痕あり。
2659	4		S27		砥石	頁岩	5.4	1.5	2.0	27.0	1/3	欠損大。両側縁部は層状に剥落。左側縁は上部に砥面が残存。上面は擦り切り痕と思われる溝が上下に観察される。
2660	4		S27	26	砥石	ホルンフェルス	17.1	8.6	2.8	673.9	1/3	平坦で手触りが滑らかな砥面。砥面に薄い線状痕が観察される。裏面は礫面を残す。
2661	4		S73	37	敲石	尾鈴山酸性岩類	9.2	8.0	5.9	595.4	1/3	歪な円礫で、上下端部に敲打痕あり。
2662	4		S73	15	砥石	頁岩	16.5	6.6	2.8	480.9	1/3	正面、両側縁とも平坦な砥面。無数の線状痕が観察される。下部欠損。裏面は層状に剥落。
2663	4		S73		石包丁	ホルンフェルス	4.6	6.4	0.6	18.8	1/2	上下端部とも同様の形態をなし刃部としての機能を有する。右端部が深く抉れる。石器では無い可能性も残る。
2664	4		S73		玉	蛇紋岩か	1.7	1.1	0.2	0.5	1/2	光沢があり滑らかな手触り。明るく白に近い緑色。同石材で穿孔のある類例が熊野原・野首第２遺跡にあり。
2665	4		S73		石包丁	ホルンフェルス	3.5	5.5	0.4	10.3	1/2	裏面が礫面の剥片を素材とする。小さく手のひらの中にすっぽり収まる。右側に抉りを有する。左側縁部も刃部のように研磨される。
2666	4		S73	55	石包丁	ホルンフェルス	4.5	8.4	1.1	50.2	1/2	打製石包丁。刃部右端欠損。両端に浅い抉りを有する。
2667	4		S139		石包丁	ホルンフェルス	2.9	4.1	0.7	10.2	1/2	正面礫面の剥片を素材とする。小型で手のひらの中にすっぽりと収まる程の大きさ。両端に浅い抉りを有する。
2668	4		S139	3	敲石	砂岩	9.3	4.0	4.5	262.5	1/3	断面楕円形の棒状の礫を素材とする。下半部欠損。正面および上端部に敲打痕。
2669	4	E22	S139	9	敲石	砂岩	13.4	8.1	6.0	1053.2	1/3	丸みを帯びた自然礫を素材とする。上下端部に敲打痕。
2670	4		S140	2	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.1	8.5	4.1	541.5	1/3	平面円形、断面楕円形の礫。表裏両面が磨り面。
2671	4		S140		石包丁	頁岩	4.6	7.0	0.7	21.1	1/2	正面礫面の剥片を素材とする。左側縁部を欠損。右端に抉りを有する。
2672	4		S141		石包丁	ホルンフェルス	4.6	6.5	0.8	25.0	1/2	正面礫面の剥片を素材とする。研磨痕は明瞭ではない。両端に抉りを有する。
2673	4		S142	10	不明	緑色頁岩	4.3	2.2	0.2	3.0	1/2	先端は丸く加工される。両側に抉りを有し、研磨が施される。底部にも縦方向に研磨が観察される。装飾品として作られたと推察されるが、石鏃が転用された可能性も残る。
2674	4		S142		石包丁	ホルンフェルス	4.2	7.5	0.7	31.4	1/2	全面研磨。風化により研磨痕は明瞭ではない。右側刃部欠損。両端に抉りを有する。
2675	4		S142		磨製石斧	ホルンフェルス	7.4	4.2	2.6	152.9	1/3	刃部欠損。表裏面は敲打による成形。両側縁部は研磨が観察される。断面は歪な楕円形。
2676	4		S143	14	磨石	ホルンフェルス	8.6	8.2	5.1	618.0	1/3	左右両側面に線状痕を伴う磨りが観察される。裏面中央部分は磨り面で僅かに光沢を帯びる。
2677	4		S143	7	敲石	砂岩	9.0	3.7	2.8	136.3	1/3	平面形が細長い楕円形状の礫。上下端部に敲打痕。裏面体部が若干滑らかで黒ずみが見られるが、手ずれによるものか。
2678	4		S143	9	磨石	尾鈴山酸性岩類	6.9	6.1	2.7	180.1	1/3	平面円形、断面楕円形の礫。表裏両面が磨り面で礫面は滑らか。
2679	4		S143		砥石	頁岩	15.3	5.6	1.5	129.8	1/3	全面砥面。砥面は平坦で、側面から観察すると表裏両面は中央部分が緩やかに凹む。
2680	4		S143	10	磨石	尾鈴山酸性岩類	12.0	10.8	6.0	1205.9	1/3	平面円形、断面楕円形の礫。表裏両面が磨り面で礫面は滑らか。
2681	4		S143	6	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.0	9.2	4.7	754.3	1/3	平面円形、断面楕円形の礫。表裏両面が磨り面で礫面は滑らか。正面中央部分が平坦になる。
2682	4		S144	19	筋砥石	砂岩	16.2	5.4	6.7	522.5	1/3	正面に最大幅およそ 1.5cm の浅い１条の筋が観察される。縁辺部に敲打痕、右側面には磨りが観察される。
2683	4		S144		原石	水晶	2.4	1.4	1.2	4.4	1/2	周囲は無色透明で白色の含有物を含む。竪穴住居のほぼ床に近い位置から出土。図化していないが表採でも水晶の原石が確認されている。
2684	4		S150	55	台石	尾鈴山酸性岩類	19.5	14.4	6.9	2605.9	1/4	被熱による赤化、帯状に鉄銹の付着あり。使用痕は明確ではないが、器面の手触りは滑らか。鉄銹は濃いトーンで図示。
2685	4		S150	23	砥石	ホルンフェルス	22.2	16.0	4.3	2919.6	1/4	偏平な自然礫の平坦面を砥面とする。砥面は部分的に光沢を帯びる。裏面には煤状の黒色付着物あり。
2686	4		S150	73	石包丁	ホルンフェルス	4.0	7.8	0.9	36.0	1/2	全面研磨。刃部が外湾する。器面に素材から出た銹が付着する。両端に抉りを有する。
2687	4		S150		石包丁	頁岩	4.1	7.2	0.7	32.4	1/2	全面研磨。両端に深い U 字状の抉りを有する。
2688	4		S150		石包丁	ホルンフェルス	4.2	6.1	0.8	25.2	1/2	全面研磨。器面に剥離痕を残す。両端に抉りを有する。
2689	4		S150	33	筋砥石	砂岩	21.7	7.7	9.1	1527.6	1/3	欠損が大きい。全体が被熱により赤化する。砥面は正面のみで、断面U字状の１条の溝が観察される。
2690	4		S151		打製石斧	ホルンフェルス	7.9	3.6	1.4	71.5	1/2	基部のみ残存。断面形はやや潰れた楕円形で基端部の厚みがやや薄くなる。磨製石斧未製品か。
2691	4		S151	7	磨製石斧	ホルンフェルス	7.2	5.0	2.8	99.4	1/3	刃部のみ残存。剥離による成形。断面楕円形で、刃部は研磨により刃付けされる。
2692	4		S151	16	打製石斧	ホルンフェルス	7.2	5.0	1.7	84.9	1/3	正面に礫面を残す礫片を素材とする。厚みはあまり無い。基部先端のみ残存。刃部方向が大きく欠損する。
2693	4		S151	41	敲石	尾鈴山酸性岩類	15.2	9.0	8.5	1577.3	1/3	平面楕円形、断面円形。厚みがあり片手でぎりぎり掴める大きさ。右側縁下部欠損。正面中央部分と上端部に敲打痕。
2694	4		S153	16	石包丁	頁岩	4.7	7.8	0.8	35.0	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。
2695	4		S153	20	砥石	ホルンフェルス	16.0	11.5	7.8	1713.5	1/3	自然礫の平坦面を利用。砥面は光沢を帯びる。線状痕の集中が観察される。

第 92 表　石器計測表 (13)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2696	4		S154	1	勾玉	含クロム白雲母岩	1.8	1.7	0.6	1.0	1/2	光沢のある緑色。。縦に穿孔し、横方向に１本突起部分を持ち緒形勾玉に似た特徴を持つ。これまで宮崎県内に類例を見ない。
2697	4		S154	10	敲石	砂岩	8.9	6.6	3.0	281.6	1/3	断面台形。上下端部欠損。両側縁のエッジ部分に帯状に敲打が連続する。正面右側の面が滑らかな磨り面。
2698	4		S154	4	敲石	砂岩	17.8	5.1	3.0	379.1	1/3	断面隅丸長方形で平面は歪で細長い。上端部は欠損。正面に２ヵ所敲打の集中による凹みあり。被熱による赤化、煤状の黒色付着物あり。
2699	4		S154	5	敲石	砂岩	15.5	10.2	6.0	1567.8	1/3	丸みを帯びた自然礫を素材とする。表裏両面に２ヵ所ずつ敲打による窪み。左右両側縁に敲打痕。上下端部は磨り潰したような使用痕。
2700	4		S154	7	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.7	10.5	4.3	830.5	1/3	平面円形、断面楕円形の礫。表裏両面が磨り面。
2701	4		S154		石包丁	ホルンフェルス	5.4	7.5	0.7	39.1	1/2	全面研磨。風化により研磨痕は明瞭ではない。両端に明瞭なＵ字形の抉りを有する。
2702	4		S156	16	敲石	ホルンフェルス	11.3	5.9	3.0	308.0	1/3	歪な自然礫を素材とする。器面の風化著しい。表裏面の中央部分と下端部に敲打痕あり。
2703	4		S156	17	石包丁	ホルンフェルス	4.0	8.2	1.0	41.6	1/2	裏面に自然面を残す剥片を素材とする。刃部は研磨により刃付けされる。体部中央が滑らかになっており手擦れ痕と推察される。両端に抉りを有する。
2704	4		S156		勾玉	蛇紋岩	2.6	1.7	0.7	3.9	1/2	平面形Ｃ字形。断面は厚みのある楕円形。全体が丁寧に研磨され丸みを帯びる。両面穿孔。
2705	4		S156		勾玉	蛇紋岩	1.4	0.9	0.3	0.5	1/2	平面形Ｃ字形。正面はやや丸みを帯びるが、裏面は平らに研磨され断面は蒲鉾形に近い。頭部内側の顎部分が角を持つ。
2706	4		S157		勾玉	滑石	1.3	0.8	0.3	0.3	1/2	扁平な小型の勾玉で開いたＣ字形。右側穿孔部付近が最も薄くなる。
2707	4		S160	1	磨石	尾鈴山酸性岩類	7.0	11.7	5.5	531.2	1/3	およそ 1/2 が欠損。正面平坦面が滑らか。器面全体が薄茶色味を帯びる。
2708	4		S161	21	砥石	砂岩	29.0	8.7	7.1	3225.8	1/4	縦に細長い自然礫の平坦面を利用。正面裏面の砥面はほぼ平坦。
2709	4		S163	20	小玉	ガラス	0.4	0.4	0.5	0.1	1/1	くすんだ青みがかった緑色。
2710	4		S164	28	敲石	砂岩	16.8	5.5	4.4	658.6	1/3	断面楕円形の棒状の礫を素材とする。上下端部および体部に敲打。正面中央は強い敲打で楕円形状に窪むが、窪みの中は滑らかで研磨された可能性もある。
2711	4		S164	1	石包丁	ホルンフェルス	3.7	6.4	0.4	18.2	1/2	正面が礫面の剥片を素材とする。研磨による刃付けが観察される。両端に抉りを有する。
2712	4		S164	29	敲石	砂岩	11.9	11.9	3.2	566.3	1/3	扁平で平面形隅丸三角形。表裏の中央部分がそれぞれ敲打により凹む。
2713	4		S168		石包丁	ホルンフェルス	4.2	7.5	1.3	47.2	1/2	両端に抉りを有する。器面の風化により研磨痕は明らかではない。両端に抉りを有する。
2714	4		S168		石包丁	ホルンフェルス	4.4	8.0	6.5	34.3	1/2	全面研磨。両端にＶ字状の抉りを有する。
2715	4		S168	18	石包丁	ホルンフェルス	5.5	8.2	0.8	59.4	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。
2716	4		S168	12	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.4	10.1	5.0	770.0	1/3	扁平な円礫。表裏両面が磨り面。
2717	4		S168	4	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.2	9.5	4.5	647.4	1/3	扁平な円礫。器面全体が滑らかであるが、両側縁側の光沢を帯びる部分をトーンで図示。
2718	4		S168	13	打製石斧	ホルンフェルス	8.2	3.9	1.5	73.3	1/3	基部のみ残存。断面楕円形状で、縦断面形は基端が先細りする。磨製石斧未製品か。
2719	4		S175	1	石錘	砂岩	4.3	6.0	1.2	40.7	1/3	長軸の両端を打ち欠く。表裏面とも正面が欠損する。
2720	4		S175	3	台石	砂岩	27.5	15.1	8.3	4052.0	1/4	上端部に被熱による赤化あり。表裏両面とも敲打痕を伴う広い磨り面が観察される。
2721	4		S176		筋砥石	砂岩	18.7	19.1	4.3	2050.0	1/4	表裏両面に明瞭で深いＵ字状の筋が入る。正面の筋には切り合いが観察される。左側縁部付近に被熱による赤化あり。
2722	4		S190	5	砥石	ホルンフェルス	15.0	10.1	6.1	1753.0	1/3	自然礫の平坦面を砥石として利用。砥面は正面のみで光沢を帯びる。
2723	4		S190		石包丁	ホルンフェルス	5.1	7.5	0.9	48.5	1/2	全面研磨。風化による器面の剥落あり。両端に抉りを有する。
2724	4		S190	8	砥石	砂岩	30.2	10.3	7.3	3977.4	1/4	正面は平坦な砥面で、縦方向に無数の線状痕が観察される。裏面は破断面で使用痕無し。。上端部、右側面に鉄銹付着。鉄銹は濃いトーンで図示。
2725	4		S190	2	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.0	10.5	5.2	926.0	1/3	扁平な円礫。表裏両面が磨り面。表面の光沢を帯びる部分をトーンで図示。裏面下端部に微細な鉄銹付着。
2726	4		S190	7	台石	砂岩	19.5	10.6	7.7	2775.1	1/4	器面に鉄銹付着。正面には横方向に線状痕が観察される。鉄床石か。鉄銹は濃いトーンで図示。
2727	4		S190	7	石錘	砂岩	4.1	2.6	2.8	37.7	1/3	平面形は楕円形、断面形はほぼ円形でラグビーボールのような形状。溝は縦軸・横軸の中央を１周巡る。溝の断面はＶ字状。上下端部の溝の交点は摩滅により明瞭ではない。県内では湯牟田に続き２例目の出土。
2728	4		S210		筋砥石	砂岩	13.2	15.6	7.2	1442.0	1/4	表裏両面に明瞭で深いＵ字状の筋が入り、正面の筋には切り合いが観察される。被熱による赤化が見られ、欠損著しい。
2729	4		S210	18	磨石	尾鈴山酸性岩類	9.9	8.8	4.1	538.3	1/3	扁平な円礫。器面の微細な凹みに赤色の付着物あり。
2730	4		S244	3	砥石	砂岩	25.3	11.1	7.3	3188.4	1/4	表裏両面に砥面。正面は器面の甲の部分に敲打が集中し、敲打後横方向に粗研ぎが行われたと推察される。
2731	4		S244		砥石	砂岩	25.7	11.6	11.0	3800.0	1/4	正面、右側面に線状痕を伴う砥面が観察される。上端欠損部は被熱による赤化あり。
2732	4		S244	9	敲石	砂岩	13.2	10.6	4.4	990.6	1/3	両側縁に磨り潰したような敲打痕があり、やや平らな面となる。裏面中央部分に弱い敲打痕。
2733	4		S244	5	敲石	ホルンフェルス	6.8	5.4	5.0	257.5	1/3	卵大の円礫で被熱により器面全体が赤化する。上下端部に磨り潰したような敲打痕。
2734	4		S2012	3	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.0	10.5	5.5	929.0	1/3	断面楕円形の円礫。表裏両面が磨り面。
2735	4		S2012	2	敲石	砂岩	14.2	9.3	5.9	1176.1	1/3	歪な自然礫の正面および上端部に敲打痕。
2736	4		S2531	5	石包丁	頁岩	5.0	7.7	0.8	47.0	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。
2737	4		S2531		石包丁	ホルンフェルス	4.1	7.2	0.5	24.3	1/2	全面研磨。器面の風化が激しく研磨痕は明瞭ではない。両端部に抉りを有する。
2738	4		S36	1	石包丁	ホルンフェルス	5.8	8.2	0.8	52.3	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。研磨により刃付けが観察される。両端に抉りを有する。
2739	4		S55	2	磨石	尾鈴山酸性岩類	7.5	7.2	3.2	262.0	1/3	扁平な円礫。表裏両面が磨り面。
2740	4		S84	11	敲石	尾鈴山酸性岩類	8.0	5.9	3.2	226.1	1/3	扁平な楕円礫。下端部に敲打痕あり。
2741	4		S84	23	砥石	砂岩	31.4	15.9	11.0	8900.0	1/4	礫面周縁の平坦部を砥面として使用。正面は敲打痕も観察される。裏面は剥落か。右側面に１条線状痕あり。両側面の砥面には稜が立つ。
2742	4		S129	7	石包丁	ホルンフェルス	4.3	7.7	1.3	54.9	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。研磨痕は不明瞭。両端に抉りを有する。
2743	4		S147	2	敲石	砂岩	8.8	5.8	2.5	193.8	1/3	歪な自然礫を素材とする。器面の風化著しい。上下端部に敲打痕あり。
2744	4		S147	1	磨石	尾鈴山酸性岩類	8.4	7.6	5.0	458.6	1/3	平面円形、断面楕円形の礫。表裏両面が磨り面で礫面は滑らか。

第 93 表　石器計測表 (14)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2745	4		S174		勾玉	蛇紋岩	2.2	1.5	0.6	2.5	1/2	平面形Ｃ字形。断面楕円形。摩滅により明瞭ではないが、丁字頭と思われる４本の線刻が確認できる。穿孔部に紐擦れ痕が確認できる。
2746	4	B26	P38		砥石	頁岩	14.8	4.6	1.9	208.0	1/3	平面形短冊形で断面は隅丸長方形。全面砥面。両側縁に擦り切り痕が観察される。
2747	4		S28	15	石包丁	頁岩	5.7	7.7	0.8	58.5	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。抉り部も丁寧に研磨され、側面も平坦に研磨される。
2748	4	D24	S28		石包丁	ホルンフェルス	4.4	6.9	1.0	38.1	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。刃部右端が欠損。両端に抉りを有する。
2749	4		S28	7	石包丁	ホルンフェルス	4.5	8.8	1.0	40.1	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。刃部は丁寧に研磨され刃付けされる。両側面とも抉りの上下の張り出し部分が研磨される。
2750	4	C22	S28		石包丁	ホルンフェルス	6.2	8.3	0.9	70.5	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。粗い剥離により成形され、刃部は研磨により刃付けされる。
2751	4	D25	S28		石包丁	頁岩	4.3	8.1	0.8	41.8	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。両端に開いたＶ字状の抉りを有する。刃部が丁寧に研磨され刃付けされ緩やかに内湾する。
2752	4	C23	S28		石包丁	ホルンフェルス	3.8	7.3	0.8	21.6	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。両端に切り目状の抉りを有する。刃部は研磨により刃付けされる。
2753	4	E24			磨製石斧	硬砂岩	9.5	5.5	3.4	214.3	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。基部欠損。全面研磨。刃部が丁寧に研磨され刃付けされる。断面楕円形。
2754	4	E25			磨製石斧	硬砂岩	15.4	5.5	3.3	374.3	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。全面研磨。断面は楕円形。刃部は丁寧に研磨され刃付けされる。基部が窄む形状。刃部が欠損した状態で出土。接合して図化。
2755	5		S7	27	石包丁	ホルンフェルス	4.8	9.0	0.8	43.5	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。
2756	5		S10	17	石包丁	ホルンフェルス	5.9	10.2	1.0	79.3	1/2	正面の風化が激しい。左側面は摂理面。剥離による成形が観察され、未製品と推察される。
2757	5		S10	47	敲石	砂岩	14.8	9.1	5.6	1166.2	1/3	左上端部に強い敲打。正面ほぼ中央部分が敲打により最深部 3mm 程に凹む。下端部にも強い敲打が見られ、黒色付着物あり。
2758	5		S12	28	台石	砂岩	26.1	12.7	8.9	3520.0	1/4	自然礫の平坦面を利用。表裏両面に磨り面が観察される。正面には敲打痕と何かを強く打ちつけて削りとられたような深い凹みがある。
2759	5		S16	3	石包丁	ホルンフェルス	4.4	7.7	1.1	52.8	1/2	裏面に礫面を残す剥片を素材とする。研磨痕は不明瞭。両端に抉りを有する。
2760	5		S17		筋砥石	砂岩	21.3	14.0	8.2	3100.0	1/4	正面の砥面に縦方向に２条の筋と線状痕が観察される。
2761	5		S19	76	砥石	ホルンフェルス	10.9	5.4	2.1	184.3	1/3	正面礫面の剥片を素材とする。正面のみ研磨痕を伴う光沢を持つ砥面が観察される。
2762	5		S19		筋砥石	砂岩	10.0	13.0	7.6	800.4	1/3	欠損著しく原形は不明。正面全体が被熱により赤化。中央縦方向に２条、左側縁に左斜め下がりに６条の断面Ｕ字状の筋がある。正面右半分には微細な線状痕が観察される。
2763	5		S19	39	敲石	砂岩	14.6	9.9	3.5	742.9	1/3	平面楕円形の扁平礫で、周縁部に敲打痕。
2764	5		S22	2	敲石	砂岩	13.9	6.6	4.6	667.3	1/3	左側面が被熱により赤化。正面中央部分と上下端部に敲打痕。
2765	5		S23	39	磨石	尾鈴山酸性岩類	12.3	11.0	5.9	1159.8	1/3	平面円形、断面楕円形の礫。表裏両面が磨り面。
2766	5		S23	35	敲石	砂岩	12.8	9.8	5.6	866.9	1/3	表裏面の中央部分付近に敲打が集中し、正面は僅かに凹む。裏面上下端部に欠損。たも石の一群で出土。
2767	5		S23	19	敲石	砂岩	8.0	7.1	4.7	368.6	1/3	下端部のエッジに帯状に敲打が連続する。右上端部にも敲打痕あり。
2768	5		S23	21	台石	ホルンフェルス	20.3	9.7	5.3	1430.1	1/4	器面に細い線状痕を伴う磨り面と敲打痕が観察される。
2769	5		S24	1	磨製石斧	ホルンフェルス	6.4	2.3	1.0	20.0	1/3	剥離による成形。平面形は短冊形で刃部先端が緩やかに丸くなる。断面形は潰れた楕円形状。刃部は丁寧に研磨され刃付けされる。基端が僅かに欠損する。
2770	5		S24	2	砥石	頁岩	20.2	7.2	1.9	350.5	1/3	正面は全面砥面。右側縁付近が浅く凹む。両側縁部は部分的に砥面が残る。欠損大。
2771	5		S25	1	石包丁	ホルンフェルス	4.5	8.9	1.1	66.2	1/2	成形剥離痕を大きく残す。刃部は両面からの研磨により刃付けされる。両端に抉りを有し、抉りの最深部は剥離の際の稜を潰すように研磨が施される。
2772	5		S25		筋砥石	砂岩	19.1	18.5	6.6	2440.0	1/4	正面砥面でに５条の筋。縦方向左から２番目の筋は、最深部 5mm 程で断面Ｖ字に近い。裏面は全面剥落しているが、１条筋が入る。
2773	5		S33	20	石包丁	頁岩	5.3	8.7	1.0	62.3	1/2	全面研磨。刃部は両面から丁寧に研磨され稜が立つ。両端に抉りを有する。
2774	5		S33	43	石包丁	ホルンフェルス	5.0	7.8	1.0	50.4	1/2	全面研磨。裏面は礫面の剥片を素材とする。両端に抉りを有する。
2775	5		S33	44	石包丁	ホルンフェルス	4.5	8.5	0.7	43.2	1/2	全面研磨。正面の風化により研磨痕は明瞭ではない。両端に切り目状の抉りを有する。
2776	5		S38	5	敲石	砂岩	5.9	6.3	4.2	644.6	1/3	上下端部および右側縁中央部分に微弱な敲打痕。
2777	5		S38	8	砥石	頁岩	8.5	3.4	0.8	30.1	1/3	全面砥面。正面は全体的に浅く凹む。水洗時の剥落部分を接合して図化。
2778	5		S38	6	石包丁	頁岩	4.5	8.7	0.5	33.0	1/2	全面が丁寧に研磨される。両端に開いたＶ字状の抉りを有する。
2779	5		S40	6	磨製石斧	ホルンフェルス	15.0	6.0	3.9	508.2	1/3	刃部欠損。器面に部分的に剥離・敲打成形痕が残る。断面楕円形。
2780	5		S40	14	砥石	砂岩	27.6	24.1	10.4	9000.0	1/4	表裏両面とも広い範囲に砥面。砥面は緩く凹む。器面には敲打痕や細い線状痕も観察される。
2781	5		S41	18	勾玉	蛇紋岩	2.4	1.4	0.6	1.8	1/2	光沢のある緑色。開いたＣ字形。断面形は楕円で部分的に角張る。正面に研磨による稜が残る。
2782	5		S41		筋砥石	砂岩	22.4	8.0	11.5	2289.0	1/4	断面逆三角形。正面の平坦面は砥面で中央縦方向に１条筋が入る。左右の面は中央部付近に敲打痕あり。
2783	5		S41	99	敲石	砂岩	11.4	8.6	5.7	753.5	1/3	正面のみに弱い敲打痕。
2784	5		S41	31	敲石	砂岩	12.7	6.6	4.8	646.1	1/3	器面全体が被熱により赤化。風化著しい。正面が強く敲打され縦断面が浅くＵ字状に凹む。
2785	5		S41	63	石包丁	ホルンフェルス	4.8	7.1	0.9	46.2	1/2	全面研磨されるが、風化により研磨痕は明瞭ではない。両端に抉りを有する。
2786	5		S41		石包丁	頁岩	4.1	6.4	0.5	16.9	1/2	全面研磨。刃部が浅く内湾する。刃部破損部を接合して図化。両端に抉りを有する。
2787	5		S41	89	砥石	砂岩	14.6	9.5	8.0	1403.2	1/4	被熱による赤化あり。欠損が大きい。中央 1/2 程横方向に分断して出土し、接合して図化。層状の破断面を砥面に利用。右側のエッジ部分も研磨に利用する。裏面には使用痕無し。
2788	5		S41	87	砥石	砂岩	21.1	11.8	5.5	2131.9	1/4	砥面は平坦で敲打痕を伴う。上下端部にも敲打痕が観察される。
2789	5		S42	41	磨石	尾鈴山酸性岩類	10.8	9.7	5.3	825.3	1/3	偏平な円礫。表裏両面が磨り面。微細な赤色の付着物あり。
2790	5		S42	29	磨石	尾鈴山酸性岩類	11.4	9.1	4.7	757.9	1/3	平面楕円形の偏平な礫。表裏両面が磨り面。
2791	5		S42	15	石包丁	ホルンフェルス	4.7	9.6	1.4	67.1	1/2	横長の剥片を素材とする。研磨痕は不明。両端の抉りは無い。未製品もしくは製作途中欠損による廃棄の可能性がある。
2792	5		S43		石包丁	ホルンフェルス	4.9	6.9	1.4	56.1	1/2	背部に礫面を残すか全面研磨。両端に抉りを有し、紐掛け痕と思われる線状痕が観察される。

第 94 表　石器計測表 (15)

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2793	5		S44	22	砥石	ホルンフェルス	13.5	3.1	5.3	314.0	1/3	自然礫の平坦面を砥石として利用。正面の砥面は光沢を帯びる。風化により明確ではないが、左側縁も部分的に磨ったような手触りがある。
2794	5		S44	15	磨石	尾鈴山酸性岩類	12.2	11.7	5.5	1173.4	1/3	扁平な円礫。表裏両面が磨り面。
2795	5		S44	1	石包丁	ホルンフェルス	5.2	9.1	0.6	41.5	1/2	紐孔断面が器面に対して筒状に開けられている。完形で、平面形は隅丸方形。風化のため研磨痕は明瞭ではない。
2796	5		S44	85	石錘	ホルンフェルス	4.3	7.1	1.9	71.7	1/3	長軸の両端に切り目が入る。正面上部が欠損する。
2797	5		S50	66	勾玉形石製品	頁岩	2.6	1.4	0.2	1.0	1/2	黒色。扁平な勾玉状の石製品で穿孔は無い。厚みがほぼ 2㎜と均一。
2798	5		S50	64	石包丁	ホルンフェルス	4.4	7.4	0.7	33.8	1/2	正面に礫面を残す剥片を素材とする。概ね長方形で抉りは有しない。
2799	5		S50	34	敲石	砂岩	12.4	7.0	6.1	778.5	1/3	上端は古い欠損でエッジが丸まる。破断面は風化により明瞭ではないが稜の潰れが観察される。下端部に弱い敲打痕。
2800	5		S50	54	磨石	尾鈴山酸性岩類	13.2	6.8	1.8	282.1	1/3	丸みを帯び偏平。風化により使用痕は明確ではないが、器面は平らで滑らか。
2801	5		S50	25	台石	砂岩	14.8	12.2	9.1	2250.5	1/4	下半部欠損。正面および裏面に磨り面。被熱による赤化、上端部に煤状付着物。
2802	5		S50	59	台石	砂岩	25.3	16.8	7.2	5596.4	1/4	表裏の広い平坦面が磨り面。上端に微細な鉄銹が付着。正面右側縁がわに長さ 7mm 程のタガネ痕状の連続した凹みが観察される。砥石の可能性もある。
2803	5		S50	101	敲石	尾鈴山酸性岩類	12.0	10.0	5.8	1081.5	1/3	扁平な円礫。表裏両面のほぼ中央部分が敲打により浅く凹む。周縁の上下左右に敲打痕が見られるが、右側縁は 2 ヵ所円形の凹みがある。表面右側縁側に欠損。
2804	5		S50	26	砥石	頁岩	18.2	7.1	1.7	227.9	1/3	欠損部以外は全面砥面。明瞭な線状痕が観察される。正面は部分的に稜が立つ。右側面は平坦。
2805	5		S55	46	石包丁	ホルンフェルス	5.0	6.2	0.9	33.1	1/2	磨製石包丁。全面研磨。両端に抉りを有する。
2806	5		S55	56	石錘	ホルンフェルス	4.2	5.4	0.9	31.0	1/3	長軸の両端を打ち欠く。
2807	5		S57	3	台石	砂岩	18.7	18.6	7.4	3380.0	1/4	欠損著しい。裏面は剥落。正面中央部分に敲打痕が集中する。右側面には浅い線状痕の集中が観察される。
2808	5		S58	20	打製石斧	ホルンフェルス	6.9	6.5	1.0	65.8	1/3	正面に礫面を残す扁平な剥片を素材とする。刃部方向が大きく欠損する。残存部の両側縁は浅く内湾する。
2809	5		S80	15	砥石	ホルンフェルス	28.9	9.0	4.3	1890.4	1/3	表裏面の平坦面を砥石として利用。正面の砥面は部分的に光沢を帯びる。正面の上部に鉄銹付着。裏面は正面に比べると使用されていない。
2810	5		S80	10	砥石	頁岩	20.6	6.9	3.9	481.9	1/3	欠損大。正面の砥面は浅く凹む。裏面は部分的に砥面残る。右側縁部に光沢を持つ強い砥面。分断して出土したものを接合して図化。
2811	5		S80	3	台石	尾鈴山酸性岩類	27.4	39.5	13.4	17500.0	1/4	欠損著しい。器面は風化によるひび割れが目立つ。正面のみ平坦で滑らかな磨り面が見られ、砥石としての利用も想定される。
2812	5		S81	25	石包丁	ホルンフェルス	3.4	8.5	0.6	21.7	1/2	全面研磨。刃部が大きく欠損。両端に抉りを有する。
2813	5		S81		打製石鏃	赤色頁岩	2.3	2.9	0.3	1.3	1/2	表裏両面とも、周縁に剥離面を残し中央部分を研磨した局部磨製石鏃。両側縁は外反する。基部は剥離により成形され浅い抉りを有する。縄文時代の遺物の可能性も残る。
2814	5		S81	16	敲石	砂岩	15.6	6.1	6.1	972.2	1/3	平面は縦長の楕円形で断面は歪な円形。上下端部に敲打痕。
2815	5		S81	2	台石	砂岩	23.3	14.1	7.2	3500.0	1/4	正面、右側面に平坦な磨り面。裏面には深さ 2mm 程のやや強めの敲打痕。
2816	5		S81	24	敲石	砂岩	11.8	7.9	4.7	657.1	1/3	右側縁部に欠損。周縁部に弱い敲打痕。底面は磨り潰したような面的な敲打痕。
2817	5		S82	1	石包丁	ホルンフェルス	4.1	7.7	0.8	32.5	1/2	全面研磨。両端に抉りを有する。
2818	5		S72	5	打製石斧	ホルンフェルス	12.0	6.7	2.0	188.3	1/3	正面に礫面を残す剥片を素材とする。基部の両側縁に抉りを有する。刃部先端が欠損。
2819	5	F17	P153		敲石	尾鈴山酸性岩類	13.6	8.6	4.9	939.3	1/3	表裏面のほぼ中央に敲打痕が集中する。右側面が滑らかで磨られている可能性あり。
2820	5	H16	P171		敲石	砂岩	22.6	7.8	4.6	130.1	1/3	細長く丸みを帯びた自然礫を素材とする。被熱による赤化。左右両側縁上部に敲打痕。正面中央部分の磨り面は手触りが滑らか。
2821	5		S54		石包丁	ホルンフェルス	4.4	8.1	0.7	37.0	1/2	全面研磨。正面の風化が激しく研磨痕は明瞭ではない。両端に切り目状の抉りを有する。
2822	5				砥石	ホルンフェルス	5.8	2.5	0.6	18.2	1/3	周縁部は研磨により光沢を帯びる。正面は自然面と思われるが、裏面は研磨された可能性がある。
2823	5	H17			砥石	砂岩	15.7	9.2	7.0	1271.2	1/4	欠損著しい。全面に被熱による赤化あり。正面砥面は凹み、2 条の線状痕あり。
2824	5	H20			砥石	層灰岩	3.9	4.7	1.7	38.1	1/3	やや黄色味を帯びた白色の石材。欠損が大きい。底面および裏面は平坦で砥面と推察される。正面も砥面の可能性がある。
2825	5			85	筋砥石	砂岩	20.9	18.2	5.7	1750.0	1/4	正面に砥面、裏面は剥落。断面は瓦屋根を思わせる形状となる。正面中央に最深部 5mm 程の断面 V 字に近い筋と、比較的浅い断面 U 字状の筋が観察される。右側面に横方向に複数の切り込んだような線状痕が観察される。
2826	5		一括		磨製石斧	硬砂岩	11.0	5.8	4.9	322.3	1/3	青みがかった灰色の硬くしまった石材。基部が欠損。敲打成形痕が残る。断面楕円形。丁寧な研磨により刃付けされる。刃縁に潰れが観察される。

第 95 表　たも石計測表 (1)

出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
2		S2017	18	たも石	ホルンフェルス	29.2	22.6	6.1	1267.7	1/60	丸みを帯びた歪な自然礫。使用痕は観察されない。
2		S2017	19	たも石	ホルンフェルス	18.1	9.8	7.7	1630.8	1/60	やや角張った歪な自然礫。使用痕は観察されない。
2		S2017	21	たも石	砂岩	17.1	10.2	8.4	1810.0	1/60	丸みを帯びた歪な自然礫。使用痕は観察されない。
2		S2017	22	たも石	ホルンフェルス	17.3	9.6	7.3	1551.7	1/60	やや角張った歪な自然礫。使用痕は観察されない。
2		S2017	23	たも石	砂岩	22.6	8.8	8.9	1723.3	1/60	やや丸みを帯びた歪な自然礫。使用痕は観察されない。
2		S2017	24	たも石	砂岩	14.5	10.5	6.0	1285.3	1/60	丸みを帯びた歪な自然礫。使用痕は観察されない。
2		S2017	25	たも石	砂岩	15.6	9.6	7.3	1423.1	1/60	丸みを帯びた歪な自然礫。使用痕は観察されない。
3		S105	12	たも石	ホルンフェルス	18.7	8.7	7.1	1379.4	1/60	コッペパン大の歪な自然礫。使用痕は観察されない。
3		S105	13	たも石	ホルンフェルス	15.6	8.1	5.6	725.0	1/60	やや小振りのコッペパン大の歪な自然礫。使用痕は観察されない。
3		S105	14	たも石	ホルンフェルス	19.9	8.0	6.4	1315.2	1/60	コッペパン大の歪な自然礫。使用痕は観察されない。
3		S105	15	たも石	尾鈴山酸性岩類	15.5	7.1	4.7	690.2	1/60	やや小振りのコッペパン大の丸みを帯びた自然礫。上下端部に弱い敲打痕。
3		S105	16	たも石	尾鈴山酸性岩類	15.8	8.0	5.2	882.9	1/60	やや小振りのコッペパン大の丸みを帯びた自然礫。使用痕は観察されない。
3		S105	17	たも石	砂岩	17.0	5.5	4.7	704.1	1/60	コッペパン大の角張った砂岩の剥片。被熱による赤化あり。部分的に磨りが観察される。
3		S105	18	たも石	砂岩	16.4	7.6	6.5	1055.7	1/60	コッペパン大の自然礫。縁辺部に敲打痕。
3		S107	16	たも石	ホルンフェルス	18.2	10.0	5.8	1341.6	1/60	丸みを帯びたコッペパン大の自然礫。上下端部に敲打痕。
3		S107	17	たも石	砂岩	16.0	11.9	9.5	2021.2	1/60	丸みを帯びた自然礫。被熱による赤化あり。使用痕は観察されない。
3		S107	18	たも石	砂岩	10.0	11.3	5.5	598.2	1/60	丸みを帯びた自然礫。欠損大。使用痕は観察されない。
3		S107	19	たも石	尾鈴山酸性岩類	14.5	14.4	7.8	1842.1	1/60	風化著しく欠損大。使用痕は観察されない。
3		S107	20	たも石	砂岩	16.8	11.2	8.1	1502.0	1/60	歪な自然礫で裏面剥落。使用痕は観察されない。
3		S107	21	たも石	尾鈴山酸性岩類	16.8	11.7	6.0	1536.6	1/60	歪な自然礫。縁辺部に敲打痕。
3		S107	22	たも石	尾鈴山酸性岩類	18.7	10.1	6.8	1583.4	1/60	丸みを帯びたコッペパン大の自然礫。風化著しい。使用痕は観察されない。
3		S107	49	たも石	ホルンフェルス	17.7	9.8	10.5	1637.4	1/60	歪な自然礫で欠損大。使用痕は観察されない。
3		S110	60	たも石	ホルンフェルス	17.7	8.1	6.6	1251.1	1/60	コッペパン大の歪な自然礫。上下端部、側面縁辺部に敲打痕。
3		S110	64	たも石	ホルンフェルス	17.3	8.2	7.3	1452.3	1/60	コッペパン大の歪な自然礫。使用痕は観察されない。
3		S110	175	たも石	ホルンフェルス	14.5	9.5	4.7	642.4	1/60	剥片。使用痕は観察されない。
3		S117	15	たも石	尾鈴山酸性岩類	16.8	9.0	7.6	1498.7	1/60	角張った歪な礫。使用痕は観察されない。
3		S117	16	たも石	尾鈴山酸性岩類	15.6	9.8	6.2	1339.8	1/60	丸みを帯びた歪な礫。被熱による赤化、煤状の黒色付着物あり。使用痕は観察されない。
3		S117	17	たも石	砂岩	15.8	9.4	6.3	1277.9	1/60	丸みを帯びた歪な礫。使用痕は観察されない。
3		S117	18	たも石	尾鈴山酸性岩類	17.5	10.3	6.1	1819.3	1/60	やや角張った歪な礫。使用痕は観察されない。
3		S117	19	たも石	尾鈴山酸性岩類	16.3	11.2	5.2	1293.2	1/60	やや扁平な歪な礫。平坦面滑らかで磨られた可能性あり。煤状の黒色付着物あり。
3		S117	22	たも石	ホルンフェルス	12.8	7.2	4.1	559.2	1/60	角張った歪な礫。使用痕は観察されない。
4		S5	12	たも石	ホルンフェルス	13.3	6.8	3.9	533.2	1/60	丸みを帯びた歪な楕円礫。風化著しく、被熱による赤化あり。端部に微弱な敲打が観察される。
4		S5	13	たも石	尾鈴山酸性岩類	17.1	10.7	7.1	1401.9	1/60	丸みを帯びた歪な自然礫。器面の風化著しい。平坦面に磨りが観察される。
4		S5	14	たも石	砂岩	29.9	11.4	8.5	2767.6	1/60	丸みを帯びた巨礫が割れたもの。わずかに敲打痕が観察される。No.27 と接合。
4		S5	16	たも石	ホルンフェルス	14.7	8.2	3.3	404.8	1/60	角張った偏平な礫が破損したもの。風化著しい。使用痕は観察されない。
4		S5	18	たも石	砂岩	13.7	6.5	4.3	603.1	1/60	丸みを帯びた礫が破損したもの。風化著しい。被熱による赤化あり。使用痕は観察されない。
4		S5	19	たも石	砂岩	12.7	7.2	3.1	452.6	1/60	断面隅丸三角形の楕円礫。長軸端部に敲打痕が観察され敲石としても使用されている。
4		S5	25	たも石	砂岩	16.8	12.8	9.2	2285.2	1/60	角張った歪な自然礫。平坦面は手触りが滑らかで部分的に微弱な敲打痕。台石の破損したものか。
4		S5	26	たも石	尾鈴山酸性岩類	27.4	11.2	7.3	3089.2	1/60	器面の風化著しい縦長楕円形状の礫。使用痕は観察されない。
4		S5	27	たも石	砂岩	21.9	8.6	7.8	1759.7	1/60	丸みを帯びた巨礫が割れたものか。使用痕は観察されない。別のたも石群 No.14 と接合する。
4		S5	29	たも石	ホルンフェルス	18.2	8.3	6.8	1534.5	1/60	歪で角張った自然礫。風化著しい。端部に微弱な敲打痕。
4		S5	30	たも石	尾鈴山酸性岩類	22.2	10.6	9.6	3242.9	1/60	丸みを帯びた歪で縦長の礫。断面は隅丸方形。使用痕は観察されない。
4		S5	31	たも石	砂岩	23.2	11.0	8.7	3674.6	1/60	断面台形状の歪な自然礫。被熱による赤化あり。使用痕は観察されない。
4		S5	32	たも石	ホルンフェルス	24.3	11.4	9.5	3062.6	1/60	断面台形状の歪な礫。側面が層状に剥落。平坦面が滑らかで台石としての使用も想定される。
4		S7	5	たも石	砂岩	21.0	9.6	4.2	1150.2	1/60	断面蒲鉾形で偏平な礫。礫面に弱い敲打痕が点在する。
4		S7	6	たも石	砂岩	17.8	10.2	5.8	1304.1	1/60	丸みを帯びた歪な自然礫。側縁部が欠損。使用痕は観察されない。
4		S7	7	たも石	砂岩	17.9	9.2	4.7	972.7	1/60	断面蒲鉾形で偏平な礫。平坦面に磨りが観察される。
4		S7	8	たも石	砂岩	15.5	7.5	5.0	1028.3	1/60	角張った歪な自然礫。使用痕は観察されない。
4		S7	9	たも石	砂岩	15.8	6.8	7.2	1027.3	1/60	角張った歪な自然礫。下端部および稜に敲打痕。
4		S7	10	たも石	ホルンフェルス	13.2	6.6	6.2	728.9	1/60	丸みを帯びた歪な自然礫。使用痕は観察されない。
4		S7	11	たも石	砂岩	20.6	7.4	5.4	1137.9	1/60	丸みを帯びた歪な縦長の礫。断面は隅丸方形。稜に部分的に敲打が見られる。
5		S23	1	たも石	ホルンフェルス	20.2	10.4	7.2	1808.8	1/60	断面楕円形状の歪な礫。風化著しい。使用痕は。
5		S23	3	たも石	砂岩	21.7	11.5	8.8	2605.2	1/60	欠損著しい。使用痕は観察されない。
5		S23	4	たも石	ホルンフェルス	18.5	11.2	8.0	2530.9	1/60	断面隅丸方形の歪な角張った礫。使用痕は観察されない。
5		S23	5	たも石	砂岩	19.2	12.4	5.5	1878.4	1/60	偏平な楕円礫。平坦面に敲打痕あり。台石としても利用。
5		S23	6	たも石	尾鈴山酸性岩類	29.4	14.4	7.0	3427.3	1/60	欠損大きく風化著しい。大型の礫が破損により細長くなったもの。使用痕は観察されない。
5		S23	7	たも石	砂岩	18.8	11.6	7.8	2325.2	1/60	破砕礫。縁辺部に微弱な敲打痕。
5		S23	9	たも石	尾鈴山酸性岩類	22.0	14.7	8.2	4153.0	1/60	断面台形状の角張った礫。側面に磨りが観察される。
5		S23	11	たも石	砂岩	27.9	13.0	11.5	3816.9	1/60	角張った歪な礫。風化著しく器面が剥落する。部分的に微弱な敲打痕が観察される。

第 96 表　たも石計測表 (2)

出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
5		S23	17	たも石	砂岩	15.0	7.2	4.9	447.3	1/60	丸みを帯びた礫が大きく欠損。使用痕は観察されない。
5		S23	18	たも石	砂岩	13.7	12.0	7.3	1464.6	1/60	丸みを帯びた礫。稜と平坦面に敲打痕。
5		S23	20	たも石	砂岩	21.2	11.6	9.8	2615.2	1/60	断面隅丸三角形の礫。平坦面に敲打痕。煤状の黒色付着物あり。
5		S23	22	たも石	尾鈴山酸性岩類	31.6	11.8	9.3	4929.1	1/60	断面隅丸方形の歪な縦長楕円礫。明確な使用痕は観察されない。
5		S23	25	たも石	尾鈴山酸性岩類	21.8	9.2	5.0	1820.0	1/60	断面隅丸方形の平面楕円形の礫。使用痕は観察されない。
5		S23	27	たも石	尾鈴山酸性岩類	19.2	8.7	8.1	1763.0	1/60	やや歪なコッペパン状の丸みを帯びた礫。被熱による赤化あり。使用痕は観察されない。
5		S23	29	たも石	砂岩	21.2	11.0	6.2	4143.7	1/60	断面蒲鉾形の楕円礫。使用痕は観察されない。
5		S23	30	たも石	尾鈴山酸性岩類	22.0	10.3	6.1	1983.5	1/60	断面隅丸方形の角張った礫。明確な使用痕は観察されない。
5		S23	32	たも石	尾鈴山酸性岩類	17.5	10.4	7.6	1715.0	1/60	歪な断面台形状の角張った礫。被熱による赤化、ひび割れ著しい。使用痕は観察されない。
5		S23	33	たも石	尾鈴山酸性岩類	25.7	12.8	9.2	3624.7	1/60	断面隅丸方形の丸みを帯びた礫。使用痕は観察されない。
5		S23	34	たも石	砂岩	22.2	12.8	10.2	3616.8	1/60	断面台形状の歪な礫。使用痕は観察されない。
5		S23	36	たも石	尾鈴山酸性岩類	11.7	9.8	4.7	515.9	1/60	欠損著しい。被熱による赤化あり。部分的に手触りが滑らか。
5		S23	37	たも石	砂岩	19.8	10.0	7.3	2187.0	1/60	断面台形状の角張った礫。平坦面、稜に敲打痕。
5		S23	38	たも石	砂岩	18.4	9.8	4.6	863.1	1/60	断面蒲鉾形の丸みを帯びた礫。平坦面に敲打痕。
5		S23	40	たも石	砂岩	14.2	13.2	5.5	1630.8	1/60	断面隅丸方形の丸みを帯びた礫。使用痕は観察されない。
5		S23	28	たも石	砂岩	18.5	8.4	6.7	1688.4	1/60	やや角張った礫。欠損大。No.28 の礫と破片の No.26 が接合。使用痕は観察されない。

第 97 表　台石計測表 (1) ※遺構図内掲載分

出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
1		SA6	41	台石	尾鈴山酸性岩類	33.6	32.6	10.9	18400.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1		SA8	11	台石	砂岩	40.2	31.5	18.1	28000.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1		SA20	99	台石	尾鈴山酸性岩類	36.4	25.1	15.1	17200.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1		SA33	29	台石	砂岩	26.3	22.3	14.7	10400.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1		SA34	28	台石	尾鈴山酸性岩類	40.6	39.3	14.5	31800.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1		SA35	65	台石	尾鈴山酸性岩類	39.0	27.5	13.8	21700.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1		SA37	18	台石	尾鈴山酸性岩類	31.7	20.3	13.5	10500.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1		SA41	47	台石	尾鈴山酸性岩類	34.2	28.2	9.3	13700.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1		SA55	6	台石	尾鈴山酸性岩類	42.3	26.4	15.1	24700.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1		SA107	4	台石	尾鈴山酸性岩類	46.0	25.3	18.2	35300.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S161	3	台石	砂岩	23.2	21.0	10.2	6800.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S292	2	台石	尾鈴山酸性岩類	24.6	25.3	7.2	6200.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S491	5	台石	尾鈴山酸性岩類	51.8	29.2	12.3	25750.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S548	4	台石	尾鈴山酸性岩類	46.7	39.6	14.7	37400.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S580	22	台石	尾鈴山酸性岩類	34.0	26.0	12.7	15500.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S580	27	台石	砂岩	35.3	18.7	14.8	12100.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S609	153	台石	尾鈴山酸性岩類	36.5	22.7	12.8	14800.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S609	154	台石	尾鈴山酸性岩類	28.9	26.9	12.5	15900.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S610	22	台石	尾鈴山酸性岩類	45.4	35.0	15.7	41100.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S783	11	台石	尾鈴山酸性岩類	34.7	21.6	13.9	14100.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S980	5	台石	砂岩	31.4	25.2	11.1	12100.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
1 拡		S1016	21	台石	尾鈴山酸性岩類	43.0	21.2	12.0	15500.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
2		S2001	1	台石	ホルンフェルス	36.1	27.9	14.9	20200.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
2		S2006	13	台石	尾鈴山酸性岩類	33.0	18.9	11.8	6900.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
2		S2010	25	台石	尾鈴山酸性岩類	30.1	24.9	14.7	13500.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
2		S2016	13	台石	尾鈴山酸性岩類	41.3	30.9	16.2	26400.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
2		S3001	8	台石	尾鈴山酸性岩類	24.2	21.8	12.0	9800.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
2		S3001	9	台石	尾鈴山酸性岩類	34.0	19.2	17.8	14000.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
2		S3015	8	台石	砂岩	37.1	26.4	14.8	22900.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
3		S105	33	台石	ホルンフェルス	34.0	32.8	10.4	18900.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
3		S107	37	台石	尾鈴山酸性岩類	28.0	25.4	14.0	16700.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
3		S108	160	台石	尾鈴山酸性岩類	31.1	23.7	10.9	12300.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
3		S110	40	台石	尾鈴山酸性岩類	46.0	27.2	13.5	25900.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
3		S112	48	台石	尾鈴山酸性岩類	34.6	27.9	14.1	25200.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
3		S118	48	台石	尾鈴山酸性岩類	48.4	32.7	12.6	23000.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
3		S144	12	台石	尾鈴山酸性岩類	28.8	25.1	8.4	8200.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
3		S151	18	台石	尾鈴山酸性岩類	26.9	27.8	10.4	12200.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
3		S161	77	台石	砂岩	42.1	20.0	16.7	15900.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化

第 98 表　台石計測表 (2) ※遺構図内掲載分

出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
調査区	Gr.	遺構番号	№			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
3		S161	78	台石	尾鈴山酸性岩類	32.2	24.0	12.0	14100.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S1	9	台石	尾鈴山酸性岩類	31.3	24.4	11.4	12500.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S2	21	台石	尾鈴山酸性岩類	27.6	29.8	12.0	1600.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S5	22	台石	尾鈴山酸性岩類	33.2	27.4	13.7	12800.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S6	3	台石	尾鈴山酸性岩類	38.2	35.2	13.0	29900.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S7	14	台石	尾鈴山酸性岩類	27.7	25.6	15.7	14000.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S7	15	台石	ホルンフェルス	31.9	24.0	14.2	19200.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S12	8	台石	尾鈴山酸性岩類	33.1	18.8	11.7	10600.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S12	23	台石	砂岩	21.2	13.7	9.2	3194.7	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S12	24	台石	砂岩	30.4	26.1	15.6	15050.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S14	25	台石	尾鈴山酸性岩類	30.0	28.4	12.0	18000.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S14	31	台石	尾鈴山酸性岩類	32.5	23.1	8.4	9400.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S14	32	台石	砂岩	30.0	19.4	10.1	6800.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S21	7	台石	尾鈴山酸性岩類	42.1	34.1	17.8	34000.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S73	13	台石	尾鈴山酸性岩類	40.8	34.4	16.5	31700.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S140	1	台石	尾鈴山酸性岩類	31.9	17.7	10.3	6900.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S156	18	台石	砂岩	44.8	20.9	13.3	15900.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S157	7	台石	尾鈴山酸性岩類	36.6	30.6	14.6	22600.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S168	1	台石	尾鈴山酸性岩類	33.1	22.0	12.2	13000.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S168	7	台石	砂岩	23.2	14.6	8.2	3470.5	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S168	8	台石	砂岩	30.4	13.2	9.1	4826.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S170	8	台石	尾鈴山酸性岩類	43.2	28.9	14.6	24700.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
4		S2012	1	台石	尾鈴山酸性岩類	30.9	30.7	15.6	22500.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
5		S7	30	台石	尾鈴山酸性岩類	33.6	24.0	12.7	14300.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
5		S19	36	台石	尾鈴山酸性岩類	47.7	44.2	16.7	55000.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
5		S19	37	台石	尾鈴山酸性岩類	34.1	26.4	15.5	21700.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
5		S40	12	台石	尾鈴山酸性岩類	41.2	30.6	15.1	29200.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
5		S40	15	台石	尾鈴山酸性岩類	35.1	29.6	13.4	15800.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
5		S41	1	台石	尾鈴山酸性岩類	38.2	32.9	11.1	24000.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
5		S41	55	台石	尾鈴山酸性岩類	37.3	20.5	12.2	13600.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
5		S50	4	台石	尾鈴山酸性岩類	38.5	26.3	13.8	19000.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化
5		S50	21	台石	砂岩	20.5	14.8	6.0	2694.8	1/60	遺構図内に出土状況を図化
5		S56	13	台石	尾鈴山酸性岩類	27.5	22.1	11.0	8500.0	1/60	遺構図内に出土状況を図化

第 99 表　鉄器計測表 (1)

番号	出土地	出土状況	遺構種別	器種	型式・形状等	残存状況	法量（cm・g）				遺物の所見
							最大長	最大幅	最大厚	重量	
2827	1- SA 11	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	圭頭鏃	完存	3.7	1.2	0.2	1.6	小型の
2828	1- SA 21	床付近	竪穴建物跡	刀子	不明	茎部欠損	(3.7)	1.1	0.2	1.4	破損箇所が多いが、棟と刃部を確認。
2829	1- SA 22	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	切先欠損	(6.9)	1.8	0.3	7.7	柳葉鏃、茎先端も劣化により変形
2830	1- SA 23	埋土中	竪穴建物跡	刀子	不明	刀身部のみ	(6.2)	1.0	0.3	8.6	基部に繊維付着
2831	1- SA 33	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	欠損あり	5.7	(2.6)	0.2	7.2	茎短い
2832	1- SA 34	埋土中	竪穴建物跡	工具？		身部上半欠損	(3.5)	1.4	0.3	2.3	
2833	1- SA 34	貼床中	竪穴建物跡	不明	棒状	茎部のみ	3.6	0.7	0.2	1.0	非常に細い茎部、破損後の劣化
2834	1- SA 39	埋土中	竪穴建物跡	有袋鉄斧	-	完存					比較的重厚な造り
2835	1- SA 41	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	圭頭鏃	鏃身部のみ	(2.4)	1.9	0.2	3.1	二枚重なる。やや丸味を帯びる。繊維付着
					柳葉鏃	鏃身部のみ	(2.2)	1.5	0.15	3.1	
2836	1- SA 65	埋土中	竪穴建物跡	工具？	不明	完存	5.8	1.0	0.3	5.3	反りが逆、片側の刃部が不明瞭、刀子のような使用法か
2837	1- SA 72	埋土中	竪穴建物跡	漁具？	棒状	完存	3.5	0.3	0.3	2.9	二本重ね、繊維（樹皮）が巻かれる。針金状
							2.6	0.6	0.4	2.9	
2838	1- SA 118	埋土中	竪穴建物跡	錐	棒状	茎部のみ	(5.3)	0.5	0.4	2.6	非常に細い。繊維が巻かれる
2839	1- SC 28	埋土中	土坑	鉄鏃	無茎平基式三角形鏃	完存	3.6	1.7	0.3	3.9	繊維が片面のみ付着
2840	1- Gr K9	撹乱中	-	鉄鏃	圭頭鏃	鏃身部のみ	5.0	3.4	0.25	9.8	大型。側面全体に刃部。
2841	1 拡 - S 5	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	切先欠損	(4.1)	1.9	0.2	3.8	身部最大幅より上位に刃部。茎短い。
2842	1 拡 - S 22	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	完存	4.8	1.6	0.3	5.3	先端丸味。身部最大幅よりやや下まで刃部
2843	1 拡 - S 22	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	茎部欠損	4.5	1.8	0.3	4.1	小型、先端丸味、片面にのみ繊維付着
2844	1 拡 - S 37	埋土中	竪穴建物跡	不明	棒状	基部のみ	(3.1)	0.7	0.35	1.8	取り上げた破片の１つがＮｏ．５と接合
2845	1 拡 - S 161	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	完存	(8.6)	2.7	0.3	11.5	柳葉鏃（関部なし）、茎部に繊維付着
2846	1 拡 - S 161	埋土中	竪穴建物跡	鉈？		欠損あり	(3.8)	1.1	0.2	2.2	形状いびつ、うらすきなし
2847	1 拡 - S 404	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	三角形	欠損あり	(3.3)	3.3	0.2	3.7	三角形状、若干繊維付着
2848	1 拡 - S 521	埋土中	竪穴建物跡	不明	棒状	茎部のみ	(2.8)	0.7	0.4	1.0	茎部先端も欠損、繊維付着。
2849	1 拡 - S 570	土坑内	竪穴建物跡	鉈	箆状	完存	5.1	1.8	0.2	6.7	刃部以外は扁平、反り弱い
2850	1 拡 - S 570	床付近	竪穴建物跡	工具？		身部欠損	(4.8)	0.8	0.2	2.4	身部不明、若干繊維付着
2851	1 拡 - S 609	埋土中	竪穴建物跡	鉄片			4.8	2.1	0.3	6.4	三角形状、折れ曲がり有り
2852	1 拡 - S 609	埋土中	竪穴建物跡	鉄片			3.7	1.0	0.2	2.0	長方形の板状？であれば刀子か鉈？
2853	1 拡 - S 609	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	三角形状		(2.6)	1.5	0.2	1.9	片側の刃部は不明瞭
2854	1 拡 - S 1016	埋土中	竪穴建物跡	刀子？			2.6	1.4	0.3	2.0	棟関。柄の一部が残存
2855	1 拡 - S 101	埋土中	土坑	轡	素環鏡板付轡	欠損あり					引手なし。実際は S102 の埋土上層出土であり、時期は新しい。古代あたり？
2856	1 拡 - S 189	埋土中	土坑	鉄鏃	骨鏃形鉄鏃	完存	6.3	1.0	0.4	5.0	Ⅳ a タイプ、反りは弱い
2857	1 拡 - S 189	埋土中	土坑	刀子？		欠損あり	(6.4)	0.8	0.2	2.8	無関
2858	1 拡 - S 189	埋土中	土坑	鉄鏃	圭頭鏃	茎部～鏃身部下位	(4.7)	1.8	0.4	4.5	柳葉鏃か圭頭鏃。同一固体だが接合不可の破片有り
2859	2- S 9	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	細い板状	完存	2.8	1.1	0.25	2.7	五角形
2860	2- S 2001	土坑内	竪穴建物跡	鉈	箆状	刃部上半のみ	(2.5)	1.5	0.2	1.9	切先のみ、若干繊維付着
2861	2- S 2001	土坑内	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	完存	4.8	1.4	0.3	3.8	最大幅より上位に刃部
2862	2- S 2002	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	細い板状		(3.2)	1.0	0.3	2.6	菱形。片側の刃部不明瞭
2863	2- S 2002	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	板状		2.1	2.0	0.3	2.7	スプーン状。
2864	2- S 2002	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	棒状		(2.5)	0.7	0.4	2.2	鏃茎・小型柳葉鏃未製品の可能性も
2865	2- S 2009	床付近	竪穴建物跡	鉄片	細い板状	完存	2.8	0.9	0.3	1.7	小型。断面凹
2866	2- S 2009	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	叉状	完存	3.3	1.3	0.3	3.8	三角形（下辺抉り状）
2867	2- S 2009	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	細い板状	完存	2.4	1.1	0.2	0.9	板状
2868	2- S 2010	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	棒状	欠損あり	(3.4)	0.7	0.5	2.5	二枚に見えるが層状に剥離したものか。繊維付着。
2869	2- S 2017	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	棒状	完存	4.1	1.0	0.5	6.7	細長い板状。製品の基部にしては太い
2870	2- S 3011	埋土中	竪穴建物跡	工具？	細い板状	完存	2.7	0.5	0.2	0.6	細長い板状、若干繊維付着
2871	2- S 3011	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	鋒欠損	(4.6)	1.5	0.3	3.9	柳葉鏃（無関）。茎断面凹
2872	2- S 3018	埋土中	ピット	鉄鏃	有茎腸抉柳葉鏃	片側の逆刺欠損	6.9	1.8	0.2	6.4	茎部に繊維痕有り
2873	2- S 2502	埋土中	土坑	不明	細い板状	身部のみ	(2.3)	0.9	0.2	1.1	太さ、厚さから鉈基部の可能性が最も高い。
2874	2- S 3003	埋土中	周溝状遺構	鉄鏃	柳葉鏃	欠損	(1.7)・(3.2)	1.3	0.2	1.2	関までの残存、同一固体だが接合不可の破片あり
2875	2- Gr B20	包含層	-	鉄鏃	柳葉鏃	身部上半欠損	(4.5)	(1.1)	0.3	3.2	身部全体に刃部を施す。
2876	2- 不明		不明	銅鏃		茎部のみ					
2877	3- S 105	埋土中	竪穴建物跡	不明	箆状	鋒欠損	(6.1)	1.7	0.4	11.9	約 5cm、扁平な鉄片、刃部若干残る
2878	3- S 105	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	茎先端欠損	(3.5)	1.3	0.25	2.9	小型
2879	3- S 107	床付近	竪穴建物跡	袋状鉄斧	-	完形	5.3	3.5	0.6	38.3	小型。Ｘ線によると、刃部は直線的。
2880	3- S 107	床付近	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	茎・口巻下部欠損	(6.6)	2.0	0.4	5.0	矢柄付き（106 に続く）、口巻
2881	3- S 107	床付近	竪穴建物跡	矢柄	-	口巻上部欠損	(8.0)	0.8	0.1	3.7	内面は木製（S107-2 の続き）、出土時に破砕
2882	3- S 109	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	板状		(2.6)	(1.5)	0.3	2.3	劣化著しい。
2883	3- S 110	床付近	竪穴建物跡	鉄鏃	無茎凹基五角形鏃	完形	2.9	1.8	0.2	2.5	布付着

第 100 表　鉄器計測表 (2)

番号	出土地	出土状況	遺構種別	器種	型式・形状等	残存状況	法量（cm・g）				遺物の所見
							最大長	最大幅	最大厚	重量	
2884	3- S 110	床付近	竪穴建物跡	鉄鏃	無茎二段逆刺鏃	下段逆刺の片方欠損	3.3	1.8	0.2	2.3	布付着
2885	3- S 110	床付近	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	完形	3.9	1.9	0.4	4.7	鏃身部折れて重なる。推定 5.7㎝。
2886	3- S 116	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	不明	頸部のみ	(2.5)	(1.8)	0.3	2.5	大型無茎ならば圭頭鏃。
2887	3- S 158	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	圭頭鏃	完形	4.4	1.4	0.3	4.3	茎に口巻き残存。身部最大幅より上位に刃部
2888	3- S 158	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	細い板状	完存	3.5	0.8	0.2	3.0	裂化激しく不明瞭、捩れる
2889	3- S 158	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	棒状	茎部のみ	(2.1)	(0.4)	0.2	0.5	非常に細い。断面凹
2890	3- S 158	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	棒状	茎部の一部のみ	(1.6)	(0.6)	0.2	0.3	先端欠損
2891	4- S 2	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	圭頭鏃	鏃身部下半欠損	2.3	1.4	0.2	1.8	若干刃部が左右対称でない。身部最大幅より上位に刃部。
2892	4- S 5	床付近	竪穴建物跡	鉄片	三角形	欠損あり	(2.1)	0.9	0.2	0.7	三角形
2893	4- S 6	床付近	竪穴建物跡	鑿	-	完存	2.6	0.9	0.6	8.3	頭部は瘤銹により不明瞭。
2894	4- S 12	埋土中	竪穴建物跡	鉈	鎹状	鋒欠損	(5.5)	1.0	0.3	4.0	刃部先端に近く、鎬がある
2895	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	三角形状	完存	3.9	1.4	0.4	4.5	三角形
2896	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	三角形状	欠損あり	(3.2)	1.5	0.2	2.4	三角形
2897	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	細い板状	完存	2.6	0.8	0.3	1.3	半月形
2898	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	細い板状	完存	2.4	0.5	0.3	1.2	三日月状
2899	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	不明	細い板状	完存	1.8	1.1	0.4	2.0	平行四辺形
2900	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	三角形状	欠損あり	1.7	(1.3)	0.4	1.5	三角形、刃部なし。両面に木質付着。
2901	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	三角形状	完存	2.4	1.5	0.2	1.5	三角形。
2902	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	三角形状	完存	2.2	0.6	0.3	1.1	三角形
2903	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	三角形状	完存	2.0	1.1	0.15	0.7	三角形。薄くて脆弱だが、刀子切っ先の可能性も。
2904	4- S 13	床付近	竪穴建物跡	鑿	-	完存	3.7	1.3	0.6	10.6	重厚
2905	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	棒状鉄器		欠損あり	(5.7)	0.7	0.3	3.9	129 と接合済。断面長方形（平形）。
2906	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	棒状鉄器		基部のみ	3.6	1.0	0.4	5.0	欠損は使用当時
2907	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	棒状鉄器		身部のみ	(3.8)	0.7	0.35	3.1	鉈の基部の可能性も。
2908	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	細い板状	完存	5.9	0.9	0.4	8.3	形状は刀子だが刃部なし。若干折れ曲がる。
2909	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	不明	茎部のみ	2.1	0.45	0.3	1.0	断面方形。細い棒状。欠損は使用当時
2910	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	棒状	完存	2.9	0.5	0.2	0.8	細い板状、両端先細
2911	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉈	鎹状	刃部の一部のみ残存	(1.7)	1.7	0.2	0.8	鎬がある。横断面 V 字形。
2912	4- S 13	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	圭頭鏃	鏃身部のみ	(2.1)	1.4	0.2	1.4	刃部は最大幅上。鍛打ヨレあり。繊維付着。
2913	4- S 15	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	完存	9.8	1.9	0.3	11.3	身部最大幅よりやや下まで刃部。口巻き（樹皮）残存。
2914	4- S 15	埋土中	竪穴建物跡	漁具？	棒状	欠損あり	(4.7)	0.5	0.5	4.0	棒状でやや長い。棒状鉄片の可能性も。
2915	4- S 15	埋土中	竪穴建物跡	不明	筒状？	欠損あり	(3.2)	1.1	0.1	1.5	筒状のものが半截されたような形状。非常に薄く、有機質が銹汁で固化したものか。
2916	4- S 16	床付近	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	完存	7.0	2.1	0.3	8.5	繊維付着
2917	4- S 16	埋土中	竪穴建物跡	漁具？	棒状	完存	4.2	0.6	0.4	3.4	股状に分かれ、片方のみ棘状
2918	4- S 16	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	細い板状	完存	4.8	1.4	0.4	6.4	刀子のような形状だが刃部なく、重厚。
2919	4- S 16	埋土中	竪穴建物跡	鑿	-	完存	2.4	0.9	0.7	4.6	鑿にしては小型。
2920	4- S 16	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	細い板状	完存	3.0	0.7	0.3	2.3	細い板状。木質多く付着。
2921	4- S 16	埋土中	竪穴建物跡	不明	棒状	茎部のみ	3.2	0.5	0.3	1.4	断面非常に緩い凹字状。欠損は使用当時
2922	4- S 17	埋土中	竪穴建物跡	刀子	刃関・直	刀身半分欠損	(4.0)	1.4	0.3	3.8	直角関で刃部は関側。茎に目釘穴が一カ所穿たれる。
2923	4- S 18	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	無茎腸抉三角形鏃	完存	3.0	2.7	0.3	2.5	基部の切り込みは台形状。繊維付着。
2924	4- S 18	埋土中	竪穴建物跡	鉈？	鎹状	身部のみ	(8.7)	1.0	0.3	9.6	長い板状で上下とも欠損。屈曲しており鉈の可能性があるが刃部なし。
2925	4- S 19	埋土中	竪穴建物跡	刀子	刃関・斜	刀身半分欠損	(3.4)	1.0	0.25	3.2	斜め関。茎は短い。
2926	4- S 19	埋土中	竪穴建物跡	不明	棒状	茎部のみ	2.2	0.4	0.3	0.7	先端先細。欠損は使用当時
2927	4- S 19	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	不明	茎部のみ	(2.9)	(0.6)	0.2	1.3	繊維付着（口巻き）。
2928	4- S 20	埋土中	竪穴建物跡	不明	棒状	茎部～身部下位	3.8	1.0	0.3	2.0	柳葉鏃もしくは圭頭鏃。欠損は使用当時。
2929	4- S 20	埋土中	竪穴建物跡	不明	棒状	茎部のみ	2.8	0.5	0.3	1.2	欠損は使用当時
2930	4- S 26	床付近	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	鏃身部のみ	4.3	2.3	0.3	4.6	身部は丸味を帯びる。茎表面に両側鍛打による凹み。斜め方向の繊維付着。
2931	4- S 26	埋土中	竪穴建物跡	鉈？	鎹状	身部のみ	3.3	0.8	0.2	3.1	細長い板状。欠損は使用当時。
2932	4- S 27	埋土中	竪穴建物跡	不明	棒状	茎部のみ	6.0	0.6	0.3	1.6	細長く、先端尖る。
2933	4- S 27	埋土中	竪穴建物跡	刀子	刃関・撫	身部欠損	(6.5)(本体 4.5)	1.2(本体 0.9)	0.9(本体 0.25)	4.4	有機質（木質）の柄が残る。なで肩関か。
2934	4- S 27	床付近	竪穴建物跡	不明	棒状	茎部のみ	1.7	0.5	0.3	0.7	先端丸味。欠損は使用当時
2935	4- S 141	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	鏃身部のみ	(2.4)	1.5	0.3	2.1	刃部不明瞭、繊維付着。
2936	4- S 144	埋土中	竪穴建物跡	棒状鉄器			(3.7)・(1.4)	0.4・0.2	0.3・0.2	1.2・0.3	接合不可の破片あり。細い棒状で断面方形。先端は折れ曲がる。
2937	4- S 150	床付近	竪穴建物跡	棒状鉄器		茎部のみ	(4.3)	0.5	0.3	2.3	棒状。

第 101 表　鉄器計測表 (3)

番号	出土地	出土状況	遺構種別	器種	型式・形状等	残存状況	法量（cm・g）				遺物の所見
							最大長	最大幅	最大厚	重量	
2938	4- S 150	埋土中	竪穴建物跡	棒状鉄器		完存	3.5	0.6	0.5	2.7	棒状。茎部と思われるがやや太く、棒状鉄器の可能性もある。
2939	4- S 153	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	欠損あり	6.0	2.8	0.2	9.5	大型。無茎だが使用当時に茎部が欠損した可能性もある。
2940	4- S 153	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	欠損あり	(2.9)	1.7	0.3	3.0	破片は接合不可。繊維付着。
2941	4- S 153	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	板状		(2.1)	1.2	0.3	1.6	
2942	4- S 153	床付近	竪穴建物跡	鉄片	長三角形	完存	4.3	1.5	0.5～0.6	6.5	三角形。重厚。
2943	4- S 153	埋土中	竪穴建物跡	棒状鉄器	-	欠損あり	(3.9)	0.6	0.6	3.2	断面方形で棒状。太さから茎部ではないと思われる。
2944	4- S 154	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	完存	7.5	2.3	0.2	19.7（総計）	3 個体が銹着している。鉄鏃 2 点は鏃身全体に刃部。
		床付近		鉄鏃	柳葉鏃		7.9	1.5	0.4		
		床付近		鉄片	長三角形		3.7	0.9	0.3		
2945	4- S 154	埋土中	竪穴建物跡	刀子？	不明	刀身部のみ	(3.4)	0.5	0.2	1.1	細く小型だが刀子の身部と思われる。刃部は直線的。
2946	4- S 157	床付近	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	茎部欠損	(5.6)	2.4	0.4	12.7	最大幅より上位に刃部
2947	4- S 163	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	不整五角形	完存	3.0	1.6	0.4	5.3	略三角形状。繊維付着。
2948	4- S 164	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	圭頭鏃	完存	4.7	1.5	0.2	3.8	小型。最大幅よりやや下まで刃部。
2949	4- S 164	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	鋒欠損	(4.5)	1.8	0.3	4.8	有関。鏃身全体に刃部。
2950	4- S 164	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	鋒欠損	(3.0)	1.3	0.25	2.5	小型。繊維付着。劣化により不明瞭だが、最大幅より上位が刃部と思われる。
2951	4- S 164	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	圭頭鏃	鏃身部のみ	(2.6)	1.6	0.3	1.4	小型で短茎。刃部が左右対称でなく、最大幅以下に両側からたたんだような痕跡があるため未製品の可能性もある。最大幅より上位に刃部。
2952	4- S 170	埋土中	竪穴建物跡	鉈	鏝状	身部のみ	(2.0)	0.8	0.2	1.4	細く薄い板状。鉈の基部と思われる。
2953	4- S 190	埋土中	竪穴建物跡	鉈	鏝状	身部のみ	(3.4)	0.8	0.2	2.9	基部・身部ともに欠損。形状・厚さから鉈の基部と思われる。
2954	4- S 244	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	完存	4.15	1.05	0.25	2.1	緩めの有関。鏃身全体に刃部。
2955	4- S 2531	土坑内	竪穴建物跡	鉄片	叉状	完存	2.8	1.8	0.2	3.2	三角形状だが二又に分かれ、片方が鋭く突出する。繊維付着。
2956	4- S 91	埋土中	土坑	不明	棒状	茎部のみ	3.1	0.8	0.4	2.3	若干変形あり
2957	4- S 28	埋土中	区画溝	鉄鏃	柳葉鏃	茎先端欠損	(4.9)	1.3	0.3	3.0	小型。
2958	4- S 28	埋土中	区画溝	鉄鏃	無茎平基式三角形鏃	完存	2.5	1.3	0.2	0.9	柳葉鏃の鋒部の可能性も。（無茎三角形だとすると基部も刃部状になってしまう）。若干繊維付着。
2959	4- S 28	埋土中	区画溝	鉄片	三角形	完存	4.5	1.5	0.4	7.0	三角形。重厚。
2960	4- S 28	埋土中	区画溝	鉄片	三角形	完存	2.7	1.25	0.4	3.2	三角形の一角を切り落としたような形状
2961	4- 不明		-	鉄鏃	柳葉鏃	完存	3.85	1.4	0.2	2.3	無茎、菱形。繊維付着。最大幅より上位に刃部。
2962	4- Gr C27	包含層	グリッド	不明	筒状？	欠損あり	(2.1)	(1.3)	0.15	0.8	半截竹管のような形状。138（S15）と同一か？
2963	5- S 10	埋土中	竪穴建物跡	不明		身部欠損	(4.0)	0.8	0.2	1.2	有機質が残存している。接合不可の破片有
2964	5- S 10	埋土中	竪穴建物跡	不明	棒状	身部欠損	(4.0)	0.8	0.2	1.2	有機質が残存している。接合不可の破片有
2965	5- S 10	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	三角形	完存	4.6	2.0	0.3	16.0(総計)	二枚重なる。二等辺三角形
2965	5- S 10	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	板状	欠損あり	(6.5)	2.4	0.4	16.0(総計)	二枚重なる。刀子の関状
2966	5- S 16	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃		茎部のみ	2.3	0.6	0.35	0.9	先端先細
2967	5- S 38	埋土中	竪穴建物跡	刀子	不明	刀身部の一部のみ	(1.6)	(0.95)	0.2	1.0	刀身の一部のみ残存。繊維付着（鞘？）
2968	5- S 40	埋土中	竪穴建物跡	刀子	不明	茎部の一部のみ	(3.4)	1.2	0.4	5.6	茎と思われる。有機質が残存
2969	5- S 40	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	板状		(4.1)	2.0	0.3	8.3	刀子の関状
2970	5- S 41	埋土中	竪穴建物跡	刀子	刃関・斜	完存	7.1	1.1	0.3	5.3	柄の一部が残存
2971	5- S S42	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	細い板状	完存	2.1	1.0	0.2	1.8	刀子の鋒のような形状
2972	5- S 44	埋土中	竪穴建物跡	漁具？	棒状	完存	3.8	0.6	0.4	3.7(ab総計)	棒状鉄片。二本を樹皮で巻いている。
2972	5- S 44	埋土中	竪穴建物跡	漁具？	棒状	完存	4.0	0.5	0.4	3.7(ab総計)	棒状鉄片。二本を樹皮で巻いている。
2973	5- S 44	埋土中	竪穴建物跡	鉄片	板状		(3.3)	1.4	0.3	3.8	棟関。柄の一部が残存
2974	5- S 50	埋土中	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	身部上半欠損	(2.4)	(1.4)	0.25	1.0	茎断面凹
2975	5- S 50	埋土中	竪穴建物跡	鑿	-	欠損あり	(12.4)	1.0	0.9	43.9	太い棒状、素材？鑿の可能性あり
2976	5- S 80	埋土中	竪穴建物跡	不明		完存	2.5	1.0	0.15	1.1	歪、刃部なし→未製品か。茎不明瞭だが断面凹
2977	5- S 73	埋土中	土坑	鉈	鏝状	刃部欠損	(9.5)	(1.0)	0.4	10.5	刃部鏝状。基部が薄く仕上げられる

第~~2~~3節　古代以降の遺構と遺物

古代以降の時期と考えられる遺構について掘立柱建物跡、竪穴状遺構、土坑、溝状遺構、道路状遺構、波板状凹凸痕等がある。

1　掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は全調査区で31軒が検出された。内訳は、一次調査区14棟、二次調査区5棟、三次調査B区7棟、三次調査C区5棟である。そのうち、遺構番号が2桁のものは現地で検出されたもの、4桁のものは遺構分布図から復元したものである。また、各実測図の断面図のうち、直線的に描かれているものは、平面図と現地で測量したレベルから復元したものである。

一次調査区 (第 277 図)

1-SB1・1-SB3

K6グリッド付近で2棟を検出した。後世の攪乱を受けて、柱穴をすべて検出することができなかった。分布図のみの報告である。推定で梁行約5m、桁行9.5mの規模を測る。1-SB1は1-SB3に対して、東側に約50cmずれる。桁行の軸の方向も一致するところから、建て替えと判断できる。柱穴から出土した炭化物を放射性炭素年代測定にかけたところ、2δの値でAD770-900(95.4%)を示した。

1-SB2(第 282 図)

2間×3間の四面庇付側柱建物である。I10グリッド付近で検出した。桁行方位はN-89°-Wを示す。身舎の規模は梁行2.28～3.52m、桁行6.00～6.24m、面積は21.12㎡を測る。身舎の柱間寸法は、梁行で1.44～1.84m、桁行で1.84～2.24mを測る。柱穴の規模は直径0.19～0.31m、検出面からの深さは0.28～0.76mを測る。両梁行の中央の柱穴(P5・P6)は軸が揃わない。また、庇の柱穴規模は、直径は19～52cm、深さ8～52cmを測る。

遺物は出土しなかった。

1-SB4(第 283 図)

1間×3間の側柱建物である。I10グリッド付近で検出した。桁行方位はN-8°-Eを示す。規模は梁行3.28～3.36m、桁行5.52～5.60m、面積は18.37㎡を測る。柱間寸法は、桁行で1.76～2.00mを測る。柱穴の規模は直径0.26～0.33m、検出面からの深さは0.26～0.40mを測る。

遺物は出土しなかった。

1-SB5(第 283 図)

2間×3間の側柱建物である。I10グリッドで検出した。桁行方位はN-87°-Eを示す。規模は梁行2.40～2.72m、桁行4.32～4.48m、面積は10.37㎡を測る。柱間寸法は、梁行で1.20～1.36m、桁行で4.32～4.48mであり、柱穴規模は直径0.19～0.28m、検出面からの深さは0.22～0.40mを測る。南側桁行のP8は南側に、東側梁行のP6は東側に若干ずれる。また、P7には柱の抜き取り跡と思われる1-SA23-P1がある。

須恵器提瓶が出土した。

1-SB6(第 284 図)

3間×6間の側柱建物である。I9グリッド付近で検出した。桁行方位はN-89°-Eを示す。規模は梁行4.00～4.24m、桁行8.08～8.24m、面積は32.32㎡を測る。東側梁行よりも西側梁行の距離が長いため、全体的に台形のプランを呈する。柱間寸法は、梁行で1.20～1.60m、桁行で0.96～1.60mを測る。柱穴の規模は、直径0.18～0.62m、検出面からの深さは0.40～0.76mを測る。南側桁行のP14・P15は、桁行の軸よりも南側にずれる。また、北側桁行のP2・P3に対応する柱穴は南側桁行にはない。P4は土坑SC37を切る状況で検出されたため、実際の検出面、掘り方の深さ等は不明である。両梁行の中央の柱穴P8・P9・P10・P11は、直径0.20～0.32mと他の柱穴に比べ小さい。また、梁行の軸に対して、P8は西側に、P11は東側にずれる。

須恵器甕が出土した。

1-SB7(第 284 図)

2間×3間の側柱建物である。I11グリッドで検出した。桁行方位はN-90°-Eを示す。規模は梁行

2.96m、桁行 1.28 ～ 1.68m、面積は 14.68㎡を測る。柱間寸法は、梁行で 1.28 ～ 1.68m、桁行で 1.60 ～ 1.68m を測る。柱穴の規模は、直径 0.21 ～ 0.28m、検出面からの深さは 12 ～ 40m を測る。P2・P7 はそれぞれ梁行の軸からは外側にずれる。P7 には、対応すると思われる 1-SH694 があり、入口等の施設の可能性が考えられる。また、P3・P6 には、柱の抜き取り痕と思われる 1-SH715・1-SH713 が検出されている。

遺物は出土しなかった。

1-SB8(第 285 図)

1 間× 2 間の側柱建物である。H11 グリッドで検出した。桁行方位は N-32° -E を示す。規模は梁行 3.28 ～ 3.44m、桁行 4.00 ～ 4.08m、面積は 13.12㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.92 ～ 2.16m を測る。柱穴は直径 0.21 ～ 0.28m、検出面からの深さは 0.16 ～ 0.26m を測る。

遺物は出土しなかった。

1-SB9

M6 グリッド付近で検出した。後世の撹乱を受けて、柱穴をすべて検出することができなかった。分布図のみの報告である。推定で梁行約 5m、桁行 9.5m の規模を測る。

1-SB10(第 285 図)

1 間× 2 間の側柱建物である。G11 グリッド付近で検出した。1SC37 に切られ、柱穴が少なくとも 1 基検出できていない。桁行方位は N-76° -W を示す。規模は梁行 1.76m、桁行 1.60m、面積は推定 5.49㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.52 ～ 1.60m を測る。柱穴は直径 0.24 ～ 0.26m、検出面からの深さは 0.10 ～ 0.44m である。

遺物は出土しなかった。

1-SB11(第 285 図)

2 間× 4 間の側柱建物である。P3 については、掘り過ぎにより、床レベルの数値が不正確だったため、断面の復元ができなかった。M5 グリッドで検出した。桁行方位は N-17° -E を示す。全体的に北東側の桁行の軸が南西側にずれ、菱形を呈する。規模は梁行 3.44 ～ 3.60m、桁行 3.84 ～ 4.08m、面積は 13.21㎡を測る。柱間寸法は、梁行で 1.60 ～ 2.00m、桁行で 0.72 ～ 1.28m を測る。柱穴は直径 0.30 ～ 0.47m、検出面からの深さは 0.12 ～ 0.48m を測る。柱穴 P3・P4 の 2 基は、両梁行軸から南西側にずれる。また、柱穴 P6・P7 の 2 基は、桁行軸よりも東側にずれ、P7 に対応する西側桁行の柱穴は検出されていない。

遺物は出土しなかった。

1-SB12(第 286 図)

2 間× 4 間の側柱建物である。M5 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-16° -E を示す。規模は梁行 3.68 ～ 3.76m、桁行 5.84 ～ 6.16m、面積は 23.16㎡を測る。柱間寸法は、梁行で 1.84 ～ 1.92m、桁行で 1.44 ～ 1.60m を測る。柱穴は直径 0.22 ～ 0.48m、検出面からの深さは 0.06 ～ 0.56m である。P5 は北側梁行の軸よりも北側にずれ、掘削深度も浅い。また、P2 は東側に P3 は西側にずれる。

遺物は出土しなかった。

1-SB13(第 286 図)

2 間× 3 間の側柱建物である。L4 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-78° -W を示す。規模は梁行 3.12 ～ 3.52m、桁行 4.16 ～ 4.80m、面積は 12.98㎡を測る。北側桁行が南側に比べ短く、全体的に台形のプランを呈する。柱間寸法は、梁行で 1.44 ～ 1.92m、桁行で 1.28 ～ 1.60m を測る。柱穴は直径 0.20 ～ 0.73m、検出面からの深さは 0.24 ～ 0.52cm である。柱穴 P2・P3 は桁行軸よりも南側にずれる。また、梁行軸に対して、P5 は西側に、P6 は東側にずれる。1-SH62 や 1-SH60 のように柱の抜取痕と思われる小穴も検出された。

遺物は回転台土師器皿が出土した。

1-SB14(第 287 図)

2 間× 2 間の片庇付側柱建物である。北側桁行に庇がつく。K5 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-10° -E を示す。身舎の規模は梁行 2.64 ～ 2.88m、桁行 2.80 ～ 3.36m、面積は 7.39㎡を測る。台形のプランを呈する。柱間寸法は、梁行で 1.36 ～ 1.68m、桁行で 1.36 ～ 1.68m を測る。柱穴は直径 0.25 ～ 0.60m、検出面からの深さは 0.08 ～ 0.42m である。P8 については、南側桁行の軸よりも北側

にずれる。また、庇の柱穴直径は 0.30 ～ 0.48m、深さは 0.20 ～ 0.36m である。

遺物は出土しなかった。

1-SB1007 (第 287 図)

図上で復元した 2 間× 3 間の側柱建物である。H11 グリッドで検出した。北側桁行の軸が南側とずれ、平行四辺形のプランを呈する。桁行方位は N-73° -W を示す。規模は梁行 2.88 ～ 3.04m、桁行 4.48 ～ 4.56m、面積は 12.90㎡を測る。柱間寸法は、梁行で 1.36 ～ 1.60m、桁行で 1.28 ～ 2.00m を測る。柱穴は直径 0.23 ～ 0.48m、検出面からの深さは 0.20 ～ 0.40m である。桁行軸に対して、柱穴 1-SH386 は南側に、1-SH384 は北側にずれる。

遺物は須恵器甕が出土した。

一次調査拡張区 (第 278 図)

1 拡 -SB6001

図上で復元した 1 間× 3 間の側柱建物である。床面レベルの記録漏れにより断面の復元ができず、分布図による平面のみの報告である。B30 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-62° -W を示す。規模は梁行 2.64 ～ 2.96m、桁行 3.20 ～ 3.44m、面積は 9.08㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 0.96 ～ 1.20m であり、柱穴は直径 0.17 ～ 0.46m である。

遺物は出土しなかった。

1 拡 -SB6002

図上で復元した 1 間× 2 間の側柱建物である。床面レベルの記録漏れにより断面の復元ができず、分布図による平面のみの報告である。ｱ 30 グリッドで検出した。桁行方位は N-68° -E を示す。規模は梁行 1.92 ～ 2.08m、桁行 2.40 ～ 2.56m、面積は 4.61㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.04 ～ 1.36m を測る。柱穴は直径 0.28 ～ 0.53m である。

遺物は出土しなかった。

二次調査区 (第 278・280・281 図)

2-SB2001(第 287 図)

図上で復元した。調査区外に延びるため推定ではあるが、2 間× 2 間の側柱建物である。F11 グリッドで検出した。桁行方位は N-6° -W を示す。規模は梁行 1.60m、桁行推定 1.76m を測る。柱間寸法は、梁行で 0.72 ～ 0.88m、桁行で 1.36 ～ 1.76m を測る。柱穴は直径 0.28 ～ 0.34m、検出面からの深さは 0.22 ～ 0.38m である。梁行軸に対して、柱穴 2-S1008 は西に、2-S1013 は東に、それぞれずれる。また、柱穴 2-S1007・2-S1010 は、ほかの柱穴に比べ深度が浅い。

遺物は出土しなかった。

2-SB2002(第 288 図)

図上で復元した 1 間× 2 間の側柱建物である。ｲ 30 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-50° -W を示す。梁行 2.48 ～ 2.56m、桁行 4.64m を測る。柱間寸法は、桁行で 2.16 ～ 2.48m、面積は 11.51㎡を測る。柱穴は直径 0.34 ～ 0.44m、検出面からの深さは 0.14 ～ 0.60m である。柱穴 2-S3108 は西側に、2-S3201 は東側に、両桁行の軸よりずれる。

遺物は出土しなかった。

2-SB2003(第 288 図)

図上で復元した 2 間× 1 間の側柱建物である。ｳ 30 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-80° -E を示す。規模は梁行 2.32 ～ 2.40m、桁行 2.80m、面積は 6.50㎡を測る。柱間寸法は、梁行で 1.12 ～ 1.20m を測る。柱穴は直径 0.20 ～ 0.26m、検出面からの深さは 0.22 ～ 0.40m である。柱穴 2-S3212 は西側梁行軸よりも東にずれる。

遺物は出土しなかった。

2-SB2004(第 288 図)

図上で復元した 3 間× 3 間の側柱建物である。ｴ 32 グリッド付近で検出した。調査区外に延びる。一部柱穴が検出されていない。桁行方位は N-12° -W を示す。規模は梁行 3.20m、桁行推定 4.72m、面積は推定 15.36㎡を測る。柱間寸法は、梁行で 0.88 ～ 1.20m、桁行で 1.44 ～ 1.84m を測る。柱穴は直径 0.16 ～ 0.34m、検出面からの深さは 0.06 ～ 0.72cm である。2-S3263・2-S3271・2-S3247・2-S3248 は、他の柱穴に比べ浅い。また、2-S3263・2-S3271 は北側梁行軸よりも北側にずれる。

遺物は出土しなかった。

2-SB2005(第 288 図)

図上で復元した 2 間× 1 間の側柱建物である。ｴ 33 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-77° -E を示す。規模は梁行 2.08 ～ 2.48m、桁行 3.04 ～ 3.20m、面積は 6.32㎡を測る。東側梁行の距離が西側に比べ長いため、台形のプランを呈する。柱間寸法は、梁行で 0.80 ～ 1.36m を測る。柱穴は直径 0.24 ～ 0.44m、検出面からの深さは 0.14 ～ 0.34m である。柱穴 2-S3300 は、東側梁行軸よりも東側にずれる。また、2-S3377 は中央よりやや北側にずれる。

遺物は出土しなかった。

三次調査 B 区 (第 280 図)

4-SB119(第 289 図)

1 間× 2 間の側柱建物である。C27 グリッドで検出した。桁行方位は N-8° -W を示す。規模は梁行 3.36 ～ 3.44m、桁行 3.68 ～ 3.84m、面積は 12.36㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.76 ～ 1.92m を測る。柱穴は直径 0.20 ～ 0.26m、検出面からの深さは 0.10 ～ 0.24m である。

遺物は出土しなかった。

4-SB120(第 289 図)

1 間× 2 間の側柱建物である。D28 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-90° -E を示す。規模は梁行 2.80m、桁行 3.60m、面積は 10.08㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.68 ～ 1.92m を測る。柱穴は直径 0.25 ～ 0.32m、検出面からの深さは 0.12 ～ 0.40m である。

遺物は出土しなかった。

4-SB223(第 289 図)

1 間× 2 間の側柱建物である。E21 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-46° -W を示す。規模は梁行 3.52m、桁行 3.84 ～ 4.00m、面積は 13.52㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.84 ～ 2.08m を測る。柱穴は直径 0.32 ～ 0.55cm、検出面からの深さは 0.64 ～ 0.72m を測る。

遺物は出土しなかった。

4-SB224(第 290 図)

1 間× 2 間の側柱建物である。E22 グリッドで検出した。桁行方位は N-11° -W を示す。規模は梁行 2.56 ～ 2.96m、桁行 5.44 ～ 5.68m、面積は 13.93㎡を測る。東側梁行が西側梁行に比べ短いため、全体として台形のプランを呈する。柱間寸法は、桁行で 2.64 ～ 3.04m を測る。柱穴は直径 0.28 ～ 0.35m、検出面からの深さは 0.38 ～ 0.60m である。P3 は南側へ、P6 は北側へ、それぞれの桁行軸よりもずれる。

遺物は出土しなかった。

4-SB227(第 290 図)

1 間× 2 間の側柱建物である。E24 グリッドで検出した。桁行方位は N-3° -W を示す。規模は梁行 2.96 ～ 3.04m、桁行 4.00 ～ 4.08m、面積は 11.84㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.92 ～ 2.08m を測る。柱穴は直径 0.33 ～ 0.61m、検出面からの深さは 0.56 ～ 0.72m である。

遺物は出土しなかった。

4-SB4001

図上で復元した 1 間× 2 間の側柱建物である。床面レベルの漏れにより断面の復元ができず、分布図による平面のみの報告である。F22 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-66° -W を示す。規模は梁行 1.68 ～ 1.92m、桁行 2.56 ～ 3.04m、面積は 4.30㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.20 ～ 1.60m を測る。柱穴は直径 0.30 ～ 0.40m を測る。

遺物は出土しなかった。

4-SB4002

図上で復元した 1 間× 2 間の側柱建物である。床面レベルの漏れにより断面の復元ができず、分布図による平面のみの報告である。D24 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-12° -W を示す。規模は梁行 2.88m、桁行 4.16m、面積は 11.98㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.92 ～ 2.16m を測る。柱穴は直径 0.25 ～ 0.35m である。

遺物は出土しなかった。

三次調査 C 区 (第 281 図)

5-SB45(第 291 図)

1 間× 3 間の側柱建物である。F17 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-87° -W を示す。規模は梁行 3.76 ～ 3.84m、桁行 5.76 ～ 6.00m、面積は 21.66㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.68 ～ 1.92m を測る。柱穴は直径 0.20 ～ 0.30m、検出面からの深さは 0.12 ～ 0.32m を測る。遺物は出土しなかった。

5-SB46(第 291 図)

1 間× 3 間の側柱建物である。E17 グリッドで検出した。桁行方位は N-2° -E を示す。規模は梁行 3.12 ～ 3.36m、桁行 5.36m、面積は 16.72㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.68 ～ 1.92m を測る。柱穴は直径 0.13 ～ 0.28m、検出面からの深さは 0.4 ～ 0.20m である。

遺物は出土しなかった。

5-SB59(第 292 図)

1 間× 3 間の側柱建物である。G16 グリッド付近で検出した。桁行方位は N-79° -W を示す。規模は梁行 3.84 ～ 4.00m、桁行 6.88 ～ 6.96m、面積は 26.42㎡を測る。柱間寸法は、梁行で 3.84 ～ 4.00m、桁行で 2.00 ～ 2.64m を測る。柱穴は直径 0.22 ～ 0.30m、検出面からの深さは 0.8 ～ 0.24m である。

遺物は須恵器甕が出土した他、P7 を除くすべての柱穴から根石と思われる礫が出土した。

5-SB5001(第 292 図)

図上で復元した 2 間× 3 間の片庇付側柱建物である。G12 グリッドで検出した。桁行方位は N-90° -E を示す。身舎の規模は梁行 1.28m、桁行 2.56m、面積は 3.28㎡を測る。柱間寸法は、梁行で 1.28 ～ 1.36m、桁行で 0.80 ～ 0.96m を測る。柱穴は直径 0.18 ～ 0.34m、検出面からの深さは 0.12 ～ 0.48cm である。また、庇の柱穴直径は 0.20 ～ 0.34m、深さは 0.6 ～ 0.28cm を測る。

遺物は出土しなかった。

なお、同グリッドに竪穴状遺構 2-S1095 が検出されている。

5-SB5002(第 292 図)

図上で復元した 1 間× 2 間の側柱建物である。G13 グリッドで検出した。桁行方位は N-80° -W を示す。規模は梁行 2.08 ～ 2.40m、桁行 3.76m、面積は 7.82㎡を測る。柱間寸法は、桁行で 1.76 ～ 2.00m を測る。柱穴は直径は 0.27 ～ 0.58m、検出面からの深さは 0.16 ～ 0.60m である。

遺物は P39 から東播系須恵器片口鉢 (2978 ～ 2980)、瓦質土器鉢 (2981)、龍泉窯系青磁碗 (2982) が出土した。

2　竪穴状遺構 (第 277・281 図)

1-SX1(第 293 図)

一次調査区 I10 グリッドで検出した。長軸方位は N-0° -E を示す。規模は長軸 1.82m、短軸 1.74m とほぼ正方形の平面プランを呈する。検出面から 20 ～ 25cm の掘り込みを持つ。床面四隅（P2 ～ P5）および中央付近（P1）から検出された 5 基の柱穴は、直径 14 ～ 24cm、床面からの深さ 27 ～ 31cm の規模を持つ。また、東西方向の壁面際の床に壁帯溝状の浅い溝を持つ。遺物は出土しなかった。

2-S1095(第 293 図)

二次調査区 G12 グリッドで検出した。検出時、プランが不明確で埋土もさまざまな土が混じり合う状態であったため、近現代撹乱と判断して掘削を進めた。しかし、掘り進めるにつれて、プランが方形であることが判明し、壁際床面から柱穴が検出されたことから、最終的に竪穴状遺構と判断した。長軸方位は N-17° -E を示す。規模は長軸・短軸共に 2.08m を測り、ほぼ正方形の平面プランを呈する。検出面から 0.24 ～ 0.29m の掘り込みを持つ。壁際床面に検出された 6 基の柱穴 (2-S1096 ～ 2-S1101) は直径 18 ～ 40cm、床面からの深さ 11 ～ 36cm の規模を持つ。2-S1098 は遺構の壁面を切る。柱穴抜き取り痕の可能性がある。遺物は 2-S1095 から回転台土師器坏 (2983・2984)、須恵器壺、2-S1098 から瓦質土器が出土した。

3　石組遺構 (第 277 図)

1-SC37(第 294 図)

G11 グリッドで検出した。長軸方位は N-62° -W を示す。規模は、長軸 1.72m、短軸 1.12m、検

出面からの深さ 0.72m を測る。床・壁面に 20 ～ 30cm 大の楕円礫を用いた石組が施してある。石組は最下段の礫が一部床面の礫に重なることから、まず床面に扁平礫を敷き、ついで壁面の礫を積み上げていったことが伺える。掘り方の壁面には礫を配置するための抉りが施されている。また、礫除去後、床面から小穴 (P1) が検出された。遺物は回転台土師器坏 (2985) が出土した。なお、出土した炭化種実を放射性炭素年代測定にかけたところ、2 δの値で AD1150-1260(95.4%) が測定されている。

4　土坑・ピット

土坑については、床直出土等の遺物に乏しく、時期が明かになった遺構はない。ここでは、古代以降の遺物および炭素年代測定で古代以降の数値を示す炭化物が出土した土坑を報告する。

また、掘立柱建物跡等を構成しない、いわゆる小穴 (ピット) を全調査区内で多数検出した。これらの小穴に関しては、古代以降の遺物が出土したものを報告する。

一次調査区 (第 277 図)

1-SC6(第 294 図)

K5 グリッドで検出した。長軸方位は N-46° -E を示す。長軸 2.16m、短軸 0.69m の楕円形を呈する。検出面からの深さは 0.51m を測る。東播系須恵器が出土した。

1-SC28(第 294 図)

K9 グリッドで検出した。長軸方位は N-16° -E を示す。長軸 1.58m、短軸 0.75m の楕円形を呈する。床面中央よりやや北東よりの位置に小穴（P1）を検出している。検出面からの深さは、約 0.3m を測る。常滑系陶器が出土した。

1-SC49(第 294 図)

J8 グリッドで検出した。長軸方位は N-72° -E を示す。長軸 1.08m、短軸 0.92m の東西方向にやや長めの隅丸方形を呈する。遺物は出土しなかった。なお、出土した炭化種実を放射性炭素年代測定にかけたところ、2 δの値で AD1290-1400(95.4%) が測定されている。

1-SC88（第 294 図）

H12 グリッドで検出した。長軸方位は N-31° -E を示す長軸 1.32m、短軸 1.18m の不整形なプランを呈する。検出面からの深さは、0.13m を測る。床面からは小穴 (1-SH663) が 1 基検出されている。鉄滓 (3046)、粒状滓 (3047 写真のみ)、鍛造鉄片 (3048 写真のみ) が出土している。なお、3046 ～ 3048 は金属学的分析を試みているので、詳細は第Ⅴ章第 2 節を参照していただきたい。

1-SC92（第 294 図）

I12 グリッドで検出した。長軸方位は N-11° -E を示す。長軸 1.02m、短軸 0.54m のやや不整形な楕円形を呈する。検出面からの深さは、約 0.10m を測る。遺物は出土しなかった。なお、出土した炭化種実を放射性炭素年代測定にかけたところ、2 δの値で AD1220-1280(95.4%) が測定されている。

1-SC102（第 294 図）

J11 グリッドで検出した。長軸方位は N-90° -E を示す。長軸 1.40m、短軸 1.08m のやや不整形な隅丸方形を呈する。検出面からの深さは、約 0.12m を測る。遺物は出土しなかった。なお、出土した炭化種実を放射性炭素年代測定にかけたところ、2 δの値で AD890-930(18.6％)・AD940-1030(76.8％) が測定されている。

1-SC118（第 294 図）

J12 グリッドで検出した。長軸方位は N-30° -W を示す。長軸 1.46m、短軸 0.92m のやや不整形な楕円形を呈する。検出面からの深さは、約 0.21m を測る。遺物は出土しなかった。

二次調査区 (第 281 図)

2-S1023(ピット)

F12 グリッドで検出した。滑石製石鍋 (2986) が出土した。

2-S1065(ピット)

G12 グリッドで検出した。瓦質土器 (2987) が出

土した。

三次調査 C 区 (第 281 図)

5-S9(第 295 図)

E17 グリッドで検出した。平面プランは楕円形を呈す。長軸方位は N-41° -W を示す。規模は、長軸 1.52m、短軸 1.38m、検出面からの深さ 0.30m を測る。染付アサガオ形碗、クラワンカ碗、砥石 (3038) が出土した。

5-S13(第 295 図)

G17 グリッドで検出した。平面プランは隅丸長方形を呈す。長軸方位は 5S13A が N-82° -E、5-S13B が N-1° -E を示す。ほぼ同規模の 2 基の土坑が切り合う。まず南北方向に 5-S13B が掘られ、埋没後、東西方向に 5-S13A が掘られる。規模は、5-S13A が長軸 2.04m、短軸 1.80m、検出面からの深さ 0.76m、S13B が長軸 2.20m、短軸 1.44m、検出面からの深さは 5-S13A が 0.76cm、5-S13B が 0.80m と、ほぼ同じ程度の規模を測る。遺物は染付端反碗が出土した。

5-S20(第 295 図)

H16 グリッドで検出した。長軸方位は N-43° -W を示す。現代の畑地での検出のため、トレンチャー痕に一部切られる。規模は、長軸 2.64m、短軸 1.80m、検出面からの深さ 0.18m を測る。遺物は擂鉢が出土した。

5-S21(第 295 図)

I16 グリッド付近で検出した。長軸方位は N-47° -E を示す。規模は、長軸 1.38m、短軸 0.69m、検出面からの深さ 0.18m を測る。遺物は染付端反碗が出土した。

5-S69(第 295 図)

H21 グリッドで検出した。溝状遺構 5-S54 に切られる。長軸方位は N-79° -W を示す。規模は、長軸 2.04m、短軸 1.80m、検出面からの深さ 0.16m を測る。遺物は青磁が出土した。

5-P76(ピット)

G13 グリッドで検出した。遺物は瀬戸おろし皿 (2988) が出土した。

~~4~~ 5 波板状凹凸痕

二次調査区 (第 281 図)

2-SG22(第 295 図)

C18 グリッド付近、3 次 C 区から東西方向に延びる 2 条の溝状遺構 3-S2・S4 の合流点で検出された。底面に硬化面が認められる、検出面からの深さ 4 ～ 12cm のピットが 8 基 (2-S16 ～ 2-S24、2-S400) が一列に並び、南北方向に延びる。遺物は出土していない。

~~5~~ 6 溝状遺構

一次調査区 (第 277 図)

1-SE1(第 277 図)

I ～ M7 ～ 8 グリッドで検出した。幅約 1m・深さ約 30cm で東西方向に延び、1 次調査区西側崖下に向かう。遺物は回転台土師器埦底部 (2989) が出土した。

1-SE2・1-SE3・1-SE31・1-SE32・1-SE33(第 277 図)

K9 ～ K11・L3 ～ L4・L8 ～ L9・M3 ～ M8・N4 ～ N6 グリッドで検出した。調査時は 5 条の溝状遺構として認識していたが、一次調査区南端から北上する遺構群として報告する。

1-SE2・1-SE3 は L ～ M4 グリッド付近で検出した。幅約 0.5m・深さ約 5cm で東西に延びる。1-SE2・1-SE3 は連続しないが、規模・方向共に一致するため、同一遺構と判断した。

1-SE32・1-SE33 は J11 付近の前述した 1-SE7・1-SE8 から検出され、途中、L8・L9 グリッド付近で途切れながら、L3 グリッドまで南下し、一次調査区外に延びる。1-SE2・ 1 -SE3 とは約 6m の間隔を保ちながら、ほぼ平行に延びる。1-SE33 は、1-SE32 の約 1m 南側で検出されたが、これも 1-SE32 と平行して北西から南東へ延びる。

1-SE31 は、1-SE32 の東側で検出されたが、1-SE32 と 1.0 ～ 2.0m の間隔を保ちながら、一次調

査区南西端の崖際を南北方向に伸びる。

また、後述するが、1-SE5・1-SE20・5-S53・5-S54・4-S40・1 拡 -535・3-S141・3-S140・3-S139・3-S137・3-S138 が各調査区の西側崖の縁辺に延びる。

以上のことから、これらの溝状遺構は、尾花A遺跡の段丘上の縁辺及び崖下に降りるための道路としての機能を持っていたと推測される。

1-SE4・1-SE7・1-SE6・1-SE8・1-SE11・1-SA78(第 277 図・第 295 図)

H12 ～ J12、I11 ～ K11 グリッド付近で、1-SE4、1-SE7 を検出した。2 条の溝は北東から南西に向かって、1-SE7 が 1-SE4 を切りながら、一次調査区西側の崖下に向かって伸びる。埋土は、黒～黒褐色砂質土が主流で、ロームやアカホヤ粒がところどころに混じる。また、1-SE4・1-SE7 に沿う硬化面を伴う道路状遺構 1-SE6・1-SE8・1-SE11 が検出された。1-SE4・I10 グリッド付近の北西岸や 1-SE4 から枝分かれする 1-SA78 にも同様の硬化面が検出されている。これらの溝状遺構は、C 区・B 区西崖際を北上し、B 区から一次拡張区の間で途切れながら、A 区まで延びる。1-SE6・1-SE8 の硬化面下には、しまりに欠く粘質の強い埋土の堆積が見られ、降雨時等の流水の通過がうかがえる。遺物は、1-SE4 から回転台土師器高台付坏 (2990)、土師器甕 (2992 ～ 2994)、須恵器坏蓋 (2991)、須恵器甕 (2996)、須恵器提瓶 (2995)、東播系須恵器片口鉢 (2998)、瓦質土器羽釜 (2999)、陶磁器鉢 (3000)、龍泉窯系青磁 (3001)、須恵器甕 (2997)、管状土錘 (3002)、鉄釘 (3049・3052)、鏨もしくは鑿 (3050・3055)、鉄片 (3051)、刀子 (3053)、鉄鏃 (3054)、碗形滓 (3056)、鉄素材 (3057)、1-SE4・1-SE7 の切り合い不明確な地点で出土した鉄片 (3058)、1 -SE4 の一部である 1-SE12・1-SE13 から鞴羽口 (3005)、棒状鉄片 (3059)、鏨もしくは鑿 (3060)、1-SE7 から回転台土師器坏 (3007)、瓦質土器甕 (3010)、瓦質土器鉢 (3008)、瓦質土器羽釜 (3009)、管状土錘 (3011)、刀子 (3061)、碗形滓 (3062・3063) 等が出土した。また、1-SE6 から回転台土師器高台付坏 (3012) が、1-SE6 の一部である 1-SE10 から刀子 (3064)、鉄片 (3065) が、1-SE8 から回転台土師器坏蓋 (3013)、瓦質土器片口鉢 (3014)、東播系須恵器片口鉢 (3015)、刀子 (3066) が出土した。近世以降の遺物の出土は見られないことから、この溝は近世を待たず埋没したものと考えられる。

1-SE5(第 277 図)

J12 ～ 13 グリッド付近で検出した。1-SE4 から J12 グリッド付近で枝分かれし、北東方向に延びる。同様の溝状遺構は全調査区の西側縁辺部に見られる。遺物は、東播系須恵器片口鉢が出土している。

1-SE20(第 277 図)

K12 グリッド付近で検出した。1-SE4・1-SE7・1-SE6・1-SE8・1-SE11・1-SA78 と同様、一次調査区西側の崖下に向かって伸びる。遺物は出土しなかった。

一次調査拡張区 (第 278 図)

1 拡 -S535(第 278 図)

A33・B32・B31・C31・C32 グリッドで検出した。A33 グリッドから南西側に南下し、B31 グリッドで北西側に向きを変え、C32 グリッドで調査区外に延びる。遺物は出土しなかった。

三次調査 A 区 (第 279 図)

3-SE1・3-S111・3-S137・3-S138・3-S139・3-S140・3-S141(第 279 図)

三次 A 区西側崖際で検出した溝状遺構群である。この遺構群には、西側崖際の北東から南西に向かって延びる一群 (3-S137・3-S138・3-S139・3-S140・3-S141) と三次 A 区を東西に横切る 3-S111 がある。3-S111 は、3A-S138 とイ 37 グリッドで接する。また、3-S139 はウ 40 グリッド付近で 3-S138 と分離し、西側崖際に延びる。前述したとおり、調査区西側縁辺を通る道路的性格を持った溝状遺構であると推測される。

三次調査 B 区 (第 280 図)

4-S38・4-S39(第 280 図)

D24 ～ 26 グリッドで検出した。近世の陶磁器が出土している。明治期の地籍図に現れない近世以前

の溝であると思われる。

4-S1000 ～ 4-1002(第 280 図)

調査区を東西に延びる溝状遺構である。特に B ～ G20 ～ 22 グリッド付近で検出した 4-S1002 は明治期の地籍図に検出位置が一致する畑地の区画が見え、この区画は現代でも存続する。遺物は、4-S1001、D24 グリッドで砥石から転用された敲石 (3037) のほか、明治後期～大正期に比定される陶磁器等が出土した。

三次調査 C 区 (第 281 図)

5-S2(第 281 図)

D ～ J17 ～ 18 グリッド付近で検出した (第２図)。遺物は、土師器皿、陶磁器 (肥前系・備前系) が出土した。

その他、1-S3、1-S4 が検出されたが、遺物は出土していない。

⑥遺構外出土遺物

1 次調査撹乱出土遺物

1 次調査区 J ～ M4 ～ 7 グリッド付近で広範囲に広がる撹乱を確認した。出土した遺物の多くは、近世末～近現代であった。須恵器坏 (3017)、須恵器高台付坏 (3018)、須恵器蓋 (3019)、須恵器壺 (3020)、瀬戸美濃天目茶碗 (3021)、染付広東碗 (3022)、染付湯呑碗 (3023)、染付丸碗 (3024) が出土した。

グリッド出土遺物

グリッド単位で出土した遺物である。なお、弥生～古墳時代に比定される遺構からの出土や表面採集等の遺物もここに掲載する。

須恵器高台付坏 (3025・3026)、須恵器蓋 (3027)、龍泉窯系青磁碗 (3028)、白磁皿 (3029)、管状土錘 (3030・3031)、瓦質土器羽釜 (3032)、須恵器壺 (3033)、常滑甕 (3034・3035)、須恵器鉢 (3036) が出土した。

なお、写真のみの掲載であるが、刻印のある平瓦、第二次世界大戦前の軍杯が出土している。

石器・石製品

一次調査拡張区・二次調査区・三次 B 区・三次 C 区より石英・玉髄・チャート製の火打石 (2039 ～ 3045) が出土した。

第~~3~~4節　その他の遺構と遺物

第１・２節で取り上げた以外に、Ⅲ層上面では更に多くの遺構が検出されている。それらの遺構は第 277 ～ 281 図に示したとおりであるが、遺物を伴わず、時期的な位置付けは困難である。ただし、埋土は攪乱とは考えられず、そのほとんどが縄文時代前期から近世の遺構である可能性が高い。

以下では、出土地点が不明確な遺物や、『尾花 A 遺跡 I 』で報告した縄文時代の補遺について述べる。

尾花 A 遺跡出土一括遺物（第 299 図 3067・3068）

3067 は出土地不明の抉り入りの柱状片刃石斧である。一側面が剥離しており、厚みが 2cm 以下と薄い。

3068 は表土中から出土した鉄鏃で、完形の柳葉鏃である。

縄文時代補遺（第 299 図 3069 ～ 3073）

1-SC105 は一次調査区の北側、1-SA23 と 1-SA76 の間に位置する（第 4 図参照）。長軸約 70cm、短軸約 50cm、深さ 20cm 程の隅丸長方形を呈する土坑で、埋土中から内外面に粗い条痕調整が施された深鉢の胴部片（3069）が出土している。

1-SC318 は一次調査区の南西側、1-SA109 の北に位置し、1-SC314 に切られる。深さは不明だが、長径約 1m、短径約 80cm の楕円形プランと思われる。やや楕円形の自然礫の長軸側の両側縁を打ち欠いた石錘が 3 点（3070 ～ 3072）出土している。

4-S65 は 4-S16 と 4-S2531 の間に位置し、一辺約 80cm の方形プランで、深さ約 20cm を測る。底面付近から玉（6441）が 1 点出土している。

第 102 表　古代以降の遺構観察表 (掘立柱建物跡 1)

調査区	遺構番号	位置	形態	規模	梁行実長 (m)	梁行柱間 (m)	平均 (m)	桁行実長 (m)	桁行柱間 (m)	平均 (m)	面積 (㎡)	柱穴直径 (m)	柱穴深 (m)	方位	出土遺物	所見
1	1-SB1	K6	側柱建物	4 × ?	5	1.50 ～ 1.75	1.5	9.75 ～ 10.00	1.75	1.75	50.00	0.25 ～ 0.30	?	N-12° -E		放射性炭素年代（2δ）：AD770-900(95.4%)
1	1-SB2	I10	側柱建物・四面庇	2 × 3	2.28 ～ 3.52	1.44 ～ 1.84	1.70	6.00 ～ 6.24	1.84 ～ 2.24	2.04	21.12	0.19 ～ 0.31	0.28 ～ 0.76	N-89° -W		庇柱穴直径 0.19 ～ 0.52m、柱穴深 0.08 ～ 0.52m
1	1-SB3	K6	側柱建物	3? × ?	4.25	2.50?	?	?	?	?	?	0.50	?	N-12° -E		SB1 の建て替えか
1	1-SB4	I10	側柱建物	1 × 3	3.28 ～ 3.36	3.28 ～ 3.36	3.32	5.52 ～ 5.60	1.76 ～ 2.00	1.85	18.37	0.26 ～ 0.33	0.26 ～ 0.40	N- 8° -E		
1	1-SB5	I10	側柱建物	2 × 3	2.40 ～ 2.72	1.20 ～ 1.36	1.28	4.32 ～ 4.48	1.36 ～ 1.68	1.47	10.37	0.19 ～ 0.28	0.22 ～ 0.40	N-87° -E	須恵器（提瓶？）	
1	1-SB6	I9	側柱建物	3 × 6	4.00 ～ 4.24	1.20 ～ 1.60	1.37	8.08 ～ 8.24	0.96 ～ 1.60	1.48	32.32	0.18 ～ 0.62	0.4 ～ 0.76	N-89° -E	須恵器（甕）	
1	1-SB7	I11	側柱建物	2 × 3	2.96 ～ 2.96	1.28 ～ 1.68	1.48	4.96 ～ 4.96	1.60 ～ 1.68	1.65	14.68	0.21 ～ 0.28	0.12 ～ 0.40	N-90° -E		
1	1-SB8	H11	側柱建物	1 × 2	3.28 ～ 3.44	3.28 ～ 3.44	3.36	4.00 ～ 4.08	1.92 ～ 2.16	2.02	13.12	0.21 ～ 0.28	0.16 ～ 0.26	N-32° -E		
1	1-SB9	M6	側柱建物	4? × ?	4.50	2.25	2.25	8.50	2.00	2.00	38.25	0.50 ～ 0.75	?	N-17° -E		
1	1-SB10	G11	側柱建物	1 × 2?	1.76 ～ -	1.76 ～ -	1.76	(3.12) ～ -	1.52 ～ 1.60	1.55	(5.49)	0.24 ～ 0.26	0.10 ～ 0.44	N-76° -W		調査区外に延びる。
1	1-SB11	M5	側柱建物	2 × 4	3.44 ～ 3.60	1.60 ～ 2.00	1.76	3.84 ～ 4.08	0.72 ～ 1.28	0.96	13.21	0.30 ～ 0.47	0.12 ～ 0.48	N-17° -E		
1	1-SB12	M5	側柱建物	2 × 4	3.68 ～ 3.76	1.84 ～ 1.92	1.86	5.84 ～ 6.16	1.60 ～ 1.44	1.71	23.16	0.22 ～ 0.48	0.06 ～ 0.56	N-16° -E		
1	1-SB13	L4	側柱建物	2 × 3	3.12 ～ 3.52	1.44 ～ 1.92	1.66	4.16 ～ 4.80	1.28 ～ 1.60	1.49	12.98	0.20 ～ 0.73	0.24 ～ 0.52	N-78° -W	回転台土師器（皿）	
1	1-SB14	K5	総柱建物・片庇	2 × 2	2.64 ～ 2.88	1.36 ～ 1.68	1.52	2.80 ～ 3.36	1.36 ～ 1.68	1.38	7.39	0.25 ～ 0.60	0.08 ～ 0.42	N-10° -E		庇柱穴直径 0.30 ～ 0.48m、柱穴深 0.20 ～ 0.36m
1	1-SB1007	H11	側柱建物	2 × 3	2.88 ～ 3.04	1.36 ～ 1.60	1.48	4.48 ～ 4.56	1.28 ～ 2.00	1.51	12.90	0.24 ～ 0.48	0.20 ～ 0.40	N-73° -W	須恵器（甕）	
1 拡	1- 拡 SB6001	B30	側柱建物	1 × 3	2.64 ～ 2.96	2.64 ～ 2.96	2.80	3.20 ～ 3.44	0.96 ～ 1.20	1.11	9.08	0.17 ～ 0.46	-	N-62° -W		
1 拡	1- 拡 SB6002	ｱ 30	側柱建物	1 × 2	1.92 ～ 2.08	1.92 ～ 2.08	2.00	2.40 ～ 2.56	1.04 ～ 1.36	1.24	4.61	0.28 ～ 0.53	-	N-68° -E		
2	2-SB2001	F11	側柱建物	2? × 2	1.60 ～ -	0.72 ～ 0.88	0.80	(1.36) ～ (1.76)	0.80 ～ 0.96	0.88	-	0.28 ～ 0.34	0.22 ～ 0.38	N-6° -W		調査区外に延びる。
2	2-SB2002	ｲ 30	側柱建物	1 × 2	2.48 ～ 2.56	2.48 ～ 2.56	2.52	4.64 ～ 4.64	2.16 ～ 2.48	2.32	11.51	0.34 ～ 0.44	0.14 ～ 0.60	N-50° -W		
2	2-SB2003	ｳ 30	側柱建物	2 × 1	2.32 ～ 2.40	1.12 ～ 1.20	1.18	2.80 ～ 2.80	2.80 ～ 2.80	2.80	6.50	0.20 ～ 0.26	0.22 ～ 0.40	N-80° -E		
2	2-SB2004	Ⅰ 32	側柱建物	3 × 3	3.20 ～ -	0.88 ～ 1.20	1.04	(4.72) ～ (4.72)	1.44 ～ 1.84	1.62	(15.36)	0.16 ～ 0.34	0.06 ～ 0.72	N-12° -W		調査区外に延びる。
2	2-SB2005	Ⅰ 33	側柱建物	2 × 1	2.08 ～ 2.48	0.8 ～ 1.360	1.14	3.04 ～ 3.20	3.04 ～ 3.20	3.12	6.32	0.24 ～ 0.44	0.14 ～ 0.34	N-77° -E		
3B	4-SB119	C27	側柱建物	1 × 2	3.36 ～ 3.44	3.36 ～ 3.44	3.40	3.68 ～ 3.84	1.76 ～ 1.92	1.88	12.36	0.20 ～ 0.26	0.10 ～ 0.24	N-8° -W		
3B	4-SB120	D28	側柱建物	1 × 2	2.80 ～ 2.80	2.80 ～ 2.80	2.80	3.60 ～ 3.60	1.68 ～ 1.92	1.80	10.08	0.25 ～ 0.32	0.12 ～ 0.40	N-90° -E		
3B	4-SB223	E21	側柱建物	1 × 2	3.52 ～ 3.52	3.52 ～ 3.52	3.52	3.84 ～ 4.00	1.84 ～ 2.08	1.96	13.52	0.32 ～ 0.55	0.64 ～ 0.72	N-46° -W		
3B	4-SB224	E22	側柱建物	1 × 2	2.56 ～ 2.96	2.56 ～ 2.96	2.76	5.44 ～ 5.68	2.64 ～ 3.04	2.78	13.93	0.28 ～ 0.35	0.38 ～ 0.60	N-11° -W		
3B	4-SB227	E24	側柱建物	1 × 2	2.96 ～ 3.04	2.96 ～ 3.04	3.00	4.00 ～ 4.08	1.92 ～ 2.08	2.02	11.84	0.33 ～ 0.61	0.56 ～ 0.72	N-3° -W		
3B	4-SB4001	F22	側柱建物	1 × 2	1.68 ～ 1.92	1.68 ～ 1.92	1.80	2.56 ～ 3.04	1.20 ～ 1.60	1.40	4.30	0.30 ～ 0.40	-	N-66° -W		
3B	4-SB4002	D24	側柱建物	1 × 2	2.88 ～ -	2.88 ～ -	2.88	4.16 ～ -	1.92 ～ 2.16	2.03	11.98	0.25 ～ 0.35	-	N-12° -W		
3C	5-SB45	F17	側柱建物	1 × 3	3.76 ～ 3.84	3.76 ～ 3.84	3.80	5.76 ～ 6.00	1.68 ～ 1.92	1.96	21.66	0.20 ～ 0.30	0.12 ～ 0.32	N-87° -W		

第 103 表　古代以降の遺構観察表 (掘立柱建物跡 2)

調査区	遺構番号	位置	形態	規模	梁行実長 (m)	梁行柱間 (m)	平均 (m)	桁行実長 (m)	桁行柱間 (m)	平均 (m)	面積 (㎡)	柱穴直径 (m)	柱穴深 (m)	方位	出土遺物	所見
3C	5-SB46	E17	側柱建物	1 × 3	3.12 ～ 3.36	3.12 ～ 3.36	3.24	5.36 ～ 5.36	1.68 ～ 1.92	1.79	16.72	0.13 ～ 0.28	0.04 ～ 0.20	N-2° -E		
3C	5-SB59	G16	側柱建物	1 × 3	3.84 ～ 4.00	3.84 ～ 4.00	3.92	6.88 ～ 6.96	2.00 ～ 2.64	2.31	26.42	0.22 ～ 0.30	0.08 ～ 0.24	N-79° -W	須恵器（甕）	
3C	5-SB5001	G12	側柱建物・片庇	2 × 3	1.28 ～ -	1.28 ～ 1.36	0.66	2.56 ～ -	0.80 ～ 0.96	0.98	3.28	0.18 ～ 0.34	0.12 ～ 0.48	N-90° -E		庇柱穴直径 0.20 ～ 0.34m、柱穴深 0.06 ～ 0.28m
3C	5-SB5002	G13	側柱建物	1 × 2	2.08	2.08	2.24	3.76 ～ 3.84	1.76 ～ 2.00	1.88	7.82	0.27 ～ 0.58	0.16 ～ 0.60	N-80° -W	東播系須恵器（片口鉢）、瓦質土器 (鉢)、龍泉窯系青磁 (碗）	

第 104 表　古代以降の遺構観察表 (竪穴状遺構)

調査区	遺構番号	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	柱穴				方位	遺物	備考
						柱穴数 (本)	長軸 (m)	短軸 (m)	柱穴深 (m)			
1	1-SX1	I10	1.82	1.74	0.20 ～ 0.25	5	0.14 ～ 0.26	0.14 ～ 0.24	0.27 ～ 0.31	N-90° -E		放射性炭素年代 (2 δ):AD660-780(93.5 %) AD790-810(30.7%)
2	1-S1095	G12	2.08	2.08	0.24 ～ 0.29	6	0.18 ～ 0.40	0.12 ～ 0.36	0.11 ～ 0.36	N-10° -E	回転台土師器、須恵器、土師器	

第 105 表　古代以降の遺構観察表 (石組遺構)

調査区	遺構番号	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	遺物	備考
1	1-SC37	G11	1.72	1.12	0.72	N-62° -W	回転台土師器坏	放射性炭素年代 (2 δ):AD1150-1260(95.4%)

第 106 表　古代以降の遺構観察表 (土坑)

調査区	遺構番号	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	方位	遺物	備考
1	1-SC37	G11	1.72	1.12	0.72	N-62° -W	回転台土師器坏	放射性炭素年代 (2 δ):AD1150-1260(95.4%)
1	1-SC6	K5	2.16	0.69	0.51	N-46° -E	東播系須恵器	
1	1-SC28	K9	1.58	0.75	0.30	N-16° -E	常滑系陶器	
1	1-SC49	J8	1.08	0.92	0.10	N-72° -E		放射性炭素年代 (2 δ):AD1290-1400(95.4%)
1	1-SC88	H12	1.32	1.18	0.13	N-31° -E		放射性炭素年代 (2 δ):AD1220-1285(95.4%)
1	1-SC92	I12	1.02	0.54	0.10	N-11° -E		放射性炭素年代 (2 δ):AD1220-1280(95.4%)
1	1-SC102	J11	1.40	1.08	0.12	N-90° -E		放射性炭素年代 (2 δ):AD890-930(18.6 %)、AD940-1030(76.8%)
1	1-SC118	J12	1.46	0.92	0.21	N-30° -W		
3C	5-S9	E17	1.52	1.38	0.30	N-41° -W	染付アサガオ形碗、クラワンカ碗	
3C	5-S13A	G17	2.36	1.56	0.76	N-82° -E	染付端反碗	
3C	5-S13B	G17	2.20	1.44	0.80	N-1° -E		
3C	5-S20	H16	2.64	1.80	0.18	N-43° -W	擂鉢	
3C	5-S21	I16	1.38	0.96	0.21	N-47° -E	染付端反碗	
3C	5-S69	H21	2.04	1.80	0.16	N-79° -W	青磁	

第 107 表　古代以降の遺構観察表 (2-S2022: 波板状凹凸痕)

調査区	遺構番号	位置	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	備考
2	2-S16	C18	0.56	0.36	0.04	
2	2-S17	C18	0.58	0.54	0.12	
2	2-S18	C18	0.48	0.43	0.04	
2	2-S19	C18	0.45	0.25	0.06	
2	2-S20	C18	0.46	0.28	0.06	
2	2-S21	C18	0.50	0.40	0.04	
2	2-S22	C18	0.54	0.46	?	
2	2-S23	C18	0.35	0.34	0.04	
2	2-S24	C18	0.40	0.34	0.04	
2	2-S400	D18	0.38	0.32	0.06	

第 108 表　古代以降の遺構観察表 (溝状遺構)

調査区	遺構番号	グリッド	幅 (m)	深さ (m)	遺物	備考
1	1-SE1	IJ7、K7、L7、M7、M8	1.0	0.3	回転台土師器	
1	1-SE2・1-SE3	L4,M4	0.5	0.05		途中で途切れるが、方位的に同一。
1	1-SE4	I12、J11、J12、K11	3.0		土師器、回転台土師器、須恵器、東播系須恵器、陶器 (備前)、青磁（龍泉窯)	西側縁辺に硬化面検出。SA84 は SE4 の一部。
1	1-SE5	J12、J13	1.0		東播系須恵器	3C-S53、S54 に向かうか。
1	1-SE6・1-SE8	I11、I12、J11、J12、K11	2.5		回転台土師器、東播系須恵器、瓦質土器、青磁（龍泉窯）、	SE7 を切る。硬化面検出。SE8 上面と連続した道路。
1	1-SE7	H12、I12	3.5		土師器、回転台土師器、須恵器、東播系須恵器、瓦質土器、青磁（龍泉窯）	埋土の中央付近に 1-SE6、SE ８の硬化面を検出。
1	1-SE9	-	-		回転台土師器	SE7 の一部。
1	1-SE10	-	-		青磁（龍泉窯）	SE6 の一部。
1	1-SE11	-	-		青磁（龍泉窯）	硬化面検出。SE8 の一部。
1	1-SE12	-	-		土師器、土錘	SE4 の一部。
1	1-SE13	-	-		回転台土師器、須恵器、東播系須恵器、陶器（備前）	SE4 の一部。
1	1-SE14	-	-			SE7 の一部。
1	1-SE15	-	-			SE7 の一部。
1	1-SE16	-	-		須恵器	SE7 の一部。
1	1-SE17	-	-			SE7 の一部。
1	1-SE18	-	-			SE7 の一部。
1	1-SE19	-	-			SE7 の一部。
1	1-SE20	K11、K12、K13	1.5			3C-S53、S54 に向かうか。
1	1-SE31	M4、M5、M6、M7	1.0			1-SE32 と並行する。
1	1-SE32	K9、K10、K11、L3、M3、M4、M5、M6、M7、N4、N5、N6、	0.7	0.06		西側崖上に延びる道路か。
1	1-SE33	L3、M3、M4	0.5			1-SE32 に並行する。
1 拡	1 拡 -S535	A33、B31、B32、B33、C31、C32	1.5			B31 グリッドで直角に西方に向きを変え、崖下に延びる。
3A	3-SE1	ｵ45、ｵ46	0.5			3A-S137、S138 と同様の溝か。
3A	3-S111	ｱ37、ｲ37、ｳ36、ｳ37、Ｉ36、ｵ36	1.0			東西に延びる。3B-S1000 ～ S1002 と同様、畑等の区画か。
3A	3-S137	ｳ38、ｳ39、ｳ40、Ｉ40、Ｉ41	0.5			西側崖上に延びる道路か。
3A	3-S138	ｲ37、ｲ38、ｳ38、ｳ39、ｳ40、ｳ41、Ｉ40、Ｉ41	1.0			西側崖上に延びる道路か。
3A	3-S139	ｲ38、ｲ39、ｳ39、ｳ40	1.2			3A-S137、S138 から分岐する。崖下に下りる道路か。
3A	3-S140	ｲ37、ｲ38	1.0			3A-S139 と同様。
3A	3-S141	ｱ35、ｱ36、ｲ36、ｲ37	2.0			西側崖上に延びる道路か。
3B	4-S31	B28、B29、C28、D28	0.7			コの字を描く。
3B	4-S37	D25	0.5			3B-S38 と並行する。畑等の区画か。
3B	4-S38	D24、D25、D26	0.5			畑等の区画か。
3B	4-S39	E24、E25、E26	0.7			畑等の区画か。
3B	4-S76	E26	0.7			3B-S39 と並行する。
3B	4-S1000	ｱ27、A27、B27、B28、C28、D28、E28	1.0			近代溝。明治期の地籍図に一致。
3B	4-S1001	A22、B22、B23、C23、C24、D23、D24、E24、F24	0.7			近代溝。
3B	4-S1002	A19、A20、B20、C20、C21、D21、E21、E22、F22、G22	0.5			近代溝。明治期の地籍図に一致。
3C	5-S1	E14、F14、G13、G14、H12、H13	0.5			1-SE4、SE6、SE7、SE8 から続くか。
3C	5-S2	C17、D17、E17、F17、F18、G17、G18、H18、I18、J18	1.0		土師器、陶器 (常滑)、陶磁器（近世～近代）	道路か。2-SG2002 に関連。
3C	5-S3	D17、D18、E18、F18	0.7			道路か。2-SG2002 に関連。
3C	5-S4 (4-S1010)	C18、D17、D18、D19、D20、E20、E21、E22、F22、F23、G23	0.7		瓦（近代）	道路か。2-SG2002 に関連。
3C	5-S53	H20、H21、H22、I18、I19、I20	1.5			1-SE5、1SE20、3B-S40 に続くか。
3C	5-S54	G21、G22、H18、H19、H20、H21、	1.0			1-SE5、1SE20、3B-S40 に続くか。

第 109 表　古代以降の土器・土製品観察表 (1)

掲載番号	種別	器種	部位	調査区	Gr.	遺構番号	遺構種別	法量 (cm)	焼成	胎土	外面調整	内面調整	観察所見
2978	東播系須恵器	片口鉢	口 - 胴	3C	G13	5-SB5002 -P39	掘立柱建物跡構成柱穴	口 (26.3)	堅緻	微細～ 4mm の灰白・淡黄・黒色の粒を含む。	回転ナデ、ナデ	回転ナデ	
2979	東播系須恵器	片口鉢	底	3C	G13	5-SB5002 -P39	掘立柱建物跡構成柱穴	底 (9.7)	堅緻	微細～ 5mm の灰白・淡黄・黒褐色の粒を含む。	回転ナデ、静止糸切り底、黒色付着物 (底)	ナデ（部分的に風化）	
2980	東播系須恵器	片口鉢	完形	3C	G13	5-SB5002-P39+I17d	掘立柱建物跡構成柱穴	口 (25.0) 底 (9.0) 高 (10.8)	良好	4mm 以下の灰色、淡黄色の粒を少量含む。	回転ナデ、静止糸切り底、自然釉	回転ナデ	13 ～ 14 世紀
2981	瓦質土器	鉢	口 - 底	3C	G13	5-SB5002 -P39	ピット	口 (25.7) 底 (10.4) 高 (11.8)	良好	3mm 以下の灰色、白色の粒を多く含む。	横ナデ、工具ナデ→ナデ	横ナデ、斜・横ハケ目 (一部ナデ)	13 ～ 14 世紀
2982	青磁 (龍泉窯)	碗	口	3C	G13	5-SB5002 -P39	掘立柱建物跡構成柱穴	口 (15.6)	堅緻	精良	鎬蓮弁文、施釉	施釉	13 ～ 14 世紀 Ⅰ -5b
2983	回転台土師器	坏	胴 - 底	2	G12	2-S1095	竪穴状遺構	底 (6.0)	良好	精良	回転ナデ、糸切り底	回転ナデ	13 ～ 14 世紀
2984	回転台土師器	坏	口 - 底	2	A30	2-S1095	ピット	口 (11.8) 底 (6.0) 高 (4.0)	良好	精良	回転ナデ、ヘラ切り底、板状圧痕	回転ナデ	内面に黒斑 中世前期
2985	回転台土師器	皿 or 坏	底	1	G11	1-SC37	土坑	底 (5.6)	良好	1mm 以下の橙・褐色粒、微細な光沢粒を少し含む。	回転ナデ、ヘラ切り→板状圧痕・ナデ、黒色付着物 (底)	回転ナデ	
2986	石鍋	ー	口 - 体	2	G12	2-S1023	ピット	口 (16.2)	-	-	ケズリ	-	Ⅲ類
2987	瓦器	不明	胴 - 底	2	G12	2-S1065	ピット	底 (7.6)	良好	微細で褐・白色の粒、微細でキラキラ光る鉱物粒を含む。	回転ナデ、糸切り底	回転ナデ	13 ～ 14 世紀
2988	陶磁器 (瀬戸)	おろし皿	底	3C	G13	5-P76	ピット	底 (10.8)	堅緻	精良	回転ナデ、一部施釉、糸切り、露胎（底）	施釉	13 世紀 釉調：オリーブ黄 (5Y6/3)
2989	回転台土師器	埦	底 (高台付)	1	K5 付近	1-SE1-J7	溝状遺構	底 (8.2)	良好	1mm 以下の黒色粒、微細な光沢粒を少し含む。	ナデ	ナデ	高台に粘土のつなぎ目
2990	回転台土師器	高台付坏	口 - 底	1	I10 付近	1-SE4a +1-SE4b	溝状遺構	口 (13.6)	良好	5mm 以下の灰・赤茶・黒色粒を含む。	回転ナデ？、ヘラ切り→回転ナデ？（風化著しい）	回転ナデ？	高台欠落
2991	須恵器	蓋	つまみ - 天井	1	I10 付近	1-SE4-3	溝状遺構	つまみ (2.65)	堅緻	2mm 以下の白色粒を少し含む。	回転ナデ、ヘラケズリ→ナデ、ヘラケズリ、連続的に工具にあたった痕跡	回転ナデ→ナデ	8 世紀後半
2992	土師器	甕	口 - 胴	1	I10 付近	1-SE4-7+ 1-SE4-8+ 1-SE4a+ 1-SE4+ 1-SE7-SC1	溝状遺構 + 土坑	口 24.2 高 21.6	良好	7mm 以下の灰・橙・褐色粒を多く含む。	ハケ目	ナデ、ケズリ	風化著しい。
2993	土師器	甕	口 - 胴	1	I10 付近	1-SE4-9+ 1-SE7-SC1	溝状遺構 + 土坑	口 (23.0)	良好	5mm 以下のにぶい橙色粒を多く、2mm 以の灰・黒色粒を少し含む。	指ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ケズリ	内面ケズリ、砂粒の動きがみられる。
2994	土師器	甕	口 - 胴	1	I10 付近	1-SE4+ 1-SE4a+ 1-SE4b	溝状遺構	口 (22.8) 高 (22.3)	良好	5mm 以下の赤茶・黒・灰・白色粒を含む。	ナデ、指ナデ、工具ナデ	工具ナデ、ケズリ	内面ケズリ、砂粒の動きがみられる。
2995	須恵器	提瓶	口	1	I10 付近	1-SE4 ｻﾌﾞ +1-SE13	溝状遺構	口 (6.8)	堅緻	精良	回転ナデ	自然釉、不明	
2996	須恵器	甕	口 - 胴	1	I10 付近	1-SE4	溝状遺構	口 (10.8)	堅緻	精良	ナデ、回転ナデ、格子目ﾀﾀｷ	回転ナデ、当て具痕	8 ～ 9 世紀前半
2997	須恵器	甕	胴 - 底	1	J10 付近	1-SE4+ 1-SE4-(4 +5+10+11 +13)+ 1-SE4 サブ	溝状遺構	高 (38.9)	良好	2mm 以下の灰白色粒を含む。1mm 以下の透明光沢粒を少し含む。	平行ﾀﾀｷ、一部擬格子状	同心円当て具痕→工具ナデ、平行当て具痕？	

第 110 表　古代以降の土器・土製品観察表 (2)

掲載番号	種別	器種	部位	調査区	Gr.	遺構番号	遺構種別	法量 (cm)	焼成	胎土	外面調整	内面調整	観察所見
2998	東播系須恵器	捏鉢	口	1	I10 付近	1-SE4 ｻﾌﾞ＋J12 II +I11	溝状遺構+Gr.	口 (25.4)	堅緻	精良、3mm 以下の灰黄色の粒が少量混じる。	回転ナデ	回転ナデ	
2999	瓦質土器	羽釜	口	1	I10 付近	1-SE4b	溝状遺構	口 (22.0)	良好	3mm 以下の灰・乳白色の粒、2mm 以下の透明に光る粒がわずかに混じる。	横ナデ、ナデ	横ナデ	13 ～ 14 世紀
3000	陶磁器	鉢	口	1	K12	1-SE4 ｻﾌﾞ+K12	溝状遺構/Gr.	口 (15.6)	良好	精良	回転ナデ、自然釉	自然釉？	
3001	青磁(龍泉窯)	碗	口 - 体	1	I12/L8/J11/J8	1-SE4 ｻﾌﾞ+1-SE8 +I12 II +L8 +J11 1-SC94-J8	溝状遺構・土坑	口 (15.3)	良好	精良	鎬蓮弁文、施釉	施釉	13 ～ 14 世紀
3002	土錘	-	-	1	I10 付近	1-SE12	溝状遺構	-	良好	1mm 以下の橙・褐色粒、微細な透明光沢粒を含む。	-	-	最大長 3.8cm、最大幅 1.0cm、重量 3.1g
3003	鞴羽口					1-SE4	溝状遺構						
3004	鞴羽口					1-SE4	溝状遺構						
3005	鞴羽口					1-SE12	溝状遺構						
3006	鞴羽口			1		1-SE4+1-SE12	溝状遺構						
3007	回転台土師器	坏	底	1	I10 付近	1-SE7	溝状遺構	底 (5.8)	良好	3mm 以下の薄茶・赤茶色・微細な白色光沢粒を含む	回転ナデ、ヘラ切り→ナデ	回転ナデ？(風化)	
3008	瓦質土器	鉢	胴 - 底	1	I10 付近	1-SE7	溝状遺構	底 12.2)	良好	2mm 以下の明褐色粒、1mm 以下の白色粒、微細な光沢粒を少し含む。	ナデ、工具ナデ	ナデ	13 ～ 14 世紀 内面黒斑
3009	瓦質土器	羽釜	口 - 胴	1	I10 付近	1-SE7b	溝状遺構	口 (22.4)	良好	1mm 以下の灰・乳白色の粒。	横ナデ、ナデ	ナデ	13 ～ 14 世紀
3010	瓦質土器	甕	口	1	I10 付近	1-SE7	溝状遺構	口 (24.5)	良好	8mm 以下の灰・褐色粒、2mm 以下の光る透明な粒を含む。	ナデ？、タタキ	ハケメ、ナデ？	13 ～ 14 世紀 口縁端部に面
3011	土錘	-	-	1	I10 付近	1-SE7	溝状遺構	-	良好	1mm 以下の褐・乳白色粒、微細な透明・黒色光沢粒含む。	-	-	最大長 5.0cm、最大幅 1.0cm、重量 4.6g
3012	回転台土師器	高台付坏	底	1	I10 付近	1-SE6	溝状遺構	底 (8.6)	良好	2mm 以下の赤茶・茶色の粒。	回転ナデ、放射状調整痕（底）	ナデ？（風化著しい）	
3013	回転台土師器	蓋？	蓋	1	I10 付近	1-SE4 ｻﾌﾞ+1-SE8	溝状遺構	つまみ (3.7)	良好	3mm 以下の白色粒、無色透明粒を含む。	ミガキ	ミガキ？	
3014	瓦質土器	捏鉢	口 - 底	1	I10 付近	1-SE8	溝状遺構	口 (18.3)	良好	3mm 以下の灰・乳白色の粒、0.5mm 以下の透明に光る粒がわずかに混じる。	ナデ、ハケナデ、風化大	ハケ目	13 ～ 14 世紀
3015	東播系須恵器	捏鉢	口 - 体	1	I10 付近	1-SE8+1-SE4 ｻﾌﾞ	溝状遺構	口 (30.2)	堅緻	精良、5mm 以下の灰・白色の粒が少量混じる。	回転ナデ（一部風化）、自然釉	回転ナデ（風化気味）	体部外面に重ね焼きの痕跡。
3016	須恵器	蓋	天井 - かえり	1	I10 付近	1-SE4 ｻﾌﾞ+1-SE8	溝状遺構	かえり (10.3)、受 (12.6)	堅緻	1mm 以下の黒、乳白色粒を少し含む。	ヘラケズリ、回転ナデ	回転ナデ	7 世紀前半
3017	須恵器	坏	口 - 体	1	L6	L6 ｶｸﾗﾝ	攪乱	口 (15.2)	堅緻	精良	ナデ、回転ナデ、ヘラケズリ	回転ナデ	9 世紀後半
3018	須恵器	高台付坏	底	1	K5	K5 ｶｸﾗﾝ	攪乱	底 (7.8)	堅緻	精良	回転ナデ、ヘラケズリ→ナデ	回転ナデ、自然釉	8 世紀中頃 貼付高台
3019	須恵器	蓋	天井 - 口	1	L4	L4 ｶｸﾗﾝ・M4	攪乱・Gr.	口 (12.7)	堅緻	精良	ヘラケズリ、ヘラケズリ→ナデ、回転ナデ	回転ナデ	8 世紀後半
3020	須恵器	壷	口	1	K7	K7 ｶｸﾗﾝ	攪乱	口 (7.8)	堅緻	精良	回転ナデ	回転ナデ、風化気味	9C 後半
3021	陶磁器 (瀬戸か美濃)	天目茶碗	底	1	K7	K7 ｶｸﾗﾝ	攪乱	底 (4.9)	堅緻	精良	施釉、回転ナデ、露胎（底）	施釉	16 世紀

第 111 表　古代以降の土器・土製品観察表 (3)

掲載番号	種別	器種	部位	調査区	Gr.	遺構番号	遺構種別	法量 (cm)	焼成	胎土	外面調整	内面調整	観察所見
3022	磁器（肥前）	染付広東碗	胴 - 底	1	I9	Ⅰ 9 ｶｸﾗﾝ	攪乱	底 (5.8)-	堅緻	精良	格子目文、施釉	施釉	1780 ～ 1840 年代
3023	磁器（肥前）	湯呑碗	胴 - 底	1	K6	K6 ｶｸﾗﾝ	攪乱	底 (2.5)	堅緻	精良	文様、施釉	施釉	1820 ～ 1860 年代
3024	磁器（肥前）	染付丸碗	胴 - 底	1	L7	L7 ｶｸﾗﾝ	攪乱	-	堅緻	精良	丸文、施釉	施釉	18 世紀後半～ 19 世紀
3025	須恵器	高台付坏	底	1	M7	M7b Ⅲ	Gr.	底 (10.4)	堅緻	精良	回転ヘラケズリ、回転ナデ、ヘラ切り→ナデ	回転ナデ、ナデ	8 世紀後半 貼付高台
3026	須恵器	高台付坏	底	1	M7	M7b	Gr.	底 (8.0)	堅緻	精良	回転ナデ、ナデ、ヘラ切り→ナデ、自然釉	回転ナデ、ナデ	8 世紀中頃 貼付高台
3027	須恵器	蓋	天井 - 口	1	M5	M5b・K5 Ⅱ	Gr.	口 (19.8)	堅緻	精良	回転ナデ	断続的なヘラケズリ、ナデ、放射状の調整あり	8 世紀後半
3028	青磁 (龍泉窯)	碗	口 - 体	1	H12/J7/K12	H12/J7b Ⅵ a+K12	Gr.	口 (15.7)	良好	精良	鎬蓮弁文、施釉	施釉	14 世紀 2 類
3029	白磁	皿	底	2	ｳ 30	2-S3003	周溝状遺構	底 (6.2)	堅緻	精良	施釉	施釉	13 世紀後半～ 14 世紀前半 Ⅸ類口剥の皿
3030	土錘	-	-	1	H12	H12b Ⅴ b	Gr.	-	良好	精良	-	-	最大長 5.05cm 最大幅 1.35cm 重量 8.2g
3031	土錘	-	-	3C	H21	H21d	Gr.	-	良好	微細な赤褐色の粒を少量含む。	-	-	最大長 3.8cm 最大幅 1.8cm 重量 7.2g
3032	瓦器	羽釜	口	3C	F17	5-S39	竪穴建物跡	-	良好	1mm 以下の灰色、微細で白色の粒を含む。	ナデ	ナデ	13 ～ 14 世紀
3033	須恵器	壷	胴 - 底	1	L8	L8 Ⅱ	Gr.	-	堅緻	精良	回転ナデ、ナデ、自然釉	回転ナデ、自然釉	9 世紀
3034	陶磁器 (常滑系)	甕	口	2	-	2-S3	欠番	-	堅緻	2mm 以下の白色粒、微細でキラキラ光る鉱物粒を含む。	指頭痕、自然釉	指頭痕、自然釉	13 ～ 14 世紀
3035	陶磁器 (常滑系)	甕	頸	2	-	表採	表採	-	堅緻	精良	ナデ	自然釉	13 ～ 14 世紀

第 112 表　古代以降の石器・石製品計測表

掲載番号	器種	調査区	位置	遺構番号	層	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	観察所見
3037	敲石	3B	D24	S1001		砂岩	19.9	5.6	4.6	815.2	上下端部、正面、右側面、裏面に敲打痕。正面および裏面の平坦面は手触り滑らかで部分的に光沢を帯び、砥石の転用が推察される。
3038	砥石	3C	E17	S9		層灰岩	4.8	4.7	1.1	37.2	やや茶色味を帯びた白い石材。欠損大きいが原形は方形の砥石と推察される。表裏面とも滑らかな器面。
3039	火打石	1 拡	-	一括		石英	1.8	1.4	1.6	2.5	透光性の有る乳白色。潰れや器面に鉄銹が付着。
3040	火打石	2	ｲ 31	一括	Ⅲ	チャート	1.9	1.4	1.5	2.8	透光性の有る灰白色。潰れに微量に鉄銹が付着。
3041	火打石	3B	C26	一括		石英	1.9	1.1	1.0	1.8	乳白色で透光性は無い。潰れや器面に鉄銹が付着。
3042	火打石	3B	E26	一括		チャート	2.3	1.6	1.5	4.6	黒い縞の入る灰白色。潰れに微量に鉄銹が付着。
3043	火打石	3B	E27	一括		玉髄	1.9	1.6	1.5	4.0	クラックの入る石質。乳白色で透光性あり。潰れや器面に鉄銹が付着。
3044	火打石	3B	E27	一括		石英	1.7	1.6	1.1	3.0	玉随質に近い乳白色の石英。潰れは顕著でないが器面に鉄銹付着。
3045	火打石	3C	F19	一括		玉髄	3.0	1.9	2.3	11.6	黒い縞の走る乳白色。透光性は低い。潰れに鉄銹が付着。

第 113 表　古代以降の金属器計測表

掲載番号	器種	調査区	遺構番号	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	遺物の所見
3046	鉄滓	1	1-SC88	7.1	4.4	2.6	121.7	椀形滓。
3047	粒状滓	1	1-SC88	-	-	-	0.5	-
3048	鍛造鉄片	1	1-SC88	-	-	-	3.9	-
3049	鉄釘	1	1-SE4	4.7	1.9	0.5	8.2	針部は頭部に向かうにつれて幅広になってゆき、L 字状に折れ曲がって頭部を形成しているが非常に薄い。針部の断面は方形である。
3050	鏨か鑿	1	1-SE4	(1.7)	1.4	0.7	3.1	刃部のみの残存であり、厚みがある。両刃状を呈する。
3051	鉄片	1	1-SE4	5.9	2.2	0.3	13.9	長三角形を呈し、側面から見るとS字状に屈曲している。
3052	鑿状鉄器	1	1-SE4	4.3	0.7	0.3	2.3	非常に細身であり、鉄鏃の茎部のような形状を呈するが、先端に片刃状の刃部を有する。
3053	刀子	1	1-SE4	(2.4)	1.2	0.3	2.6	両端で身部幅が異なっている。
3054	鉄鏃	1	1-SE4	(3.6)	(2.4)	0.2	5.7	無茎凹基三角形鏃である。鋒部が若干欠損している。抉り部分は台形を呈し、逆刺部は先端を切断したような形状である。鏃身側面全体に刃部を施す。
3055	鏨か鑿	1	1-SE4	7.4	1.2	1.3	31.7	非常に太く、断面は台形を呈する。刃部は両刃状であり、軸部に比して若干幅広となっている。また、刃部が斜めに磨り減っており、垂直方向の力が正確に作用していなかったものと思われる。
3056	鉄滓	1	1-SE4	8.7	7.0	5.1	400.9	椀形滓。
3057	鉄素材	1	1-SE4	7.3	4.1	2.0	212.6	
3058	鉄片	1	1-SE4/7	2.7	0.6	0.2	1.0	細長い板状で薄く、一端が屈曲している。
3059	棒状鉄器	1	1-SE12	(3.8)	0.4	0.4	2.5	一端は断面方形であるのに対し、もう一端は断面円形に近く、また若干細い。穿孔具か。
3060	鏨か鑿	1	1-SE13	4.8	1.0	0.7	10.9	刃部が欠損しており詳細は不明だが、その形状や重厚さから他器種の茎部や基部とは考え難い。刃部に向かって緩やかに開く。
3061	刀子	1	1-SE7	7.0	1.4	0.3	8.6	斜め関である。鋒部は直線的に裁断されている。茎部は短く、巻き込むように屈曲している。刃部は中央部が抉れるような形状を呈するが、観察する限り磨り減った痕跡ではなく、打撃による凹みであると思われる。
3062	鉄滓	1	1-SE7	9.3	9.2	3.6	386.3	椀形滓。
3063	鉄滓	1	1-SE7	5.3	3.4	1.9	25.7	椀形滓。
3064	刀子	1	1-SE10	4.8	1.0	0.3	4.5	斜め関である。鋒は直線的に裁断されている。茎部は長く、捩れるように屈曲している。
3065	鉄片	1	1-SE10	3.9	0.7	0.3	2.8	板状の鉄板を 90 度捩ったような形状を呈する。
3066	刀子	1	1-SE8	(8.2)	2.2	0.4	13.9	撫で肩関であり、刀身の半分以上が欠損している。

第 114 表　その他の土器観察表

No	出土地点	器種	部位	法量（cm）				手法 / 調整 / 文様等		色調		胎土	焼成	備考
				口径	底径	器高	胴径	外面	内面	外面	内面			
3069	1-　SC105	深鉢	胴					条痕	条痕	浅黄橙　7.5 YR　8 / 6	灰白　10 YR　8 / 2	6mm以下の白・灰・にぶい褐・にぶい黄色粒、10mm 以下の高師小僧を含む	良好	

第 115 表　その他の石器計測表

No.	出土位置				器種	石材	法量				縮尺	観察所見
	調査区	Gr.	遺構番号	No.			最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)		
5901	表採				柱状片刃石斧	ホルンフェルス	16.5	1.7	3.7	178.7	1/3	抉りを有する厚手柱状の片刃石斧。およそ 1/2 程度が石の目に沿って縦方向に一直線に欠損している。断面は台形状。
6441	4	B25	S65	1	玉	含クロム白雲母岩	0.6	0.8	0.6	0.3	1/1	光沢のある緑色。管を斜めに断ち切ったような形状。管玉等の欠損品を再研磨した可能性あり。
5903	1	M5	SC318	2	石錘	砂岩	6.8	7.2	1.8	127.5	1/3	長軸の両端を打ち欠く。打ち欠きのエッジは潰れる。
5906	1	M5	SC318	10	石錘	ホルンフェルス	9.2	10.0	2.3	307.0	1/3	長軸の両端を打ち欠く。
5918	1	M5	SC318	2	石錘	砂岩	4.3	6.2	1.6	65.9	1/3	長軸の両端を打ち欠く。

第 116 表　その他の金属器計測表

番号	出土地	出土状況	遺構種別	器種	型式・形状等	残存状況	法量（cm・g）				遺物の所見
							最大長	最大幅	最大厚	重量	
2946	4-　S　157	床付近	竪穴建物跡	鉄鏃	柳葉鏃	茎部欠損	(5.6)	2.4	0.4	12.7	最大幅より上位に刃部

第~~Ⅳ~~Ⅴ章　自然科学分析

第１節　炭化物等に関する分析

本遺跡では、平成 18 年度に 4 回、平成 19 年度に 2 回、計 6 回にわたって自然科学分析委託を行い、樹種同定・種実同定・植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析・放射性炭素年代測定を実施した。

今回、植物珪酸体分析を除いて、分析ごとに 6 回分の結果を表に集約した。その際、共通して以下の点に留意しながら整理した。① 6 回にわたって委託を行ったため試料番号が重複しているものもあるが、今後の試料閲覧等で紛らわしくなるため、番号の振り替えは行わない。但し、何回目の委託の試料番号か分かるようにした。②試料については、便宜上、調査区ごとの区分とした。但し、第 4 表については､遺跡北側の遺構から順次記載した。　(結城)

1　樹種同定

①同定方法と対象試料の内訳

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手掛かりとなる。

今回の対象試料は、弥生時代中期～古墳時代前期の竪穴住居跡・土坑・溝から採取した炭化材、合計 204 点である。また、このうち 61 点については遺構の時期決定等の参考とするため本章第 5 節で示す通り放射性炭素年代測定を実施した。

同定方法は、試料を割折して新鮮な横断面 (木口と同義)、放射断面 (柾目)、接線断面 (板目) の基本三断面の切片を作製し、落射顕微鏡により 50 ～ 1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

結果については、第 117 ～ 120 表に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す (第 1 図～第 9 図)。同定根拠となった特徴は以下の通りである。

(古環境研究所・結城)

②同定結果とその根拠

クリ *Castanea crenata Sieb. et Zucc.* **ブナ科**は、横断面：年輪のはじめに大型の道管が数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。**スダジイ** *Castanopsis sieboldii Hatusima* **ブナ科**は、横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。**ツブラジイ** *Castanopsis cuspidata Schottky* **ブナ科**は、横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。放射組織は単列のものと集合放射組織が存在する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなり同性放射組織型である。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと集合放射組織が存在する。**マテバシイ** *Lithocarpus edulis Nakai* **ブナ科**は、横断面：中型からやや大型の道管が 1 ～数列幅で放射方向に配列する放射孔材である。放射組織は単列のものと集合放射組織が見られる。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと集合放射組織が存在する。**コナラ属クヌギ節** *Quercus sect. Aegilops* **ブナ科**は、横断面：年輪のはじめに大型の道管が 1 ～数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が単独でおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。**コナラ属コナラ節** *Quercus sect. Prinus* **ブナ科**は、横断面：年輪のはじめに大型の道管が 1 ～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が、火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。**コナラ属アカガシ亜属** *Quercus*

subgen. Cyclobalanopsis **ブナ科**は、横断面：中型から大型の道管が１～数列幅で年輪界に関係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。**シイ属** *Castanopsis* **ブナ科**は、横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型のものが存在する。**サカキ** *Cleyera japonica Thunb.* **ツバキ科**は、横断面：小型の道管が単独ないし２個複合して密に散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く 40 を越える。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で単列である。**ヤブツバキ** *Camellia japonica L.* **ツバキ科**は、横断面：小型でやや角張った道管が単独ないし２～３個複合して散在する散孔材である。道管の径はゆるやかに減少する。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は８～ 30 本ぐらいである。放射組織は平伏細胞と直立細胞からなる異性で、直立細胞には、大きく膨れているものが存在する。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅である。直立細胞には大きく膨れているものが存在する。**サクラ属** *Prunus* **バラ科**は、横断面：小型で丸い道管が単独あるいは２～３個放射方向および斜め方向に複合して散在する散孔材である。道管の径は早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性に近い異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅である。**ナシ亜科** *Subfam. Maloideae* **バラ科**は、横断面：小型の道管が単独あるいは数個不規則に複合して散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅である。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。**イボタノキ属** *Ligustrums* **モクセイ科**は、横断面：年輪のはじめに、その他の部分よりやや大きい道管が疎に配列する傾向を示し、他の部分においては小型の丸い道管が単独あるいは不規則な方向に複合して散在する、環孔材的な性質を持つ散孔材である。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～２細胞幅である。**トネリコ属** *Fraxinus* **モクセイ科**は、横断面：年輪のはじめに大型で厚壁の丸い道管が、ほぼ単独で１～３列配列する環孔材である。孔圏部外では小型でまるい厚壁の道管が単独あるいは放射方向に２～３個複合して散在する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。軸方向柔細胞は早材部で周囲状、晩材部では翼状から連合翼状である。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。内部にはチロ - シスが著しい。放射組織は同性である。接線断面：放射組織は同性放射組織型で１～３細胞幅である。**シャシャンボ** *Vaccinium bracteatum Thunb.* **ツツジ科**は、横断面：小型で角張った道管が単独ないし２～３個複合して散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は比較的少なく 10 本前後のものが多いが、まれに単穿孔も認められる。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で、直立細胞からなる単列のものと６～８細胞幅ぐらいで長い紡錘形を示す多列のものからなる。多列のものはほとんどが平伏細胞からなるが、上下縁辺部と側面部に直立細胞が見られる。**イスノキ** *Distylium racemosum Sieb. et Zucc.* **マンサク科**は、横断面：小型でやや角張った道管がほぼ単独に散在する散孔材である。軸方向柔細胞が接線方向に向かって黒い線状に並んで見られ、ほぼ一定の間隔で規則的に配列する。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は比較的少なく 15 前後のものが多い。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で、ほとんどが１～２細胞幅である。**シキミ** *Illicium religiosum Sieb. et Zucc.* **モクレン科**は、横断面：小型で角張った道管がほぼ単独で密に分布する散孔材である。早材部の年輪界付近に於いて道管が少し並ぶ傾向を示す。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は多く 50 を越える。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる。道管の内壁にはらせん肥厚が存在す

る。接線断面：放射組織は異性放射組織型、１～３細胞幅で単列部が太い。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。**ヤマモモ** *Myrica rubra Sieb. et Zucc.* **ヤマモモ科**は、横断面：小型で角張った道管が単独ないし２～３個複合して散在する散孔材である。軸方向柔細胞が接線状に配列する。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は比較的少なく３～10 本前後である。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～４細胞幅である。上下縁辺の１～３細胞ぐらいが直立細胞である。**ハンノキ属ハンノキ節** *Alnus sect. Gymnothyrsus* **カバノキ科**は、横断面：小型で丸い道管が放射方向に連なる傾向をみせて散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で階段の数は 20 ～ 30 本ぐらいである。放射組織は同性で、すべて平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で単列のものと大型の集合状のものからなる。**アワブキ属** *Meliosma* **アワブキ科**は、横断面：小型の道管が、単独ないしその複合部に１～２個の柔細胞をはさんで、放射方向にむかって２～４個複合して散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は少なく 10 本前後である。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は、異性放射組織型で１～４細胞幅である。**ウルシ属** *Rhus* **ウルシ科**は、横断面：年輪のはじめに大型の道管が単独あるいは２～３個複合して配列する環孔材である。晩材部で小道管が単独あるいは主に放射方向に２～３個複合して散在する。早材から晩材にかけて道管の径は徐々に減少していく。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で､放射組織は異性である。接線断面:放射組織は異性放射組織型で、１～３細胞幅ぐらいである。**エゴノキ属** *Styrax* **エゴノキ**科は、横断面：年輪のはじめにやや小型で丸い道管がおもに２～４個放射方向に複合して散在し、晩材部ではごく小型で角張った道管が単独あるいは数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の径は早材部から晩材部にかけてゆるやかに減少する。軸方向柔細胞が晩材部において接線状に配列する。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は 10 本前後である。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅である。**カキノキ属** *Diospyros* **カキノキ科**は、横断面：中型から大型の道管が単独および２～４個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の壁は厚い。軸方向柔細胞は周囲状および接線状に配列する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～２細胞幅である。いずれの放射組織も高さがほぼ同じで、層階状に配列する傾向を示す。**ハイノキ属** *Symplocos* **ハイノキ科**は、横断面：小型で角張った道管が単独あるいは２～４個不規則に複合して散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は 20 ～ 50 本ぐらいである。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～４細胞幅である。道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。**マタタビ属** *Actinidia* **マタタビ科**は、横断面：年輪のはじめに大型で丸い道管が単独で１～３列配列する環孔材である。孔圏部外の道管はほぼ単独で、早材から晩材にかけて道管の径はやや急に減少する。軸方向柔細胞は早材部で周囲状、晩材部では翼状から連合翼状である。年輪幅は不斉で年輪界が波打つ傾向を示す。放射断面：道管の穿孔は単穿孔および階段穿孔で、放射組織は異性である。接線断面：放射組織は異性放射組織型であり１～５細胞幅で単列翼部が長い。**ユズリハ属** *Daphniphyllum* **ユズリハ科**は、横断面：小型で角張った道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔で、階段の数は 20 ～ 50 本である。放射組織は平伏細胞、方形細胞、直立細胞からなる。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～２細胞幅である。**クスノキ科** *Lauraceae* は、横断面：中型から小型の道管が単独および２～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。放射断面：道管の穿孔は単穿孔のものが存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞で上下の縁辺部のみ直立細胞からなる。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅である。上下の縁辺部のみ直立細胞である。**散孔材** *diffuse-porous wood* は、横断面：小型で角張った道管が、ほぼ単独で密に散在する散孔材である。放射断面：道管の穿孔は階段穿孔板からなる多孔穿孔である。接線断面：放射組織は異性放射組織型で１～３細胞幅である。以上の形質より、ヒサカキ属、ユ

ズリハ属などの樹種に類似するが、本試料は不明瞭な点が多く広範囲の観察が困難であることから、散孔材の同定にとどめた。

クリ、コナラ属クヌギ節、コナラ属コナラ節、サクラ属、イボタノキ属、トリネコ属、シャシャンボ、ヤマモモ、ハンノキ属ハンノキ節、アワブキ属、エゴノキ属、カキノキ属、ハイノキ属、マタタビ属、ユズリハ属は、温帯ないし温帯下部の暖温帯に分布する広葉樹である。スダジイ、ツブラジイ、マテバシイ、コナラ属アカガシ亜属、シイ属、ナシ亜科、イスノキ、ウルシ属は、温帯下部の暖温帯に分布する照葉樹林の主要高木であり、クスノキ科についても、照葉樹林の主要構成要素が含まれる。サカキ、ヤブツバキ、シキミについても、照葉樹林の構成要素が含まれる。いずれも当時の遺跡周辺もしくは近隣の地域で採取可能な樹種であったと考えられる。(文献①群)　　(古環境研究所)

③ 同定結果の評価

以上の分析より、採取した試料は散孔材の同定にとどめたものを除けばすべてが広葉樹であった。種別ごとに分類すると、コナラ属クヌギ節 23 点、アワブキ属 22 点、マテバシイ 21 点、コナラ属アカガシ亜属 20 点、クリ 19 点、スダジイ 16 点、シイ属 13 点、シキミ 12 点、ツブラジイ・エゴノキ属・クスノキ科各 7 点、シャシャンボ 6 点、カキノキ属 5 点、サカキ・ハイノキ属各 4 点、コナラ属コナラ節・イスノキ各 3 点、ユズリハ属 2 点、ヤブツバキ・サクラ属・ナシ亜科・イボタノキ属・トリネコ属・ヤマモモ・ハンノキ属ハンノキ節・ウルシ属・マタタビ属・散孔材が各 1 点であり、多様な樹種が見られる。ほとんどが常緑の中高木になり、比較的大きな木材が取れる樹種である。科別で見ると試料総数 204 点のうちブナ科が 122 点 (60%) と他を圧倒している。竪穴住居の建築材として使用された樹種やその傾向を明らかにするために、同一遺構から 5 点以上の試料を抽出したものについて、樹種別に比較したものを以下に示す。なおブナ科については、試料総数に占める割合が高いことから、各住居跡の分析末尾に別途明記する。

1) 一次調査区

SA34(試料 5 点) は、ツブラジイ 2 点 (40%)、クリ 1 点 (20%)、コナラ属クヌギ節が 1 点 (20%)、コナラ属アカガシ亜属 1 点 (20%) で 5 点 (100%) すべてがブナ科であった。

SA64(試料 6 点) は、シキミ 3 点 (50%)、コナラ属アカガシ亜属 1 点 (17%)、イスノキ 1 点 (17%)、カキノキ属 1 点 (17%) で 1 点 (17%) がブナ科であった。

2) 一次調査拡張区

S22(試料 6 点) は、シキミ 2 点 (33%)、コナラ属アカガシ亜属 2 点 (33%)、クリ 1 点 (17%)、ナシ亜科 1 点 (17%) で 3 点 (50%) がブナ科であった。

S609(試料 7 点) は、スダジイ 4 点 (57%)、コナラ属アカガシ亜属 3 点 (43%) で 7 点 (100%) すべてがブナ科であった。

S1016(試料 6 点) は、サカキ 2 点 (33%)、コナラ属アカガシ亜属 2 点 (33%)、シャシャンボ 1 点 (17%)、散孔材 1 点 (17%) で 2 点 (33%) がブナ科であった。

3) 三次調査 A 区

S107(試料 34 点) は、マテバシイ 18 点 (53%)、スダジイ 8 点 (25%)、コナラ属クヌギ節 4 点 (12%)、アワブキ属 4 点 (12%) で 30 点 (88%) がブナ科であった。

S102(試料 8 点) は、シイ属 2 点 (25%)、ハイノキ属 2 点 (25%)、シャシャンボ 1 点 (13%)、トネリコ属 1 点 (13%)、クスノキ科 1 点 (13%) で 2 点 (25%) がブナ科であった。

S110(試料 9 点) は、スダジイ 2 点 (22%)、コナラ属コナラ節 2 点 (22%)、シイ属 2 点 (22%)、コナラ属クヌギ節 1 点 (11%)、エゴノキ属 1 点 (11%)、ユズリハ属 1 点 (11%) で 7 点 (78%) がブナ科であった。

S112(試料 9 点) は、アワブキ属 4 点 (44%)、シキミ 1 点 (11%)、サクラ属 1 点 (11%)、エゴノキ属 1 点 (11%)、ハイノキ属 1 点 (11%)、クスノキ科 1 点 (11%) でブナ科は 0 点であった。

S116(試料 5 点) は、シキミ 2 点 (40%)、マテバシイ 1 点 (20%)、シャシャンボ 1 点 (20%)、エゴノキ属 1 点 (20%) で 1 点 (20%) がブナ科であった。

S117(試料 6 点) は、コナラ属クヌギ節 2 点 (33%)、シイ属 2 点 (33%)、アワブキ属 2 点 (33%) で 4 点 (67%) がブナ科であった。

S127(試料 14 点) は、コナラ属クヌギ節 10 点 (71%)、シイ属 2 点 (14%)、コナラ属アカガシ亜属

１点 (７％)、アワブキ属１点 (７％) で 13 点 (93%) がブナ科であった。

4) 三次調査Ｂ区

S150(試料７点) は、アワブキ属２点 (29%)、シャシャンボ１点 (14%)、エゴノキ属１点 (14%)、ハイノキ属１点 (14%)、クスノキ科１点 (14%) で１点 (14%) がブナ科であった。

S164(試料６点) は、クリ２点 (33%)、コナラ属アカガシ亜属２点 (33%)、ツブラジイ１点 (17%)、シキミ？１点 (17%) で５点 (83%) がブナ科であった。

5) 三次調査Ｃ区

S24(試料７点) は、シイ属２点 (29%)、アワブキ属２点 (29%)、ツブラジイ１点 (14%)、ヤマモモ１点 (14%)、クスノキ科１点 (14%) で３点 (43%) がブナ科であった。

S41(試料５点) は、全試料がクリで 100%ブナ科であった。

以上の結果から、採取試料数の差はあるものの、同一遺構に多様な科の樹種が混在していることがわかる。但し、抽出遺構 16 軒の総試料数 140 点に対してブナ科は 89 点（64%）で試料全体に占める割合は高い。また、一次調査区の SA34 や一次拡張区の S609、三次調査Ｃ区の S41 のように 100%がブナ科に占められる遺構や三次調査Ａ区 S112 のように全くブナ科の含まれていない遺構もあり、遺構による樹種の偏りも見られた。 (結城)

文献①群

島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司 (1985) 木材の構造 . 文永堂出版 ,290p.

島地 謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧 . 雄山閣 ,296p.

山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成 . 植生史研究特別１号 . 植生史研究会 ,242p.

２　種実同定

① フローテーションの実施

本遺跡では、弥生時代中期から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡から出土した土器内包土及び火処と思われる土坑や上屋の焼失に伴う焼土など、炭化種実が回収される可能性が高い土壌試料を全調査区から 414 点採取し、フローテーションを実施した。

試料の**乾燥**は、内寸 54 × 34 × 10㎝コンテナ内で実施した。コンテナの表書きは簡潔にしておき、詳細は別に台帳化して管理した。乾燥に要する期間は土質・土量・天候等によって変動する。砂質が強い、あるいは砂利等をよく含む資料は乾燥が早く、粘質土は相対的に遅い。本遺跡の場合は粘質が強い試料が多く、ある程度乾いた段階で軽くほぐした。414 試料の乾燥重量は 887.97Kg である。

水洗は、発掘現場と宮崎県埋蔵文化財センター本館で実施した。大量の排水・排土が出るため、発掘現場においては、調査区内に設置した素掘りの溝に排水したり、本センターでの作業においては、排水溝の泥土を頻繁に取り除き作業間隔を設けたりする等の対策を講じた。また、試料の流出や飛散をさけるため、実施時期は雨天時並びに強風時を避けた。水洗は、まずフローテーション装置に水を貯め、あふれはじめたら試料を玉杓子で掬い少しずつ水中に投入する。溶けきれなかった試料については、水中で潰さずに軽くほぐすようにした。フローテーションは浮遊物の回収が本来の目的である。しかし、実際の回収では、浮遊物について最小 0.45mm から最大２mm 四方のフルイの組み合わせで集め、遺物の細片等を含め沈んだものについては、装置本体の１mm 四方のフルイで行った。一つの試料の水洗が終了したら、コンタミネーション (注１) 防止のため、フルイ・水槽等に残った汚れを必ずきれいに洗浄した。水洗後、回収した試料を十分に乾燥させ、後の選別が容易になるようフルイ単位で別紙箱に保管し、順次、一次選別・二次選別を進めた。

注１ コンタミネーションとは、「本来混入すべきでないものが混入した場合の実験汚染」の語義で、ここでは「本来その遺構に混入すべきでない種子が混入した場合の汚染」を意味している。

一次選別とは、試料を炭化物とそれ以外に選別する作業である。選別は肉眼か拡大率２倍のスタンドルーペを用いて行い、作業は出山･日髙･結城･大野･髙橋と整理作業員が交代で進めた。炭化物については、スチロール角型ケースに収納し、それ以外については、土器片や剥片等の遺物細片と砂利や現代のものと見られる未炭化の草木の根等、自然混入物に再選別し、前者は資料としてスチロール角型ケースやチャック付ポリ袋に収納し、後者は廃棄した。

二次選別とは、一次選別で選り分けた炭化物から必要な資料を取り出す作業で、本遺跡では種実試料の抽出に重きを置いた。作業は、出山・日髙・結城が実体顕微鏡 (Nikon SMZ-2T) 下で進めた。選別の結果、1 試料につき、①炭化種実と思われる試料、②木片炭化材等が大多数を占める試料に分類した。

(結城)

②同定方法と対象試料の内訳

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物や遺構内に残存している場合がある。堆積物などから種実を検出し、その種類や構成を調べることで、過去の植生や栽培植物を明らかにすることができる。

分析試料は、遺構床面や埋土、土器内包土から水選選別により採取・分別された 295 試料である。試料の詳細を第 121 ～ 127 表に示す。また、このうち 41 点については遺構の時期決定等の参考にするため、本章第 4 節で示す通り放射性炭素年代測定を実施した。

同定方法は、試料を肉眼および双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。 (古環境研究所・結城)

③同定結果とその根拠

同定の結果、樹木 9 、草本 25 の計 34 分類群が同定された。学名、和名および粒数を第 2 表に示し、主要な分類群を写真に示す (第 10 図～第 12 図)。以下に同定根拠となる形態的特徴を記載する。

〔樹木〕

モモ *Prunus persica Batsch* **核 (破片) バラ科**は、黒褐色で楕円形を呈し、側面に縫合線が発達する。表面にはモモ特有の隆起がある。**バラ科** *Rosaceae* **核 (破片)** は、バラ科ではあると思われるが、破片のため科レベルの同定にとどめた。**コナラ属クヌギ節** *Quercus sect. Aegilops* **子葉 (破片) ブナ科**は、黒褐色で表面には縦線条が密に並ぶ。**コナラ属** *Quercus* **子葉 (完形・半形・破片) ブナ科**は、黒褐色で楕円形を呈し、表面は平滑である。この分類群は炭化しており、表面模様等欠落しているため、属レベルの同定までである。**イヌザンショウ** *Zanthoxylum schinifolium Sieb. et Zucc.* **種子 ミカン科**は、種子は黒褐色で楕円状球形を呈す。側面に長く深いへそがある。表面にやや大きな網目模様がある。**サンショウ属** *Zanthozylum* **種子 (破片) ミカン科**は、黒色で楕円形を呈し、側面にへそがある。表面には網目模様がある。破片のため属レベルの同定にとどめた。**アカメガシワ** *Mallotus japonicus Muell. et Arg.* **種子 トウダイグサ科**は、黒色で球形を呈し、「Y」字状のへそがある。表面にはいぼ状の突起が密に分布する。**ブドウ属** Vitis **種子 ブドウ科**は、黒褐色で卵形を呈し、先端がとがる。腹面には二つの孔があり、背面には先端が楕円形のへそがある。**チシャノキ** *Ehretia ovalifolia Hassk.* **核 ムラサキ科**は、黒褐色で半球形を呈す。表面を 1 本の溝がめぐり、腹面の下端にへそがあり、背面の表面にはしわが網目状にある。

〔草本〕

アワ *Setaria italica Beauv.* **果実 イネ科**は、黒色で楕円形を呈す。胚の部分がくぼむ。**イネ** Oryza sativa L. **果実 (完形・破片) イネ科**は、黒色である。長楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。表面には数本の筋が走る。**オオムギ** *Hordeum vulgare L.* **果実 イネ科**は、黒色で、楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく、胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。**オヒシバ** *Eleusine indica Gaertn.* **種子 イネ科**は、黒色で楕円形を呈す。表面には波状の模様がある。**コムギ** *Triticum aestivum. L.* **果実 (破片) イネ科**は、黒色で、楕円形を呈する。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。比較的四角い形を呈し、短い。**ヒエ** *Echinochloa utilis Vigna* **果実 イネ科**は、黒色で類楕円形を呈し、胚の部分がくぼむ。**ムギ類** *Hordeum – Triticum* **果実 (破片) イネ科**は、胚は確認できるが、破片のため形態が観察できないため類レベルの同定にとどめた。**キビ属** *Panicum* **果実 イネ科**は、黒色で類円形を呈し、胚の部分がくぼむ。**イネ科** *Gramineae* **穎・果実**は、穎は灰褐色～茶褐色で楕円形を呈す。腹面はやや平ら。背面は丸い。表面は滑らかである。果実は黒褐色で円形を呈す。胚の部分はとれていてくぼんでいる。**エゴマ** *Perilla frutescens var. japonica Hara* **果実 シソ科**は、黒褐色で球形を呈し、下端はわずかに突出する。表面に大きい網目模様がある。**キランソウ属** *Ajuga* **果実 シソ科**は、卵形や狭卵形で側

面は横狭卵形。着点は広卵形や広楕円形、腹面の一端（卵の細い方）から中央までを占め、幅広い隆条状の縁で囲まれる。大型の網目模様がある。**シソ科** *Lamiaceae* 果**実**は、倒卵状３稜形を呈し、先端は切形で扇形。着点は扇形で斜切形である。**イシミカワ** *Polygonum perfoliatum L.* **果実（完形・破片）　タデ科**は、黒色で、やや光沢がある。円形を呈し、一端にへそ部がある。断面は円形に近い三角形である。**タデ属サナエタデ節** *Polygonum sect. Persicaria* **果実　タデ科**は、黒褐色で頂端が尖る広卵形を呈す。表面は滑らかで光沢があり、断面は扁平で中央がややくぼむ。**タデ属** *Polygonum* **果実　タデ科**は、黒褐色で先端がとがる卵形を呈す。表面にはやや光沢があり、断面は三角形である。**ササゲ属** *Vigna* **子葉（完形・半形）　マメ科**は、黒色で楕円形を呈す。へそは縦に細長い。**ササゲ属**にはリョクトウ、アズキ、ササゲなどの栽培植物が含まれるが、現状の研究では識別は困難である。**ハギ属** *Lespedeza* **子葉　マメ科**は、灰黄緑色で横卵形や横楕円形を呈す。へそは狭楕円形や狭卵形で、その縁は高い。へその位置は腹面の中心からややずれる。表面には灰黒色斑がある。**アカザ属** *Chenopodium* **種子（完形・破片）　アカザ科**は、黒色で光沢がある。円形を呈し、片面の中央から周縁まで浅い溝が走る。**マメグンバイナズナ属－グンバイナズナ属** *Lepidium - Thlaspi* **種子　アブラナ科**は、黒色で楕円形を呈し、下端にへそがある。表面には長方形の網目がある。**オトギリソウ属** *Hypericum* **種子　オトギリソウ科**は、暗褐色で円柱状長楕円形を呈す。表面に不明瞭な網目模様が発達。**カヤツリグサ科** *Cyperaseae* **果実**は、黒褐色で倒卵形を呈し、断面は扁平である。**コキンバイザサ** *Hypoxis aurea Lour.* **種子（完形・破片）　キンバイザサ科**は、暗灰褐色で広楕円体を呈し、粗面。基部の片側に下方へ曲がる突起があり、へそはその先端部にある。**ナス科** *Solanaceae* **種子**は、黒褐色で円形を呈す。表面にはやや大きい網目模様がある。**ナデシコ科** *Caryophyllaceae* **種子**は、黒色で円形を呈し、側面にへそがある。表面全体に突起がある。炭化していないものも認められた。**ヒユ属** *Amaranthus* **種子　ヒユ科**は、黒色で光沢がある。円形を呈し、一ヶ所が切れ込みへソがある。断面は両凸レンズ形である。

〔その他〕

種実の可能性を考え分析した結果、種実の同定まで至らなかったもの、種実以外であったものについては、以下のように分類する。**不明種実**は種実の形態をしているが、炭化し表面模様が観察できないものである。**不明炭化物**は炭化の度合いが著しい破片で、表面模様が観察できず種実かは不明なものである。**炭化物**は種実ではない炭化しているものである。**炭化材片**は木材の構造をもち、木片が炭化した破片である。**炭化物片**は種実や木材ではない炭化した破片である。（文献②群）　　（古環境研究所）

④同定結果の評価

同定結果をもとに、各調査区ごとの種実群集をまとめたものを以下に示す。

1）一次調査区（第２表：試料 No.64 ～ 168)（注２）

注２：但し、No.93,115,121 は一次拡張区の試料であるため除く。また、No66,79,105 については、一次選別段階で炭化した物質が全くなかったため欠番とした。

コナラ属２、イヌザンショウ１、アカメガシワ２、チシャノキ１、イネ３、アワ２、ヒエ１、オオムギ３、ムギ類１、カヤツリグサ科２、コキンバイザサ 30、タデ属２、ヒユ属７、ササゲ属２、オトギリソウ属１、マメグンバイナズナ属 - グンバイナズナ属１、キランソウ属１、不明種実１、不明炭化物４が同定された。

2）一次調査拡張区（第２表：試料№ 1 ～ 63,93,115,121)

コナラ属 42、バラ科１、イネ３、アワ１、カヤツリグサ科２、コキンバイザサ 43、タデ属サナエタデ節３、タデ属２、アカザ属 58、ナス科１、不明種実 13、不明炭化物６が同定された。

3）二次調査区（第２表：試料№ 169 ～№ 193)

アワ５、ヒエ３、キビ属２、オヒシバ４、イネ科６、カヤツリグサ科 22、コキンバイザサ４、タデ属サナエタデ節２、タデ属３、アカザ属１、ヒユ属 23、ナデシコ科１、ハギ属１、キランソウ属２、シソ科７、不明種実３が同定された。

4）三次調査 A 区（第２表：試料№ 194 ～№ 218)

ブドウ属２、イネ 19、オヒシバ７、アワ４、カヤツリグサ科３、コキンバイザサ３、タデ属３、ナデシコ科 11、ササゲ属２、不明炭化物２が同定された。

5）三次調査 B 区（第２表：試料№ 219 ～№ 284)

コナラ属クヌギ節 11、コナラ属７、モモ３、イ

ネ 54、アワ１、ヒエ１、コムギ１、ムギ類１、カヤツリグサ科２、コキンバイザサ１、イシミカワ８、タデ属サナエタデ節１、タデ属 22、ササゲ属２、不明種実１、不明炭化物６が同定された。

6) 三次調査 C 区 (第 2 表 : 試料№ 285 ～№ 298)

コナラ属 43、サンショウ属１、イネ２、コキンバイザサ 22、タデ属１、エゴマ１、不明炭化物片１が同定された。

同定の結果、食用となる栽培植物では、イネ、アワ、ヒエ、キビ属、オオムギ、コムギ、ササゲ属、エゴマ、モモが認められた。また、食用となる有用植物としては、コナラ属、コナラ属クヌギ節、ブドウ属が認められた。検出個数が最も多いのはコキンバイザサで、アカザ属、ヒユ属、カヤツリグサ科も比較的多い。これらの植物については、当時の周囲の植生が反映されていると考えられるが、炭化していることから、何らかの形で利用されていた可能性も考えられる。その他の分類群では、樹木のアカメガシワ、チシャノキ、イヌザンショウ、サンショウ属、樹木と草本を含むバラ科、ハギ属、草本のオヒシバ、イネ科、イシミカワ、タデ属サナエタデ節、タデ属、ヒユ属、ナデシコ科、オトギリソウ属、マメグンバイナズナ属 - グンバイナズナ属、キランソウ属、ナス科、シソ科などが認められた。いずれも、人里植物および人為地の縁辺などに生育する植物であり、当時の周囲の植生が反映されていると考えられる。 (古環境研究所・結城)

文献②群

笠原安夫 (1985) 日本雑草図説 , 養賢堂 ,494p.

笠原安夫 (1988) 作物および田畑雑草種類 . 弥生文化の研究第 2 巻生業 , 雄山閣出版 ,p.131 － 139.

金原正明 (1996) 古代モモの形態と品種 . 月刊考古学ジャーナル No.409, ニューサイエンス社，p.15 － 19.

南木睦彦 (1993) 葉・果実・種子．日本第四紀学会編 , 第四紀試料分析法 , 東京大学出版会 ,p.276-283.

吉崎昌一 (1992) 古代雑穀の検出 . 月刊考古学ジャーナル No.355, ニューサイエンス社 ,p. 2 － 14.

3　植物珪酸体分析

①分析方法と対象試料の内訳

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸 (SiO_2) が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石 (プラント・オパール) となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている。

分析試料は、三次調査 A 区の S102 竪穴住居跡から採取された藁状炭化物 (Cb、Cd) および S109 竪穴住居跡から採取された藁状炭化物 (C1 ①～④) の計 6 点と、三次調査 C 区の S24-No.9(屋根材) および S24-No.12(垂木片？) から採取された 2 点の藁状炭化物の合計 8 点である。

藁状炭化物を電気炉灰化法 (550℃・ 6 時間) によって灰化し、オイキットで封入してプレパラートを作成した。検鏡は偏光顕微鏡を用いて 100 ～ 400 倍の倍率で行った。なお、灰化物の内部を調べるために、灰像組織の一部を破壊して観察を行った。 (古環境研究所)

②分析結果とその根拠

まず、両調査区の灰像を観察した結果、各試料とも写真 (第 13 図・第 14 図) に示すような特徴的な細胞組織が認められた。

三次調査 A 区の S109-C ②、三次調査 C 区の S24-No.12 では、メダケ節型の機動細胞珪酸体が組織として観察されたが、イネ科植物の葉や茎部などに存在する短細胞珪酸体は組織としては認められなかった。また各試料ともメダケ節型やネザサ節型の植物珪酸体 (機動細胞由来) が比較的多く検出され、S109-C ②では部分的にイネ、ミヤコザサ節型が、S24-No.12 では部分的にイネ？、ススキ属型？などがそれぞれ少量検出された。(文献③群)

(古環境研究所・結城)

③分析結果の評価

以上の結果から、藁状炭化物はメダケ属 (メダケ節やネザサ節) などの茎部に由来する可能性が考えられるが、茎部については標本の検討が十分ではないことから現段階では確定的なことは言えない。また少量ながら、三次調査 A 区の S109-C ②ではイネが、三次調査 C 区の S24-No.12 ではイネ？やススキ属型？が、共に認められることから、部分的にそれらの植物が利用されていた可能性も考えられる。

なお、ここで検出された植物珪酸体は、炭化物に付着した土壌に由来する可能性もあることから、炭化物の周囲の土壌を含めたさらに詳細な検討が必要と考えられる。　(古環境研究所・結城)

文献③群
杉山真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社 ,p.189-213.
藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) ー数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法ー . 考古学と自然科学 ,9,p.15-29.

4　放射性炭素年代測定

①測定方法と対象試料の内訳

放射性炭素年代測定は、呼吸作用や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 (^{14}C) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。過去の大気中の ^{14}C 濃度は一定ではなく、年代値の算出に影響していることから、年輪年代学などの成果を利用した較正曲線により ^{14}C 年代から暦年代に換算する必要がある。測定法には、^{14}C が放射性崩壊する際に放射される β(ベータ) β 線を測定する β 線計数法と、加速器を用いて ^{14}C 濃度を直接測定する加速器質量分析法 (AMS) があり、後者では約 6 万年前までの測定が可能とされている。本遺跡では、両分析法を用いて測定を実施した。

今回の対象試料は、竪穴住居跡、土坑等から採取した 133 点で、内 29 点を β 線計数法で、残り 104 点を加速器質量分析法で測定した。試料の内訳としては、竪穴住居跡から採取した炭化材・炭化材片 98 点、竪穴住居跡の床面や土坑の底部から採取した炭化種実・炭化種実片等 35 点を抽出した。

(古環境研究所・結城)

②測定結果の表記

測定結果については第 128 ～ 130 表に示すが、表記等については、Beta と PED で異なるため、それぞれについて示しておく。なお、両者の分別については、測定番号によって判断できるようにした。

Beta-226325 ～ Beta-226367 (但し、縄文時代以前の試料については本稿では省く)

未補正 ^{14}C 年代とは、試料の $^{14}C/^{12}C$ 比から単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。^{14}C の半減期は 5730 年とされているが、国際的慣例により Libby の 5568 年を用いて計算している。**デルタ δ ^{13}C 測定値**とは、試料の測定 $^{14}C/^{12}C$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}C/^{12}C$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。試料の δ ^{13}C 値を -25(‰) に標準化することで同位体分別効果を補正する。**^{14}C 年代**とは、δ ^{13}C 測定値により同位体分別効果を補正して算出した年代。暦年代較正にはこの年代値を使用する。**暦年代 (Calendar Age)** とは、^{14}C 年代を実際の年代 (暦年代) に近づけるには、過去の宇宙線強度の変動などによる大気中 ^{14}C 濃度の変動および ^{14}C の半減期の違いを較正する必要がある。較正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値およびサンゴの U/Th(ウラン / トリウム) 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。IntCal04 では BC24050 年までの換算が可能である (樹木年輪データは BC10450 年まで)。

暦年代の交点は ^{14}C 年代値と較正曲線との交点の暦年代値を示し、1 σ(シグマ) σ (68％確率) と 2 σ (95％確率) は ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の 1 σ・2 σ 値が表記される場合もある。
(文献④群)

PED-8477 ～ PED-8560, PED-9497 ～ PED-9541
(但し、縄文時代以前の試料については本稿では省く)

デルタ δ ^{13}C 測定値については前述した Bata に同じ。^{14}C 年代測定値とは、試料の $^{14}C/^{12}C$ 比から現在 (AD1950 年基点) から何年前かを計算した値。^{14}C の半減期は 5,730 年であるが、国際的慣例により Libby の 5,568 年を用いた。modern は現代 (AD1950 年 ± 以降) の試料であることを示す。**暦年代 (Calendar Age)** とは、^{14}C 年代測定値を実際の年代値 (暦年代) に近づけるため、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 14C 濃度の変動および ^{14}C の半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。暦年較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な ^{14}C 測定値および

サンゴの U/Th(ウラン / トリウム) 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新の較正曲線データである IntCal04 では、BC24,050 までの換算が可能である。(樹木年輪データは BC10,450 年まで)。暦年代は、^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で示し、較正プログラム OxCal3.1 の確率法により 1 σ(シグマ) σ (68.2％確率) と 2 σ (95.4％確率) で示した。較正曲線が不安定な年代では複数の 1 σ・2 σ値が表記される場合もある。( ) 内の％表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。

(文献⑤群)　　(古環境研究所・結城)

③測定結果の評価

測定の結果、遺構 99 基から採取した試料 133 点中、遺構 88 基 121 点が弥生から古墳時代の年代を示すものであった。

表 131 に示す通り、古いものでは BC500 ～ BC50 の年代を示すものが僅かながらあり、その後、BC50 ～ AD100 の年代を示すものも僅かに見られるが、AD100 ～ AD250 の試料が爆発的に増加する。この状況は AD250 ～ AD400 まで継続し、AD400 以降の年代を示すものは再び減少する。また、遺構密度の高い AD100 ～ AD400 の間においても、継続的に住居の建築が繰り返されるのではなく、AD250 前後を境にして一時終息し、また開始されている。　　(結城)

文献④群

Paula J Reimer et al.,(2004) IntCal04 Terrestrial radiocarbon age calibration,26-0 ka BP.Radiocarbon 46,1029-1058.

尾嵜大真 (2005)INTCAL98 から IntCal04 へ . 学術創成研究費弥生農耕の起源と東アジア No.3 －炭素年代測定による高精度編年体系の構築－ ,p.14-15.

中村俊夫 (1999) 放射性炭素法 . 考古学のための年代測定学入門 . 古今書院 ,p.1-36.

文献⑤群

Bronk Ramsey C.(1995)Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy,The OxCal Program,Radiocarbon,37(2),p.425-430.

Bronk Ramsey C.(2001)Development of the Radiocarbon Program OxCal,Radiocarbon,43(2A),355-363.

Paula J Reimer et al.,(2004) IntCal 04 Terrestrial radiocarbon age calibration,26-0 ka BP.Radiocarbon 46,p.1029-1058.

尾嵜大真 (2005)INTCAL98 から IntCal04 へ . 学術創成研究費弥生農耕の起源と東アジア No.3 －炭素年代測定による高精度編年体系の構築－ ,p.14-15.

中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎 . 日本先史時代の ^{14}C 年代 , p.3-20.

第 117 表　尾花Ａ遺跡樹種同定結果一覧表（1）

						ブナ							ツバキ		バラ		モクセイ		ツツジ	マンサク	モクレン	ヤマモモ	カバノキ	アワブキ	ウルシ	エゴノキ	カキノキ	ハイノキ	マタタビ	ユズリハ	クスノキ	散孔材			
調査区	委託	試料 No.	試料採取位置	種別	部位	クリ	スダジイ	ツブラジイ	マテバシイ	コナラ属クヌギ節	コナラ属コナラ節	コナラ属アカガシ亜属	シイ属	サカキ	ヤブツバキ	サクラ属	ナシ亜科	イボタノキ属	トネリコ属	シャシャンボ	イスノキ	シキミ	ヤマモモ	ハンノキ属ハンノキ節	アワブキ属	ウルシ属	エゴノキ属	カキノキ属	ハイノキ属	マタタビ属	ユズリハ属			結果（学名／和名）		年代測定
1 次	1	1	SA34-C1	炭化材	垂木			1																										*Castanopsis cuspidata Schottky*	ツブラジイ	
		2	SA34-C2	炭化材	主柱？			1																										*Castanopsis cuspidata Schottky*	ツブラジイ	
		3	SA34-C6	炭化材	垂木					1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		4	SA34-C8	炭化材	垂木	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	
		5	SA34-C12	炭化材	主柱 or 梁・桁							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		6	SA64-C1	炭化材	主柱？																1													*Distylium racemosum Sieb. et Zucc.*	イスノキ	
		7	SA64-C2	炭化材	(隅？) 垂木																						1							*Diospyros*	カキノキ属	
		8	SA64-C7	炭化材	主柱？																	1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.*	シキミ	
		9	SA64-C10	炭化材	垂木							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		10	SA64-C11	炭化材	垂木																	1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.*	シキミ	
		11	SA64-C12	炭化材	垂木																	1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.?*	シキミ ？	
		12	SA107-C1	炭化材片	横木？	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	
	5	9	SA107-C4	炭化材	垂木	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	○
		10	SA107-C5	炭化材	垂木	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	○
		11	SA107-C6	炭化材	垂木	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	
1 次拡	1	13	S38-C1	炭化材	垂木																			1										*Meliosma*	アワブキ属	
		14	S38-C6	炭化材	垂木																					1								*Styrax*	エゴノキ属	
		15	S38-C8	炭化材	垂木																				1									*Rhus*	ウルシ属	
		16	S22-C5	炭化材	主柱 or 梁・桁																	1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.*	シキミ	
		17	S22-C6	炭化材	垂木																	1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.*	シキミ	
		18	S22-C11	炭化材	垂木	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	
		19	S22-C16	炭化材	垂木							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		20	S22-C17	炭化材	垂木							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		21	S22-C19	炭化材	主柱？											1																		*Subfam. Maloideae*	ナシ亜科	
		22	S609-C1	炭化材	垂木		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		23	S609-C7	炭化材	垂木							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		24	S609-C9	炭化材	垂木		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		25	S609-C13	炭化材	棟木？		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		26	S609-C15	炭化材	垂木							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		27	S609-C17	炭化材	垂木							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		28	S609-C18	炭化材	垂木		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		29	S1016-C4	炭化材	梁・桁？															1														*Vaccinium bracteatum Thunb.*	シャシャンボ	
		30	S1016-C5	炭化材	垂木									1																				*Cleyera japonica Thunb.*	サカキ	
		31	S1016-C18	炭化材	垂木									1																				*Cleyera japonica Thunb.*	サカキ	
		32	S1016-C19	炭化材	垂木							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		33	S1016-C20	炭化材	垂木																											1		*diffuse-porous wood*	散孔材	
		34	S1016-C22	炭化材	垂木							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
	5	22	S22-C7	炭化材	主柱 or 梁・桁																						1							*Diospyros*	カキノキ属	
		23	S22-C12	炭化材	垂木	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	○
		24	S22-C13	炭化材	角垂木				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	○
		26	S105-C1	炭化材	垂木									1																				*Cleyera japonica Thunb.*	サカキ	○
		27	S105-C3	炭化材	垂木																										1			*Lauraceae*	クスノキ科	○
		28	S105-C7	炭化材	垂木																	1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.*	シキミ	

第 118 表　尾花Ａ遺跡樹種同定結果一覧表（2）

調査区	委託	試料 No.	試料採取位置	種別	部位	ブナ								ツバキ		バラ		モクセイ		ツツジ	マンサク	モクレン	ヤマモモ	カバノキ	アワブキ	ウルシ	エゴノキ	カキノキ	ハイノキ	マタタビ	ユズリハ	クスノキ	散孔材	結果（学名／和名）		年代測定
1 次拡	5	29	S570-C1	炭化材	垂木																						1							*Styrax*	エゴノキ属	○
		30	S570-C6	炭化材	垂木		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		31	S570-C9	炭化材	垂木															1														*Vaccinium bracteatum Thunb.*	シャシャンボ	○
		32	S610-C1	炭化材								1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	○
		33	S610-C2	炭化材									1																					*Castanopsis*	シイ属	
		34	S610-C3	炭化材								1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	○
		35	S1016-C1	炭化材	角垂木							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	○
		36	S1016-C11	炭化材	垂木							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	○
		37	S1016-C14	炭化材																								1						*Diospyros?*	カキノキ属？	
2 次	5	42	S3001-C1	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	○
		43	S3001-C10	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	○
		44	S3001-C14	炭化材								1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	○
3 次 A	2	4	S107-C1	炭化材	不明		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		5	S107-C2	炭化材	不明					1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		6	S107-C3	炭化材	不明					1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		7	S107-C4	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		8	S107-C5	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		9	S107-C6	炭化材	不明		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		10	S107-C7	炭化材	不明		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		11	S107-C8	炭化材	不明		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		12	S107-C9	炭化材	不明					1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		13	S107-C10	炭化材	不明		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		14	S107-C12	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		15	S107-C13	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		16	S107-C15	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		17	S107-C16	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		18	S107-C17	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		19	S107-C18	炭化材	不明																				1									*Meliosma*	アワブキ属	
		20	S107-C19	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		21	S107-C20	炭化材	不明																				1									*Meliosma*	アワブキ属	
		22	S107-C22	炭化材	不明		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		23	S107-C23	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		24	S107-C24	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		25	S107-C26	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		26	S107-C29	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		27	S107-C30	炭化材	不明		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		28	S107-C35	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		29	S107-C36	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		30	S107-C38	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		31	S107-C41	炭化材	不明																				1									*Meliosma*	アワブキ属	
		32	S107-C42	炭化材	不明																				1									*Meliosma*	アワブキ属	
		33	S107-C43	炭化材	不明					1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		34	S107-C44	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		35	S107-C45	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
		36	S107-C46	炭化材	不明		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		37	S107-C54	炭化材	不明				1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	
	5	49	S102-C1	炭化材	垂木																										1			*Daphniphyllum*	ユズリハ属	○
		50	S102-C2	炭化材	垂木															1														*Vaccinium bracteatum Thunb.*	シャシャンボ	
		51	S102-C4	炭化材	垂木																											1		*Lauraceae*	クスノキ科	
		52	S102-C7	炭化材	垂木													1																*Fraxinus*	トネリコ属	
		53	S102-C9	炭化材	棟木？								1																					*Castanopsis*	シイ属	○
		54	S102-C10	炭化材	垂木																								1					*Symplocos*	ハイノキ属	
		55	S102-C12	炭化材	垂木								1																					*Castanopsis*	シイ属	
		56	S102-C15	炭化材																									1					*Symplocos*	ハイノキ属	

第 119 表　尾花Ａ遺跡樹種同定結果一覧表（3）

調査区	委託	試料 No.	試料採取位置	種別	部位	ブナ								ツバキ		バラ		モクセイ		ツツジ	マンサク	モクレン	ヤマモモ	カバノキ	アワブキ	ウルシ	エゴノキ	カキノキ	ハイノキ	マタタビ	ユズリハ	クスノキ	散孔材	結果（学名／和名）		年代測定
		58	S107-C24	炭化材					1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	○
		61	S110-C1	炭化材																					1									*Meliosma*	アワブキ属	
		62	S110-C4	炭化材																											1			*Daphniphyllum*	ユズリハ属	
		63	S110-C5	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		64	S110-C7	炭化材									1																					*Castanopsis*	シイ属	
		65	S110-C8	炭化材	棟木？								1																					*Castanopsis*	シイ属	
		66	S110-C9	炭化材	棟木？		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	
		67	S110-C14	炭化材	棟木？		1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	○
		68	S110-C17	炭化材	垂木						1																							*Quercus sect. Prinus*	コナラ属コナラ節	
		69	S110-C18	炭化材	垂木																						1							*Styrax*	エゴノキ属	
		70	S110-C22	炭化材	垂木						1																							*Quercus sect. Prinus*	コナラ属コナラ節	
		71	S112-C7	炭化材																					1									*Meliosma*	アワブキ属	
		72	S112-C8	炭化材																					1									*Meliosma*	アワブキ属	
		73	S112-C9	炭化材																												1		*Lauraceae*	クスノキ科	
		74	S112-C10	炭化材																		1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.*	シキミ	
		75	S112-C13	炭化材																							1							*Styrax*	エゴノキ属	
		76	S112-C14	炭化材																					1									*Meliosma*	アワブキ属	
		77	S112-C18	炭化材																									1					*Symplocos*	ハイノキ属	○
		78	S112-C24	炭化材												1																		*Prunus*	サクラ属	
		79	S112-C27	炭化材																					1									*Meliosma*	アワブキ属	
		81	S116-C2	炭化材																1														*Vaccinium bracteatum Thunb.*	シャシャンボ	
		82	S116-C10	炭化材																		1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.*	シキミ	
		83	S116-C12	炭化材																							1							*Styrax*	エゴノキ属	○
3 次 A	5	84	S116-C13	炭化材																		1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.*	シキミ	
		85	S116-C15	炭化材					1																									*Lithocarpus edulis Nakai*	マテバシイ	○
		86	S117-C1	炭化材	垂木			1																										*Castanopsis cuspidata Schottky*	ツブラジイ	
		87	S117-C4	炭化材	垂木					1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		88	S117-C6	炭化材	棟木？								1																					*Castanopsis*	シイ属	○
		89	S117-C11	炭化材	垂木																				1									*Meliosma*	アワブキ属	
		90	S117-C14	炭化材	垂木					1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		91	S117-C20	炭化材	垂木					1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		92	S117-C22	炭化材	垂木								1																					*Castanopsis*	シイ属	○
		93	S117-C23	炭化材	垂木																				1									*Meliosma*	アワブキ属	
		95	S127-C1	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		96	S127-C2	炭化材									1																					*Castanopsis*	シイ属	
		97	S127-C3	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	○
		98	S127-C5	炭化材									1																					*Castanopsis*	シイ属	
		99	S127-C7	炭化材								1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		100	S127-C8	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		101	S127-C9	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		102	S127-C10	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		103	S127-C11	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		104	S127-C14	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	○
		105	S127-C16	炭化材																					1									*Meliosma*	アワブキ属	
		106	S127-C18	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		107	S127-C19	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		108	S127-C20	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
		3	S154-C1	炭化材		1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	○
		4	S154-C2	炭化材		1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	○
		5	S164-C7	炭化材								1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	○
3 次 B	3	6	S164-C10	炭化材		1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	○
		8	S150-C1	炭化材																1														*Distylium racemosum Sieb. et Zucc.*	イスノキ	○
		9	S150-C5	炭化材																				1										*Alnus sect. Gymnothyrsus*	ハンノキ属ハンノキ節	○
		11	S21-C1	炭化材																1														*Distylium racemosum Sieb. et Zucc.*	イスノキ	○

第 120 表　尾花Ａ遺跡樹種同定結果一覧表（4）

調査区	委託	試料 No.	試料採取位置	種別	部位	ブナ								ツバキ		バラ		モクセイ		ツツジ	マンサク	モクレン	ヤマモモ	カバノキ	アワブキ	ウルシ	エゴノキ	カキノキ	ハイノキ	マタタビ	ユズリハ	クスノキ	散孔材	結果（学名／和名）		年代測定
3 次 B	3	12	S21-C2	炭化材				1																										*Castanopsis cuspidata Schottky*	ツブラジイ	○
		15	S26-C5	炭化材								1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	○
		18	S28-C1	炭化材						1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	○
		19	S28-C2	炭化材																				1										*Meliosma*	アワブキ属	○
	5	115	S1-C6	炭化材	垂木																											1		*Lauraceae*	クスノキ科	○
		116	S2-C2	炭化材	垂木？																							1						*Diospyros*	カキノキ属	○
		117	S5-C4	炭化材	棟木？																			1										*Meliosma*	アワブキ属	○
		118	S5-C5	炭化材	垂木							1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		119	S5-C6	炭化材																										1				*Actinidia*	マタタビ属	○
		120	S9-C2	炭化材			1																											*Castanopsis sieboldii Hatusima*	スダジイ	○
		121	S16-C1	炭化材	垂木																							1						*Diospyros*	カキノキ属	
		122	S16-C2	炭化材	垂木																			1										*Meliosma*	アワブキ属	○
		123	S16-C3	炭化材	垂木																			1										*Meliosma*	アワブキ属	
		124	S17-C7	炭化材																							1							*Styrax*	エゴノキ属	○
		125	S18-C1	炭化材	垂木																	1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.*	シキミ	○
		126	S139-C1	炭化材						1																								*Quercus sect. Prinus*	コナラ属コナラ節	○
		127	S150-C2	炭化材	垂木																											1		*Lauraceae*	クスノキ科	
		128	S150-C3	炭化材	垂木								1																					*Castanopsis*	シイ属	
		129	S150-C6	炭化材	垂木？																			1										*Meliosma*	アワブキ属	
		130	S150-C11	炭化材	垂木															1														*Vaccinium bracteatum Thunb.*	シャシャンボ	○
		131	S150-C13	炭化材	垂木																						1							*Styrax*	エゴノキ属	
		132	S150-C14	炭化材	垂木																			1										*Meliosma*	アワブキ属	
		133	S150-C15	炭化材	垂木																								1					*Symplocos*	ハイノキ属	○
		134	S164-C2	炭化材		1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	
		135	S164-C5	炭化材				1																										*Castanopsis cuspidata Schottky*	ツブラジイ	
		136	S164-C8	炭化材								1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		137	S164-C9	炭化材								1																						*Quercus subgen. Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	
		138	S164-C15	炭化材																		1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.?*	シキミ？	
		139	S164-C16	炭化材		1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	
		143	S2012-C1	炭化材									1																					*Castanopsis*	シイ属	
		144	S2012-C2	炭化材																		1												*Illicium religiosum Sieb. et Zucc.?*	シキミ？	○
		145	S2012-C5	炭化材														1																*Ligustrum*	イボタノキ属	
3 次 C	4	1	S24-C2	炭化材片	垂木片？																			1										*Meliosma*	アワブキ属	
		2	S24-C3	炭化材片	垂木片？																		1											*Myrica rubra Sieb.et Zucc.*	ヤマモモ	○
		3	S24-C4	炭化材片	垂木片？																											1		*Lauraceae*	クスノキ科	
		4	S24-C7	炭化材片	垂木片？			1																										*Castanopsis cuspidata Schottky*	ツブラジイ	
		5	S24-C8	炭化材片	垂木片・屋根材								1																					*Castanopsis*	シイ属	○
		7	S24-C10	炭化材片	不明																			1										*Meliosma*	アワブキ属	
		8	S24-C11	炭化材片	垂木片？								1																					*Castanopsis*	シイ属	○
		11	S41-C2	炭化材片	垂木片？	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	
		12	S41-C5	炭化材	垂木片？	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	
		13	S41-C6	炭化材	垂木片？	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	○
		14	S41-C10	炭化材	垂木片？	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	
		15	S41-C12	炭化材	垂木片？	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	
		19	S81-C1	炭化材	不明					1																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	○
	5	146	S7-C3	炭化材											1																			*Camellia japonica L.*	ヤブツバキ	○
		147	S10-C3	炭化材																												1		*Lauraceae*	クスノキ科	○
		148	S19-C1	炭化材										1																				*Cleyera japonica Thunb.*	サカキ	○
		149	S41-C4	炭化材	垂木片？	1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	
		150	S41-C14	炭化材		1																												*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ	○
		151	S42-C2	炭化材																1														*Vaccinium bracteatum Thunb.*	シャシャンボ	
		152	S42-C4	炭化材				1																										*Castanopsis cuspidata Schottky*	ツブラジイ	○
		153	S44-C1	炭化材	垂木片？																			1										*Meliosma*	アワブキ属	○

第 121 表　尾花Ａ遺跡種実同定結果一覧表（1）

調査区	委託	試料No.	試料採取位置	種別	部位	樹木 ブナ コナラ属クヌギ節	樹木 ブナ コナラ属	樹木 バラ モモ	樹木 バラ バラ科	樹木 ミカン イヌザンショウ	樹木 ミカン サンショウ属	樹木 トウダイグサ アカメガシワ	樹木 ブドウ ブドウ属	樹木 ムラサキ チシャノキ	草本 イネ イネ	草本 イネ オヒシバ	草本 イネ アワ	草本 イネ ヒエ	草本 イネ キビ属	草本 イネ オオムギ	草本 イネ コムギ	草本 イネ ムギ類	草本 イネ イネ科	草本 カヤツリグサ カヤツリグサ科	草本 キンバイザサ コキンバイザサ	草本 タデ イシミカワ	草本 タデ タデ属サナエタデ節	草本 タデ タデ属	草本 アカザ アカザ属	草本 ヒユ ヒユ属	草本 ナデシコ ナデシコ科	草本 マメ ハギ属	草本 マメ ササゲ属	草本 アブラナ オトギリソウ オトギリソウ属	草本 アブラナ マメグンバイナズナ属～グンバイナズナ属	草本 シソ エゴマ	草本 シソ キランソウ属	草本 シソ その他	草本 ナス	その他 不明種実	その他 不明炭化物	その他 炭化材片	その他	その他 昆虫片	備考	結果（学名／和名）		年代測定
		64	SA14-P10 埋土	炭化種実	子葉完形		1																																							*Quercus*	コナラ属	
		65	SA35-d 埋土	炭化種実	子葉半形		1																																							*Quercus*	コナラ属	
		67	SA20- 中央床上	炭化物片																																					11						
		68	SA15-SC1 埋土	炭化物片																																					33						
		69	SA18-SC1 埋土	炭化物片																																					7						
		70	SA18-SC1 埋土	炭化物片																																					12						
		71	SA55-SC1 埋土	炭化物片																																					6						
		72	SA20-SC1 埋土	炭化物片																																					23						
		73	SA20- 中央床上	炭化種実	果実片																	1																			19			*Hordeum - Triticum*	ムギ類	
		74	SA35-SC1 埋土	炭化物片																																					9						
		75	SA118-381 内包土	炭化種実	種子片																				1																3			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		76	SA15-SC2 埋土	炭化種実	種子																				1																14			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
				炭化種実	子葉半形																												1												*Vigna*	ササゲ属	
		77	SC201- Ⅱ層	炭化物片																																					45						○
		78	SA13- 埋土	炭化物片																																					8						
		80	SA23- 中央床上	炭化種実	種子																				2																1			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		81	SA118-385 内包土	炭化物片																																					5						
		82	SA15-SC2 埋土	不明炭化物	破片																																			2		7			*Unknown*	不明炭化物	
		83	SA12-SC11 埋土	炭化物片																																					1						
1 次	6	84	SA45-11 内包土	炭化物片																																					11						
		85	SA3-SC2 埋土	炭化物片																																					2						
		86	SA3-SC1 埋土	炭化種実	種子					1																															2			*Zanthoxylum schinifolium S. et Z.*	イヌザンショウ	
		87	SC105- 埋土	炭化材片・炭化物片																																				1	46	3				○
		88	SA37-SC1 埋土	炭化物片																																					14	1					
		89	SA18-SC1 埋土	炭化種実	果実										1																									2	39			*Oryza sativa L.*	イネ	○
				炭化種実	果実													1																										*Echinochloa Ohwi et Yabuno*	ヒエ	
				炭化種実	種子																								2														*Amaranthus*	ヒユ属	
		90	SA118-SC 埋土	炭化種実	種子片																				1																24			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		91	SC24- Ⅱ層	炭化物片																																					32						
		92	SA47- 埋土	炭化物片																																					5						
		94	SC37- 敷石上面	炭化物片																																					10						○
		95	SA15-SC1 埋土	炭化物片																																					26						
		97	SA47- 埋土	不明炭化物	破片																																			2	3	3		*Unknown*	不明炭化物	
		98	SC102- 埋土	不明種実																																			1		6			*Unknown*	不明種実	
		99	SC102- 埋土	炭化材片・炭化物片																																				2	9						
		100	SC40- 埋土	炭化物片																																					37	5					
		101	SA55-SC1 埋土	炭化材片・炭化物片																																				2	7						
		102	SC40- 埋土	炭化物片																																					34						
		103	SA107-357 内包土	炭化物片																																					9						

第 122 表　尾花 A 遺跡種実同定結果一覧表（2）

調査区	委託	試料 No.	試料採取位置	種別	部位	樹木 ブナ	樹木 バラ	樹木 ミカン	樹木 トウダイグサ	樹木 ブドウ	樹木 ムラサキ	草本 イネ	草本 カヤツリグサ	草本 キンバイザサ	草本 タデ	草本 アカザ	草本 ヒユ	草本 ナデシコ	草本 マメ	草本 オトギリソウ	草本 アブラナ	草本 シソ	草本 ナス	その他 不明種実	その他 不明炭化物	その他 炭化材片	その他 炭化物片	その他 昆虫片	備考	結果（学名／和名）		年代測定
1次	6	104	SA15-SC2 埋土	炭化物片																							8					
		106	SA118-374 内包土	炭化種実	種子									4												2	6	1		*Hypoxis aurea* Lour.	コキンバイザサ	○
		107	SC23- 埋土	炭化材片・炭化物片																						3	28					○
		108	SC49- Ⅲ層	炭化種実	果実							1															10	1		*Setaria italica* Beauv.	アワ	○
				炭化種実	種子									4																*Hypoxis aurea* Lour.	コキンバイザサ	
		109	SA5-SC1 埋土	炭化物片																							47					
		110	SC95- 埋土	炭化物片																							29					
		111	SA5-SC1 埋土	炭化種実	核						1																13			*Ehretia ovalifolia* Hassk.	チシャノキ	
		112	SC14- 埋土	炭化物片																							9					
		113	SA3-SC1 埋土	炭化物片																							4					
		114	SA13-SC44 埋土	炭化種実	種子									1													1			*Hypoxis aurea* Lour.	コキンバイザサ	
		116	SC107- 埋土	炭化種実	種子																1						5			*Lepidium - Thlaspi*	マメグンバイナズナ属 -グンバイナズナ属	
		117	SA35-255 内包土	炭化種実	果実							1															19	1		*Setaria italica* Beauv.	アワ	
				炭化種実	種子									1																*Hypoxis aurea* Lour.	コキンバイザサ	
		118	SA35-255 内包土	炭化種実	種子									1													14			*Hypoxis aurea* Lour.	コキンバイザサ	
		119	SC49- Ⅲ層	炭化物片																							3					
		120	SA23-SC1 埋土	炭化種実	種子									1													4			*Hypoxis aurea* Lour.	コキンバイザサ	
		122	SA3-SC1 埋土	炭化物片																							17					
		123	SA8-SC1 埋土	炭化種実	種子片				2																		3	1		*Mallotus japonicus* Muell. et Arg.	アカメガシワ	
		124	SA20-SC1 埋土	炭化種実	果実										1												10	4		*Polygonum*	タデ属	
		125	SC109- 埋土	炭化物片																							10					
		126	SA102- 埋土	炭化物片																							9					
		127	SA16-SC1 埋土	炭化物片																							12					
		128	SA13- 埋土	炭化種実	種子															1							4	7		*Hypericum*	オトギリソウ属	
		129	SC37- 敷石上面	炭化材片・炭化物片																						2	6					
		130	SC37- 敷石上面	炭化物片																							10					
		131	SA5-SC1 埋土	炭化物片																							31	1				
		132	SA37-SC1 埋土	炭化物片																							3					
		133	SA14-SC1 埋土	炭化種実	果実										1												6			*Polygonum*	タデ属	
		135	SA15-SC2 埋土	炭化物片																							6					
		136	SA102-SC301 埋土	炭化物片																							8					
		137	SA3-SC3 埋土	炭化物片																							7					
		138	SX1- 床上	炭化物片																							38	1				○
		139	SA18-SC1 埋土	炭化種実	種子									4													11			*Hypoxis aurea* Lour.	コキンバイザサ	
				炭化種実	種子												6													*Amaranthus*	ヒユ属	
		140	SA11-SC1 埋土	炭化物片																							2					
		141	SA20-SC2 埋土	炭化種実	果実																	1						4		*Ajuga*	キランソウ属	
		142	SA18-SC1 埋土	炭化物片																							2					
		143	SC37- 敷石上面	炭化物片																							8					
		144	SC52- 埋土	炭化種実	種子									1													5			*Hypoxis aurea* Lour.	コキンバイザサ	
		145	SC2- 埋土	炭化物片																							14					
		146	SA45- 土器内包土	炭化種実	種子									4													60			*Hypoxis aurea* Lour.	コキンバイザサ	
		147	SC47- 埋土	炭化物片																							3					
		148	SA11-SC1 埋土	炭化種実	果実								1														6			*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
		149	SA3-SC3 埋土	炭化物片																							5					
		150	SA35-260 内包土	炭化物片																							16					
		151	SA13-SC2 埋土	炭化種実	果実								1														15			*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
		152	SA5-SC1 埋土	炭化物片																							29	4				
		153	SC88- 埋土	炭化種実	果実片							1														6	9			*Oryza sativa* L.	イネ	○
				炭化種実	果実							3																		*Hordeum vulgare* L.	オオムギ	
		154	SA18-SC1 埋土	炭化物片																							19	2				
		155	SA11-SC1 埋土	炭化物片																							5					

第 123 表　尾花Ａ遺跡種実同定結果一覧表（3）

調査区	委託	試料No.	試料採取位置	種別	部位	樹木								草本																						その他								
						ブナ	バラ	ミカン	トウダイグサ	ブドウ	ムラサキ	イネ								カヤツリグサ	キンバイザサ	タデ			アカザ	ヒユ	ナデシコ	マメ		オトギリソウ	アブラナ	シソ			ナス	不明種実	不明炭化物	炭化材片	炭化物片	昆虫片	備考	結果（学名／和名）		年代測定
1 次	6	156	SA11-SC1 埋土	炭化物片																																			3					
		157	SA47- 埋土	炭化物片																																			5					
		158	SA15-SC2 埋土	炭化材片・炭化物片																																		2	29	33				
		159	SA16-SC2 埋土	炭化種実	種子																4																		13			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		160	SC43- 埋土	炭化物片																																			15					
		161	SC15- 埋土	炭化物片																																			4					
		162	SA55-SC1 埋土	炭化物片																																			8					
		163	SA20-SC1 埋土	炭化物片																																			17					
		164	SC23- 埋土	炭化物片																																			11					
		165	SC92- 埋土	炭化種実	果実片							1																											26			*Oryza sativa L.*	イネ	○
				炭化種実	子葉半形																							1														*Vigna*	ササゲ属	
		166	SA14-SC1 埋土	炭化物片																																			22					
		167	SA14-SC1 埋土	炭化物片																																			22					
		168	SA12-SC11 埋土	炭化物片																																			9					
1 次拡	6	1	S22- 床上	炭化種実	子葉片	4																																			*Quercus*	コナラ属	
				不明炭化物	破片																																1				*Unknown*	不明炭化物	
		2	S105-S144 埋土	炭化物片																																			4					
		3	S70- 床上	炭化物片																																			8					
		4	S344- 土器内包土	炭化物片																																			3					
		5	S404- 焼土	炭化種実	果実片							1																											7			*Oryza sativa L.*	イネ	○
		6	S409-b 埋土	炭化種実	果実																	2																	12			*Polygonum sect. Persicaria*	タデ属サナエタデ節	○
		7	S420-654 内包土	不明炭化物	破片																																1		2			*Unknown*	不明炭化物	
		8	S420-653 内包土	不明炭化物	破片																																1	1	21			*Unknown*	不明炭化物	
		9	S491- 床上	炭化物片																																			6	1				
		10	S521-S582 埋土	炭化種実	種子片																1																		13			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		11	S521-S582 埋土	炭化物片・炭化材片																																		1	14					
		12	S521-S587 埋土	炭化種実	核片			1																															17			*Rosaceae*	バラ科	○
				炭化種実	果実							1																														*Oryza sativa L.*	イネ	
				不明種実	破片																														1							*Unknown*	不明種実	
		13	S622-630 埋土	炭化種実	果実片							1																											14			*Oryza sativa L.*	イネ	
				炭化種実	果実									1																												*Setaria italica Beauv.*	アワ	
		14	S521-S702 埋土	炭化物片																																			9					
		15	S770- 埋土	炭化材片・炭化物片																																		1	16					
		16	S778- 埋土	不明種実	破片																														5				48			*Unknown*	不明種実	
		17	S820-588 内包土	炭化種実	種子片																2																		2			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		18	S1016-S1145 埋土	炭化物片																																			7					
		19	S1016-S1145 埋土	炭化種実	種子・種子片																6																		8			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		20	S404-S407 埋土	炭化種実	種子片																2																		4			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		21	S404-S407 埋土	炭化種実	種子・種子片																29																		9			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		22	S404-S407 埋土	炭化種実	種子																1																		3			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		23	S409-a 埋土	炭化種実	果実																		1																11			*Polygonum*	タデ属	
		24	S409-b 埋土	炭化種実	果実																		1																15			*Polygonum*	タデ属	
		25	S420-658 内包土	炭化物片																																			9					
		26	S420-653 内包土	炭化種実	果実片															2																			7			*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
		27	S610- 中央 SC 埋土	炭化種実	果実																	1																				*Polygonum sect. Persicaria*	タデ属サナエタデ節	○
				炭化種実	種子・種子片																			58																		*Chenopodium*	アカザ属	
				不明種実	破片																														6							*Unknown*	不明種実	
		28	S778- 埋土	炭化物片																																			21					
		29	S781-S779 埋土	炭化種実	種子片																2																		47			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	○
		30	S980-S1000 埋土	炭化物片																																			9					
		31	S790-S1022 埋土	炭化材片・炭化物片																																		1	25					
		32	S1016-S1144 埋土	炭化物片																																			7					
		33	S1016-S1145 埋土	炭化物片																																			16					

第 124 表　尾花Ａ遺跡種実同定結果一覧表（4）

調査区	委託	試料No.	試料採取位置	種別	部位	樹木 ブナ	樹木 バラ	樹木 ミカン	樹木 トウダイグサ	樹木 ブドウ	樹木 ムラサキ	草本 イネ	草本 カヤツリグサ	草本 キンバイザサ	草本 タデ	草本 アカザ	草本 ヒユ	草本 ナデシコ	草本 マメ	草本 オトギリソウ	草本 アブラナ	草本 シソ	草本 ナス	その他 不明種実	その他 不明炭化物	その他 炭化材片	その他 炭化物片	その他 昆虫片	その他 備考	結果（学名／	和名）	年代測定
1次拡	6	34	S781-S779 埋土	炭化物片																							2					
		35	S37- 床上	炭化種実	子葉片	1																								*Quercus*	コナラ属	○
		36	S37- 床上	炭化種実	子葉片	1																								*Quercus*	コナラ属	
		37	S37- 床上	炭化種実	子葉半形	2																								*Quercus*	コナラ属	
		38	S37- 床上	炭化種実	子葉半形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		39	S37- 床上	炭化種実	子葉片	2																								*Quercus*	コナラ属	
		40	S37- 床上	炭化種実	子葉完形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		41	S37- 床上	炭化種実	子葉片	1																								*Quercus*	コナラ属	
		42	S37- 床上	炭化種実	子葉片	1																								*Quercus*	コナラ属	
		43	S37- 床上	炭化種実	子葉完形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		44	S37- 床上	炭化種実	子葉片	2																								*Quercus*	コナラ属	
		45	S37- 床上	炭化種実	子葉完形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		46	S37- 床上	炭化種実	子葉完形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		47	S37- 床上	不明炭化物	破片																				3					*Unknown*	不明炭化物	
		48	S37- 床上	炭化種実	子葉半形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		49	S37- 床上	炭化種実	子葉半形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		50	S37- 床上	炭化種実	子葉片	1																								*Quercus*	コナラ属	
		51	S37- 床上	炭化種実	子葉完形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		52	S37- 床上	炭化種実	子葉片	2																								*Quercus*	コナラ属	
		53	S37- 床上	炭化種実	子葉片	1																								*Quercus*	コナラ属	
		54	S37- 床上	土塊																									土塊 1			
		55	S37- 床上	炭化種実	子葉片	1																								*Quercus*	コナラ属	
		56	S37- 床上	炭化種実	子葉片	1																								*Quercus*	コナラ属	
		57	S37- 床上	炭化種実	子葉片	5																								*Quercus*	コナラ属	
		58	S37- 床上	炭化種実	子葉半形	2																								*Quercus*	コナラ属	
		59	S37- 床上	炭化種実	子葉完形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		60	S37- 床上	炭化種実	子葉半形・子葉片	3																								*Quercus*	コナラ属	
		61	S37- 床上	炭化種実	子葉半形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		62	S37- 床上	炭化種実	子葉完形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		63	S37- 床上	炭化種実	子葉片	1																					1			*Quercus*	コナラ属	
		93	S101- 埋土	不明種実																				1			5			*Unknown*	不明種実	○
		115	S101- Ⅰ層	炭化種実	種子																		1				7	1		*Solanaceae*	ナス科	
		121	S101- 埋土	炭化物片																							4	7				
		134	S101- 埋土	炭化物片																							10					
2次	6	169	S4- 地床炉	炭化種実	果実							5														9	63			*Setaria italica Beauv.*	アワ	○
				炭化種実	果実							3																		*Echinochloa Ohwi et Yabuno*	ヒエ	
				炭化種実	果実							2																		*Panicum*	キビ属	
		170	S5	炭化物片																							1					
		171	S5	炭化物片																							4					
		172	S2005	炭化種実	果実										3											2	16			*Polygonum*	タデ属	
		173	S2009	炭化物片																							5					
		174	S2010- 焼土 1	炭化種実	果実										1												12			*Polygonum sect. Persicaria*	タデ属サナエタデ節	
		175	S2010- 焼土 2	炭化材片・炭化物片																						1	7					
		176	S2010- 焼土 3	炭化種実	果実							1															2			*Gramineae*	イネ科	
		177	S2010- 焼土 4	炭化物片																							6					
		178	S2016-783 内包土	炭化種実	果実								8														8			*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
				不明種実																				1						*Unknown*	不明種実	
		180	S2502	炭化物片																							3					
		181	S2502	炭化物片																							6					○
		182	S2502	炭化材片・炭化物片																						3	1					
		183	S3001-819 内包土	炭化物片																							17					
		184	S3003-925 内包土	炭化物片																							10					
		185	S3003- 埋土	炭化材片																						1						

第 125 表　尾花Ａ遺跡種実同定結果一覧表（5）

調査区	委託	試料No.	試料採取位置	種別	部位	樹木								草本																							その他								年代測定
						ブナ	バラ	ミカン	トウダイグサ	ブドウ	ムラサキ	イネ								カヤツリグサ	キンバイザサ	タデ			アカザ	ヒユ	ナデシコ	マメ		オトギリソウ	アブラナ	シソ		ナス	不明種実	不明炭化物	炭化材片	炭化物片	昆虫片	備考	結果（学名／和名）		
2 次	6	186	S3003- 埋土	炭化材片・炭化物片																																1	1	1				
		187	S3003- 埋土	炭化材片・炭化物片																																1	3					
		188	S3003- 埋土	炭化物片																																	5					
		189	S3001-822 内包土	炭化種実	果実															1																1	9			*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
				炭化種実	種子片																3																			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		190	S3001-822 内包土	炭化種実	果実															1																	17			*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	○
				炭化種実	種子																1																			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		191	S3001-812 内包土	炭化種実	果実															6																3	38			*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
		192	S3001-812 内包土	炭化種実	種子							4																								5	48	1		*Eieusine indica Gaertn.*	オヒシバ	
				炭化種実	穎														5																					*Gramineae*	イネ科	
				炭化種実	果実															5																				*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
				炭化種実	種子																				23															*Amaranthus*	ヒユ属	
				炭化種実	種子																					1														*Caryophyllaceae*	ナデシコ科	
				炭化種実	種子																						1													*Lespedeza*	ハギ属	
				炭化種実	果実																											2								*Ajuga*	キランソウ属	
				炭化種実	果実																												7							*Labiatae*	シソ科	
				不明種実																															1						*Unknown*	不明種実	
		193	S3001-812 内包土	炭化種実	果実															1																	10			*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
				炭化種実	種子																			1																*Chenopodium*	アカザ属	
3 次 A	6	194	S123- 埋土	炭化物片																																	17		石 1			
		195	S120- 埋土	炭化物片																																	44					
		196	S123-c 埋土	炭化種実	果実																		1													40	128			*Polygonum*	タデ属	
		197	S119-P11 埋土	炭化種実	果実・果実片							7																								36	252			*Oryza sativa L.*	イネ	○
				炭化種実	果実															1																				*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
				炭化種実	種子																1																			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
				炭化種実	子葉半形																							1												*Vigna*	ササゲ属	
		198	S107-SC1 埋土	炭化材片・炭化物片																																1	116					
		199	S107- 焼土 1	炭化種実	果実片							2																								8	47			*Oryza sativa L.*	イネ	
				炭化種実	果実									1																										*Setaria italica Beauv.*	アワ	
				炭化種実	果実															1																				*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
		200	S155-SC1 埋土	炭化種実	果実・果実片							5																								12	205			*Oryza sativa L.*	イネ	○
				炭化種実	果実									2																										*Setaria italica Beauv.*	アワ	
				炭化種実	果実															1																				*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
				炭化種実	子葉完形																							1												*Vigna*	ササゲ属	
		201	S155-SC1 埋土	炭化種実	果実片							1																								1	45			*Oryza sativa L.*	イネ	
		202	S161- 埋土	炭化種実	果実							1																								13	24			*Oryza sativa L.*	イネ	
		203	S4- 埋土	炭化種実	果実																		2													6	28			*Polygonum*	タデ属	
		207	S102-956 内包土	炭化物片																																	3					
		208	S102- 埋土	炭化物片																																	2					
		206	SI25	炭化材片・炭化物片																																43	17		芽 9			
		209	S120- 埋土	炭化物片																																	5					
		210	S108- 埋土	炭化種実	果実							1																									2			*Oryza sativa L.*	イネ	
				炭化種実	果実									1																										*Setaria italica Beauv.*	アワ	
				炭化種実	種子片																2																			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		211	S161- 埋土	種実	種子																					4													生	*Caryophyllaceae*	ナデシコ科	
		212	S110- 埋土	炭化材片																																3						
		213	S107-983 内包土	種実	種子																					6											1		生	*Caryophyllaceae*	ナデシコ科	
		214	S160- 埋土	炭化種実	種子							7																									1			*Eieusine indica Gaertn.*	オヒシバ	
		215	S116- 埋土	種実	種子																					1											6		生	*Caryophyllaceae*	ナデシコ科	
		216	S108- 埋土	不明炭化物	破片																														2	2	5	1		*Unknown*	不明炭化物	
		217	S110- 埋土	炭化物片																																	3					
		218	S161-1185 内包土	炭化種実	種子					1																											2			*Vitis*	ブドウ属	
				炭化種実	果実・果実片							2																												*Oryza sativa L.*	イネ	
3 次 B	6	219	S29- 床上	炭化種実	子葉半形																							2								2	8			*Vigna*	ササゲ属	○

第 126 表　尾花Ａ遺跡種実同定結果一覧表（6）

調査区	委託	試料No.	試料採取位置	種別	部位	樹木 ブナ		バラ	ミカン	トウダイグサ	ブドウ	ムラサキ	草本 イネ									カヤツリグサ	キンバイザサ	タデ			アカザ	ヒユ	ナデシコ	マメ	オトギリソウ	アブラナ	シソ	ナス	その他 不明種実	不明炭化物	炭化材片	炭化物片	昆虫片	備考	結果（学名／和名）		年代測定
3次B	6	220	S67-底	不明種実																															1		8	17			*Unknown*	不明種実	○
		221	S69-Ⅱ層	炭化材片・炭化物片																																	1	4					
		222	S1-焼土	炭化材片・炭化物片																																	6	17					
		223	S10-埋土	炭化種実	果実片								1																								3	14			*Oryza sativa L.*	イネ	
				炭化種実	果実																					6															*Polygonum*	タデ属	
		224	S12-埋土	炭化物片																																		7					
		225	S32-埋土	炭化材片・炭化物片																																	2	29					
		226	S33-埋土	炭化材片・炭化物片																																	1	45					
		227	S34-底	炭化種実	果実																	1																24			*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
		228	S34-Ⅳ層	炭化種実	果実・果実片								41																								4	2			*Oryza sativa L.*	イネ	○
		229	S35-底	炭化種実	果実								1																								1	9			*Oryza sativa L.*	イネ	
		230	S36-床上	炭化種実	果実								1																									16			*Oryza sativa L.*	イネ	
		231	S44-底	炭化材片・炭化物片																																	1	9					○
		232	S45-埋土	炭化物片																																		11					
		233	S45-埋土	炭化材片・炭化物片																																	1	5					
		234	S45-Ⅱ層	炭化物片																																		5					
		235	S45-底	炭化種実	果実								1																								2	7			*Oryza sativa L.*	イネ	
		236	S47-埋土	炭化物片																																		10					
		237	S50-底	炭化物片																																		4					
		238	S51-底	炭化物片																																		1					
		239	S12-1326 内包土	炭化材片・炭化物片																																	5	19					
		240	S91-c 底	炭化材片・炭化物片																																	4	8					
		241	S90-b 埋土	炭化種実	果実																					1												9			*Polygonum*	タデ属	○
		242	S91-b 埋土	炭化材片・炭化物片																																	4	14					
		243	S83-埋土	炭化物片																																		6					
		244	S85-埋土	炭化種実	果実片															1																		7			*Hordeum - Triticum*	ムギ類	
				炭化種実	種子																		1																		*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
		245	S103-埋土	炭化種実	種子・種子片																			8													1	74			*Polygonum prfoliatum L.*	イシミカワ	
		246	S49-底	炭化種実	果実																				1												9	31			*Polygonum sect. Persicaria*	タデ属サナエタデ節	
		247	S49-埋土	炭化種実	果実								1																									6			*Oryza sativa L.*	イネ	
		248	S19-埋土	炭化種実	子葉破片		5																														18	15			*Quercus*	コナラ属	
				炭化種実	果実										1																										*Setaria italica Beauv.*	アワ	
		249	S103-Ⅱ層	炭化材片・炭化物片																																	7	15					
		250	S103-Ⅱ層	炭化種実	果実								1																								4	7			*Oryza sativa L.*	イネ	
				炭化種実	果実											1																									*Echinochloa Ohwi et Yabuno*	ヒエ	
		251	S103-底	炭化種実	果実片								1																								13	16			*Oryza sativa L.*	イネ	○
				炭化種実	果実																	1																			*Cyperaceae*	カヤツリグサ科	
		252	S5-1259 内包土	炭化物片																																		7					
		253	S17-P14 焼土	炭化種実	果実								1																									6			*Oryza sativa L.*	イネ	
		254	S103-埋土	炭化種実	果実								1																								4	4			*Oryza sativa L.*	イネ	
		255	S8-埋土	炭化材片・炭化物片																																	1	11					
		256	S12-1330 内包土	炭化材片・炭化物片																																	1	3					
		257	S12-1334 内包土	炭化材片・炭化物片																																	3	1					
		258	S12-1328 内包土	炭化材片・炭化物片																																	3	19					
		259	S12-1327 内包土	炭化物片																																		10					
		260	S5-Ⅴ層	炭化材片・炭化物片																																	3	3					
		261	S48-1816 内包土	炭化物片																																		2					
		262	S7-1289 内包土	炭化材片・炭化物片																																	1	10					
		263	S12-1329 内包土	不明炭化物	破片																															1		13			*Unknown*	不明炭化物	
		264	S197-埋土	炭化物片																																		6					
		265	S12-1332 内包土	炭化材片・炭化物片																																	4	13					
		266	S12-1327 内包土	炭化材片・炭化物片																																	1	11					
		267	S114-1832 内包土	炭化種実	果実片								1																								6	9			*Oryza sativa L.*	イネ	
				炭化種実	果実片														1																						*Triticum aestivum L.*	コムギ	

第 127 表　尾花Ａ遺跡種実同定結果一覧表（7）

調査区	委託	試料 No.	試料採取位置	種別	部位	樹木 ブナ	樹木 バラ	樹木 ミカン	樹木 トウダイグサ	樹木 ブドウ	樹木 ムラサキ	草本 イネ	草本 カヤツリグサ	草本 キンバイザサ	草本 タデ	草本 アカザ	草本 ヒユ	草本 ナデシコ	草本 マメ	草本 オトギリソウ	草本 アブラナ	草本 シソ	草本 ナス	その他 不明種実	その他 不明炭化物	その他 炭化材片	その他 炭化物片	その他 昆虫片	備考	結果（学名／	和名）	年代測定
3 次 B	6	268	S145- 底	炭化物片																							1					
		269	S150-1637 内包土	炭化種実	果実・果実片							2														3	5			*Oryza sativa L.*	イネ	
		270	S157-1697 内包土	炭化物片																							6					
		271	S13-d 埋土	炭化種実	果実片							1															3			*Oryza sativa L.*	イネ	
		272	S150-1645 内包土	炭化物片																							4					
		273	S163-1716 内包土	炭化物片																							1					
		274	S164-1731 内包土	炭化種実	果実										15															*Polygonum*	タデ属	
		275	P67- 埋土	炭化物片																							1					
		276	S15-1381 内包土	炭化物片																							1					
		277	S9-1 内包土	炭化物片																							34					
		278	S45-14 内包土	炭化物片																							6					
		279	S13-28 内包土	炭化物片																							2					
		280	S13-C20	炭化種実	核片		3																							*Prunus persica Batsch*	モモ	○
		281	S19-C5	炭化種実	子葉半形	1																								*Quercus*	コナラ属	
		282	S19-C6	不明炭化物	破片																				5					*Unknown*	不明炭化物	
		283	S19-C8	炭化種実	子葉完形	1																								*Quercus*	コナラ属	○
		284	S19	炭化種実	子葉破片	11																								*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節	
3 次 C	6	285	S70- 埋土	炭化種実	果実・果実片							2														4	15			*Oryza sativa L.*	イネ	
				炭化種実	種子・種子片									8																*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
				炭化種実	果実										1															*Polygonum*	タデ属	
		286	S40-1996 内包土	炭化材片・炭化物片																						3	9					
		287	S40- 埋土	炭化物片																							13					
		288	S38-1979 内包土	炭化物片																							5					
		289	S33- 埋土	炭化種実	種子・種子片									14													52			*Hypoxis aurea Lour.*	コキンバイザサ	
				炭化種実	果実																	1								*Perilla frutescens var. japonica Hara*	エゴマ	
				不明炭化物	破片																				1					*Unknown*	不明炭化物	
		290	S41-2026 内包土	炭化物片																							4					
		291	S68- 埋土	炭化物片																							11					
		292	S41-2029 内包土	炭化物片																							5					
		293	S68- 埋土	炭化種実	種子片			1																		3	8	1		*Zanthoxylum*	サンショウ属	
		294	S81-2105 内包土	炭化物片																							3					
		295	S81-2103 内包土	炭化物片																							1					
		296	S25-1954 内包土	炭化物片																							2					
		297	S43-c 埋土	炭化種実	子葉破片	19																								*Quercus*	コナラ属	○
		298	S43- 埋土	炭化種実	子葉完形・半形・破片	24																								*Quercus*	コナラ属	

第 128 表　尾花Ａ遺跡放射性炭素年代測定結果一覧表（1）

調査区	委託	試料NO.	測定番号	試料採取位置	δ13測定値(‰)	14C年代(年ＢＰ)	暦年代 (Calendar Age)1σ (Beta:68%確率，PED:68.2%確率)	暦年代 (Calendar Age)2σ (Beta:95%確率，PED:95.4%確率)	遺構	部位	その他の分析
1次	5	1	PED－8477	SA3 － C1	-23.97 ± 0.11	1835 ± 20	AD130-180（41.6%） AD185-215（26.6%）	AD120-240（95.4%）	竪穴住居		
		2	PED－8478	SA8 － C1	-26.66 ± 0.18	1190 ± 20	AD780-790（6.0%） AD805-880（62.2%）	AD770-890（95.4%）	竪穴住居		
		3	PED－8479	SA13 － C1	-26.54 ± 0.21	1740 ± 20	AD250-265（10.2%） AD270-335（58.0%）	AD240-380（95.4%）	竪穴住居		
		4	PED－8480	SA22 － C1	-24.95 ± 0.19	1760 ± 20	AD240-265（22.3%） AD280-325（45.9%）	AD210-350（95.4%）	竪穴住居		
		5	PED－8481	SA24 － C1	-26.67 ± 0.18	1685 ± 20	AD340-405（68.2%）	AD260-290（8.4%） AD320-420（87.0%）	竪穴住居		
		6	PED－8482	SA25 － C1	-29.83 ± 0.15	1710 ± 20	AD260-290（18.6%） AD320-390（49.6%）	AD250-400（95.4%）	竪穴住居	垂木	
		7	PED－8996	SA13 － C3	-25.46 ± 0.19	1755 ± 25	AD240-265（18.4%） AD280-330（49.8%）	AD220-380（95.4%）	竪穴住居	垂木？	
		9	PED－8485	SA107 － C4	-27.47 ± 0.17	1830 ± 20	AD135-220（68.2%）	AD120-240（95.4%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		10	PED－8486	SA107 － C5	-28.37 ± 0.12	1800 ± 20	AD130-260（68.2%）	AD130-260（88.1%） AD290-320（7.3%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		12	PED－8487	SB1P1 － C1	-27.68 ± 0.16	1180 ± 20	AD780-790（5.7%） AD810-890（62.5%）	AD770-900（95.4%）	掘立柱建物		
	6	77	PED－9506	SC201 － Ⅱ層	-26.33 ± 0.12	1915 ± 25	AD60-125（68.2%）	AD10-140（95.4%）	土坑		種実同定
		87	PED－9508	SC105 － 埋土	-30.36 ± 0.22	2335 ± 30	BC410-380（68.2%）	BC520-360（95.4%）	土坑		種実同定
		89	PED－9509	SA18 － SC1 埋土	-25.12 ± 0.22	1720 ± 25	AD250-300（33.4%） AD310-380（34.8%）	AD240-400（95.4%）	住居内土坑	果実・種子	種実同定
		94	PED－9511	SC37 － 敷石上面	-27.90 ± 0.14	850 ± 25	AD1170-1220（68.2%）	AD1150-1260（95.4%）	石組遺構		種実同定
		106	PED－9514	SA118 － 374 内包土	-35.29 ± 0.34	450 ± 25	AD1430-1455（68.2%）	AD1415-1470（95.4%）	竪穴住居	種子	種実同定
		107	PED－9515	SC23 － 埋土	-26.56 ± 0.17	1715 ± 25	AD250-290（19.8%） AD320-390（48.4%）	AD250-400（95.4%）	土坑		種実同定
		108	PED－9516	SC49 － Ⅲ層	-23.51 ± 0.25	620 ± 25	AD1295-1325（28.2%） AD1345-1370（26.6%） AD1380-1395（13.4%）	AD1290-1400（95.4%）	土坑	果実・種子	種実同定
		138	PED－9518	SX1 － 床上	-27.29 ± 0.19	1270 ± 25	AD685-725（37.5%） AD735-775（30.7%）	AD660-780（93.5%） AD790-810（1.9%）	竪穴状遺構		種実同定
		153	PED－9519	SC88 － 埋土	-24.96 ± 0.13	760 ± 25	AD1240-1280（68.2%）	AD1220-1285（95.4%）	土坑	果実・果実片	種実同定
		165	PED－9520	SC92 － 埋土	-24.40 ± 0.15	775 ± 20	AD1225-1275（68.2%）	AD1220-1280（95.4%）	土坑	果実片・子葉半形	種実同定
1次拡張	5	23	PED－8497	S22 － C12	-26.12 ± 0.16	1760 ± 20	AD240-260（23.7%） AD280-325（44.5%）	AD210-350（95.4%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		24	PED－8498	S22 － C13	-26.94 ± 0.16	1770 ± 20	AD230-260（33.0%） AD280-325（35.2%）	AD160-200（2.5%） AD210-350（92.9%）	竪穴住居	角垂木	樹種同定
		25	PED－8499	S101 － C1	-27.22 ± 0.14	1720 ± 20	AD250-300（33.9%） AD310-350（25.9%） AD360-380（8.5%）	AD250-390（95.4%）	土坑		
		26	PED－8500	S105 － C1	-26.32 ± 0.23	1760 ± 25	AD235-260（23.5%） AD280-325（44.7%）	AD210-380（95.4%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		27	PED－8501	S105 － C3	-29.29 ± 0.19	1740 ± 20	AD250-335（68.2%）	AD240-390（95.4%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		29	PED－8502	S570 － C1	-27.82 ± 0.19	1860 ± 20	AD90-100（6.3%） AD120-220（61.9%）	AD80-230（95.4%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		31	PED－8503	S570 － C9	-29.66 ± 0.19	1830 ± 20	AD135-220（68.2%）	AD120-240（95.4%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		32	PED－8504	S610 － C1	-27.11 ± 0.16	1770 ± 20	AD235-260（29.1%） AD280-325（39.1%）	AD170-190（1.3%） AD210-350（94.1%）	竪穴住居		樹種同定
		34	PED－8505	S610 － C3	-27.51 ± 0.18	1700 ± 20	AD260-280（9.4%） AD330-390（58.8%）	AD250-300（21.3%） AD310-410（74.1%）	竪穴住居		樹種同定
		35	PED－8506	S1016 － C1	-28.21 ± 0.17	1840 ± 20	AD130-215（68.2%）	AD90-100（1.3%） AD120-240（94.1%）	竪穴住居	角垂木	樹種同定
		36	PED－8507	S1016 － C11	-25.93 ± 0.15	1870 ± 25	AD80-170（58.5%） AD190-210（9.7%）	AD70-220（95.4%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
	6	5	PED－9497	S404 － 焼土	-23.96 ± 0.20	1845 ± 25	AD125-215（68.2%）	AD80-240（95.4%）	竪穴住居	果実片	種実同定
		6	PED－9498	S409 － b 埋土	-35.79 ± 0.31		modern		竪穴住居	果実	種実同定
		12	PED－9499	S521 － S587 埋土	-25.13 ± 0.15	1695 ± 25	AD260-280（5.7%） AD330-400（62.5%）	AD250-300（19.0%） AD310-420（76.4%）	竪穴住居	果実・核片	種実同定
		27	PED－9501	S610 － 中央 SC 埋土	-25.24 ± 0.16	1735 ± 25	AD250-340（68.2%）	AD240-390（95.4%）	竪穴住居	果実・種子・種子片	種実同定
		29	PED－9502	S781 － S779 埋土	-27.59 ± 0.16	1855 ± 25	AD120-220（68.2%）	AD80-230（95.4%）	竪穴住居	種子片	種実同定
		35	PED－9503	S37 － 床上	-27.71 ± 0.13	1810 ± 25	AD130-250（68.2%）	AD130-260（91.9%） AD300-320（3.5%）	竪穴住居	子葉片	種実同定
		93	PED－9510	S101 － 埋土	-27.31 ± 0.14	1580 ± 25	AD430-470（25.8%） AD480-540（42.4%）	AD420-550（95.4%）	土坑		種実同定
2次	5	38	PED－8508	S2004 － C2	-26.37 ± 0.16	1810 ± 20	AD130-250（68.2%）	AD130-250（95.4%）	竪穴住居		
		39	PED－8509	S2010 － C1	-26.66 ± 0.15	1710 ± 20	AD260-280（15.2%） AD320-390（53.0%）	AD250-400（95.4%）	竪穴住居		
		40	PED－8510	S2010 － C4	-26.05 ± 0.15	1735 ± 20	AD255-305（46.8%） AD310-340（21.4%）	AD240-380（95.4%）	竪穴住居		
		41	PED－8511	S2016 － C6	-23.37 ± 0.18	1750 ± 20	AD245-265（13.5%） AD280-330（54.7%）	AD230-350（95.4%）	竪穴住居		
		42	PED－8512	S3001 － C1	-24.98 ± 0.23	1690 ± 20	AD335-395（68.2%）	AD260-290（10.3%） AD320-420（85.1%）	竪穴住居		樹種同定
		43	PED－8513	S3001 － C10	-24.75 ± 0.18	1730 ± 20	AD255-305（45.1%） AD315-340（23.1%）	AD240-390（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
		44	PED－8514	S3001 － C14	-23.99 ± 0.20	1715 ± 20	AD250-300（29.4%） AD320-380（38.8%）	AD250-390（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
	6	169	PED－9521	S4 － 地床炉	-10.26 ± 0.15	1685 ± 20	AD340-405（68.2%）	AD260-290（8.7%） AD320-420（86.7%）	竪穴住居	果実	種実同定

第 129 表　尾花Ａ遺跡放射性炭素年代測定結果一覧表（2）

調査区	委託	試料NO.	測定番号	試料採取位置	δ13測定値(‰)	14C年代(年BP)	暦年代(Calendar Age)1σ (Beta:68%確率，PED:68.2%確率)	暦年代(Calendar Age)2σ (Beta:95%確率，PED:95.4%確率)	遺構	部位	その他の分析
2次	6	181	PED－9522	S2502 －	-26.37 ± 0.17	1815 ± 20	AD135-155（14.5%） AD165-195（25.4%） AD205-240（28.4%）	AD120-250（95.4%）	竪穴住居		種実同定
		190	PED－9524	S3001 － 822 内包土	-24.63 ± 0.17	1820 ± 20	AD135-155（14.9%） AD165-195（26.0%） AD205-235（27.3%）	AD120-250（95.4%）	竪穴住居	果実・種子	種実同定
3次A	2	1	Beta－226343	S4 － C4	-25.3	1880 ± 40	AD80-140（68%）	AD50-230（95%）	土坑		
		2	Beta－226344	S158 － C1	-27.0	1840 ± 40	AD120-230（68%）	AD80-250（95%）	土坑		
	5	48	PED－8516	S101 － C1	-27.91 ± 0.17	2185 ± 20	BC360-290（51.9%） BC230-190（16.3%）	BC360-270（58.5%） BC260-170（36.9%）	竪穴住居		
		49	PED－8517	S102 － C1	-28.00 ± 0.19	1830 ± 20	AD135-220（68.2%）	AD120-240（95.4%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		53	PED－8518	S102 － C9	-26.77 ± 0.19	1880 ± 20	AD75-135（68.2%）	AD70-220（95.4%）	竪穴住居	棟木？	樹種同定
		57	PED－8519	S106 － C1	-28.29 ± 0.17	2100 ± 20	BC170-90（66.3%） BC70-60（1.9%）	BC180-40（95.4%）	竪穴住居		
		58	PED－8520	S107 － C24	-26.64 ± 0.15	1915 ± 20	AD65-90（35.6%） AD95-125（32.6%）	AD20-40（3.1%） AD50-130（92.3%）	竪穴住居		樹種同定
		59	PED－8521	S108 － C1	-27.87 ± 0.17	1905 ± 20	AD75-125（68.2%）	AD20-40（1.2%） AD50-140（94.2%）	竪穴住居		
		60	PED－8522	S109 － C1③	-30.50 ± 0.21	1835 ± 20	AD130-215（68.2%）	AD120-240（95.4%）	竪穴住居	屋根材	植物珪酸体分析
		67	PED－8523	S110 － C14	-28.22 ± 0.19	1855 ± 20	AD125-215（68.2%）	AD80-230（95.4%）	竪穴住居	棟木？	樹種同定
		77	PED－8524	S112 － C18	-27.04 ± 0.20	1750 ± 20	AD245-265（17.3%） AD275-330（50.9%）	AD230-350（94.3%） AD360-380（1.1%）	竪穴住居		樹種同定
		80	PED－8525	S113 － C1	-26.88 ± 0.20	1730 ± 20	AD255-305（42.8%） AD310-345（25.4%）	AD240-390（95.4%）	竪穴住居		
		83	PED－8526	S116 － C12	-30.83 ± 0.14	1875 ± 20	AD70-140（66.2%） AD190-210（2.0%）	AD70-220（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
		85	PED－8527	S116 － C15	-28.69 ± 0.19	1840 ± 20	AD130-215（68.2%）	AD90-100（1.0%） AD120-240（94.4%）	竪穴住居		樹種同定
		88	PED－8528	S117 － C6	-27.99 ± 0.28	1700 ± 25	AD260-280（9.8%） AD330-400（58.4%）	AD250-410（95.4%）	竪穴住居	棟木？	樹種同定
		92	PED－8529	S117 － C22	-28.76 ± 0.15	1680 ± 20	AD340-405（68.2%）	AD260-290（7.7%） AD320-420（87.7%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		94	PED－8530	S120 － C3	-26.25 ± 0.13	1850 ± 20	AD125-180（45.1%） AD185-215（23.1%）	AD80-240（95.4%）	竪穴住居		
		97	PED－8531	S127 － C3	-28.42 ± 0.11	1930 ± 20	AD25-40（7.3%） AD50-90（52.0%） AD105-120（8.9%）	AD20-130（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
		104	PED－8532	S127 － C14	-27.76 ± 0.13	1975 ± 20	AD0-60（68.2%）	BC40-AD80（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
		109	PED－8533	S154 － C2	-24.90 ± 0.17	1785 ± 20	AD170-190（3.0%） AD210-260（46.5%） AD290-330（18.6%）	AD130-330（95.4%）	竪穴住居		
		110	PED－8534	S161 － C2	-25.92 ± 0.12	2140 ± 20	BC350-320（7.3%） BC210-150（50.4%） BC140-110（10.5%）	BC350-300（15.9%） BC210-90（79.5%）	竪穴住居		
	6	197	PED－9526	S119 － P11 埋土	-23.65 ± 0.14	2115 ± 20	BC195-105（68.2%）	BC210-50（95.4%）	住居内ピット	果実・果実片・種子・子葉半形	種実同定
		200	PED－9527	S155 － SC1 埋土	-22.81 ± 0.17	2165 ± 20	BC350-310（34.4%） BC210-170（33.8%）	BC360-280（46.8%） BC260-150（46.1%） BC140-110（2.5%）	住居内土坑	果実・果実片・子葉完形	種実同定
3次B	3	2	Beta－226325	S19 － C4	-25.4	1740 ± 50	AD240-380（68%）	AD140-410（95%）	竪穴住居		
		3	Beta－226326	S154 － C1	-27.1	1780 ± 40	AD220-260,AD290-320（68%）	AD130-350（95%）	竪穴住居		樹種同定
		4	Beta－226327	S154 － C2	-27.6	1880 ± 40	AD80-140（68%）	AD50-230（95%）	竪穴住居		樹種同定
		5	Beta－226328	S164 － C7	-26.7	1870 ± 40	AD80-210（68%）	AD60-240（95%）	竪穴住居		樹種同定
		6	Beta－226329	S164 － C10	-23.8	1990 ± 40	BC40-AD60（68%）	BC60-AD80（95%）	竪穴住居		樹種同定
		7	Beta－226330	S164 － C14	-26.6	1920 ± 40	AD50-120（68%）	AD10-140（95%）	竪穴住居		
		8	Beta－226331	S150 － C1	-25.6	1810 ± 40	AD140-250（68%）	AD120-260,280-330（95%）	竪穴住居		樹種同定
		9	Beta－226332	S150 － C5	-27.1	1830 ± 40	AD130-240（68%）	AD80-260,AD300-310（95%）	竪穴住居		樹種同定
		10	Beta－226333	S150 － C8	-26.2	1750 ± 40	AD240-340（68%）	AD210-390（95%）	竪穴住居		
		11	Beta－226334	S21 － C1	-25.9	1810 ± 40	AD140-250（68%）	AD120-260,280-330（95%）	竪穴住居		樹種同定
		12	Beta－226335	S21 － C2	-25.5	1770 ± 40	AD230-260,AD280-330（68%）	AD140-380（95%）	竪穴住居		樹種同定
		13	Beta－226336	S21 － C6	-26.8	1730 ± 60	AD240-390（68%）	AD140-420（95%）	竪穴住居		
		14	Beta－226337	S26 － C4	-25.7	1680 ± 40	AD330-410（68%）	AD250-430（95%）	竪穴住居		
		15	Beta－226338	S26 － C5	-28.3	1710 ± 40	AD260-300,AD310-390（68%）	AD240-420（95%）	竪穴住居		樹種同定
		16	Beta－226339	S26 － C6	-27.8	1660 ± 40	AD350-420（68%）	AD260-290,320-440,490-520（95%）	竪穴住居		
		17	Beta－226340	S13 － C67	-27.2	1900 ± 40	AD60-130（68%）	AD20-220（95%）	竪穴住居		
		18	Beta－226341	S28 － C1	-27.5	1600 ± 40	AD410-540（68%）	AD390-550（95%）	区画溝		樹種同定
		19	Beta－226342	S28 － C2	-29.6	2010 ± 40	BC50-AD30（68%）	BC100-AD70（95%）	区画溝		樹種同定
	5	115	PED－8539	S1 － C6	-28.41 ± 0.20	1835 ± 25	AD130-215（68.2%）	AD90-100（1.4%） AD120-250（94.0%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		116	PED－8540	S2 － C2	-29.29 ± 0.13	1830 ± 20	AD135-215（68.2%）	AD120-AD240（95.4%）	竪穴住居	垂木？	樹種同定
		117	PED－8541	S5 － C4	-31.54 ± 0.14	1770 ± 25	AD230-265（29.0%）	AD130-350（95.4%）	竪穴住居	棟木？	樹種同定
		119	PED－8542	S5 － C6	-31.67 ± 0.17	1825 ± 25	AD280-325（39.2%） AD135-200（52.6%） AD205-225（15.6%）	AD120-250（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
		120	PED－8543	S9 － C2	-28.46 ± 0.14	1810 ± 25	AD130-250（68.2%）	AD130-260（93.1%） AD300-320（2.3%）	竪穴住居		樹種同定
		122	PED－8544	S16 － C2	-29.94 ± 0.16	1795 ± 25	AD140-150（4.3%） AD160-200（13.5%） AD210-260（43.6%） AD300-320（6.8%）	AD130-260（81.2%） AD280-330（14.2%）	竪穴住居	垂木	樹種同定

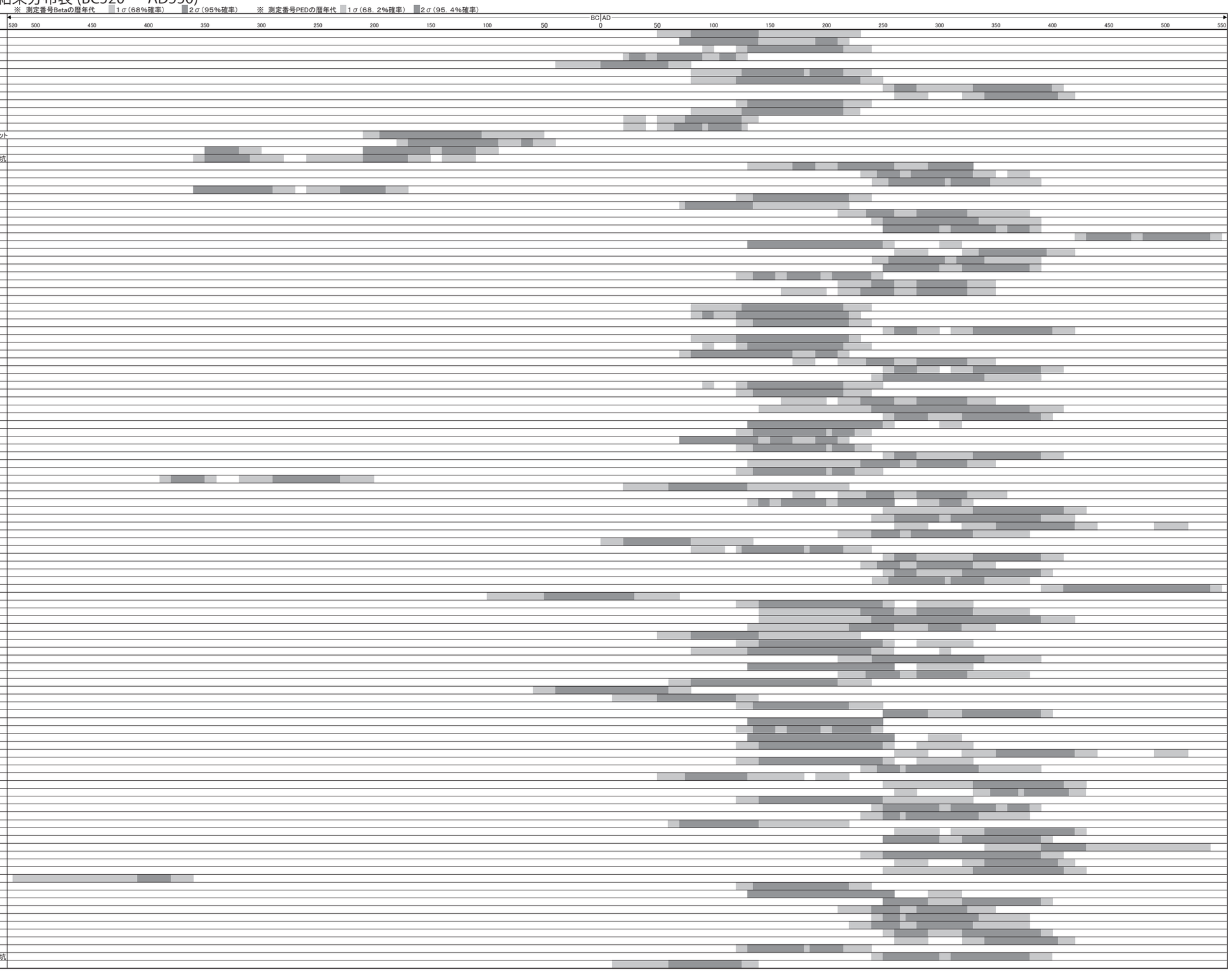
第 130 表　尾花Ａ遺跡放射性炭素年代測定結果一覧表（3）

調査区	委託	試料NO.	測定番号	試料採取位置	δ13測定値(‰)	14C年代(年ＢＰ)	暦年代 (Calendar Age)1σ (Beta:68%確率，PED:68.2%確率)	暦年代 (Calendar Age)2σ (Beta:95%確率，PED:95.4%確率)	遺構	部位	その他の分析
3次B	5	124	PED－8545	S17 － C7	-31.00 ± 0.22	1700 ± 25	AD260-280（10.8%） AD330-390（57.4%）	AD250-410（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
		125	PED－8546	S18 － C1	-30.72 ± 0.16	1875 ± 25	AD70-140（54.8%） AD150-170（6.0%） AD190-210（7.4%）	AD70-220（95.4%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		126	PED－8547	S139 － C1	-26.52 ± 0.14	1715 ± 25	AD250-290（20.4%） AD320-390（47.8%）	AD250-400（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
		130	PED－8548	S150 － C11	-31.02 ± 0.14	1800 ± 25	AD130-260（68.2%）	AD130-260（85.8%） AD280-330（9.6%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		133	PED－8549	S150 － C15	-29.33 ± 0.12	1760 ± 25	AD235-265（23.5%） AD280-325（44.7%）	AD210-380（95.4%）	竪穴住居	垂木	樹種同定
		140	PED－8550	S217 － C2	-28.17 ± 0.14	1830 ± 25	AD135-220（68.2%）	AD120-AD250（95.4%）	土坑		
		142	PED－8552	S2531 －	-29.30 ± 0.13	1760 ± 25	AD240-265（21.6%） AD275-330（46.6%）	AD210-380（95.4%）	竪穴住居		
		144	PED－8553	S2012 － C2	-29.28 ± 0.14	1700 ± 25	AD260-280（10.9%） AD330-390（57.3%）	AD250-410（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
	6	219	PED－9528	S29 － 床上	-26.68 ± 0.15	2240 ± 25	BC380-350（19.1%） BC290-230（49.1%）	BC390-340（25.7%） BC320-200（69.7%）	土坑	子葉半形	種実同定
		220	PED－9529	S67 － 底	-26.47 ± 0.16	1850 ± 20	AD125-180（44.7%） AD185-215（23.5%）	AD80-110（6.5%） AD120-240（88.9%）	土坑		種実同定
		228	PED－9530	S34 － Ⅳ層	-26.24 ± 0.18	1770 ± 20	AD230-260（29.6%） AD280-325（38.6%）	AD160-200（2.4%） AD210-350（93.0%）	土坑	果実・果実片	種実同定
		231	PED－9531	S44 － 底	-28.33 ± 0.15	1825 ± 20	AD135-200（51.7%） AD205-225（16.5%）	AD120-240（95.4%）	土坑		種実同定
		241	PED－9532	S90 － b 埋土	-26.91 ± 0.14	1945 ± 25	AD20-80（68.2%）	AD0-130（95.4%）	土坑	果実	種実同定
		251	PED－9536	S103 － 底	-24.90 ± 0.15	1825 ± 20	AD135-200（51.7%） AD205-225（16.5%）	AD120-240（95.4%）	土坑	果実・果実片	種実同定
		280	PED－9539	S13 － C20	-27.89 ± 0.13	1765 ± 20	AD235-260（27.1%） AD280-325（41.1%）	AD170-190（1.3%） AD210-350（94.1%）	竪穴住居	核片	種実同定
		283	PED－9540	S19 － C8	-23.59 ± 0.14	1710 ± 25	AD260-290（17.6%） AD320-390（50.6%）	AD250-400（95.4%）	竪穴住居	子葉完形	種実同定
3次C	4	2	Beta－226359	S24 － C3	-26.5	1810 ± 40	AD140-250（68%）	AD120-260,280-330（95%）	竪穴住居	垂木片？	樹種同定
		5	Beta－226360	S24 － C8	-25.9	1660 ± 40	AD350-420（68%）	AD260-290,320-440,490-520（95%）	竪穴住居	垂木片・屋根材	樹種同定
		8	Beta－226361	S24 － C11	-26.6	1810 ± 40	AD140-250（68%）	AD120-260,280-330（95%）	竪穴住居	垂木片？	樹種同定
		10	Beta－226362	S40 － C1	-29.3	1680 ± 40	AD330-410（68%）	AD250-430（95%）	竪穴住居		
		13	Beta－226363	S41 － C6	-27.1	1670 ± 40	AD340-420（68%）	AD260-300,310-430（95%）	竪穴住居	垂木片？	樹種同定
		16	Beta－226364	S42 － C2	-25.3	1630 ± 40	AD390-430（68%）	AD340-540（95%）	竪穴住居		
		17	Beta－226365	S68 － C3	-25.4	1720 ± 40	AD250-390（68%）	AD230-410（95%）	土坑		
		18	Beta－226366	S80 － C1	-27.3	1800 ± 40	AD140-250（68%）	AD120-330（95%）	竪穴住居		
		19	Beta－226367	S81 － C1	-28.4	1680 ± 40	AD330-410（68%）	AD250-430（95%）	竪穴住居		樹種同定
	5	146	PED－8554	S7 － C3	-25.29 ± 0.10	1670 ± 25	AD345-370（21.8%） AD375-415（46.4%）	AD260-280（4.0%） AD330-430（91.4%）	竪穴住居		樹種同定
		147	PED－8555	S10 － C3	-29.84 ± 0.13	1800 ± 25	AD130-260（68.2%）	AD130-260（88.2%） AD290-320（7.2%）	竪穴住居		樹種同定
		148	PED－8556	S19 － C1	-29.33 ± 0.13	1745 ± 25	AD245-265（14.8%） AD270-335（53.4%）	AD230-390（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
		150	PED－8557	S41 － C14	-27.17 ± 0.14	1725 ± 25	AD250-300（35.8%） AD310-350（25.4%） AD360-380（7.0%）	AD240-390（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
		152	PED－8558	S42 － C4	-30.16 ± 0.16	1715 ± 25	AD250-300（30.2%） AD320-390（38.0%）	AD250-400（95.4%）	竪穴住居		樹種同定
		153	PED－8559	S44 － C1	-30.26 ± 0.12	1880 ± 25	AD70-140（68.2%）	AD60-AD220（95.4%）	竪穴住居	垂木片？	樹種同定
		154	PED－8560	S62 － C2	-26.95 ± 0.14	1895 ± 25	AD75-130（68.2%）	AD50-180（92.3%） AD190-220（3.1%）	土坑		
	6	297	PED－9541	S43 － c 埋土	-22.73 ± 0.15	1745 ± 20	AD250-265（12.7%） AD270-335（55.5%）	AD230-380（95.4%）	竪穴住居	子葉破片	種実同定

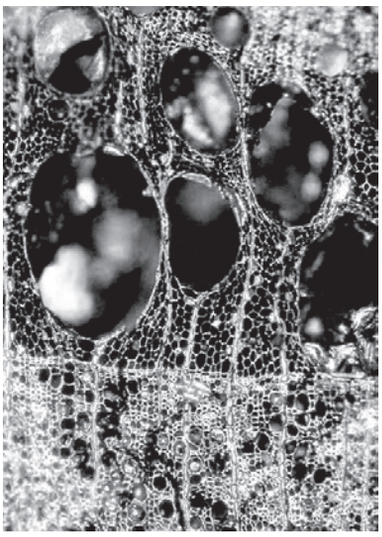
第 131 表　尾花 A 遺跡年代測定結果分布表 (BC520 ～ AD550)

※ 測定番号Betaの暦年代　1σ（68%確率）　2σ（95%確率）　※ 測定番号PEDの暦年代　1σ（68．2%確率）　2σ（95．4%確率）

位置	調査区	委託	試料No.	測定番号	試料採取位置	遺構
北	3次A	2	1	Beta－226343	S4 ― C4	土坑
		5	83	PED－8526	S116 ― C12	竪穴住居
			85	PED－8527	S116 ― C15	竪穴住居
			97	PED－8531	S127 ― C3	竪穴住居
			104	PED－8532	S127 ― C14	竪穴住居
			94	PED－8530	S120 ― C3	竪穴住居
		2	2	Beta－226344	S158 ― C1	土坑
		5	88	PED－8528	S117 ― C6	竪穴住居
			92	PED－8529	S117 ― C22	竪穴住居
			60	PED－8522	S109 ― C1③	竪穴住居
			67	PED－8523	S110 ― C14	竪穴住居
			59	PED－8521	S108 ― C1	竪穴住居
			58	PED－8520	S107 ― C24	竪穴住居
		6	197	PED－9526	S119 ― P11埋土	住居内ピット
		5	57	PED－8519	S106 ― C1	竪穴住居
			110	PED－8534	S161 ― C2	竪穴住居
		6	200	PED－9527	S155 ― SC1埋土	住居内土坑
		5	109	PED－8533	S154 ― C2	竪穴住居
			77	PED－8524	S112 ― C18	竪穴住居
			80	PED－8525	S113 ― C1	竪穴住居
			48	PED－8516	S101 ― C1	竪穴住居
			49	PED－8517	S102 ― C1	竪穴住居
			53	PED－8518	S102 ― C9	竪穴住居
	1次拡張	5	26	PED－8500	S105 ― C1	竪穴住居
			27	PED－8501	S105 ― C3	竪穴住居
			25	PED－8499	S101 ― C1	土坑
		6	93	PED－9510	S101 ― 埋土	土坑
			35	PED－9503	S37 ― 床上	竪穴住居
	2次	5	42	PED－8512	S3001 ― C1	竪穴住居
			43	PED－8513	S3001 ― C10	竪穴住居
			44	PED－8514	S3001 ― C14	竪穴住居
		6	190	PED－9524	S3001 ― 822内包土	竪穴住居
	1次拡張	5	23	PED－8497	S22 ― C12	竪穴住居
			24	PED－8498	S22 ― C13	竪穴住居
		6	6	PED－9498	S409 ― b埋土	竪穴住居
			5	PED－9497	S404 ― 焼土	竪穴住居
		5	29	PED－8502	S570 ― C1	竪穴住居
			31	PED－8503	S570 ― C9	竪穴住居
		6	12	PED－9499	S521 ― S587埋土	竪穴住居
			29	PED－9502	S779埋土	竪穴住居
		5	35	PED－8506	S1016 ― C1	竪穴住居
			36	PED－8507	S1016 ― C11	竪穴住居
			32	PED－8504	S610 ― C1	竪穴住居
			34	PED－8505	S610 ― C3	竪穴住居
		6	27	PED－9501	S610 ― 中央SC埋土	竪穴住居
	3次B	5	115	PED－8539	S1 ― C6	竪穴住居
			116	PED－8540	S2 ― C2	竪穴住居
		6	228	PED－9530	S34 ― Ⅳ層	土坑
		3	2	Beta－226325	S19 ― C4	竪穴住居
		6	283	PED－9540	S19 ― C8	竪穴住居
		5	120	PED－8543	S9 ― C2	竪穴住居
		6	231	PED－9531	S44 ― 底	土坑
		5	125	PED－8546	S18 ― C1	竪穴住居
		6	251	PED－9536	S103 ― 底	土坑
		5	144	PED－8553	S2012 ― C2	竪穴住居
			117	PED－8541	S5 ― C4	竪穴住居
			119	PED－8542	S5 ― C6	竪穴住居
		6	219	PED－9528	S29 ― 床上	土坑
		3	17	Beta－226340	S13 ― C67	竪穴住居
		6	280	PED－9539	S13 ― C20	竪穴住居
		5	122	PED－8544	S16 ― C2	竪穴住居
		3	14	Beta－226337	S26 ― C4	竪穴住居
			15	Beta－226338	S26 ― C5	竪穴住居
			16	Beta－226339	S26 ― C6	竪穴住居
		5	142	PED－8552	S2531 ―	竪穴住居
		6	241	PED－9532	S90 ― b埋土	土坑
			220	PED－9529	S67 ― 底	土坑
		5	124	PED－8545	S17 ― C7	竪穴住居
	2次	5	41	PED－8511	S2016 ― C6	竪穴住居
			39	PED－8509	S2010 ― C1	竪穴住居
			40	PED－8510	S2010 ― C4	竪穴住居
	3次B	3	18	Beta－226341	S28 ― C1	区画溝
			19	Beta－226342	S28 ― C2	区画溝
			11	Beta－226334	S21 ― C1	竪穴住居
			12	Beta－226335	S21 ― C2	竪穴住居
			13	Beta－226336	S21 ― C6	竪穴住居
			3	Beta－226326	S154 ― C1	竪穴住居
			4	Beta－226327	S154 ― C2	竪穴住居
			8	Beta－226331	S150 ― C1	竪穴住居
			9	Beta－226332	S150 ― C5	竪穴住居
			10	Beta－226333	S150 ― C8	竪穴住居
		5	130	PED－8548	S150 ― C11	竪穴住居
			133	PED－8549	S150 ― C15	竪穴住居
		3	5	Beta－226328	S164 ― C7	竪穴住居
			6	Beta－226329	S164 ― C10	竪穴住居
			7	Beta－226330	S164 ― C14	竪穴住居
		5	140	PED－8550	S217 ― C2	土坑
			126	PED－8547	S139 ― C1	竪穴住居
	2次	5	38	PED－8508	S2004 ― C2	竪穴住居
		6	181	PED－9522	S2502 ―	竪穴住居
	3次C	5	147	PED－8555	S10 ― C3	竪穴住居
		4	2	Beta－226359	S24 ― C3	竪穴住居
			5	Beta－226360	S24 ― C8	竪穴住居
			8	Beta－226361	S24 ― C11	竪穴住居
		5	148	PED－8556	S19 ― C1	竪穴住居
			154	PED－8560	S62 ― C2	土坑
		4	10	Beta－226362	S40 ― C1	竪穴住居
		5	146	PED－8554	S7 ― C3	竪穴住居
		4	18	Beta－226366	S80 ― C1	竪穴住居
		5	150	PED－8557	S41 ― C14	竪穴住居
		6	297	PED－9541	S43 ― c埋土	竪穴住居
		5	153	PED－8559	S44 ― C1	竪穴住居
		4	13	Beta－226363	S41 ― C6	竪穴住居
		5	152	PED－8558	S42 ― C4	竪穴住居
		4	16	Beta－226364	S42 ― C2	竪穴住居
			17	Beta－226365	S68 ― C3	土坑
	2次	6	169	PED－9521	S4 ― 地床炉	竪穴住居
	3次C	4	19	Beta－226367	S81 ― C1	竪穴住居
	1次	6	87	PED－9508	SC105 ― 埋土	土坑
		5	9	PED－8485	SA107 ― C4	竪穴住居
			10	PED－8486	SA107 ― C5	竪穴住居
		6	107	PED－9515	SC23 ― 埋土	土坑
		5	4	PED－8480	SA22 ― C1	竪穴住居
			3	PED－8479	SA13 ― C1	竪穴住居
			7	PED－8996	SA13 ― C3	竪穴住居
			6	PED－8482	SA25 ― C1	竪穴住居
			5	PED－8481	SA24 ― C1	竪穴住居
			1	PED－8477	SA3 ― C1	竪穴住居
		6	89	PED－9509	SA18 ― SC1埋土	住居内土坑
南			77	PED－9506	SC201 ― Ⅱ層	土坑

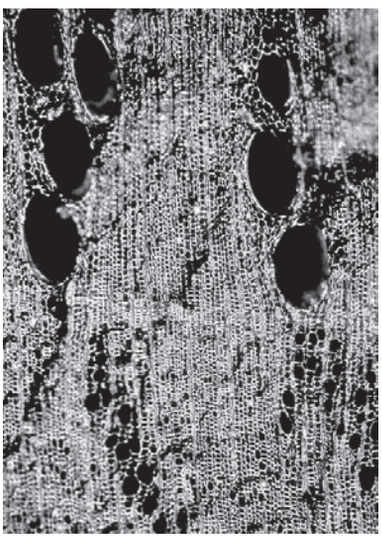
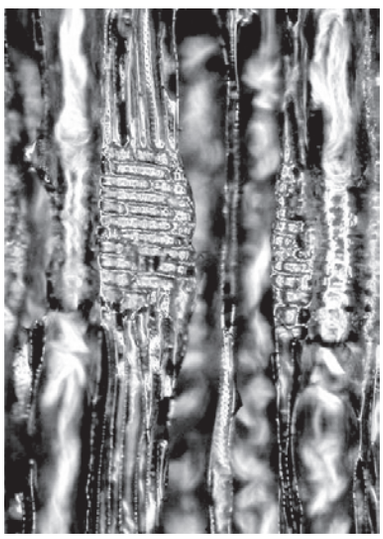
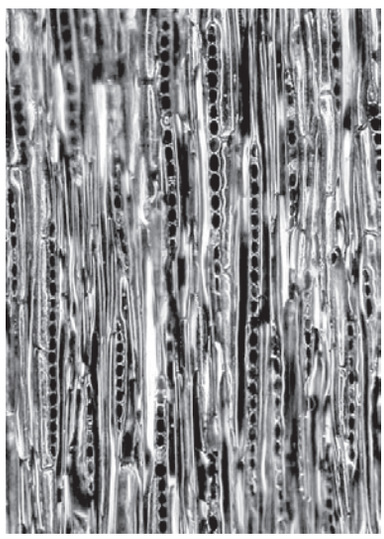


第１図　樹種同定　炭化材断面①



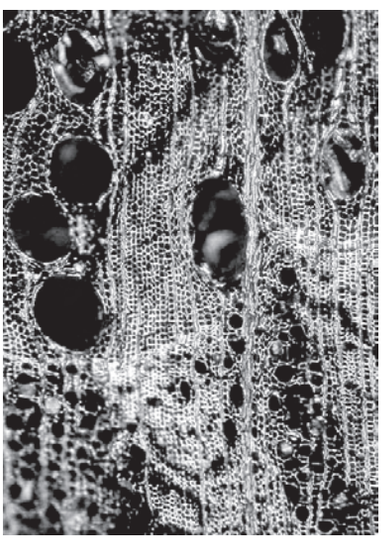
横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

１．一次　SA107-C4　垂木　クリ

横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

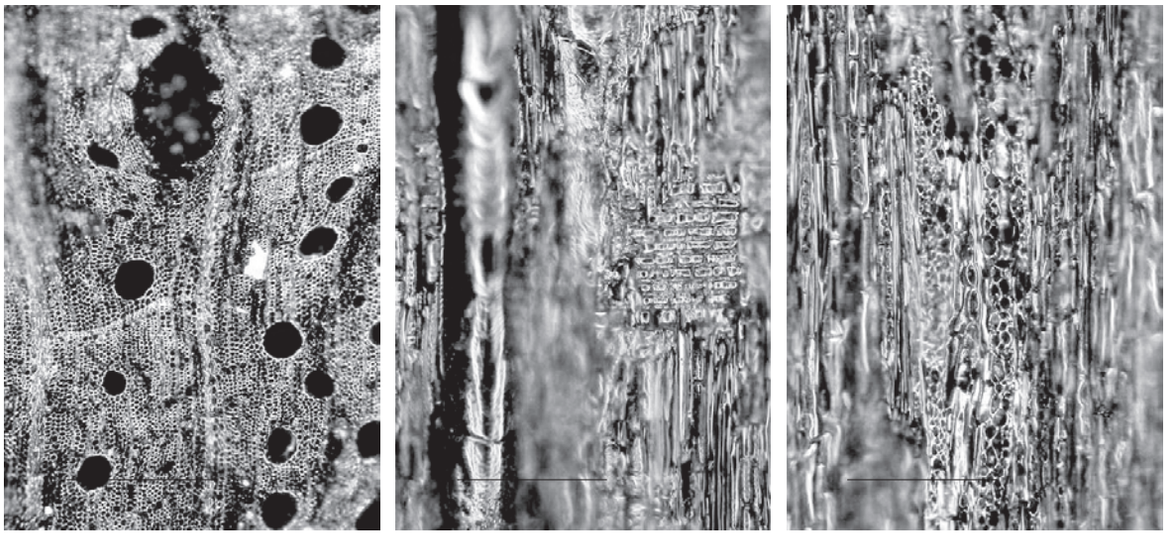
２．三次　（Ａ区）　S110-C9　棟木？　スダジイ



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

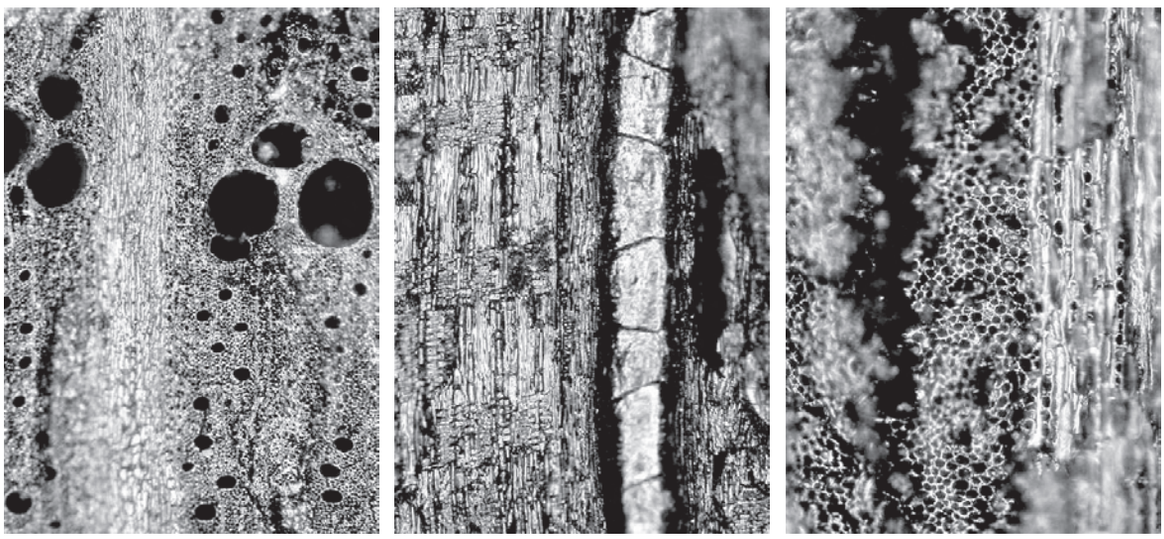
３．三次　（Ｂ区）　S164-C5　ツブラジイ

第２図　樹種同定　炭化材断面②



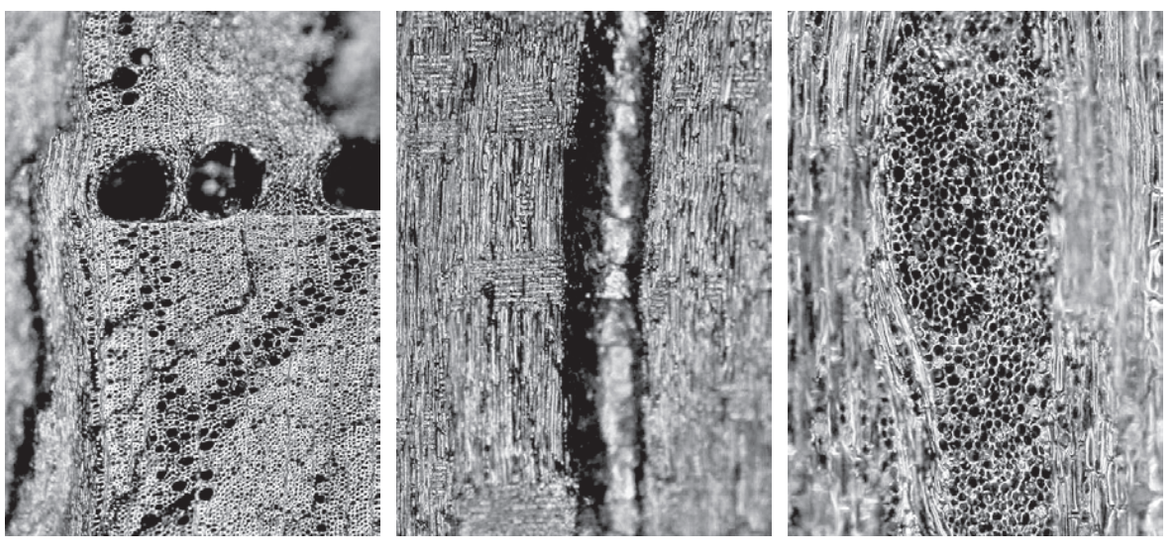
横断面 ━━━━━ ：0.4mm　放射断面━━━━━ ：0.2mm　接線断面━━━━━ ：0.2mm

4.　三次　（Ａ区）　S116-C15　垂木　マテバシイ



横断面 ━━━━━ ：0.4mm　放射断面━━━━━ ：0.4mm　接線断面━━━━━ ：0.2mm

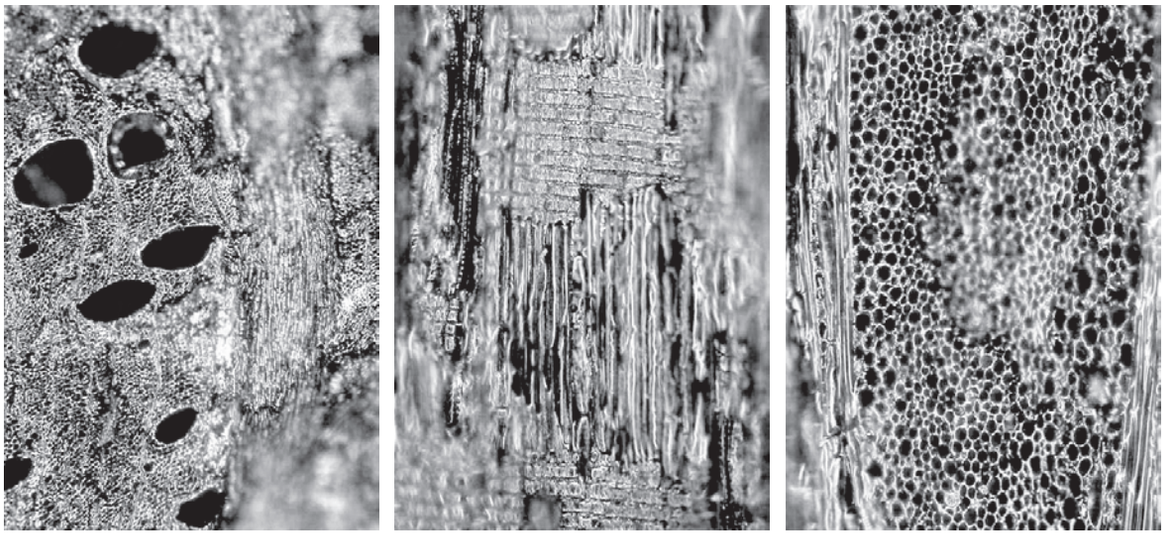
５．三次　（Ａ区）　S117-C4　垂木　コナラ属クヌギ節



横断面 ━━━━━ ：0.4mm　放射断面━━━━━ ：0.4mm　接線断面━━━━━ ：0.2mm

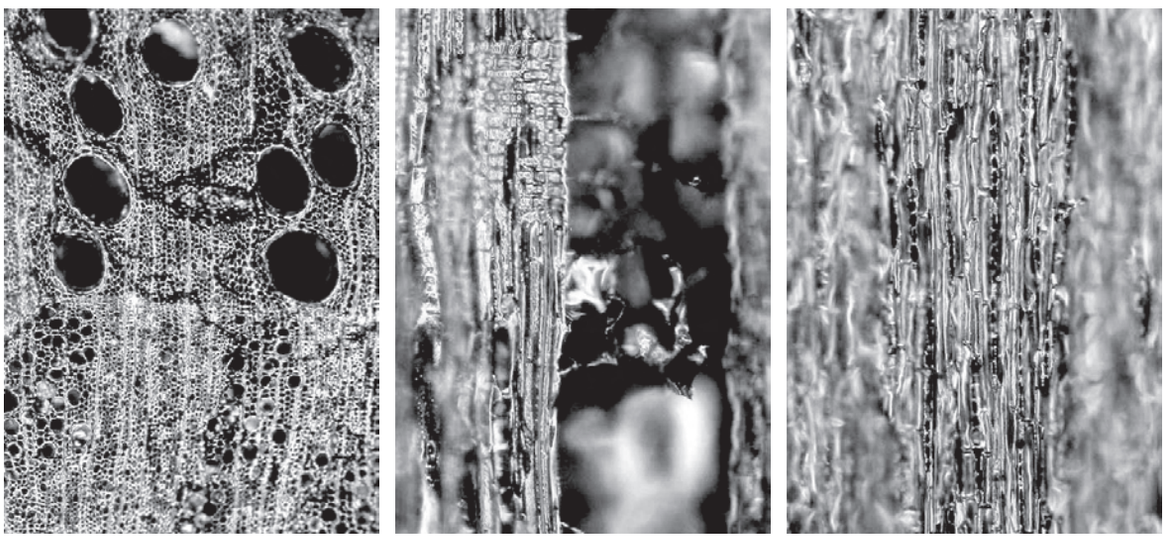
6.　三次　（Ａ区）　S110-C17　垂木　コナラ属コナラ節

第３図　樹種同定　炭化材断面③



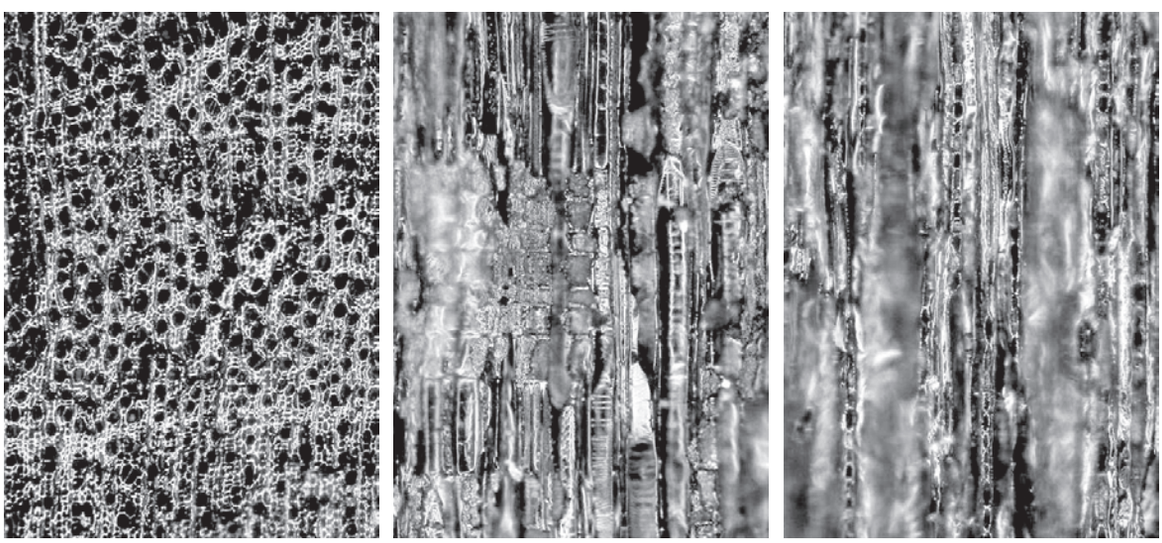
横断面 ：0.4mm　放射断面 ：0.2mm　接線断面 ：0.2mm

７．二次　S3001-C14　コナラ属アカガシ亜属



横断面 ：0.4mm　放射断面 ：0.2mm　接線断面 ：0.2mm

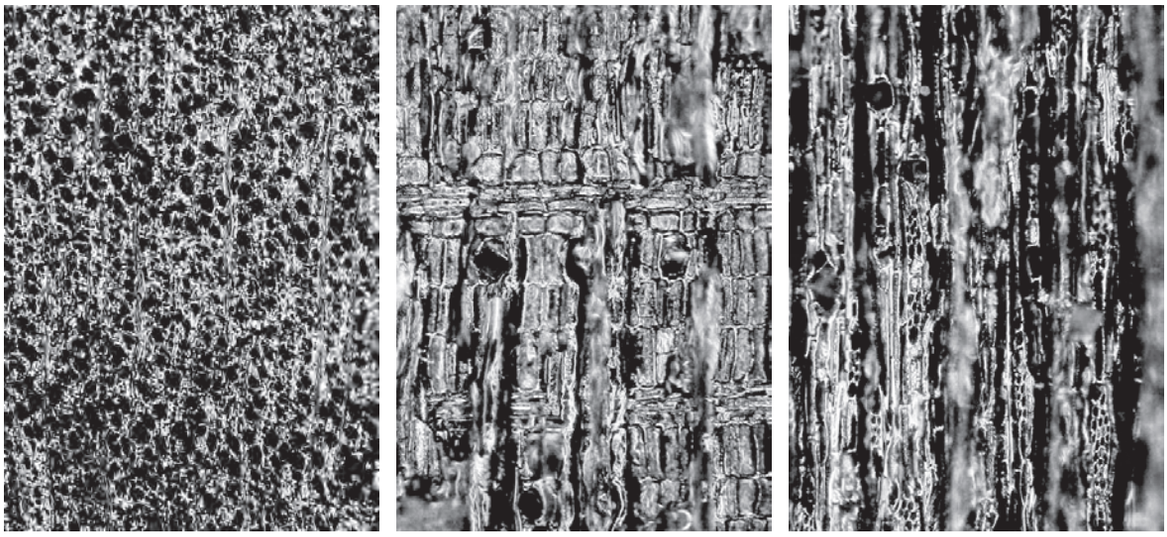
８．三次　（Ａ区）　S102-C12　垂木　シイ属



横断面 ：0.4mm　放射断面 ：0.4mm　接線断面 ：0.2mm

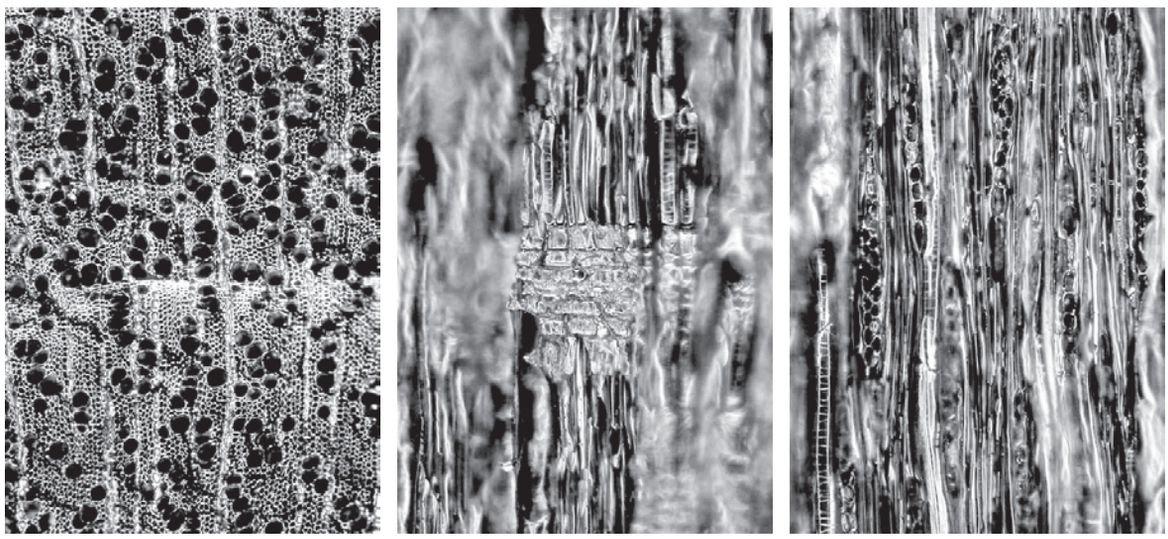
９．一次　（拡張区）　S105-C1　垂木　サカキ

第４図　樹種同定　炭化材断面④



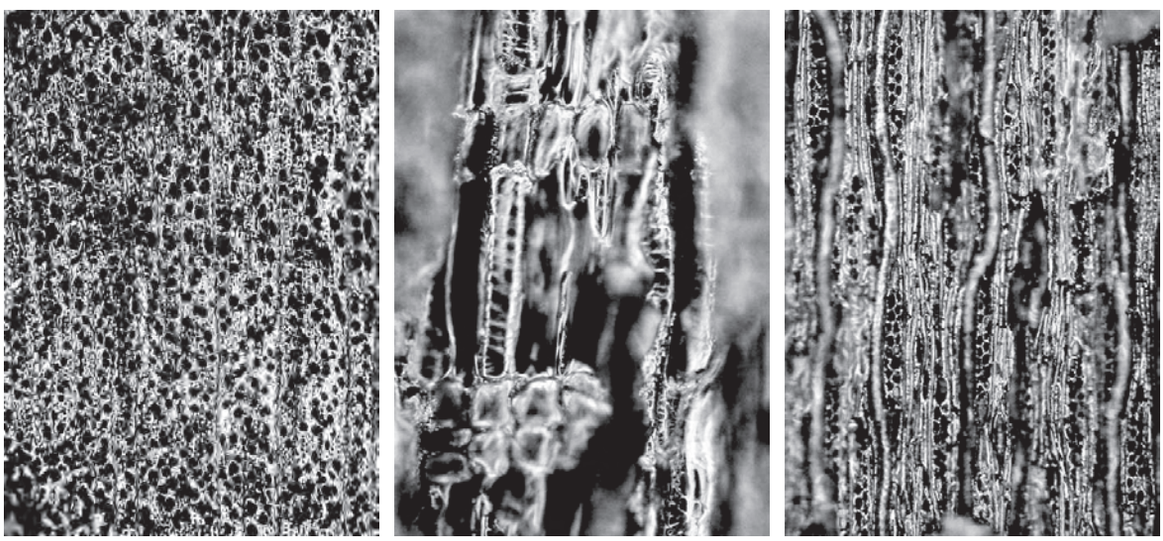
横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

10.　三次　（Ｃ区）　S7-C3　ヤブツバキ



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

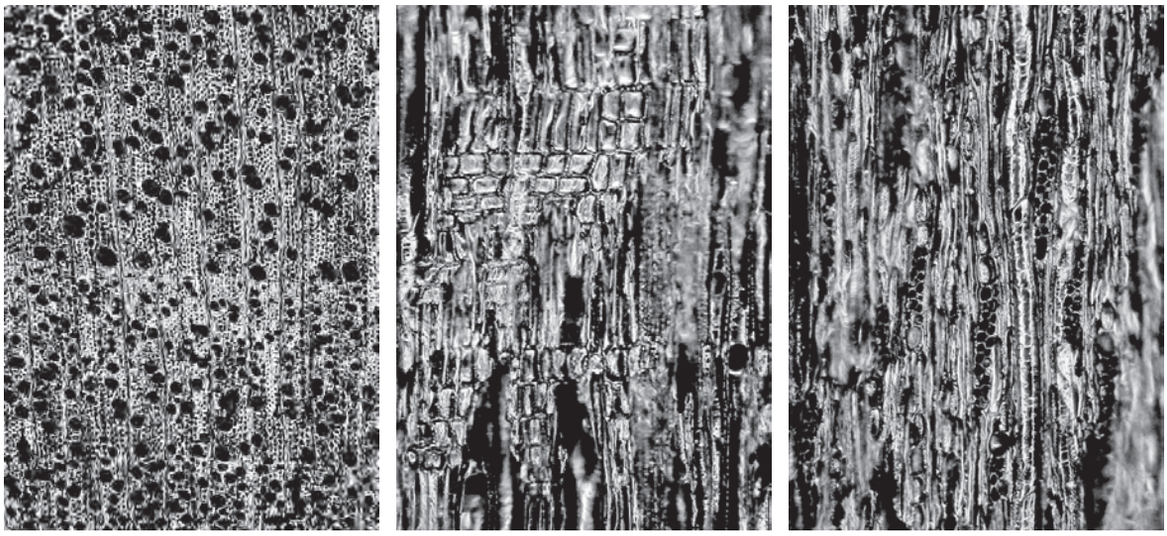
11.　三次　（Ａ区）　S112-C24　サクラ属



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.1mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

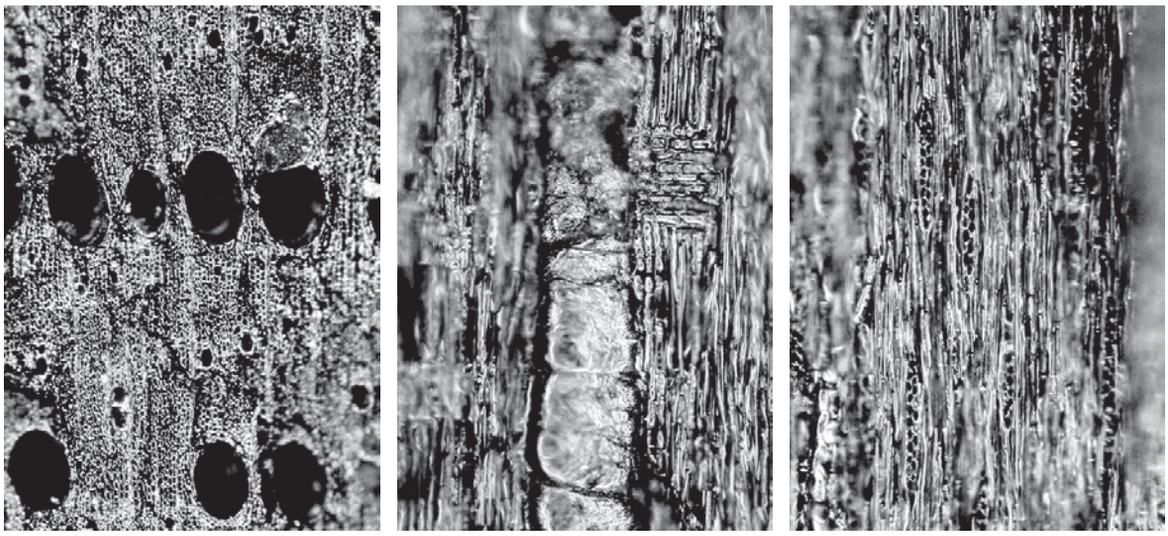
12.　一次　（拡張区）　S22-C19　主柱？　ナシ亜科

第５図　樹種同定　炭化材断面⑤



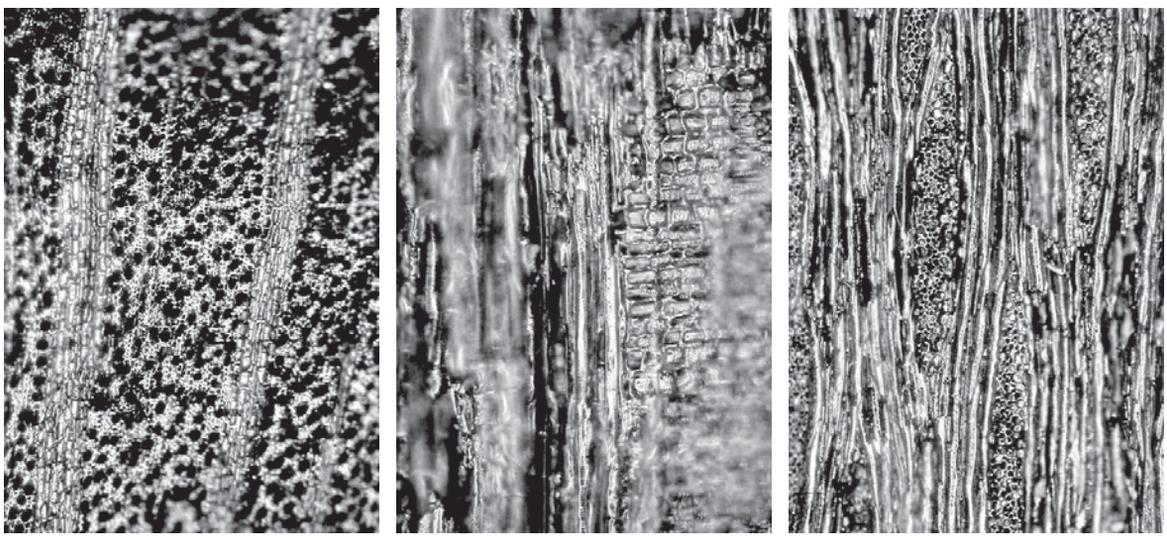
横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

13.　三次　（Ｂ区）　S2012-C5　イボタノキ属



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

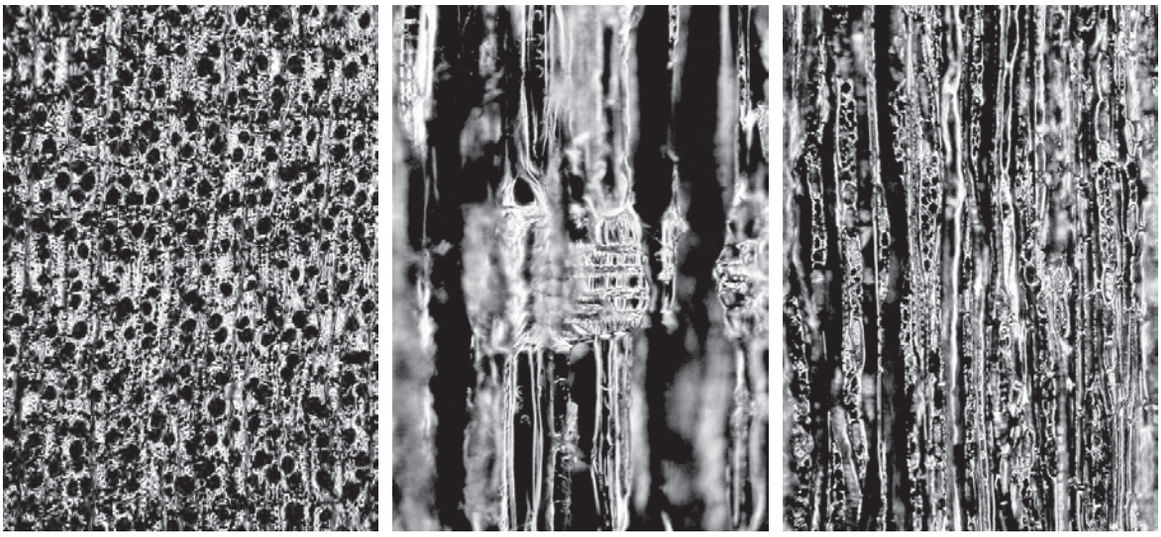
14.　三次　（Ａ区）　S102-C7　トネリコ属



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.4mm

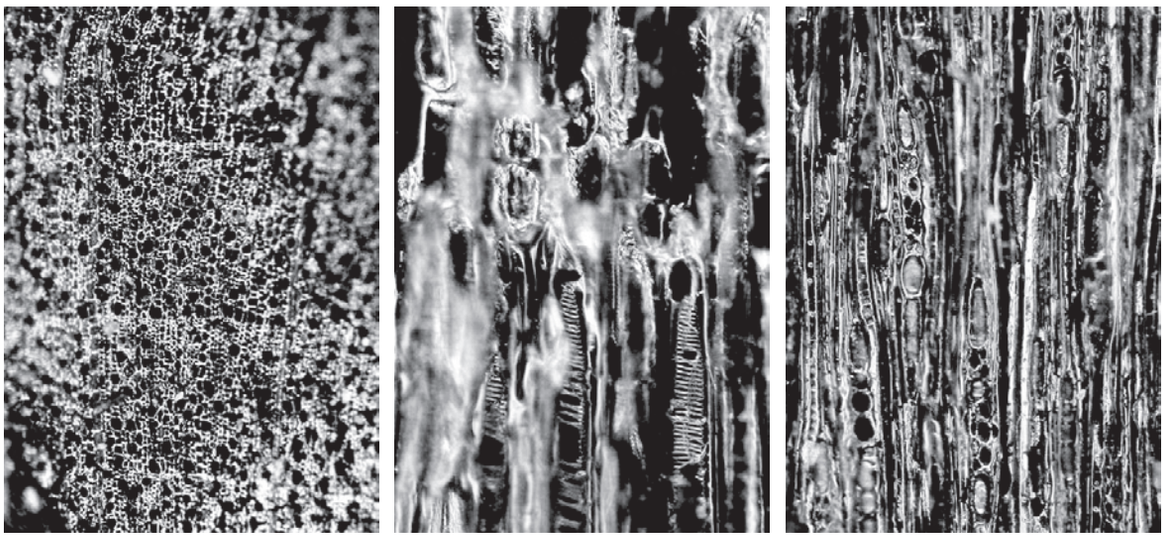
15.　一次　（拡張区）　S570-C9　垂木　シャシャンボ

第６図　樹種同定　炭化材断面⑥



横断面 ：0.4mm　放射断面 ：0.1mm　接線断面 ：0.2mm

16.　三次　（Ｂ区）　S21-C1　イスノキ



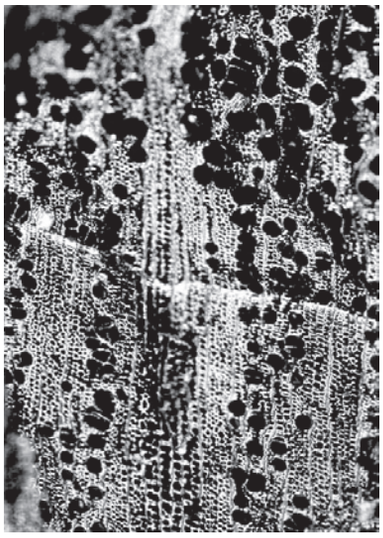
横断面 ：0.4mm　放射断面 ：0.4mm　接線断面 ：0.4mm

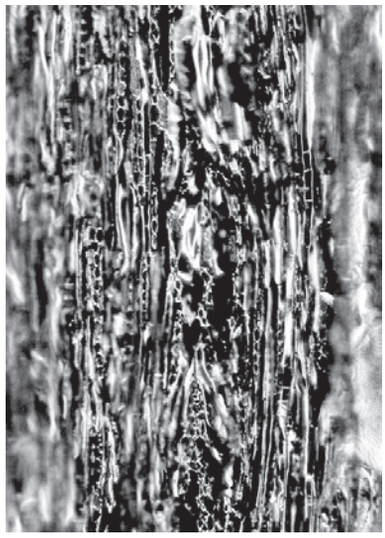
17.　一次　（拡張区）　S105-C7　垂木　シキミ

横断面 ：0.4mm　放射断面 ：0.1mm　接線断面 ：0.2mm

18.　三次　（Ｃ区）　S24-C3　垂木片？　ヤマモモ

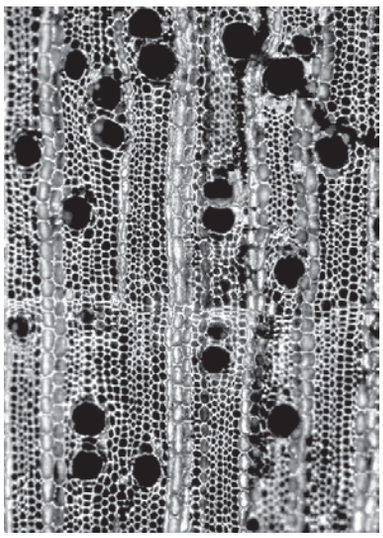
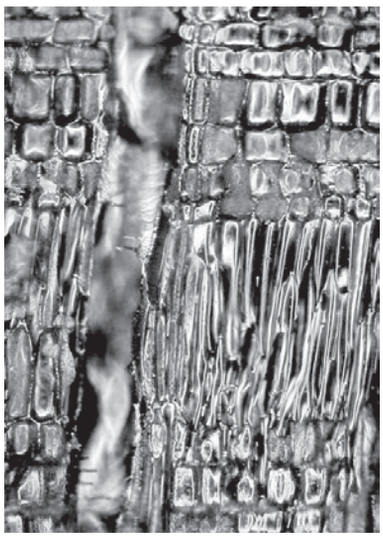
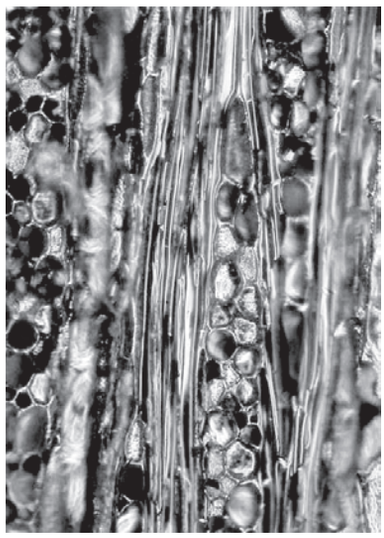
第７図　樹種同定　炭化材断面⑦





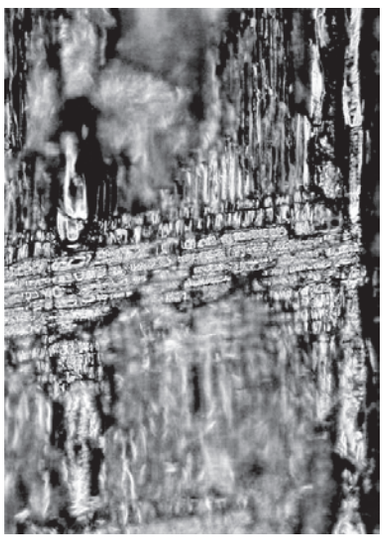
横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

19.　三次　（Ｂ区）　S150-C5　ハンノキ属ハンノキ節

横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

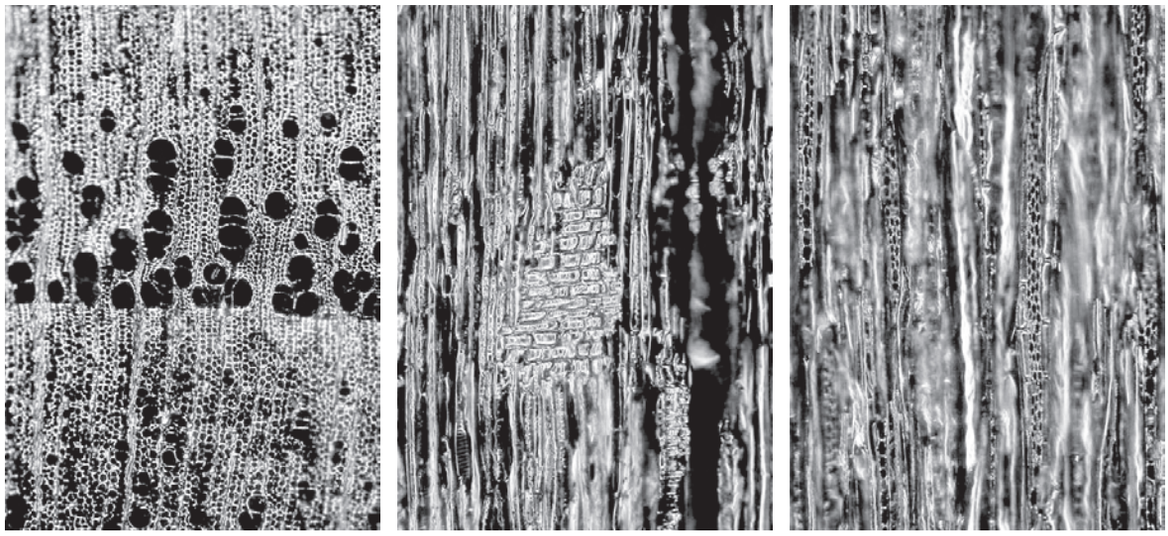
20.　三次　（Ｂ区）　S16-C2　垂木　アワブキ属



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

21.　一次　（拡張区）　S38-C8　垂木　ウルシ属

第８図　樹種同定　炭化材断面⑧



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

22.　三次　（Ａ区）　S110-C18　垂木　エゴノキ属

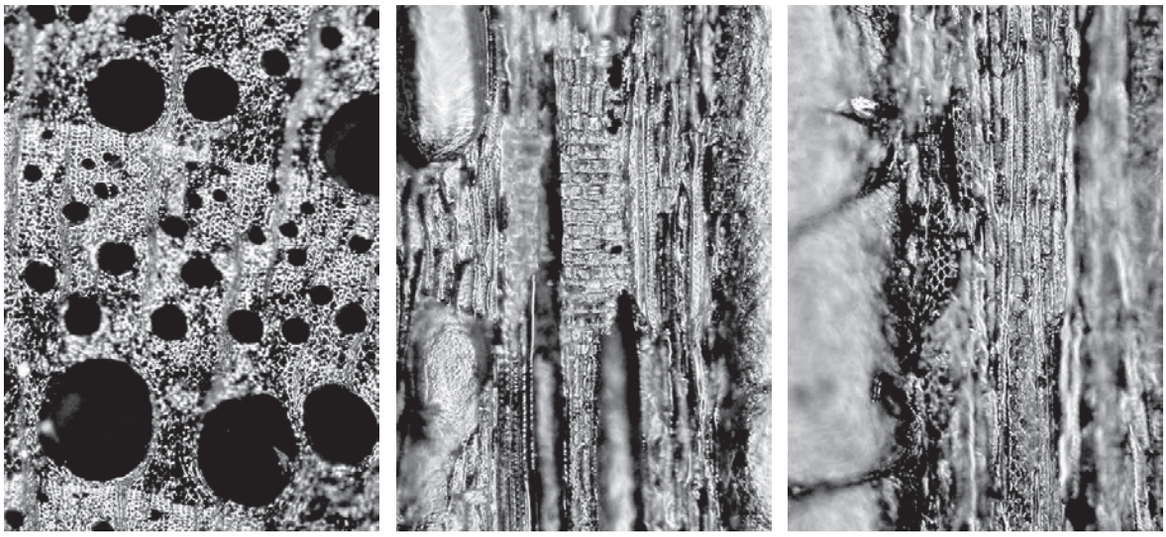
横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.4mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

23.　一次　（拡張区）　S570-C9　主柱or梁・桁　カキノキ属

横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

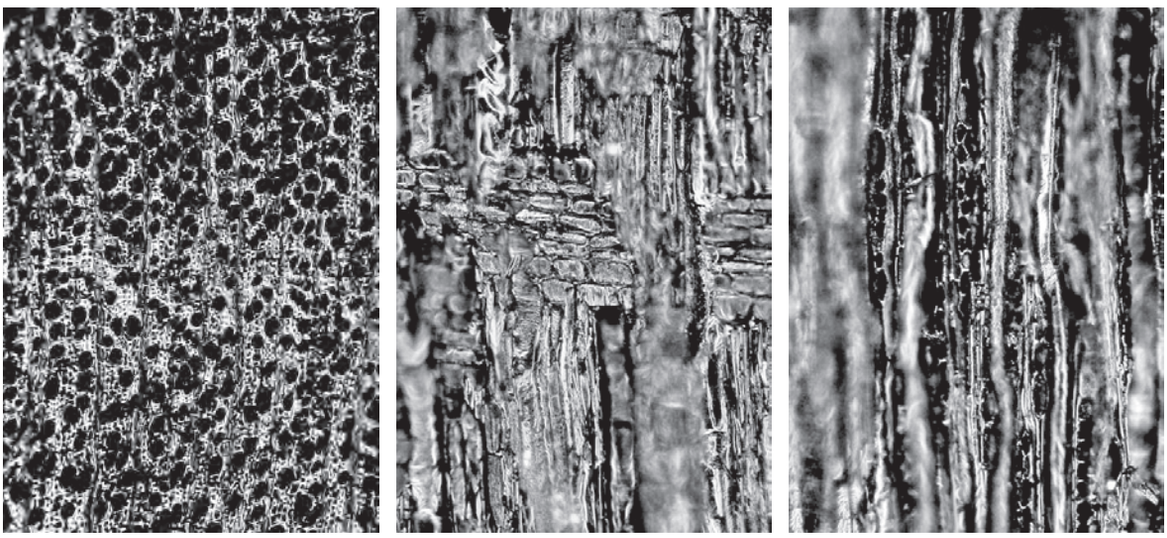
24.　三次　（Ａ区）　S102-C15　ハイノキ属

第９図　樹種同定　炭化材断面⑨



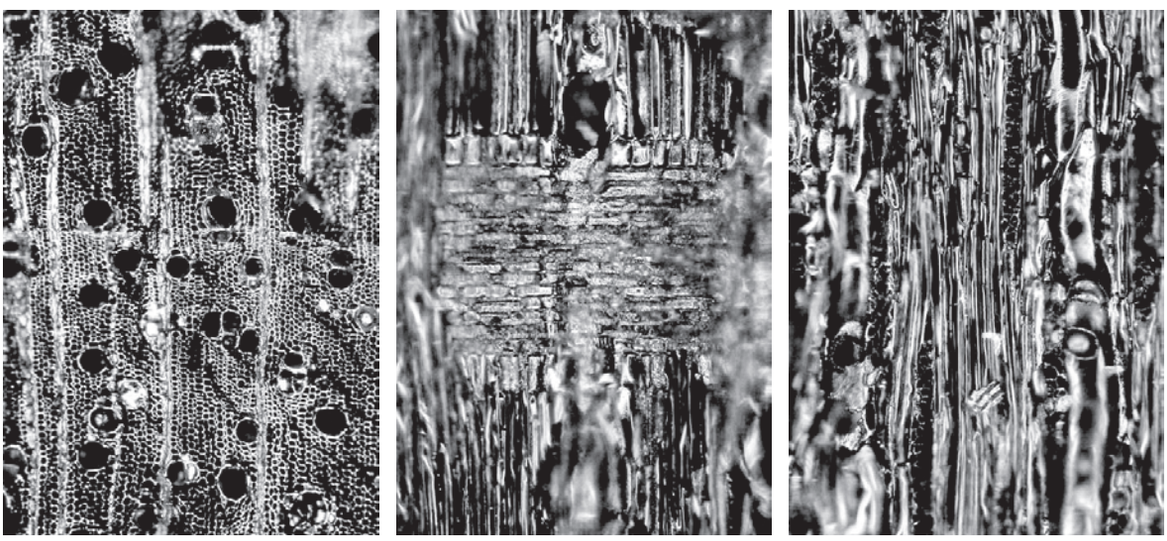
横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

25.　三次　（Ｂ区）　S5-C6　マタタビ属



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

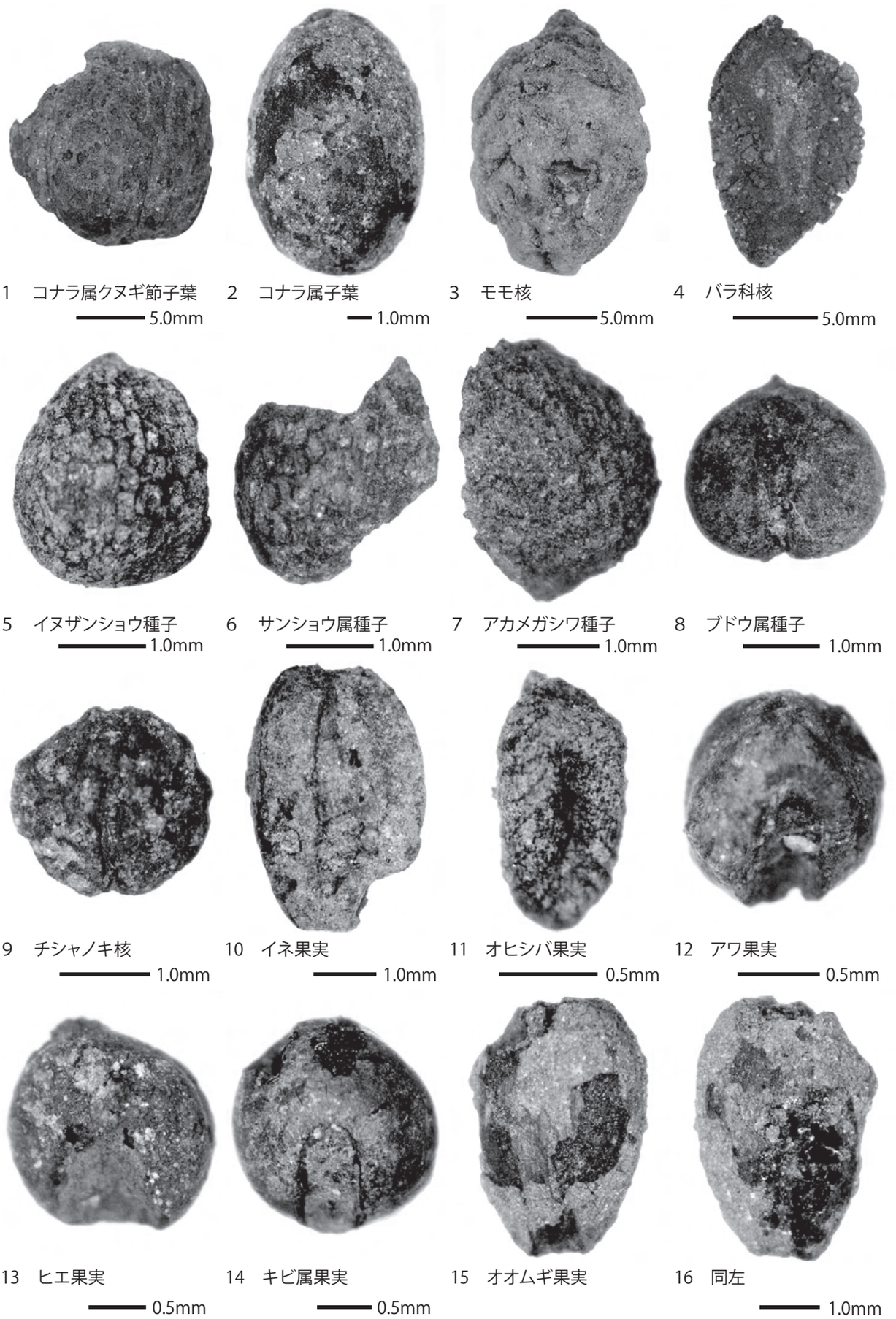
26.　三次　（Ａ区）　S110-C4　ユズリハ属



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接線断面 ―――― ：0.2mm

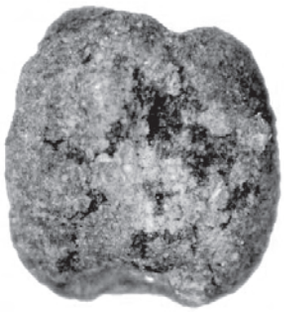
27.　一次　（拡張区）　S105-C3　垂木　クスノキ科

第10図　種実同定　種実①

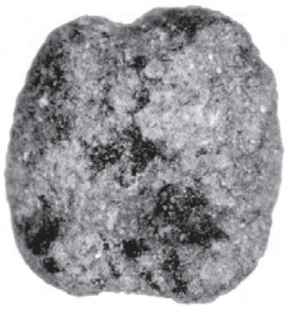


1　コナラ属クヌギ節子葉　5.0mm
2　コナラ属子葉　1.0mm
3　モモ核　5.0mm
4　バラ科核　5.0mm
5　イヌザンショウ種子　1.0mm
6　サンショウ属種子　1.0mm
7　アカメガシワ種子　1.0mm
8　ブドウ属種子　1.0mm
9　チシャノキ核　1.0mm
10　イネ果実　1.0mm
11　オヒシバ果実　0.5mm
12　アワ果実　0.5mm
13　ヒエ果実　0.5mm
14　キビ属果実　0.5mm
15　オオムギ果実
16　同左　1.0mm

第11図　種実同定　種実②

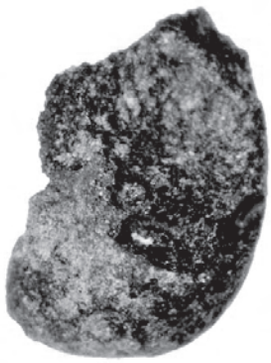


17　コムギ果実

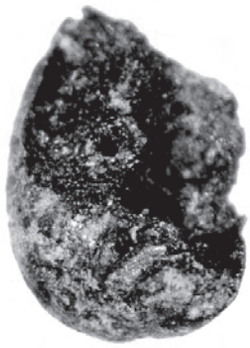


18　同左

1.0mm



19　ムギ類果実



20　同左

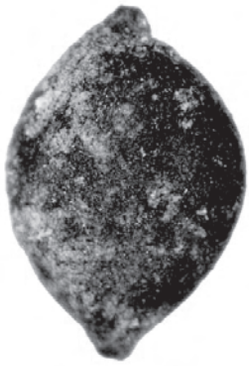
1.0mm

21　イネ科穎

0.5mm

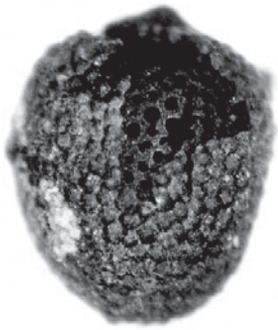
22　イネ科果実

0.5mm



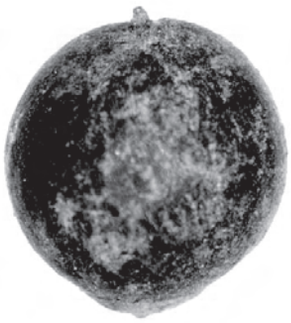
23　カヤツリグサ科果実

0.5mm



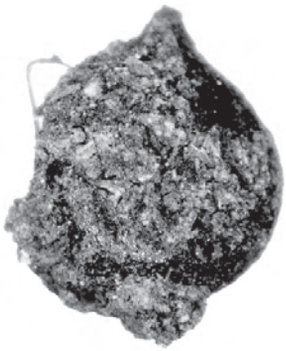
24　コキンバイザサ種子

0.5mm



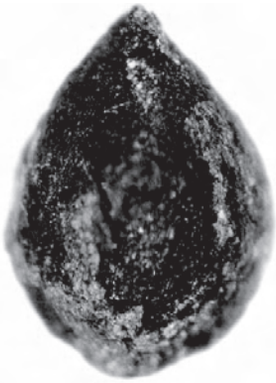
25　イシミカワ種子

1.0mm



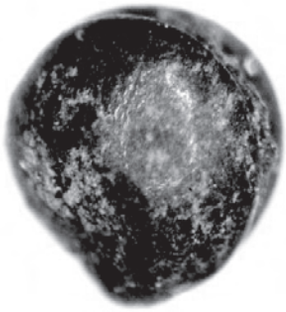
26　タデ属サナエタデ節果実

0.5mm



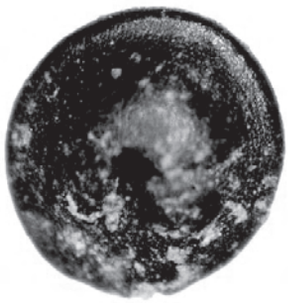
27　タデ属果実

0.5mm



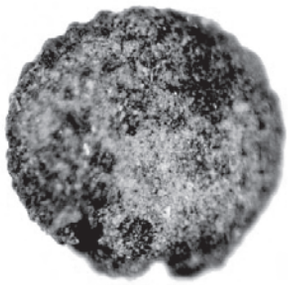
28　アカザ属種子

0.1mm



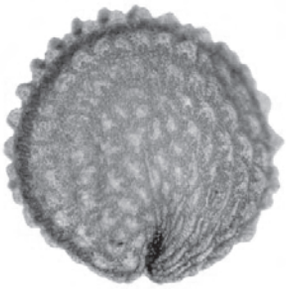
29　ヒユ属種子

0.1mm



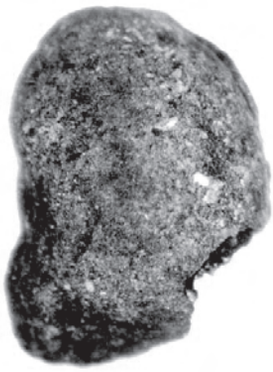
30　ナデシコ科種子

0.1mm



31　ナデシコ科種子

0.1mm



32　ハギ属子葉

0.5mm

第12図　種実同定　種実③

33　ササゲ属子葉

34　同左

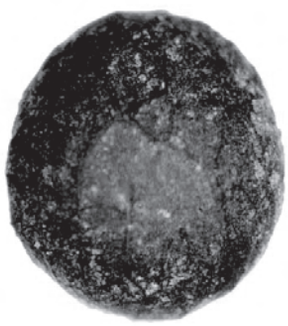
1.0mm

35　オトギリソウ属種子

0.5mm

36　マメグンバイナズマ属
ーグンバイナズマ属

0.5mm



37　エゴマ果実

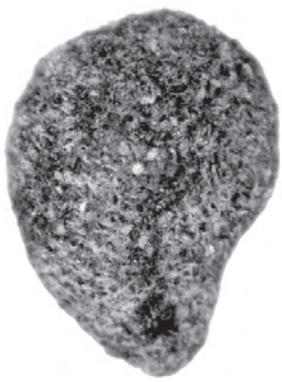
0.5mm

38　キランソウ属果実

0.5mm

39　シソ科果実

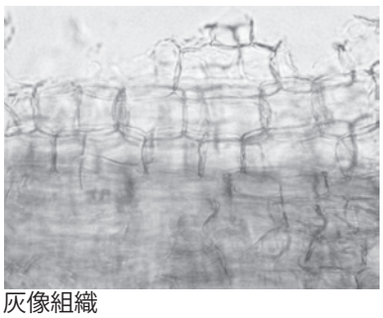
0.5mm

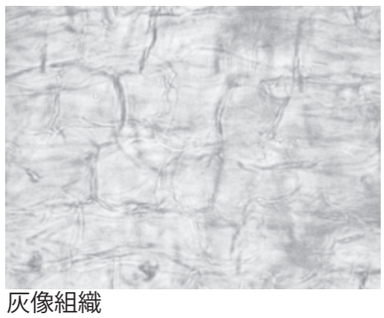


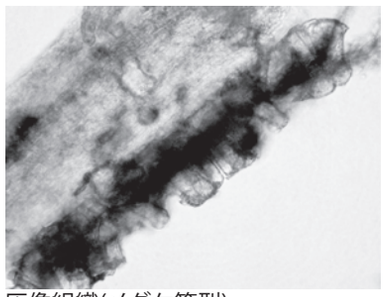
40　ナス科種子

0.5mm

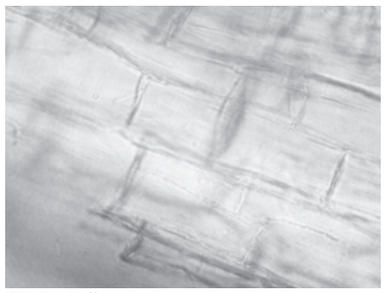
第13図　灰像および植物珪酸体（プラント・オパール）　三次Ａ区Ｓ１０２・Ｓ１０９


灰像組織
S109-C1①


灰像組織
S109-C1②

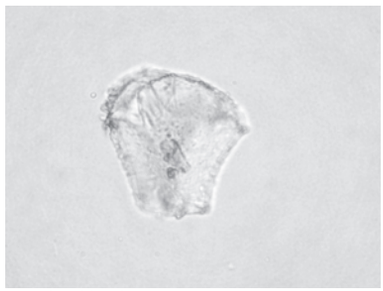

灰像組織(メダケ節型)
S109-C1②

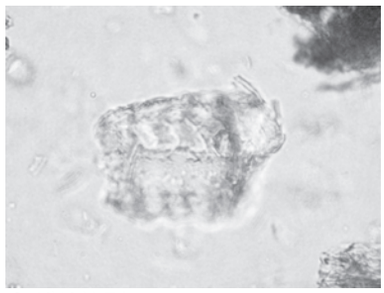
灰像組織
S109-C1③

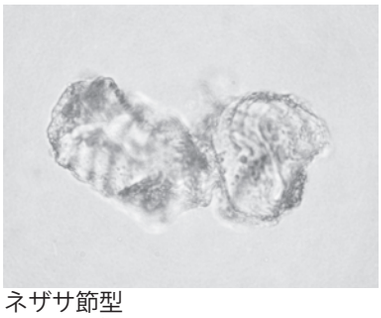

灰像組織
S109-C1④

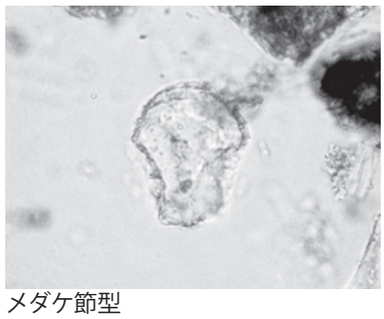
灰像組織
S102-Cb

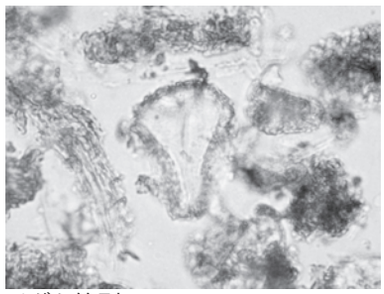
灰像組織
S102-Cd

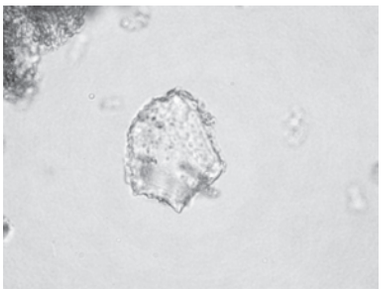

ネザサ節型
S109-C1②

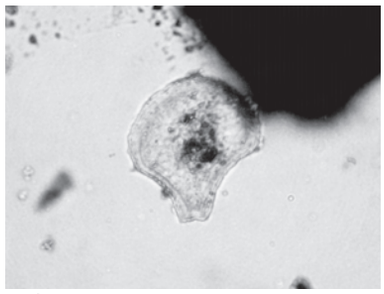

ネザサ節型
S109-C1③


ネザサ節型
S109-C1④


メダケ節型
S102-Cd


メダケ節型
S102-Cd

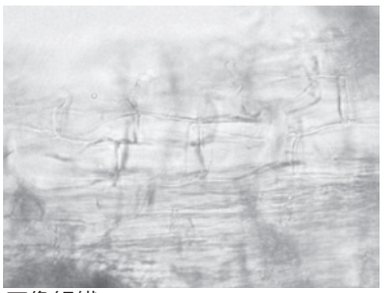

ミヤコザサ節型
S102-Cd

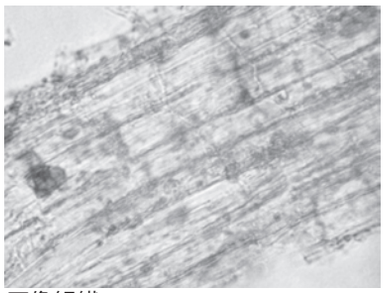

イネ
S102-Cd

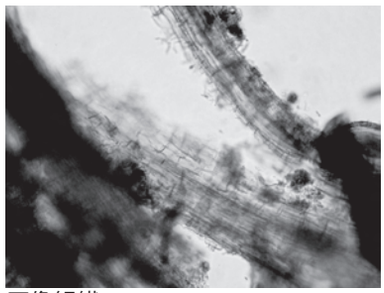
イネ(側面)
S102-Cd

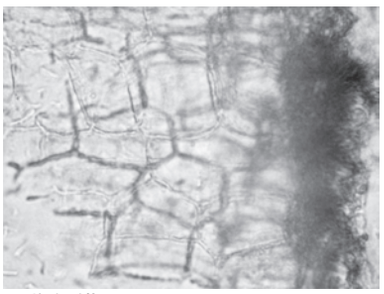
50μm

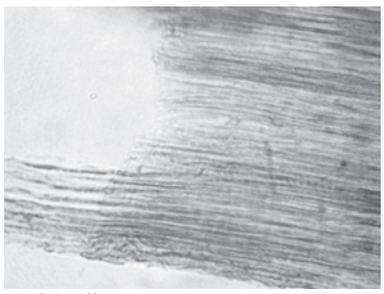
第14図　灰像および植物珪酸体（プラント・オパール）　三次Ｃ区Ｓ２４

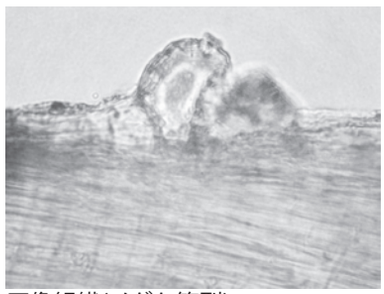

灰像組織
S24-C9

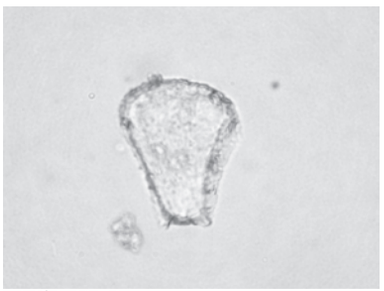

灰像組織
S24-C9

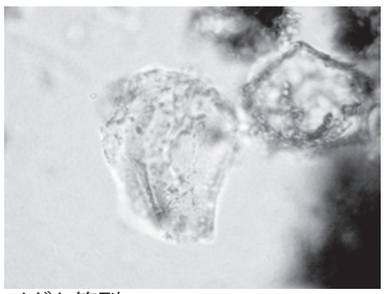

灰像組織
S24-C9

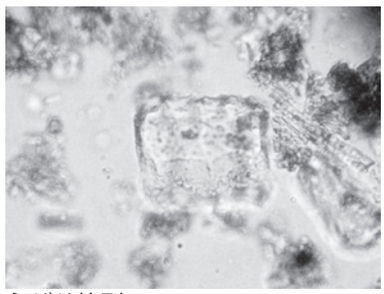

灰像組織
S24-C12

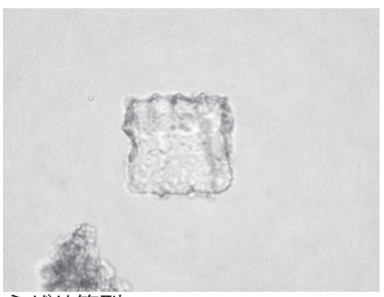

灰像組織
S24-C12

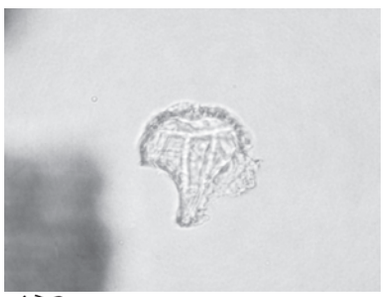

灰像組織(メダケ節型)
S24-C12

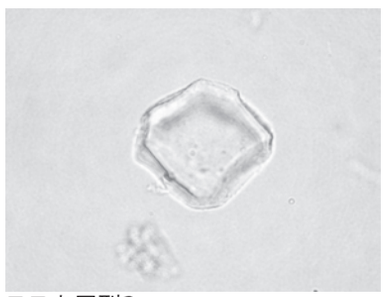

メダケ節型
S24-C9


メダケ節型
S24-C9


ネザサ節型
S24-C9


ネザサ節型
S24-C12


イネ?
S24-C9


ススキ属型?
S24-C9

50μm

第２節　鍛冶関連遺物の金属学的分析

前章で述べたように、本遺跡では１次調査区の溝状遺構や土坑から多くの鉄滓や鍛冶関連遺物が出土しており、その一部について金属学的な分析を委託した。以下、分析に関する成果報告書を転載する。

ただし、分析試料について、遺物番号及び出土遺構名を加筆している。

「尾花Ａ遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」

九州テクノリサーチ・TAC センター
大澤正己・鈴木瑞穂

１．いきさつ

尾花Ａ遺跡は宮崎県児湯郡川南町大字川南字尾花坂上に所在する。発掘調査地区では旧石器時代から中近世にかけての遺構・遺物群が検出された。その中で古代～中世に属する鍛冶関連遺物も複数出土する。遺跡内での鉄器生産の様相を検討する目的から、金属学的調査を行う運びとなった。

２．調査方法

２－１．供試材

Table1に示す。鍛冶関連遺物計８点の調査を行った。

２－２．調査項目

（１）肉眼観察

遺物の外観上の観察所見を簡単に記載した。

（２）マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、本稿では顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、低倍率で撮影したものを指す。当調査は、顕微鏡検査によるよりも広い範囲にわたって、組織の分布状態、形状、大きさなどの観察ができる利点がある。

（３）顕微鏡組織

滓中に晶出する鉱物及び鉄部の調査を目的として、光学顕微鏡を用い観察を実施した。観察面は供試材を切り出した後、エメリー研磨紙の #150、#240、#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の３μと１μで順を追って研磨している。なお金属組織の調査では腐食（Etching）液に５％ナイタル（硝酸アルコール液）を用いた。

（４）ビッカース断面硬度

鉄滓中の鉱物と、金属鉄の組織同定を目的として、ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester ）を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に 136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用して、荷重 100gf または 200gf で測定した。

（５）EPMA（Electron Probe Micro Analyzer）調査

化学分析を行えない微量試料や鉱物組織の微小域の組織同定を目的とする。

分析の原理は、真空中で試料面（顕微鏡試料併用）に電子線を照射し、発生する特性Ｘ線を分光後に画像化し、定性的な結果を得る。更に標準試料とＸ線強度との対比から元素定量値をコンピューター処理してデータ解析を行う方法である。

（６）化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）、：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素（SiO_2）、酸化アルミニウム（Al_2O_3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K_2O）、酸化ナトリウム（Na_2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO_2）、酸化クロム（Cr_2O_3）、五酸化燐（P_2O_5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

（７）耐火度

主に炉材の性状調査を目的とする。耐火度は、溶融現象が進行の途上で軟化変形を起こす状態度の温度で表示される。胎土をゼーゲルコーンという三角錐の試験片に作り、１分間当り 10℃の速度で温度 1000℃まで上昇させ、以降は 4℃に昇温速度を落し、試験片が荷重なしに自重だけで軟化し崩れる温度を示している。

３．調査結果

OBA －１：椀形鍛冶滓 (3056:1-SE4)

（１）肉眼観察：400g と大型で厚手の椀形鍛冶滓の約 1/4 破片である。上面は平坦気味で、表面が茶褐色の鉄錆化物で覆われる。また木炭痕が薄く点在する。下面は木炭痕によるごく細かい凹凸が顕著で、一部灰色の鍛冶炉床土が固着する。側面２面は直線状の破面で、中小の気孔が多数点在するが、全体に緻密で重量感のある滓である。

（２）マクロ組織：Photo.1 ①に示す。内部には粒状、不定形の気孔が散在するが、全体的には緻密な滓である。

（３）顕微鏡組織：Photo.1 ②～④に示す。②は鉄滓表面に付着する、ごく微細な木炭破片である。また③④は滓部の拡大である。白色樹枝状結晶ウスタイト（Wustite：FeO）、淡灰色盤状結晶ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO2）が晶出する。発達した鉄チタン酸化物の結晶はなく、鍛錬鍛冶滓の晶癖といえる。

（４）ビッカース断面硬度：Photo.1 ③の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は 458Hv であった。ウスタイトの文献硬度値（注１）450 ～ 500Hv の範囲内であり、ウスタイトに同定される。またもう１個所、Photo.1 ④の淡灰色盤状結晶の硬度測定も実施した。硬度値は 642Hv であった。ファヤライトの文献硬度値 600 ～ 700Hv の範囲内であり、ファヤライトに同定される。

（５）EPMA 調査：Photo.1 ⑤に滓部の反射電子像（COMP）を示す。分析点１の白色樹枝状結晶の定量分析値 101.2% FeO であった。ウスタイト（Wustite：FeO）に同定される。分析点２の微小暗褐色結晶の定量分析値は 52.3% FeO － 50.1% Al2O3 であった。ヘーシナイト（Hercynite：FeO･Al2O3）に同定される。分析点３の素地部分の定量分析値は 38.4％ SiO2 － 19.3％ Al2O3 － 11.3％ CaO － 3.6% K2O － 4.2% Na2O － 23.7% FeO であった。非晶質珪酸塩で鉄分（FeO）をかなりの割合で含んでいる。また分析点４の淡灰色柱状結晶の定量分析値は 70.7% FeO － 2.3% MgO － 31.7% SiO2 であった。ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO2）でごく微量マグネシア（MgO）を固溶する。

（６）化学組成分析：Table2 に示す。全鉄分（Total Fe）52.91%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.23%、酸化第１鉄（FeO）54.75%、酸化第２鉄（Fe2O3）14.47%の割合であった。造滓成分（SiO2 ＋ Al2O3 ＋ CaO ＋ MgO ＋ K2O ＋ Na2O）は 27.62％で、このうち塩基性成分（CaO ＋ MgO）は 3.09%を含む。主に製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO2）は 0.20%、バナジウム（V）が 0.03%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）は 0.05%、銅（Cu）も＜ 0.01%低い。

当鉄滓は主に鉄酸化物と炉材または鍛接剤起源の粘土溶融物（SiO2 主成分）で構成される。鉄素材を熱間で鍛打加工した時に生じる鍛錬鍛冶滓に分類される。更に補足すると高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓といえよう。

OBA － 2：椀形鍛冶滓 (3062:1-SE7)

（１）肉眼観察：386g の不整楕円形状の椀形鍛冶滓である。上面には２個所瘤状に黒色ガラス質滓が固着する。これは羽口先端の溶融物と推定される。また上面端部に暗茶褐色の錆化鉄部があり、この部分は着磁性がみられる。ただし特殊金属探知機の反応はなく、まとまった鉄部が存在したとしても錆化が判断される。下面は木炭痕による細かい凹凸が著しい。側面端部２面は直線状の破面であるが、気孔は少なく緻密で重量感のある滓である。

（２）マクロ組織：Photo.2 ①に示す。上側を中心に非常に微細な錆化鉄（明灰色部）が多数確認される。しかし金属組織の痕跡は不明瞭で、いずれも炭素含有量を推定できる情報は残存していない。さらに滓中には、やや大型の気孔が複数散在する。

（３）顕微鏡組織：Photo.2 ②③に示す。白色粒状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖といえる。

（４）ビッカース断面硬度：Photo.2 ②の白色粒状結晶ウスタイトの硬度を測定した。硬度値は 519Hv であった。ウスタイトの文献硬度値の上限よりやや硬質であるが、EPMA 調査の結果をみるとごく微量アルミナ（Al2O3）を含んでおり、その影響を受けた可能性が高い。

また③の淡灰色柱状結晶の硬度値は 511Hv であった。ファヤライトとしては非常に軟質である。しかし EPMA 調査結果はファヤライト組成である。低値は主に測定時の亀裂の影響と考えられる。ファヤライトに同定される。

（５）EPMA 調査：Photo.2 ④に反射電子像（COMP）を示す。分析点５の素地部分の定量分析値は

39.0% SiO_2 － 19.4% Al_2O_3 － 12.4% CaO － 5.5% K_2O － 23.4% FeO であった。非晶質珪酸塩で鉄分（FeO）をかなりの割合で固溶する。また分析点 6 の白色粒状結晶の定量分析値 101.1% FeO － 1.1% Al_2O_3 であった。ウスタイト（Wustite：FeO）で、ごく微量アルミナ（Al_2O_3）を含む。分析点 7 の淡灰色柱状結晶の定量分析値は 67.6% FeO － 3.1% MgO － 2.5% CaO － 31.9% SiO_2 であった。ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO_2）でごく微量マグネシア（MgO）、ライム（CaO）を固溶する。

（６）化学組成分析：Table2 に示す。全鉄分（Total Fe）50.28%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.24%、酸化第 1 鉄（FeO）36.51%、酸化第 2 鉄（Fe_2O_3）30.97%の割合であった。造滓成分（SiO_2 ＋ Al_2O_3 ＋ CaO ＋ MgO ＋ K_2O ＋ Na_2O）25.06％で、このうち塩基性成分（CaO ＋ MgO）は 3.03%を含む。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は 0.27%、バナジウム（V）＜ 0.01%と低値であった。さらに酸化マンガン（MnO）0.06%、銅（Cu）も＜ 0.01%と低めである。

当鉄滓も椀形鍛冶滓（OBA － 1）とよく近似する鉱物・化学組成であり、同じく高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓に分類される。

OBA － 3：椀形鍛冶滓片 (3063-1-SE7)

（１）肉眼観察：26g 弱のごく小型の椀形鍛冶滓の側面端部破片と推測される。上面には被熱粘土が溶着しており、羽口破片の可能性がある。また滓表面は比較的滑らかな流動状を呈する。さらに下面は全面灰褐色で砂質の鍛冶炉床土が固着する。側面の大半は破面で、大型の気孔が多数分布する個所と緻密な個所との混在をみる。全体に軽い質感の滓である。

（２）マクロ組織：Photo.3 ①に示す。鉄滓端部（写真右側暗色部）はガラス質滓（粘土溶融物主体）である。一方、破面側は発達した結晶が晶出する鍛冶滓である。

（３）顕微鏡組織：Photo.3 ②～④に示す。いずれも鍛冶滓部分の拡大である。灰褐色多角形結晶はマグネタイト（Magnetite：Fe_3O_4）とヘーシナイト（Hercynite：FeO･Al_2O_3）の固溶体（注２）と推定される。さらに微細な白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトも晶出する。ただしウスタイトの晶出量が少ない。

（４）ビッカース断面硬度：Photo.3 ④の灰褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は 902Hv と硬質であった。〔後述の EPMA 調査結果もみると、マグネタイトとヘーシナイトを主な端成分とする固溶体に同定される。〕

（５）EPMA 調査：Photo.3 ⑤に滓部の反射電子像（COMP）を示す。分析点 8 の白色樹枝状結晶の定量分析値は 101.2% FeO であった。ウスタイト（Wustite：FeO）に同定される。

淡褐色多角形結晶は、中央暗色部分析点 9 の定量分析値が 64.3% FeO － 31.7% Al_2O_3 － 1.7% V_2O_3 － 1.3% MgO、分析点 10 の外周部の定量分析値は 73.4% FeO － 21.4% Al_2O_3 － 2.4% TiO_2 であった。ともにマグネタイト（Magnetite：Fe_3O_4）とヘーシナイト（Hercynite：FeO･Al_2O_3）の固溶体であった。色調差は主要元素（FeO、Al_2O_3）および微量元素（V_2O_3、MgO、TiO_2 など）の割合の違いを反映したと考えられる。

分析点 11 の淡灰色柱状結晶の定量分析値は 70.3% FeO － 1.4% CaO － 1.3% MgO － 31.3% SiO_2 であった。ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO_2）で、微量ライム（CaO）、マグネシア（MgO）を固溶する。また分析点 12 の素地部分は 42.5% SiO_2 － 14.8% Al_2O_3 － 13.6% CaO － 4.7% K_2O － 2.6% Na_2O － 23.0% FeO であった。非晶質珪酸塩でかなり鉄分（FeO）を固溶する。

（６）化学組成分析：Table2 に示す。全鉄分（Total Fe）38.60%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.13%、酸化第 1 鉄（FeO）41.82%、酸化第 2 鉄（Fe_2O_3）8.53%の割合であった。造滓成分（SiO_2 ＋ Al_2O_3 ＋ CaO ＋ MgO ＋ K_2O ＋ Na_2O）46.31%と高値であるが、塩基性成分（CaO ＋ MgO）は 4.29%を含む。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）の二酸化チタン（TiO_2）は 0.42%、バナジウム（V）0.04%と低値であった。また酸化マンガン（MnO）0.09%、銅（Cu）も＜ 0.01%と低い。

当鉄滓は椀形鍛冶滓（OBA － 1、2）より、粘土溶融物（SiO_2 主成分）の割合の高い組成であった。赤熱鉄素材の目減り防止に粘土汁を塗布したその影響が現れている。また砂鉄起源の脈石成分（TiO_2、V）の含有率は、椀形鍛冶滓（OBA － 1、2）と同じくごく微量で、鍛錬鍛冶滓に分類される。

OBA － 4：椀形鍛冶滓 (3046:1-SC88)

（1）肉眼観察：椀形鍛冶滓の側面破片と推測される。表面全体が薄く茶褐色の酸化土砂で覆われる。上面端部に強着磁性の個所が存在するが、特殊金属探知機での反応はない。また表面は全体に木炭痕による凹凸が目立つ。側面３面は破面である。

（2）マクロ組織：Photo.4 ①に示す。内部には中小の気孔が多数散在している。また不定形のごく微細な銹化鉄（明灰色部）は確認されたが、まとまりのある鉄部は存在しない。白色鉱物相は均等性を欠く。

（3）顕微鏡組織：Photo.4 ②～④に示す。②は上面に固着したごく微細な木炭破片である。発達した導管が分布する広葉樹材の黒炭であった。また③④は滓部の拡大である。白色樹枝状結晶ウスタイト、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。鍛錬鍛冶滓の晶癖である。

（4）ビッカース断面硬度：Photo.4 ③の白色樹枝状結晶の硬度を測定した。硬度値は 587Hv であった。ウスタイトとしては高値であるが、後述の EPMA 調査結果をみるとウスタイトで、結晶の周囲の影響を受けた可能性が高いと考えられる。また④の淡灰色柱状結晶の硬度値は 716Hv であった。ファヤライトとしては硬質である。やはり EPMA 調査結果をみると、マグネシア（MgO）の固溶を反映したものと推察される。

（5）EPMA 調査：Photo.4 ④に滓部の反射電子像（COMP）を示す。分析点 13 の淡灰色柱状結晶の定量分析値は 59.6% FeO － 7.3% MgO － 4.2% CaO － 32.4% SiO2 であった。ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO2）に近い組成であるが、かなりマグネシア（MgO）、ライム（CaO）を固溶する。分析点 14 の素地部分の定量分析値は 43.7％ SiO2 － 22.8% Al2O3 － 6.8% CaO － 6.2% K2O － 1.8% Na2O － 17.9% FeO であった。非晶質珪酸塩で、鉄分（FeO）をかなり固溶する。また分析点 15 の白色樹枝状結晶の定量分析値は 102.3% FeO であった。ウスタイト（Wustite：FeO）に同定される。

（6）化学組成分析：Table2 に示す。全鉄分（Total Fe）45.32%に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.14%、酸化第１鉄（FeO）22.27%、銹化鉄含みで酸化第２鉄（Fe2O3）が 39.85%と高い割合であった。造滓成分（SiO2 ＋ Al2O3 ＋ CaO ＋ MgO ＋ K2O ＋ Na2O）は 29.45%で、このうち塩基性成分（CaO ＋ MgO）は 4.93%を含む。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO2）は 0.28%、バナジウム（V）＜ 0.01%と低値であった。酸化マンガン（MnO）も 0.08%、銅（Cu）＜ 0.01%と低い。

当鉄滓も砂鉄起源の脈石成分（TiO2、V）の低減傾向が顕著であり、鍛錬鍛冶滓に分類される。

OBA － 5：鉄素材 (3057:1-SE4)

（1）肉眼観察：表面に不規則な凹凸を残し、平面不整長方形の厚板状を意図して、ごく粗く鍛打成形された鉄素材と推測される。表面は全体が茶褐色の銹化物に覆われており、銹化に伴う放射状の亀裂も生じているが、特殊金属探知機の特 L（☆）（注３）で反応し、内部には金属鉄が良好に残存する。

（2）マクロ組織：Photo.5 ①に示す。表層にごく薄く滓が固着しているが、ほぼ鉄主体の遺物であった。肉眼観察の項で指摘したように、断面不整長方形状に粗く鍛打成形された鉄素材である。また金属鉄部を 5%ナイタルで腐食したところ、ごく一部を除きほぼ過共析組織（＞ 0.77%）が確認された。

（3）顕微鏡組織：Photo.5 ②～④に示す。金属鉄部の拡大である。②③は白色板状のセメンタイト（Cementite：Fe3C）、黒色層状のパーライト（Pearlite）からなる過共析組織である。また④中央は蜂の巣状のレデブライト（Ledeburite）で、ごく一部亜共晶組成白鋳鉄組織（C ＜ 4.26%）が確認された。銑鉄の炭素を酸化除去した脱炭、いわゆる下げを顕著に表明する金属組織が提示できた。既報告の中山遺跡出土鉄塊系遺物（NAK-3：マクロ組織　①）にも繋がる注目すべき金属組織である。（注 4）

（4）ビッカース断面硬度：Photo.5 ②～④の金属鉄部の硬度を測定した。過共析組織部分は②素地のパーライト組織の硬度値は 300Hv、③中央の白色板状セメンタイトの硬度値は 532Hv であった。組織に見合った値である。また④の亜共晶組成白鋳鉄（レデブライト）の硬度値は 429Hv であった。組織から予想されるよりやや軟質の値となったが、これは銹化の影響と考えられる。

（5）EPMA 調査：Photo.5 ⑤に表面の付着滓の反射電子像（COMP）を示す。分析点 16 の白色粒状結晶の定量分析値は 98.7% FeO であった。ウ

スタイト（Wustite：FeO）に同定される。分析点17淡灰色柱状結晶の定量分析値は56.6% FeO－36.0% SiO2であった。ファヤライト（Fayalite：2FeO・SiO2）に同定される。さらに他の元素もごく微量検出されたが、結晶がごく微細なため素地部分の影響を受けた可能性が高い。また分析点18の素地部分の定量分析値は43.5% SiO2－12.2% Al2O3－11.0% CaO－6.4% K2O－2.2% Na2O－21.1% FeOであった。非晶質珪酸塩で、鉄分（FeO）をかなり固溶する。

さらにもう1視野、Photo.5 ⑥に金属鉄部の反射電子像（COMP）を示す。分析点4の粒状黄褐色部の定量分析値は65.0% Fe－34.7% Sであった。硫化鉄（FeS）に同定される。また分析点5の部分の定量分析値は93.4% Feで、金属鉄（Metallic Fe）である。硫化鉄（FeS）の検出は該品が銑鉄由来の素性を濃厚に裏付ける。

（6）化学組成分析：Table2に示す。炭素（C）は1.56%であった。金属組織に見合った値で高炭素鋼といえる。また鍛接不良や製品脆化などの悪影響の要因となる燐（P）は0.009%、硫黄（S）が0.024%といずれも低値であった。また製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源のチタン（Ti）は＜0.01%、バナジウム（V）が＜0.01%と非常に低値である。マンガン（MnO）も＜0.01%、銅（Cu）＜0.01%と低値であった。

該品は局部に白銑（白鋳鉄）の共晶組織のレデブライトを留め、過共析域（＞0.77% C）まで脱炭された半製品である。製造履歴としての下げ脱炭材の金属組織を明瞭に残す。形状は不整直方体状に粗く鍛打成形された鉄素材である。表層にごく薄く固着する滓は、椀形鍛冶滓（OBA－1～4）とほぼ同じ鉱物組成であった、これも熱間での鍛打加工に伴い、鉄素材表面が酸化して生じたものと判断される。また金属鉄部はごく一部のレデブライトや板状セメンタイトを除き、過共析組織を呈する高炭素鋼（C：1.56%）であった。硬度を要求される、刃金に向いた鉄素材である。燐（P）や硫黄（S）の影響も少なく、銑鉄からの脱炭下げ鉄の特質をそなえ非常に良質な鍛冶原料といえる。

OBA－6：鍛造剥片 (3048:1-SC88)（注5）
OBA－6－1：9.4×5.5×0.7mm

（1）肉眼観察：非常に大型で厚手の剥片である。表面は平滑で、裏面にはごく細かい凹凸がみられる。また色調は表面が黒灰色、裏面が茶褐色である。

（2）マクロ組織：Photo.6 ①に示す。横断面は全体に厚手であるが、写真右側に向かってやや片減りしている。また非常に微細な気孔が点在する。

（3）顕微鏡組織：Photo.6 ②に示す。表面（写真上側）の非常に薄い明白色部はヘマタイト（Hematite：Fe2O3）、その内側のやや角張った灰褐色結晶はマグネタイト（Magnetite：Fe3O4）、白色粒状結晶ウスタイト（Wustite：FeO）と推測される。

（4）EPMA調査：Photo.6 ③に断面の反射電子像（COMP）を示す。分析点19の灰褐色結晶の定量分析値は89.3% FeO、分析点21の白色粒状結晶の定量分析値は89.4% FeOであった。ともに鉄酸化物で両者に明瞭な有意差はなく、形態から推測されるより両者の酸化の度合いは変わらないものと考えられる。また分析点20の暗色部の定量分析値は46.7% FeO－37.8% SiO2－1.6% Al2O3－2.6% CaO－2.4% K2Oであった。鉄酸化物（FeO）と鍛接剤（粘土汁などのSiO2主成分）主体の化合物といえる。

OBA－6－2：4.1×4.0×0.7mm

（1）肉眼観察：厚手の剥片である。表面は比較的平滑であるが、緩やかな凹凸がみられる。また裏面はごく微細な気孔が密に分布する。色調は表裏面とも暗灰色である。

（2）マクロ組織：Photo.6 ④に示す。写真下側の波状の凹凸に伴う厚みの変動が著しい。またごく微細な気孔が多数散在している。

（3）顕微鏡組織：Photo.6 ⑤に示す。写真下側の灰褐色層はマグネタイト、その内側はウスタイトと推測される。ヘマタイトはやや不明瞭であるが、OBA－6－1と近似した鉱物組成といえる。

OBA－6－3：5.7×3.8×0.5mm

（1）肉眼観察：やや厚手の剥片である。表裏面とも比較的平滑であるが、表面には非常に緩やかな凹凸がみられる。色調は表裏面とも暗灰色である。

（2）マクロ組織：Photo.6 ⑥に示す。写真右側が若干薄手であるが、比較的均一で平坦な剥片である。

（3）顕微鏡組織：Photo.6 ⑦に示す。写真下側の灰褐色層はマグネタイト、その上層はウスタイトと推測される。

OBA － 6 － 4：23 × 21 × 0.3mm

（1）肉眼観察：やや薄手の剥片である。表裏面とも比較的平滑であるが、表面には皺状の凹凸があり、裏面には非常に微細な気孔が散在する。色調は表面が光沢の強い銀灰色、裏面が光沢のない暗灰色である。

（2）マクロ組織：Photo.7 ①に示す。やや薄手で、表裏面の凹凸に伴う厚みの変動がみられる。横断面には非常に微細な気孔が若干点在する。

（3）顕微鏡組織：Photo.7 ②に示す。表層ヘマタイト、中間層マグネタイト、内層ウスタイトの三層構造が確認される。ウスタイトは凝集しているが非晶質ではない。

OBA － 6 － 5：3.2 × 2.4 × 0.2mm

（1）肉眼観察：薄手の剥片で、表裏面とも比較的平滑である。色調は表面の一部が光沢の強い灰色、表面の他の部分と裏面全体は光沢のない暗灰色を呈する。

（2）マクロ組織：Photo.7 ③に示す。薄手で平坦な剥片である。

（3）顕微鏡組織：Photo.7 ④に示す。OBA － 6 － 4 と同じく、表層ヘマタイト、中間層マグネタイト、内層ウスタイトの三層構造が確認される。こちらのウスタイトは非晶質である。

OBA － 6 － 6：1.8 × 1.8 × 0.2mm

（1）肉眼観察：ごく小型で薄手の剥片である。表裏面とも比較的平滑で、色調は表面が光沢の強い銀灰色、裏面が光沢のない暗灰色を呈する。

（2）マクロ組織：Photo.7 ⑤に示す。写真右側部分が緩やかに湾曲しており、断面にはごく微細な気孔が点在する。

（3）顕微鏡組織：Photo.7 ⑥に示す。表層ヘマタイト（写真下側）はやや不明瞭であるが、マグネタイトおよびウスタイト層が確認される。

分析調査を実施した 6 点には、一部粘土溶融物（SiO2 主成分）の影響もみられるが、いずれも鉄酸化物主体であった。鉄素材を加熱鍛打した時に、その表面が酸化剥離して生じた微細遺物といえる。

OBA － 7：粒状滓 (3047:1-SC88)（注 6）

OBA － 7 － 1：5.7mm 径

（1）肉眼観察：歪な球状で棘状の突起が 2 個所にみられる。また表面は比較的平滑で、色調は光沢のある黒灰色を呈する。

（2）マクロ組織：Photo.7 ⑦に示す。内部は非常に大きく空洞化（写真上側黒色部）しており、横断面は環状を呈する。写真の明色部はその一部である。

（3）顕微鏡組織：Photo.7 ⑧に示す。表面の灰褐色層（写真下側）はマグネタイト、内側の白色粒状結晶はウスタイトと推定される。

OBA － 7 － 2：2.7mm 径

（1）肉眼観察：やや歪な球状で、表面は微細な凹凸のある部分と平滑な部分とが混在する。色調は光沢のない黒灰色である。

（2）マクロ組織：Photo.8 ①に示す。写真右上表層には、非常に薄手の鍛造剥片が固着している。また粒状滓内部には、微細な気孔が多数散在している。

（3）顕微鏡組織：Photo.8 ②に示す。写真上側は溶着した鍛造剥片である。また滓中には白色粒状結晶ウスタイトが凝集して晶出する。

OBA － 7 － 3：2.3mm 径

（1）肉眼観察：歪な球状で表面は比較的平滑である。色調は光沢の強い灰色を呈する。

（2）マクロ組織：Photo.8 ③に示す。内部は大きく空洞化しており、横断面は環状を呈する。

（3）顕微鏡組織：Photo.8 ④に示す。表層のごく薄い明白色層がヘマタイト、その内側灰褐色層はマグネタイトと推定される。さらにその内側には、灰褐色多角形結晶マグネタイトが晶出する。

（4）EPMA 調査：Photo.8 ⑤に断面の反射電子像（COMP）を示す。分析点 22 の灰褐色層の定量分析値は 92.4% FeO、分析点 23 の灰褐色多角形結晶の定量分析値は 93.1% FeO － 3.0% Al2O3 であった。ともにマグネタイト（Magnetite：Fe3O4）で、後者は微量アルミナ（Al2O3）を固溶する。

また分析点 24 の淡灰色部の定量分析値は 65.4% FeO － 32.1% SiO2 であった。ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO2）に同定される。

OBA － 7 － 4：2.0mm 径

（1）肉眼観察：歪な球状で表面は比較的平滑である。色調は光沢のない暗灰色である。

（2）マクロ組織：Photo.8 ⑥に示す。埋め込み中に割れた片方の断面である。内部には複数の気孔が集まってできた、不定形の空洞が確認される。

（３）顕微鏡組織：Photo.8 ⑦に示す。表層のごく薄い明白色部はヘマタイト、灰褐色多角形結晶はマグネタイト、白色粒状結晶はウスタイトと推定される。

OBA － 7 － 5：1.8mm 径

（１）肉眼観察：やや歪な球状で、表面は比較的平滑である。色調は光沢のない暗灰色である。

（２）マクロ組織：Photo.9 ①に示す。内部には複数の気孔が集まってできた、不定形の空洞が確認される。

（３）顕微鏡組織：Photo.9 ②に示す。ごく微細な白色粒状結晶ウスタイトの凝集晶出である。

OBA － 7 － 6：1.2mm 径

（１）肉眼観察：比較的端正な球状で、表面は平滑である。色調は光沢の弱い暗灰色を呈する。

（２）マクロ組織：Photo.9 ③に示す。内部には大小の気孔が多数散在する。

（３）顕微鏡組織：Photo.9 ④に示す。非常に微細な白色樹枝状結晶ウスタイトが晶出する。

分析を実施した６点は、いずれも鉄酸化物主体の微細遺物であった。やはり鉄素材を加熱鍛打した時に、表面に生じた鉄酸化物が微細な粒状で飛散したものと判断される。

OBA － 8：羽口 (3005:SE12)

（１）肉眼観察：厚手で円筒状の鍛冶羽口の体部小破片と推定される。内面には一部穿孔部が残存するが、ごく僅かで口径の復元は困難であった。色調は淡黄褐色～淡橙色であるが、外面表層の一部は羽口使用時に熱影響を受けて灰褐色に変色したものと推測される。また胎土は粘土質でスコリアを含むが、石英などの砂粒の割合は非常に少ない。

（２）マクロ組織：Photo.9 ⑤に示す。熱影響は全体に弱く、ガラス質滓部分はみられない。

（３）顕微鏡組織：Photo.9 ⑥⑦に示す。羽口胎土部分の拡大である。素地の粘土鉱物にはやはり強い熱影響はみられない。まだ粘土中には、非常に微細な砂粒が多数混在していた。

（４）化学組成分析：Table2 に示す。強熱減量（Ig loss）は 8.22%と高めであった。強い熱影響を受けず、かなり結晶構造水が保持された状態での分析といえる。鉄分（Fe2O3）は 2.37%と低めであるが、アルミナ（Al2O3）も 15.29%と低めで、あまり耐火性に優れた成分系とはいえない。

（５）耐火度：1320℃であった。古代～中世の鍛冶羽口としては、ごく一般的な耐火性状といえる。

４．まとめ

尾花 A 遺跡から出土した、古代～中世に推定される鍛冶関連遺物を分析調査した結果、銑鉄から下げ脱炭されて直方体状にごく荒く鍛打成形された鉄素材が確認された。当遺跡ではこのような鉄素材を用いて、主に鍛造鉄器を製作していたものと推定される。詳細は以下の通りである。

〈１〉鉄素材（OBA － 5）は、大型でまとまりのよい高炭素鋼（C：1.56%）であった。銑鉄（白鋳鉄）を鍛冶炉内で半溶融にし、銑鉄中の炭素を除去して粘性に富む鋼にしている。硬度が要求される、刃金に向いた鍛冶原料と判断される。燐（P）や硫黄（S）などの影響も少なく、非常に良質の鉄素材といえる。この下げ脱炭半製品的鉄塊系遺物は中山遺跡出土品でも認められた。

〈２〉分析調査を実施した椀形鍛冶滓（OBA － 1 ～ 4）は、すべて鍛錬鍛冶滓に分類される。

これらの鉄滓からも、当遺跡では鉄素材（OBA － 5）のような鍛冶原料をもとに、熱間で鍛打加工して鉄器製作を行っていたと判断される。滓中の酸化マンガン（MnO）が＜ 0.10％なので、銑鉄下げ脱炭素材の排出滓としても整合性がとれる。また椀形鍛冶滓（OBA － 3）の表面には広葉樹材のごく微細な木炭破片が確認された。これは鍛冶炭として、ごく一般的なものといえる。

〈３〉さらに粒状滓（OBA － 7）、鍛造剥片（OBA － 6）、熱間での鍛打加工が行われたことを証明する微細遺物も確認された。

〈４〉鍛冶羽口（OBA － 8）の耐火度は 1320℃であった。古代～中世のものとしては、ごく一般的な耐火性状である。

（注）

（１）日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』1968

ウスタイトは 450 ～ 500Hv、マグネタイトは 500 ～ 600Hv、ファイヤライトは 600 ～ 700Hv の範囲が提示されている。ウルボスピネルの硬度値範囲の明記はないが、マグネタイトにチタン（Ti）を固溶するので、600Hv 以上であればウルボスピネルと同

定　している。それにアルミナ（Al）が加わり、ウルボスピネルとヘーシナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため 700Hv を超える値では、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体の可能性が考えられる。

（2）黒田吉益・諏訪兼位『偏光顕微鏡と造岩鉱物［第 2 版］』共立出版株式会社 1983

5 章　鉱物各論　D．尖晶石類・スピネル類（Spinel Group）の記載に加筆

尖晶石類の化学組成の一般式は XY2O4 と表記できる。X は 2 価の金属イオン、Y は 3 価の金属イオンである。その組み合わせでいろいろの種類のものがある。（略）

（3）穴澤義功「鉄生産遺跡調査の現状と課題－鉄関連遺物の整理と分析資料の準備について－」『鉄関連遺物の分析評価に関する研究会報告』（社）日本鉄鋼協会　社会鉄鋼工学部会「鉄の歴史－その技術と文化－」フォーラム　鉄関連遺物分析評価研究グループ　2005

特殊金属探知機の感度は四段階〔H：high（○）、M：middle（◎）、L：low（●）、特 L（☆）〕に設定されている。低感度で反応があるほど、大型の金属鉄が残存すると推測される。

（4）大澤正己、鈴木瑞穂「中山遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」

（5）鍛造剥片とは鉄素材を大気中で加熱、鍛打したとき、表面酸化膜が剥離、飛散したものを指す。俗に鉄肌（金肌）やスケールとも呼ばれる。鍛冶工程の進行により、色調は黒褐色から青味を帯びた銀色（光沢を発する）へと変化する。粒状滓の後続派生物で、鍛打作業の実証と、鍛冶の段階を押える上で重要な遺物となる (注 7)。

この鍛造剥片や粒状滓は極めて微細な鍛冶派生物であり、発掘調査中に土中から肉眼で識別するのは難しい。通常は鍛冶趾の床面の土砂を水洗することにより検出される。鍛冶工房の調査に当っては、鍛冶炉を中心にメッシュを切って土砂を取り上げ、水洗選別、秤量により分布状態を把握できれば、工房内の作業空間配置の手がかりとなりうる重要な遺物である (注 8)。

鍛造剥片の酸化膜相は、外層は微厚のヘマタイト（Hematite：Fe2O3）、中間層マグネタイト（Magnetite：Fe3O4）、大部分は内層ウスタイト（Wustite：FeO）の 3 層から構成される。このうちのヘマタイト相は 1450℃を越えると存在しなく、ウスタイト相は 570℃以上で生成されるのは Fe － O 系平衡状態図から説明される (注 9)。

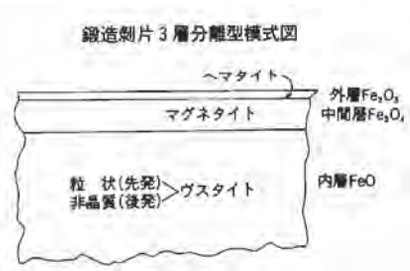
鍛造剥片を王水（塩酸 3：硝酸 1）で腐食すると、外層ヘマタイト（Hematite：Fe2O3）は腐食しても侵されず、中間層マグネタイト（Magnetite：Fe3O4）は黄変する。内層のウスタイト（Wustite：FeO）は黒変する。

鍛打作業前半段階ではウスタイト（Wustite：FeO）が粒状化を呈し、鍛打仕上げ時になると非晶質化する。鍛打作業工程のどの段階が行われていたか推定する手がかりともなる。

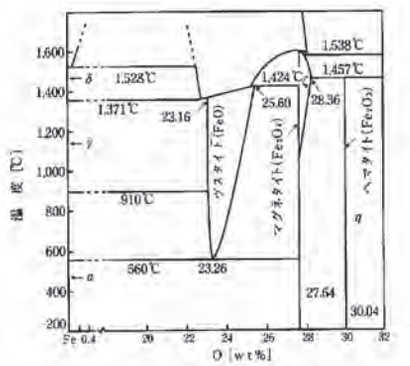
（6）粒状滓は鍛冶作業において凹凸を持つ鉄素材が鍛冶炉の中で赤熱状態に加熱されて、突起部が溶け落ちて酸化され、表面張力の関係から球状化したり、赤熱鉄塊に酸化防止を目的に塗布された粘土汁が酸化膜と反応して、これが鍛打の折に飛散して球状化した微細な遺物である。

（7）大澤正己「房総風土記の丘実験試料と発掘試料」『千葉県立房総風土記の丘　年報 15』（平成 3 年度）千葉県房総風土記の丘 1992

（8）大澤正己「奈良尾遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査」『奈良尾遺跡』（今宿バイパス関連埋蔵文化財調査報告書　第 13 集）福岡県教育委員会 1991



（9）森岡進ら「鉄鋼腐食科学」『鉄鋼工学講座』11　朝倉書店 1975



Fe-O系平衡状態図

Table1 供試材の履歴と調査項目

符号（遺物番号）	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		メタル度	調査項目					
				大きさ（mm）	重量（g）		マクロ組織	顕微鏡組織	ﾋﾞｯｶｰｽ断面硬度	EPMA	化学分析	耐火度
OBA-1(3056)	1-SE 4	椀形鍛冶滓	古代～中世	87 × 70 × 51	400.9	なし	○	○	○	○	○	
OBA-2(3062)	1-SE 7	椀形鍛冶滓		93 × 92 × 36	386.3	銹化（△）	○	○	○	○	○	
OBA-3(3063)	1-SE 7	椀形鍛冶滓		53 × 34 × 19	25.7	なし	○	○	○	○	○	
OBA-4(3046)	1-SC88	椀形鍛冶滓		71 × 44 × 26	121.7	なし	○	○	○	○	○	
OBA-5(3057)	1-SE4	鉄素材		73 × 41 × 20	212.6	特Ｌ（☆）	○	○	○	○	○	
OBA-6(3048)	1-SC88	鍛造剥片		―	3.9	なし	○	○	○	○		
OBA-7(3047)	1-SC88	粒状滓		―	0.5	なし	○	○	○	○		
OBA-8(3005)	1-SE12	鞴羽口		55 × 43 × 31	63.0	なし	○	○			○	○

Table2 供試材の化学組成

符号	出土位置	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第１鉄 (FeO)	酸化第２鉄 (Fe_2O_3)	＊ 二酸化珪素 (SiO_2)	＊ 酸化ｱﾙﾐﾆｳﾑ (Al_2O_3)	＊ 酸化ｶﾙｼｳﾑ (CaO)	＊ 酸化ﾏｸﾞﾈｼｳﾑ (MgO)	＊ 酸化ｶﾘｳﾑ (K_2O)	＊ 酸化ﾅﾄﾘｳﾑ (Na_2O)	酸化ﾏﾝｶﾞﾝ (MnO)	二酸化ﾁﾀﾝ (TiO_2)	酸化ｸﾛﾑ (Cr_2O_3)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P_2O_5)	炭素 (C)	ﾊﾞﾅｼﾞｳﾑ (V)	銅 (Cu)	二酸化ｼﾞﾙｺﾆｳﾑ (ZrO_2)	耐火度 (℃)	Σ＊ 造滓成分	造滓成分 Total Fe	TiO_2 Total Fe
OBA-1(3056)	1-SE 4	椀形鍛冶滓	古代～中世	52.91	0.23	54.75	14.47	19.07	4.14	2.37	0.72	0.97	0.35	0.05	0.20	0.03	0.07	0.21	0.11	0.03	<0.01	<0.01	-	27.62	0.522	0.004
OBA-2(3062)	1-SE 7	椀形鍛冶滓		50.28	0.24	36.51	30.97	16.87	4.28	2.33	0.70	0.73	0.15	0.06	0.27	0.03	0.06	0.22	0.40	<0.01	<0.01	<0.01	-	25.06	0.498	0.005
OBA-3(3063)	1-SE 7	椀形鍛冶滓		38.60	0.13	41.82	8.53	31.49	8.62	3.03	1.26	1.21	0.70	0.09	0.42	0.04	0.08	0.30	0.10	0.04	<0.01	0.01	-	46.31	1.200	0.011
OBA-4(3046)	1-SC88	椀形鍛冶滓		45.32	0.14	22.27	39.85	17.37	5.91	3.56	1.37	0.91	0.33	0.08	0.28	0.02	0.17	0.31	0.24	<0.01	<0.01	<0.01	-	29.45	0.650	0.006
OBA-8(3005)	1-SE12	鞴羽口		2.34	0.12	0.72	2.37	67.10	15.29	0.29	0.56	1.57	1.05	0.03	0.74	0.02	0.01	0.06	lg loss 8.22	0.01	<0.01	0.03	1320	85.86	36.692	0.316

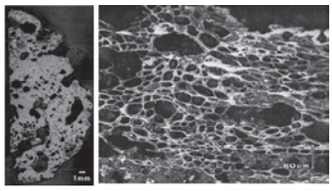
符号	出土位置	遺物名称	推定年代	炭素 (C)	珪素 (Si)	ﾏﾝｶﾞﾝ (Mn)	燐 (P)	硫黄 (S)	銅 (Cu)	ｸﾛﾑ (Cr)	ﾁﾀﾝ (Ti)	ﾊﾞﾅｼﾞｳﾑ (V)	ｺﾊﾞﾙﾄ (Co)	砒素 (As)
OBA-5(3057)	―	鉄素材	古代～中世	1.56	0.05	<0.01	0.009	0.024	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	<0.01

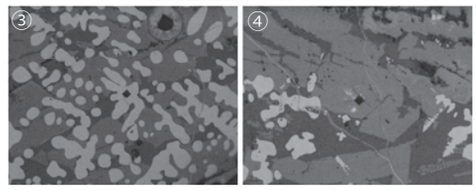
Table3 出土遺物の調査結果のまとめ

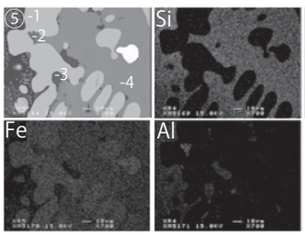
符号	出土位置	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	化学組成（%） Total Fe	Fe_2O_3	塩基性成分	TiO_2	V	MnO	造滓成分	Cu	所見
OBA-1(3056)	1-SE 4	椀形鍛冶滓	古代～中世	滓部 :W+H+F、木炭破片	52.91	14.47	3.09	0.20	0.03	0.05	27.62	<0.01	高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓、低 Mn 傾向は下げ鉄充当の可能性
OBA-2(3062)	1-SE 7	椀形鍛冶滓		滓部 :W+F	50.28	30.97	3.03	0.27	<0.01	0.06	25.06	<0.01	高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓、低 Mn 傾向は下げ鉄充当の可能性
OBA-3(3063)	1-SE 7	椀形鍛冶滓		滓部 :W+M と H の固溶体 +F	38.60	8.53	4.29	0.42	0.04	0.09	46.31	<0.01	高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓、低 Mn 傾向は下げ鉄充当の可能性
OBA-4(3046)	1-SC88	椀形鍛冶滓		滓部 :W+F、木炭破片 : 広葉樹材	45.32	39.85	4.93	0.28	<0.01	0.08	29.45	<0.01	高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓、低 Mn 傾向は下げ鉄充当の可能性
OBA-5(3057)	1-SE4	鉄素材		付着滓 :W+F、金属鉄部 : 過共析組織 (～一部亜共晶組成白鋳鉄組織)	C 1.56	Si 0.05	Mn <0.01	P 0.009	S 0.024	Cu <0.01	Cr <0.01	Ti <0.01	銑鉄からの脱炭半製品、直方体状に粗い鍛打を施した鉄素材、良質で刃金原料に適する（高炭素鋼、C:1.56%）
OBA-6(3048)	1-SC88	鍛造剥片		1･4 ～ 6:He+M+W、2･3:M+W	-	-	-	-	-	-	-	-	熱間での鍛打加工に伴う微細遺物
OBA-7(3047)	1-SC88	粒状滓		1:M+W、2: 鍛造剥片 +W、3:He+M、4:He+M+W、5･6: W	-	-	-	-	-	-	-	-	熱間での鍛打加工に伴う微細遺物
OBA-8(3005)	1-SE12	鞴羽口		素地 : 粘土鉱物、微細無色・有色鉱物散在	2.34	2.37	0.85	0.74	0.01	0.03	85.86	<0.01	耐火度 :1320℃、古代～中世の鍛冶羽口としてはごく一般的な耐火性状

W:Wustite（FeO）、M:Magnetite(FeO･Fe2O3)、H:Hercynite(FeO･Al2O3)、F:Fayalite:（2FeO･SiO2）、He:Hematite(Fe2O3)

OBA-1(3056)
1-SE4 出土
椀形鍛冶滓







滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

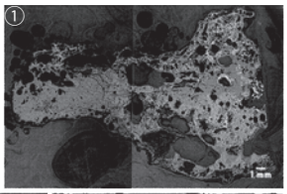
①マクロ組織　②木炭破片
③④滓部、硬度：
③ 458Hv(100gf)、ウスタイト
④ 642Hv(200gf)、ファヤライト

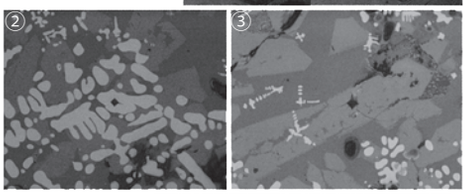
定量分析値 OBA-1

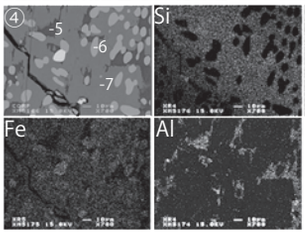
Element	1	2	3	4
F	-	-	-	-
K2O	-	0.006	3.609	-
Na2O	0.025	0.033	4.241	-
CuO	-	0.042	0.067	-
MgO	0.107	0.333	0.092	2.279
CaO	-	-	11.296	0.962
Al2O3	0.847	50.084	19.312	0.128
FeO	101.156	52.257	23.676	70.653
SiO2	0.335	0.336	38.421	31.650
TiO2	0.381	0.998	0.129	0.023
S	-	-	0.217	0.017
MnO	0.062	0.058	0.041	0.129
As2O5	0.031	0.019	-	0.125
P2O5	0.011	-	1.432	0.022
ZrO2	-	-	-	-
Cr2O3	0.039	0.054	0.005	0.009
V2O3	0.005	0.218	0.007	0.059
Total	102.999	104.438	102.545	106.056

Photo.1　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

OBA-2(3062)
1-SE7 出土
椀形鍛冶滓







滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

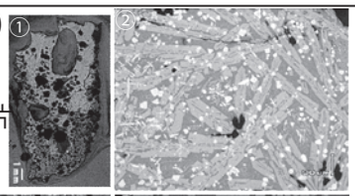
①マクロ組織　②③滓部、硬度：
② 519Hv(100gf)、ウスタイトまたはマグタイト
④ 511Hv(200gf)、ファヤライト

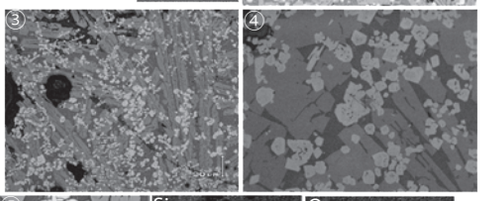
定量分析値 OBA-2

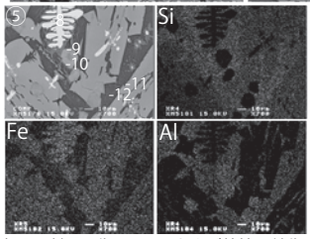
Element	5	6	7
F	-	-	-
K2O	5.488	0.008	-
Na2O	0.889	-	0.058
CuO	-	0.090	0.021
MgO	0.072	0.250	3.142
CaO	12.425	0.025	2.459
Al2O3	19.387	1.117	0.173
FeO	23.438	101.098	67.574
SiO2	39.049	0.372	31.910
TiO2	0.444	0.968	0.063
S	0.049	-	0.016
MnO	0.064	0.069	0.295
As2O5	-	0.028	0.027
P2O5	0.808	0.015	0.079
ZrO2	0.154	0.029	-
Cr2O3	-	0.051	0.013
V2O3	0.066	0.038	-
Total	102.333	104.158	105.830

Photo.2　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

OBA-3(3063)
1-SE7 出土
椀形鍛冶滓片
（流動状）







滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

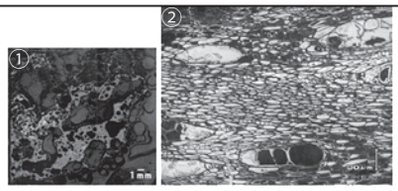
①マクロ組織
②～④滓部拡大、ウスタイト・マグネタイトとヘーシナイトの固溶体・ファヤライト
④硬度 :902Hv（100gf）、マグネタイトとヘーシナイトの固溶体（100gf）

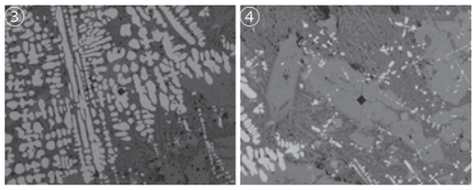
定量分析値 OBA-3

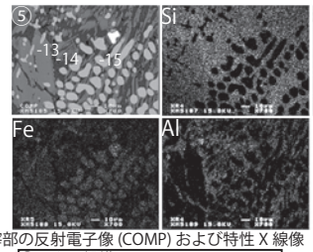
Element	8	9	10	11	12
F	-	-	-	-	-
K2O	0.013	0.009	0.016	0.019	4.707
Na2O	-	-	-	0.080	2.596
CuO	0.043	-	-	0.103	-
MgO	0.014	1.317	0.605	1.289	-
CaO	0.095	0.046	0.063	1.404	13.580
Al2O3	0.256	31.651	21.448	0.105	14.842
FeO	101.155	64.262	73.440	70.293	23.039
SiO2	0.631	0.580	1.564	31.258	42.484
TiO2	-	-	2.404	0.053	0.209
S	-	0.034	-	0.014	0.168
MnO	0.041	0.039	0.060	0.172	-
As2O5	-	0.051	-	-	-
P2O5	0.012	0.005	-	0.040	0.995
ZrO2	0.106	-	-	0.132	0.041
Cr2O3	0.004	0.572	0.017	-	0.026
V2O3	-	1.732	0.735	0.071	0.020
Total	102.370	100.298	100.352	105.033	102.707

Photo.3　椀形鍛冶滓片（流動状）の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

OBA-4(3046)
1-SC88 出土
椀形鍛冶滓







滓部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

①マクロ組織
②木炭破片、広葉樹材
③④滓部、硬度：
③ 587Hv（100 g f）、ウスタイトまたはマグネタイト
④ 716Hv（200gf）、ファヤライト

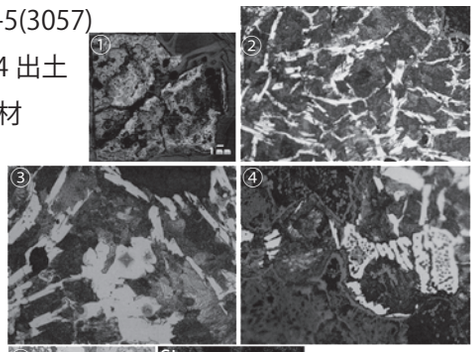
定量分析値 OBA-4

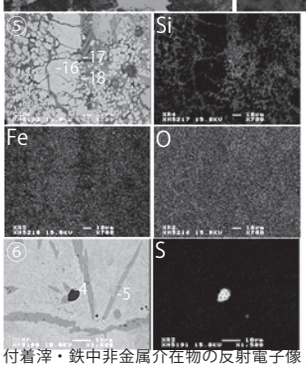
Element	13	14	15
F	-	-	-
K2O	-	6.235	0.012
Na2O	0.095	1.839	0.031
CuO	0.003	0.036	0.106
MgO	7.298	0.129	0.410
CaO	4.189	6.809	0.049
Al2O3	0.096	22.782	0.227
FeO	59.639	17.940	102.347
SiO2	32.370	43.702	0.281
TiO2	0.024	0.346	0.563
S	0.003	0.120	0.002
MnO	0.341	0.004	0.058
As2O5	-	-	0.076
P2O5	0.058	0.812	0.015
ZrO2	0.071	0.021	-
Cr2O3	0.009	0.031	0.058
V2O3	0.055	0.060	0.156
Total	104.251	100.866	104.391

Photo.4　椀形鍛冶滓の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

尾花 A 遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査 (Photo.1 ～ Photo.4)

OBA-5(3057)
1-SE4 出土
鉄素材





付着滓・鉄中非金属介在物の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

定量分析値 OBA-5 ①

Element	16	17	18
F	-	-	-
K2O	0.034	1.229	6.382
Na2O	0.119	0.403	2.154
CuO	-	-	0.060
MgO	0.464	1.911	0.186
CaO	-	1.515	11.040
Al2O3	0.930	3.459	12.175
FeO	98.685	56.823	26.068
SiO2	0.515	36.002	43.472
TiO2	0.129	0.036	0.044
S	0.021	0.086	0.158
MnO	0.034	0.173	0.004
As2O5	0.086	-	-
P2O5	0.002	0.239	0.661
ZrO2	-	-	0.103
Cr2O3	0.050	-	-
V2O3	0.032	0.180	-
Total	101.101	102.056	102.507

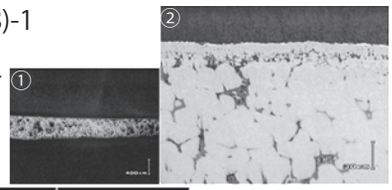
定量分析値 OBA-5 ②

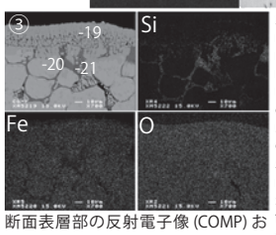
Element	4	5
O	0.230	-
S	34.732	0.007
Sn	0.008	0.048
Cu	0.069	-
As	-	0.079
P	0.008	0.014
Ti	-	-
Fe	65.038	93.355
V	0.005	0.001
Mn	-	-
Total	100.090	93.504

①マクロ組織
②～④金属鉄部、ナイタル etch
過共析組織～亜共晶組成白鋳鉄組織、硬度：
② 300Hv（200gf）、パーライト、③ 532Hv（100gf）、セメンタイト、
④ 429Hv（100gf）レデブライト

Photo.5　鉄素材の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

OBA-6(3048)-1
1-SC88 出土
鍛造剥片





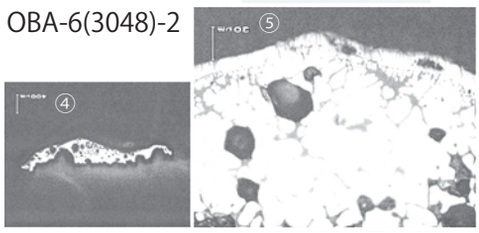
断面表層部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

定量分析値 OBA-6

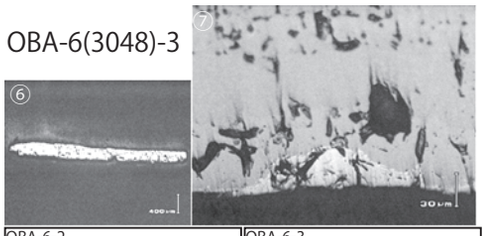
Element	19	20	21
F	-	-	-
K2O	-	2.421	-
Na2O	0.056	0.207	-
CuO	-	-	0.023
MgO	0.336	0.628	0.251
CaO	0.744	2.616	-
Al2O3	0.391	1.622	0.187
FeO	89.323	46.726	89.396
SiO2	0.716	37.814	0.168
TiO2	0.031	0.029	0.017
S	-	0.016	0.002
MnO	0.014	0.095	-
As2O5	0.048	0.020	0.031
P2O5	-	0.760	0.012
ZrO2	0.135	-	0.010
Cr2O3	-	0.037	-
V2O3	0.033	-	0.011
Total	91.827	92.991	90.108

①マクロ組織
②上側表層：ヘマタイト、中間層：マグナタイト、内層：ウスタイト

OBA-6(3048)-2



OBA-6(3048)-3

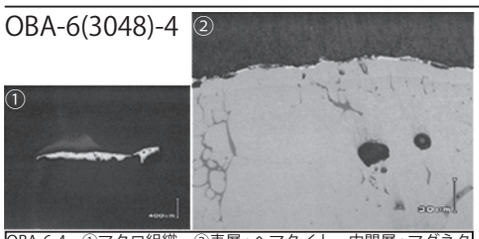


OBA-6-2
④マクロ組織　⑤表層：マグネタイト、内側：ウスタイト

OBA-6-3
⑥マクロ組織　⑦下側：マグネタイト、内側：ウスタイト

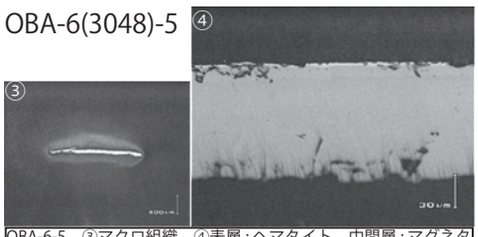
Photo.6　鍛造剥片の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

OBA-6(3048)-4



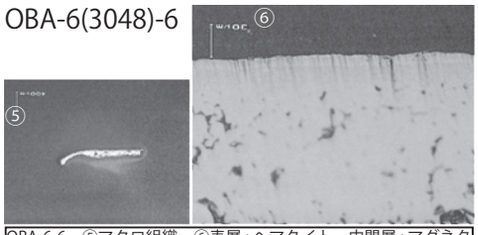
OBA-6-4　①マクロ組織　②表層：ヘマタイト、中間層：マグネタイト、内側：ウスタイト

OBA-6(3048)-5



OBA-6-5　③マクロ組織　④表層：ヘマタイト、中間層：マグネタイト、内側：ウスタイト

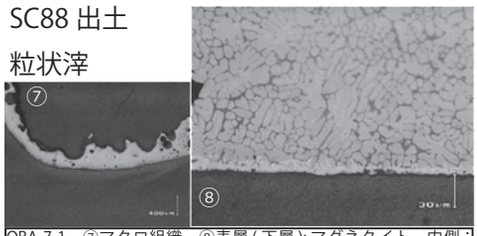
OBA-6(3048)-6



OBA-6-6　⑤マクロ組織　⑥表層：ヘマタイト、中間層：マグネタイト、内側：ウスタイト

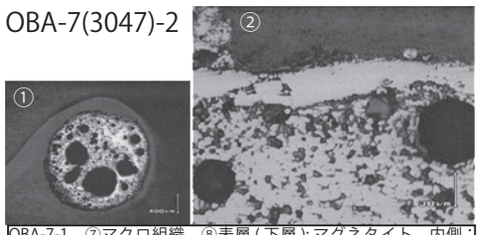
Photo.7　鍛造剥片・粒状滓の顕微鏡組織

OBA-7(3047)-1
SC88 出土
粒状滓



OBA-7-1　⑦マクロ組織　⑧表層 (下層): マグネタイト、内側：ウスタイト

OBA-7(3047)-2

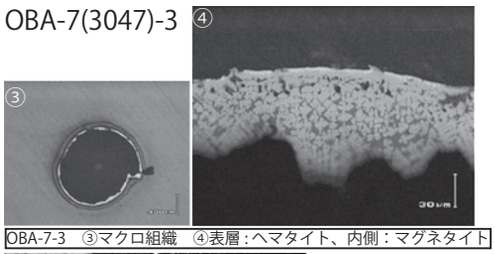


OBA-7-1　⑦マクロ組織　⑧表層 (下層): マグネタイト、内側：ウスタイト

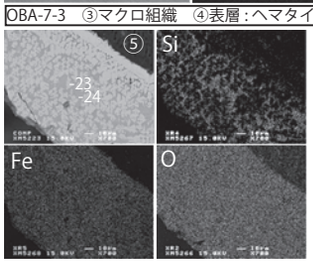
Photo.8　粒状滓の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

尾花 A 遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査 (Photo.5 ～ Photo.8-1)

OBA-7(3047)-3



OBA-7-3　③マクロ組織　④表層：ヘマタイト、内側：マグネタイト

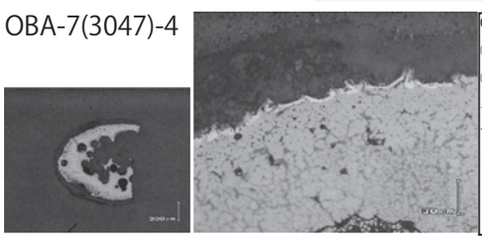


断面表層部の反射電子像 (COMP) および特性 X 線像

定量分析値 OBA-7

Element	22	23	24
F	-	-	-
K2O	-	0.032	0.815
Na2O	0.119	-	0.204
CuO	0.020	0.020	0.072
MgO	0.161	0.136	0.390
CaO	0.062	0.022	1.609
Al2O3	0.944	2.958	1.830
FeO	92.416	93.113	65.438
SiO2	0.037	1.170	32.148
TiO2	0.066	0.275	0.023
S	0.018	-	0.033
MnO	0.014	0.066	0.072
As2O5	0.062	0.041	-
P2O5	-	0.003	0.703
ZrO2	-	0.203	0.030
Cr2O3	-	0.016	0.018
V2O3	0.005	0.098	-
Total	93.924	98.153	103.385

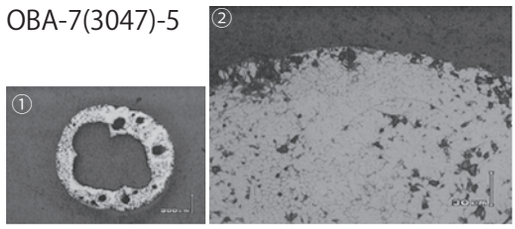
OBA-7(3047)-4



OBA-7-4
⑥マクロ組織
⑦表層：ヘマタイト、内側：マグネタイト、ウスタイト

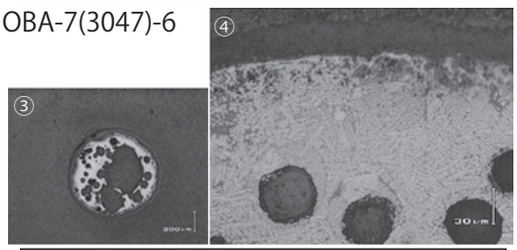
Photo.8　粒状滓の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

OBA-7(3047)-5



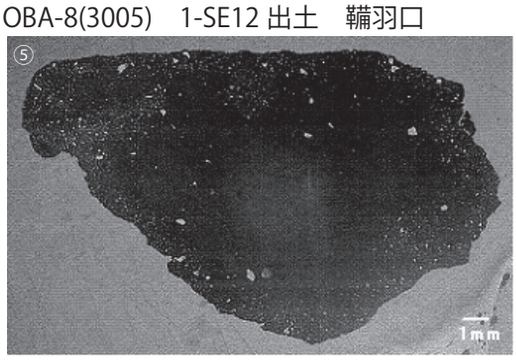
OBA-7-5　①マクロ組織　②ウスタイト

OBA-7(3047)-6



OBA-7-5　③マクロ組織　④ウスタイト

OBA-8(3005)　1-SE12 出土　鞴羽口



OBA-8
⑤マクロ組織
⑥⑦素地：粘土鉱物、無色・有色鉱物点在

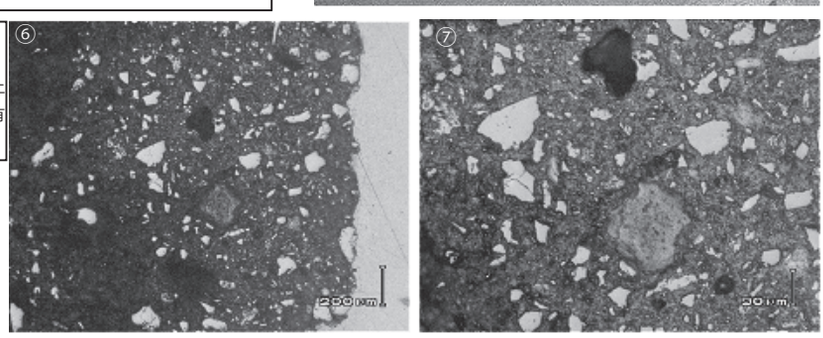


Photo.9　粒状滓・鞴羽口の顕微鏡組織

尾花 A 遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査 (Photo.8-2 ～ Photo.9)

第Ⅵ章　総括

第１節　弥生時代～古墳時代について

１　遺物について

土器

今回の調査によって出土した遺物はコンテナ1000箱を超える膨大量であり、その大部分は土器である。したがって、個別遺構における個体数の把握等、検討が不十分な点があることは否めない。本報告では、残存状況が良好なものや時期的特徴を有する個体等、2103点の土器を図化している。これらは、器形的特徴から弥生時代中期末～古墳時代中期前半頃のものと考えられ、従来、小丸川流域では資料的に欠落していたものを多く含んでいる。本来ならば、本遺跡出土土器によって当該期の土器編年を提示すべきであろうが、筆者の力量不足により、以下ではこれをⅠ～Ⅶ期に分け、時期毎に概要を述べるに留める。

なお、時期の決定にあたり、弥生時代は石川編年（石川1984、1998）を中心に、古墳時代は松永編年（松永2004）を参考とした。

Ⅰ期（弥生時代中期末～後期初頭）

3-S121や3-S155等の土器がある。

甕には、口縁部が逆Ｌ字状もしくは、やや持ち上がってくの字状を呈し、口縁下位に一条の突帯が巡る大甕がある。中型の甕は直線的な円錐形の胴部を有し、口縁部下に１、２条の刻目突帯を巡らす下城式が大半を占め、逆Ｌ字やくの字状口縁のものは少ない。また、中溝式についても、宮崎平野南部の同時期の遺跡に比べると、その出土量は少ない。壺では頸部から大きくラッパ状に開く口縁部を有するものが一般的で、鋤先状を呈するもの、刺突文や赤色顔料による装飾が施されたものもみられる。大型のものはやや長胴で、胴部に多条の突帯を有する。鉢では、全体形を知りうる資料は無いが、1089のように台付鉢が数個体確認されている。

その他、少量ながら、北部九州系の須玖式、瀬戸内地域系の凹線文土器、南九州系の山ノ口式等、他地域からの搬入品もしくは影響を受けた土器がみられる。

時期的には、石川編年Ⅲｂ期に位置づけられる。

Ⅱ期（弥生時代後期後葉）

3-S107の土器がある。

甕は、頸部の屈曲が明瞭でくの字状を呈する口縁部を有し、胴部上位で最大径を測り、底部がやや外方に開く上げ底気味の平底である。壺には良好な資料がないが、鉢には胴部から直線的に開くものと口縁部が屈曲して開くものがあり、深鉢には口縁部外面に櫛描波状文がみられる。高坏もあまり良好な資料が無く、1477のように坏部が比較的小さく、屈曲部から強く外反しながら延びる口縁部を有するものがみられる。

時期としては、石川編年Ⅴｃ期、 松永編年２期に位置づけられる。

Ⅲ期（庄内１式併行期）

3-S110や5-S80の土器がある。

甕は口縁部または胴部上位で最大径を測り、底部はやや外方に張り出す平底もしくは上げ底気味のもの、平底がある。壺には在地的な二重口縁壺のほか、凹線文の施された瀬戸内系ものもみられる。鉢には深鉢と浅鉢があり、浅鉢では口縁部外面を平坦に仕上げ、尖り気味にするものが多い。

日向市百町原遺跡周溝状遺構や高鍋町大戸ノ口第二遺跡SA13出土資料に近い時期と考えられ、石川編年Ⅵ期、松永編年３期頃に位置づけられる。

Ⅳ期（庄内２式併行期）

あまり良好な一括資料が無いが4-S164や4-S45の土器がある。甕は、底部形状はⅢ期と大きな差は無いが、最大径がやや下がって胴部中位付近となる。壺には長胴・短胴のものがみられるが、いずれも胴部最大径を下位に有する。鉢では口縁部の屈曲が弱い浅鉢がみられるほか、平底を呈する小形の深鉢が目立つ。高坏は坏部が大型化し、直線的な脚柱部から内湾気味の裾部を有するものがみられる。

類似する資料では百町原遺跡竪穴建物跡出土土器があり、石川編年Ⅵ期、松永編年４期に位置づけられる。

Ⅴ期（布留１～２式併行期）

本遺跡では最も資料が豊富な時期であり、1-SA13、4-S150、4-S190 等の土器がある。

甕は小さな平底を呈するものが多く、胴部にタタキ調整痕を残すものが一定量みられる。壺は広口や短頸、二重口縁などバリエーションが豊富で、胴部下位で最大径を測るものが多い。鉢では小型で丸底を呈する精製品が多く、胎土が明らかに異なる搬入品の有段屈曲浅鉢もみられる。高坏は前の時期から続く在地的形態のものは坏部の受部よりも口縁部が長くなり、布留式の影響が強くみられる坏部が小型のものが新たに加わる。

周辺遺跡では日向市東郷町鶴野内中水流遺跡 SA8 出土土器等があり、松永編年 5 期に位置づけられる。

Ⅵ期（布留２～３式併行期）

Ⅴ期に次いで資料が多く、1 拡 -S298・580・820 等の資料がある。

甕では頸部の屈曲が弱くなり、口縁部の傾きが緩やかな印象を受ける。底部の丸底化も進行し、胴部の調整もハケメやタタキは少なくなり、工具ナデが主流となる。壺には長胴で尖底のやや大型のものと球形胴で小型のものがあり、胴部調整はやはり工具なでが多くみられる。高坏では坏部の大きな在地系のものは少なく、小型のものが大半を占める。鉢は小型の精製品のほか、平底の浅鉢が多くみられる。

周辺遺跡では新富町上薗遺跡 F 地区 SA10 出土資料等があり、松永編年 6 期に位置づけられる。

Ⅶ期（布留４式以降）

4-S7 や 5-S52 等の資料がある。

甕では頸部屈曲の鈍角化、口縁部の直立化が進み、底部もほぼ丸底となる。胴部の器面調整は前時期と同様に工具ナデが主体だが、粗雑化している印象を受ける。壺は良好な資料がないが、鉢は平底の深鉢がある。高坏は坏部がやや大型化して深くなり、脚柱部が短くハの字状に開くものが多い。

時期的には松永編年 7 期以降に位置づけられる。

土製品

土製品は 20 点を図化しているが、以下、器種別に述べる。

土器片加工品

土製品の中で最も多く出土したのは土器片加工品である。図化したものは 4 点のみだが、出土総数は 200 点を超える（図版編図版 230 参照）。甕や壺等の破片を素材として、その周縁を全面もしくは一部研磨したもので、県内の遺跡では類例を見いだせないが、大分県大野川流域を中心とする複数の遺跡で類似した土器片加工品が出土している。大分の例では半月型の平面形のものが多く、直線的な側面に鋸歯状の凹凸がみられるものがみられる。本遺跡例では涙のような平面形で側面に鋸歯状の凹凸を有するものはみられない。大分県犬飼町舞田原遺跡では木の削りや皮のなめし、土器製作時の器面調整具等の用途が想定されており、時期的には弥生時代末から古墳時代初頭頃に集中するとされている。本遺跡でも用途を特定できるような出土状況はないが、周縁部の研磨は調整というよりも工具として使用した結果生じた可能性が高く、平面形の相違は使用状況の違いに起因する可能性が考えられる。時期的にはⅡ～Ⅶ期の土器と共伴しているが、Ⅳ期以降の土器に伴う場合が多く、大分の例と近い時期にあたる。

杓子形土製品

杓子形土製品は 7 点出土しており、大半はⅤ・Ⅵ期の土器と共伴している。全体の形状は不明確だが、開口部を水平にしたとき、柄がやや斜め上方に延びるもの (684) とかなり上方に延びるもの (570) がある。木製品の模倣土器と考えられており、器面調整が指ナデや工具ナデで粗雑なつくりであることから、祭祀用具と推定されている（中村 2009）。

玉類

土製の玉類は 4 点出土しており、2 点の勾玉はいずれもⅠ期、その他 2 点についてもⅣ期以前の土器と共伴している。1183 は大型の丁子頭勾玉で、宮崎平野部の他遺跡の例と同様に頭部には 5 本の沈線がみられる (藤木 2009)。

このほか舟形土製品や不明土製品等も出土しているが県内に類例は無く、類例の増加を待って改めて検討したい。

【主な引用・参考文献】

石川悦雄 1984 「宮崎平野における弥生土器編年試案　－素描－ (Mk.

Ⅱ)」『宮崎考古』第９号　宮崎考古学会
石川悦雄 1998 宮崎考古学会第 36 回例会資料
桒畑光博 2000「中溝式系土器の検討　－宮崎県における弥生時代中期後半から後期前半にかけての土器編年にむけて－」『古文化談叢』45　九州古文化研究会
松永幸寿 2004「日向における古式土師器の成立と展開　－宮崎平野部を中心として－」『西南四国－九州間の交流関する考古学的研究』平成 14 ～ 15 年度科学研究費補助金（基礎研究 (C)(1)）研究代表者下條信行
中村直子 2009「南九州における木製品模倣土器について」『地域の考古学』佐田茂先生佐賀大学退官記念論文集　佐田茂先生論文集刊行会
藤木晶子・藤木聡 2009 「宮崎県域における縄文の玉・弥生の玉」『国際交流展　玉と王権』宮崎県立西都原考古博物館
犬飼町教育委員会 1985『舞田原』「大分県大野郡犬飼町所在の弥生・古墳時代集落跡発掘調査報告書」
日向市教育委員会 1994「百町原遺跡」『県営圃場整備事業百町原地区工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
宮崎県埋蔵文化財センター 1999「鶴野内中水流遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第 16 集
高鍋町教育委員会 1991「大戸ノ口第２遺跡」『高鍋町文化財調査報告書』第５集
新富町教育委員会 1995「上薗遺跡 F 地区」「県営農村基盤整備パイロット事業（尾鈴Ⅱ期地区北原牧・溜水工区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」『新富町文化財調査報告書』第 18 集

石器

石器は、弥生時代以降に金属器の登場および普及によってその役目をしだいに終えながら減少し、やがてその幕を閉じるとされる。石器の多くは、縄文時代からの製作方法や使用方法を連綿と受け継いでおり、稲作とともに大陸から伝播した「大陸系磨製石器群」以外は弥生時代以降の多くの石器を縄文時代の石器と明確に区別することは難しい。

本報告書では、遺構に伴う可能性が高く、当該時期に帰属すると考えられる床面直上の遺物を精選し、図化して掲載している。また、帰属する時期の特定は難しいが、遺構埋土中や包含層出土の石器についても、当遺跡の貴重な資料の一つとして可能な限り図化して掲載している。石器の個別の石材・法量・所見等については観察表にまとめて記載している。ここでは、それぞれの器種に見られる特徴的な点に触れながら概要をまとめることにする。

石鏃

磨製石鏃は未製品を含めて 97 点を確認した。欠損により全体の形態が不明瞭なものもあるが、平面形二等辺三角形を基本とする凹基もしくは平基のものが大半を占める。細身長身のものは 4 点で、その中でも 2359 は鏃身の中央付近に最大幅を有する点で特徴的である。包含層出土の 2190 は未製品と推察され、両側辺に擦り切り痕が明瞭に観察できる。

擦り切り技法については、日向市東郷の樋田遺跡と児湯郡都農町の新別府下原遺跡に報告例を見ることができ、後述する本遺跡出土の研磨痕のある剥片とあわせて、石鏃の製作工程を考察する上で貴重な資料と言える。

局部磨製石鏃 2813 は住居埋土中の出土である。出土位置は縄文時代晩期の遺物が多く出土した 3 次調査 C 区であり、『尾花 A 遺跡Ⅰ』で掲載した縄文時代晩期に帰属する可能性もある。弥生時代以降の磨製石鏃の石材として多く利用される赤色頁岩製であることや、側縁形状が外反する点が他の局部磨製石鏃との違いである。弥生時代以降の遺物の可能性を考え、本報告書に掲載することにした。ちなみに、局部磨製石鏃は、報告書Ⅰに図化して掲載した 11 点と参考資料に 1 点あり、今回掲載分 1 点を追加して計 13 点が出土したことになる。

剥片

3 次調査 A 区の竪穴建物跡 S119 と S 112 では、磨製石鏃の製品および未製品とともに大量の剥片が出土した。剥片はすべて緑色頁岩である。あわせて大形の砂岩製砥石も出土しており、住居内において磨製石鏃を製作した痕跡であると推察される。剥片には研磨痕が観察されるものも多く、2493 のように擦り切られた痕跡を有するものも存在する。同遺構内からは、赤色頁岩製の磨製石鏃も出土しているが、剥片が出土していない。つまり、赤色頁岩製のものは遺跡内で製作されたものではなく、外部から持ち込まれた可能性が高いものと推察される。

石包丁

石包丁は、大陸系磨製石器を代表する石製農具であり、本遺跡でも欠損品を含めて 233 点を確認した。

石材毎に見ると、ホルンフェルス製が 202 点と圧倒的に多く全体の 87％を占め、次いで頁岩製が 27

点、硬質の砂岩製が２点、千枚岩製が１点であった。ホルンフェルス製の石包丁は、剥離による成形痕を器面に大きく残しながら、部分的に研磨による調整を施しているものが多くを占め、全面研磨は少数である。また、片面に礫面を残す剥片を素材とするもので、素材剥片のエッジの部分の形状を刃部に利用しているものが目立つ。硬質砂岩製の２点は、片面に礫面を残す剥片を素材とし、両端に抉りを有する。頁岩および千枚岩を素材とするものは、すべて全面に研磨が施され、両端に抉りを有する。

整理作業にあたり、完形品および欠損品であっても残存部より形態の分類が可能なものについて、次のように分類を行った。なお、欠損等により分類が出来ないものは、その他としてカウントしている。

Ａ . 穿孔を有するもの
Ｂ . 抉りを有するもの
Ｃ . どちらもないもの

ｉ . 背部が丸い形状のもの
ii . 背部が直線的な形状のもの

a. 刃部が直線的なもの
b. 刃部が外湾するもの
c. 刃部が内湾するもの

Ａｉａ類・１点 、Ａｉｂ類・１点、Ａｉｃ類・０点
Ａiiａ類・０点、Ａiiｂ類・１点、Ａiiｃ類・０点
Ａ類その他・２点
Ｂｉａ類・41 点 、Ｂｉｂ類・52 点、Ｂｉｃ類・ １点
Ｂiiａ類・56 点、 Ｂiiｂ類・48 点、Ｂiiｃ類・３点
Ｂ類その他・３点
Ｃｉａ類・３点、Ｃｉｂ類・３点、Ｃｉｃ類・０点
Ｃiiａ類・５点、Ｃiiｂ類・４点、Ｃiiｃ類・０点
Ｃ類その他・０点
分類不可能なもの・９点

上記の結果からも、県内の出土例に漏れず両端に抉りを有するＢ類が全体の 87%と圧倒的に多いことが分かる。背部形状は製作時の形状を保持していると推察されるが、Ａ、Ｂ、Ｃ類それぞれにｉ、ii類がほぼ同数となっている。刃部の形状については、必ずしも製作時の形状を保持しているとは限らず、使用再研磨による相当の形状変化を考慮する必要がある。

紐孔を有するＡ類は、５点を確認した。その中でも 2185 は抉りと紐孔の両方を有する点で特徴的である。また、2441 は貫通している紐孔以外に数箇所の未貫通の穿孔の痕跡が観察される。

石包丁の帰属時期については出土した遺構の時期から検討が必要である。東和幸氏により、九州地方の一部 (福岡県や宮崎県) では古墳時代に至るまで石包丁が使用され続けるとの指摘（東和幸 1998）もある。本遺跡でも、古墳時代の遺構より多くの出土が見られることから、時期の検討をする上でも貴重な資料である。

石斧

磨製石斧については 27 点を確認している。完形のものは６点と少ない。2754 のような基端が尖るものや 2279 のように敲打による成形の後研磨されたものなど、縄文時代以来の形状を有するものも出土しているが、いずれも基部に厚みがない点で共通している。

大陸系磨製石器の一つである太型蛤刃石斧は、２点が完形で出土した。2216・2252 は大きさが若干異なるものの、いずれも側縁が平行し、基部は厚く、側面から見るとやや膨れた凸刃からなる両刃という典型的な形態を有している。２点とも刃部の潰れが観察される。同じく、抉り入り柱状片刃石斧も２点を確認した。県内でも出土例が少なく、近隣の遺跡では本遺跡からおよそ 2km 東に位置する高鍋町の持田中尾遺跡に類例を見るに止まる。2281 の石材は石器に使用される石材としても非常に希である。3067 は厚みに欠けるが、完形ではなくおよそ右半分が層状に剥落したものと推察される。

打製石斧も床面直上で未製品２点を含む 31 点を確認しており 22 点を図化して掲載している。石材はすべてホルンフェルス製で、縄文時代からの形態を受け継ぎ、扁平な剥片を素材とするものが多くを占める。

敲石・磨石類

敲石・磨石は床面直上だけでも 321 点が確認さ

れそのうち 219 点を図化して掲載している。形態や使用痕を観察すると、縄文時代からの流れを受け継ぐものが大半を占める。ほとんどの竪穴建物跡から出土していることから、日常的かつ頻繁に使用された石器の一つであると推察される。

その中でも 2 次調査区の掘立柱建物跡 S3000 から出土した 4 点は非常に特徴的である。2373 ～ 2375 は側面のみに面的に広がる敲打痕が観察される。また 2376 は棒状で、握り手と推察される基部は細く、敲打痕が観察される先端部に向かって膨らむ特殊な形態を呈する。鹿児島県王子遺跡で出土し、国分直一氏によりその使用方法の指摘と命名がなされ、近年寺原徹氏により検討された、いわゆる「樹皮布敲石」と称されるものに類似する。しかし、氏が指摘する通り類例が非常に少ないことや、共伴する他の出土遺物との関連が十分に検討されておらず使用方法も解明されていない（寺原徹 2009）ことから現段階で樹皮府敲石と断定することは避けたい。

台石

台石と判断されるものは、最大長 20cm 程度の比較的小型のものを含めて 318 点を確認している。形態および出土状況から見て明らかに作業台としてそこに据えられ原位置を保持していると判断できるものについては、遺構図内に出土状況を図化している。30cm を超えるような大形の台石は住居のほぼ中央または周壁付近、住居の角で出土する傾向が見られた。また、個別の図化はしていないが土坑 4-S192 で出土した重量約 72kg の尾鈴山酸性岩類の巨礫が今回出土した中で最大の台石である。

砥石

砥石は、頁岩を素材とする小形扁平のものと、砂岩を素材とする大形のものとに大きく分けられる。小形のもので特徴的なものは 2148 で底面にタガネ痕と思われる切断痕が観察される。2627 は棒状の砥石であるが、使い込まれ四方の面が中央に向かって緩やかに凹む。2148・2627 ともに目の締まった乳白色の石材を素材としている。また、2609 および 2508 は側面に擦り切り痕が観察され、成形もしくは切り出す際の加工方法として擦り切り技法を用いたことが伺える。すでに述べた剥片にも擦り切りの痕跡が見られるものがあり、石器製作工程を考察する上で貴重な資料と言える。

砂岩製の大形の砥石は、研磨により砥面が浅く凹み稜が立つものが多く見られる。3-S119 は多くの石鏃と剥片が出土し、遺構内での石器製作を伺わせるが、それに伴う砥石はそれに関連するものであると推察される。

大形の砥石の中で特に注目したいのは、鍛冶関連遺構である 4-S13 から出土した、2622 に代表される鉄錆の付着した砥石である。調査指導の折りに愛媛大学の村上恭通先生に、「砥面が平坦で、縁辺部に線状痕が入るものは鉄器製作に関連するものである」とのご教示をいただいた。鍛冶遺構関連の砥石の特徴は、鉄が熱いうちに石の縁を利用して敲き、石は立てて用いることが多く、面を替えながら使用するということであった。また、熱い鉄を置くことから、部分的に被熱による赤化が見られるという。砂岩製の大形の砥石や台石に条件に合致するものが多数存在することから、それらは鉄器製作に使用されたと考えられる。

筋砥石

筋砥石は 13 点を確認した。5 点が竪穴建物跡床面直上である。それらはⅤ～Ⅵ期の土器と共伴しており、古墳時代に帰属する可能性が高い。包含層中もしくは遺構埋土中からの出土したものについては帰属する時期を特定するには至らず、近隣遺跡での出土例を見てみると、縄文時代の遺物を含む可能性もある。

小丸川を挟んで対岸に位置する野首第 2 遺跡では、砂岩製の筋砥石が縄文時代後・晩期の包含層より出土しており、本遺跡と比較すると類似するものが存在する。また、西都市の宮ノ東遺跡では、古墳時代の竪穴建物跡床面直上より筋砥石が出土している。砂岩製で数条の筋がはしり、台石として転用もしくは併用された痕跡があるなど本遺跡にも類似するものが存在する。

筋砥石の被加工物については諸説がある。まず、島根県をはじめ玉造り工房跡として報告されている遺跡から出土するいわゆる玉砥石が考えられる。野首第 2 遺跡では多数の玉製品が出土し、本遺跡でも玉製品を確認している。しかし玉が出土しているだけでは玉砥石であるという根拠に欠ける。また、

島根県の例では玉砥石には花崗岩や結晶片岩といった比較的硬質で目の細かい石材が利用されているのに対し、砂岩のように軟質で目の粗い石材が玉造りの砥石としてふさわしいかどうかは疑問が残る。

また、用途の一つと考えられるものに骨角器の研磨がある。本橋恵美子氏による分析（本橋恵美子 1989）によると「断面形U字もしくはかまぼこ形、溝は先細りの形状をなし曲線的で、溝の内側に線状痕を有する」という形態分類Ⅱに該当する。本遺跡出土の筋砥石を観察すると、断面U字もしくは浅いU字のものが大半を占める。また、溝の先端が先細る点や、溝の内側に細い線状痕が観察される点など断片的に当てはまる点も多い。筋砥石の被加工物を検討する上で参考としたい。また、氏の分類Ⅰ形b-S類をはじめ被対象物の可能性として円柱状の金属器研磨を指摘しているが、本遺跡で分類に明確に該当するものは出土しておらず金属器研磨については根拠に欠ける。

その他、文献をたどると石包丁等の石器製作に利用されたなどの説もあるが、いずれにしても、今回出土した筋砥石は、時期を跨いでさまざまな用途に使用されたものが混在しているものと推察され、被加工物を一概に断定することは非常に難しい。

石錘

石錘は竪穴建物跡床面直上およびピットから 21 点が出土しておりそのうち 14 点を図化 (縄文補遺掲載分 3 点を除く) している。そのうち打ち欠き石錘が 12 点と大半を占めている。切り目石錘 2796 は､縄文時代の遺物が混入したものであろう。また、打ち欠き石錘も弥生時代になると次第にその姿を消して行くと言われ、どこまで竪穴建物に伴うものかについては検討が必要であろう。

有溝石錘 2727 はラグビーボールを小さくしたような端正な形状で、長軸と短軸の中央を 2 本の細い溝が完全に巡り十字に交わっている。類似した形態のものが、本遺跡より約 1km 北に位置する湯牟田遺跡で出土しており、溝が途中で途切れている以外は大きさ、重さともほぼ同じ位で石材も同種の砂岩製である。真鍋篤行氏の分類による有溝石錘Ⅲ類にあたり、網を掛けるには溝の幅が細いことや単体での出土が多いなど合致する点もあり、真鍋氏の指摘する釣用の錘具である可能性も考えられる（真鍋篤行 1995)。

たも石

編み物石として使用されたと推察される礫の一群が、8 軒の竪穴建物跡で確認された。遺構図内にそれぞれの出土状況を図化し、観察表に法量等を掲載した。礫 1 点ずつの図化はしていない。出土位置を見ると竪穴建物跡の角、もしくは周壁沿いで出土する傾向が見られる。平均すると最大長約 13cm 前後、重量約 220g 前後の自然礫で構成され、石材の割合は砂岩 46%、尾鈴山酸性岩類 28％、ホルンフェルス 26%となる。大きさや重さが似た礫で構成され、石材は一貫性がなく混在している。3 次調査 A 区 S107 と S 110、B 区の S5 ではたも石の一群に敲石や砥石の混在が見られるが、大きさや重さが似ていることから転用されたものと推察される。C 区 S23 は同一住居内に 4 ヵ所の礫の集合を見たが、南東側周壁中央の一群は礫の大きさのばらつきが大きく、埋没過程で礫が混入した可能性もある。

軽石類

軽石については 2625 のように、磨石として利用され器面が滑らかなもの以外は使用痕は不明瞭である。2527 は溝が周囲を巡り人為的なものを感じさせるが、風化も激しく積極的にに石器とする認定することは難しい。しかし、3-S155 のように同一遺構内から 3 点まとまって出土する例もあり、軽石は何らかの目的を持って遺跡内に持ち込まれたことは確かであることから遺構内出土のものについては積極的に図化して掲載している。

玉類

玉類については勾玉・管玉・小玉・勾玉模造品等をあわせ 19 点が出土した。玉類の考察においては宮崎市教育委員会の藤木晶子氏にご教示いただいた。概要については観察表所見欄にも記載しているが、ここでは特徴的なものを抜粋しておく。2173 および 2696 の勾玉は緒締形勾玉に多く見られる縦に貫通する穿孔を有する。緊縛をイメージさせるものではなく、緒締形そのものでもない。また、獣形勾玉ともいいがたく、これまで宮崎県内に類例が見られない。縄文時代後期から弥生時代後期にかけてのものと思われるが詳細は不明である。扁平な勾

玉を模造したと思われる 2283 および 2797 は特徴的である。古墳時代のものと思われ類例は宮ノ東遺跡、山崎上ノ原遺跡にある。蛇紋岩製の 2704・2705・2781 はC字形を呈し丁寧な研磨で丸みを帯びる。古墳時代のものと思われる。また、時期は不明だが、2745 は丁字頭と思われ頭部に 4 本の線刻が確認される。また穿孔部に紐ずれの痕跡が確認される。碧玉の管玉 2632 は弥生中期末以降のものと思われるが、類例は高千穂町古城遺跡に見られるのみである。

【主な引用・参考文献】

東和幸 1998「特集　地域ごとの石器使用の終焉　九州」『考古学ジャーナル』No.433 ニューサイエンス社

本橋恵美子 1989「縄文時代の有溝砥石の研究 - 軽石素材を中心として -」『東国史論』第 4 号　群馬考古学研究会

真鍋篤行 1995「弥生、古墳時代の瀬戸内地方の漁業」『瀬戸内海歴史民族資料館紀要』第 8 号　瀬戸内海歴史民族資料館

寺原徹 2009「樹皮布叩石について」『南の縄文・地域文化論考　新東晃一代表還暦記念論文集』 中巻　2009 南九州縄文研究会

渡辺誠 1981「編み物用錘具としての自然石の研究」『名古屋大学文学部研究論集』80

平井勝 1991「弥生時代の石器」『考古学ライブラリー』64 ニューサイエンス社

藤木　聡 2003「宮崎県域の錘具の変遷と分布」考古学研究室創設 30 周年記念論文集　龍田考古会

宮崎県埋蔵文化財センター 2008「野首第 2 遺跡　第Ⅱ分冊」『 宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第 172 集

宮崎県埋蔵文化財センター 2008「宮ノ東遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第 173 集

加藤晋平ほか編 1983『縄文文化の研究 』7 道具と技術　1983　雄山閣

金関恕ほか編『弥生文化の研究 』5 道具と技術Ⅰ 1997　雄山閣

寺内光晴 1966『古代玉作の研究』吉川弘文館

島根県古代文化センター 2004「古代出雲における玉作の研究Ⅰ - 中国地方の玉製品出土遺跡集成 -『島根県古代文化センター調査研究報告書』22

島根県教育委員会 2003「史跡出雲国府跡」 1 『風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書』14

高鍋町教育委員会 1982『持田中尾遺跡発掘調査概要報告書』

東郷町教育委員会 1991「樋田遺跡」『県営圃場整備事業（坪谷川地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

都農町教育委員会 1990「新別府下原遺跡」『都農町文化財調査報告書』第 3 集

宮崎県埋蔵文化財センター 2007「湯牟田遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第 152 集

鹿児島県教育委員会 1985「王子遺跡」『 鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』34

金属器

本遺跡では、弥生時代から古墳時代の遺構埋土中を中心に約 200 点の鉄器が出土し、その中で残存状況や出土状況が良好なもの 155 点について図化掲載した。以下、各器種について述べるが、器種の認定に際しては村上恭通氏、馬具の所見については諫早直人氏に御教示を受けた。

鉄鏃

鉄器のうち、50 点は鉄鏃であり、図化した鉄器等の約 1/3 を占める。形態的には柳葉鏃が 29、圭頭鏃 9、無茎三角形鏃 2、無茎腸抉三角形鏃 1、無茎五角形鏃 1、無茎二段逆刺鏃 1、有茎腸抉柳葉鏃 1、骨鏃形鉄鏃 1、不明 5 である。最も多く出土している柳葉鏃には鏃身部の幅が広いものがみられ、無茎五角形鏃 (2883) や無茎二段逆刺鏃 (2884) とともに、肥後地域との関連が伺われる。なお、骨鏃形鉄鏃は福岡県北九州市郷屋遺跡、広島県成岡 A 地点遺跡に次いで国内では 3 遺跡目の出土である。前 2 例では鏃身部と茎部の関が明瞭に段を成すのに対して 2856 は関が明瞭でない。また茎部では郷屋例が方形、成岡 A 地点例が円形断面であるのに対して 2856 は方形を呈しており、郷屋例とともに朝鮮半島の類例に近い。

工具類

工具では、刀子 11、鉇 10、鑿 4、有袋鉄斧 2、錐 1、不明工具 4 がある。この他、不明鉄器 18、棒状鉄器 7 があるが、棒状鉄器としたものは、鉄器の茎部もしくは穿孔具の可能性も考えられる。

漁具

漁具としたものが 4 点あるが、2 点は逆刺を有するもの (2914、2917）2 点は棒状の鉄器 2 本を有機質で巻いて束ねたもの (2837、2972) であり、共に刺突系の漁具と考えられる。

馬具

馬具では素環鏡板付轡が 1 点、土坑埋土中から出

土している。このような土坑は馬埋葬土坑と呼ばれ全国的に分布するが、宮崎県では本遺跡例を含めて 28 例が知られており、比較的分布数の多い地域とされている（甲斐 2009）。通常、馬埋葬土坑は古墳に近接して検出され、集落で確認されたのは本例が初となる。轡自体は引手金具が無く、有機質の残存状況から鏡板に直接頭絡の皮帯や手綱皮を連接していた可能性が高く、簡素で実用的な構造と言える。土器等も共伴せず、馬具の形状からも時期を判断することは困難だが、ここでは古墳時代後期以降の所産としておく。ただし、その場合は今回の調査範囲で確認された遺構とやや時期差が存在することとなり、他の古墳群で確認されている馬埋葬土坑と同様の性格であるのか、慎重に検討する必要がある。

鉄片

鉄器以外に鉄片 41 点を図化している。大型のものは鉄器素材の可能性が考えられ、小型のものには三角形、多角形、叉状、棒状のものがあり、鍛冶によって生じた鉄片である可能性が高い。本遺跡では確実な鍛冶遺構は確認されていないが、第Ⅳ章でも述べたとおり、4-S13 では 28 点もの鉄器類が出土しており、敲打痕の窪みに銹が付着した鉄床石と砥石の用途を兼ねる石器も共伴していることから、集落内で鍛冶が行われていたことはほぼ確実と思われる。近年、都城市平峯遺跡、日向市板平遺跡（4 次）、延岡市今井野遺跡（全て未報告）においても古墳時代前期～中期の鍛冶遺構や鍛冶関連遺物が検出されており、本遺跡例も含め、宮崎県域の古墳時代集落における鍛冶の様相を知る上で重要な資料といえる。

【主な引用・参考文献】

荒川正己ほか 2001『成岡 A 地点遺跡』「（財）広島市文化財団発掘調査報告書」第 6 集　財団法人広島市文化財団

栗山伸司編 1986『郷屋遺跡』「北九州市埋蔵文化財調査報告書」第 44 集　財団法人北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室

甲斐貴光 2009「宮崎県における古墳時代の馬埋葬土坑」『宮崎県西都原考古博物館研究紀要』第 5 号　宮崎県立西都原考古博物館

2　遺構について

当該時期の遺構として認定したものは、竪穴建物跡 246 軒、掘立柱建物跡 5 棟、土坑 132 基、周溝状遺構 1 基、溝状遺構 2 条及び小穴がある。

以下、遺構の種別毎にその特徴を述べる。

竪穴建物跡

246 軒の建物中 207 軒については、出土土器からある程度時期が想定できるものであった。ただし、出土土器には時期幅がみられることや厳密な出土状況に基づいた検討が行えなかったことから、誤った時期比定を行っている可能性がある。

以下、前述した土器の時期毎に竪穴建物の特徴を述べる。

なお、建物毎の土器の時期については、第 1 ～ 6 表を参照されたい。

Ⅰ期

Ⅰ期と考えられるものは 23 軒あり、平面プランでは、円形基調のものが 7 軒、方形基調のものが 16 軒である。なお、円形基調の平面プランを有するものはこの時期しかみられない。

床面積をみると、円形基調のものが約 50 ～ 85㎡、方形基調のものが約 7 ～ 35㎡で、円形基調の方が大型である。

付帯施設をみると、円形基調では突出壁を有するものが 3 軒、張り出しを有するものが 3 軒と高い割合でみられるのに対し、方形基調では突出壁を有するものが 2 軒、張り出しを有するものが 3 軒と少ない。なお、方形基調で付帯施設を有するものは、すべて大型である。ベッド状遺構は、円形基調はすべてにみられるが方形基調では 10 軒のみである。

床はほぼ全てが貼床で、主柱は、円形では 8 本が一般的であり、10 本のものと 4 本のものが各 1 軒ある。方形では 4 本の 1 拡 -S443 を除くとすべて 2 本である。

方形基調の建物の主軸方位では 1 拡 -443 と 2-S3334 以外は N-20 ～ 30°-E と平行もしくは直交方向であり、円形についても 3-S119、3-S106、3-S155 の並ぶ軸がこの方向と一致する。

Ⅱ期

8軒がこの時期と考えられ、すべて方形基調の平面プランを呈する。

床面積をみると、最小が1拡-S622の約9㎡、最大が4-S18の約33㎡で、その他は20㎡前後である。

付帯施設では、4-S18にはベッド状遺構と突出壁がみられ、5-S44に張り出した棚状施設と壁溝、1拡-S570に壁溝がみられる。

床は全て貼床で、主柱は4本のものが3軒、2本のものが6軒と床面積に比例して多くなる。

主軸方位では、8軒中6軒がN-20～25°-Eと平行もしくは直交方向であり、共通性が高いといえる。

Ⅲ期

10軒がこの時期と考えられ、全て方形基調の平面プランを呈する。

床面積は10㎡前後2軒、20㎡前後3軒、25㎡前後2軒、40㎡前後2軒とばらつきが大きい。なお、不明の1-SA47も40㎡を超えると思われる。

付帯施設では、突出壁を有するもの1軒、張り出しを有するもの2軒、ベッド状遺構を有するもの4軒、壁溝を有するもの2軒で、やはり大型建物に伴う場合が多い。

床は全て貼床で、主柱は不明のものが多いが、4本のもの2軒、2本のもの2軒で、やはり床面積に比例する傾向がみられる。なお、大型の1拡-S1016は2本主柱としているが、ベッド状遺構の角付近にある柱穴も屋根組を支える主柱の可能性があり、その場合は、台形状に並ぶ4本を主柱として、中央の2本は棟持柱として捉えるべきかもしれない。

主軸方位はばらつきがみられるが、N-30～40°-Wと平行もしくは直交方向のものが4軒と最も多い。

Ⅳ期

22軒がこの時期と考えられ、全て方形基調の平面プランを呈する。

床面積は不明の5軒を除いて10㎡前後4軒、25㎡前後6軒、30～40㎡3軒、41～50㎡3軒、51㎡以上1軒とⅢ期よりも更にばらつきが大きい。

付帯施設では、突出壁を有するものが4軒、張り出しを有するものが4軒、ベッド状遺構を有するものが9軒、壁溝を有するものが4軒みられ、付帯施設と床面積の相関関係は特に伺われない。

3軒を除いて床は貼床で、主柱は不明のものが多いが、6本のもの2軒、4本のもの7軒、2本のもの7軒で、やはり床面積に比例する傾向がみられるが、4-S5は床面積約20㎡と小型ながら6本の主柱を有し、特異な存在である。

主軸方位は、N-16～26°-Eと平行もしくは直交方向のものと、N-30～45°-Wと平行もしくは直交方向のものが大半を占める。

Ⅴ期

71軒がこの時期と考えられ、全て方形基調の平面プランを呈する。

床面積は不明の5軒を除いて10㎡未満9軒、10～20㎡17軒、20～30㎡22軒、31～40㎡12軒、40～50㎡2軒、50～60㎡2軒、70㎡以上2軒と多様である。

付帯施設では、突出壁を有するものが5軒、張り出しを有するものが19軒、ベッド状遺構を有するものが26軒、壁溝を有するものが10軒みられ、付帯施設と床面積の相関関係は特に伺われない。

9軒を除いて床は貼床で、主柱は不明24軒、5本のもの1軒、4本のもの20軒、2本のもの26軒で、やはり床面積に比例する傾向がみられるが、4-S176のように小型でも4本主柱のものや5-S40のように大型でも2本主柱のものもみられる。

主軸方位もばらつきが大きいが、約30軒がN-30～40°-Wと平行もしくは直交方向に主軸を持ち、比較的大型のものが多い。主軸方向の相違はⅤ期内における時期差が反映している可能性も考えられる。

Ⅵ期

51軒がこの時期と考えられ、全て方形基調の平面プランを呈する。

床面積は不明の7軒を除いて10㎡5軒、10～20㎡18軒、20～30㎡12軒、31～40㎡4軒、40～50㎡3軒、60㎡以上1軒と30㎡未満のものが多く、Ⅴ期よりも小型化している。

付帯施設では、突出壁を有するものが5軒、張り出しを有するものが15軒、ベッド状遺構を有す

るものが 16 軒、壁溝を有するものが 8 軒みられ、付帯施設と床面積の相関関係は特に伺われない。

5 軒を除いて床は貼床で、主柱は不明 13 軒、4 本のもの 9 軒、2 本のもの 29 軒で、床面積の小型化に呼応して 2 本主柱の割合が高くなっている。

主軸方位は多様だが、N-8°-W ～ N-7°-E と平行もしくは直交方向に主軸を持つ建物が 17 軒と最も多く、調査区全体の中央付近に集中している印象を受ける。また、他の主軸方位を持つ建物は、近接する数軒の建物と主軸方向近似する場合が多い。主軸方向の多様な在り方は、Ⅴ期と同様にⅥ期内での時期差を反映している可能性がある。

Ⅶ期

22 軒がこの時期と考えられ、全て方形基調の平面プランを呈する。

床面積は不明の 7 軒を除いて 10㎡未満 2 軒、10 ～ 20㎡未満 12 軒、20 ～ 30㎡未満 6 軒 31 ～ 40㎡ 2 軒と 40㎡を超えるものが無く、更に小型化が進行している。

付帯施設では、突出壁を有するものが無く、張り出しを有するものが 8 軒、ベッド状遺構を有するものが 2 軒、壁溝を有するものが 6 軒みられ、やはり付帯施設と床面関の相関関係は特伺われない。4 軒を除いて床は貼床で、主柱は不明 6 軒、3 本のもの 1 軒、2 本のもの 15 軒で、やはり床面積の小型化に対応して主柱数も少なくなっている。

主軸方位は多様で、近接する建物は主軸方向が近似する場合が多い。

掘立柱建物跡

5 棟の建物を確認したが、いずれも二次調査 3 区に集中しており、主軸方位は N-20 ～ 27°-E に平行もしくは直交する。床面積は 2-S3502 が約 8㎡と小型で、梁行が 2 間、桁行が 3 間と他の 4 棟とは異なる。これ以外の 4 棟は約 17 ～ 25㎡と比較的近い床面積を測り、梁行が 3 又は 4 間、桁行が 4 又は 5 間で、2-S3001 は棟持柱を有する。

遺物は 2-S3000 からⅠ期の土器が出土しており、他の建物では検出されていないが、分布状況や主軸方位の共通性から、全てⅠ期に属する可能性が高い。

また、2-S3000 では床面が貼床で、大甕と共にいわゆる樹皮布敲石といわれる石器や側面の敲打痕が特徴的な石器が出土しており、何らかの工房的な機能を有する建物跡であった可能性が考えられる。

土坑

当該期の土坑としたものは 131 基あるが、出土土器から時期をある程度特定できたものは 25 基しかなく、時期的な特徴を検討するのは困難である。時期の特定はできなかったが、3 次調査 B 区と 2 次調査 2 区 2 次調査 1 区では 7 ～ 9 基の土坑が群を成しており、意図的に配置された可能性が高い。用途については不明だが、4-S8 に隣接する土坑群では貼床がみられた。類例の増加をまって改めて検討したい。

溝状遺構

2 条について当該時期のものと報告したが、3-S129 については詳細な時期や用途については不明である。4-S28 は 24 × 29m の長方形状に巡るもので、何らかの区画を目的とした溝と考えられるが、区画の内外において溝と関連する遺構を見出すことができなかった。時期的には 4-S140 を切り、4-S156 に切られることからⅥ期の範疇で捉えられるが、類例の増加を待って改めて検討する必要がある。

周溝状遺構

本県では 18 遺跡 55 基の周溝状遺構が確認されているが、その約半数は本遺跡を含む小丸川以北の宮崎平野北部に集中している。時期的には弥生時代中期後半から古墳時代初頭頃までみられ、弥生時代後期後半～末頃のものが多い。未調査のものを除くと平面プランは隅丸方形（長方形）であり、円形プランのものはみられない。本遺跡で確認された 2-S3003 は大半が調査区外に延びていたため、全体的な平面プランや周溝区画内の状況も明らかではなく、周溝墓の可能性も否定できない。なお、埋土内から出土した 925 は口縁部のみが人為的に破砕された壺であり、本遺構は祭祀の場として使用されていた可能性が高いと考えられる。

3　集落の変遷について

前述したように、遺物から考えられる時期は、概ねⅠ～Ⅶ期である。この時期毎の遺構分布状況を第300図に示した。

集落の形成が始まったⅠ期（弥生時代中期末～後期初頭）では、調査区の北側に遺構の分布が集中する。建物の主軸方向も共通するものが多く、切り合いも少ないことから、短期間に併存していた遺構が多いと考えられる。そして、弥生時代後期前半の遺構が確認されていないことから、集落は一旦廃絶した可能性が高い。周辺において同時期の集落は確認されていないが、宮崎県内では「①中期に成立した集落がそのまま後期へ継続している事例は少ない。」「②中期、後期前半にかけての集落は比較的短期間で廃絶しているものが多い。」との指摘（加覧2009）があり、本遺跡もその一例となった。

Ⅱ期になり再度集落の形成が開始されるが、単独もしくは２～３軒の建物が閑散と分布するのみであり、遺構数は少ない。分布状況としては、Ⅰ期同様調査区北半に偏っている。

Ⅲ期に至っても遺構数は少ないが､分布が南側（1次調査区）に広がっている。

Ⅳ期になると若干遺構数が増加し､調査区北側（3次調査Ａ区）と調査区中央（3次調査Ｂ区）にやや集中する。

Ⅴ期になると遺構数が急増し、調査区北部（3次調査Ａ区）から中央部（3次調査Ｃ区）にかけて多くの建物がみられる。主軸方向にいくつかのまとまりがみられ、近接する建物が同一の主軸方向を有する場合が多いことから、多少の時期幅を持ちながら継続的に集落が営まれていたと考えられる。分布状況としては、調査区南部（1次調査区）で建物の増加が目立つ。

Ⅵ期も引き続き多くの建物がみられるが、Ⅴ期よりは減少し、主軸方向のばらつきも少なくなる。分布状況は､調査区中央付近（1次拡張区～３次Ｂ区）と南側（1次調査区）の２ヵ所に集中する。

Ⅶ期になると更に建物が減少し、分布状況もまばらとなり、集落は廃絶を迎える。

東九州自動車道関連調査で確認されたⅡ期以降の周辺遺跡と比較してみると、前ノ田村上第１・第２遺跡ではⅢ～Ⅳ期の竪穴建物跡が１、２軒検出されているのみで、本遺跡同様、閑散とした集落の状況が伺われる。

赤坂遺跡は丘陵先端部に円形周溝墓１基と周溝状遺構３基がみられ、その周囲に竪穴建物跡23軒からなる集落が確認されているが、時期的にはⅡ～Ⅳ期に当たり、本遺跡よりも先行して廃絶する集落である。

国光原遺跡でもⅢ～Ⅳ期頃の竪穴建物跡や周溝状遺構が確認されているが、Ⅴ期以降に継続せず、廃絶したと考えられる。

国光原遺跡の立地する丘陵下に位置する湯牟田遺跡では、本遺跡と近いⅠ～Ⅴ期の土器が伴う集落が確認されているが、本遺跡と比較すると遺構密度も低く、Ⅵ期以降には継続しない。

本遺跡と谷を挟んで隣接する西ノ別府遺跡では竪穴建物跡が単独で検出され、Ⅴ期の土器と共に仿製重圏文鏡が出土している。本遺跡とは対照的な在り方であり注目される。

このように、Ⅴ～Ⅵ期（古墳時代前期）段階では、本遺跡が当地域における拠点集落であったと考えられる。Ⅶ期以降の集落については、小丸川右岸の野首第２遺跡で古墳時代中期～後期、下耳切第３遺跡で古墳時代終末～古代に至る拠点集落がみられる。

【主な引用・参考文献】

加覧淳一 2009「宮崎県における弥生時代後期の社会変化」『弥生時代後期の社会変化』第58回埋蔵文化財研究集会発表要旨・資料集　埋蔵文化財研究会

宮崎県埋蔵文化財センター 2005「前ノ田村上第１遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第116集

宮崎県埋蔵文化財センター 2006「下耳切第３遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第125集

宮崎県埋蔵文化財センター 2006「西ノ別府遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第124集

宮崎県埋蔵文化財センター 2007「国光原遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第149集

宮崎県埋蔵文化財センター 2007「赤坂遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第151集

宮崎県埋蔵文化財センター 2007「湯牟田遺跡（二次調査）」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第152集

宮崎県埋蔵文化財センター「前ノ田村上第２遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第161集

宮崎県埋蔵文化財センター 2008「野首第２遺跡（第２分冊）」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第172集

第２節　古代以降について

1　掘立柱建物跡

本遺跡における掘立柱建物跡は、分布状況から一次調査区南端、同じく一次調査北端から三次調査Ｃ区南端、三次調査Ｃ区中央付近から一次調査拡張区・二次調査調査３区に分布する。このうち、一次調査区南端および一次調査北端から三次調査Ｃ区南端のグループについては、各建物の方位及び規模が関連性をもって分布している。また、三次調査Ｃ区中央付近から一次調査拡張区・二次調査３区については、建物の分布が散漫である。ここでは、一次調査区南端のグループを１群、一次調査北端から三次調査Ｃ区南端を２群、三次調査Ｃ区中央付近から一次調査拡張区・二次調査３区の散漫な分布を見せるグループをその他の掘立柱建物跡とする。

また、掘立柱建物跡を構成する柱穴からの遺物の出土状況については、古代が 1-SB5・1-SB6・1-SB14・1-SB1007・ 3 C-SB59 の 5 棟、中世が 3C-SB5002 の１棟であり、検出 32 棟中６棟と少なく、建物の時期決定が難しい。

そこで、これらの掘立柱建物跡の桁行方向の柱間距離の平均値により傾向を分析した（第 15 図）。

この数値から、柱間平均距離が約 1.3 ～ 1.7m の A1 類、約 2.3m の A2 類、約 1.8 ～ 2.0m の B 類、1.3m 以下のＸ１類、2.78m をＸ２類の４類に分類した。A1 類には古代の遺物が出土した 1-SB5・1-SB6・1-SB14・1-SB1007、A2 類には古代の遺物が出土した 1-SB59、B 類には中世の遺物が出土した 3C-SB5002 がそれぞれ属する。なお、X1・X2 類に属する掘立柱建物跡からは遺物が出土しなかった。

掘立柱建物跡１群

このグループは、一次調査区南端、K4・5 ～ M4・5 グリッドに分布する。群を構成する掘立柱建物跡は、1-SB1・1-SB3・1-SB9・1-SB11・1-SB12・1-SB13・1-SB14 の７棟である。1-SB1・1-SB3 については検出できた柱穴の数が少なく、分析していない。桁行の軸方向は、おおむね北～北西を向く。このうち、Ａ１類に属するものは、1-SB12、1-SB13、-1SB14 である。1SB11 ついては、Ｘ１類に分類されるが、分布からみると 1SB12 ～ 1SB14 と同時期と考えてよかろう。

掘立柱建物跡２群

このグループは、一次調査北端から三次調査Ｃ区南端、H ～ J9 からＦ～ G13 にかけて分布する。分布する掘立柱建物跡は、1-SB2・1-SB4・1-SB5・1-SB6・1-SB7・1-SB8・1-SB10・1-SB1007・2-SB2001・3C-S5001・3C-S5002 の 11 棟である。桁行の軸方向はおおむね東西を向くもの (1-SB2・1-SB5・1-SB6・1-SB7・1-SB1007・3C-S5001・3C-S5002) と南北～北東を向くもの (1-SB4・1-SB8・1-SB10・2-SB2001) がある。このうち、A1 類に属するものは、1-SB5・1-SB6・1-SB7・1-SB10・1-SB1007 である。上述のとおり、1-SB5・1-SB6・1-SB1007 の柱穴から古代の遺物が出土している。また、B 類に属するものは、1-SB2・1-SB4・1-SB8・3C-SB5002 の４棟である。このうち、3C-SB5002 の柱穴から、13 ～ 14 世紀の東播系須恵器等が出土した。このように、同じ東西方向の桁行方位を示すものに古代と中世の遺物が出土する。２群の北西側には、古代～中世の遺物を出土する溝状遺構 1-SE4・1-SE6・1-SE7・1-SE8・1-SE12[が分布し、硬化面をもつ遺構もあることから、この溝状遺構に規制されて、古代から中世にかけて２群が形成されていったものと考えられる。

その他の掘立柱建物跡

三次調査Ｃ区中央付近から一次調査拡張区・二次調査３区にかけて散漫な分布を見せている。遺物も出土しておらず、時期決定できないものがほとんどであった。。このうち、A1 群に属するものは 2-SB2004・3B-SB4001 の２棟、A2 類に属するものは 2-SB2002・3C-SB59 の２棟、B 群に属するものは 3B-SB119・3B-SB120・3B-SB223・3B-SB227・3B-SB4002・3C-SB45・3C-SB46 の７軒、X1 類に属するものは１拡 -SB6001・１拡 -SB6002・2-SB2003・2-SB2005 の４棟、X2 類に属するものは 3B-SB224 の１棟である。A2 類に属する 3C-SB59 の柱穴からは須恵器甕が出土している。

これらの分析から、A1・2類に関してはおおむね古代、B類に関しては中世、X1類に関しては一次調査の状況から古代の可能性がある。

2　竪穴状遺構

竪穴状遺構に関しては、一次調査区の1-SX1と二次調査1区の2-S1095の2軒が検出された。1-SX1には1-SB5が、2-S1095には5-SB5001がそれぞれほぼ同じ桁行軸方向で隣接している。特に1-SX1の柱穴P3・P5は1-SB5の柱穴P8・P9に対応しており、1-SB5の付属施設の可能性がある。

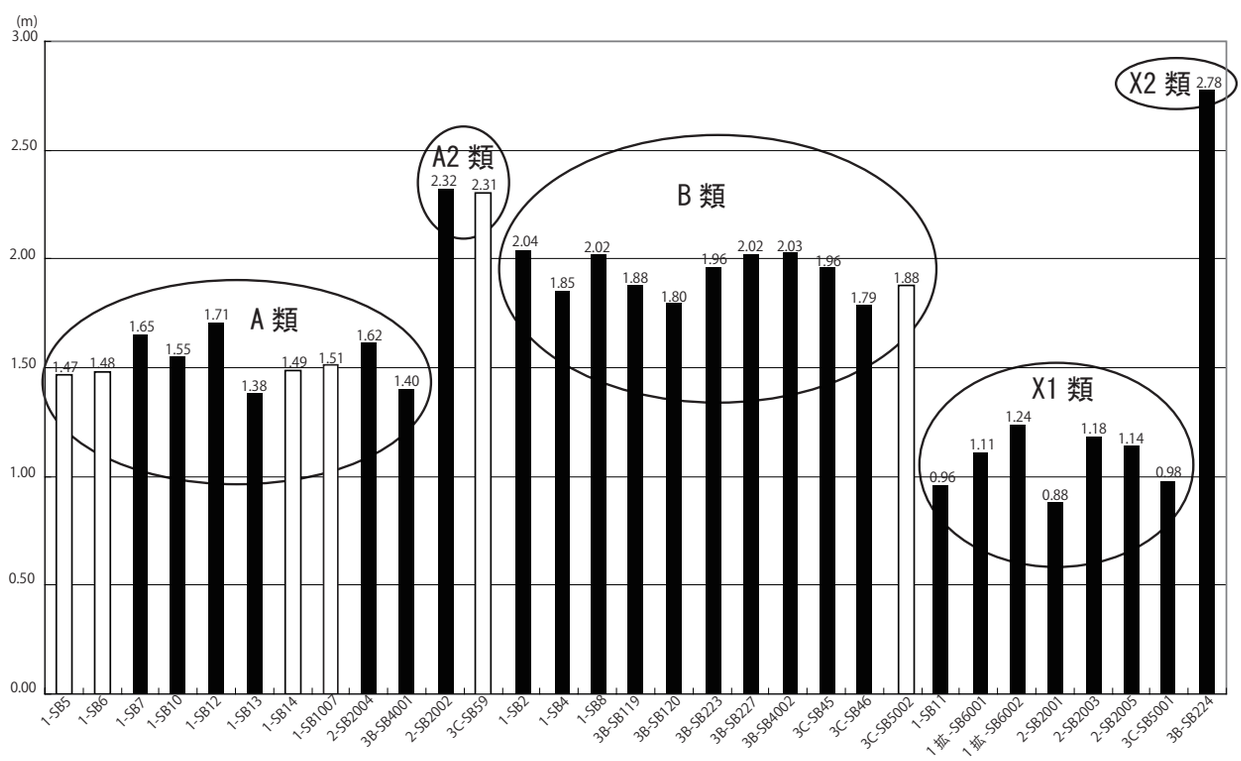
3　石組遺構

石組遺構に関しては、近隣の前ノ田村上第1遺跡(宮崎県埋蔵文化財センター2005)で同様の遺構が検出されている。規模は、本遺跡1-SC37が1.72m × 1.12m × 0.72mに対し、前ノ田村上第1遺跡1号石組遺構では1.3m × 1.0m × 0.60mとほぼ同程度の規模を図る。また、放射性炭素年代測定の結果では、本遺跡1-SC37がAD1150-1260に対し、前ノ田村上第1遺跡1号石組遺構ではAD1190～1270と近い数値を示す。遺物も13～14世紀に比定される回転台土師器皿が出土しているため、1-SC37は中世の遺構としたい。

4　土坑

土坑については、遺物または放射性炭素年代測定により、古代と思われる遺構は1-SC102、中世と思われる遺構は1-SC6・1-SC28・1-SC49・1-SC88・1-SC92・1-SC102、近世以降と思われる遺構は3C-S9・3C-S13・3C-S20・3C-S21・3C-S69である。

1-SC88に関しては、椀形滓・鍛造鉄片・粒状滓が出土している。炉跡など、鍛冶遺構に伴う施設等は検出されていない。近隣の溝状遺構1-SE4・1-SE6・1-SE7・1-SE8・1-SE12の埋土中から鉄滓・鉄素材・鞴羽口の出土が見られることから、本遺跡近隣で鍛冶を行っていたことは間違いない。1-SC88は鍛冶関連の廃棄土坑であると考えられる。



第15図　掘立柱建物跡における桁行方向の柱間平均距離

5　溝状遺構

溝状遺構には、おおむね南北方向に延びるものと東西方向に延びるものとがある。南北方向に延びるものの特長は、基本的に西方崖際に分布し、途中崖側に途切れながらも一次調査南端部から三次調査A区に向かって延びている。また、一次調査区北端で検出されている1-SE4・1-SE6・1-SE7・1-SE8・1-SE12は、硬化面を持つ層が検出されおり、道路の性格を持った溝状遺構群である。先述した南北に延びる溝状遺構群も、この1-SE4・1-SE6・1-SE7・1-SE8・1-SE12に合流しており、おそらく集落を縦断し、崖下に下りる道路として使われていたものと推測される。また、東西方向に延びる溝状遺構に関しては、1-SE1・3A-S111・3B-S1000・3B-S1001・3B-S1002・3B-S1110・3C-S1111・3C-S1110・3C-S1・3C-S2・3C-S3があるが、このうち、1-SE1に関しては、古代の遺物が出土しており、掘立柱建物跡1群の軸に合うため、区画分けの性格をもつものと考えられる。3C-S1は、一次調査区北端の1-SE4・1-SE6・1-SE7・1-SE12等の溝状遺構群の延長と考えられ、掘立柱建物跡2群を規制していると考えられる。また、3B-S1110・3B-S1111・3C-S2・3C-S3は、波板状凹凸痕が溝をつなぐ形で検出されていることから、道路的性格を持つものと考えられる。3B-S1000～3B-S1002は、明治期の地籍図にも一致する区画が見られることから、おそらくは畑を区画する用水路であろう。実際、現在でも地元の畑から同様の用水路が西方崖に向かって設置されており、畑にあふれた雨水等を崖下を流すことに用いられている。3B-S37～3B-S39等も、これらの溝から派生した南北に延びる用水路であろう。近世の陶磁器が出土していることから、時期はこれ以降としたい。

【主な引用・参考文献】

宮崎県埋蔵文化財センター2005「前ノ田村上第1遺跡」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第116集

第3節　結語

今回の調査成果により、持田・川南古墳群を擁する小丸川下流域の古墳時代前期集落の様相の一端が明らかとなった。この成果は、当地域における土器編年や集落の動態等を検討する上で欠く事のできない重要な資料である。残念ながら、本報告では事実報告に終始し、それらの課題について考察するには至らなかったが、今後の課題としたい。

なお、現地調査や整理作業に参加して頂いた作業員の方々、調査や整理に関する指導・助言を頂いた方々、その他本遺跡の調査・整理に当たって種々御協力を頂いた方々に対して深く御礼を申し上げます。

報告書抄録

ふりがな	おばなえーいせき　つー　やよいじだいいこうへん
書名	尾花Ａ遺跡Ⅱ（弥生時代以降編）
副書名	東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 65
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第 195 集
編著者名	竹田享志（第３分冊編）、日高博司、松林豊樹（第１・２分冊編）、結城修（五十音順）
編集機関	宮崎県埋蔵文化財センター
所在地	〒 880-0212　宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地
発行年月日	2011 年 1 月 21 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 （㎡）	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
おばなえーいせき 尾花Ａ遺跡	みやざきけんこゆぐんかわみなみちょう 宮崎県児湯郡川南町	4505	1109	32° 9′ 50″	131° 30′ 2″	2004.9.1 ～ 2006.12.1	23,400	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾花Ａ遺跡	集落	弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世	竪穴建物跡、掘立柱建物跡、土坑、小穴、周溝状遺構、溝状遺構、道路状遺構、竪穴状遺構	弥生土器、土師器、須恵器、瓦質土器、青磁、白磁、国産陶器、近世陶磁器、土製品、石器、鉄器、銅鏃片、古銭	川南古墳群に近接する古墳時代前期を中心とした大規模集落。鉄器及び小鍛冶に関連するとみられる鉄片や石器等も出土。

要　約

宮崎平野の中央を東流する小丸川下流域には、古墳時代前期から築造を開始する持田・川南古墳群をはじめとして多くの古墳が存在するが、それらの古墳築造に関わった人々の集落については、殆ど明らかとなっていなかった。尾花Ａ遺跡では、古墳時代前期を中心とする大規模な集落跡が確認され、近接する川南古墳群の形成に関わった人々の集落である可能性が高いことから、部分的とはいえ、大規模古墳群の形成に関わる集落の実態が明らかとなったことは重要な成果である。竪穴建物跡等から出土した土器も、小丸川流域では類例の乏しかった古墳時代前期のものが多く、一ッ瀬川や大淀川流域との比較が可能となったことから、宮崎平野の土器編年を検討するうえでも重要な成果が得られたといえる。

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 195 集

尾花 A 遺跡 Ⅱ

弥生時代以降編

東九州自動車道（都農～西都間）建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書 65

本文編（1 / 3）

2011 年 1 月

発　行 宮崎県埋蔵文化財センター
〒 880-0212　宮崎市佐土原町下那珂 4019 番地
TEL　0985(36)1171　FAX　0985(72)0660

印　刷 藤屋印刷株式会社
〒 883-0045　宮崎県日向市本町 7-15
TEL　0982(52)7171　FAX　0982(56)1208